

横 浜 横 須 賀 道 路
釜 利 谷 第 二 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事

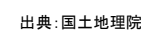
設 計 図

令和 7 年 7 月

東日本高速道路株式会社 関東支社
京浜管理事務所

目 次

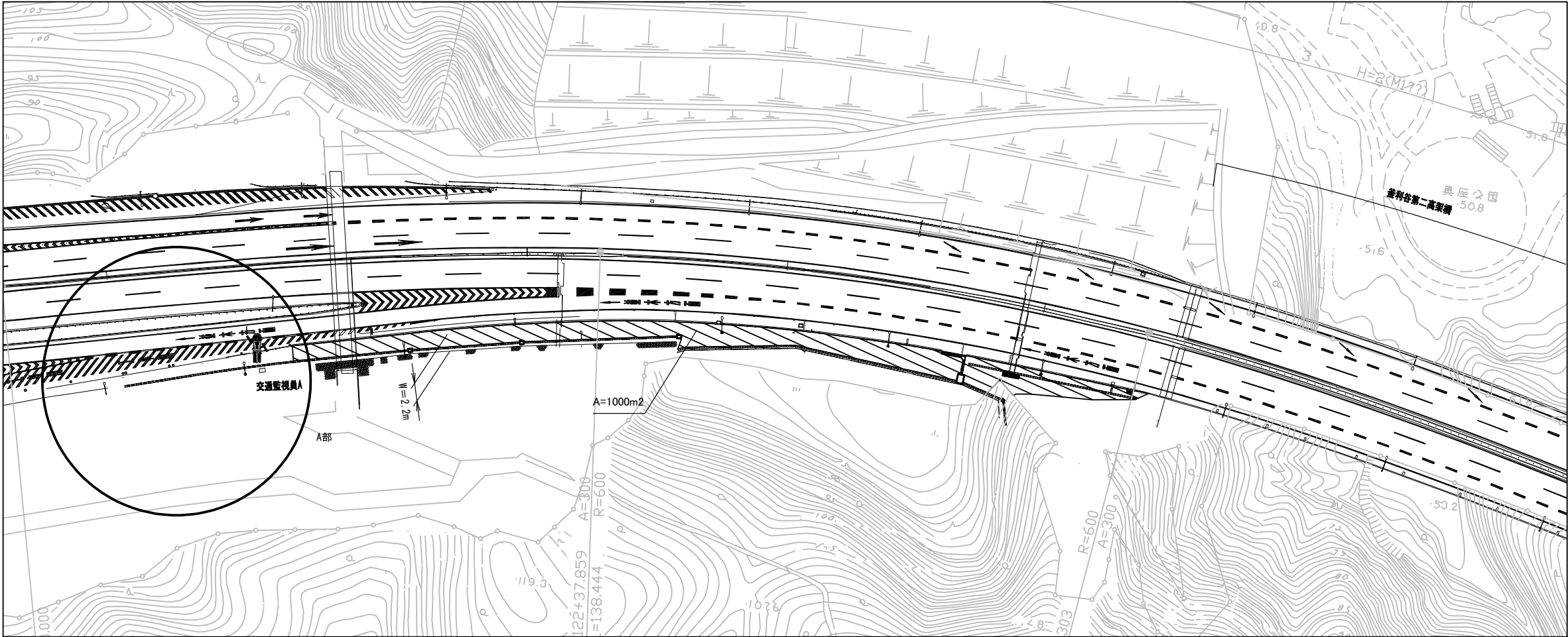
[illegible][illegible]



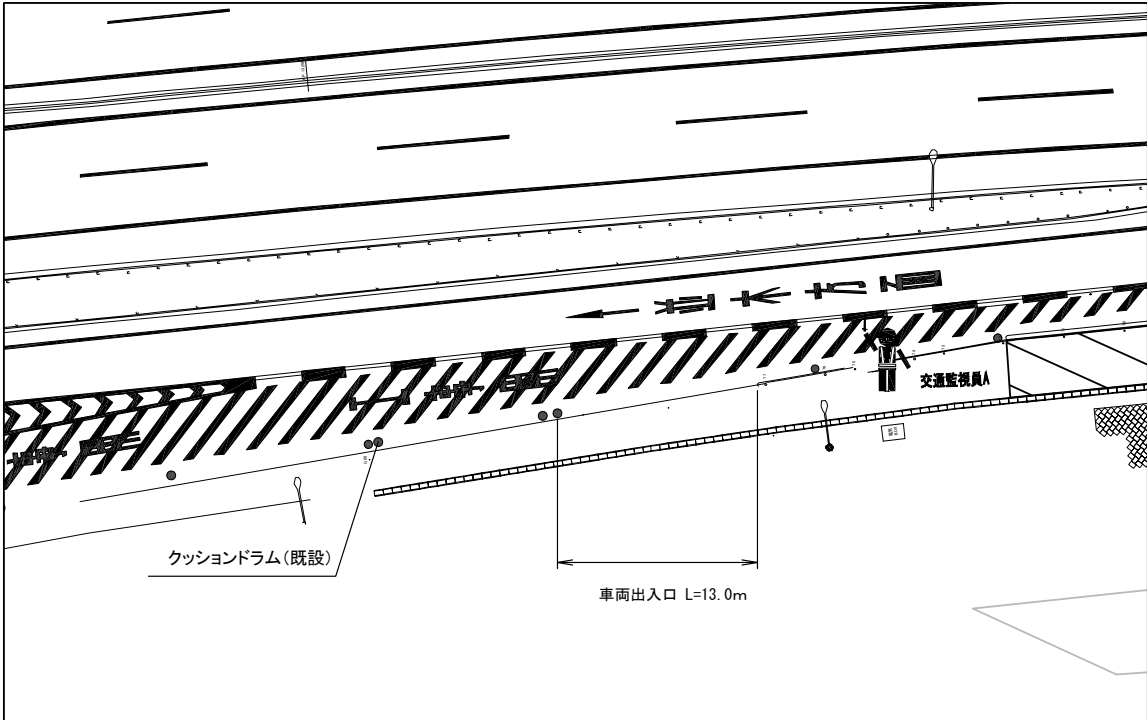
<p align="center">横浜横須賀道路 金利谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
図面の種類	位置図 (1)		
縮 尺	—	図面番号	1 / 10
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

位置図 (2)

釜利谷第二高架橋A1ヤード 平面図 縮尺 1:500



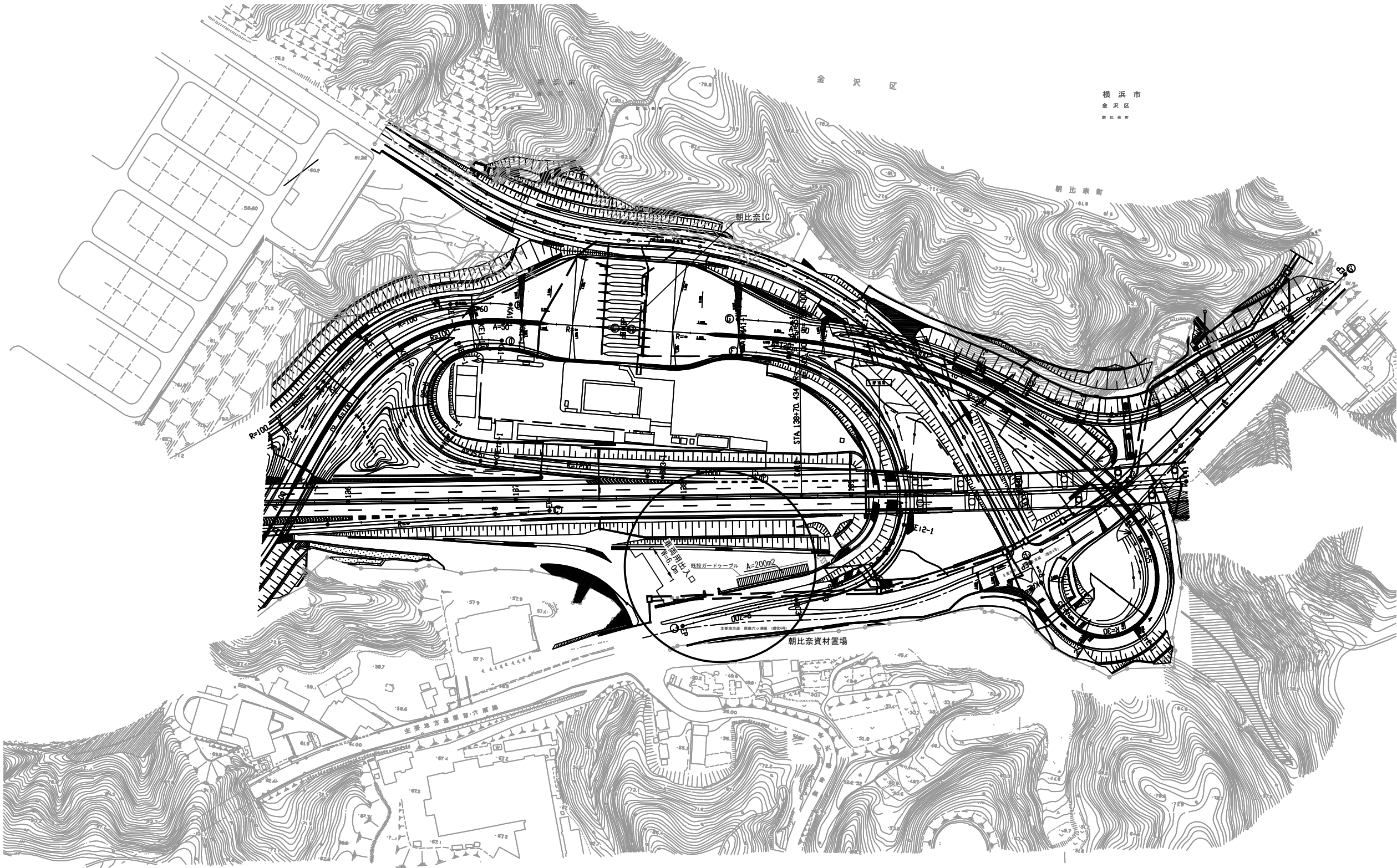
A部詳細図 縮尺 1:200



横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	位置図 (2)		
縮 尺	図面番号	2	/ 10
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 京浜管理事務所		

位置図 (3)

朝比奈資材置場 平面図 縮尺 1:2500

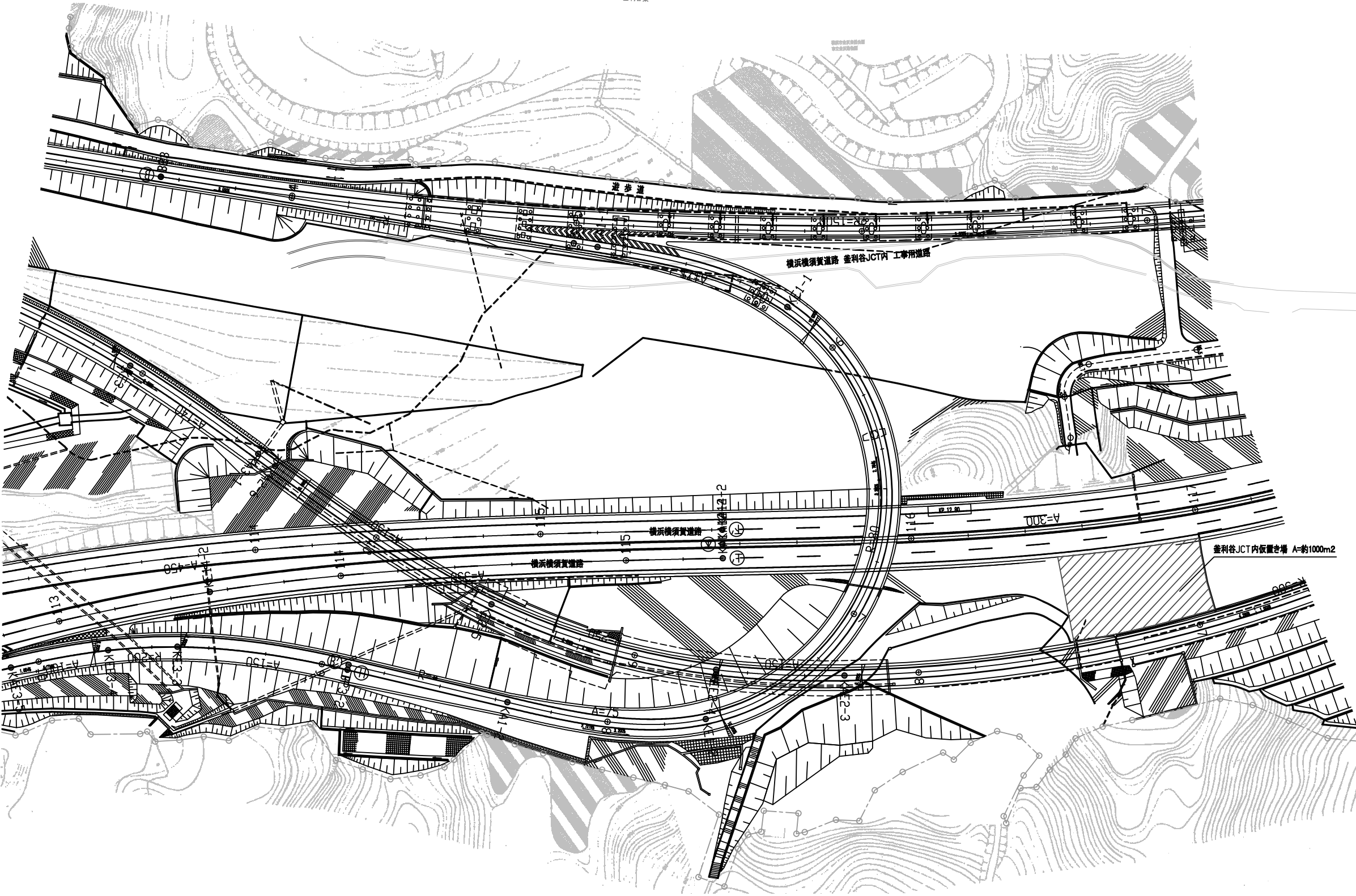


横浜横須賀道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類		位置図 (3)		
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 10	
設計会社名				
施工会社名				
事務所名		東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

位置図 (4)

釜利谷JCT内仮置き場 平面図 縮尺 1:1500

横浜市
金沢区
釜利谷東



横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	位置図 (4)			
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 10	
設計会社名				
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

数量総括表(1)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	2-(6)						8-(1)			8-(2)		8-(3)			17-(9)
			構造物掘削						コンクリート			型わく		鉄筋			縁端拡幅工 B
			普通部A	特殊部A	特殊部B	特殊部C	特殊部D	特殊部E	A1－5	B2－2	D1－1	D	TH	T	T1	T2	コンクリート
			m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m2	m2	t	t	t
釜利谷JCT第一橋		A1															
		P1	68.6						52.2				153.2	8.698	7.972		
		P2	93.6						53.3				181.8	8.526	4.694		
		P3	249.9						60.8				206.9	6.349	1.666		
		P4															
		P5	174.0						50.3				215.2	14.942			
		P9	131.8						52.0				222.3	29.063			
		P10															
		P12	83.6						48.7				208.2	8.279			
		P13	58.8						47.0				201.1	7.998			
		P14	53.2						45.4				194.1	7.717			
		P15															
		P16															
釜利谷JCT第二橋		A2															3.7
		BP4	56.7						48.1				199.3	13.870			
		BP5		732.4					192.5				388.5	11.895			
		BP6	900.0						48.8				203.8	12.537			
釜利谷第二高架橋	上り	A2															
		A1															
		P1			262.8												
		P2				226.4			89.5				371.0	16.258			
	下り	A2	299.0						70.1	23.4	1.9	1.6	92.6	2.840	4.101	0.696	
		A1															0.5
		P1					400.6										
		P2						169.5	84.6				350.7	15.526			
合計			2,338.3	732.4	262.8	226.4	400.6	169.5	1,014.0	46.8	3.8	3.2	3,282.0	167.338	22.533	1.392	4.6

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(1)		
縮 尺		図面番号	5 / 10
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

数量総括表(2)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	17-(9)					17-(11)									
			縁端拡幅工B					落橋防止構造									
			型わく	鉄筋	アンカー工 φ32・340 (水平方向)	アンカー工 φ32・380 (水平方向)	アンカー工 φ32・740 (水平方向)	P1-1276 (300)	P1-2109 (300)	P3-618 (250)	P3-889 (250)	P3-921 (300)	P3-962 (250)	P3-965 (500)	P3-991 (500)	アンカー工 φ39・445 (上方向)	アンカー工 φ42・490 (上方向)
			m2	t	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
釜利谷JCT第一橋		A1															
		P1															
		P2															
		P3															
		P4								4					2	32	16
		P5															
		P9															
		P10															
		P12															
		P13															
		P14															
		P15									4			2			48
		P16															
釜利谷JCT第二橋		A2	18.5	0.811	48		48						3				24
		BP4						2									
		BP5															
		BP6															
釜利谷第二高架橋	上り	A2							2								
		A1															
		P1															
		P2															
	下り	A2															
		A1	3.0	0.098	14												
		P1															
		P2															
合計			23.8	0.992	62	10	48	2	2	4	4	3	3	2	2	32	112

数量総括表(3)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	17-(11)			17-(12)					17-(13)			17-(18)	17-(25)	17-(26)	17-(27)
			落橋防止構造			段差防止構造M					横変位拘束構造M			耐震補強用 コンクリート表 面処理工	炭素繊維巻 立て 下地処理工	炭素繊維巻 立て工	炭素繊維 巻立て表面 仕上工
			アンカー工 φ42・490 (水平方向)	アンカー工 φ48・580 (水平方向)	アンカー工 φ61・775(水 平方向)	鋼製ブラケッ ト	アンカー工 φ32・280(下 方向)	アンカー工 φ32・300(下 方向)	アンカー工 φ32・330(下 方向)	アンカー工 φ32・390(下 方向)	鋼製ブラケッ トA	鋼製ブラケッ トB	アンカー工 φ51・625(下 方向)			A	A
			本	本	本	t	本	本	本	本	t	t	本	m2	m2	m2	m2
釜利谷JCT第一橋		A1		18										m2	m2	m2	m2
		P1											135.9				
		P2											164.2				
		P3											187.8				
		P4	24	12													
		P5											192.4				
		P9											198.6				
		P10															
		P12											186.2				
		P13											180.0				
		P14											173.8				
		P15		36										65.5	65.5	65.5	
		P16															
		A2		18													
釜利谷JCT第二橋		BP4			12						0.225	0.828	21	188.0			
		BP5											319.8				
		BP6											188.9				
		A2			18						0.449	0.866	26				
釜利谷第二高架橋	上り	A1															
		P1															
		P2											350.5				
		A2				0.698		12	14				97.4				
	下り	A1															
		P1															
		P2											329.0				
		A2				0.662	12			12			98.0				
合計			24	84	30	1.360	12	12	14	12	0.674	1.694	47	2,990.5	65.5	65.5	65.5

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(3)		
縮 尺		図面番号	7 / 10
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

数量総括表(4)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	17-(30)	17-(31)		17-(34)											
			コンクリート表 面処理工	はく落防止対策工		支承受替工											
				A	B1	E-1070 (673)	E-1090 (673)	E-1090 (1582)	E-1100 (1582)	E-2780 (4089)	E-2830 (1598)	E-2900 (4089)	E-3070 (1598)	仮設鋼製ブ ラケット	アンカー工 φ26(下方 向)	アンカー工 φ42(下方 向)	アンカー工 φ65(下方 向)
			m2	m2	m2	基	基	基	基	基	基	基	基	t	本	本	本
釜利谷JCT第一橋		A1															
		P1															
		P2															
		P3															
		P4															
		P5															
		P9															
		P10															
		P12															
		P13															
		P14															
		P15															
		P16															
釜利谷JCT第二橋		A2															
		BP4															
		BP5	75.5	44.9	75.5												
		BP6															
		A2															
釜利谷第二高架橋	上り	A1						6									
		P1									6			48			
		P2								6	6			9.048	122		96
	下り	A2				6									104	24	
		A1							6								
		P1										6		48			
		P2										6	9.048	100		96	
A2					6								96	24			
合計			75.5	44.9	75.5	6	6	6	6	6	6	6	18.096	518	48	192	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(4)		
縮 尺		図面番号	8 / 10
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

数量総括表(5)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	17-(34)			19-(1)		19-(2)			特-(1)	特-(2)				特-(3)	特-(4)
			支承取替工			交通規制工		交通保安要員			アラミド繊維 巻立て 下地処理工	アラミド繊維 巻立て工				アラミド繊維 巻立て 表面仕上工	中間貫通鋼 材工
			アンカー工 φ70(下方 向) 本	アンカー工 φ75(下方 向) 本	アンカー工 φ61(水平方 向) 本	ランプ車線 規制 I ×1 回	車線規制 I ×1×0× 1・A1(夜) 回	交通監視員 A 人・日	交通監視員 A(夜) 人・日	交通誘導 警備員 B 人・日		A m2	B m2	C m2	D m2	A m2	φ52・1600 (水平方向)A 本
											m2						
釜利谷JCT第一橋		A1															
		P1														16	
		P2															
		P3															
		P4															
		P5															
		P9															
		P10									48.5	48.5				48.5	
		P12															
		P13															
		P14															
		P15								7							
		P16								3	93.7		93.7			93.7	
		A2								5							
釜利谷JCT第二橋		BP4															
		BP5															
		BP6															
		A2					3		3								
釜利谷第二高架橋	上り	A1		24		6		139		12							
		P1	24						108	712.0			358.4	353.6	712.0		
		P2			188	19		19		5.4			5.4		5.4		
		A2				18		18									
	下り	A1		24		6		6									
		P1	24						40	720.8			272.0	448.8	720.8		
		P2			188	19		19		29.7			29.7		29.7		
合計			48	48	376	74	3	207	3	175	1,610.1	48.5	93.7	665.5	802.4	1,610.1	16

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事		
図面の種類	数量総括表(5)	
縮 尺		図面番号 9 / 10
設計会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所	

数量総括表(6)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	特-(4)		特-(5)		特-(6)				特-(7)		特-(8)	特-(9)	備考
			中間貫通鋼材工		制震構造		上部工補強工				塗膜除去工		コンクリートは つり工	率計上工事 に関する事 項	
			φ52・1600 (水平方向)B	φ70・2200 (水平方向)	制震ダン パー 1500(±150)	アンカー工 φ61・775 (水平方向)	A	B	C	D	A	B	A		
			本	本	基	本	t	t	t	t	m2	m2	m3	式	
釜利谷JCT第一橋		A1												契 約 参 考 図 書 参 照	
		P1													
		P2	24												
		P3	24												
		P4													
		P5													
		P9													
		P10													
		P12													
		P13													
		P14													
		P15													
		P16													
釜利谷JCT第二橋		A2													
		BP4					1.689		0.164		1.5	2.3			
		BP5													
		BP6													
		A2					3.204		0.151		1.9	3.2			
釜利谷第二高架橋	上り	A1			6	132		1.029		0.360			1.275		
		P1						1.862							
		P2		80				2.114							
		A2			4	96		0.915		0.240			1.085		
	下り	A1			6	132		1.070		0.360			1.270		
		P1						1.950							
		P2		80				2.202							
		A2			4	96		0.944		0.240			0.706		
合計			48	160	20	456	4.893	12.086	0.315	1.200	3.4	5.5	4.336	1	

契
約
参
考
図
書
参
照

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(6)		
縮 尺		図面番号	10 / 10
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

横 浜 横 須 賀 道 路
釜 利 谷 第 二 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事

設 計 図
【釜利谷 J C T 第一橋】

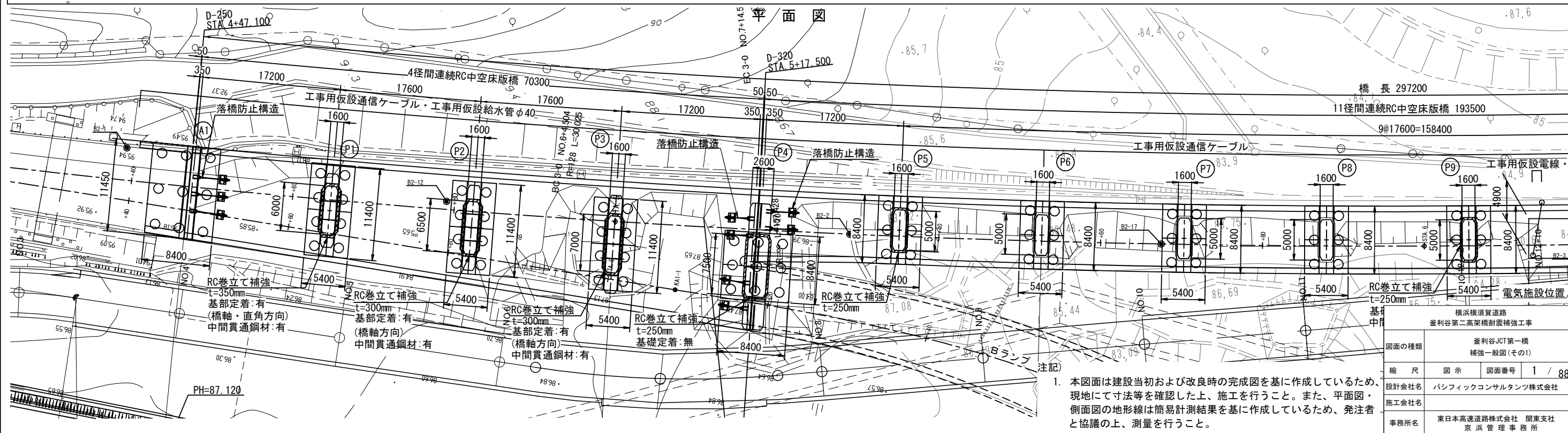
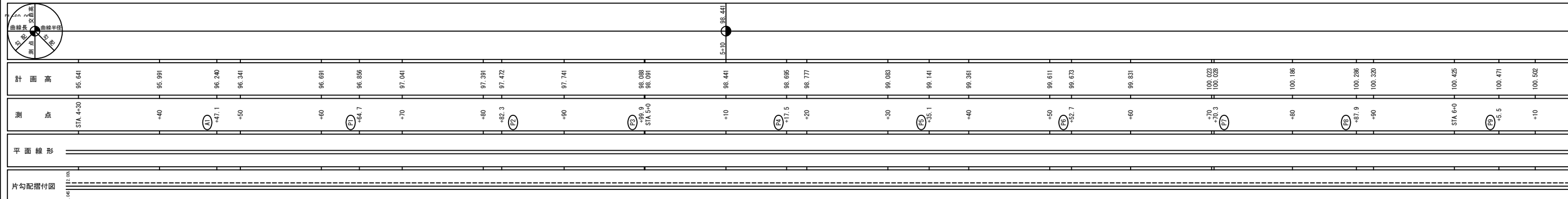
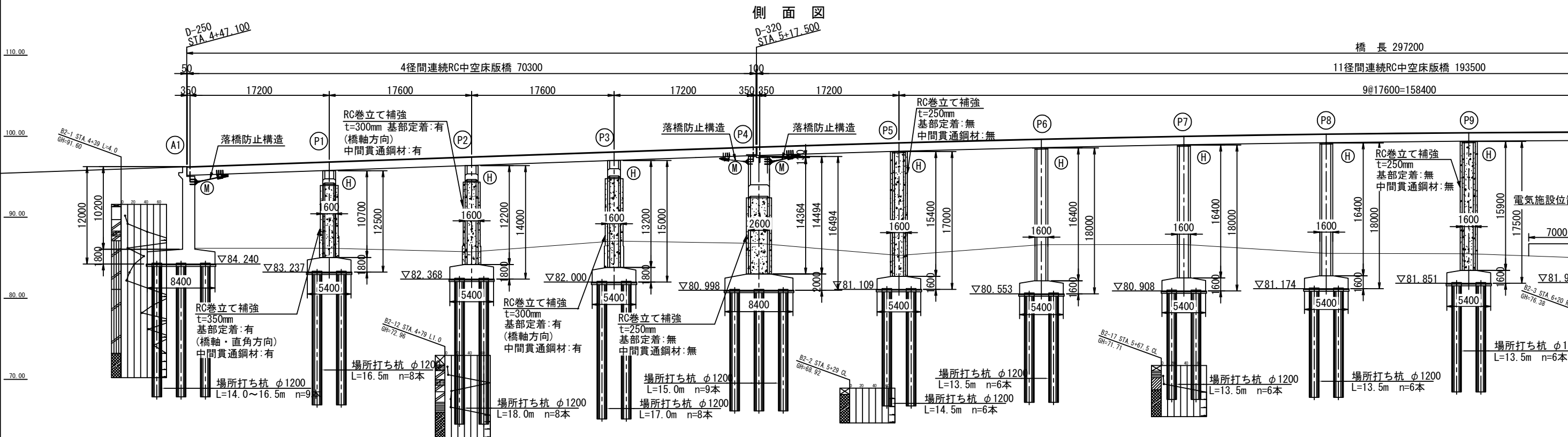
令和 7 年 7 月

東日本高速道路株式会社 関東支社
京浜管理事務所

目 次

番号	設計図名称
1～5	釜利谷JCT第一橋 補強一般図(その1)～(その5)
6～13	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その1)～(その8)
14	釜利谷JCT第一橋 P1橋脚耐震補強構造一般図
15～16	釜利谷JCT第一橋 P1橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
17	釜利谷JCT第一橋 P2橋脚耐震補強構造一般図
18～19	釜利谷JCT第一橋 P2橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
20	釜利谷JCT第一橋 P3橋脚耐震補強構造一般図
21～22	釜利谷JCT第一橋 P3橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
23	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚耐震補強構造一般図
24～25	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
26	釜利谷JCT第一橋 P9橋脚耐震補強構造一般図
27～28	釜利谷JCT第一橋 P9橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
29	釜利谷JCT第一橋 P10橋脚耐震補強詳細図
30	釜利谷JCT第一橋 P12橋脚耐震補強構造一般図
31～32	釜利谷JCT第一橋 P12橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
33	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚耐震補強構造一般図
34～35	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
36	釜利谷JCT第一橋 P14橋脚耐震補強構造一般図
37～38	釜利谷JCT第一橋 P14橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
39	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚耐震補強詳細図
40	釜利谷JCT第一橋 P16橋脚耐震補強詳細図

番号	設計図名称
41	釜利谷JCT第一橋 A1橋台耐震補強配置図
42～44	釜利谷JCT第一橋 A1橋台落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
45	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚(起点側)耐震補強配置図
46～48	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚(起点側)落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
49	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚(終点側)耐震補強配置図
50～52	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚(終点側)落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
53	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚(起点側)耐震補強配置図
54～56	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚(起点側)落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
57	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚(終点側)耐震補強配置図
58～60	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚(終点側)落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
61	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 耐震補強配置図
62～64	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
65	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 縁端拡幅工B詳細図
66	釜利谷JCT第一橋 交通保安要員配置図
67～70	釜利谷JCT第一橋 施工計画(その1)～(その4)(参考図)
71～81	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その1)～(その11)(参考図)
82～86	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その1)～(その5)(参考図)
87	釜利谷JCT第一橋 支保工(参考図)
88	釜利谷JCT第一橋 ヤード整備工(参考図)



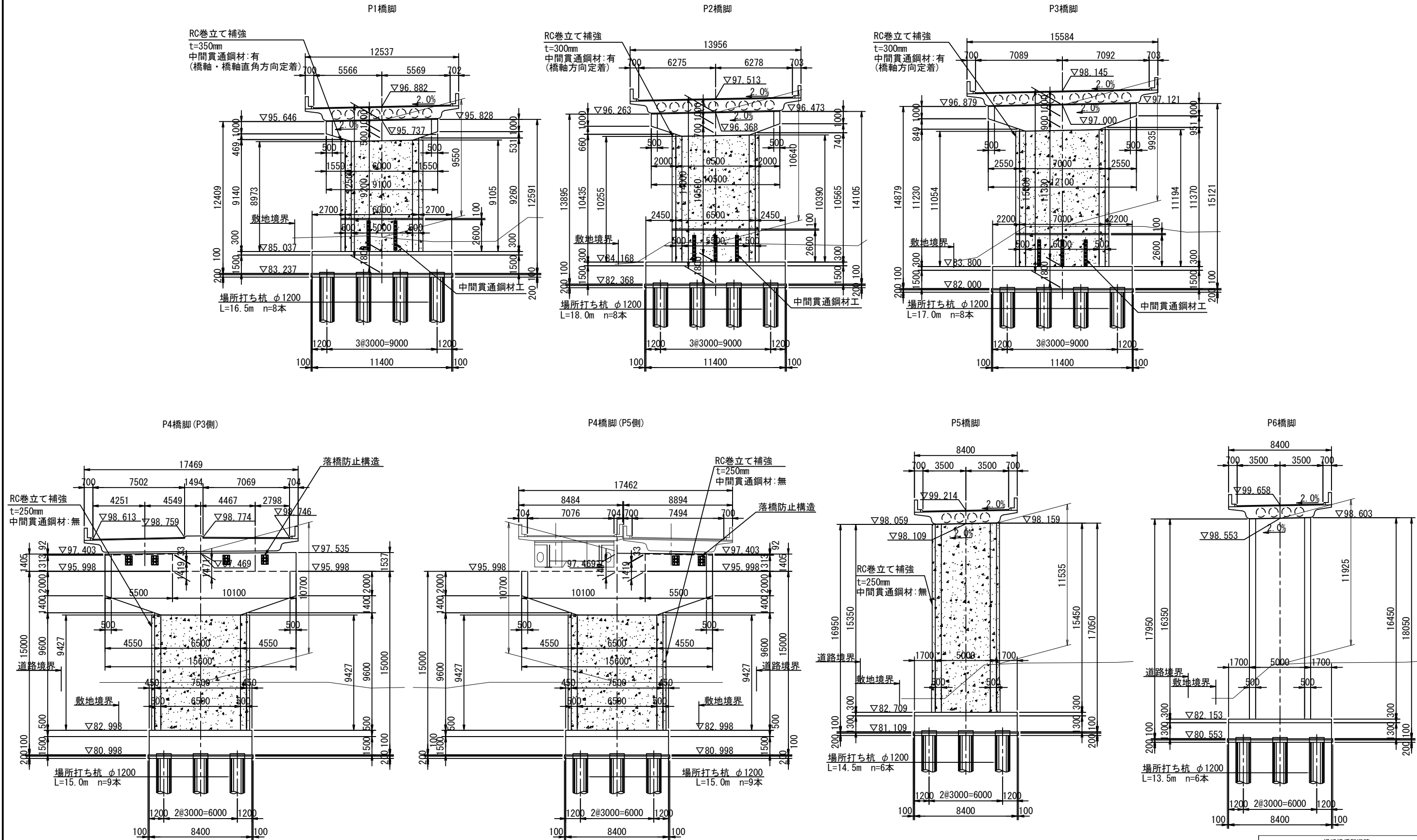
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 補強一般図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

[illegible]

1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横浜須賀道路 金谷谷第二高架橋耐震補強工事	
図面の種類	金谷谷JCT第一橋 補強一般図 (その2)
縮 尺	図 示 図面番号 2 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所

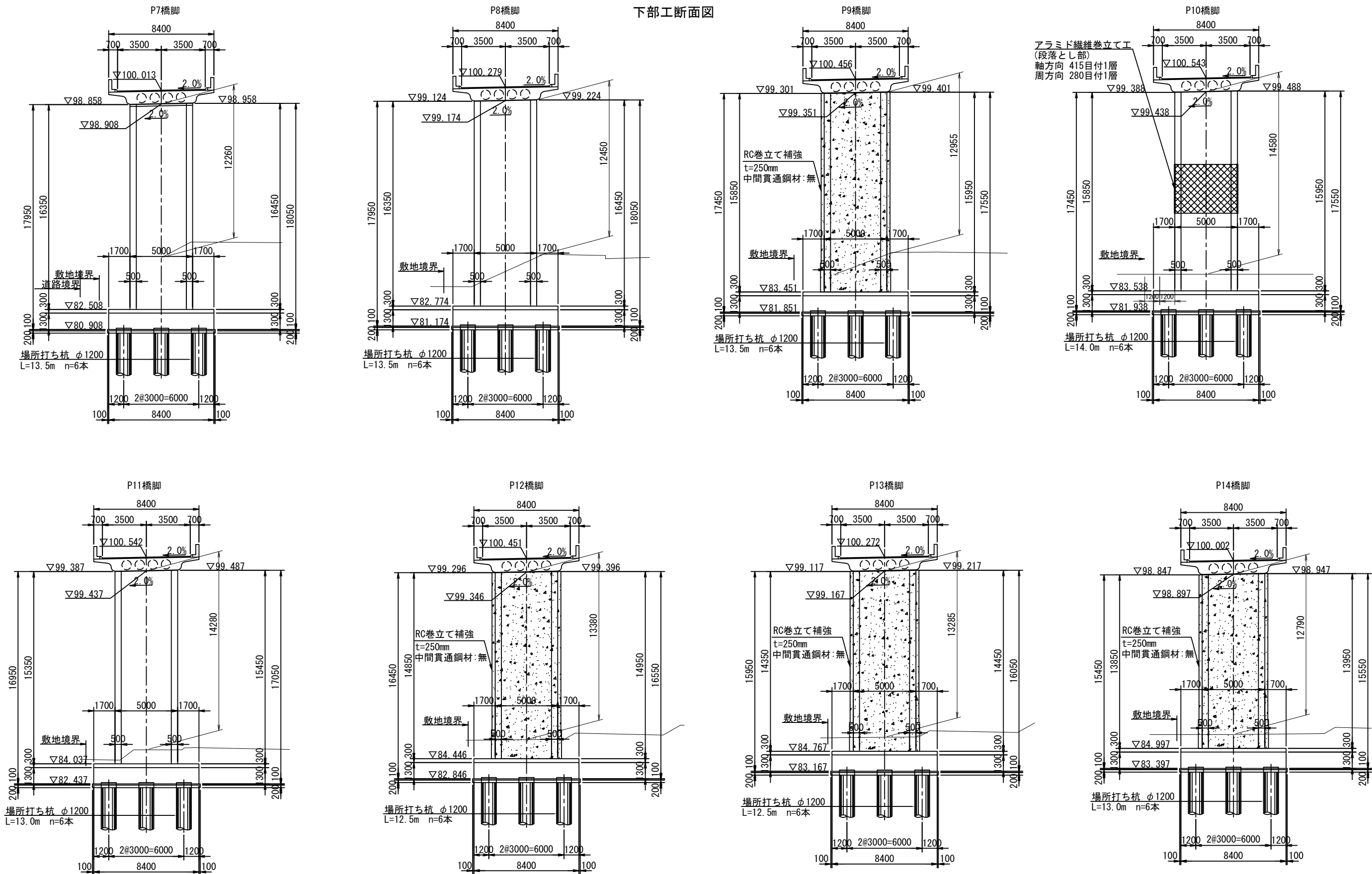
下部工断面図



注記)
本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、下部工正面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 補強一般図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

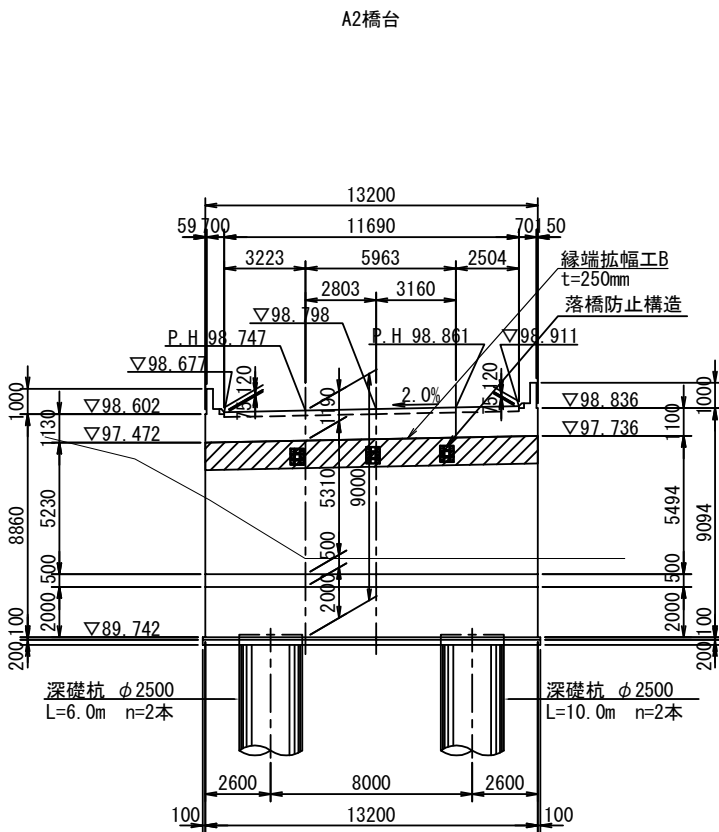
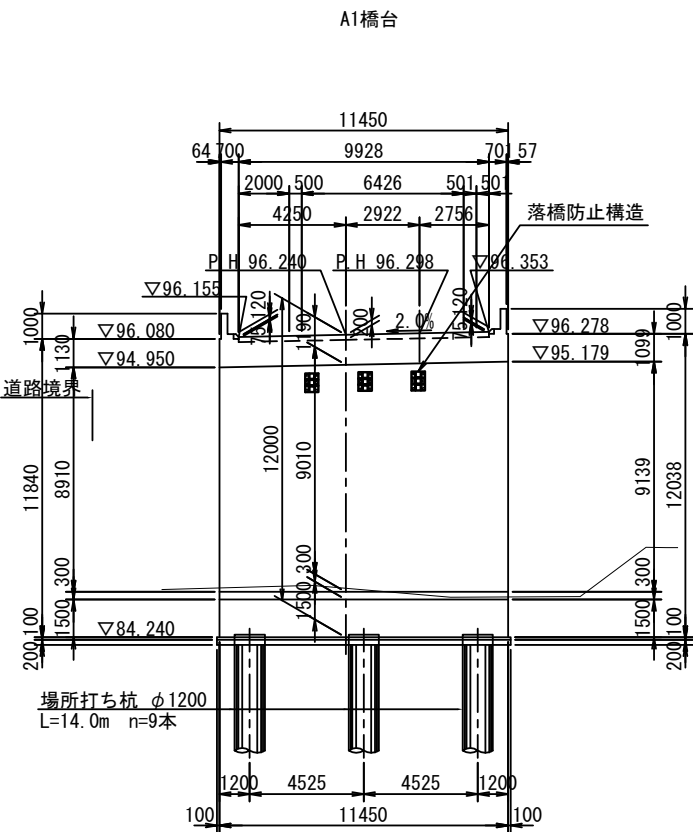
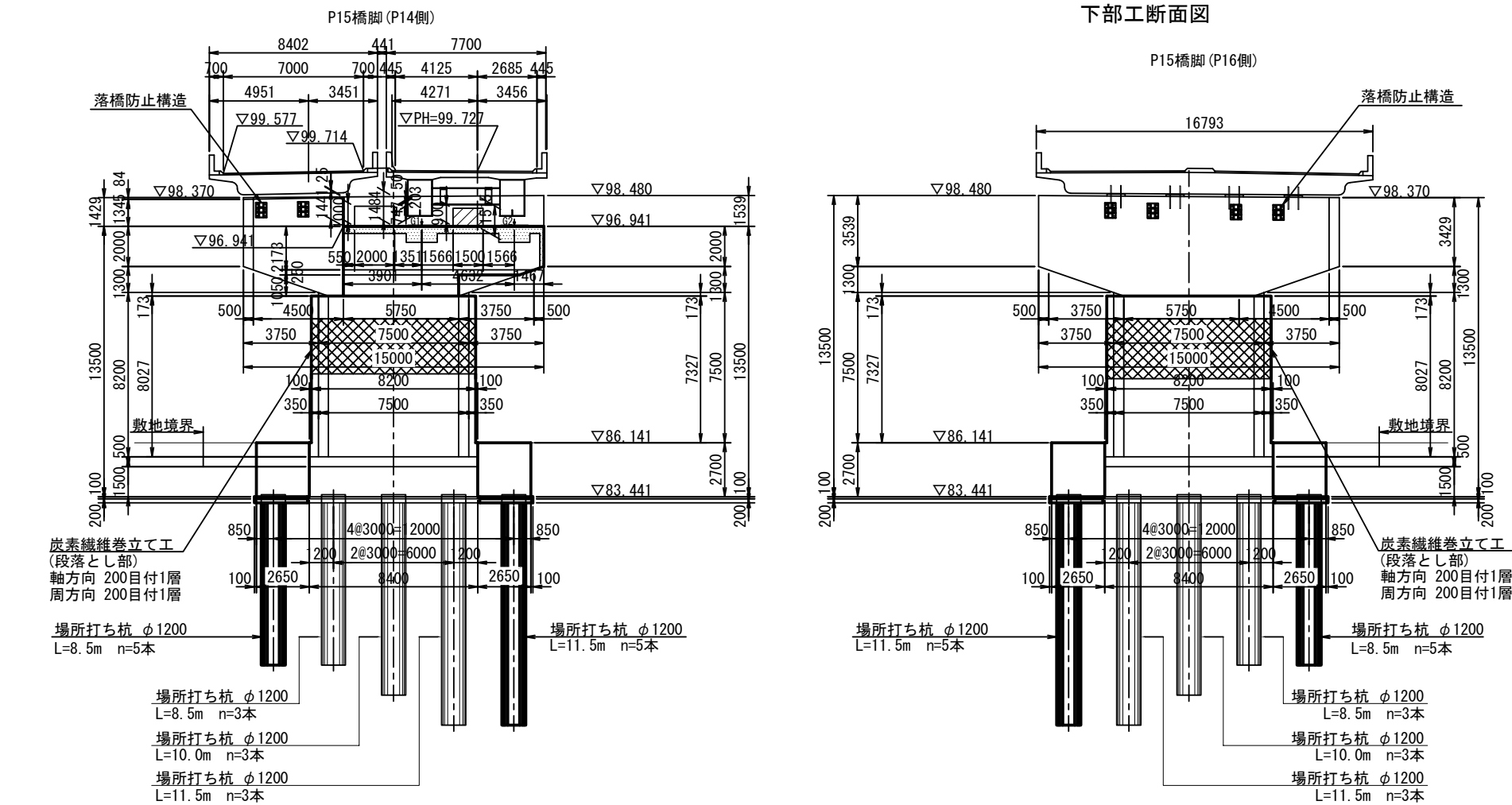
下部工断面図



注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 補強一般図(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

下部工断面図



【竣工時】設計条件表（昭和62年2月[1987年]）

路 線 名	横浜横須賀道路 金沢支線		橋 名	釜利谷JCT第一橋
重要度区分	第1種2級B規格		活 荷 重	TL-20, TT-43
橋 長	297.200m		交差条件	遊歩道
上部構造	上 部 工 形 式		桁 長	支 間 長
	A1～P4	4径間連続RC中空床版橋	70.300m	17.200m+2@17.600m+17.200m
	P4～P15	11径間連続RC中空床版橋	193.500m	17.200m+9@17.600m+17.200m
	P15～A2	2径間連続RC中空床版橋	33.100m	2@16.200m
幅員構成	総 幅 員	8.400m	有効幅員	7.000m+7.000m+7.000m
線形条件	平面線形	R=∞	縦断線形	i=3.500% / ～ \ 3.983%
	横断線形	i=2.0%	斜 角	P4 88° 59' 44"、P15 91° 05' 48"
床版・舗装	RC床版, アスファルト舗装 t=75mm			
支承形式	パット支承+アンカーバー、メナーゼヒンジ支承			
下部構造	張出式橋脚（P1～P4・15）、壁式橋脚（P5～P14・P16）			
	場所打ちコンクリート杭（A1～P15）、深礎杭（P16・A2）			
	コンクリート σ _{ck} =24.0N/mm ² 、鉄筋SD345			
適用示方書	道路橋示方書・同解説（昭和53年・55年、日本道路協会） 設計要領第二集（昭和55年）			
地盤種別	Ⅱ種地盤			
設計水平震度	Kh=0.25			

【耐震補強設計時】設計条件表（令和6年12月[2024年]）

注記)

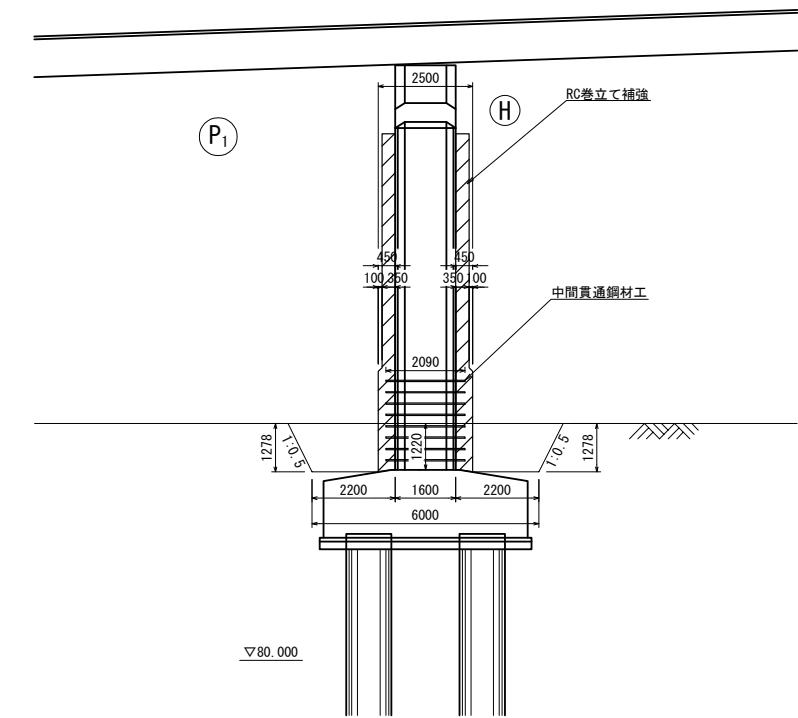
上部構造 耐震補強	橋座部補強	RC縁端拡幅	使用材料	SM400A、SD345
	落橋防止構造	PCケーブル		設計基準強度 $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
下部構造 耐震補強	RC巻立て補強（P1～P5、P9、P12～14） 中間貫通鋼材（P1～P3）			
	連続繊維シート補強（P10、P15、P16）			
	設計基準強度 $\sigma_{ck}=30.0\text{N/mm}^2$ 、鉄筋SD345			
適用示方書	道路橋示方書・同解説（平成24年、日本道路協会） 設計要領第二集（令和2年）			
重要度区分	B種の橋		活 荷 重	B活荷重
地 盤 種 別	Ⅱ種地盤（A1～P14）、Ⅰ種地盤（P15～A2）			
地域別補正係数	地域区分A1： $c_z=1.0$ 、 $c_{Iz}=1.2$ 、 $c_{IIz}=1.0$			
目標耐震性能	橋脚	耐震性能2(a)および2(b)混合を許容する。		
	支承	補強は実施しない。		
	落橋防止システム	支承部の耐震性能が2を満足しないため、省略条件を適用しない。		

1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

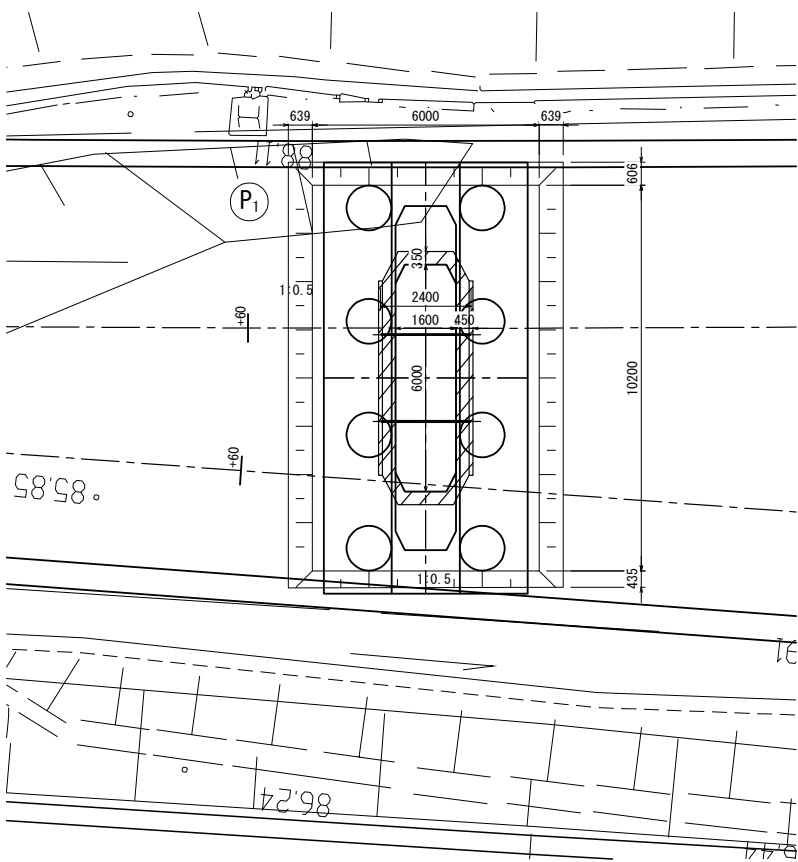
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 補強一般図(その5)			
縮 尺	図 示	図面番号	5 / 88	
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

構造物掘削 普通部A

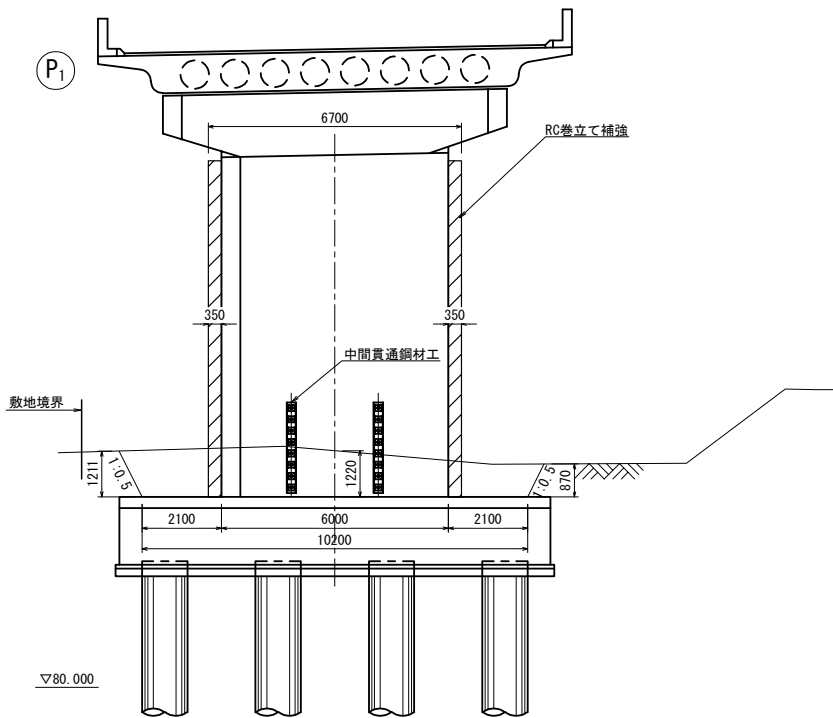
側面図



平面図



正面図

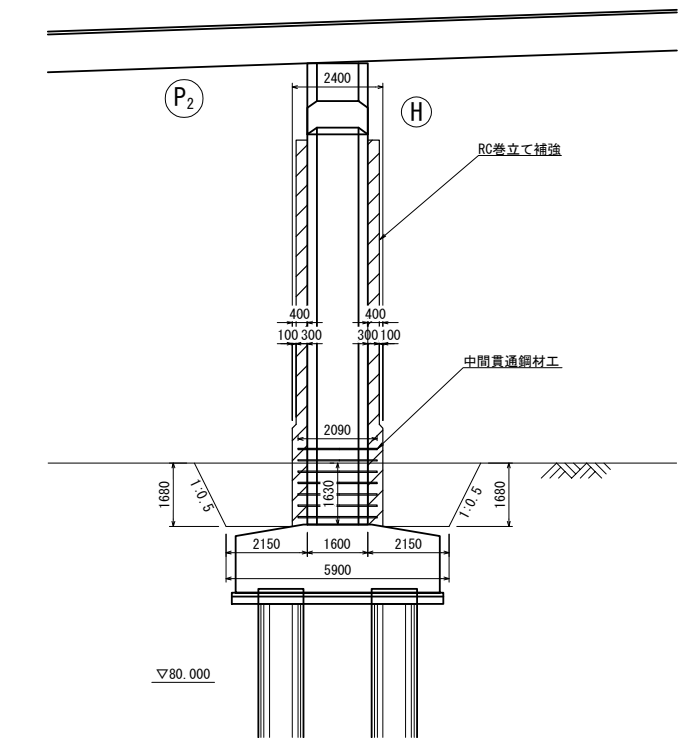


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

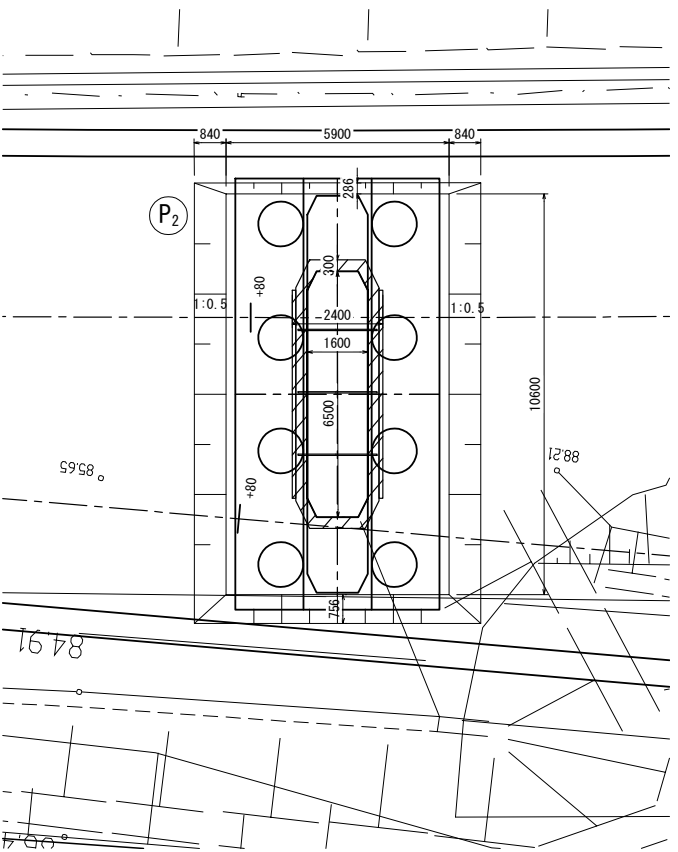
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その1)			
縮 尺	図 示	図面番号	6	/ 88
設計会社名				
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

構造物掘削 普通部A

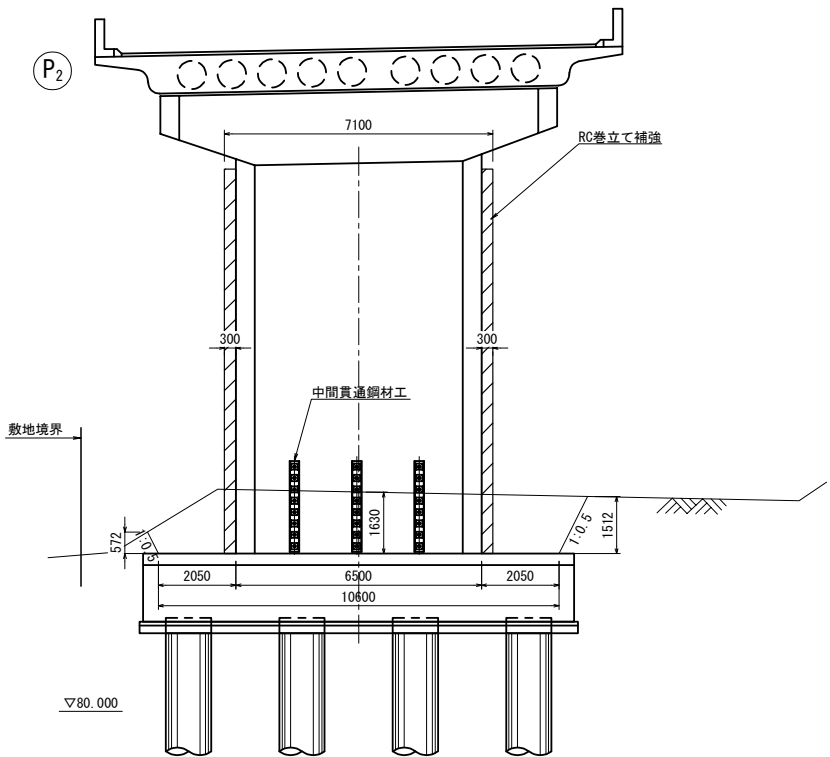
側面図



平面図



正面図

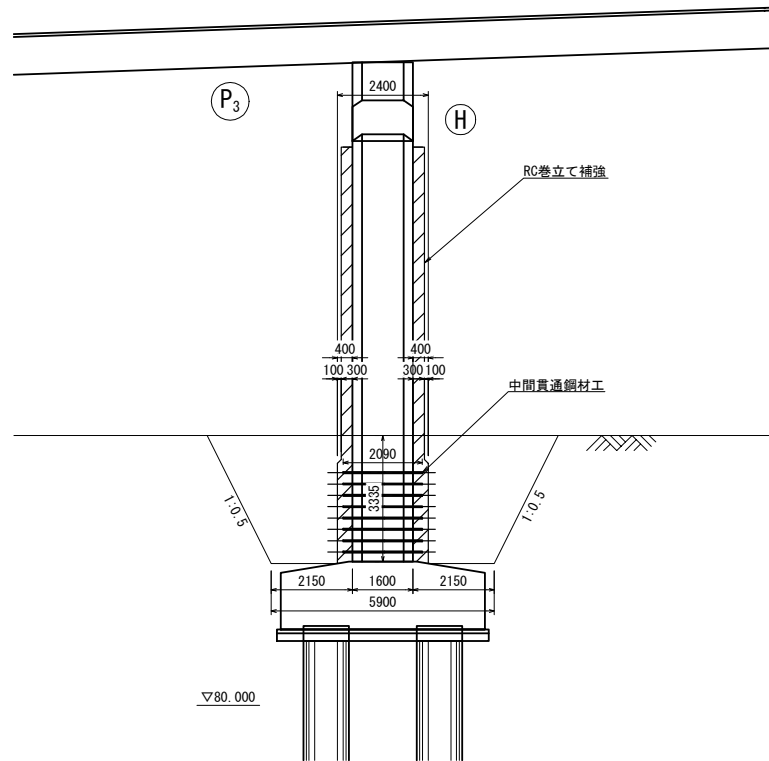


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

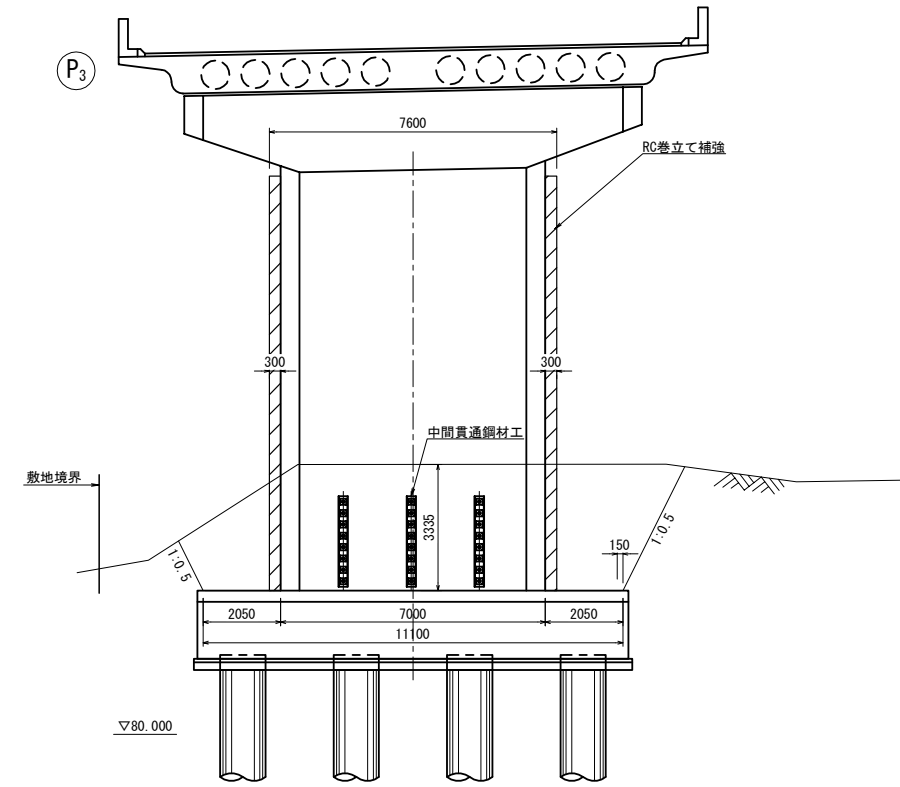
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	7 / 88
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

構造物掘削 普通部A

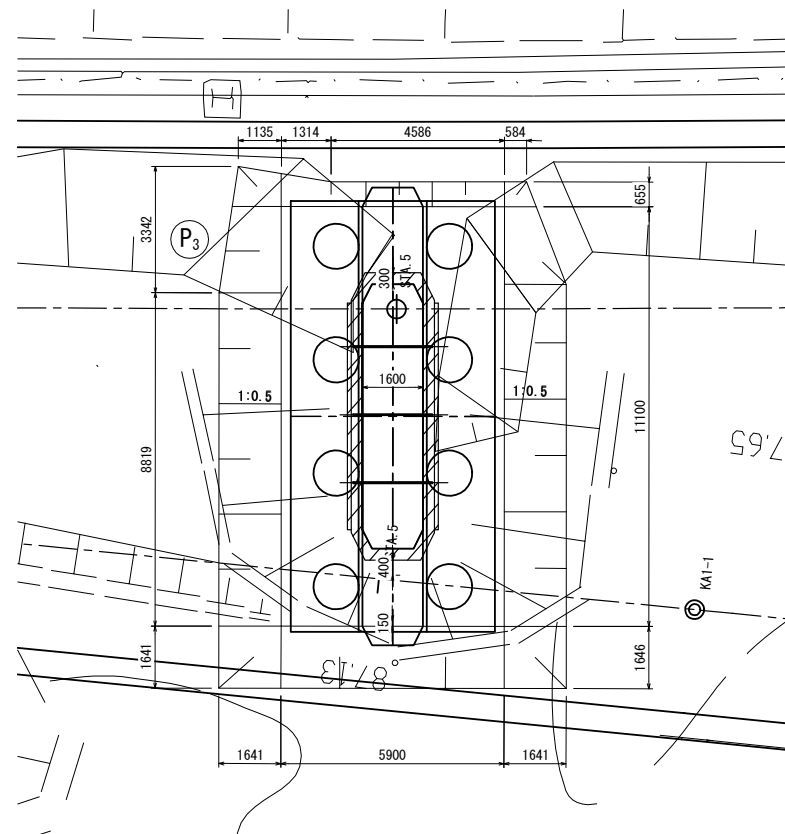
側 面 図



正 面 圖



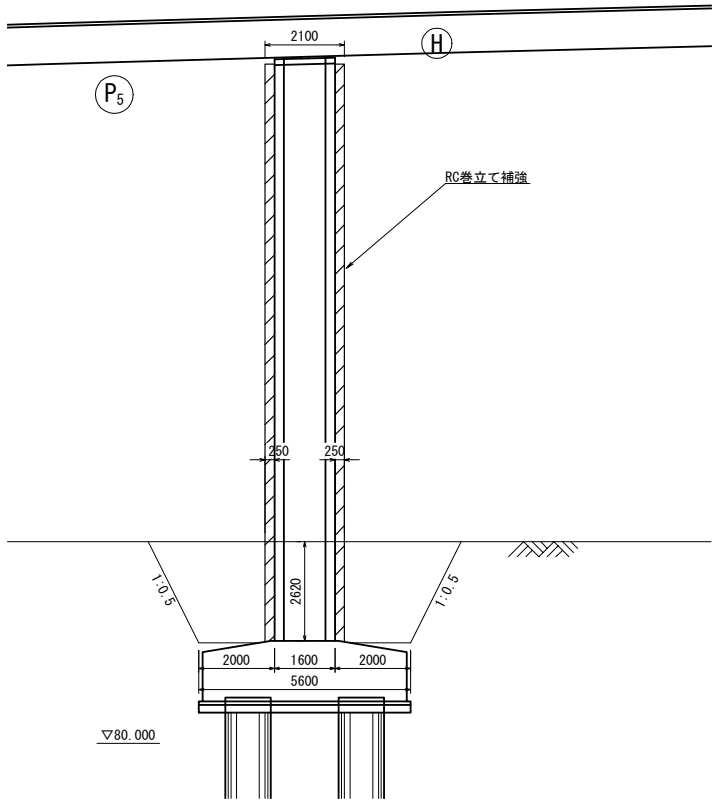
平面图



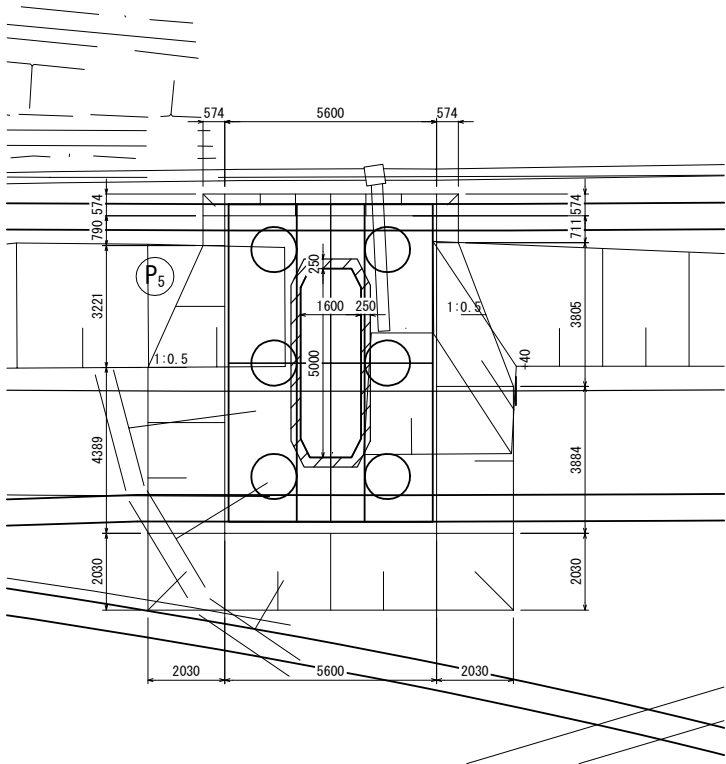
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

<p>横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
図面の種類	<p>釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その3)</p>		
縮 尺	図 示	図面番号	8 / 88
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	<p>東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所</p>		

側面図

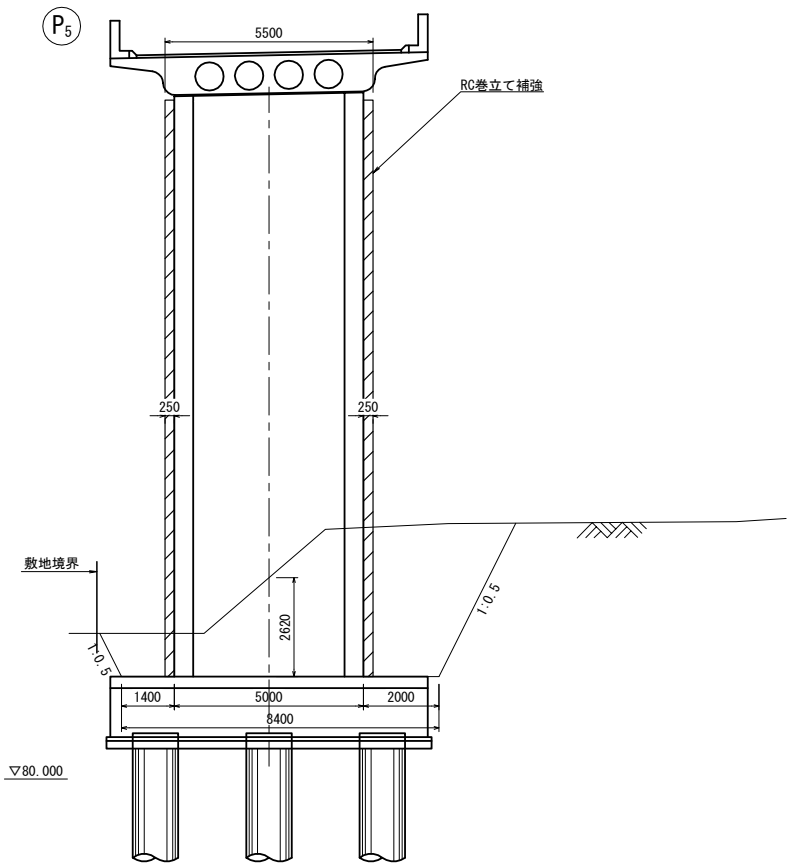


平面図



構造物掘削 普通部A

正面図



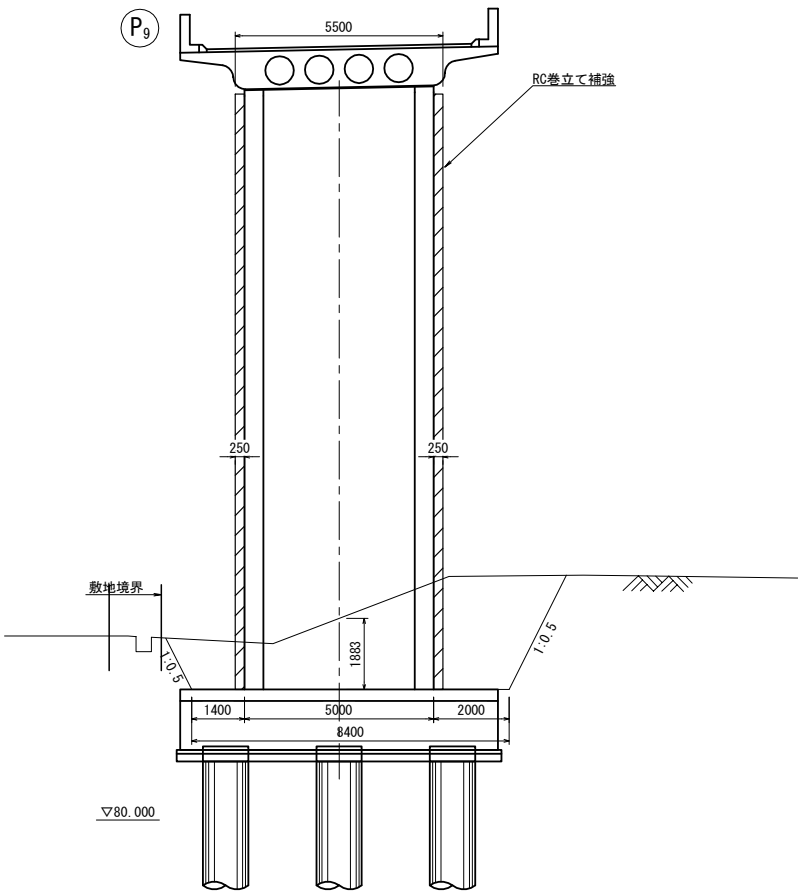
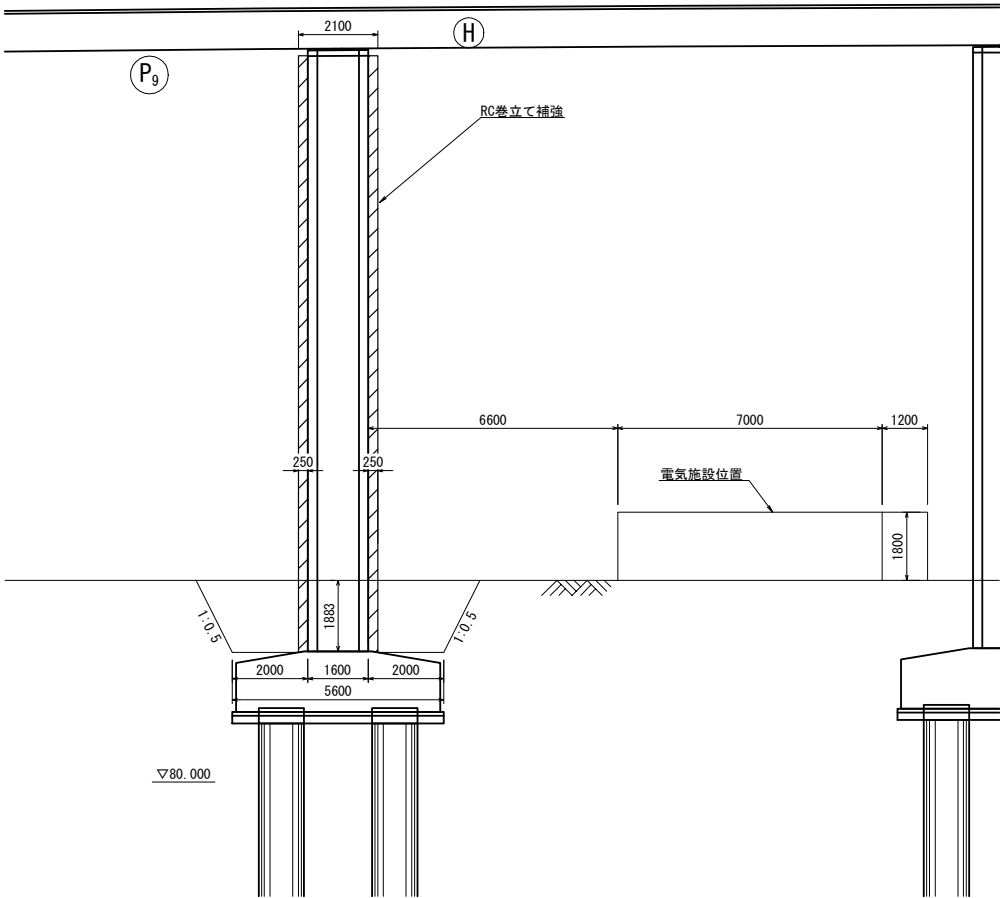
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その4)			
縮 尺	図 示	図面番号	9	/ 88
設計会社名				
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

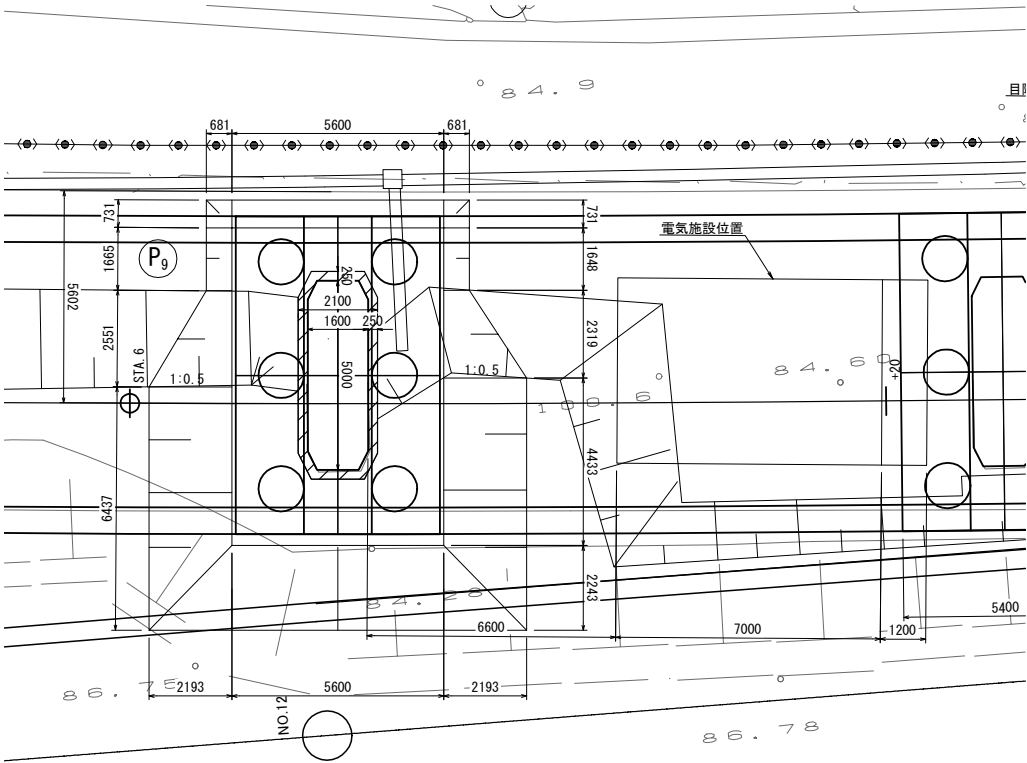
側面図

構造物掘削 普通部A

正面図



平面図

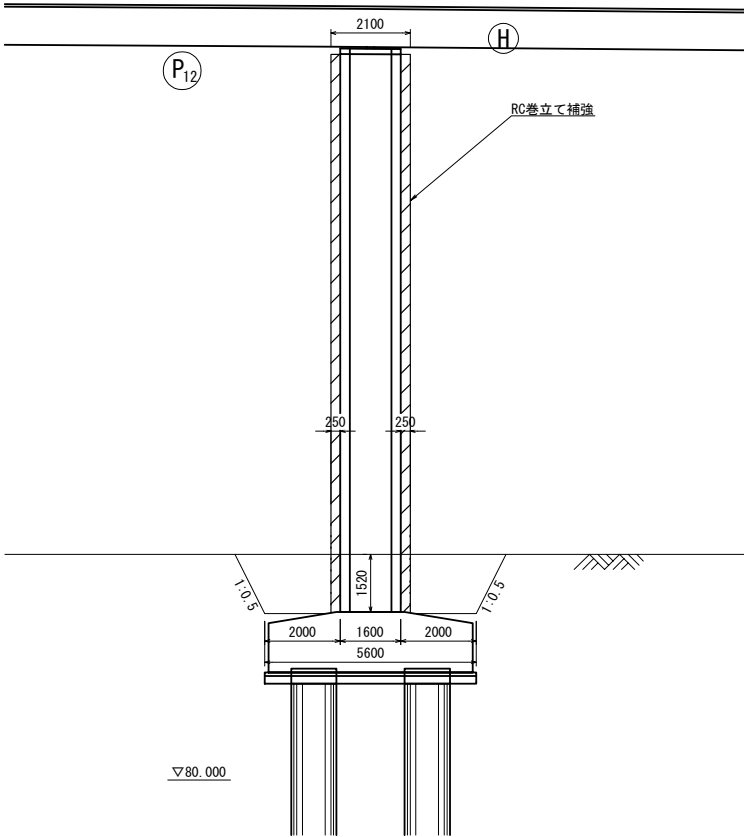


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

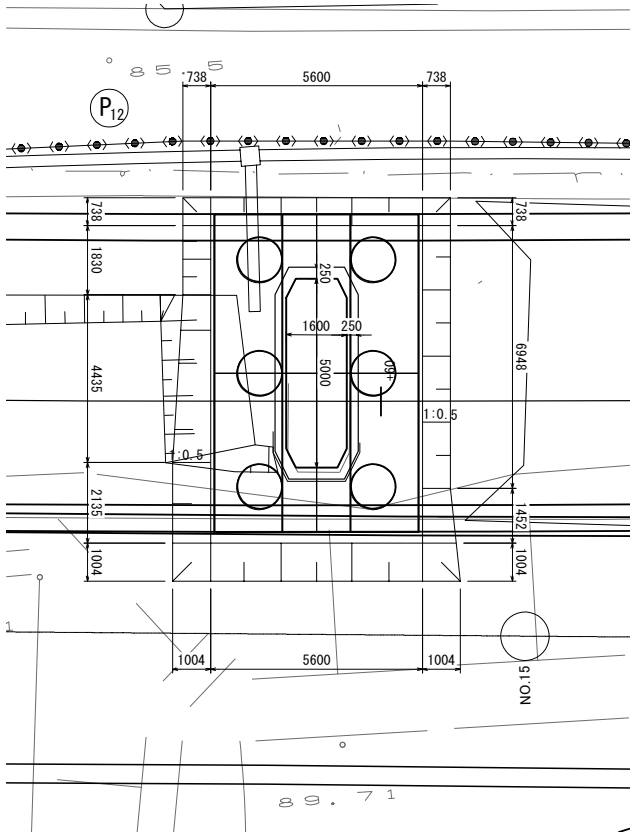
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その5)		
縮尺	図示	図面番号	10 / 88
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

構造物掘削 普通部A

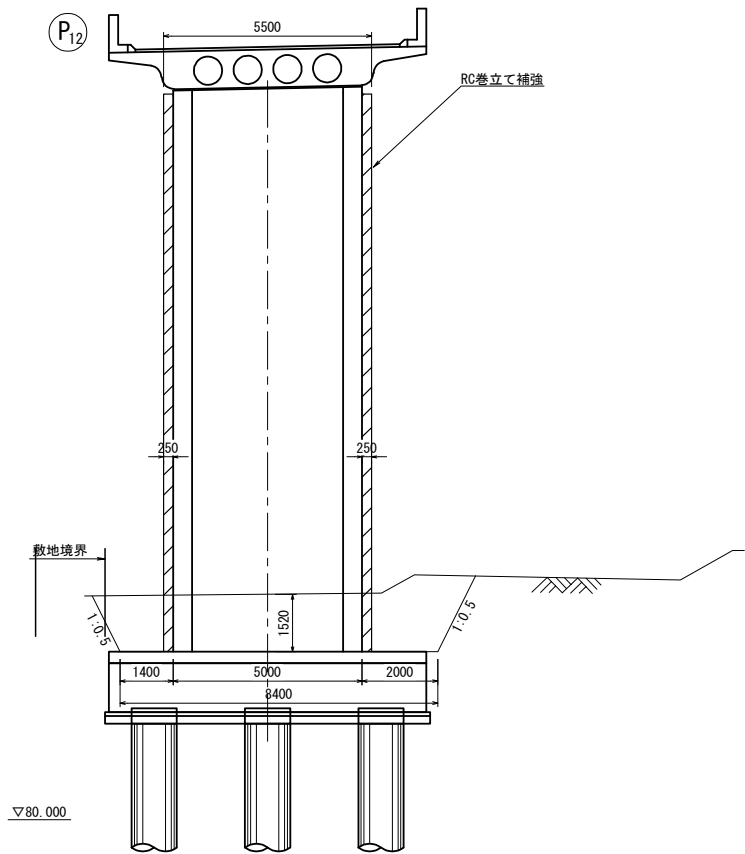
側面図



平面図



正面図

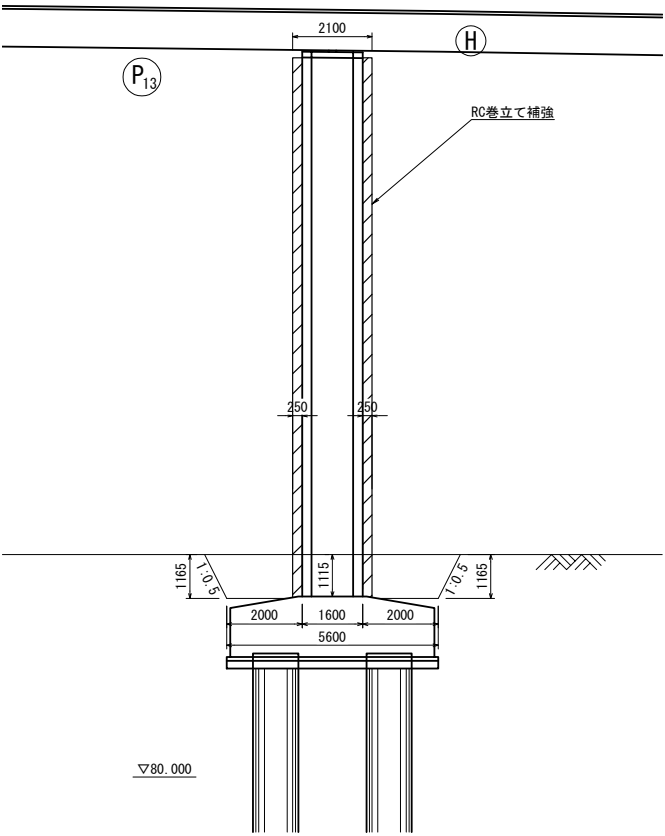


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

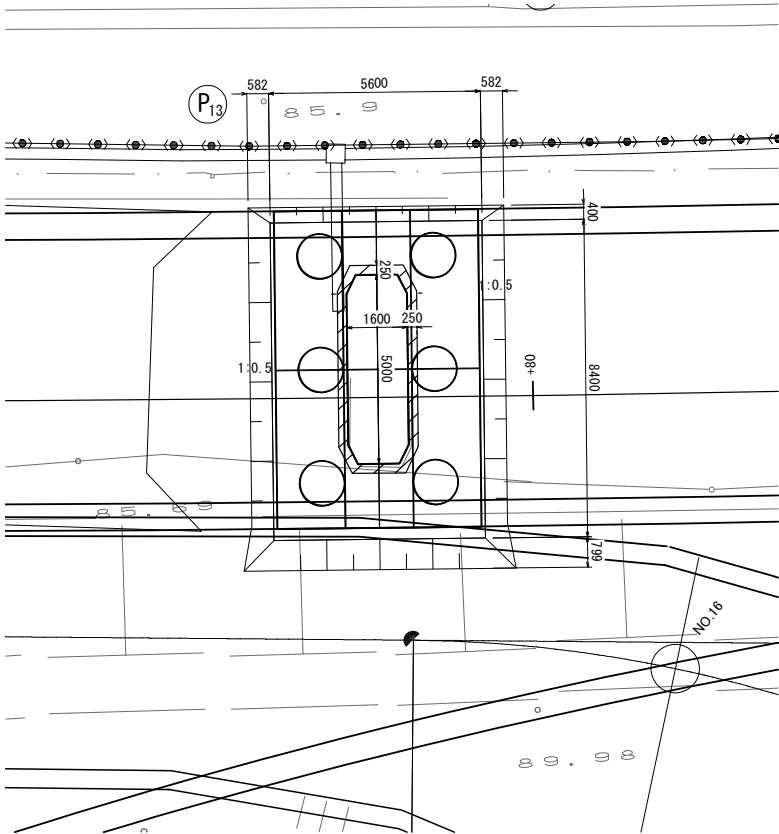
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その6)			
縮 尺	図 示	図面番号	11	88
設計会社名				
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

構造物掘削 普通部A

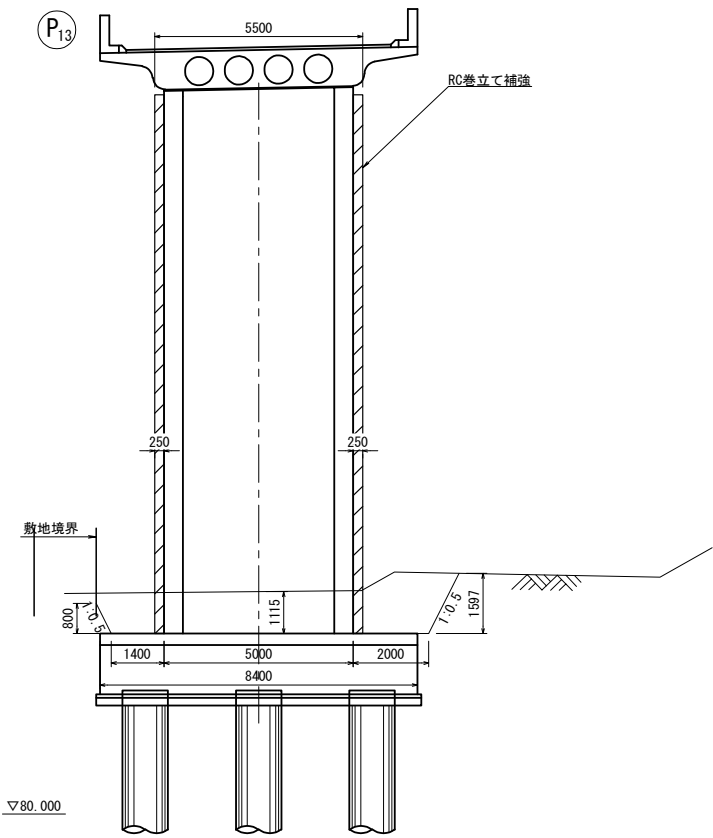
側面図



平面図



正面図

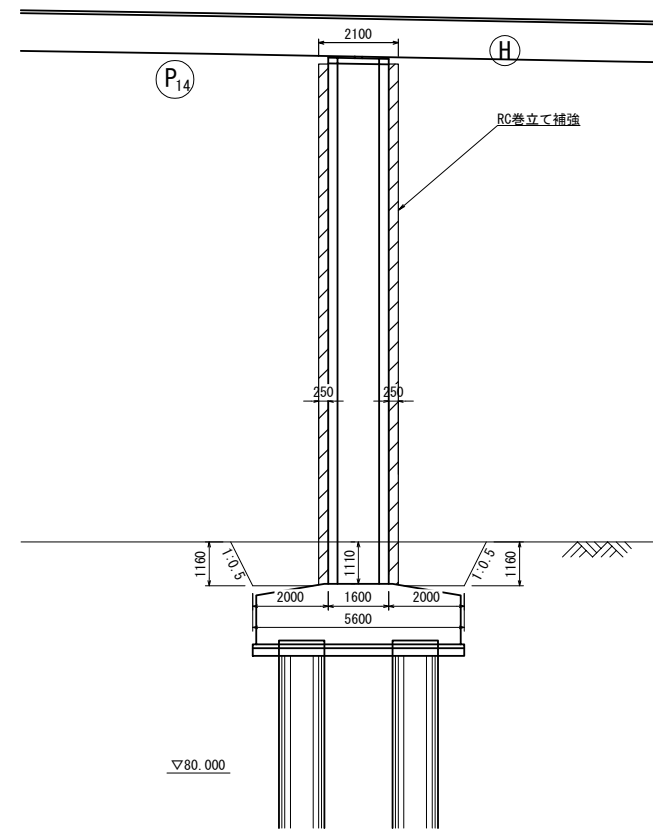


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

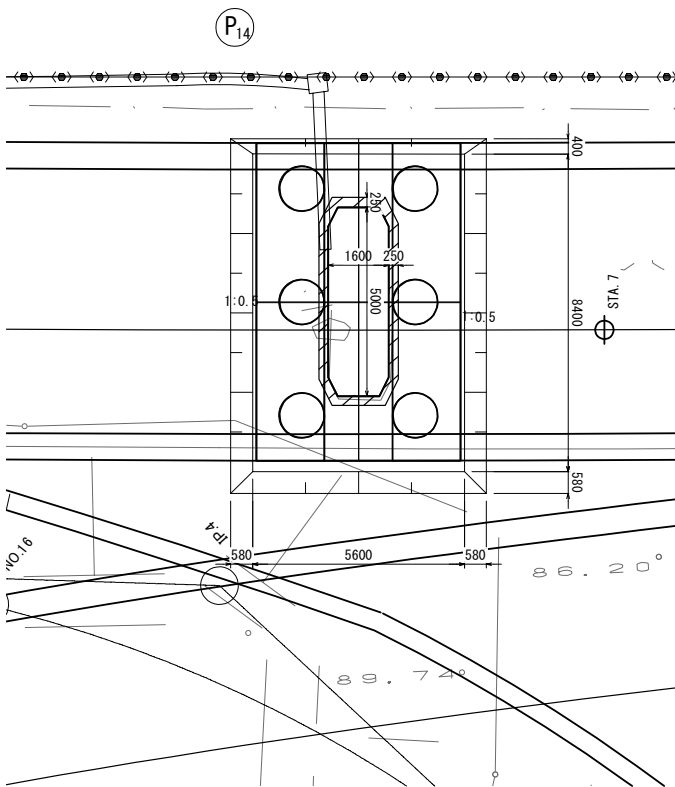
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その7)		
縮 尺	図 示	図面番号	12 / 88
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

構造物掘削 普通部A

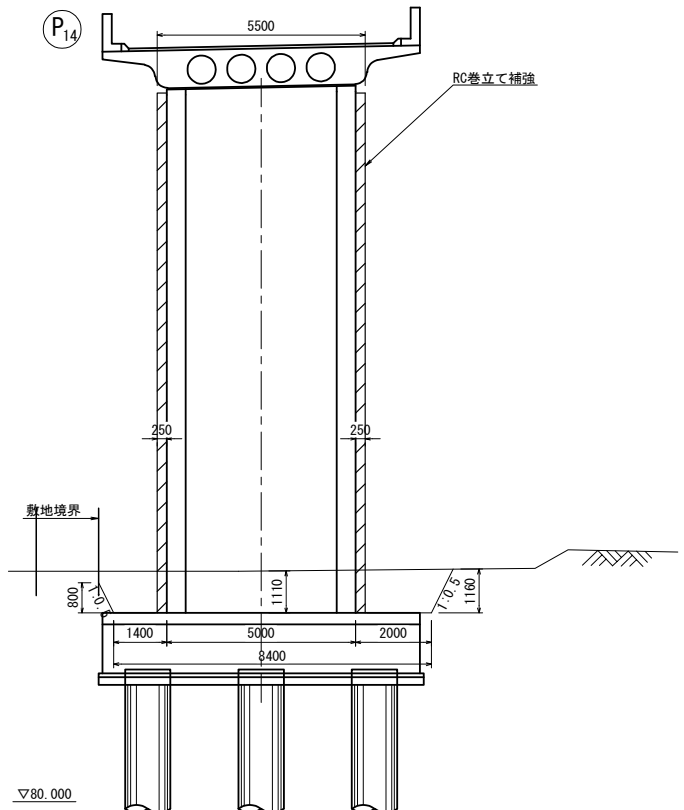
側面図



平面図



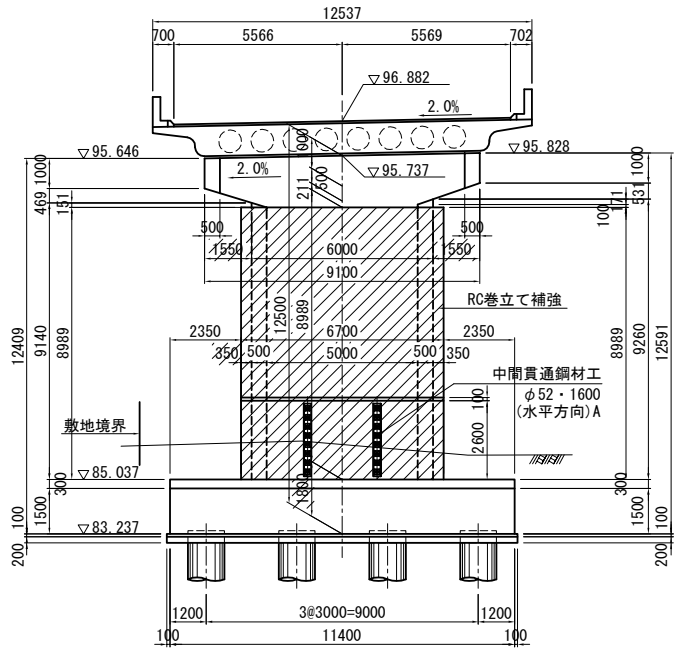
正面図



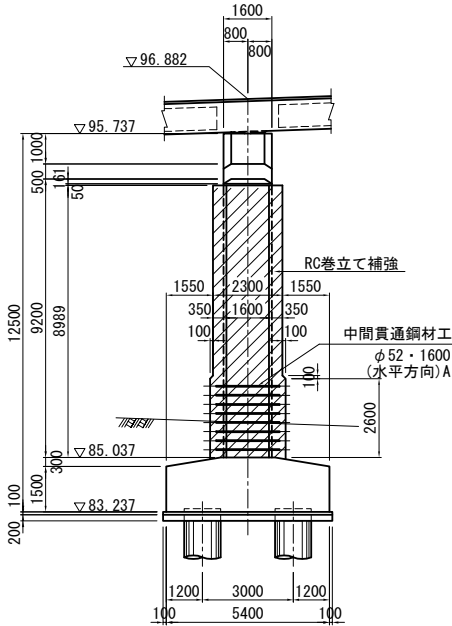
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その8)			
縮尺	図示	図面番号	13	/ 88
設計会社名				
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			

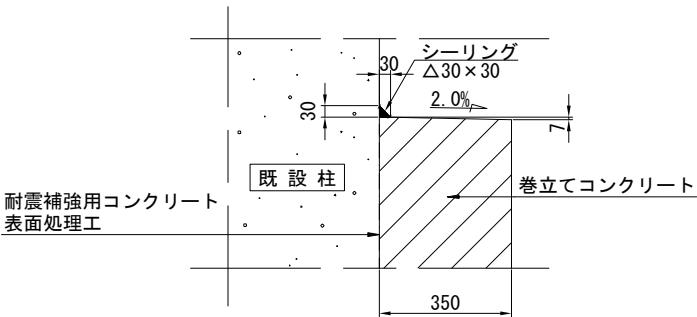
正面図 S=1:250



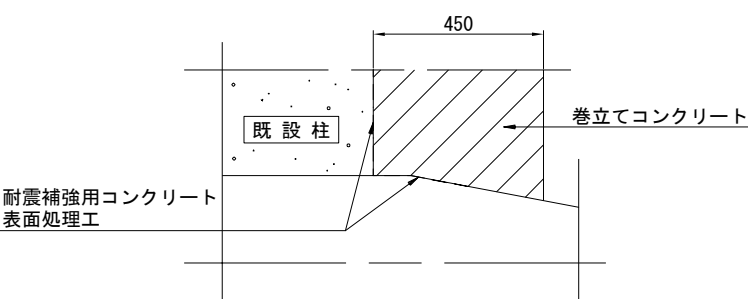
側面図 S=1:250



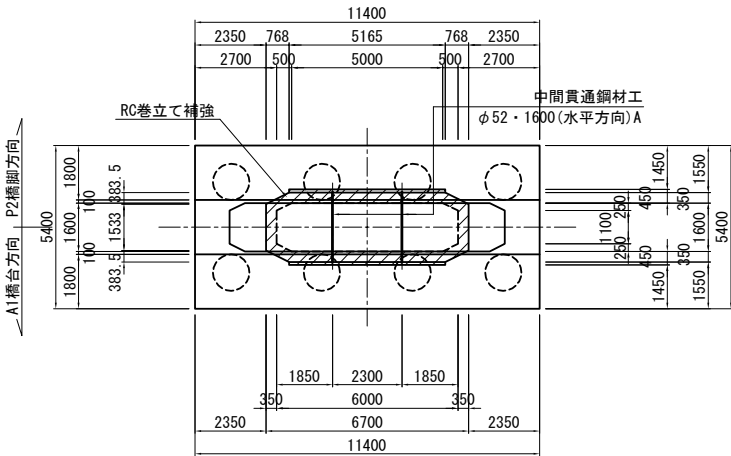
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



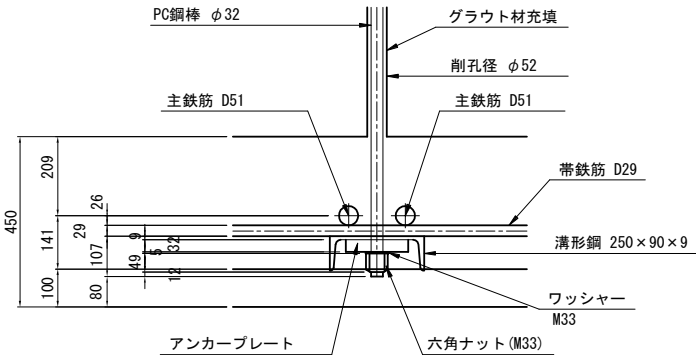
巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20



平面図 S=1:250

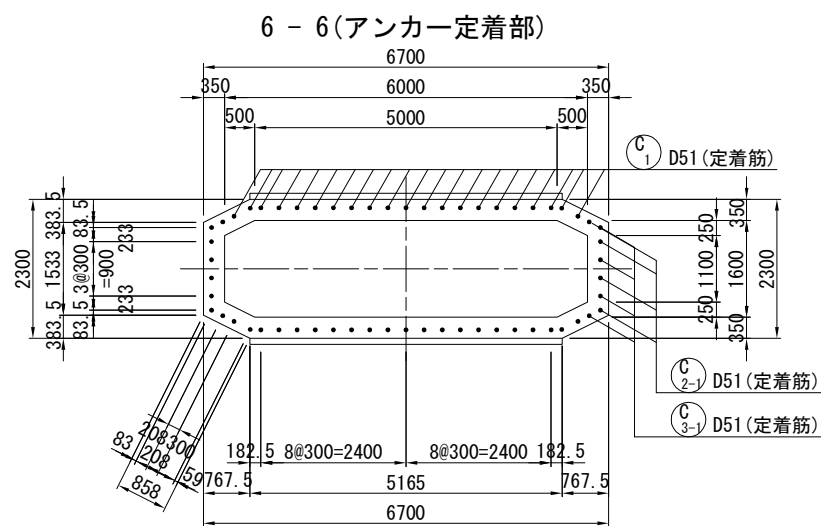
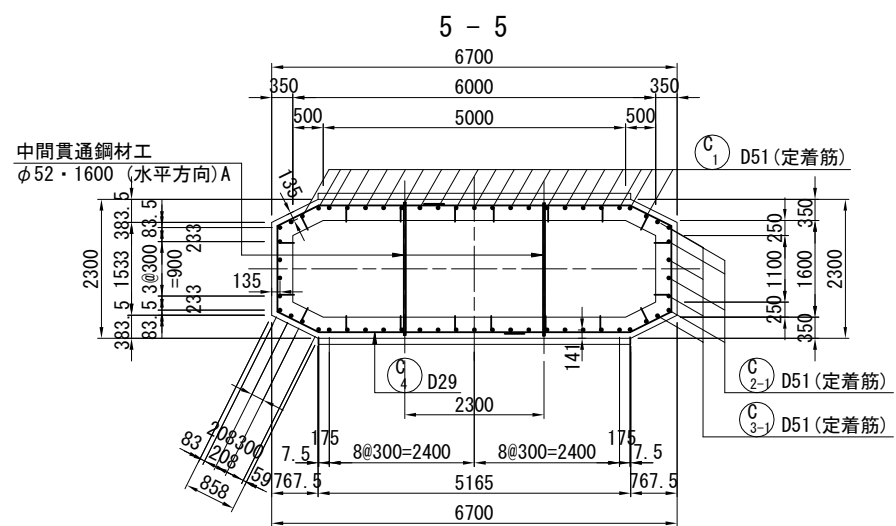
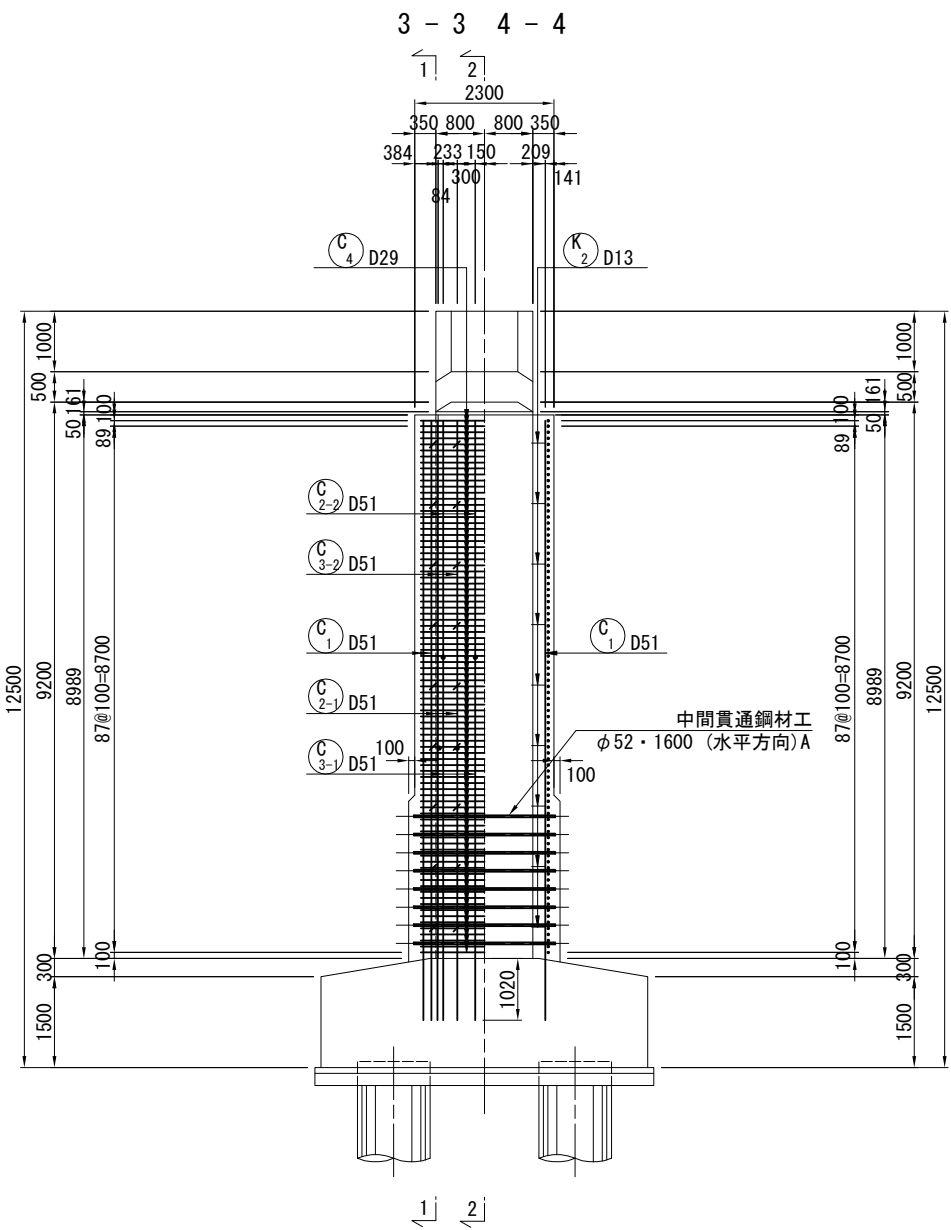
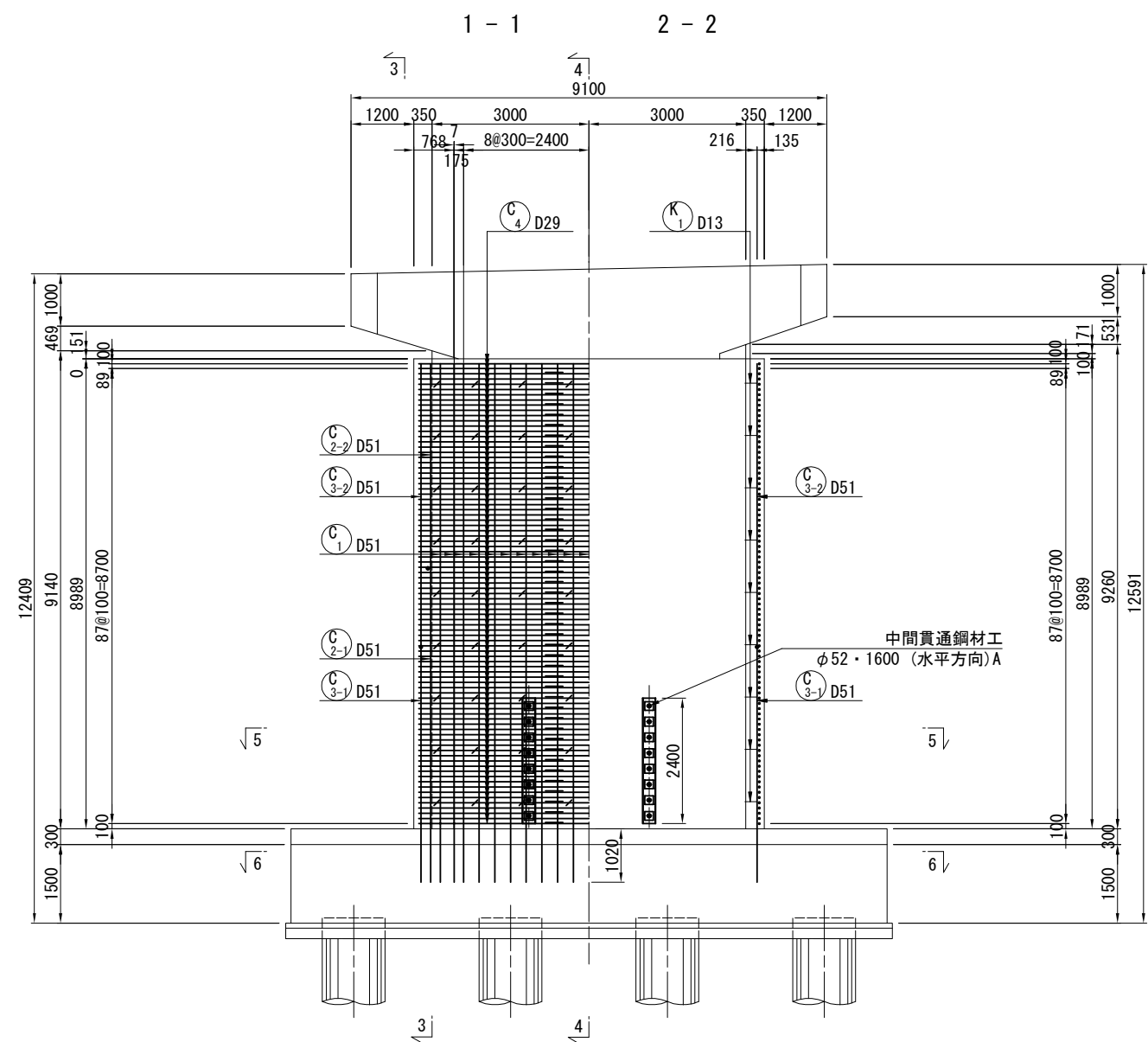


中間貫通鋼材工 φ52・1600（水平方向）A 詳細図 S=1:20



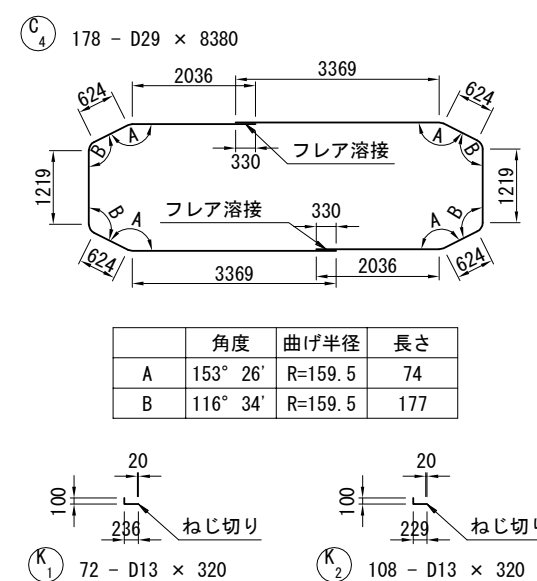
- 注記
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P1橋脚耐震補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	14 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

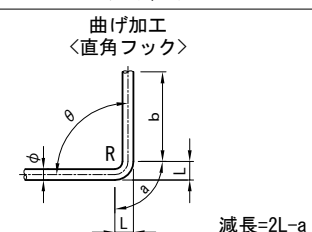
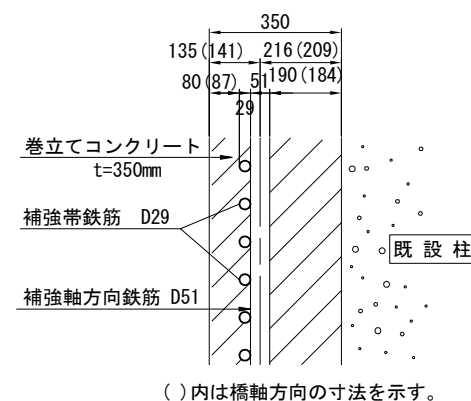
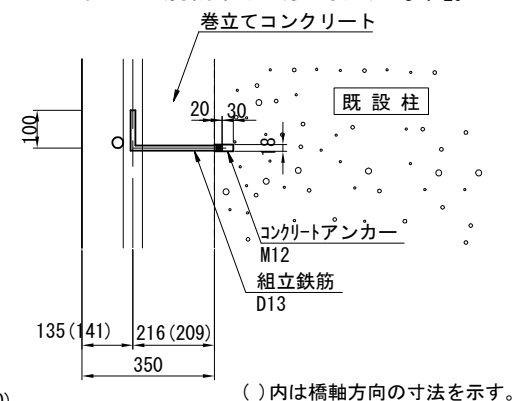


注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探索により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

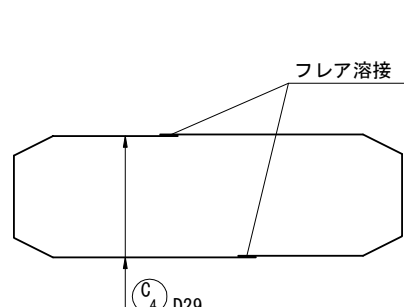
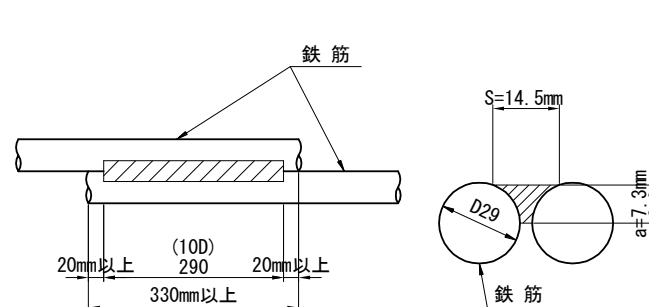
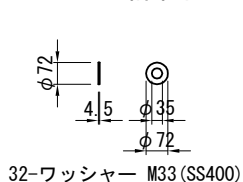
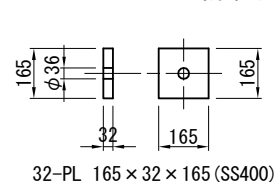
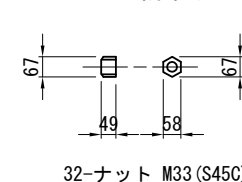
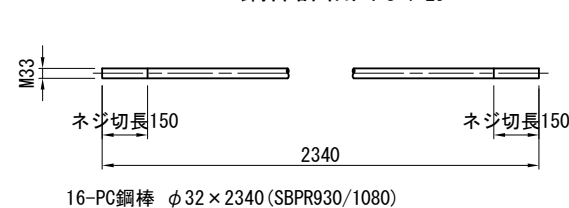
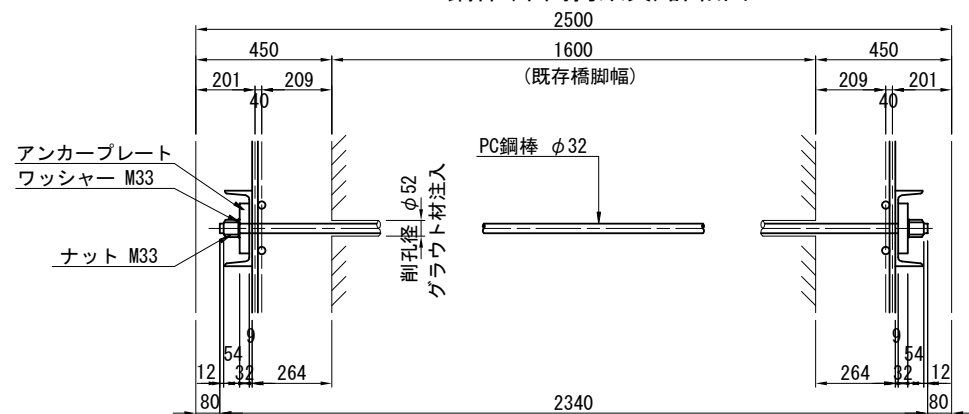
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P1橋脚耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	15 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1 本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘 要
C ₁	D51	9910	42	15.9	158	6636	┃
C ₂₋₁	D51	6000	8	15.9	95.4	763	↑ (8)
C ₂₋₂	D51	3910	8	15.9	62.2	498	┃
C ₃₋₁	D51	4500	8	15.9	71.6	573	↑ (8)
C ₃₋₂	D51	5410	8	15.9	86.0	688	┃
C ₄	D29	8380	178	5.04	42.2	7512	┃
SD345 小計						16670	kg
集 計 表							
				D51	9158	kg	(16)
				D29	7512	kg	
(SD345) 合計					16670	kg	(16)
フレア溶接の箇所数			D29 + D29	178	箇所		
ガス圧接の箇所数			D51 + D51	16	箇所		
鉄筋T1 定着鉄筋			D51	7972	kg	(C1, C2-1, C3-1)	
鉄筋T その他				8698	kg	(C2-2, C3-2, C4)	
K ₁	D13	320	72	0.995	0.318	23	┃
K ₂	D13	320	108	0.995	0.318	34	┃
				D13	57	kg	

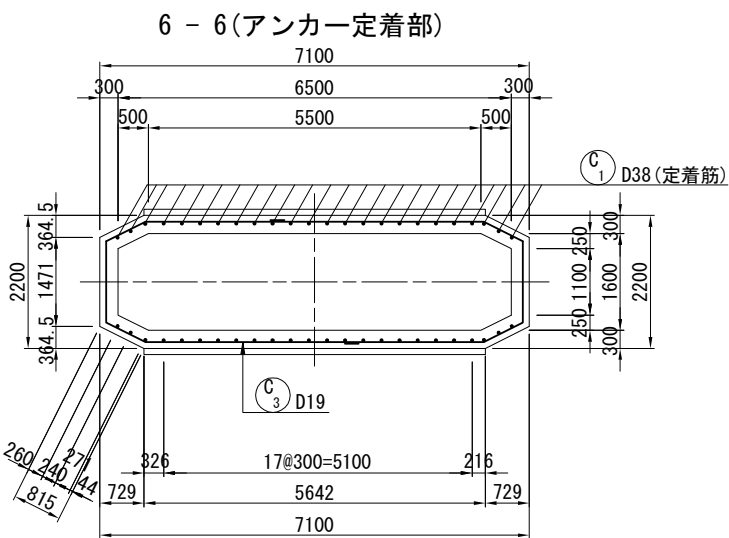
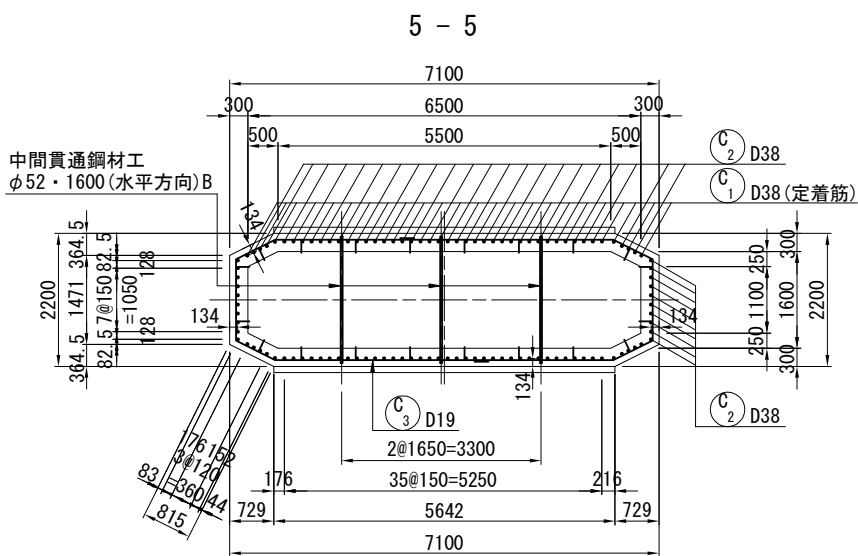
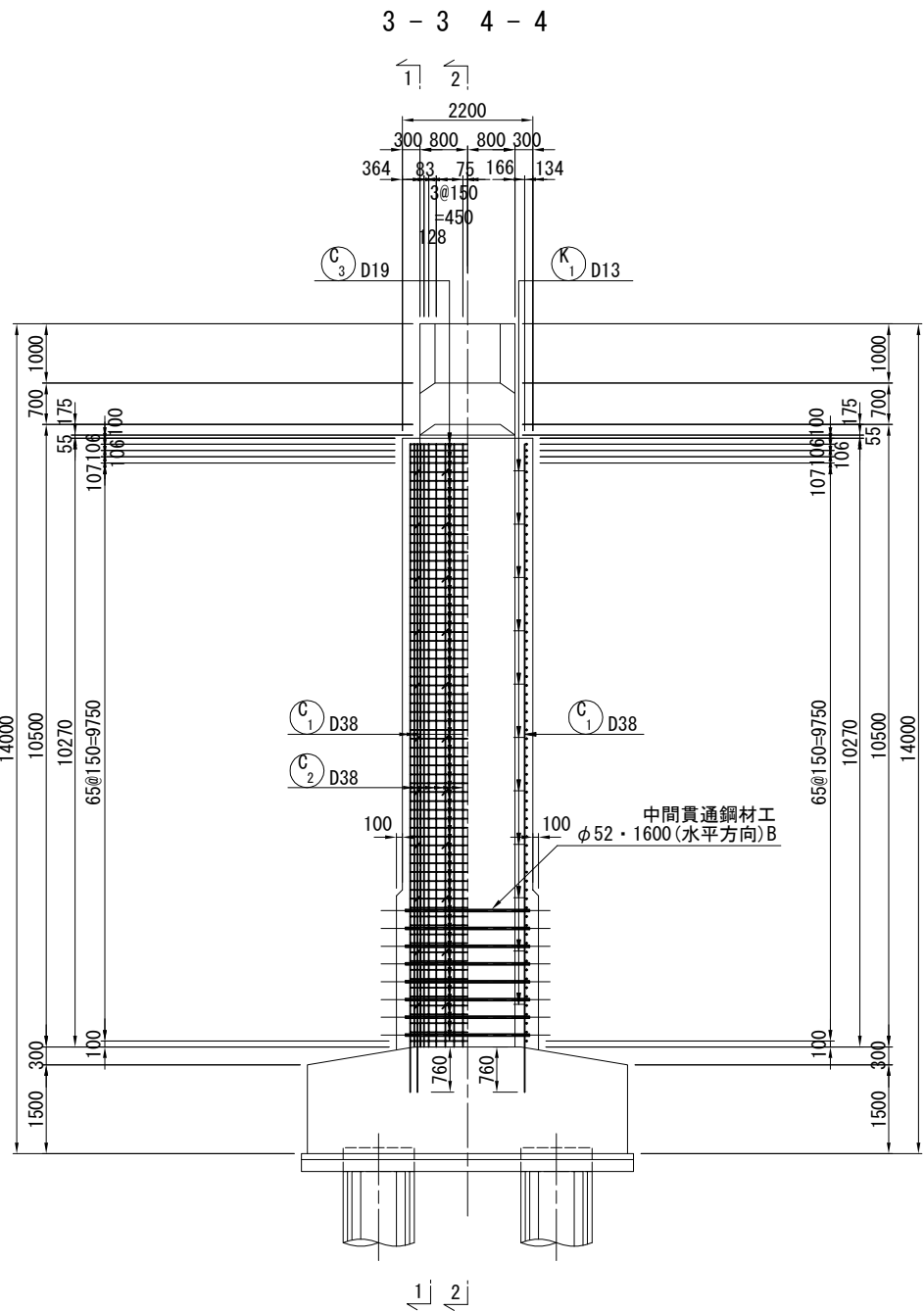
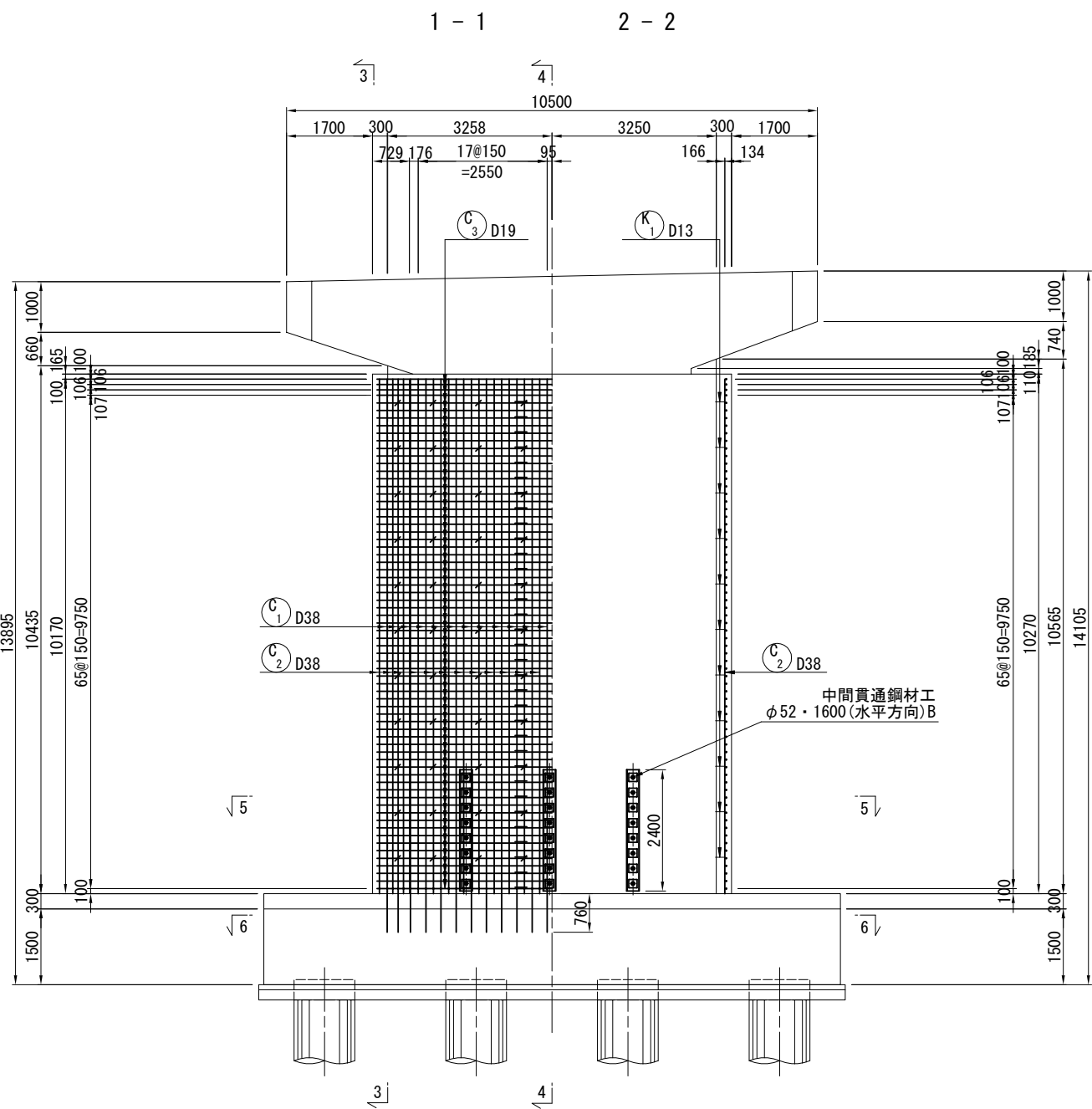


SD345					
徑	$\theta \leq 90^\circ$	$\theta > 90^\circ$	$\theta = 90^\circ$		
	R=3.0 ϕ	R=5.5 ϕ	a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66



- 注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探索により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
8. 鉄筋固定用の計画用アンカーは1本/m²に配置すること。

	横浜横須賀道路 金谷利第二高架橋耐震補強工事		
図面の種類	金谷利JCT第一橋 P1橋脚耐震補強詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	16 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

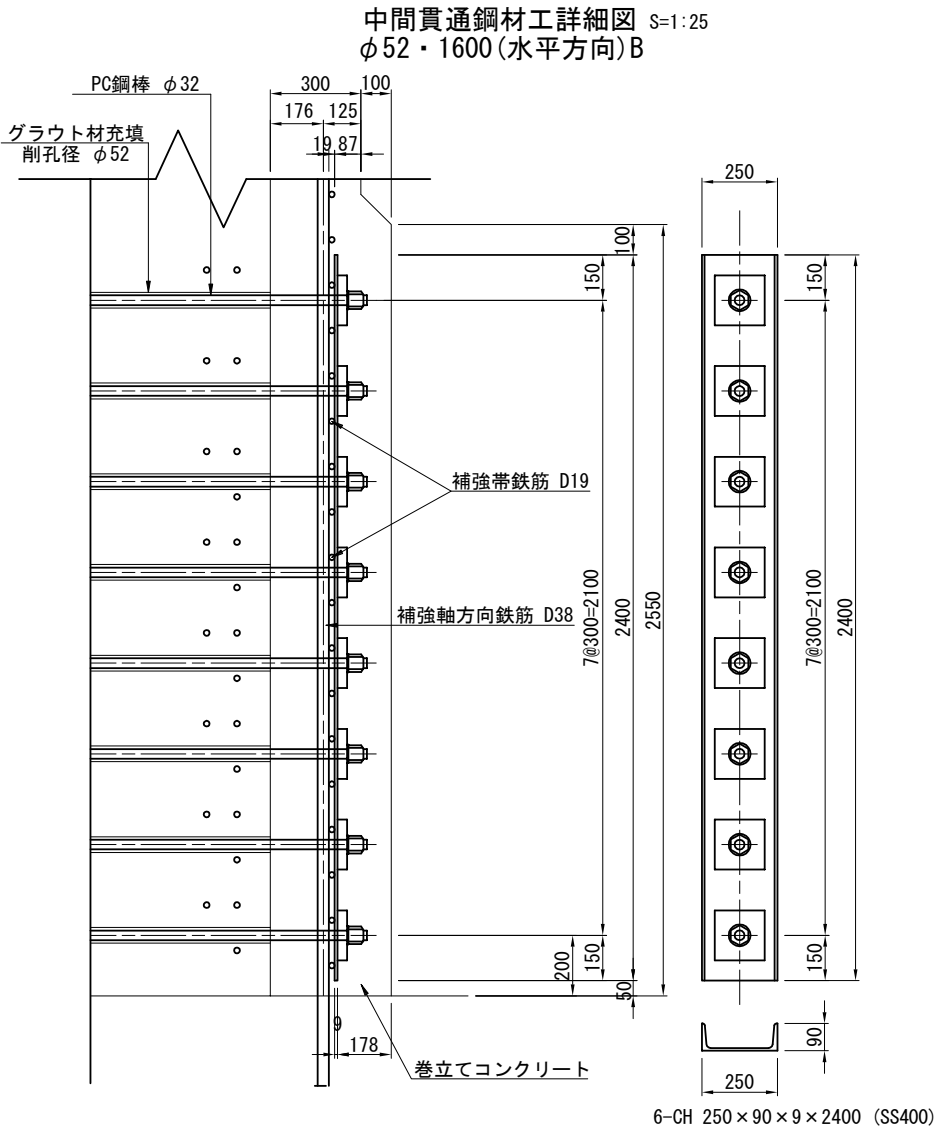
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P2橋脚耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	18 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

鉄筋表

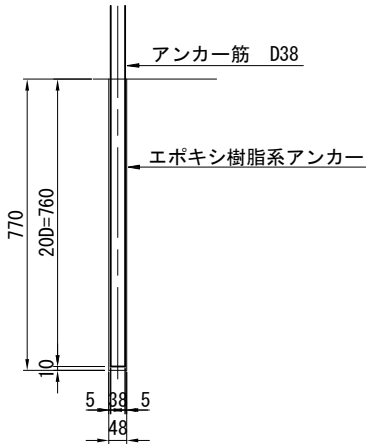
種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘 要
C ₁	D38	10930	48	8.95	97.8	4694	I
C ₂	D38	10170	64	8.95	91.0	5824	I
C ₃	D19	8590	140	2.25	19.3	2702	┐
SD345 小計						13220	kg
集 計 表							
D38					10518	kg	
D19					2702	kg	
(SD345) 合計					13220	kg	
フレア溶接の箇所数		D19 + D19	140	箇所			
鉄筋T1 定着鉄筋		D38	4694	kg			(C1)
鉄筋T その他			8526	kg			(C2, C3)
K ₁	D13	270	220	0.995	0.269	59	┐
D13					59	kg	

鉄筋加工寸法表

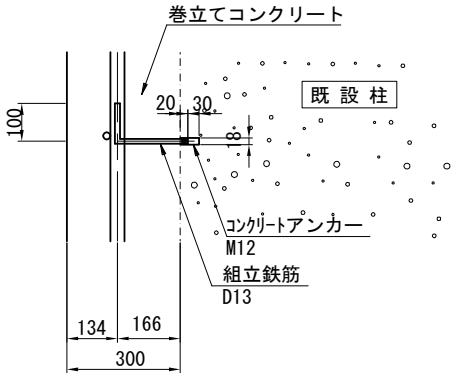
曲げ加工 〈直角フック〉						
SD345						
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 90^\circ$			
	a	b	a	b	減長	
D13	39	71.5	61	156	17	
D16	48	88	75	192	21	
D19	57	104.5	89	228	25	
D22	66	121	104	264	28	
D25	75	137.5	118	300	32	
D29	87	159.5	137	348	37	
D32	96	176	151	384	41	
D35	105	192.5	165	420	45	
D38	114	209	179	456	49	
D41	123	225.5	193	492	53	
D51	153	280.5	240	612	66	



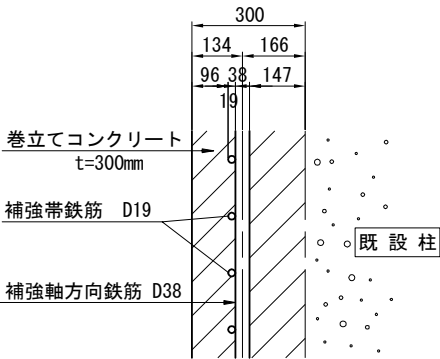
アンカー詳細図 S=1:20



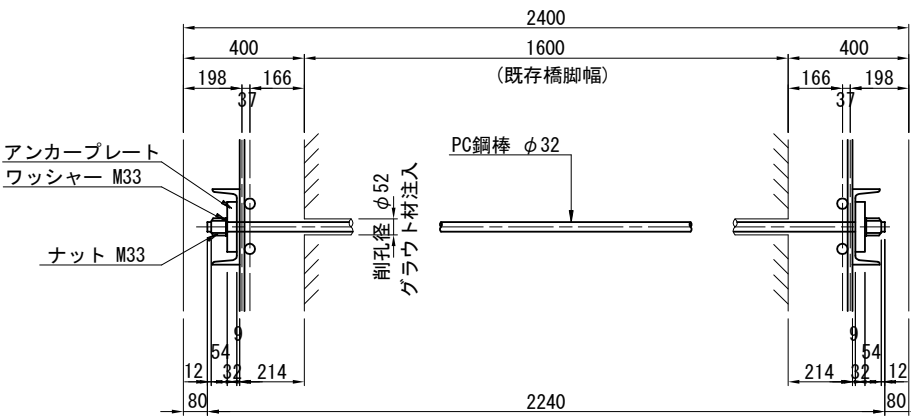
組立て筋詳細図(参考図) S=1:20



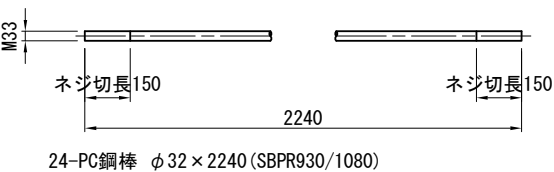
かぶり詳細図 S=1:20



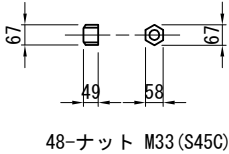
PC鋼棒(中間拘束具)詳細図 S=1:25



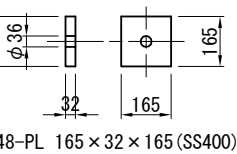
PC鋼棒詳細図S=1:25



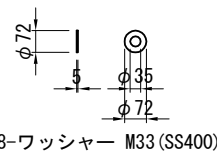
ナット詳細図 S=1:25



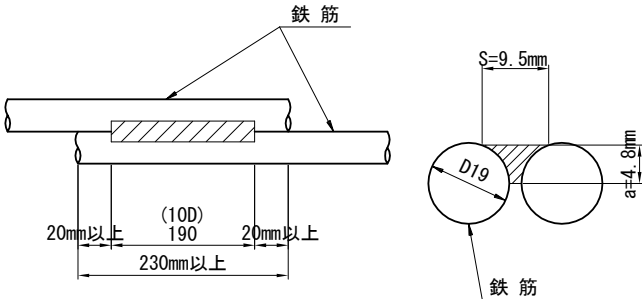
アンカープレート詳細図 S=1:25



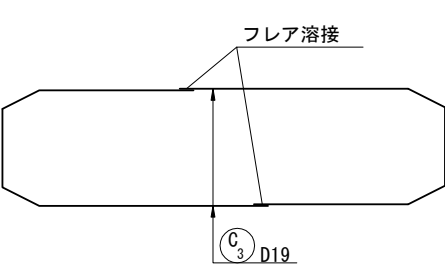
ワッシャー詳細図 S=1:25



フレア溶接詳細図 S=1:10



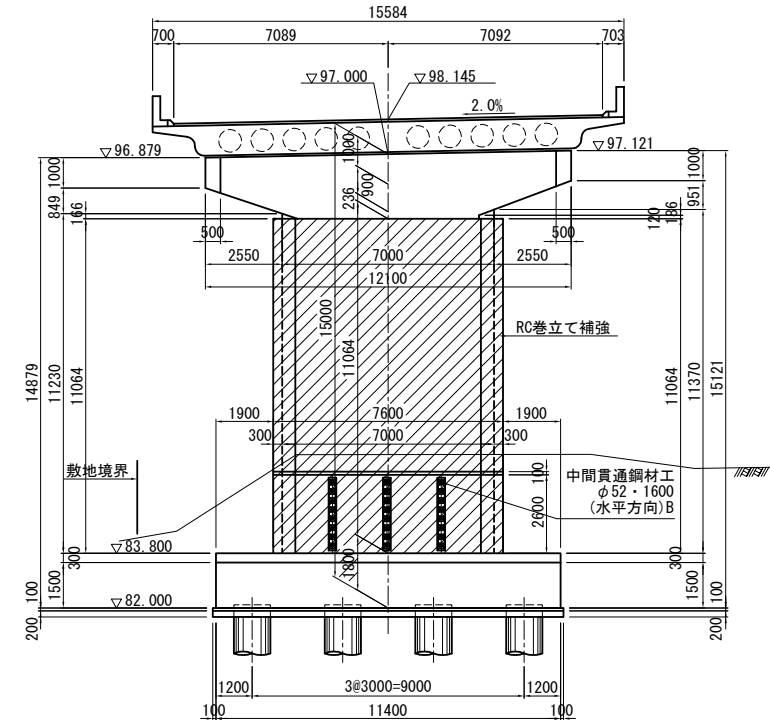
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



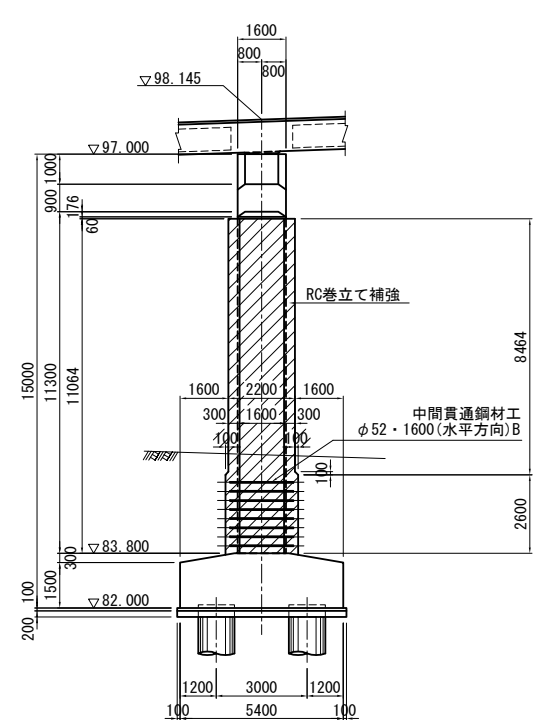
注記) 1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探索により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
8. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m2に配置すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P2橋脚耐震補強詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	19 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

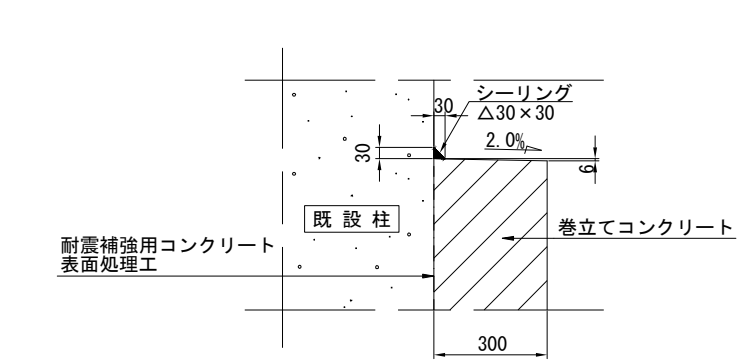
正面図 S=1:250



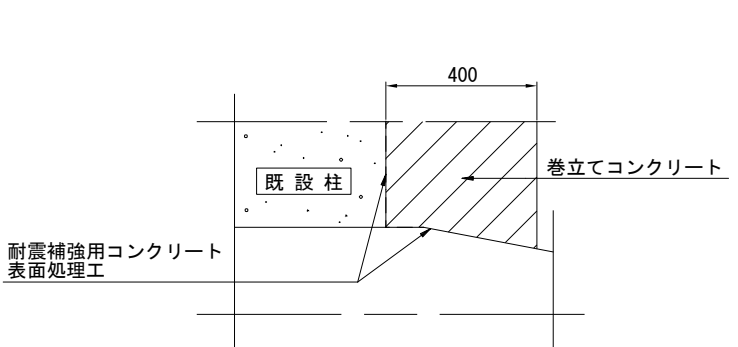
側面図 S=1:250



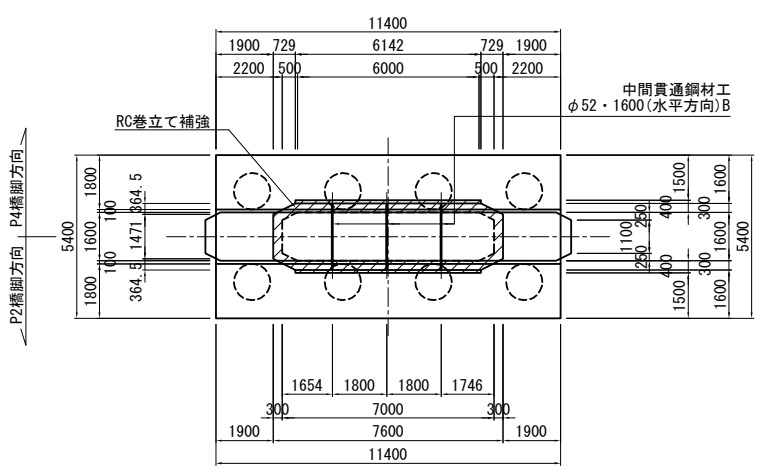
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



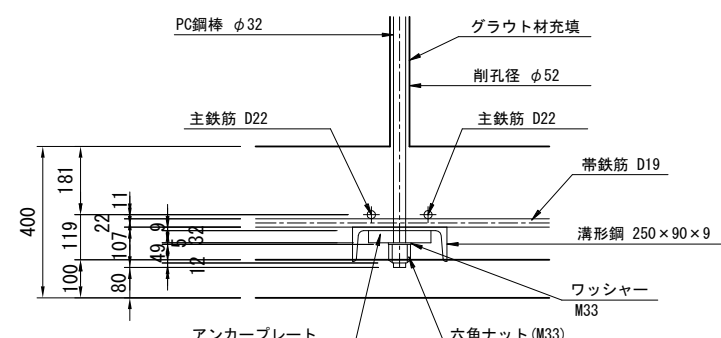
巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20



平面図 S=1:250

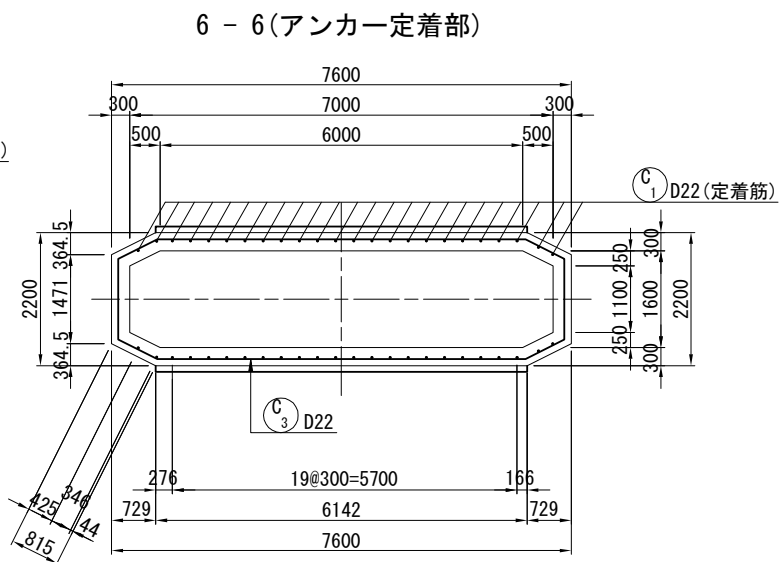
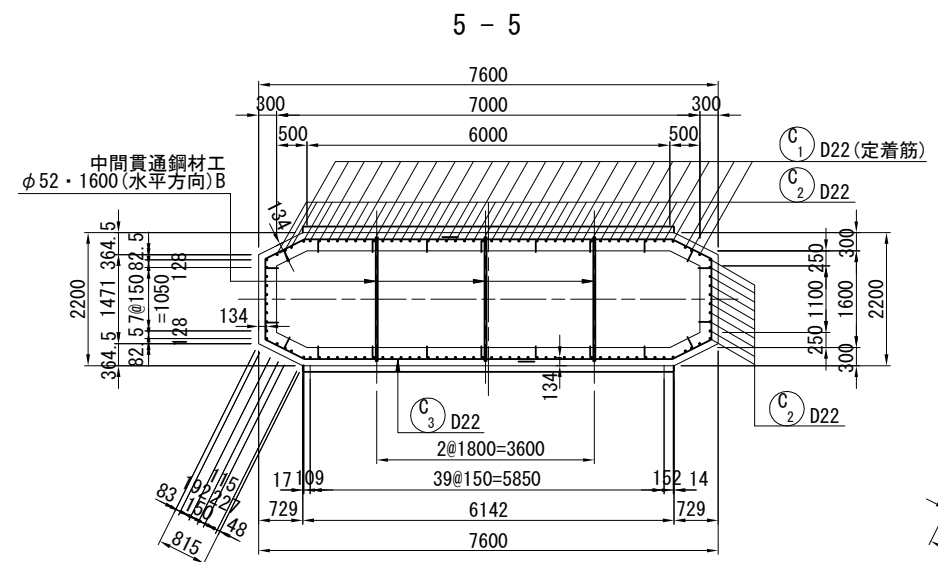
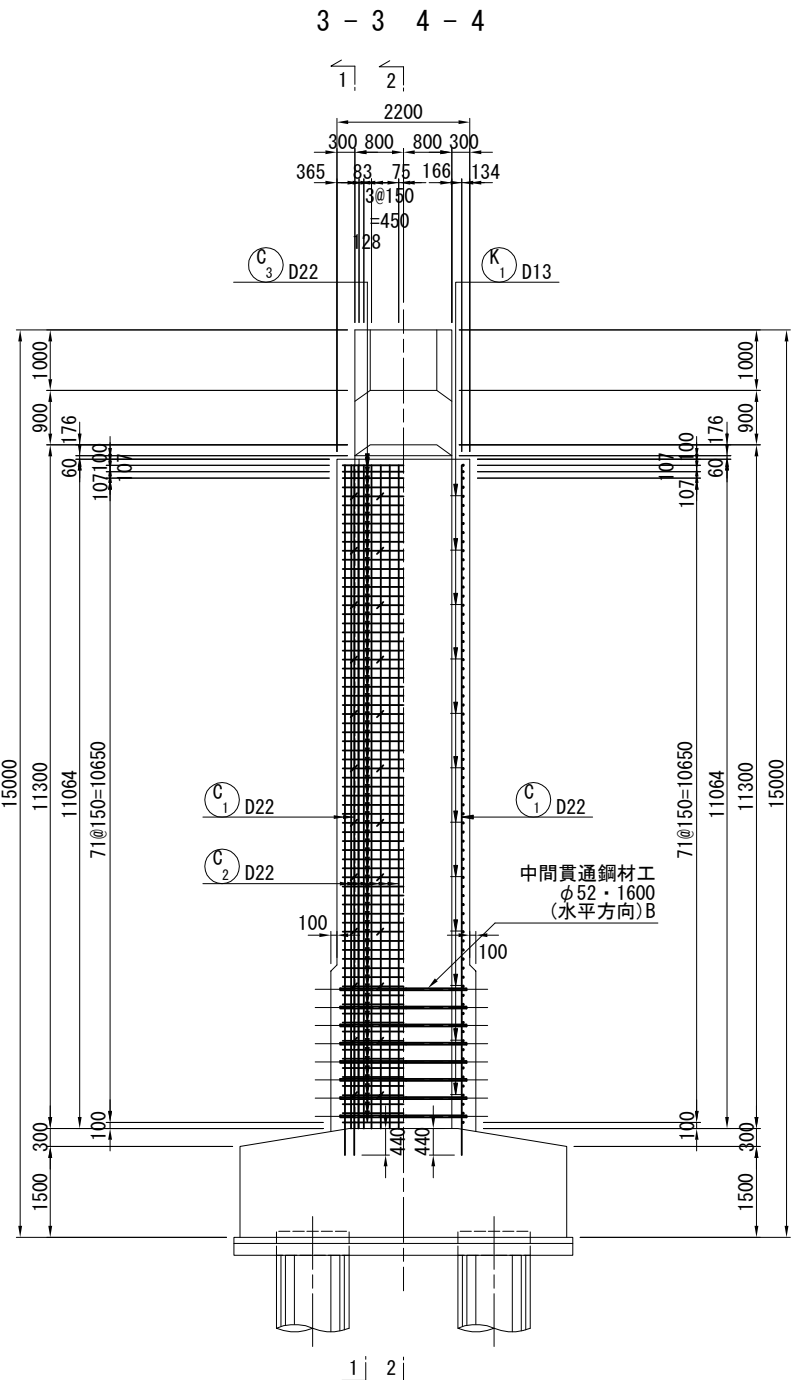
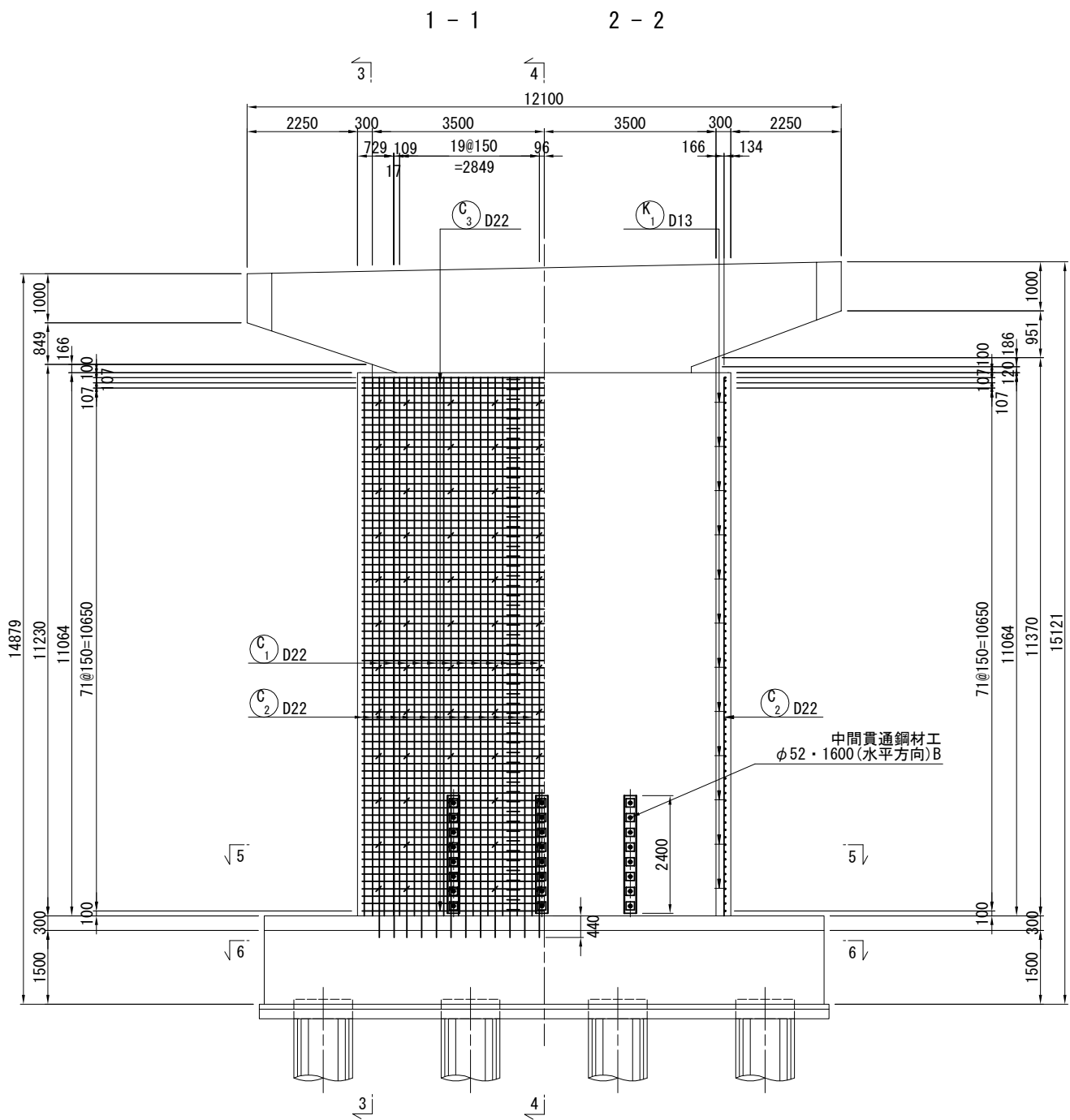


中間貫通鋼材工詳細図 S=1:20
φ52・1600（水平方向）B



- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易測量結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P3橋脚耐震補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	20 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探索により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P3橋脚耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	21 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1 本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C ₁	D22	11410	48	3.04	34.7	1666	I
C ₂	D22	10970	68	3.04	33.3	2264	I
C ₃	D22	9090	148	3.04	27.6	4085	C
SD345 小計						8015	kg
集 計 表							
D22					8015	kg	
(SD345) 合計					8015	kg	
フレア溶接の箇所数			D22 + D22		148	箇所	
鉄筋T1 定着鉄筋			D22		1666	kg	(C1)
鉄筋T その他					6349	kg	(C2, C3)
K ₁	D13	270	264	0.995	0.269	71	L
D13					71	kg	

曲げ加工
〈直角フック〉

減長=2L-a

SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 90^\circ$		減長
			a	b	
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

PC鋼棒 $\phi 32$

グラウト材充填
削孔径 $\phi 52$

300 181 120 2287 100

150 100 2400 2600 200 150 50 9 178

補強帯鉄筋 D22

補強軸方向鉄筋 D22

7 $\phi 300=2150$

7 $\phi 300=2100$

250 150 2400 150 40 250

巻立てコンクリート

6-CH 250 \times 90 \times 9 \times 2400 (SS400)

Technical drawing of a bridge deck cross-section showing reinforcement details. The drawing includes dimensions for the deck width (2400mm), reinforcement spacing (400mm), and specific reinforcement components like PC steel bars (φ32) and post-tensioning material (φ52). Labels indicate "アンカープレート" (Anchor Plate), "ワッシャー M33" (Washer M33), and "ナット M33" (Nut M33). The drawing is divided into three sections: a left section showing the anchor plate and washer, a middle section showing the PC steel bar and post-tensioning material, and a right section showing the nut and washer. Dimensions are given in millimeters.

Technical drawing of a reinforcement bar (鉄筋) connection. The left part is a side view showing two bars, one with a hatched section, with dimensions: 20mm以上, (10D) 220, 20mm以上, and a total length of 260mm以上. The right part is a cross-sectional view showing two circles representing the bars, with dimensions: S=11.0mm, a=5.6mm, and a diameter of D22. Labels '鉄筋' point to the bars in both views.

フレア溶接

C₃ D22

Figure 1: Reinforcement details of the column base. The diagram shows a cross-section of a column base with dimensions in millimeters. The total width is 300mm, divided into 134mm and 166mm sections. The height of the base is 100mm. Reinforcement includes M12 concrete anchors, D13 assembled reinforcement bars, and a concrete cast-in-place. The existing column is labeled "既設柱".


Figure 1: Cross-section of a reinforced concrete slab. The diagram shows a slab with a total width of 300mm. The reinforcement includes top bars (D22) and bottom bars (D22). The concrete thickness is $t=300\text{mm}$. The reinforcement is placed in a grid pattern. The dimensions are: 134mm (top bar spacing), 166mm (bottom bar spacing), 101mm (top bar spacing), 22mm (bar diameter), and 155mm (bottom bar spacing). The reinforcement is labeled "巻立てコンクリート $t=300\text{mm}$ ", "補強帯鉄筋 D22", and "補強軸方向鉄筋 D22". The existing structure is labeled "既設".



 24-PC鋼棒 φ32×2240 (SBPR930/1080)

48-ナット M33 (S45C)

48-PL 165 x 32 x 165 (SS400)

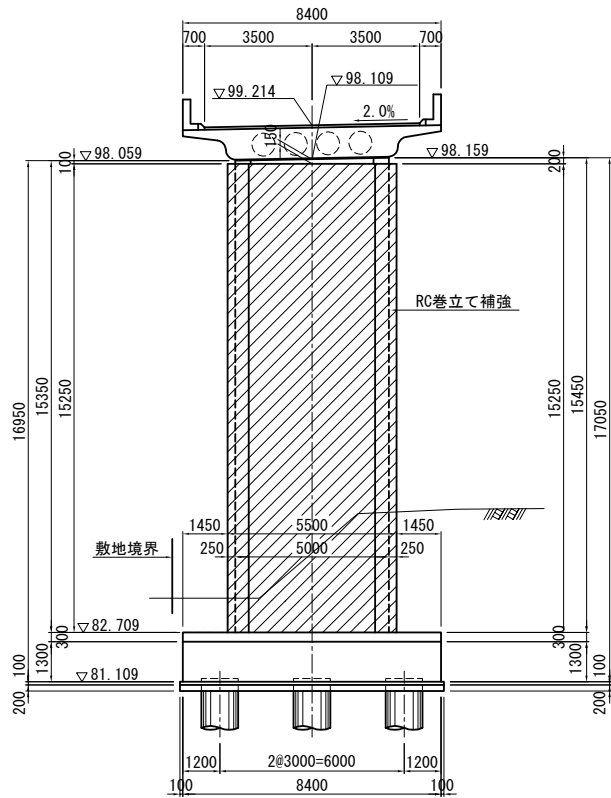


 48-ワッシャー M33 (SS400)

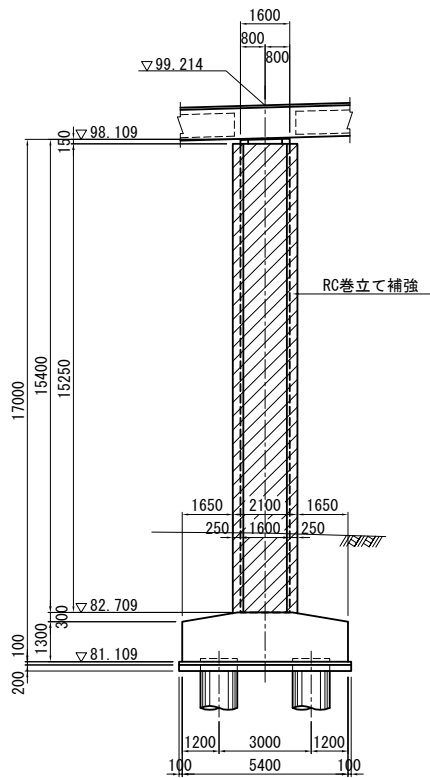
- 注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や施工位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
8. 鉄筋固定用組立用アンカーは1本/m²に配置すること。

横浜須賀買道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P3橋脚耐震補強詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	22 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 震 災 管 理 事 務 所		

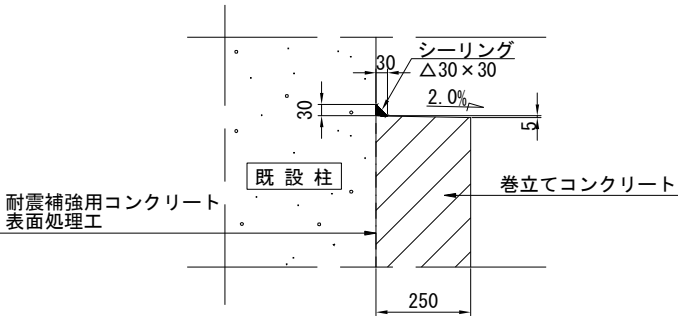
正面図 S=1:250



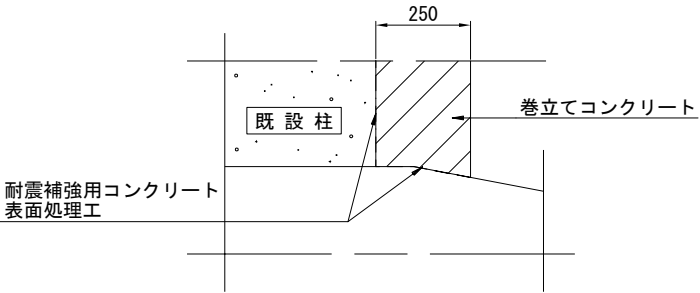
側面図 S=1:250



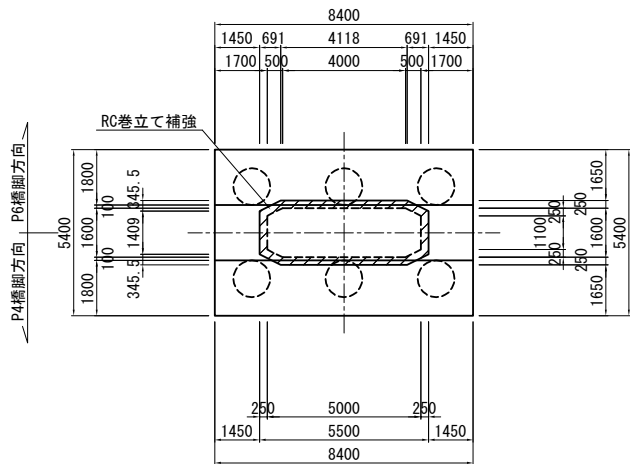
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20

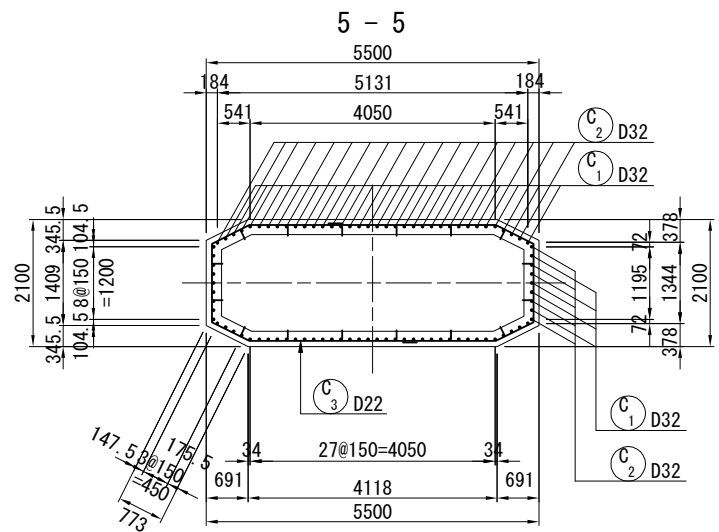
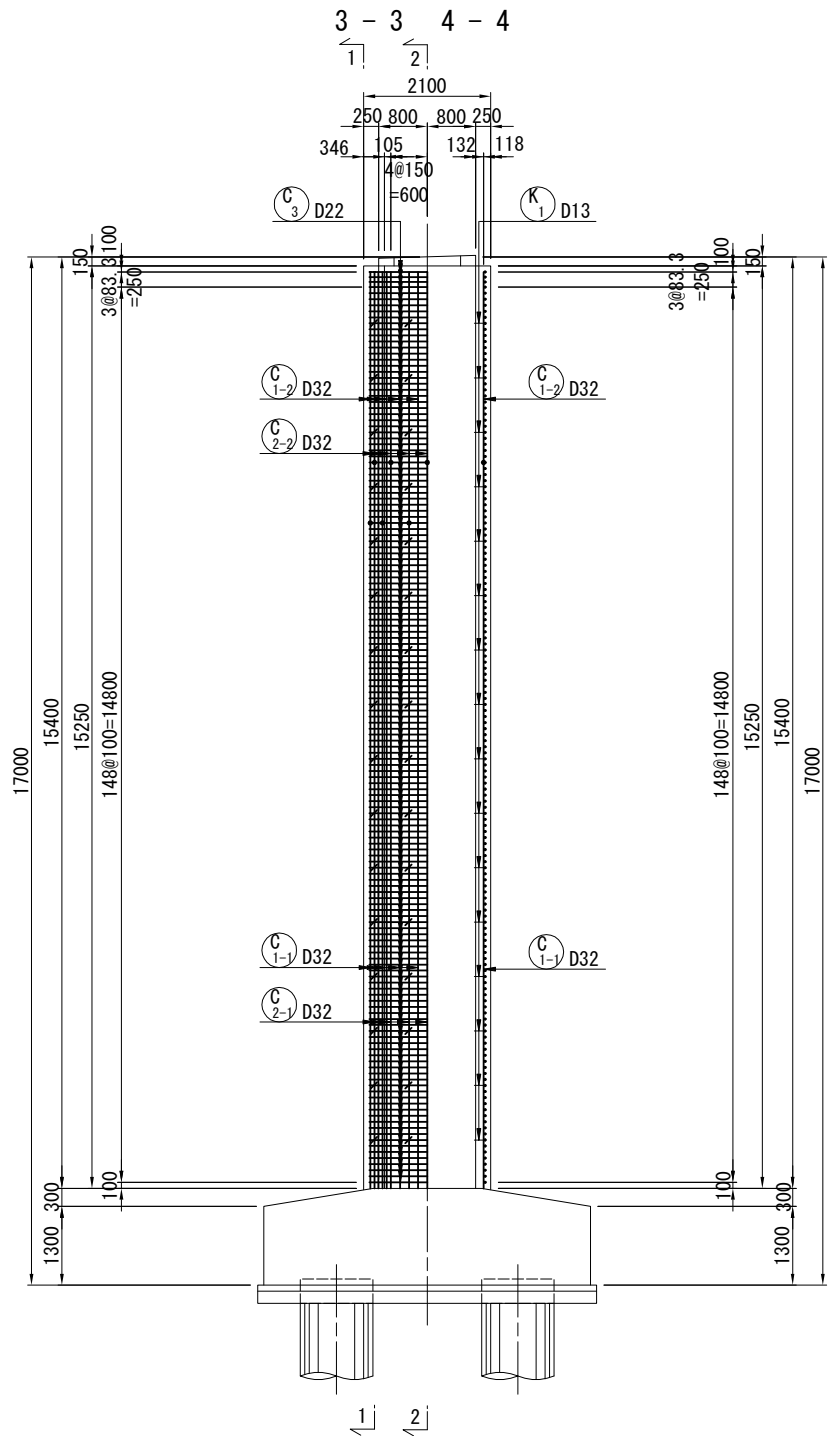
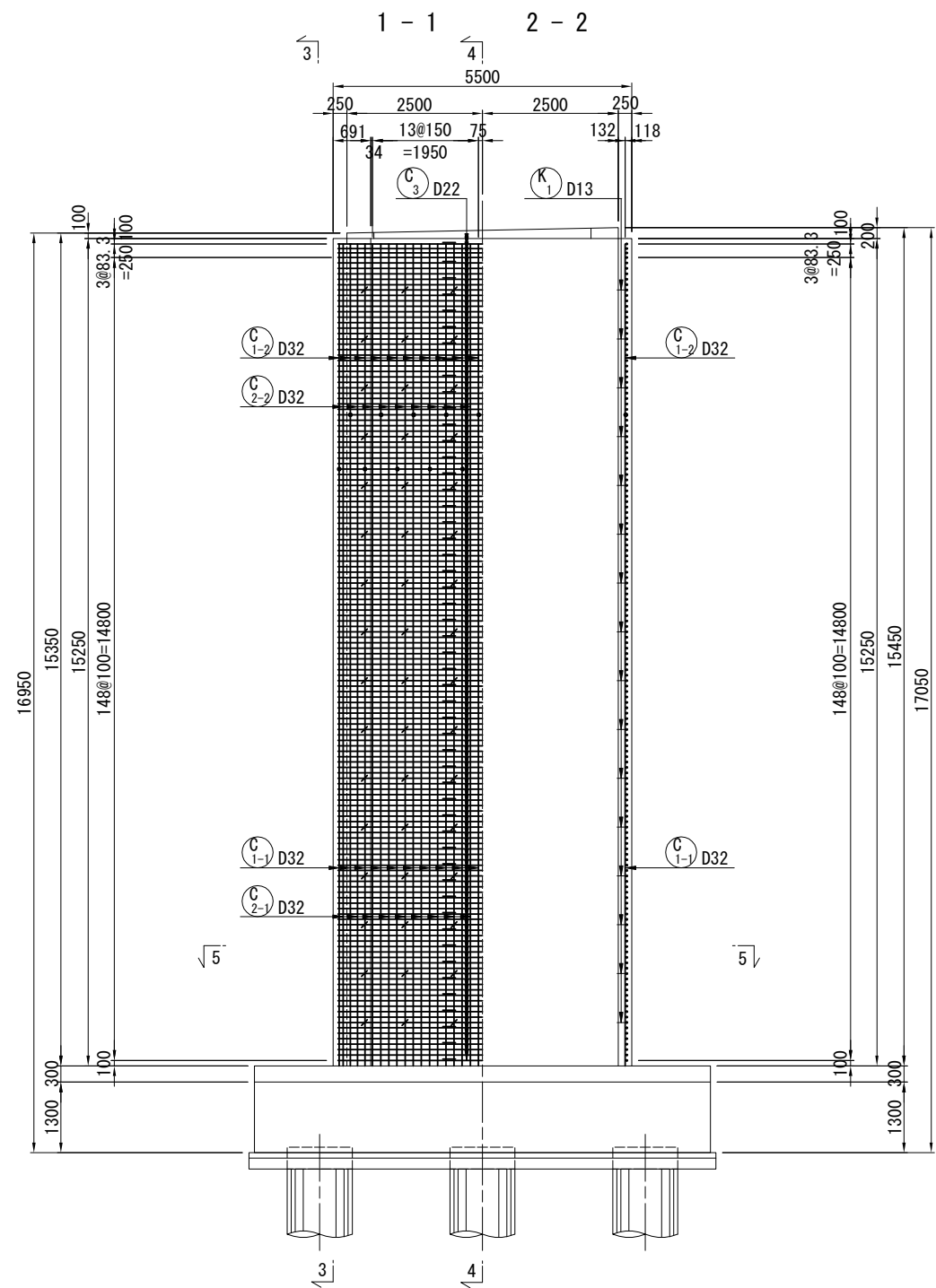


平面図 S=1:250



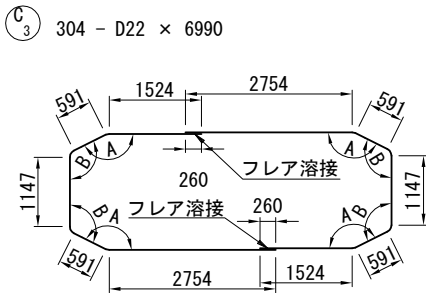
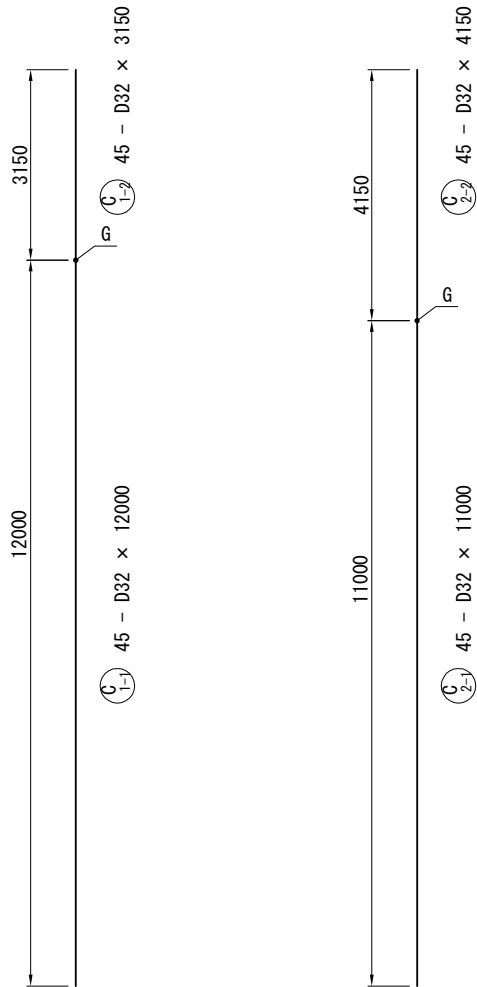
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易測量結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚耐震補強構造一般図		
	縮 尺	図 示	図面番号 23 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

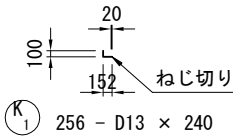


注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	24 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



	角度	曲げ半径	長さ
A	153° 26'	R=121	56
B	116° 34'	R=121	134



鉄筋表

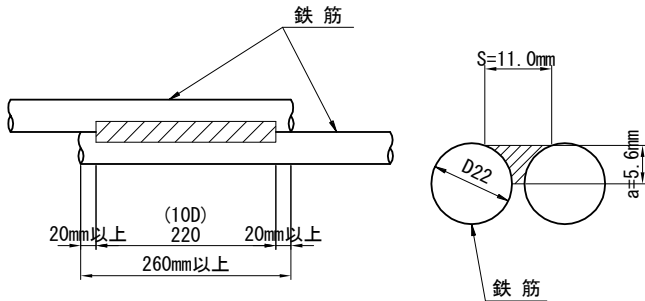
種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1 本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D32	12000	45	6. 23	74. 8	3366	↑ (45)
C 1-2	D32	3150	45	6. 23	19. 6	882	
C 2-1	D32	11000	45	6. 23	68. 5	3083	↑ (45)
C 2-2	D32	4150	45	6. 23	25. 9	1166	
C 3	D22	6990	304	3. 04	21. 2	6445	└
SD345 小計						14942	kg
集 計 表							
D32					8497	kg	(90)
D22					6445	kg	
鉄筋T (SD345) 合計					14942	kg	(90)
フレア溶接の箇所数				D22 + D22	304	箇所	
ガス圧接の箇所数				D32 + D32	90	箇所	
K 1	D13	240	256	0. 995	0. 239	61	└
D13					61	kg	

鉄筋加工寸法表

曲げ加工 〈直角フック〉					
SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 90^\circ$		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

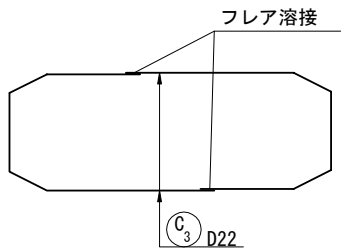
フレア溶接詳細図

S=1:10



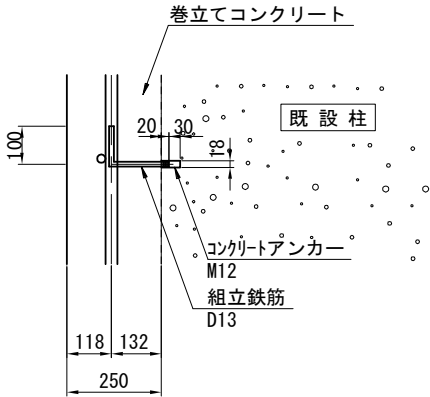
補強帯鉄筋組立図

S=1:20



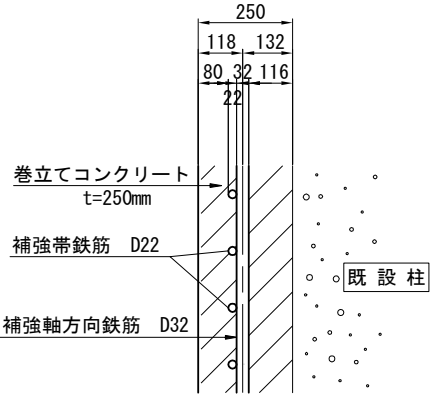
組立て筋詳細図(参考図)

S=1:20



かぶり詳細図

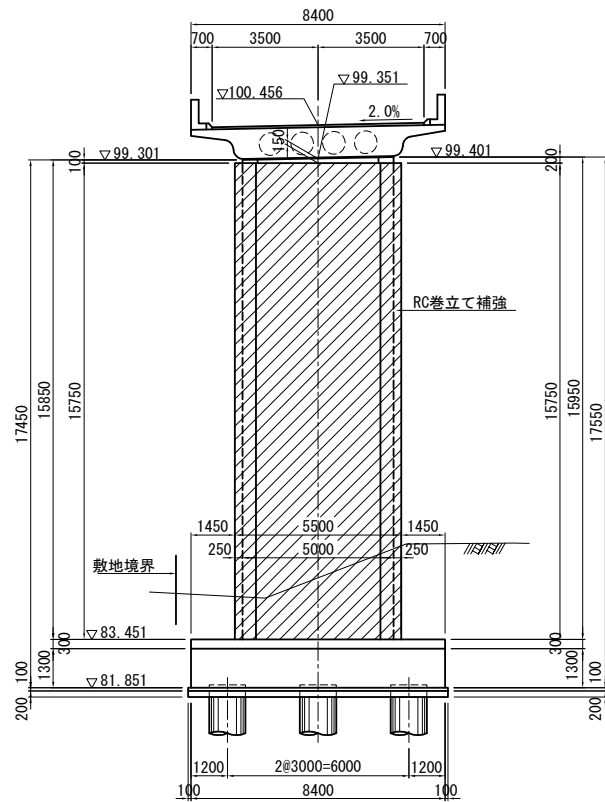
S=1:20



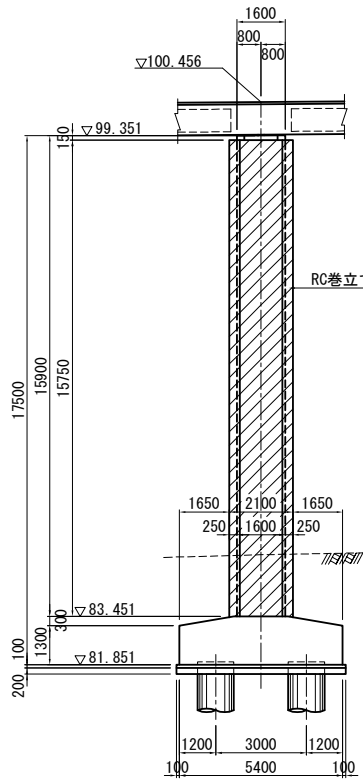
- 注記)
- コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 - 鉄筋は、SD345を使用する。
 - 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面は、全てWJによる表面処理を行う。
 - コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
 - フレア溶接部は干鳥配置とする。
 - 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
 - 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m²に配置すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚耐震補強詳細図(その2)		
	縮 尺	図 示	図面番号 25 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

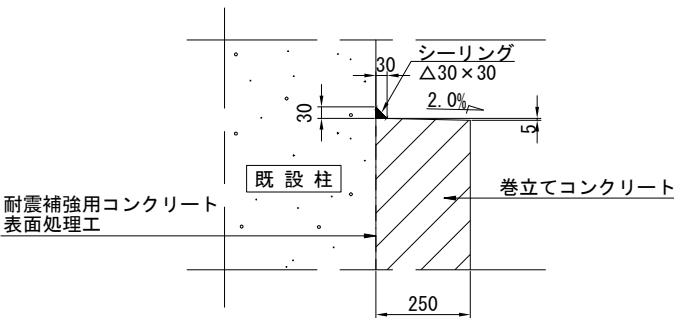
正面図 S=1:250



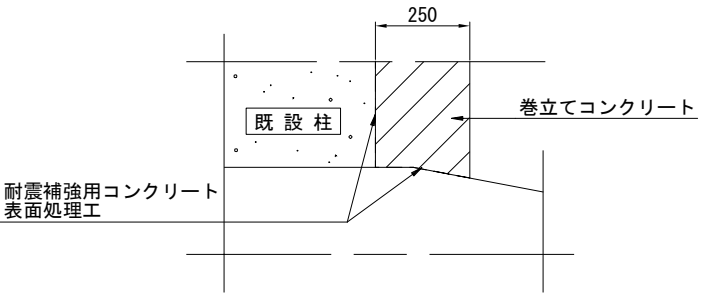
側面図 S=1:250



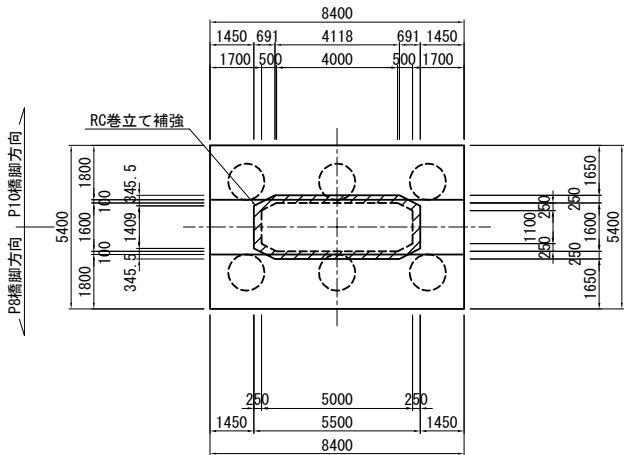
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20

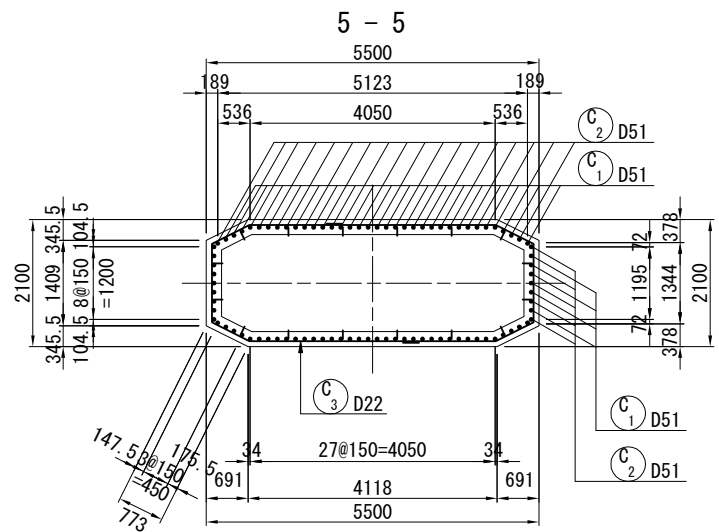
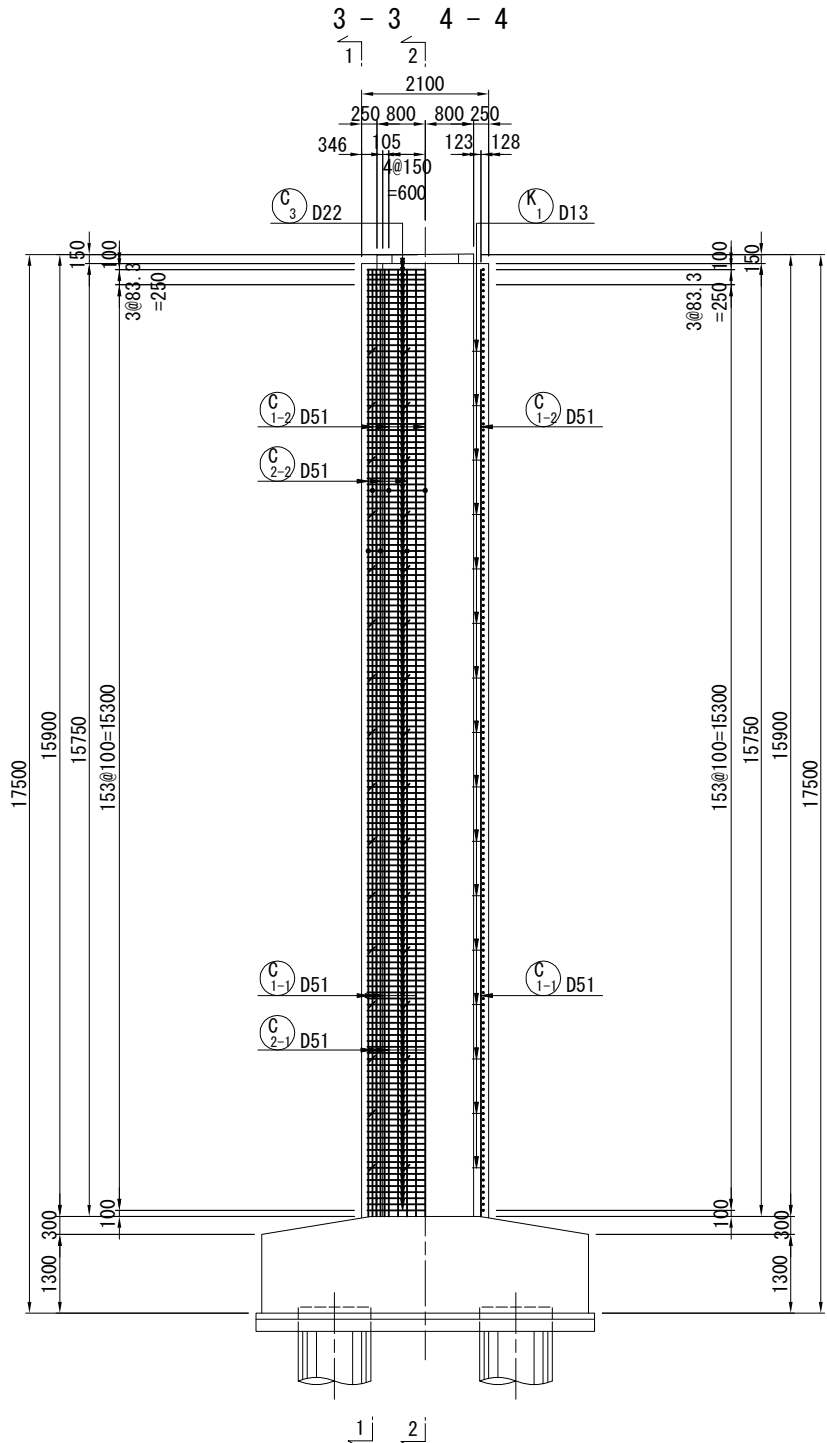
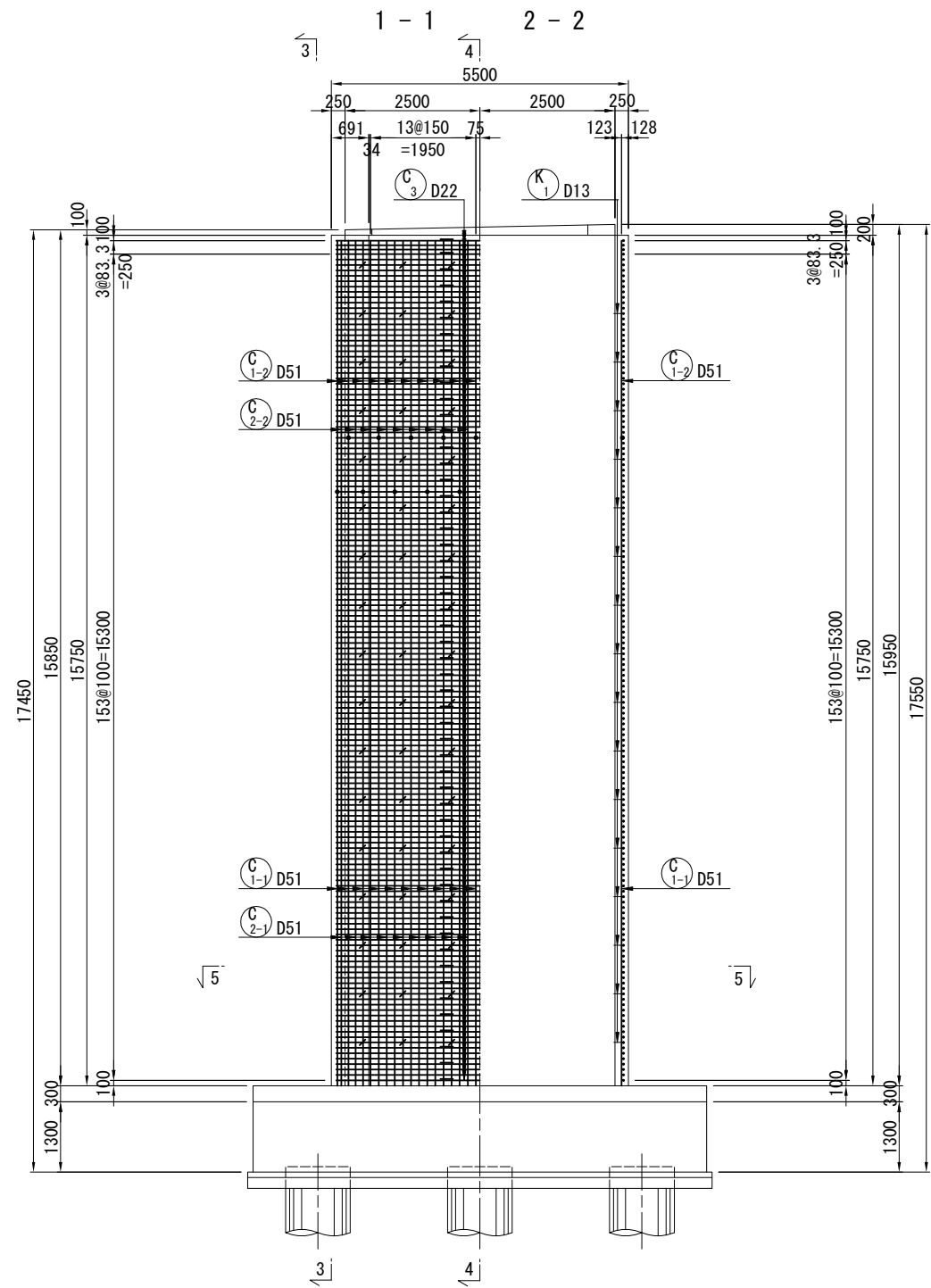


平面図 S=1:250



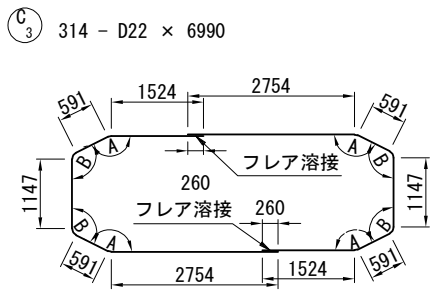
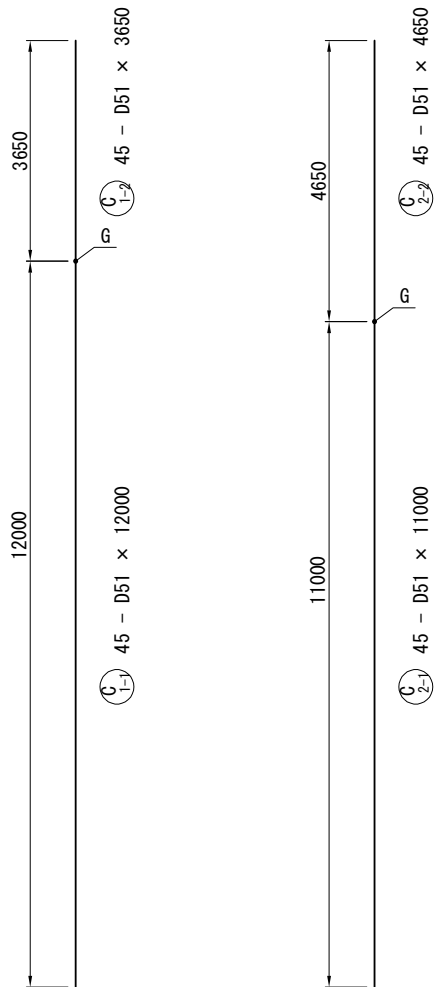
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易測量結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P9橋脚耐震補強構造一般図		
	縮 尺	図 示	図面番号 26 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

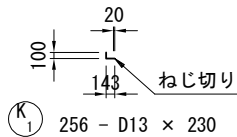


注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P9橋脚耐震補強詳細図(その1)		
	縮尺	図示	図面番号 27 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



	角度	曲げ半径	長さ
A	153° 26'	R=121	56
B	116° 34'	R=121	134



鉄筋表

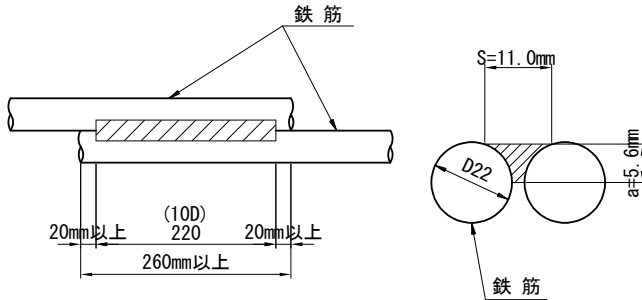
種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1 本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D51	12000	45	15. 9	191	8595	↑ (45)
C 1-2	D51	3650	45	15. 9	58. 0	2610	↓
C 2-1	D51	11000	45	15. 9	175	7875	↑ (45)
C 2-2	D51	4650	45	15. 9	73. 9	3326	↓
C 3	D22	6990	314	3. 04	21. 2	6657	└
SD345 小計						29063	kg
集 計 表							
				D51	22406	kg	(90)
				D22	6657	kg	
鉄筋T (SD345)				合計	29063	kg	(90)
フレア溶接の箇所数				D22 + D22	314	箇所	
ガス圧接の箇所数				D51 + D51	90	箇所	
K 1	D13	230	256	0. 995	0. 229	59	└
				D13	59	kg	

鉄筋加工寸法表

SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0 ϕ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5 ϕ	$\theta = 90^\circ$		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

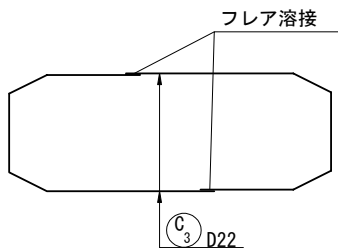
フレア溶接詳細図

S=1:10



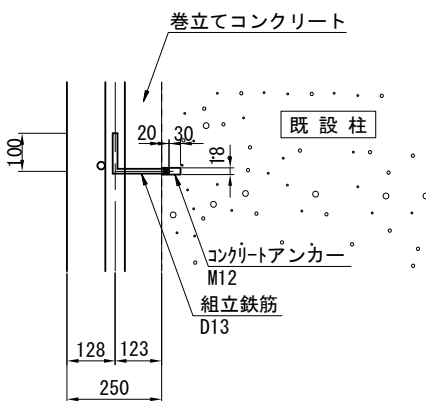
補強帯鉄筋組立図

S=1:20



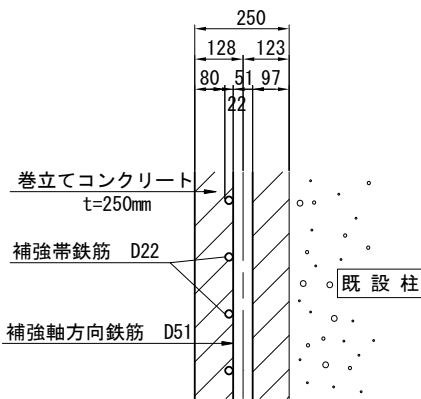
組立て筋詳細図(参考図)

S=1:20

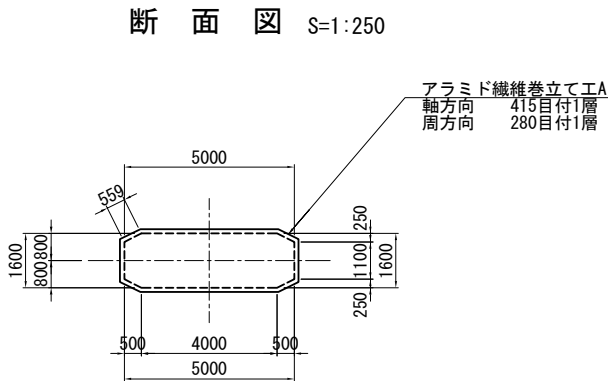
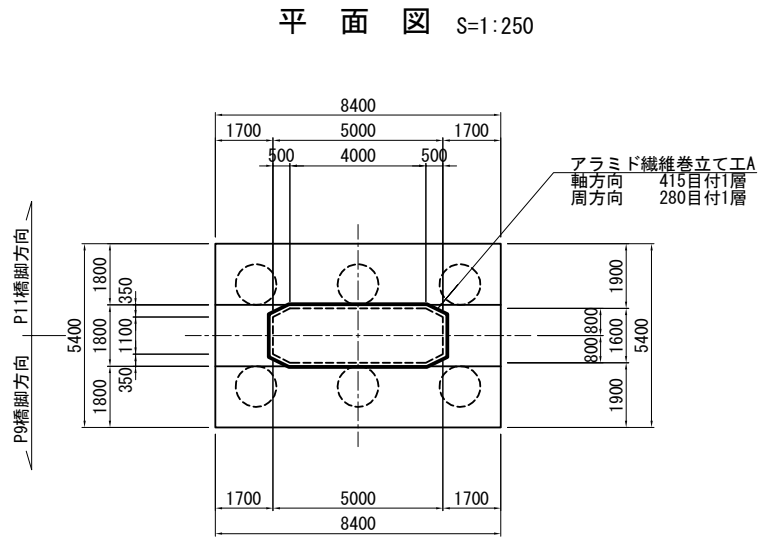
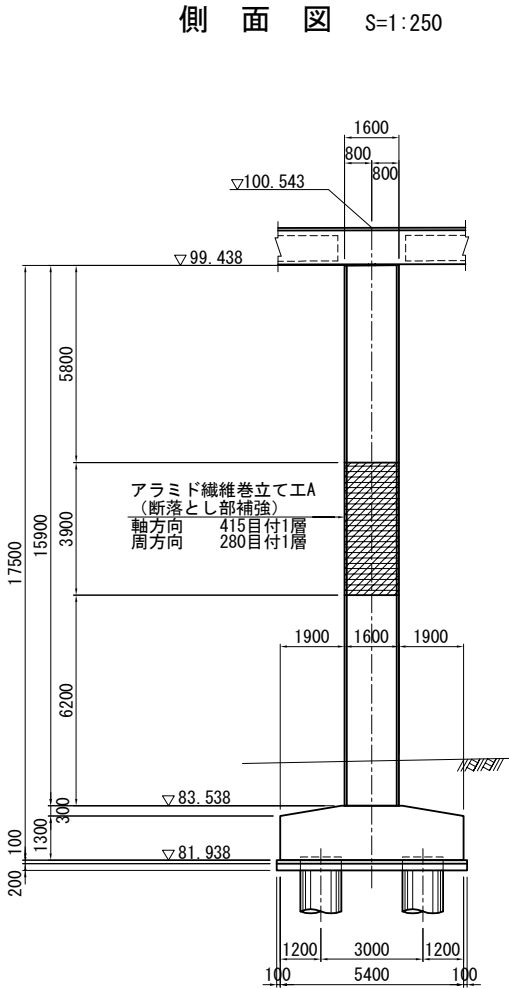
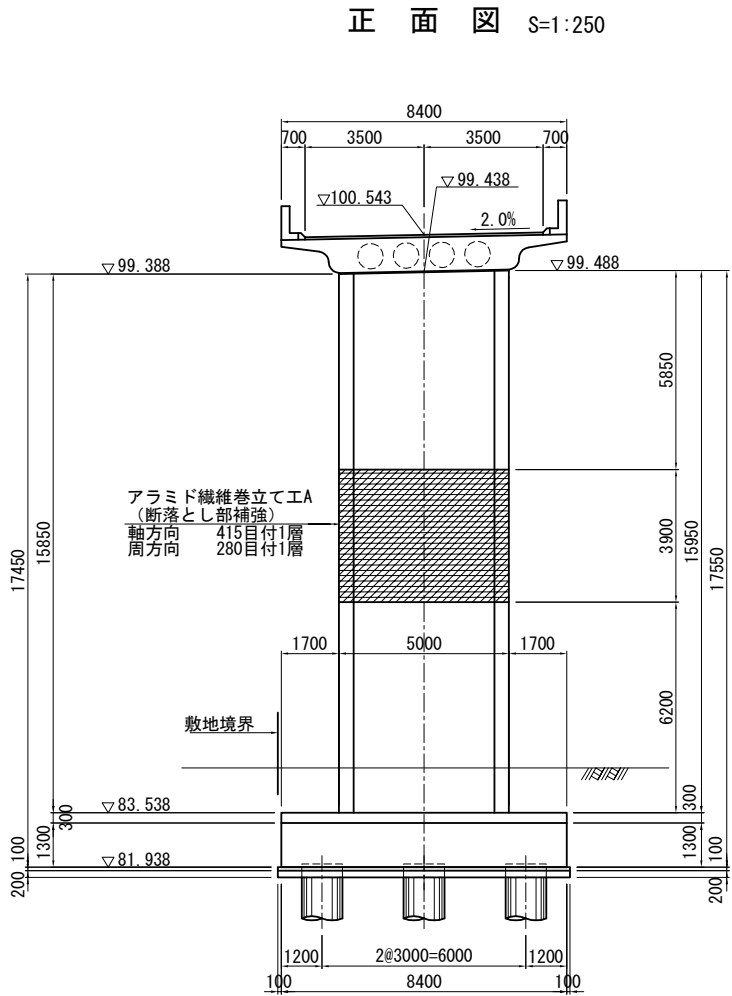


かぶり詳細図

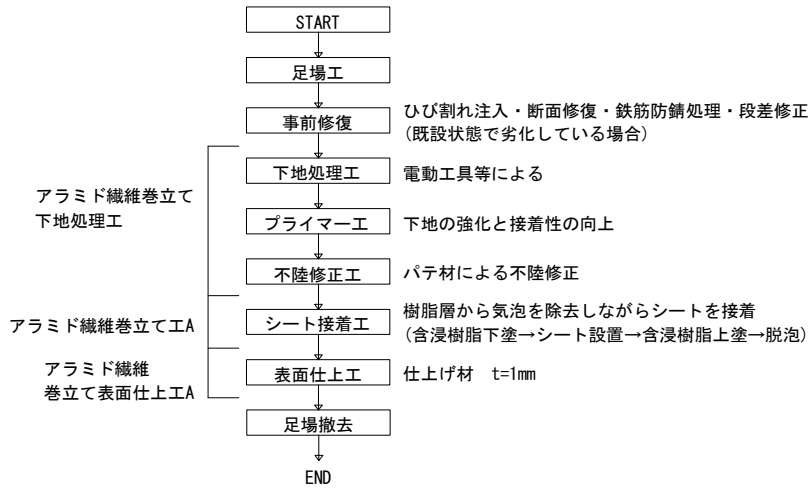
S=1:20



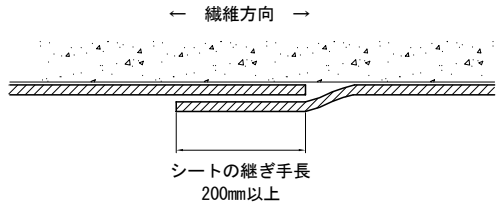
注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m2に配置すること。



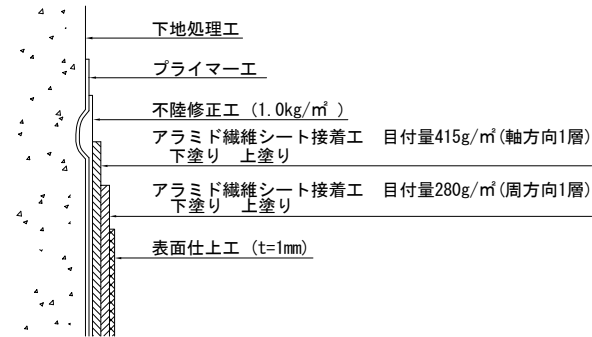
施工工程 (参考)



継ぎ手部



シート貼付け施工要領図



アラミド繊維シート性能表

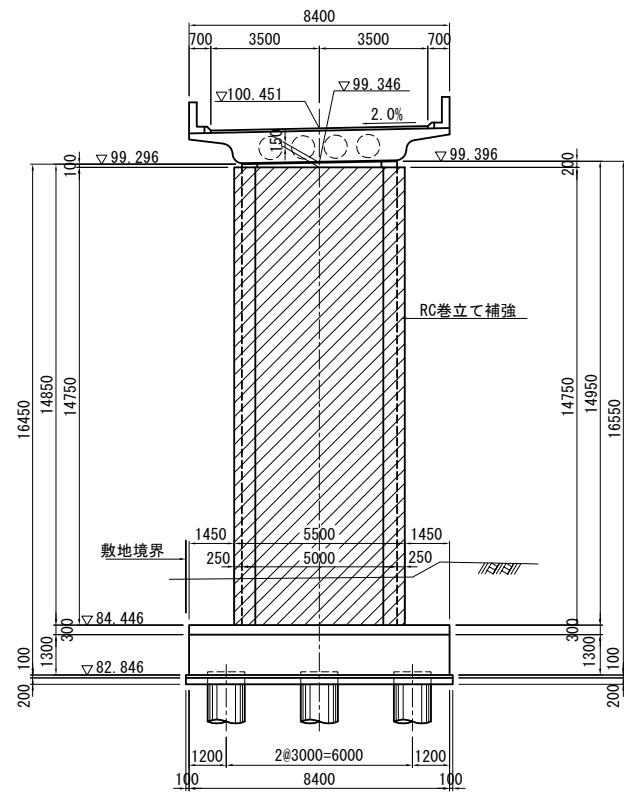
繊維目付 (g/m2)	引張強度 (N/mm2)	設計厚さ (mm/枚)
280	2,060	0.193
415	2,060	0.286

注 記)

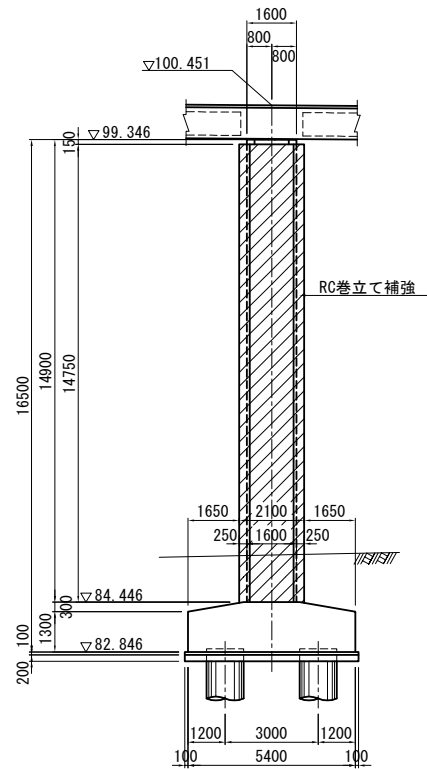
- 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法を確認した上、施工を行うこと。
- また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
- 不陸修正材（エポキシパテ）の使用量は、下地状況確認後決定する。
- エポキシ樹脂は、施工時の気温5℃以下・雨天等湿度85%以上の場合は、施工してはならない。施工時には、水気を嫌うので十分注意する。
- シートの施工順序は、軸方向の後に周方向を施工すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P10橋脚耐震補強詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	29 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

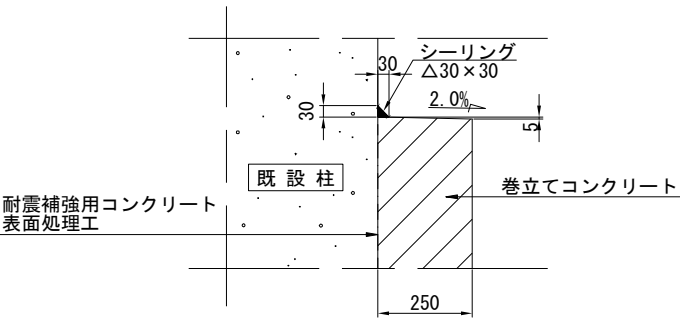
正面図 S=1:250



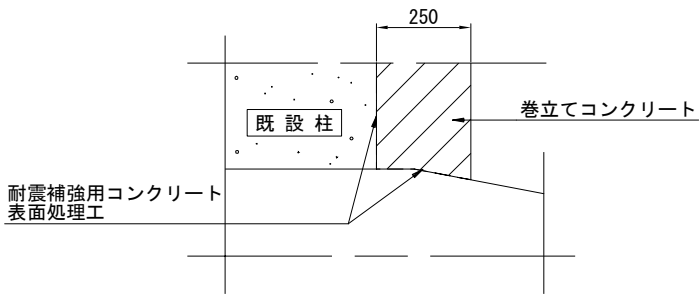
側面図 S=1:250



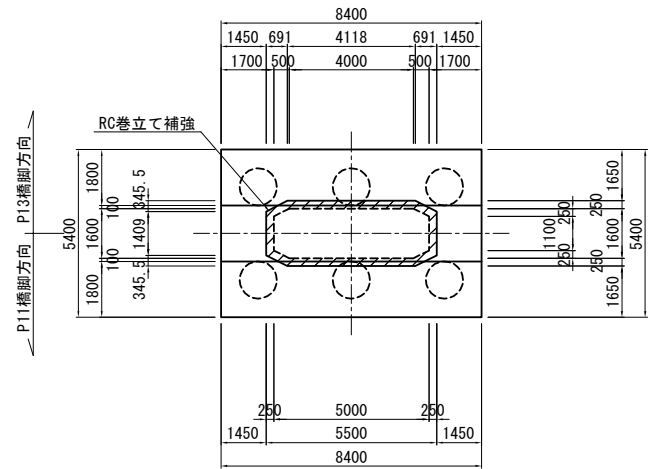
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20

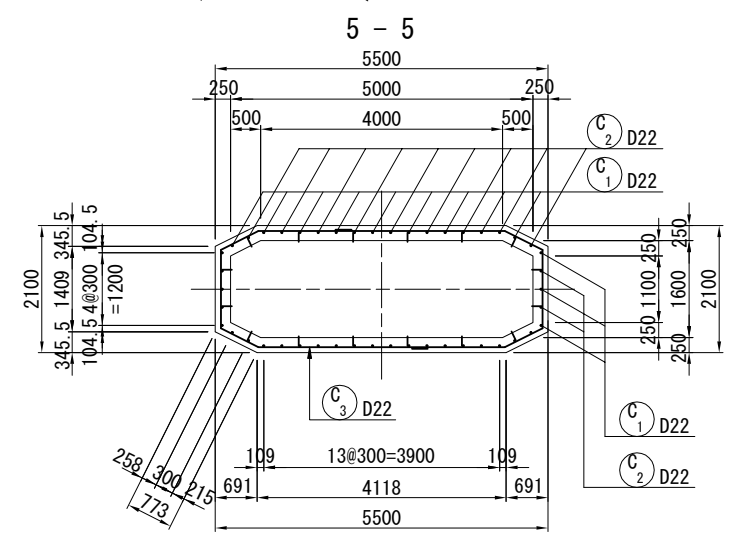
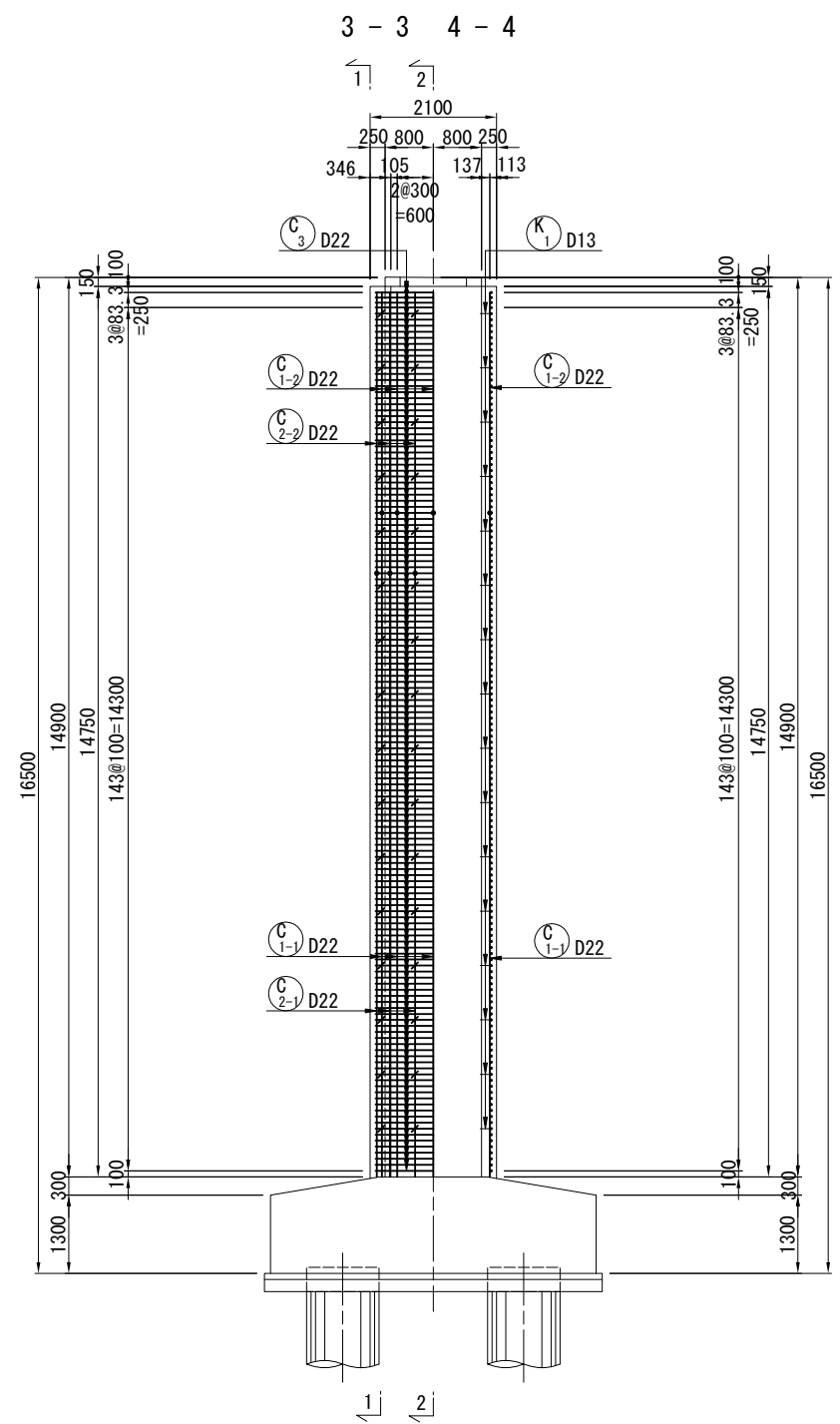
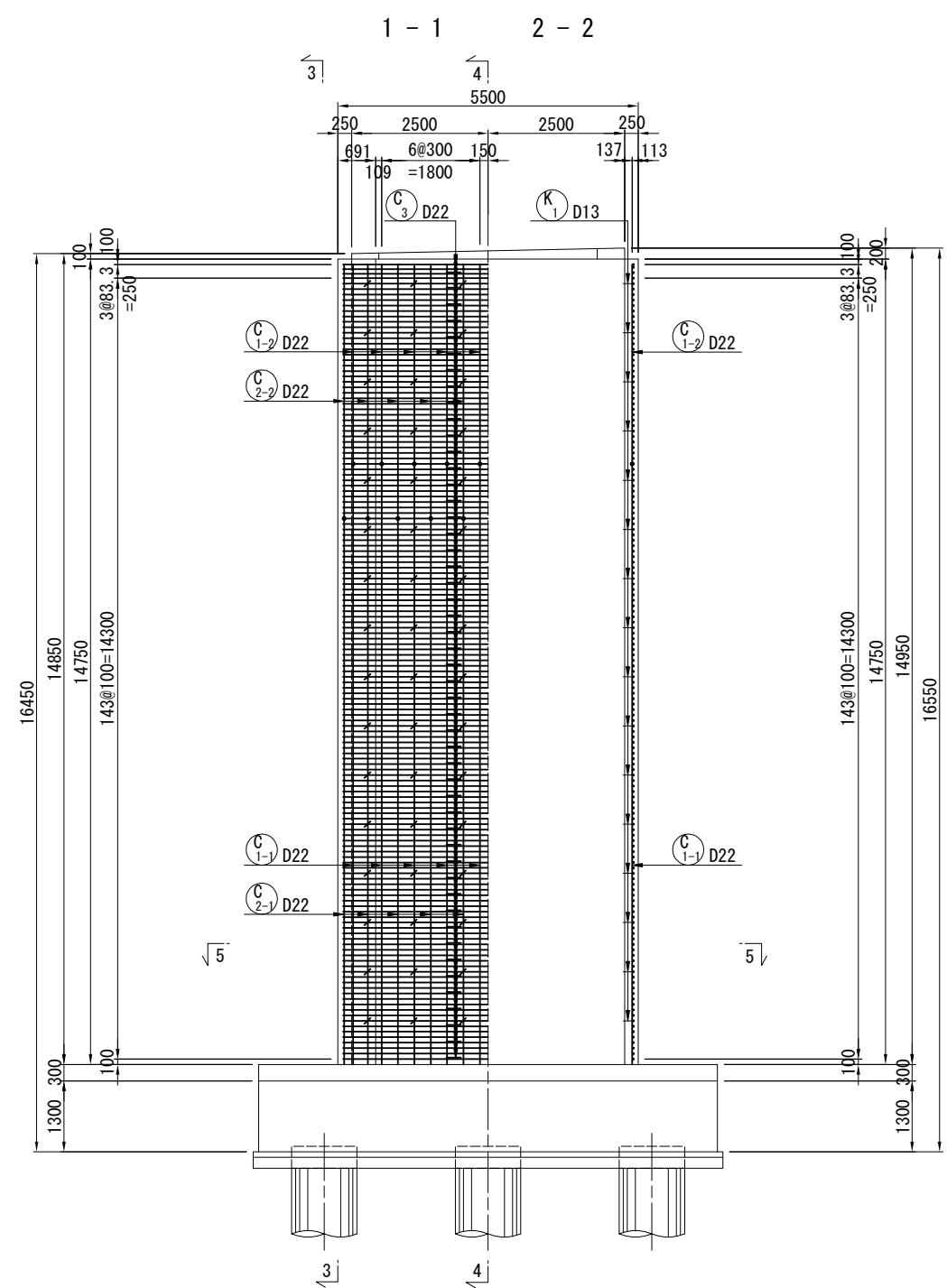


平面図 S=1:250



- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P12橋脚耐震補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	30 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

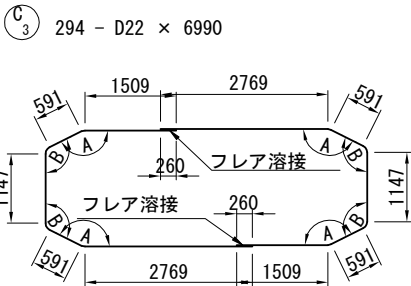
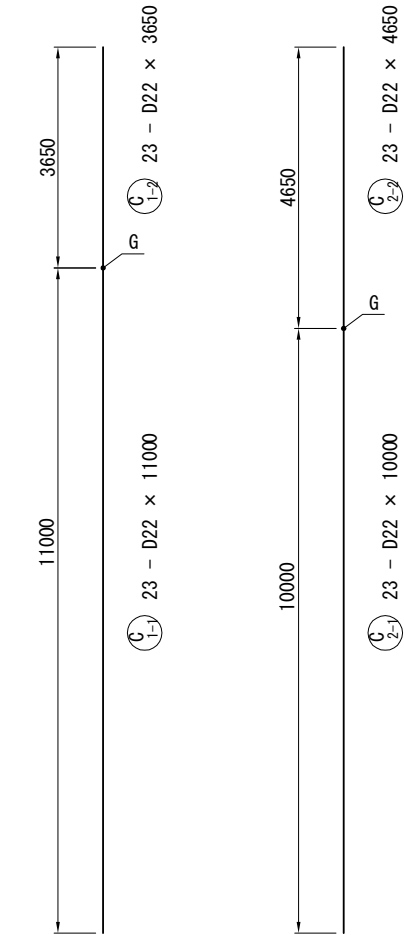
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P12橋脚耐震補強詳細図(その1)		
	縮尺	図示	図面番号 31 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

鉄筋表

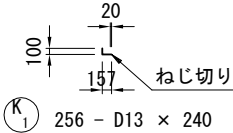
種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	11000	23	3.04	33.4	768	↑ (23)
C 1-2	D22	3650	23	3.04	11.1	255	↓
C 2-1	D22	10000	23	3.04	30.4	699	↑ (23)
C 2-2	D22	4650	23	3.04	14.1	324	↓
C 3	D22	6990	294	3.04	21.2	6233	└
SD345 小計						8279	kg
集 計 表							
D22					8279	kg	(46)
鉄筋T (SD345) 合計					8279	kg	(46)
フレア溶接の箇所数				D22 + D22	294	箇所	
ガス圧接の箇所数				D22 + D22	46	箇所	
K 1	D13	240	256	0.995	0.239	61	└
D13					61	kg	

鉄筋加工寸法表

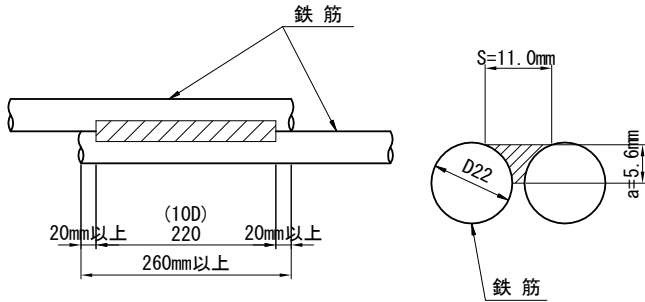
SD345					
径	θ ≤ 90° R=3.0φ	θ > 90° R=5.5φ	θ = 90°		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66



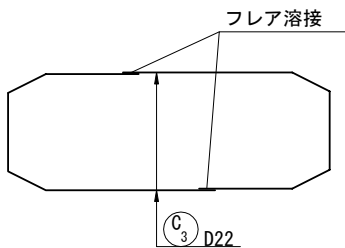
	角度	曲げ半径	長さ
A	153° 26'	R=121	56
B	116° 34'	R=121	134



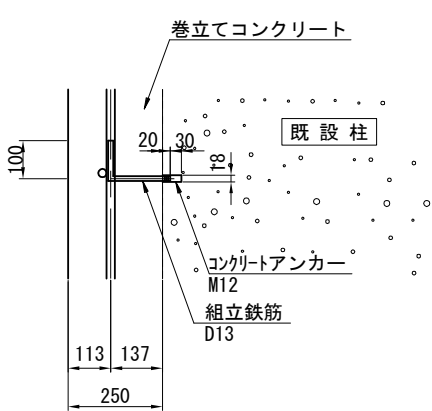
フレア溶接詳細図 S=1:10



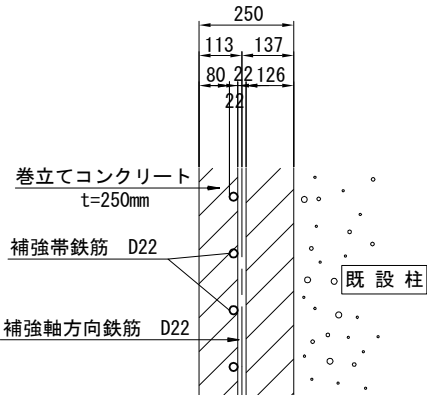
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



組立て筋詳細図(参考図) S=1:20



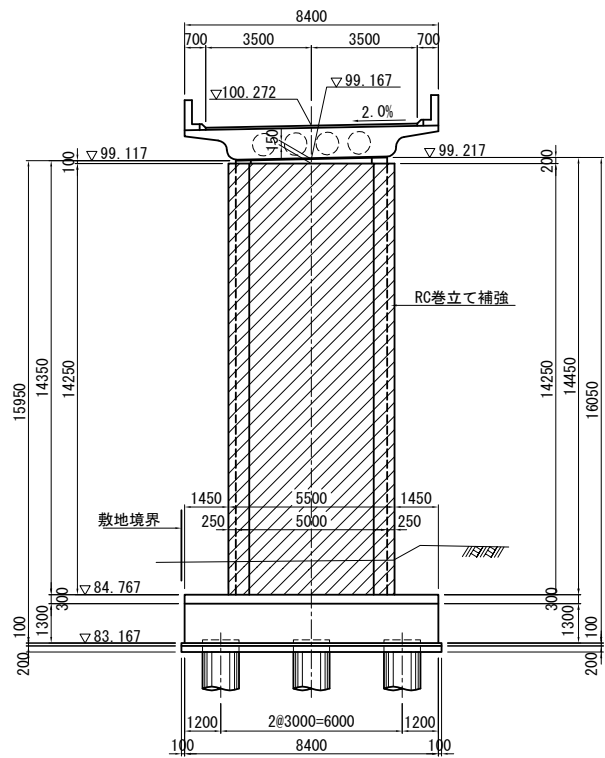
かぶり詳細図 S=1:20



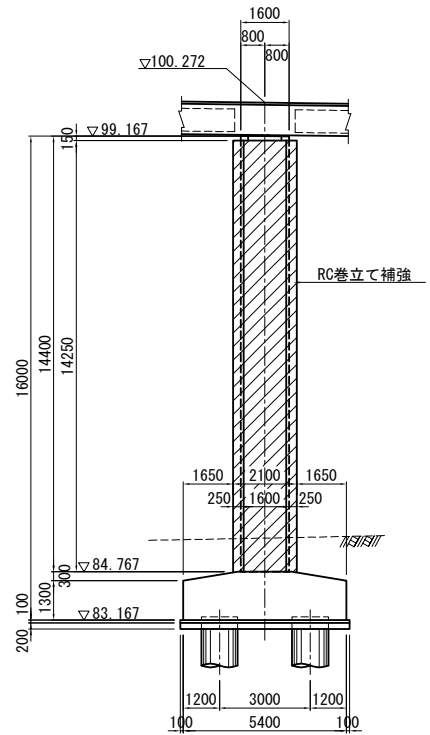
- 注記) 1. コンクリートの設計基準強度はσ_{ck}=30N/mm²を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m²に配置すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P12橋脚耐震補強詳細図(その2)		
	縮 尺	図 示	図面番号 32 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

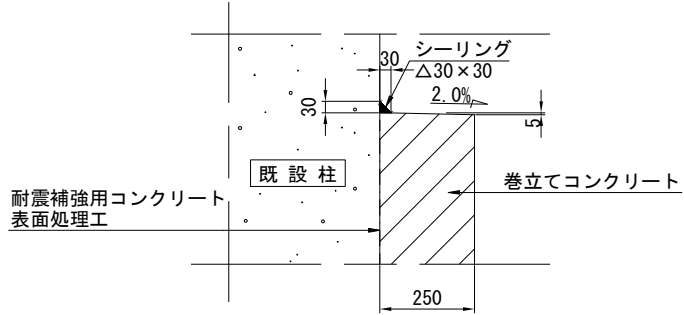
正面図 S=1:250



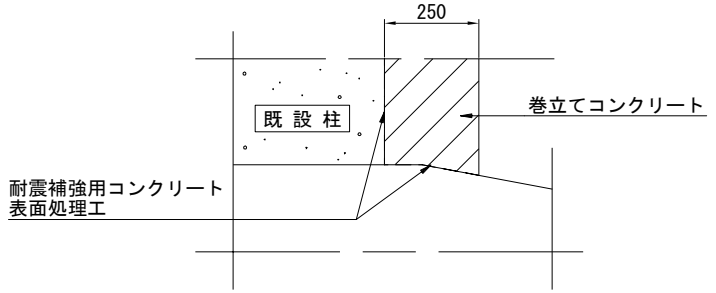
側面図 S=1:250



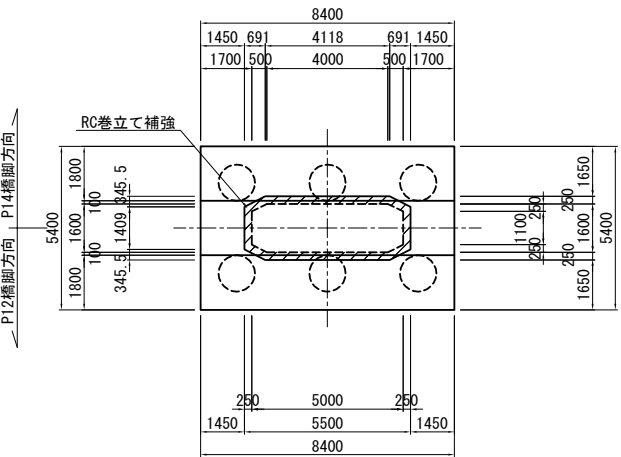
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20

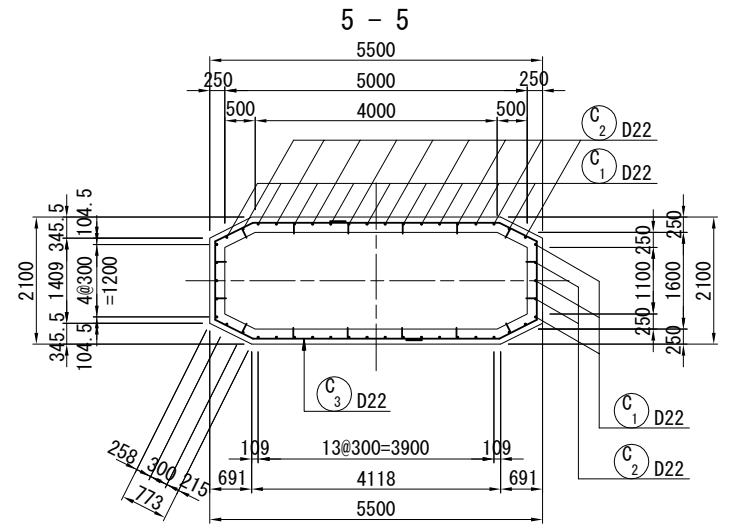
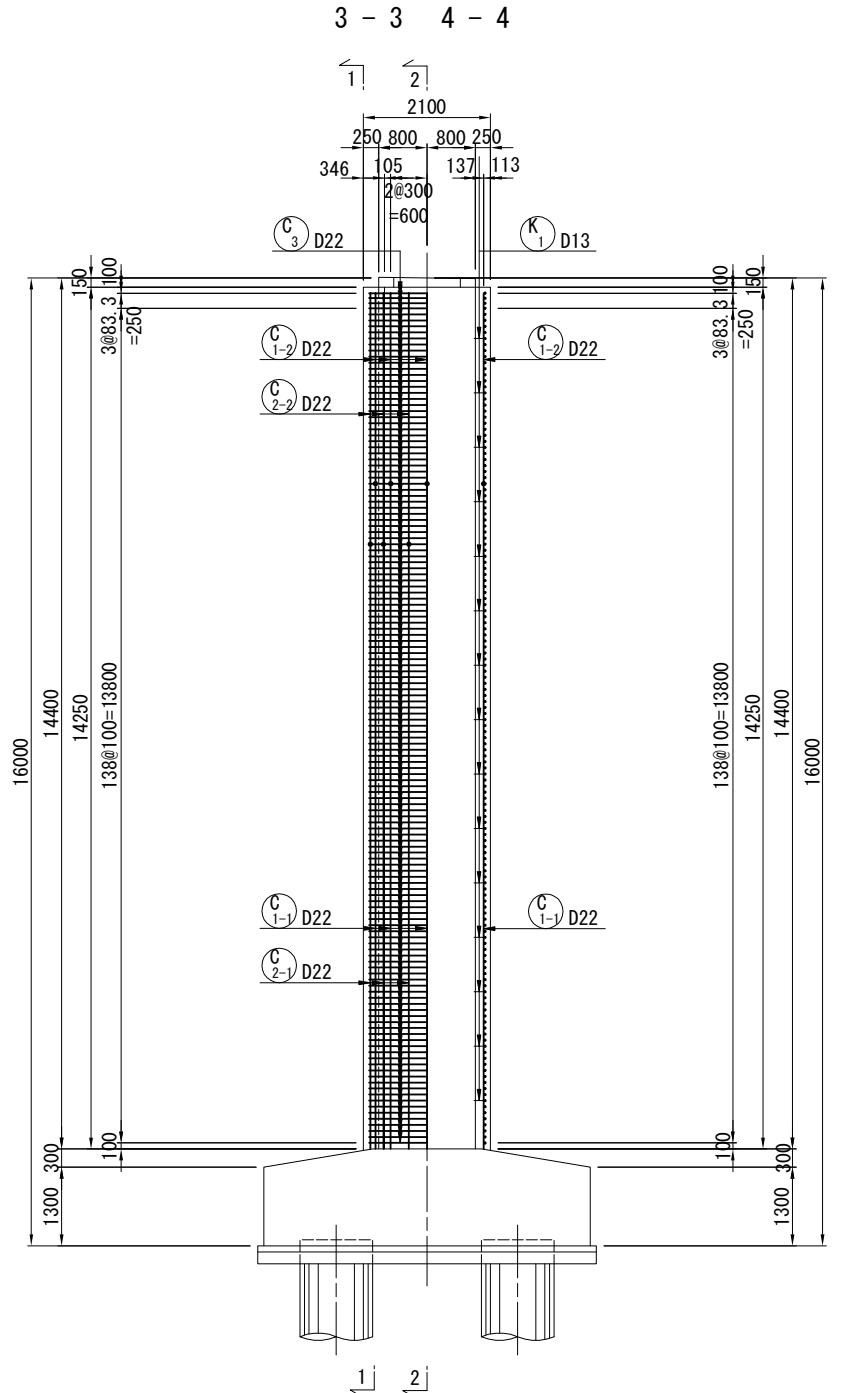
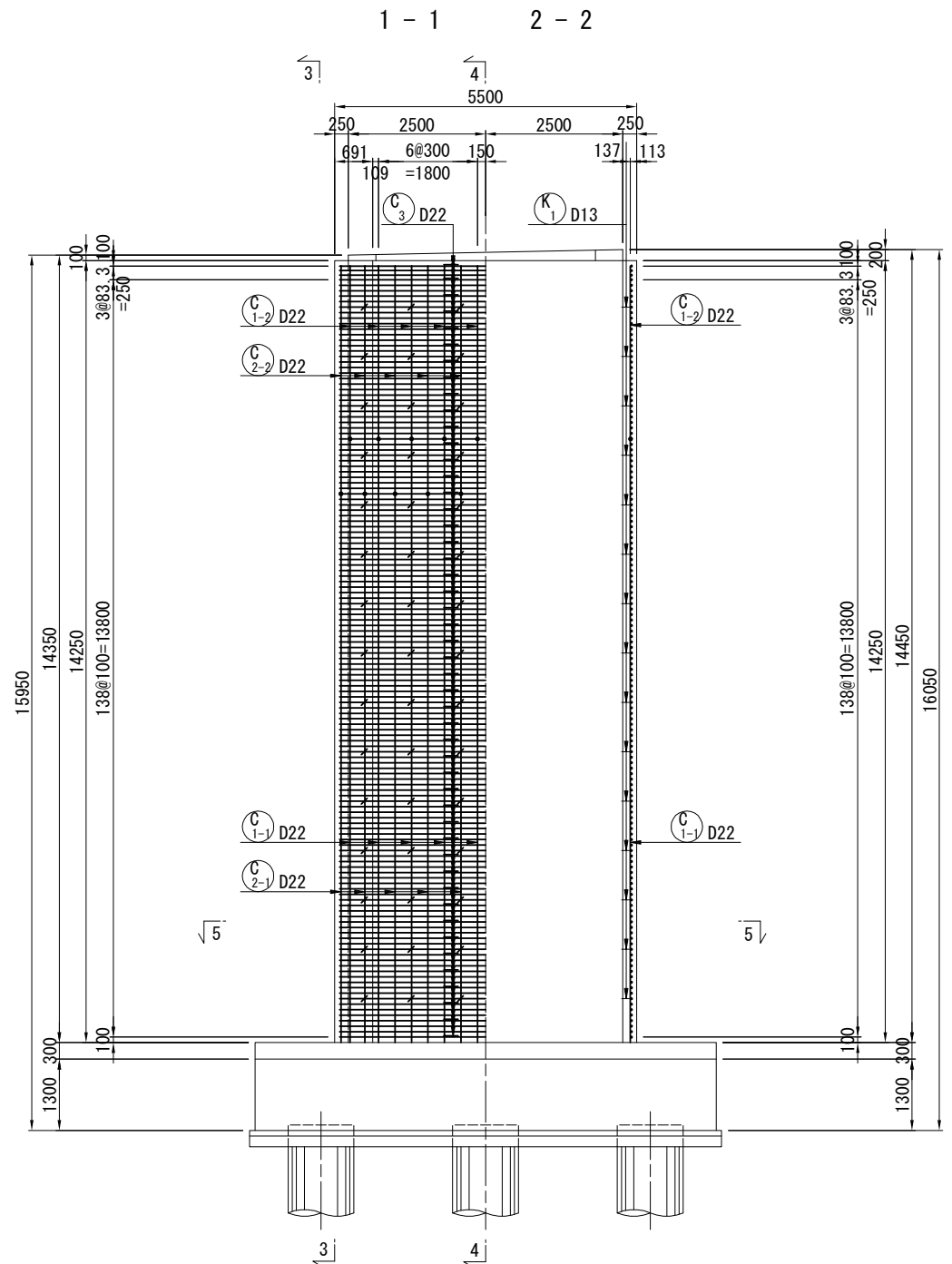


平面図 S=1:250



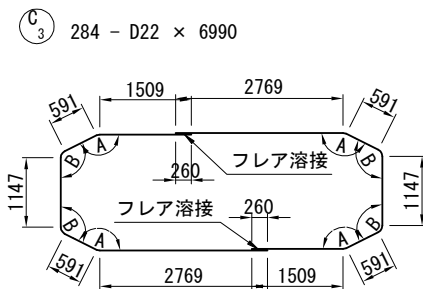
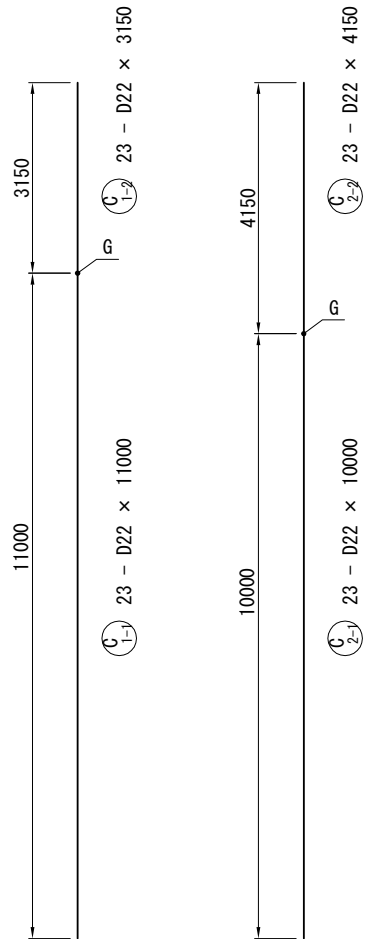
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚耐震補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	33 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

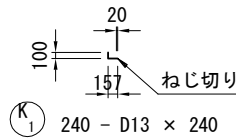


注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

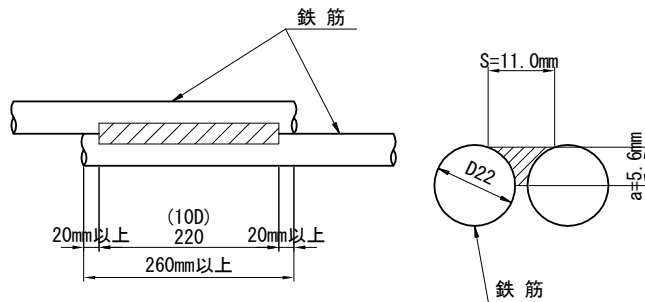
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚耐震補強詳細図(その1)		
	縮 尺	図 示	図面番号 34 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



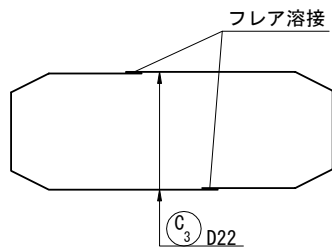
	角度	曲げ半径	長さ
A	153° 26'	R=121	56
B	116° 34'	R=121	134



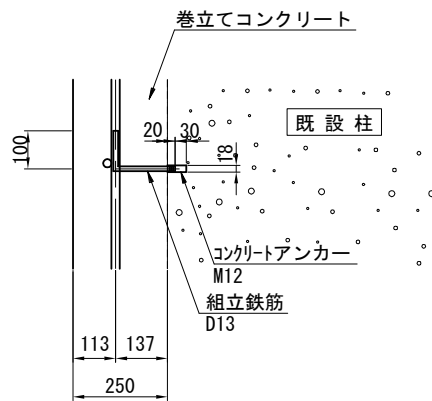
フレア溶接詳細図 S=1:10



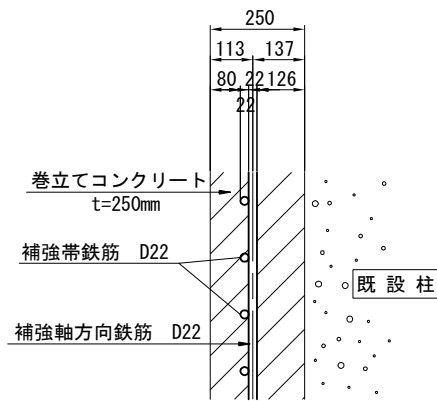
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



組立て筋詳細図(参考図) S=1:20



かぶり詳細図 S=1:20



鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	11000	23	3.04	33.4	768	↑ (23)
C 1-2	D22	3150	23	3.04	9.58	220	↓
C 2-1	D22	10000	23	3.04	30.4	699	↑ (23)
C 2-2	D22	4150	23	3.04	12.6	290	↓
C 3	D22	6990	284	3.04	21.2	6021	└
SD345 小計						7998 kg	
集 計 表							
D22						7998 kg	(46)
鉄筋T (SD345) 合計						7998 kg	(46)
フレア溶接の箇所数				D22 + D22	284	箇所	
ガス圧接の箇所数				D22 + D22	46	箇所	
K 1	D13	240	240	0.995	0.239	57	└
D13						57 kg	

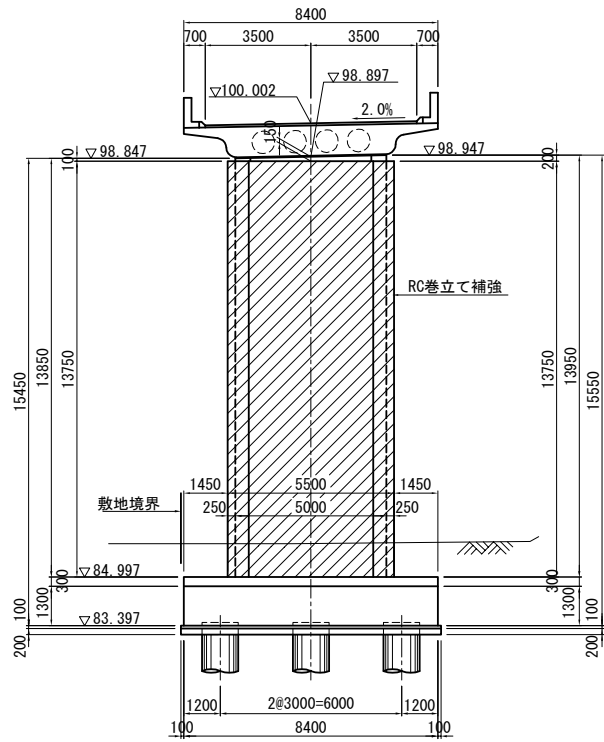
鉄筋加工寸法表

SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 90^\circ$		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

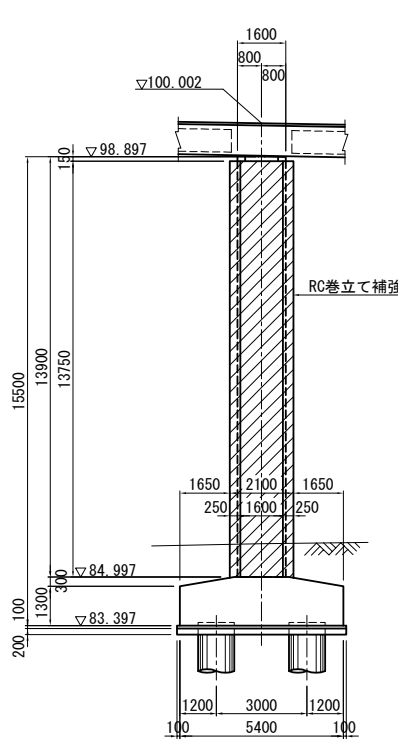
- 注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m2に配置すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚耐震補強詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	35 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

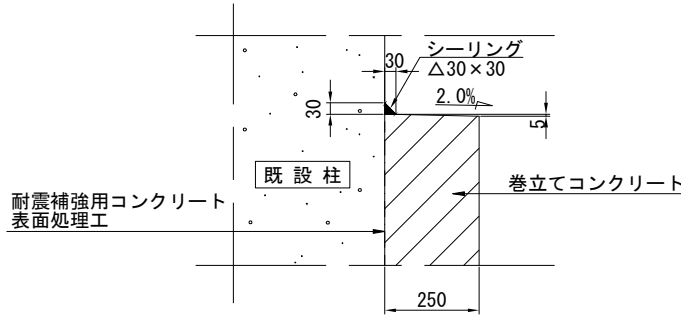
正面図 S=1:250



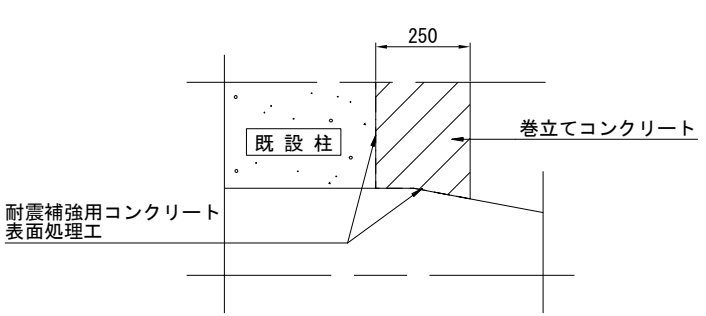
側面図 S=1:250



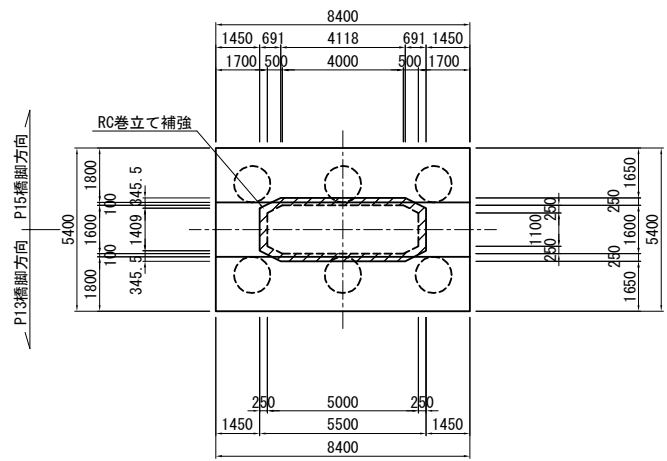
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20

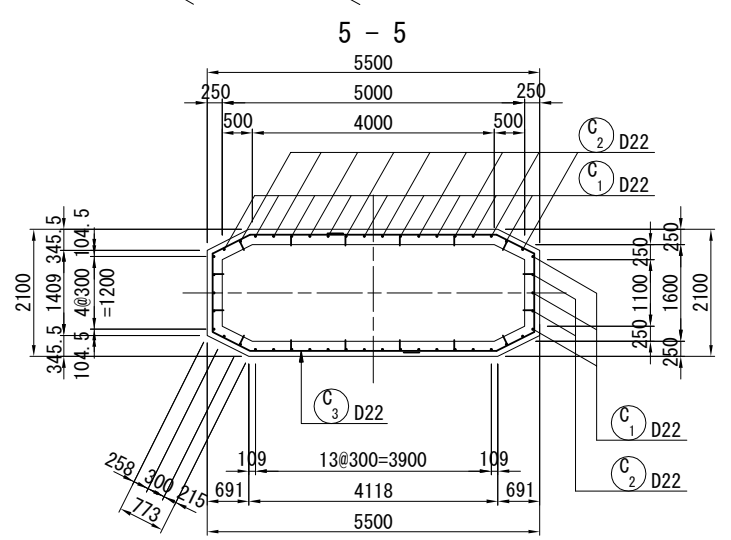
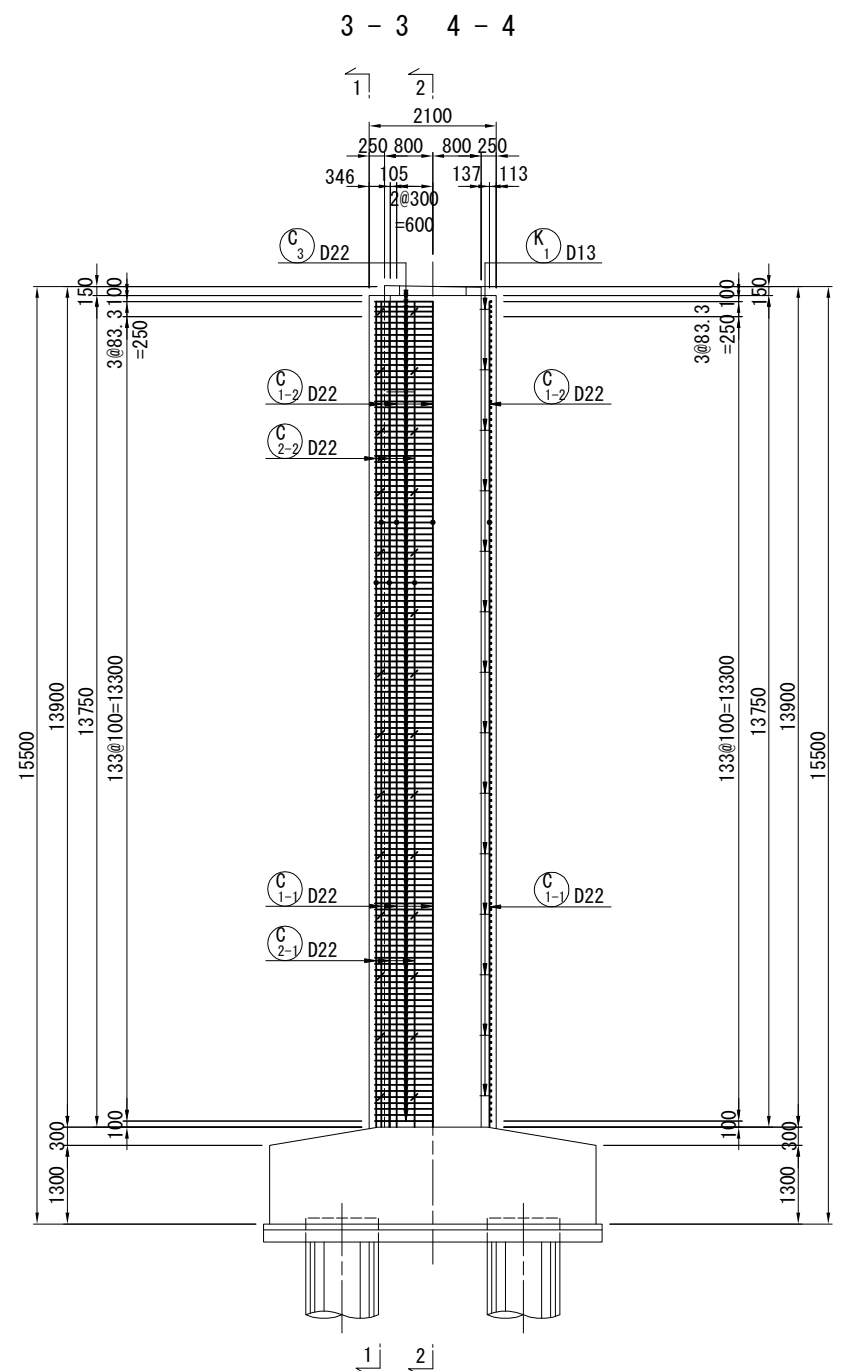
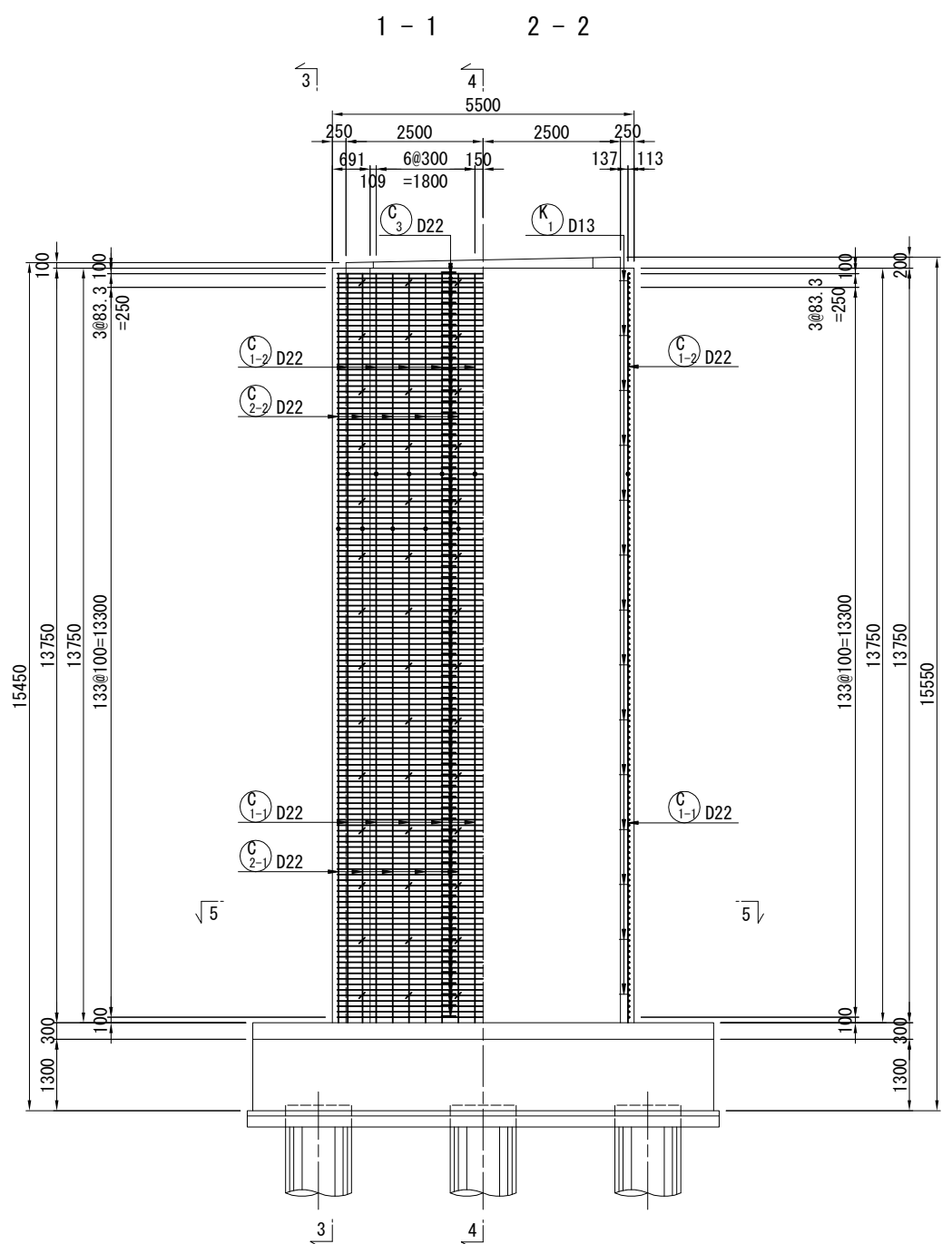


平面図 S=1:250



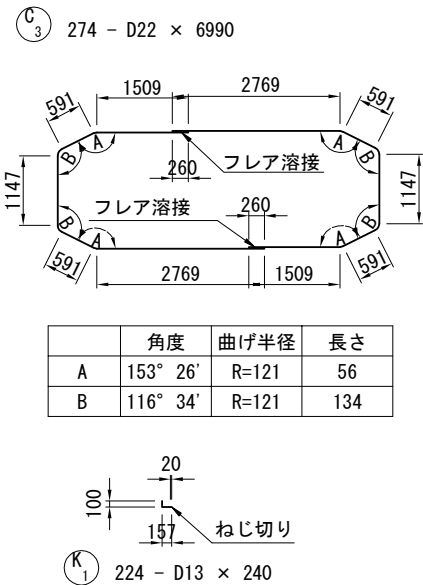
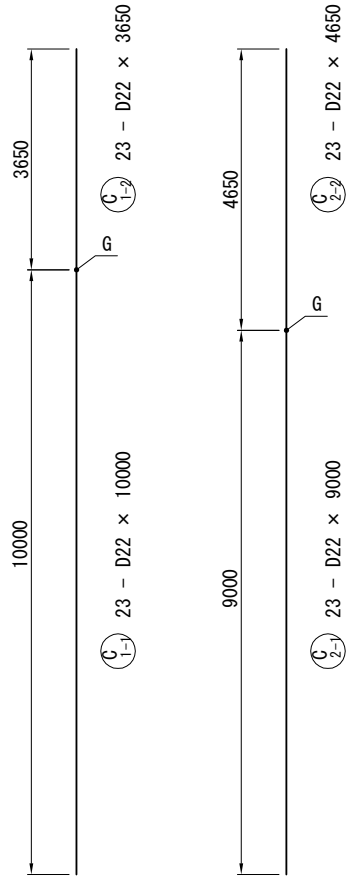
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P14橋脚耐震補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	36 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P14橋脚耐震補強詳細図(その1)		
	縮尺	図示	図面番号 37 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



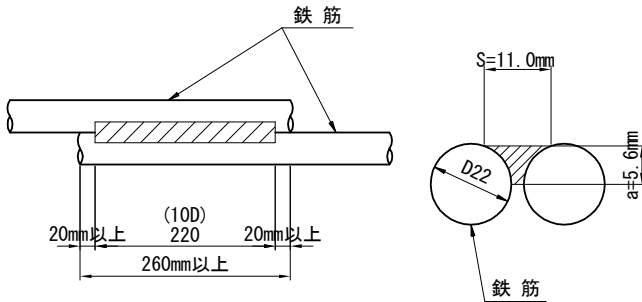
鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	10000	23	3.04	30.4	699	↑ (23)
C 1-2	D22	3650	23	3.04	11.1	255	┆
C 2-1	D22	9000	23	3.04	27.4	630	↑ (23)
C 2-2	D22	4650	23	3.04	14.1	324	┆
C 3	D22	6990	274	3.04	21.2	5809	┐
SD345 小計							7717 kg
集 計 表							
D22					7717 kg	(46)	
鉄筋T (SD345) 合計					7717 kg	(46)	
フレア溶接の箇所数				D22 + D22	274	箇所	
ガス圧接の箇所数				D22 + D22	46	箇所	
K 1	D13	240	224	0.995	0.239	54	└
D13					54 kg		

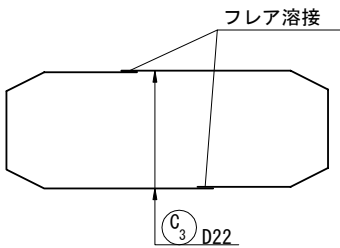
鉄筋加工寸法表

曲げ加工 〈直角フック〉					
SD345					
径	θ ≤ 90° R=3.0φ	θ > 90° R=5.5φ	θ = 90°		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

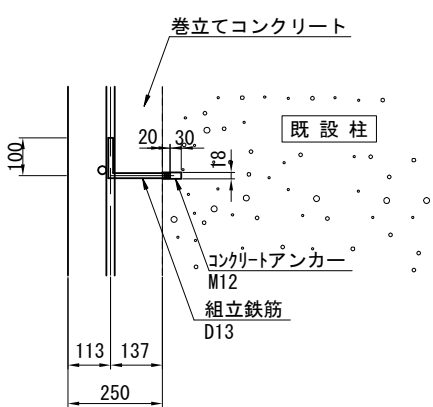
フレア溶接詳細図 S=1:10



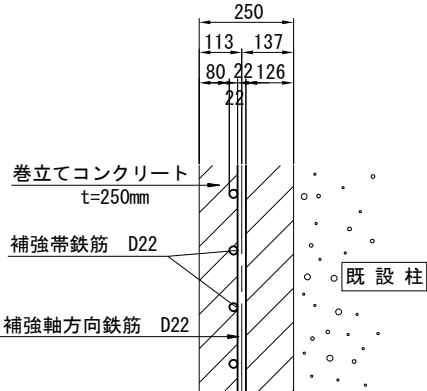
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



組立て筋詳細図(参考図) S=1:20

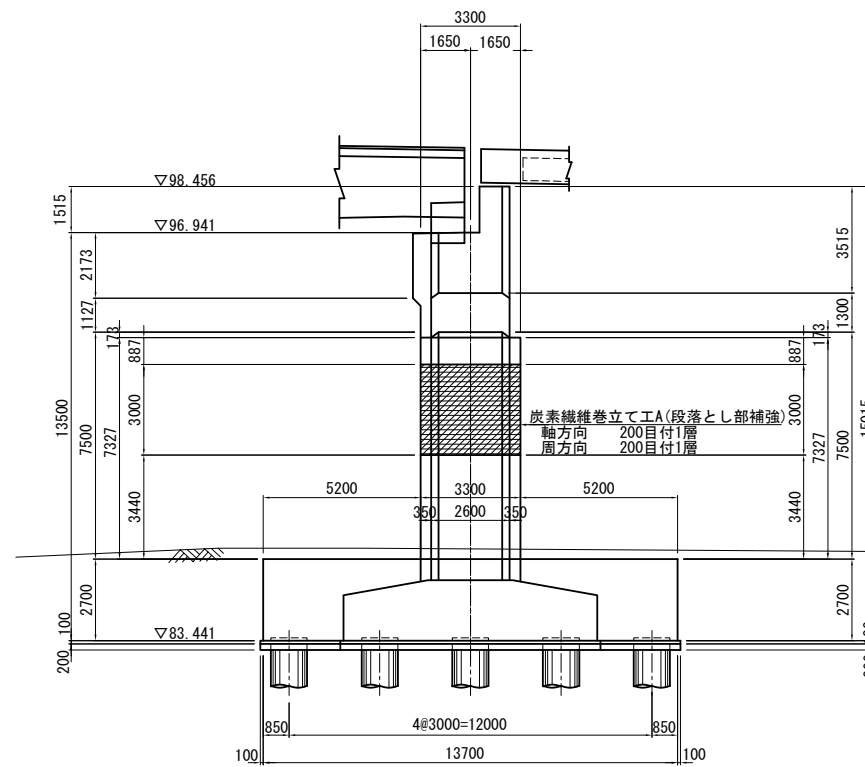


かぶり詳細図 S=1:20



注記) 1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m2に配置すること。

側 面 図



```

graph TD
    START([START]) --> A1[足場工]
    A1 --> A2[事前修復]
    A2 --> A3[下地処理工]
    A3 --> A4[プライマー工]
    A4 --> A5[不陸修正工]
    A5 --> A6[シート接着工]
    A6 --> A7[表面仕上工]
    A7 --> A8[足場撤去]
    A8 --> END([END])
  
```

ひび割れ注入・断面修復・鉄筋防錆処理・段差修正
(既設状態で劣化している場合)

電動工具等による

炭素繊維巻立て
下地処理工

下地の強化と接着性の向上

パテ材による不陸修正

炭素繊維巻立て工A

樹脂層から気泡を除去しながらシートを接着
(含浸樹脂下塗→シート設置→含浸樹脂上塗→脱泡)

炭素繊維
巻立て表面仕上工A

仕上げ材 t=1mm

Figure 1 is a schematic diagram showing the fiber direction (繊維方向) and the length of the sheet overlap (シートの継ぎ手長). The diagram illustrates a cross-section of a material with fibers (represented by small dots) and a sheet overlap (represented by a shaded area). The fiber direction is indicated by a double-headed arrow at the top. The sheet overlap is shown as a rectangular area with a diagonal line, and its length is labeled as 'シートの継ぎ手長'.

Figure 1: Plan view of the specimen. The diagram shows a rectangular specimen with a central core. Dimensions are provided in millimeters. The overall width is 15000 mm, divided into three sections of 3400, 8200, and 3400 mm. The overall height is 13700 mm, divided into three sections of 5200, 3300, and 5200 mm. The central core has a width of 6665 mm and a height of 3300 mm. The specimen is reinforced with carbon fiber fabric (炭素繊維巻立て工A) in the core area, with 200 mm spacing in both axial and circumferential directions. The specimen is labeled P14 for the test direction and P16 for the footing direction.

地下処理工

プライマー工

不陸修正工 (1.0kg/m²)

含浸樹脂下塗り

炭素繊維シート (目付量200g/m²)

含浸樹脂上塗り

含浸樹脂下塗り

炭素繊維シート (目付量200g/m²)

含浸樹脂上塗り

表面仕上げ工 (t=1mm)

1層目(軸方向)

2層目(周方向)

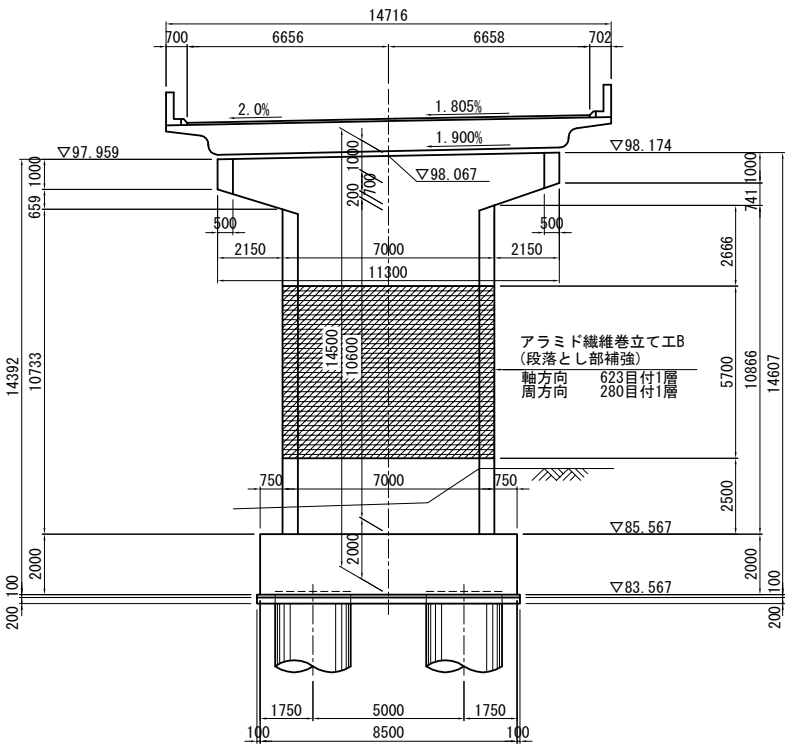
Technical drawing of a rectangular frame with dimensions and labels. The drawing shows a rectangular frame with a central dashed line. The overall width is 8200 and the overall height is 3300. The inner width is 6665 and the inner height is 2533.5. The frame has a thickness of 830. The labels indicate the frame is made of carbon fiber fabric (炭素繊維巻立て工A) and consists of 200 layers in both the axial and circumferential directions (軸方向 200目付1層, 周方向 200目付1層).

繊維目付 (g/m ²)	引張強度 (N/mm ²)	設計厚さ (mm/枚)
200	3,400	0.111

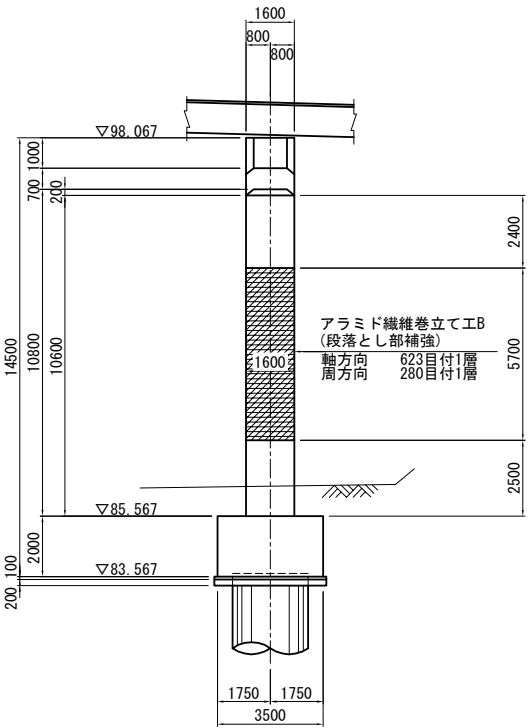
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地で寸法を確認した上、施工を行うこと。
また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
2. 不陸修正材（エポキシパテ）の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. エポキシ樹脂は、施工時の気温5℃以下・雨天等湿度85%以上の場合は、施工してはならない。施工時には、水気を嫌うので十分注意する。
4. シートの施工順序は、軸方向の後に周方向を施工すること。

横浜須賀買道路 金井谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金井谷JCT第一橋 P15橋脚耐震補強詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	39 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

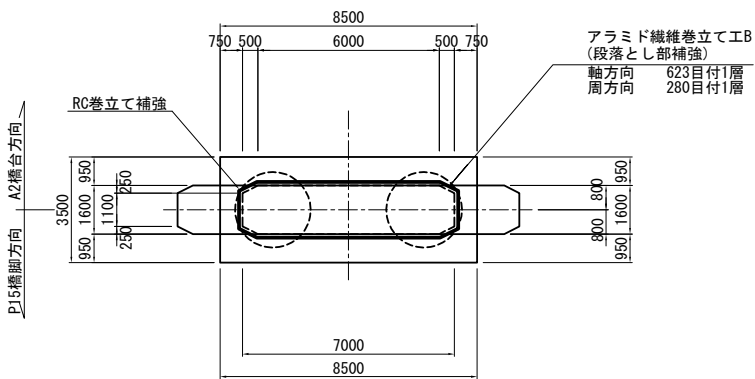
正面図



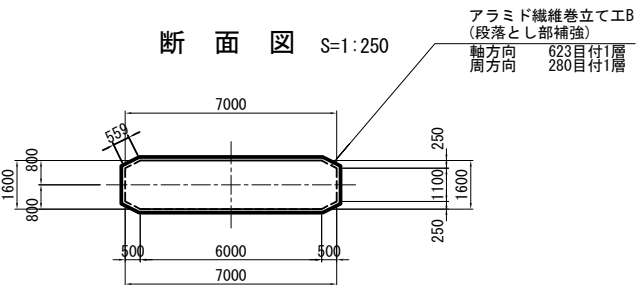
側面図



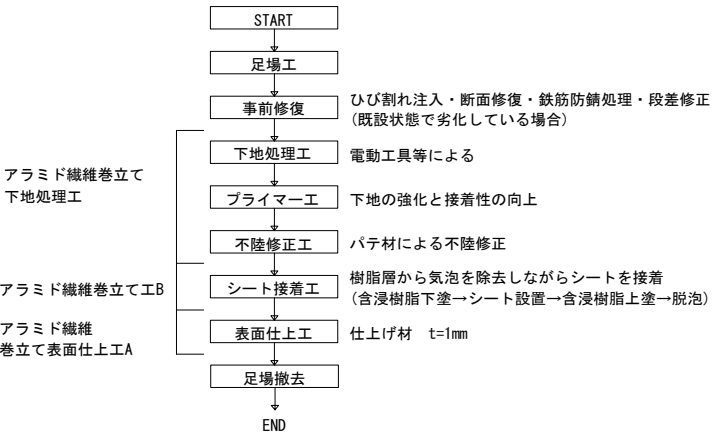
平面図



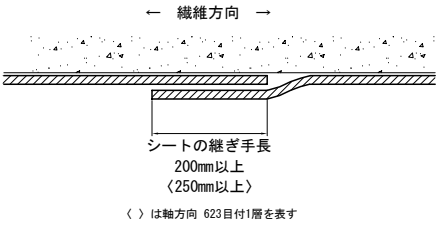
断面図 S=1:250



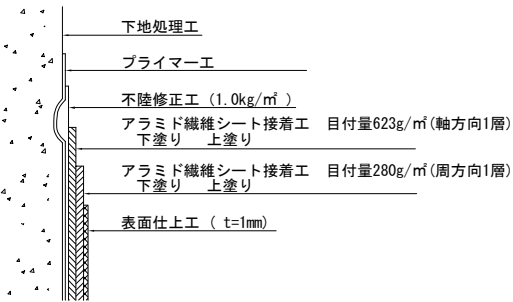
施工工程(参考)



継ぎ手部



シート貼付け施工要領図



アラミド繊維シート性能表

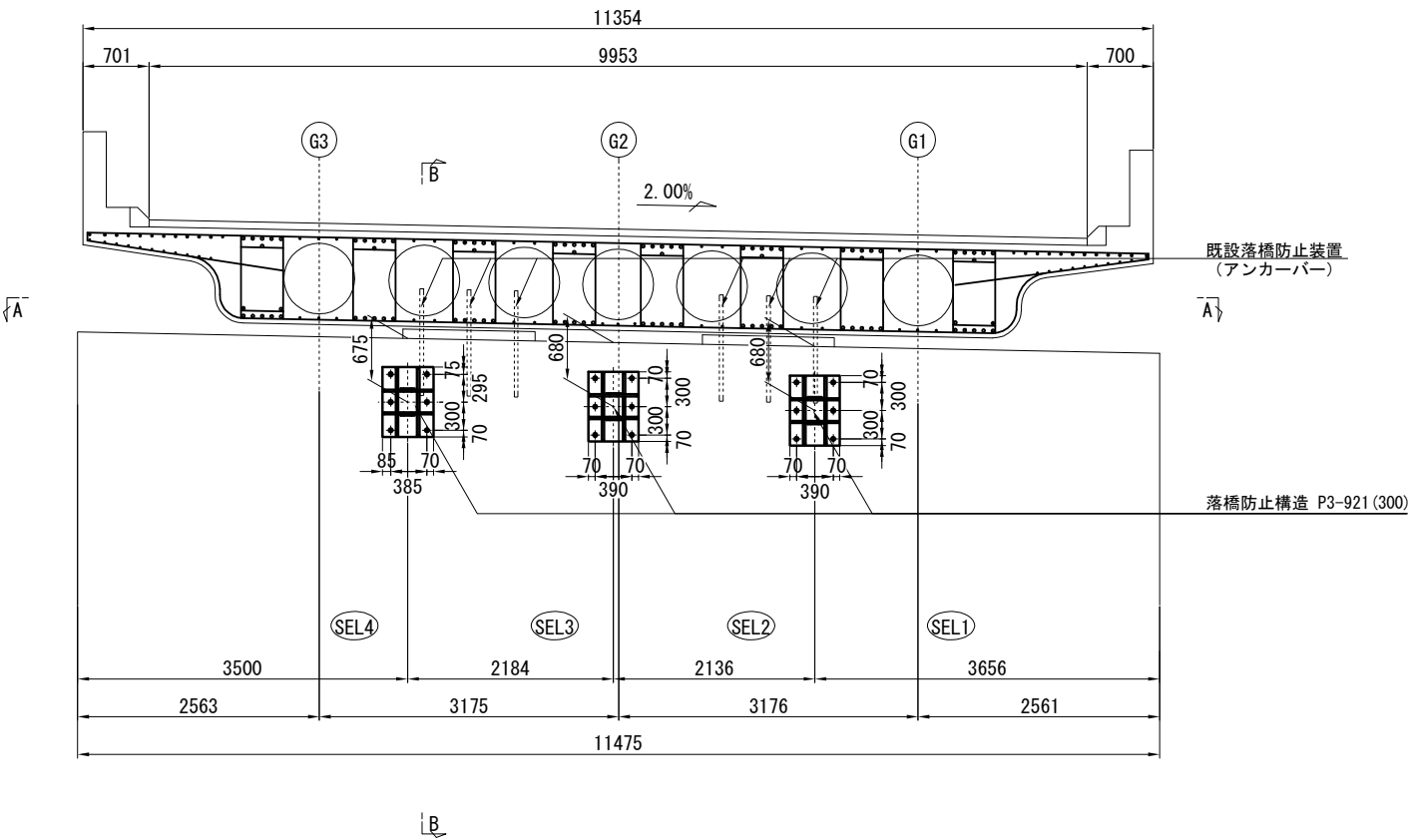
繊維目付 (g/㎡)	引張強度 (N/㎡)	設計厚さ (mm/枚)
280	2.060	0.193
623	2.060	0.430

注 記

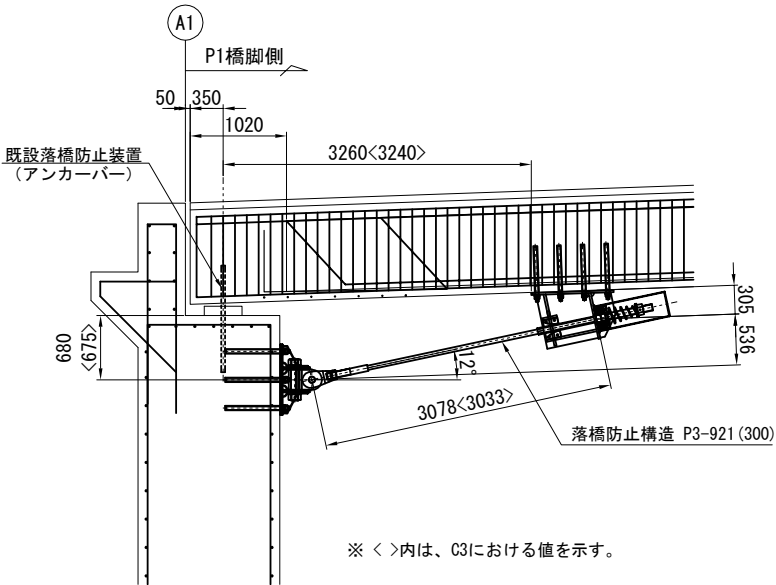
- 施工にあたっては既設構造物の現地計測を行い、本図との相違について確認すること。
また、必要に応じて適宜変更を行うこと。
- 施工の際、既設構造物に損傷・変状が確認された場合は、協議の上適宜補修を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P16橋脚耐震補強詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	40 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

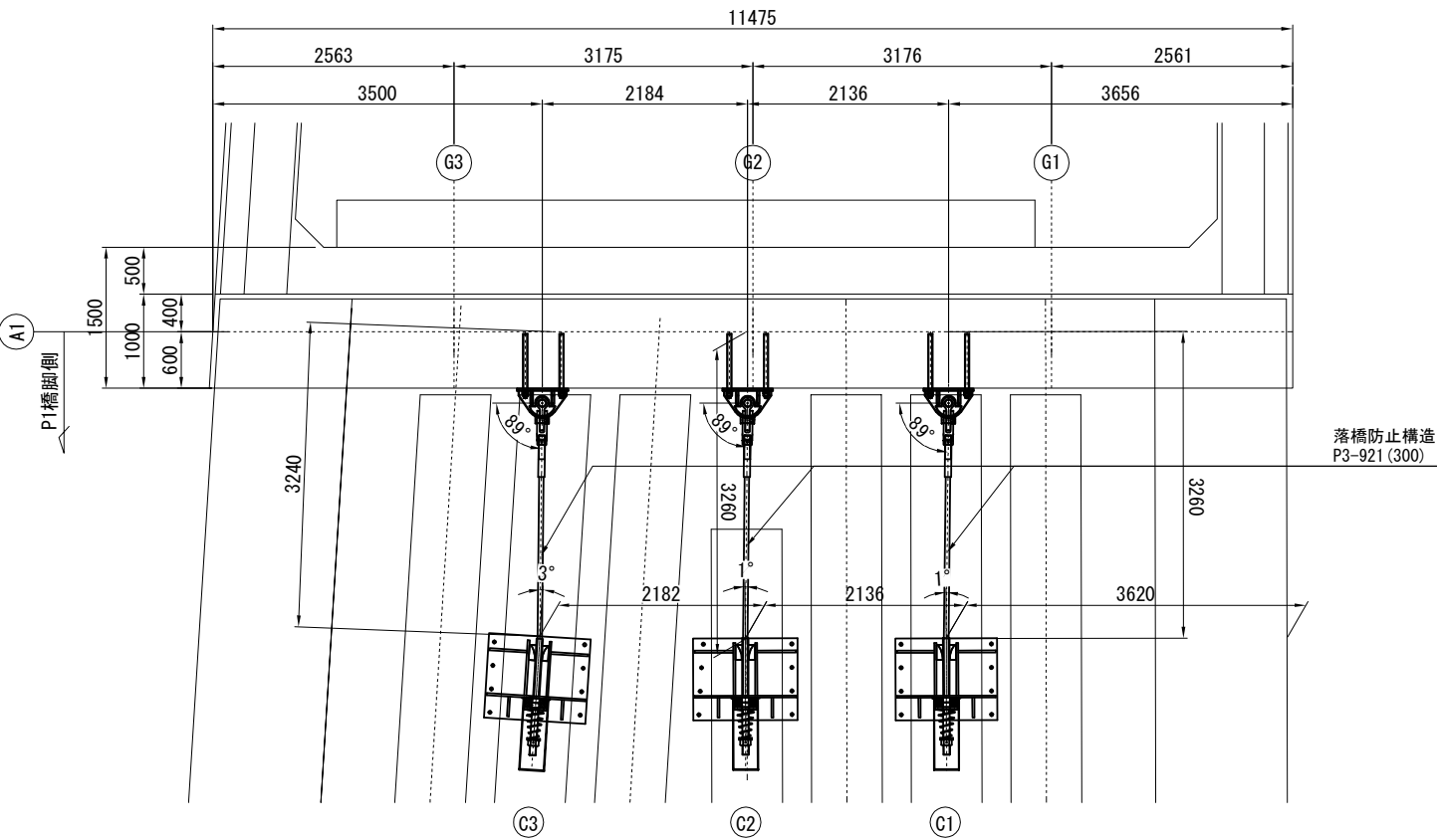
正面図 S=1:40



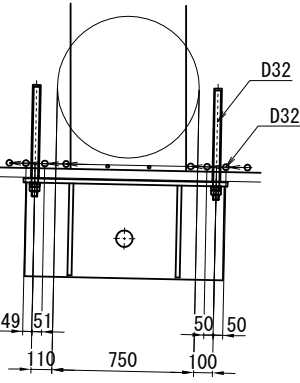
側面図(B - B) S=1:40



平面図(A - A) S=1:40



落橋防止構造 取付詳細図 S=1:20

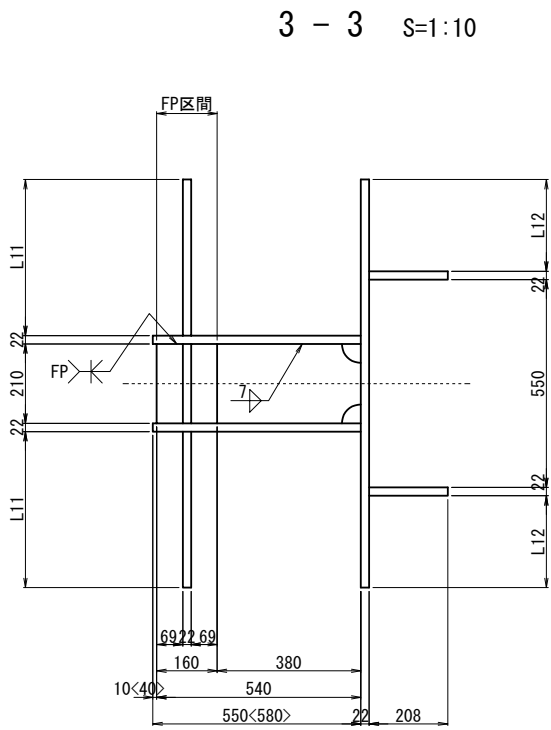
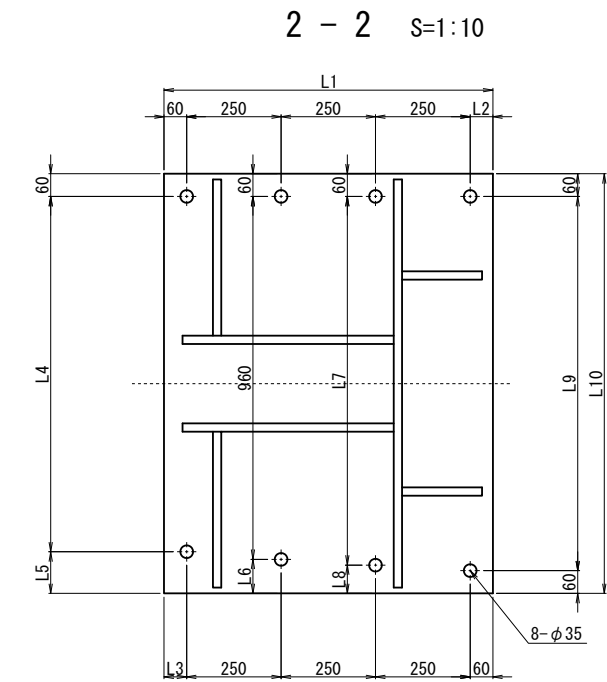
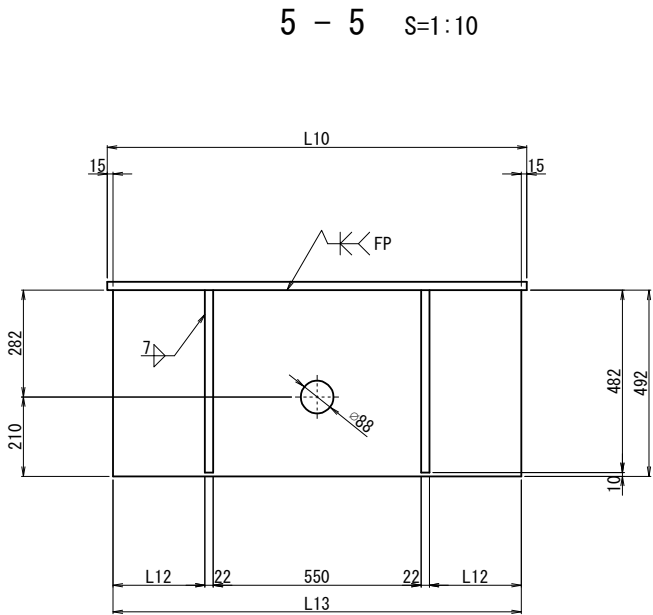
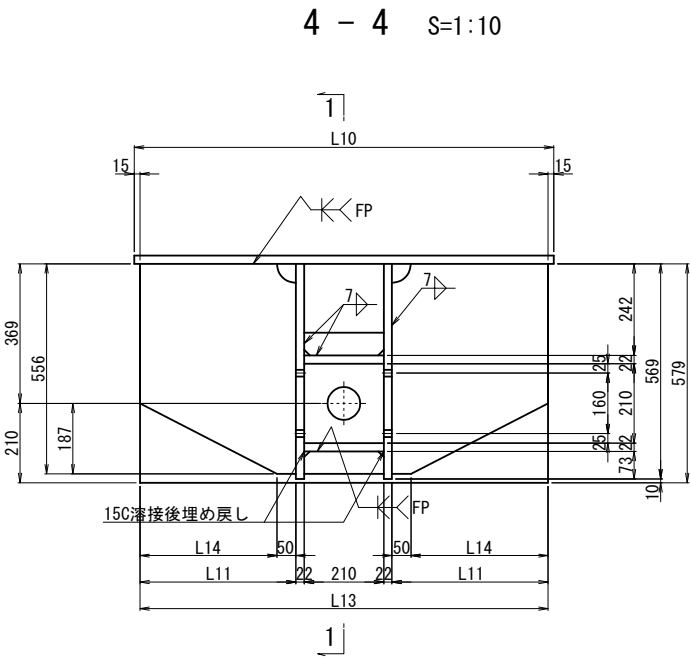
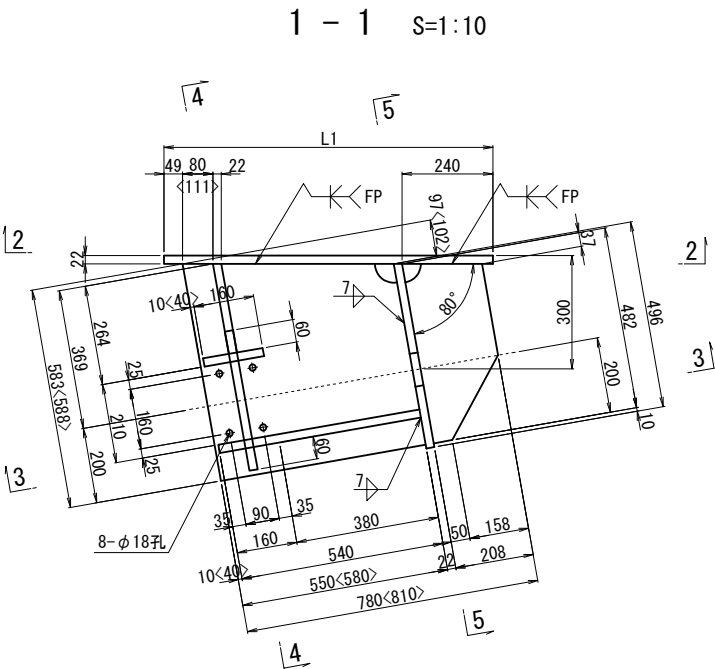


注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

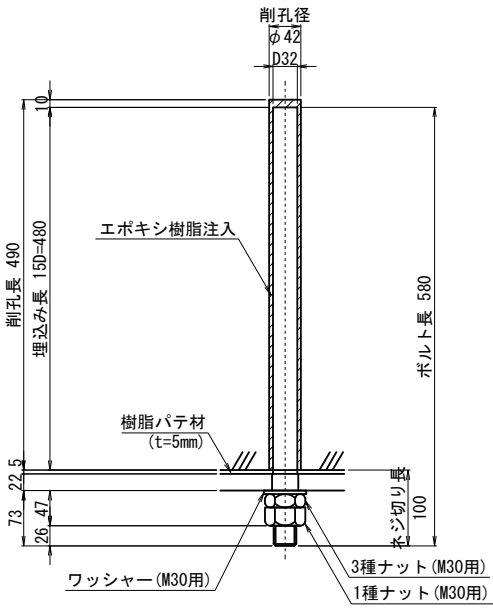
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A1橋台 耐震補強配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	41 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

上部エブラケット詳細図

ブラケット詳細図
(落橋防止構造 P3-921 (300))



落橋防止構造 S=1:5
アンカーエφ42・490(上方向)



	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	L12	L13	L14
C1	870	60	60	960	60	60	960	60	960	1080	398	228	1050	348
C2	870	60	60	940	110	90	975	75	990	1110	413	243	1080	363
C3	900	90	90	960	60	60	960	60	960	1080	398	228	1050	348

C1
ブラケット1基当たり (製作数:1基)

2-PL 208x22x482
2-PL 550x22x583
2-PL 398x22x556
2-PL 60x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 496x22x1050
1-PL 870x22x1080

C2
ブラケット1基当たり (製作数:1基)

2-PL 208x22x482
2-PL 550x22x583
2-PL 413x22x556
2-PL 60x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 496x22x1080
1-PL 870x22x1110

C3
ブラケット1基当たり (製作数:1基)

2-PL 208x22x482
2-PL 580x22x588
2-PL 398x22x556
2-PL 60x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 496x22x1050
1-PL 900x22x1080

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

ブラケット1基当たり (製作数:3基)

8-AncBolt D32x580 (SD490)
8-1種Nut M30用 (強度区分8.8) (SS400)
8-3種Nut M30用 (強度区分8.8) (SS400)
8-Washer M30用 (強度区分8.8用) (SS400)

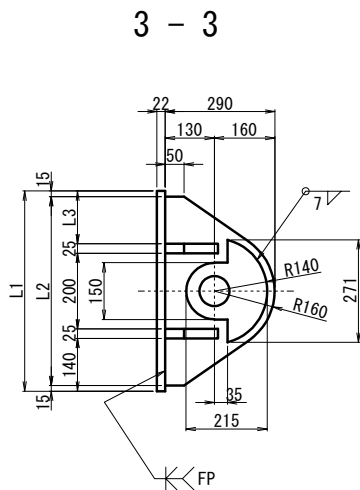
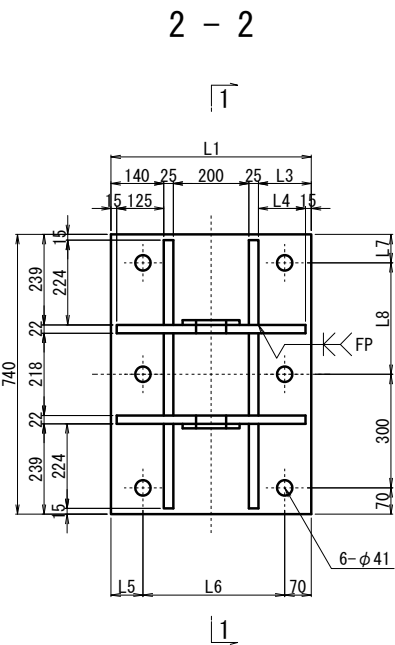
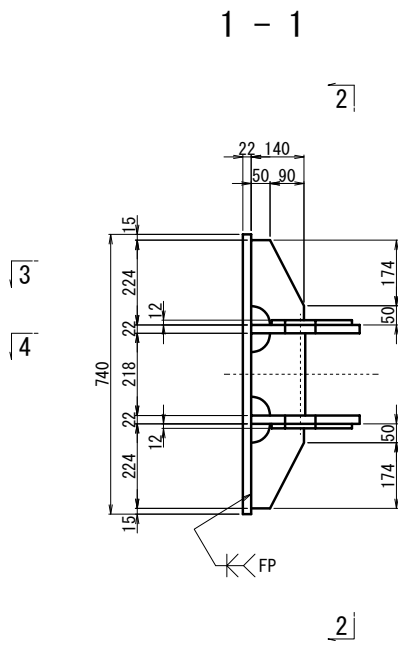
注記)

- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
- 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
- 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
- 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
- < >内は、C3における値を示す。
- 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A1橋台 落橋防止構造詳細図(その1)		
	縮 尺	図 示	図面番号 42 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

下部エブラケット詳細図

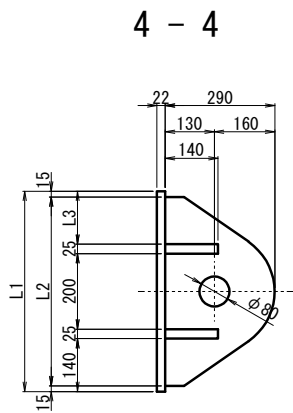
ブラケット詳細図 S=1:10
(落橋防止構造 P3-921 (300))



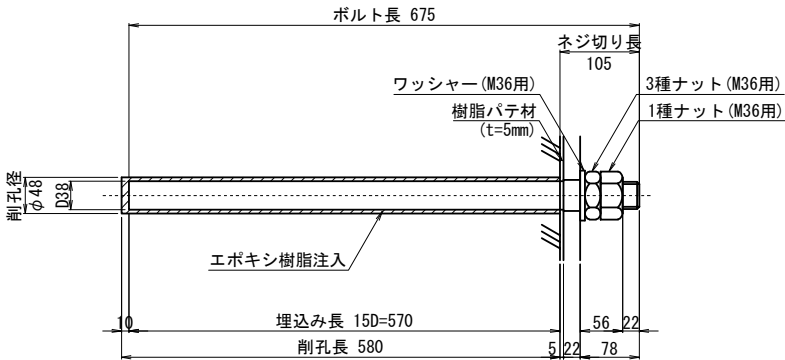
ブラケット1基当り (製作数:3基)

- 2-PL 215x12x271
- 2-PL 290x22xLL1
- 4-PL 140x25x224
- 2-PL 140x25x218
- 1-PL LL2x22x740
- 6-Anc Bolt D38x675 (SD345)
- 6-1種 Nut M36用 (SS400)
- 6-3種 Nut M36用 (SS400)
- 6-Washer M36用 (SS400)

	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	LL1	LL2
C1, C2	530	500	140	125	70	390	70	300	500	530
C3	540	510	150	135	85	385	75	295	510	540



落橋防止構造 S=1:5
アンカーエφ48・580(水平方向)



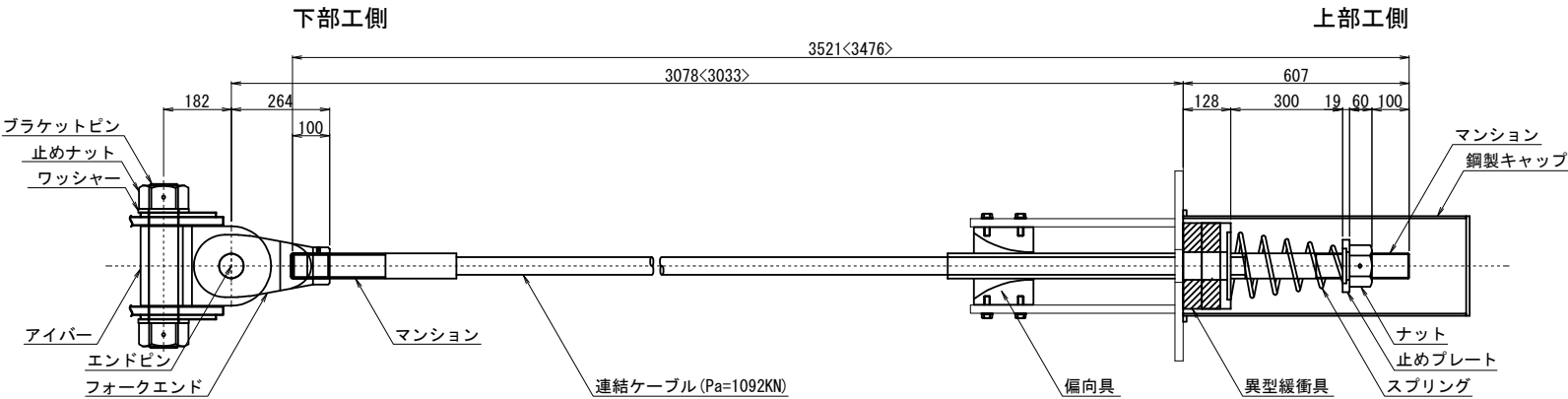
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めつきを施すものとする。

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 - 部材は全て溶融垂鉛めつき仕上げとする。
垂鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 - 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A1橋台 落橋防止構造詳細図(その2)		
	縮 尺	図 示	図面番号 43 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

落橋防止構造 P3-921(300)

取付詳細図



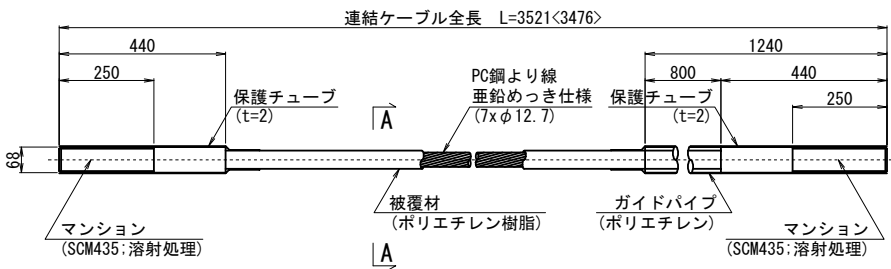
材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

全3組

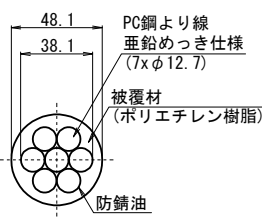
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	Pa=1092KN L=3521<3476>mm	本	1	PC鋼より線, 亜鉛めっき仕様, ポリエチレン被覆
	Pa=1092KN用 標準	個	2	SCM435, 亜鉛アルミ溶射, ねじり標準 <ケーブルに組込>
	Pa=1092KN用 800mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット	Pa=1092KN用	個	1	S45C:亜鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	Pa=1092KN用	個	1	SS400:亜鉛めっき (HDZT77)
スプリング	Pa=1092KN用 L=450	個	1	SW-C:亜鉛めっき, クロメート処理
異型緩衝具	Pa=1092KN用	個	1	SS400:亜鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	Pa=1092KN用	個	1	ポリエチレン
(取付ボルト)	M16x50 1W付	本	8	SS400相当品:亜鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
鋼製キャップ	Pa=1092KN用 L=760	個	1	SS400, STK400:亜鉛めっき (HDZT77, t=6未満HDZT70)
取付ボルト・Uナット	M16x60 2W付	本	4	SS400相当品:亜鉛めっき (HDZT49)
ブラケットピン	Pa=1092KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
止めナット	Pa=1092KN用	個	2	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
ワッシャー	Pa=1092KN用	個	2	SS400, 亜鉛めっき (HDZT77)
アイバー	Pa=1092KN用	個	1	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
フォークエンド	Pa=1092KN用	個	1	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
エンドピン (ピン)	Pa=1092KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
(止めプレート)	Pa=1092KN用	個	1	SS400, 亜鉛めっき

※ L=3521mm 2本, L=3476mm 1本

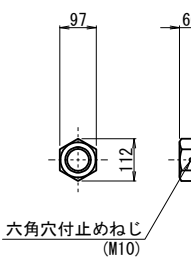
連結ケーブル



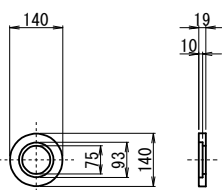
A-A断面図 S=1:2



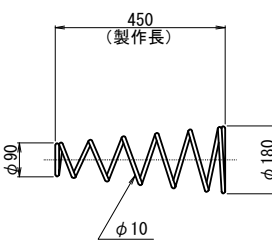
ナット
(S45C:亜鉛めっき)



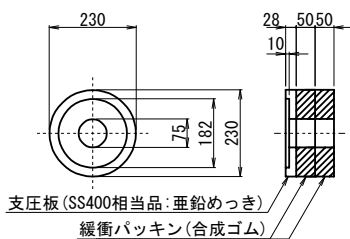
止めプレート
(SS400相当品:亜鉛めっき)



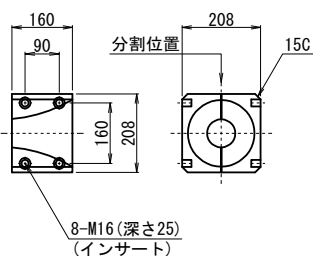
スプリング
(SW-C:亜鉛めっき, クロメート処理)



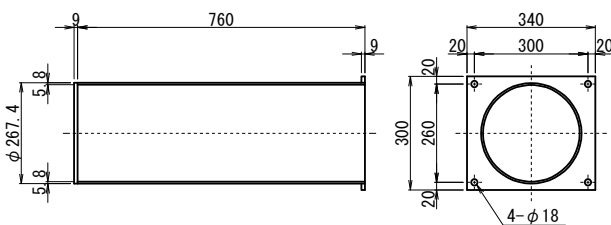
異型緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



偏 向 具
(ポリエチレン)



鋼製キャップ
(SS400, STK400:亜鉛めっき)

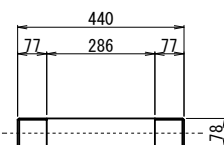


規格表

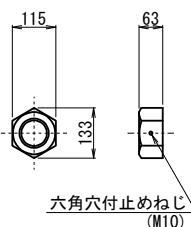
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	921 kN
設 計 遊 間 量	300 mm
許 容 耐 力	1092 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

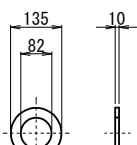
ブラケットピン
(SCM435:DMコート)



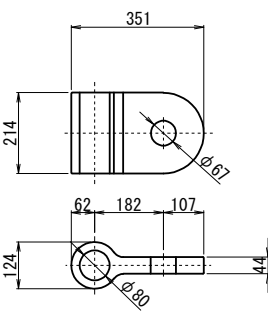
止めナット
(S45C:亜鉛めっき)



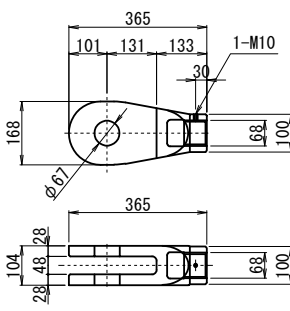
ワッシャー
(SS400:亜鉛めっき)



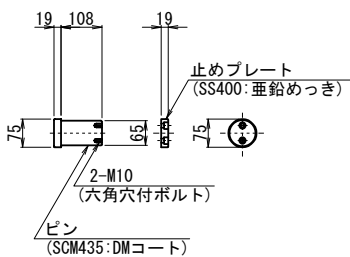
アイバー
(S45C:亜鉛めっき)



フォークエンド
(S45C:亜鉛めっき)



エンドピン
(ピン+止めプレート)

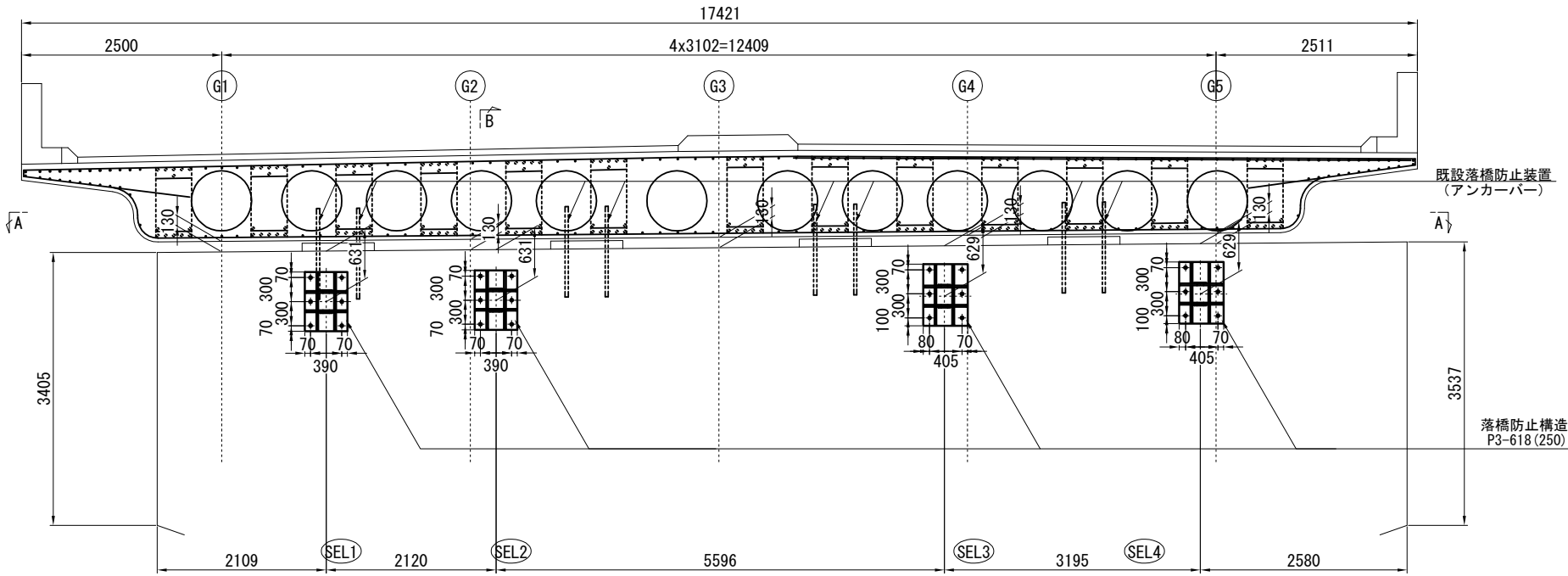


- 注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
 2. <>内は、C3における値を示す。

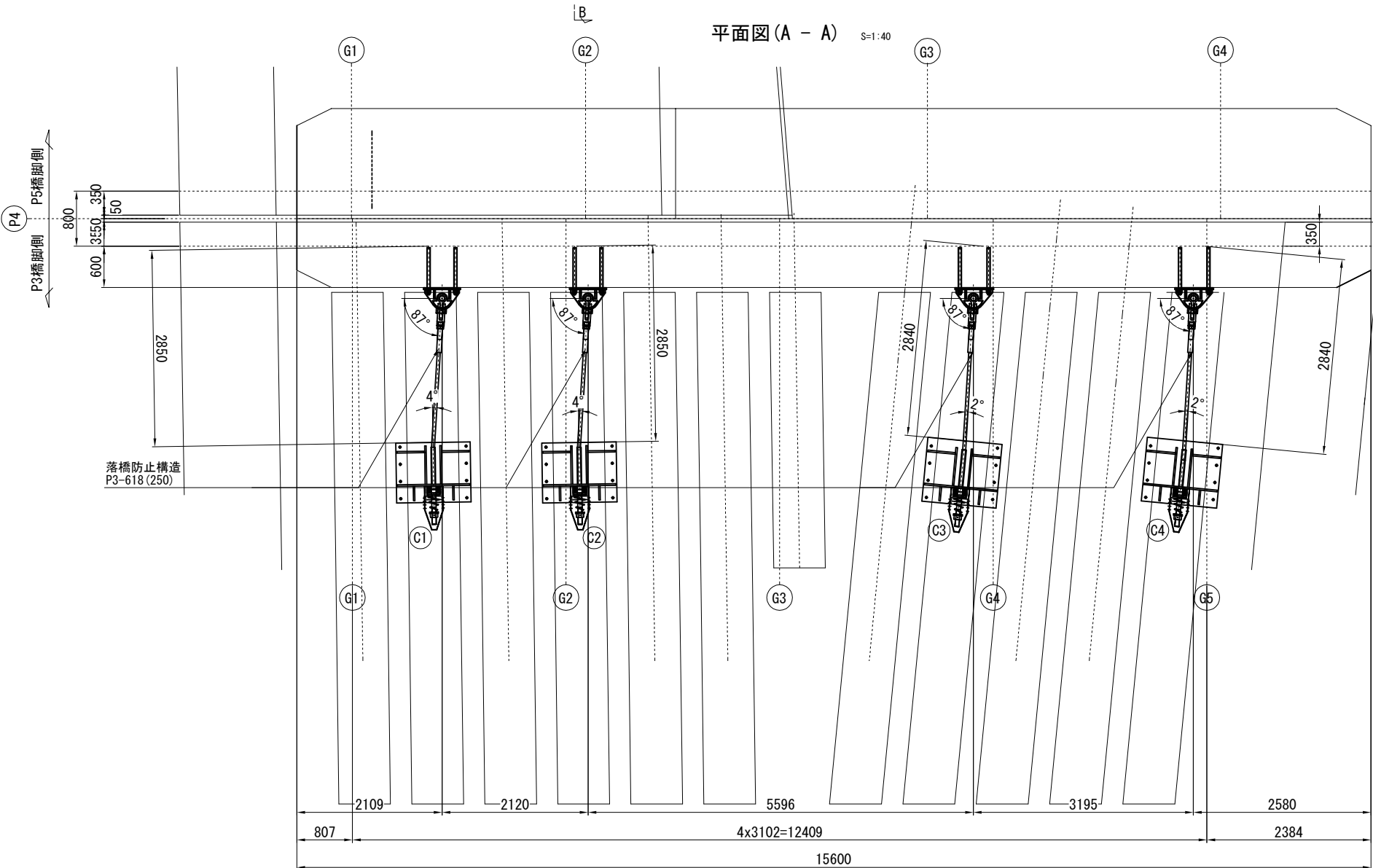
横浜横須賀道路			
釜利谷JCT第一橋			
図面の種類	A1橋台 落橋防止構造詳細図(その3)(参考図)	縮 尺	図 示
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社	図面番号	44 / 88
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷JCT第一橋 P4橋脚（起点側） 耐震補強配置図

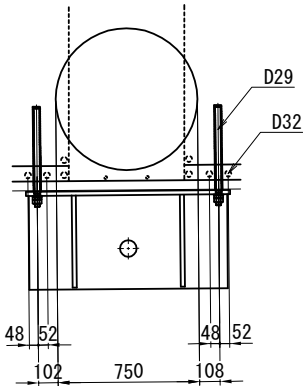
正面図 S=1:40



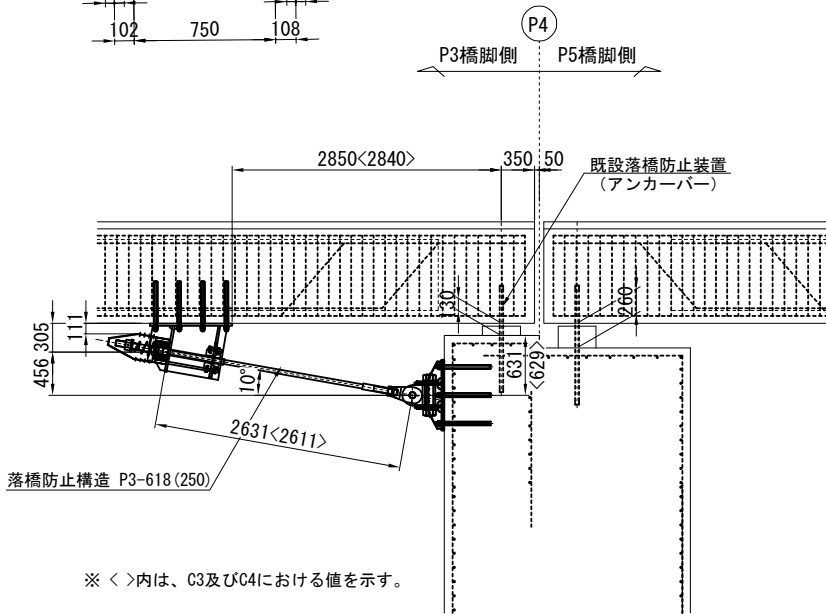
平面図 (A - A) S=1:40



落橋防止構造 取付詳細図 S=1:20



側面図 (B - B) S=1:40

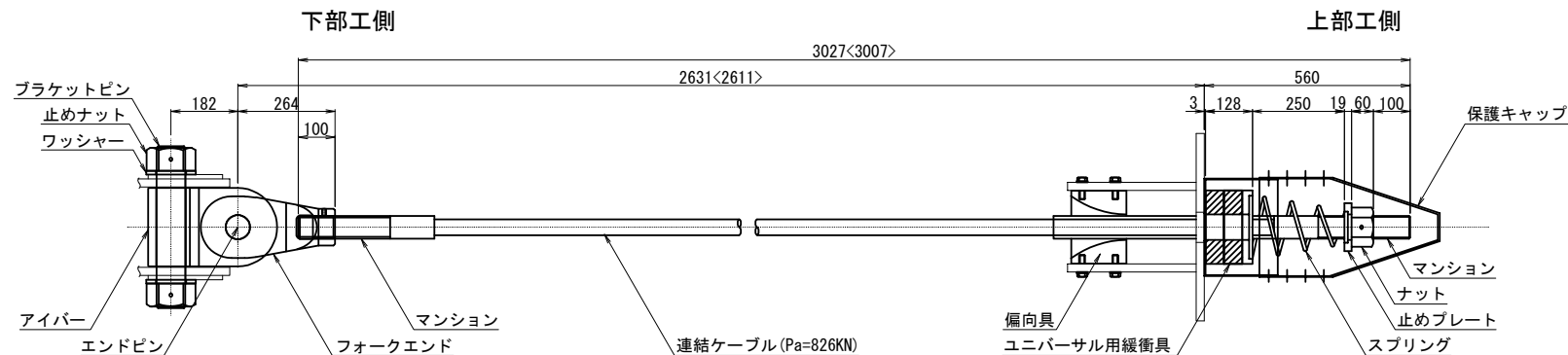


注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚（起点側） 耐震補強配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	45 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

落橋防止構造 P3-618 (250)

取付詳細図



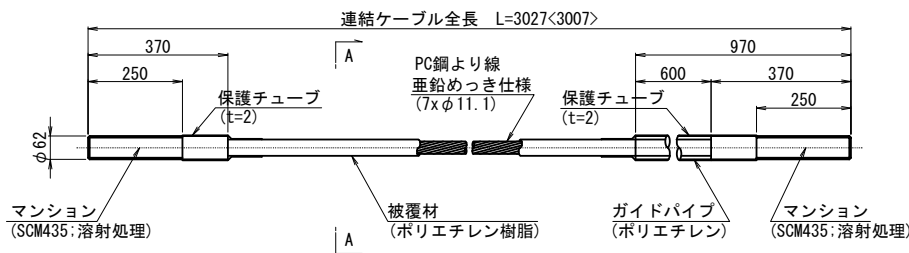
材 料 表（落橋防止構造1組当たり）

全4組

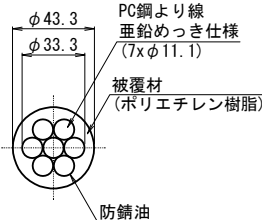
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル	Pa=826KN L=3027<3007>mm	本	1	PC鋼より線、亜鉛めっき仕様、ポリエチレン被覆
	（マンション） Pa=826KN用 標準	個	2	SCM435、亜鉛アルミ溶射、ねじきり標準 <ケーブルに組込>
	（ガイドパイプ） Pa=826KN用 600mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット	Pa=826KN用	個	1	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	Pa=826KN用	個	1	SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT77)
スプリング	Pa=826KN用 L=400	個	1	SW-C、亜鉛めっき、クロメート処理
ユニバーサル用緩衝具	Pa=826KN用	個	1	SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	Pa=826KN用	個	1	ポリエチレン
	（取付ボルト） M16x50 1W付	本	8	SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
保護キャップ	Pa=826KN用	組	1	ポリエチレン、8-止めビス付
ブラケットピン	Pa=826KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズ処理、DMコート
止めナット	Pa=826KN用	個	2	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
ワッシャー	Pa=826KN用	個	2	SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT77)
アイバー	Pa=826KN用	個	1	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
フォークエンド	Pa=826KN用	個	1	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
エンドピン（ピン）	Pa=826KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズ処理、DMコート
	（止めプレート） Pa=826KN用	個	1	SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT77)

※ L=3027mm 2本, L=3007mm 2本

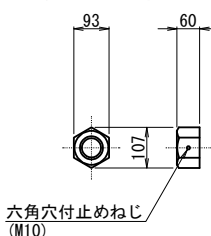
連結ケーブル



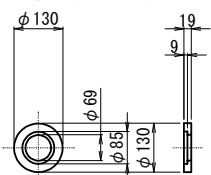
A-A断面図 S=1:2



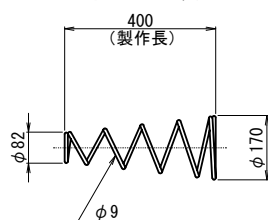
ナット
(S45C:亜鉛めっき)



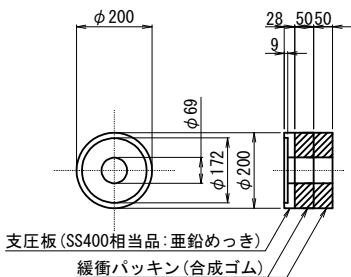
止めプレート
(SS400相当品:亜鉛めっき)



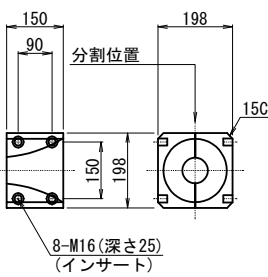
スプリング
(SW-C:亜鉛めっき、クロメート処理)



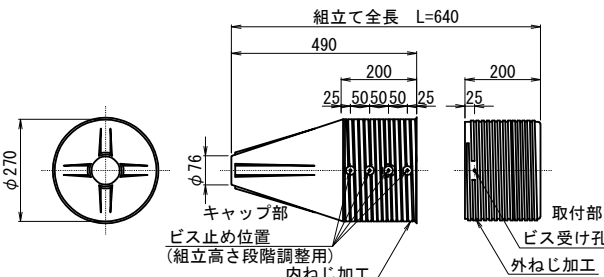
ユニバーサル用緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



偏向具
(ポリエチレン)



保護キャップ
(ポリエチレン)

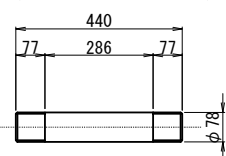


規格表

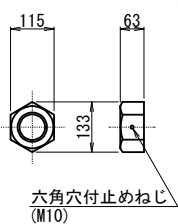
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	618 kN
設 計 遊 間 量	250 mm
許 容 耐 力	826 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

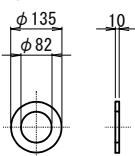
ブラケットピン
(SCM435:DMコート)



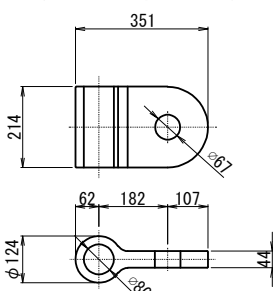
止めナット
(S45C:亜鉛めっき)



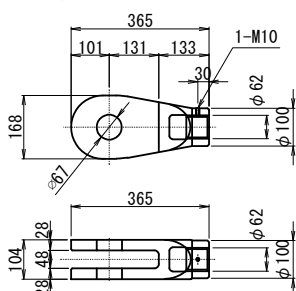
ワッシャー
(SS400相当品:亜鉛めっき)



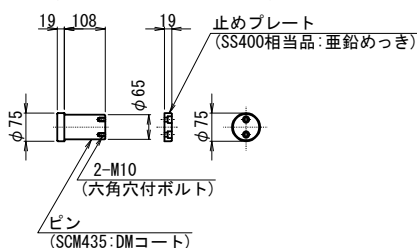
アイバー
(S45C:亜鉛めっき)



フォークエンド
(S45C:亜鉛めっき)



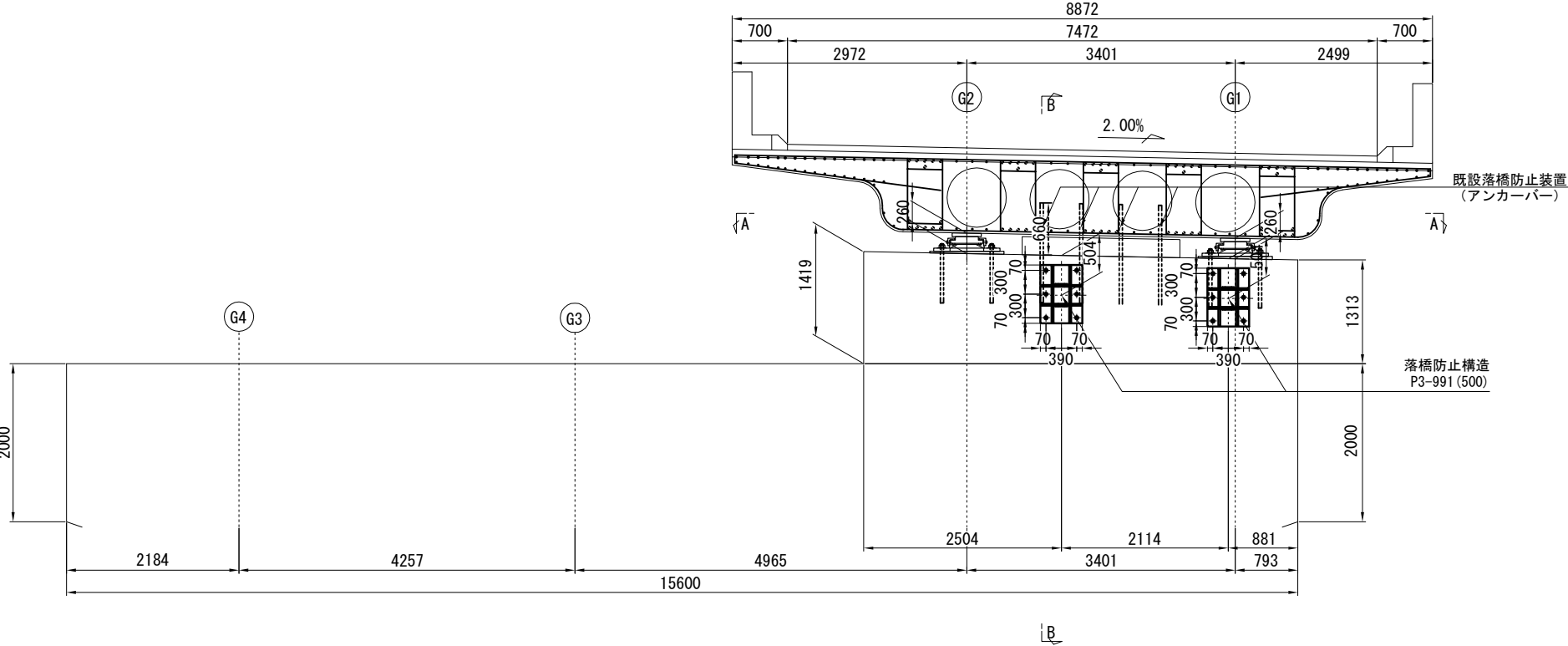
エンドピン
(ピン+止めプレート)



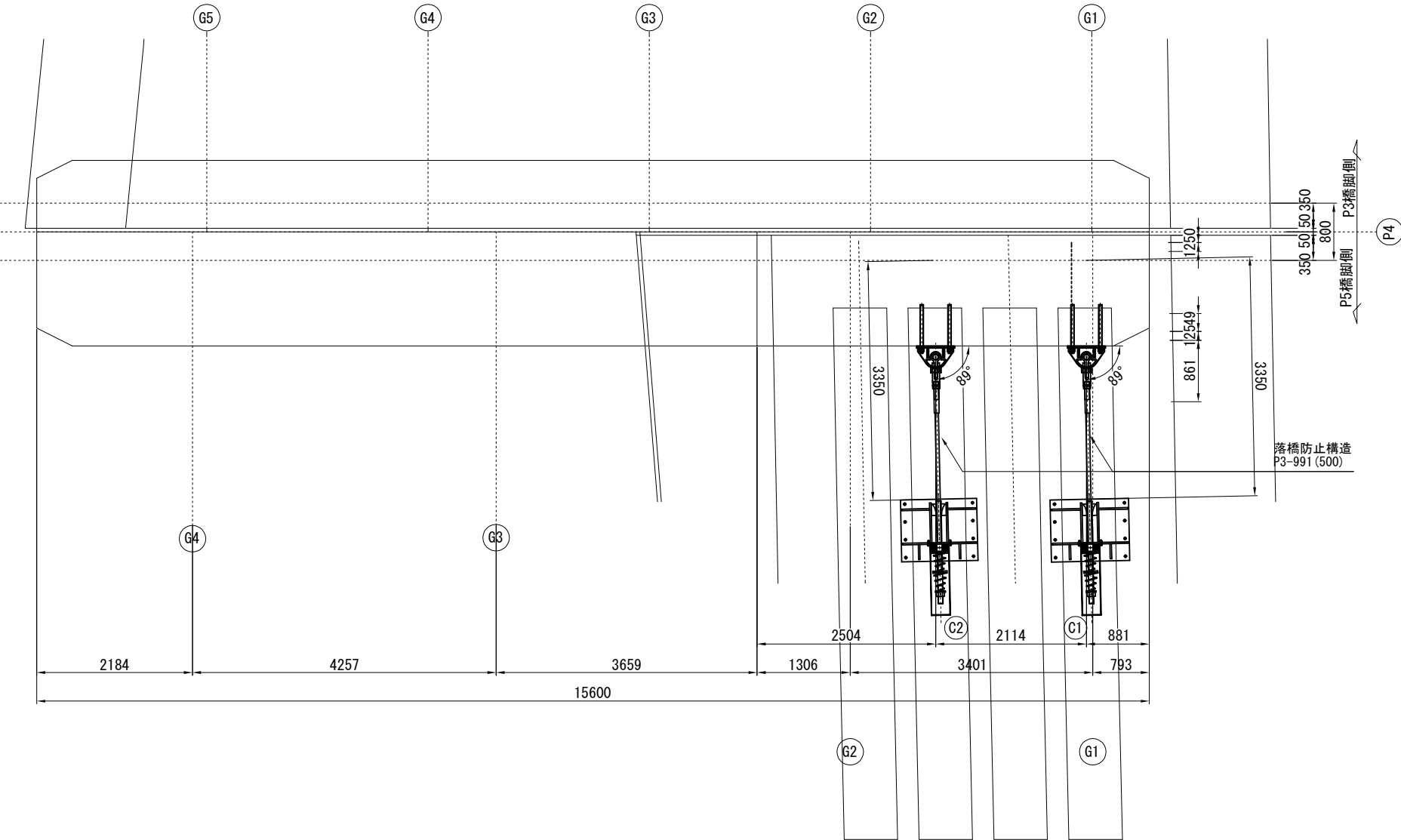
注記
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
2. <>内は、G3及びG4における値を示す。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚（起点側）落橋防止構造詳細図（その3）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	48 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

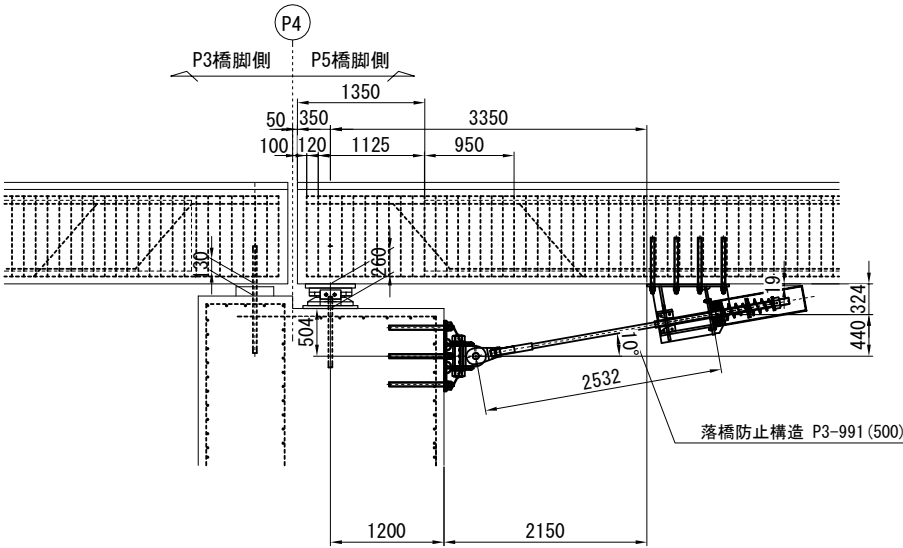
正面図 S=1:40



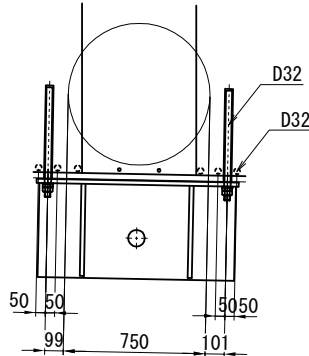
平面図 (A - A) S=1:40



側面図 (B - B) S=1:40



落橋防止構造 取付詳細図 S=1:20



注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚（終点側） 耐震補強配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	49 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

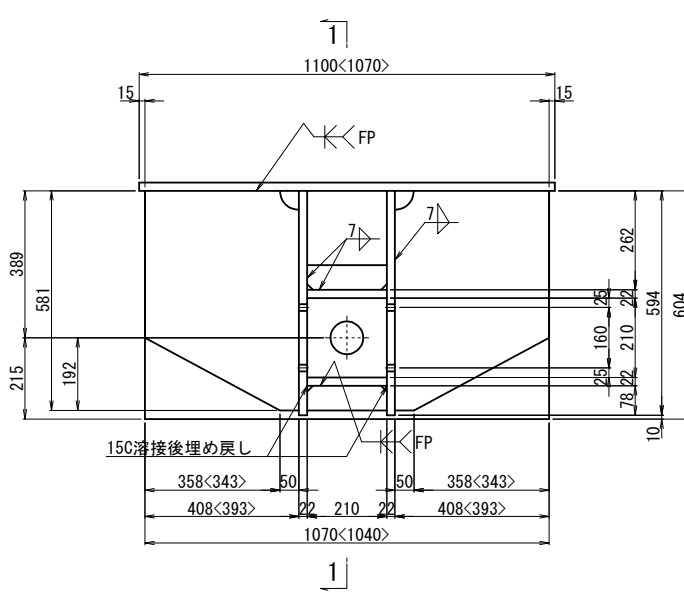
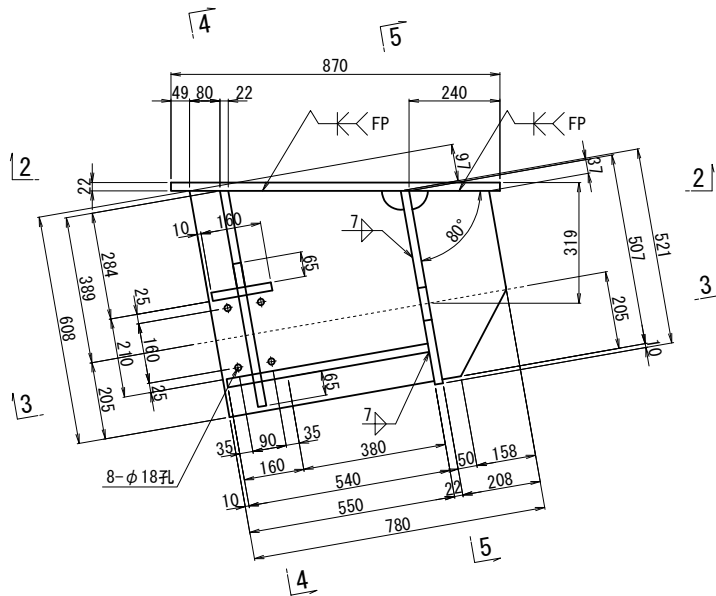
上部エブラケット詳細図

ブラケット詳細図

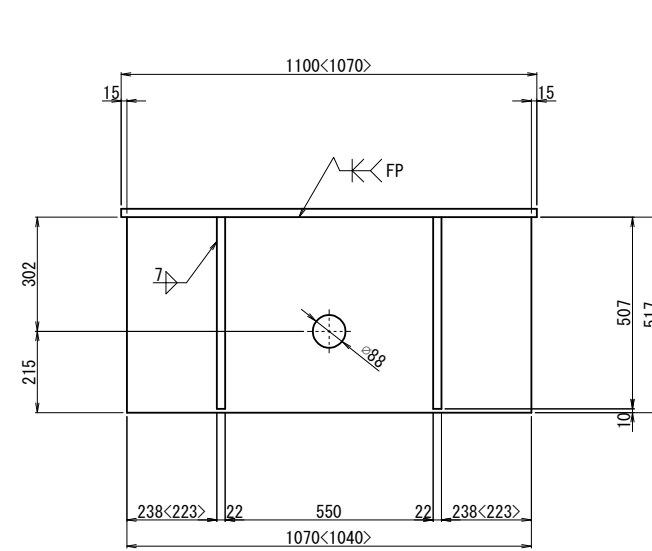
（落橋防止構造 P3-991 (500)）

4 - 4 S=1:10

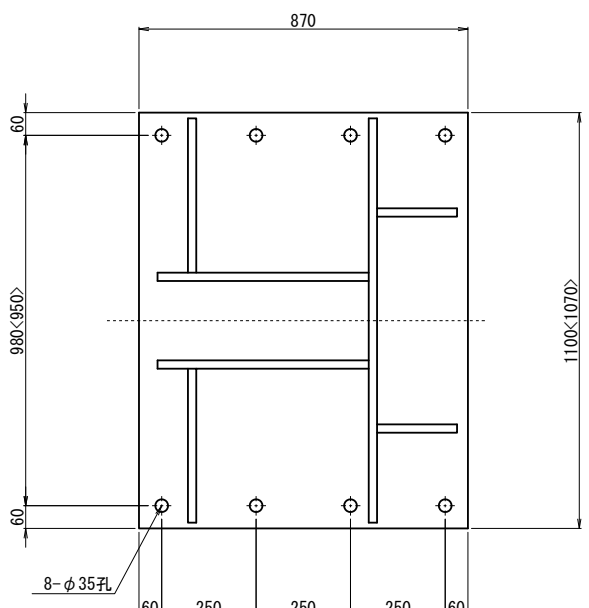
1 - 1 S=1:10



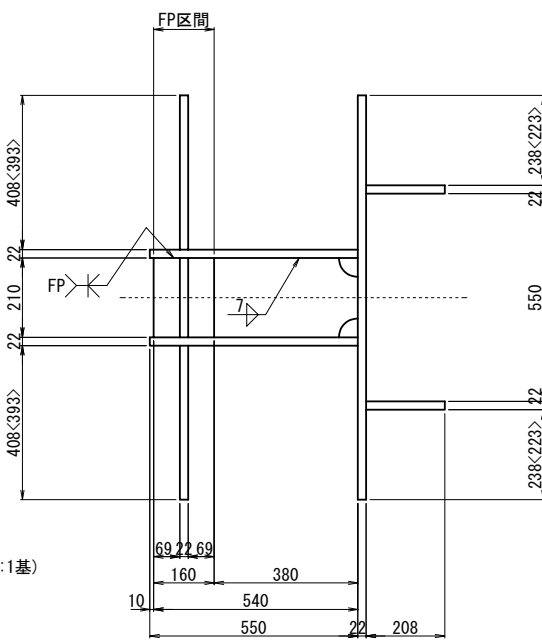
5 - 5 S=1:10



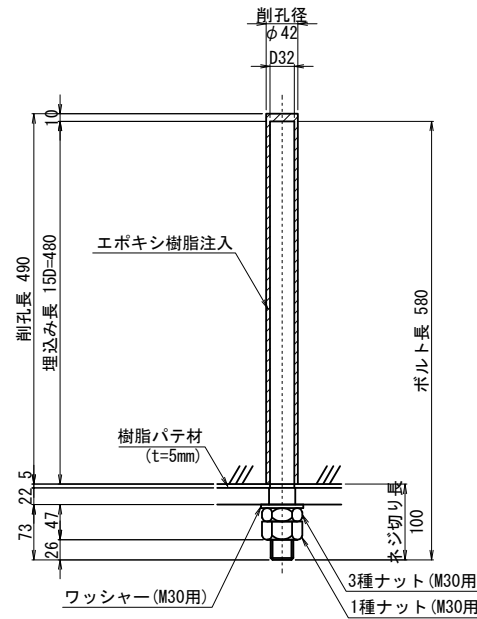
2 - 2 S=1:10



3 - 3 S=1:10



落橋防止構造 S=1:5
アンカーエφ42・490（上方向）



- C1
ブラケット1基当り（製作数:1基）
- 2-PL 208x22x507
 - 2-PL 550x22x608
 - 2-PL 408x22x581
 - 2-PL 65x22x210
 - 1-PL 210x22x540
 - 1-PL 160x22x210
 - 1-PL 521x22x1070
 - 1-PL 870x22x1100

- C2
ブラケット1基当り（製作数:1基）
- 2-PL 208x22x507
 - 2-PL 550x22x608
 - 2-PL 393x22x581
 - 2-PL 65x22x210
 - 1-PL 210x22x540
 - 1-PL 160x22x210
 - 1-PL 521x22x1040
 - 1-PL 870x22x1070

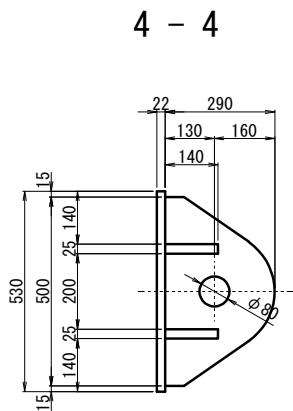
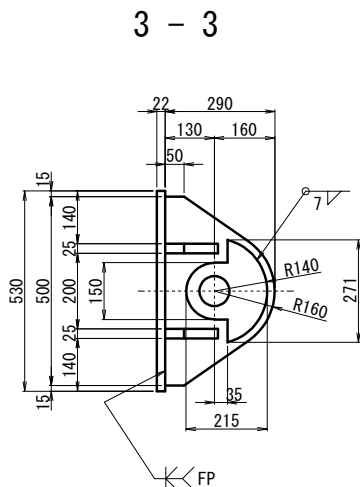
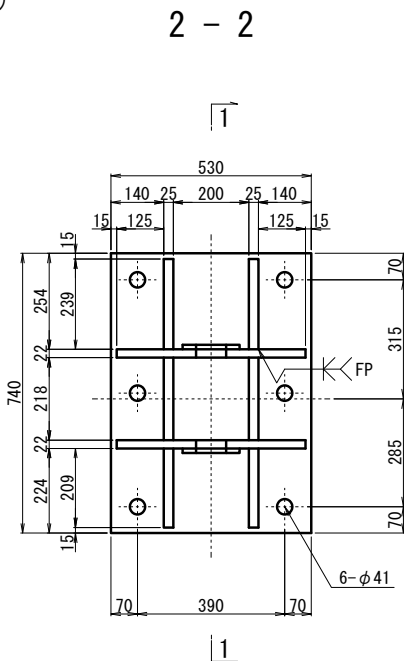
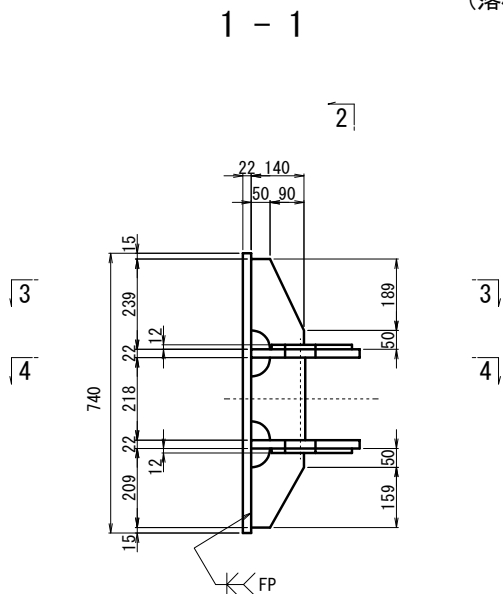
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- ブラケット1基当り（製作数:2基）
- 8-AncBolt D32x580 (SD490)
 - 8-1種Nut M30用（強度区分8.8）(SS400)
 - 8-3種Nut M30用（強度区分8.8）(SS400)
 - 8-Washer M30用（強度区分8.8用）(SS400)

- 注記）
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
 4. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
垂鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 5. < >内は、C2における値を示す。
 6. 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋		
	P4橋脚（終点側）	落橋防止構造詳細図（その1）	
縮 尺	図 示	図面番号	50 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

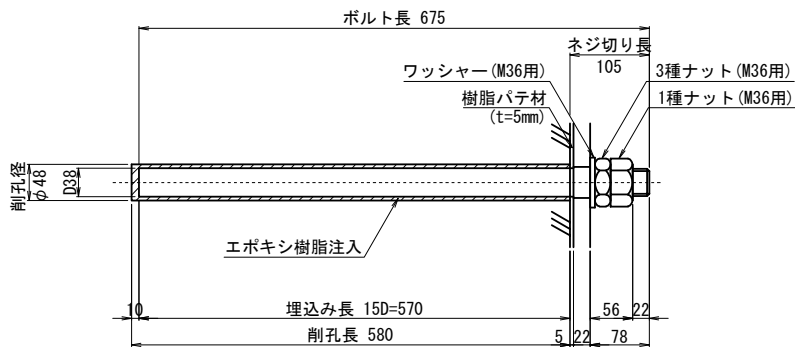
ブラケット詳細図 S=1:10
（落橋防止構造 P3-991(500)）



ブラケット1基当り（製作数:2基）

- 2-PL 215x12x271
- 2-PL 290x22x500
- 2-PL 140x25x239
- 2-PL 140x25x209
- 2-PL 140x25x218
- 1-PL 530x22x740
- 6-Anc Bolt D38x675 (SD490)
- 6-1種 Nut M36用 (SS400)
- 6-3種 Nut M36用 (SS400)
- 6-Washer M36用 (SS400)

落橋防止構造 S=1:5
アンカーエφ48・580(水平方向)

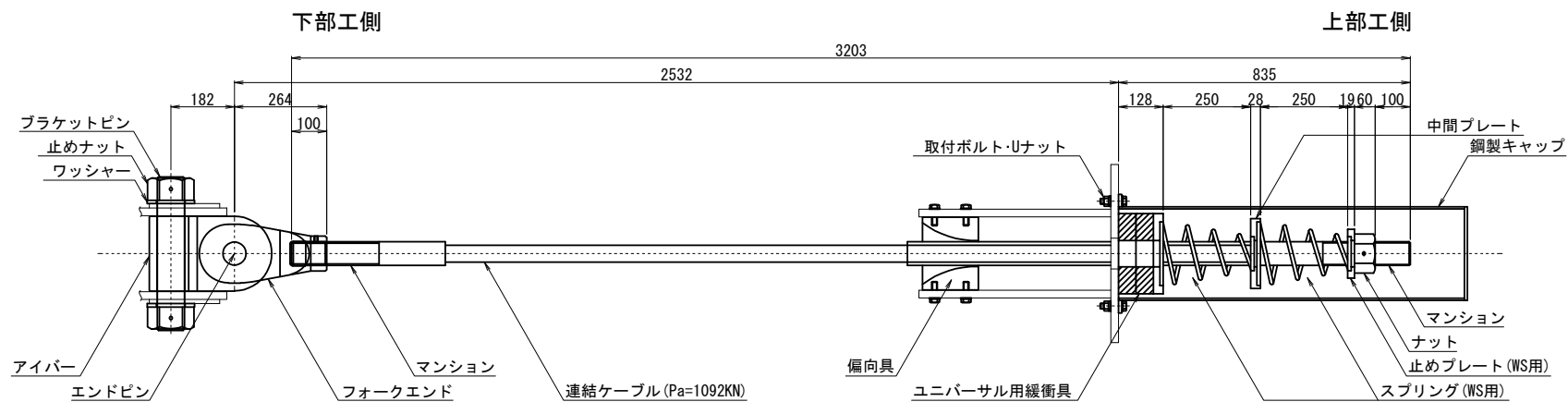


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 4. ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 5. 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋		
	P4橋脚（終点側） 落橋防止構造詳細図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	51 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

取付詳細図



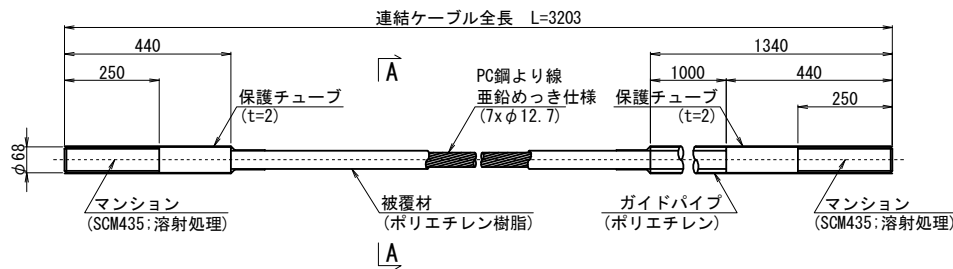
材 料 表（落橋防止構造1組当たり）

全2組

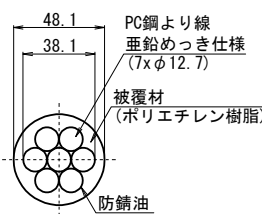
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	Pa=1092KN L=3203mm	本	1	PC鋼より線、亜鉛めっき仕様、ポリエチレン被覆	
	Pa=1092KN用 標準	個	2	SCM435、亜鉛アルミ溶射、ねじきり標準 <ケーブルに組込>	
	Pa=1092KN用 1000mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>	
ナット	Pa=1092KN用	個	1	S45C;亜鉛めっき (HDZT77)	
止めプレート (WS用)	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品;亜鉛めっき (HDZT77)	
スプリング (WS用)	Pa=1092KN用 L=400	個	2	SW-C;亜鉛めっき、クロメート処理	
中間プレート	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品;亜鉛めっき (HDZT77)	
ユニバーサル用緩衝具	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品;亜鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム	
偏向具 (取付ボルト)	Pa=1092KN用	個	1	ポリエチレン	
	M16x50 1W付	本	8	SS400相当品;亜鉛めっき (HDZT49) 接着剤付	
鋼製キャップ	Pa=1092KN用 L=990	個	1	SS400、STK400;亜鉛めっき (HDZT77、t=6未満HDZT70)	
取付ボルト・Uナット	M16x60 2W付	本	4	SS400相当品;亜鉛めっき (HDZT49)	
ユニバーサルシステム	ブラケットピン	Pa=1092KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズド処理、DMコート
	止めナット	Pa=1092KN用	個	2	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
	ワッシャー	Pa=1092KN用	個	2	SS400相当品;亜鉛めっき (HDZT77)
	アイバー	Pa=1092KN用	個	1	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
	フォークエンド	Pa=1092KN用	個	1	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
	エンドピン (ピン)	Pa=1092KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズド処理、DMコート
	(止めプレート)	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品;亜鉛めっき (HDZT77)

※ L=3203mm 2本

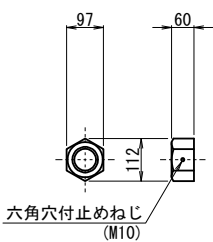
連結ケーブル



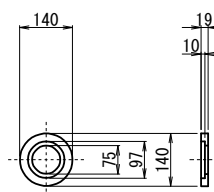
A-A断面図 S=1:2



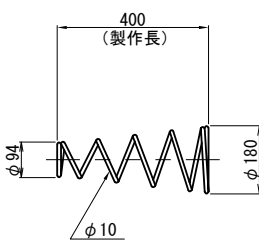
ナット
（S45C：垂鉛めっき）



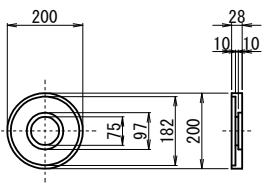
止めプレート（WS用）
（SS400相当品：垂鉛めっき）



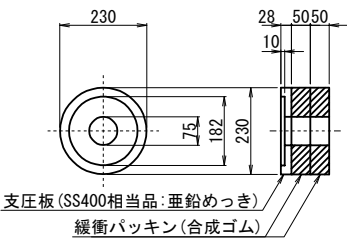
スプリング（WS用）
（SW-C：垂鉛めっき、クロメート処理）



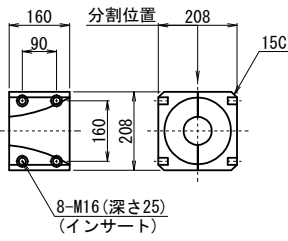
中間プレート
（SS400相当品：垂鉛めっき）



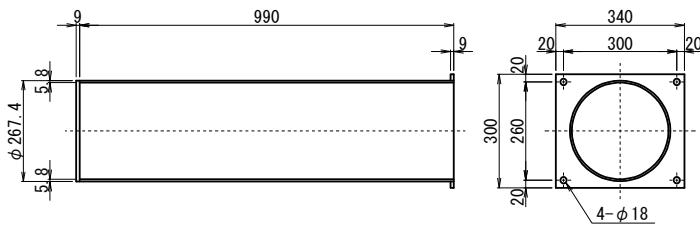
ユニバーサル用緩衝具
（支圧板+緩衝パッキン）



偏 向 具
（ポリエチレン）



鋼製キャップ
（SS400、STK400：垂鉛めっき）

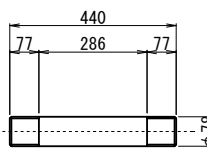


規格表

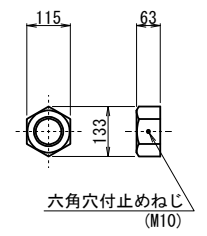
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力（PCケーブル1本当たり）	991 kN
設 計 遊 間 量	500 mm
許 容 耐 力	1092 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

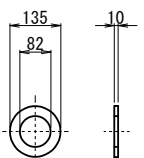
ブラケットピン
（SCM435：DMコート）



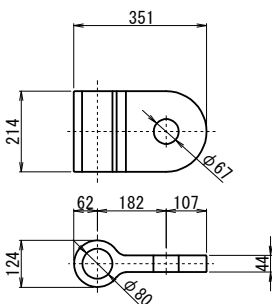
止めナット
（S45C：垂鉛めっき）



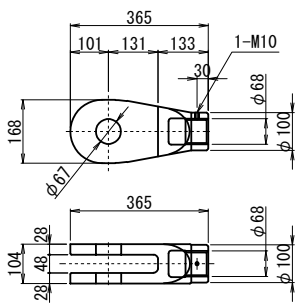
ワッシャー
（SS400相当品：垂鉛めっき）



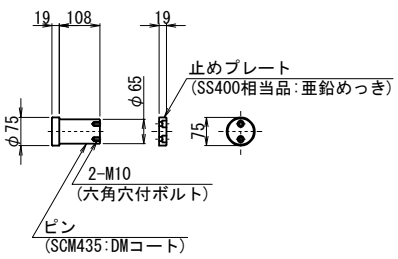
アイバー
（S45C：垂鉛めっき）



フォークエンド
（S45C：垂鉛めっき）



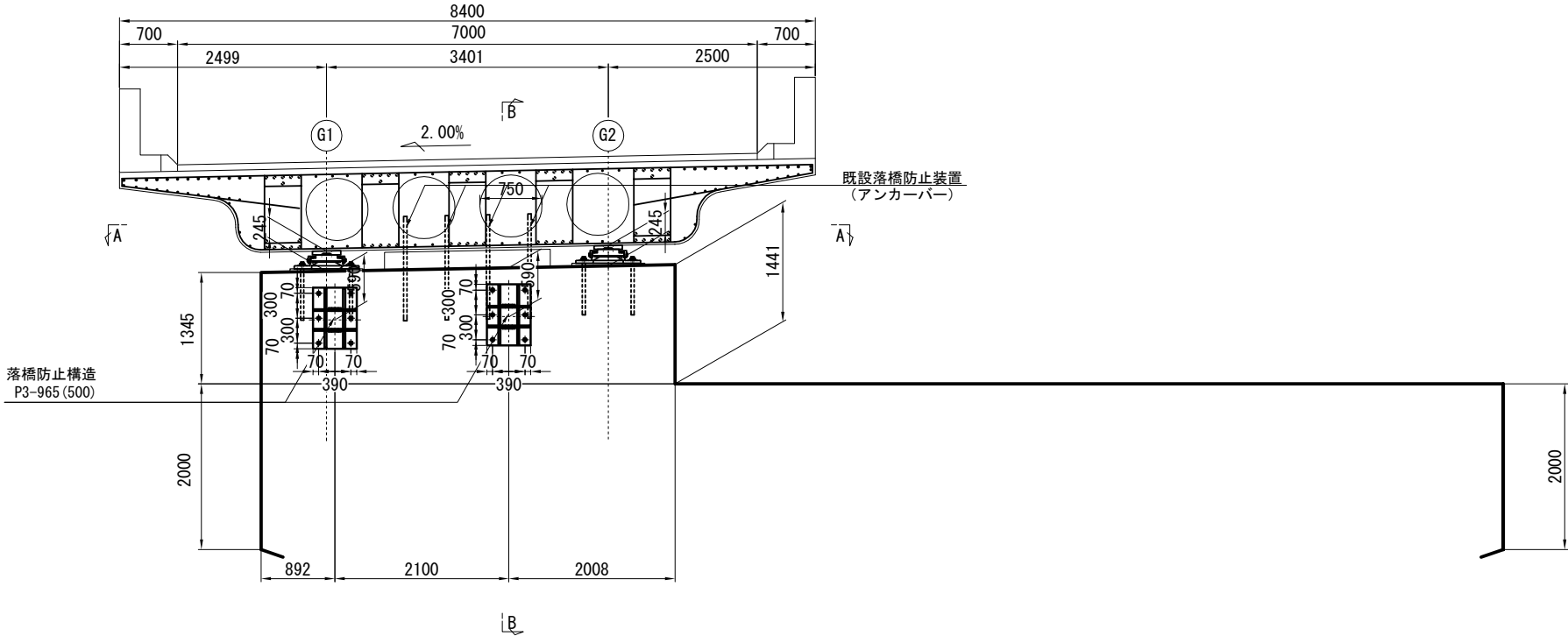
エンドピン
（ピン+止めプレート）



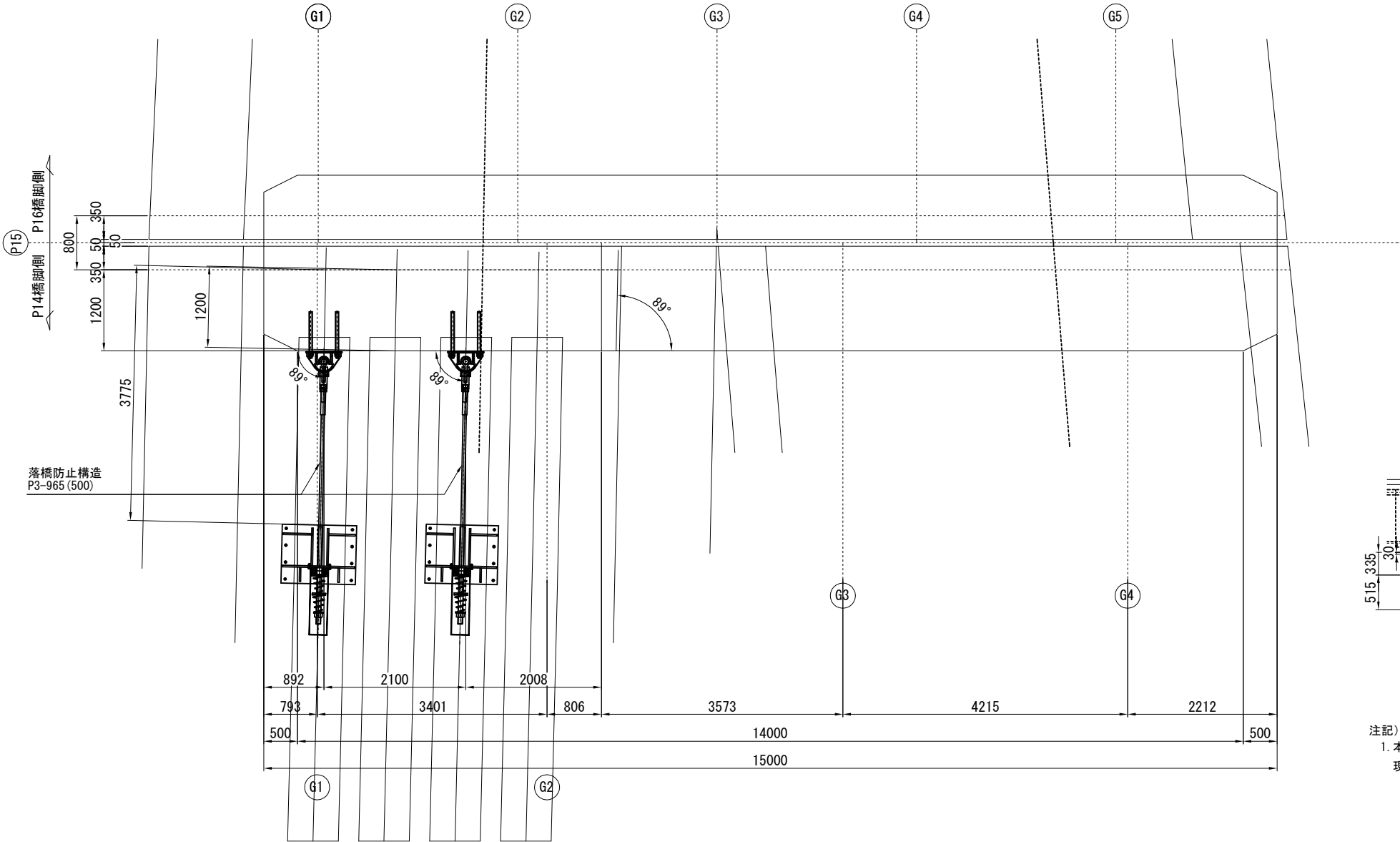
注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。

横浜横須賀道路 釜利谷JCT第一橋 P4橋脚（終点側）落橋防止構造詳細図（その3）（参考図）			
図面の種類	縮 尺	図 示	図面番号
			52 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

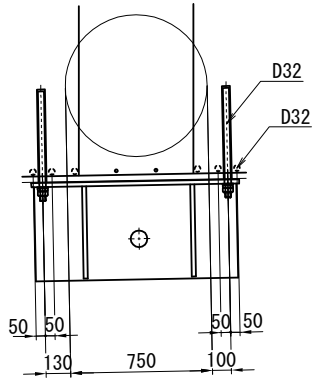
正面図 S=1:40



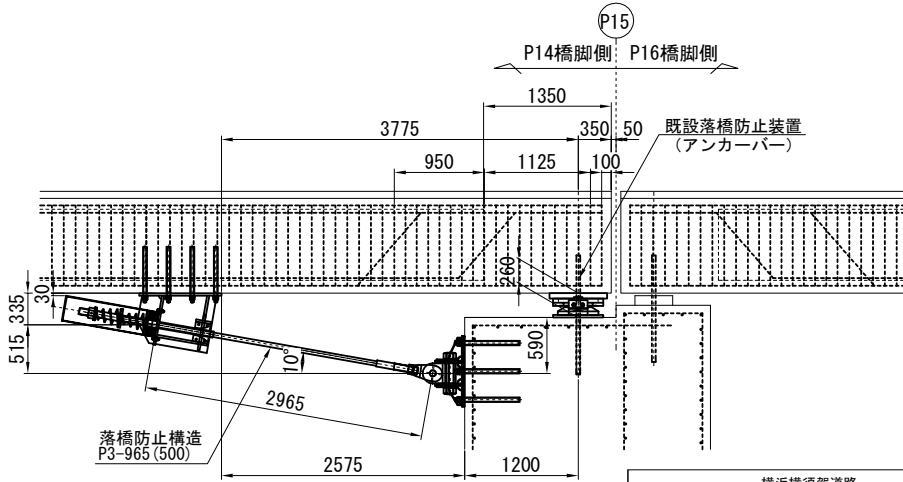
平面図 (A - A) S=1:40



落橋防止構造 取付詳細図 S=1:20



側面図 (B - B) S=1:40



注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚（起点側） 耐震補強配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	53 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

上部エブラケット詳細図

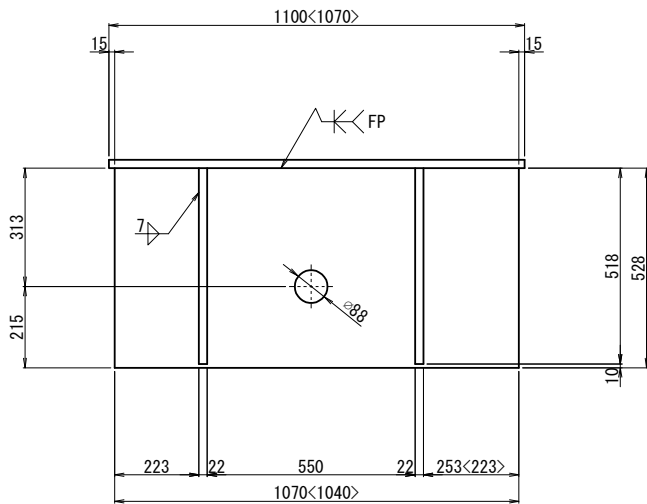
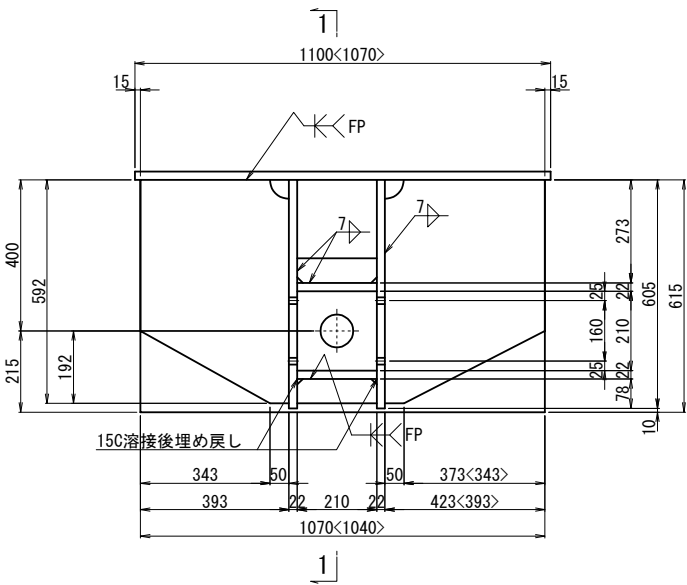
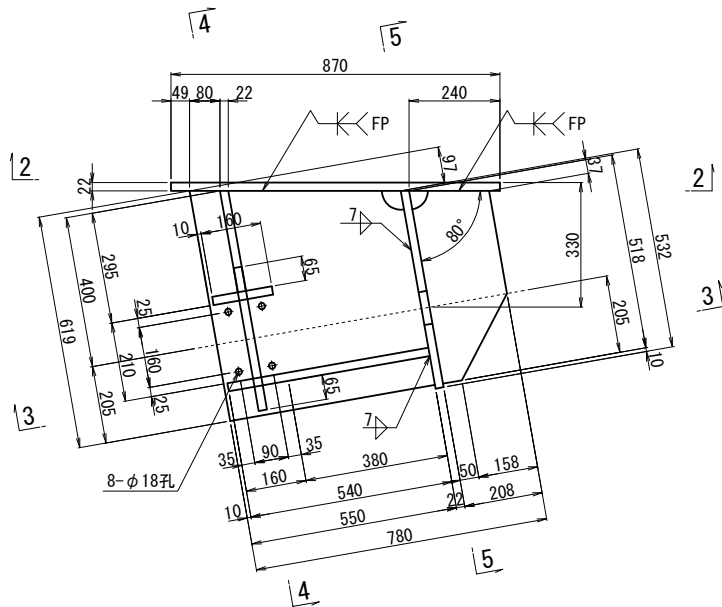
ブラケット詳細図

（落橋防止構造 P3-965 (500)）

4 - 4 S=1:10

1 - 1 S=1:10

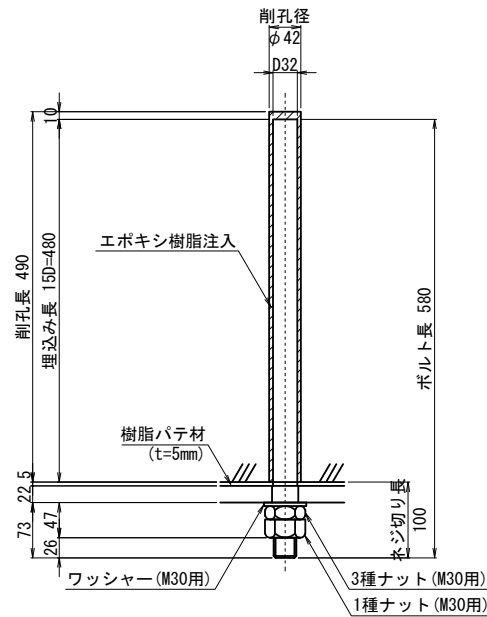
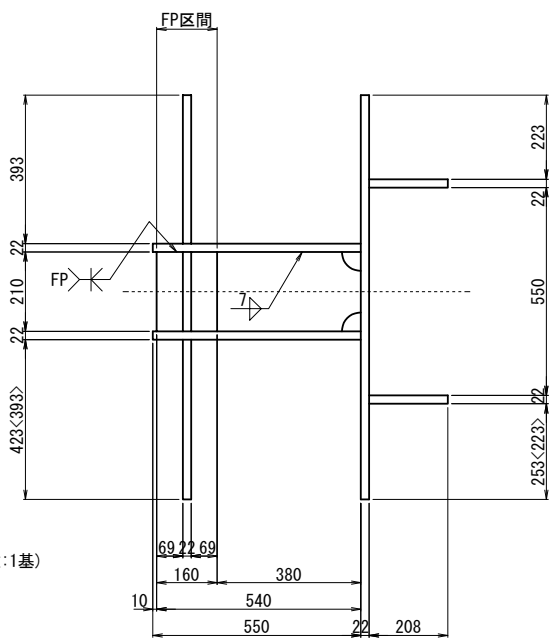
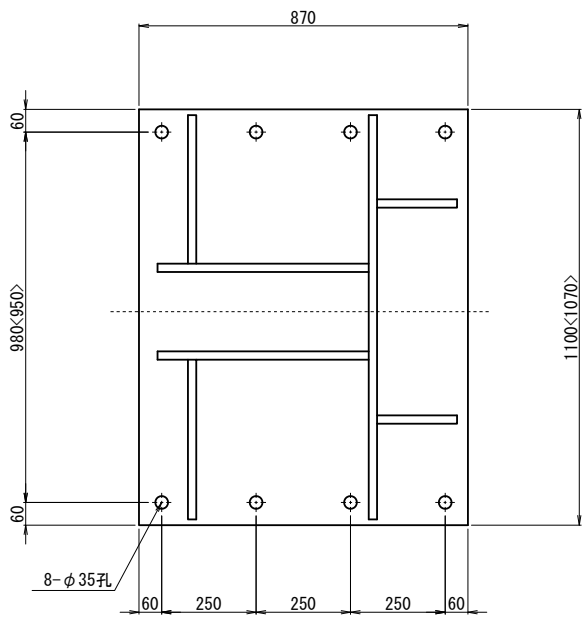
5 - 5 S=1:10



2 - 2 S=1:10

3 - 3 S=1:10

落橋防止構造 S=1:5
アンカーエφ42・490（上方向）



C1
ブラケット1基当り（製作数:1基）

- 2-PL 208x22x518
- 2-PL 550x22x619
- 1-PL 423x22x592
- 1-PL 393x22x592
- 2-PL 65x22x210
- 1-PL 210x22x540
- 1-PL 160x22x210
- 1-PL 532x22x1070
- 1-PL 870x22x1100

C2
ブラケット1基当り（製作数:1基）

- 2-PL 208x22x518
- 2-PL 550x22x619
- 2-PL 393x22x592
- 2-PL 65x22x210
- 1-PL 210x22x540
- 1-PL 160x22x210
- 1-PL 532x22x1040
- 1-PL 870x22x1070

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

ブラケット1基当り（製作数:2基）

- 8-AncBolt D32x580 (SD490)
- 8-1種Nut M30用（強度区分8.8）(SS400)
- 8-3種Nut M30用（強度区分8.8）(SS400)
- 8-Washer M30用（強度区分8.8用）(SS400)

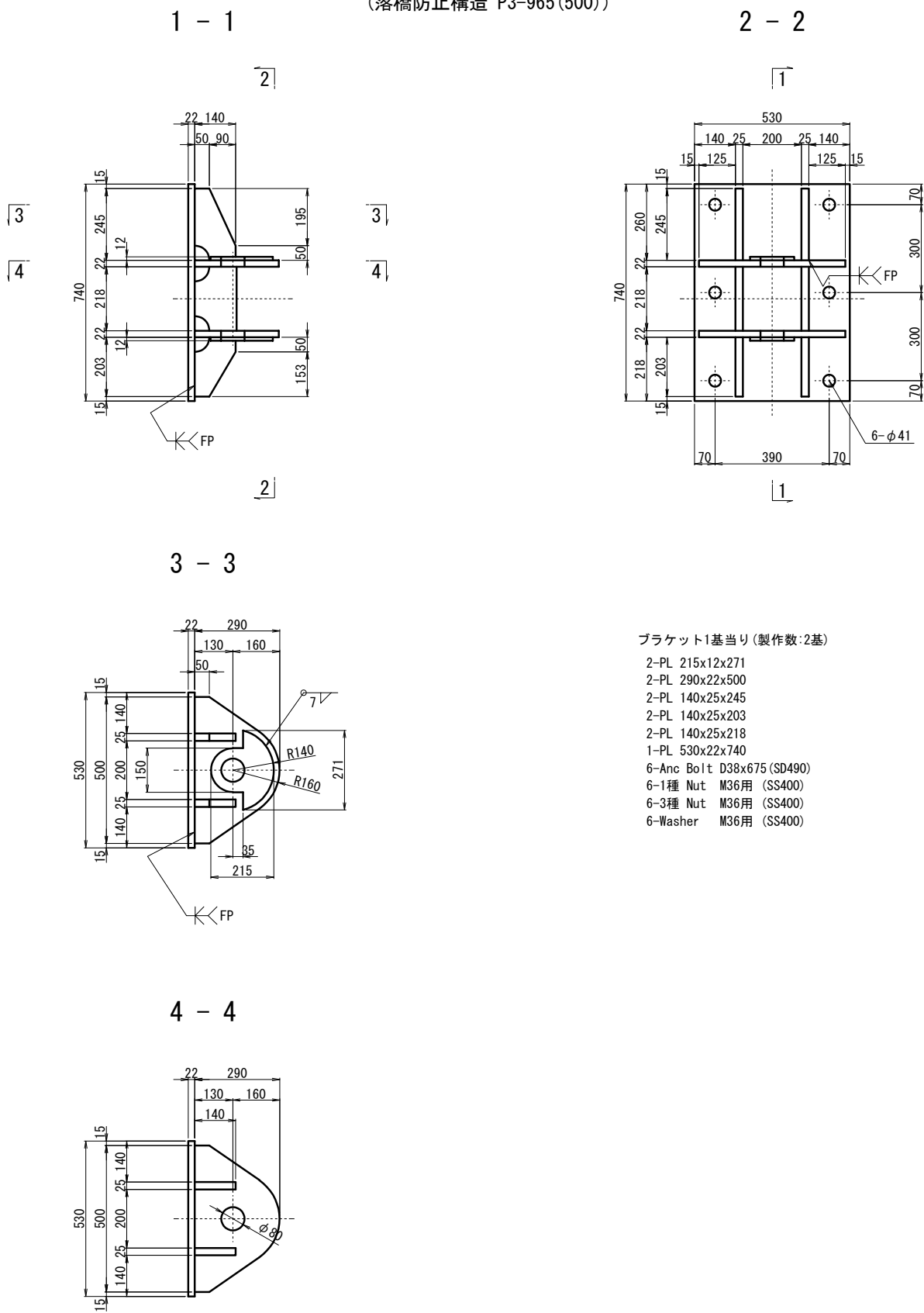
注記）

- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
- 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
- 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
- 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
垂鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
- < >内は、C2における値を示す。
- 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

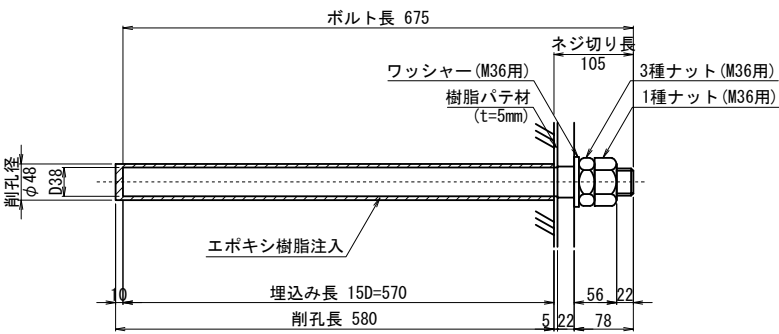
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋		
	P15橋脚（起点側）	落橋防止構造詳細図（その1）	
縮 尺	図 示	図面番号	54 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

下部エブラケット詳細図

ブラケット詳細図 S=1:10
（落橋防止構造 P3-965 (500)）



落橋防止構造 S=1:5
アンカーエ φ48・580 (水平方向)

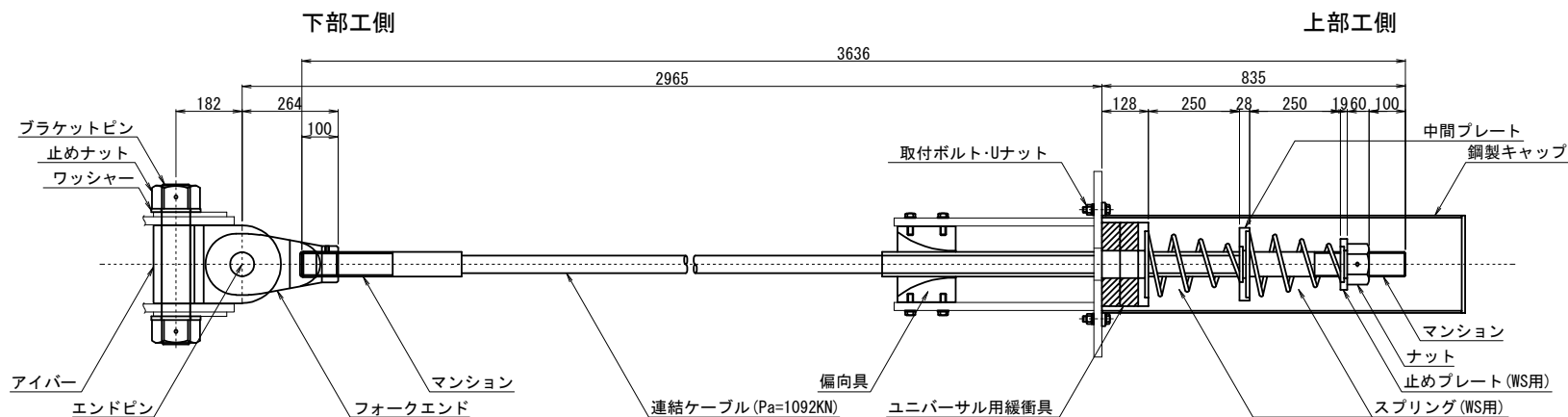


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 4. ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 5. 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋		
	P15橋脚（起点側）	落橋防止構造詳細図（その2）	
縮 尺	図 示	図面番号	55 / 88
設計会社名	バンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

取付詳細図



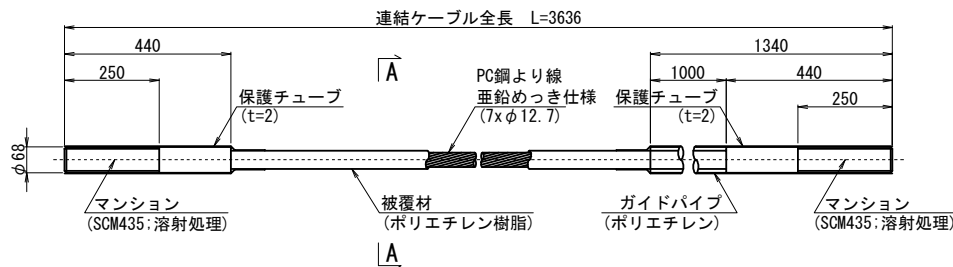
材 料 表（落橋防止構造1組当たり）

全2組

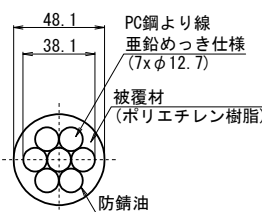
名 称		規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)		Pa=1092KN L=3636mm	本	1	PC鋼より線, 亜鉛めっき仕様, ポリエチレン被覆
		Pa=1092KN用 標準	個	2	SCM435, 亜鉛アルミ溶射, ねじきり標準 <ケーブルに組込>
		Pa=1092KN用 1000mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット		Pa=1092KN用	個	1	S45C; 亜鉛めっき (HDZT77)
止めプレート (WS用)		Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT77)
スプリング (WS用)		Pa=1092KN用 L=400	個	2	SW-C; 亜鉛めっき, クロメート処理
中間プレート		Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT77)
ユニバーサル用緩衝具		Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具 (取付ボルト)		Pa=1092KN用	個	1	ポリエチレン
		M16x50 1W付	本	8	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
鋼製キャップ		Pa=1092KN用 L=990	個	1	SS400, STK400; 亜鉛めっき (HDZT77, t=6未満HDZT70)
取付ボルト・Uナット		M16x60 2W付	本	4	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT49)
ユニバーサルシステム	ブラケットピン	Pa=1092KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
	止めナット	Pa=1092KN用	個	2	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
	ワッシャー	Pa=1092KN用	個	2	SS400相当品, 亜鉛めっき (HDZT77)
	アイバー	Pa=1092KN用	個	1	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
	フォークエンド	Pa=1092KN用	個	1	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
	エンドピン (ピン)	Pa=1092KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
	(止めプレート)	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品, 亜鉛めっき (HDZT77)

※ L=3636mm 2本

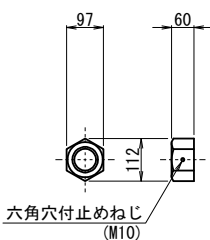
連結ケーブル



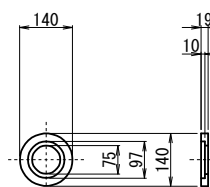
A-A断面図 S=1:2



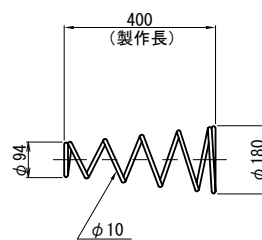
ナット
(S45C: 垂鉛めっき)



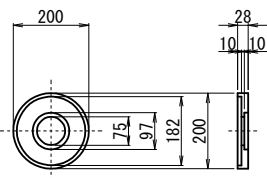
止めプレート (WS用)
(SS400相当品: 垂鉛めっき)



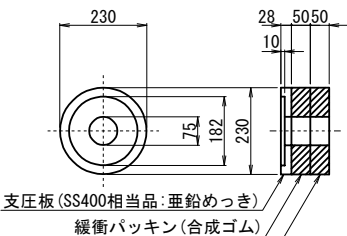
スプリング (WS用)
(SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理)



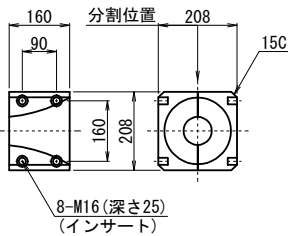
中間プレート
(SS400相当品: 垂鉛めっき)



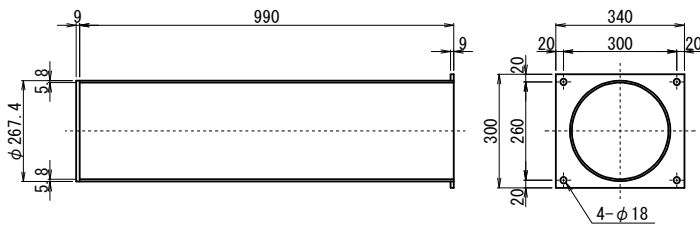
ユニバーサル用緩衝具
(支柱板+緩衝パッキン)



偏 向 具
(ポリエチレン)



鋼製キャップ
(SS400, STK400: 垂鉛めっき)

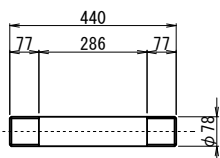


規格表

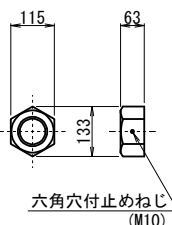
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	965 kN
設 計 遊 間 量	500 mm
設 計 耐 力	1092 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

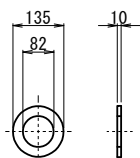
ブラケットピン
(SCM435: DMコート)



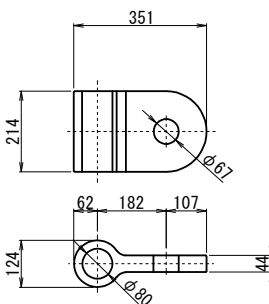
止めナット
(S45C: 垂鉛めっき)



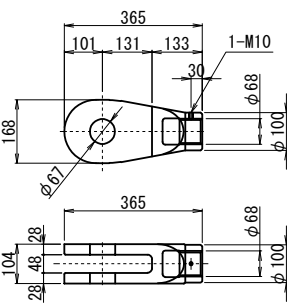
ワッシャー
(SS400相当品: 垂鉛めっき)



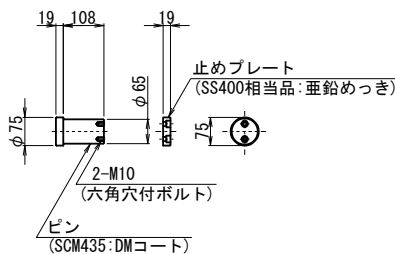
アイバー
(S45C: 垂鉛めっき)



フォークエンド
(S45C: 垂鉛めっき)



エンドピン
(ピン+止めプレート)

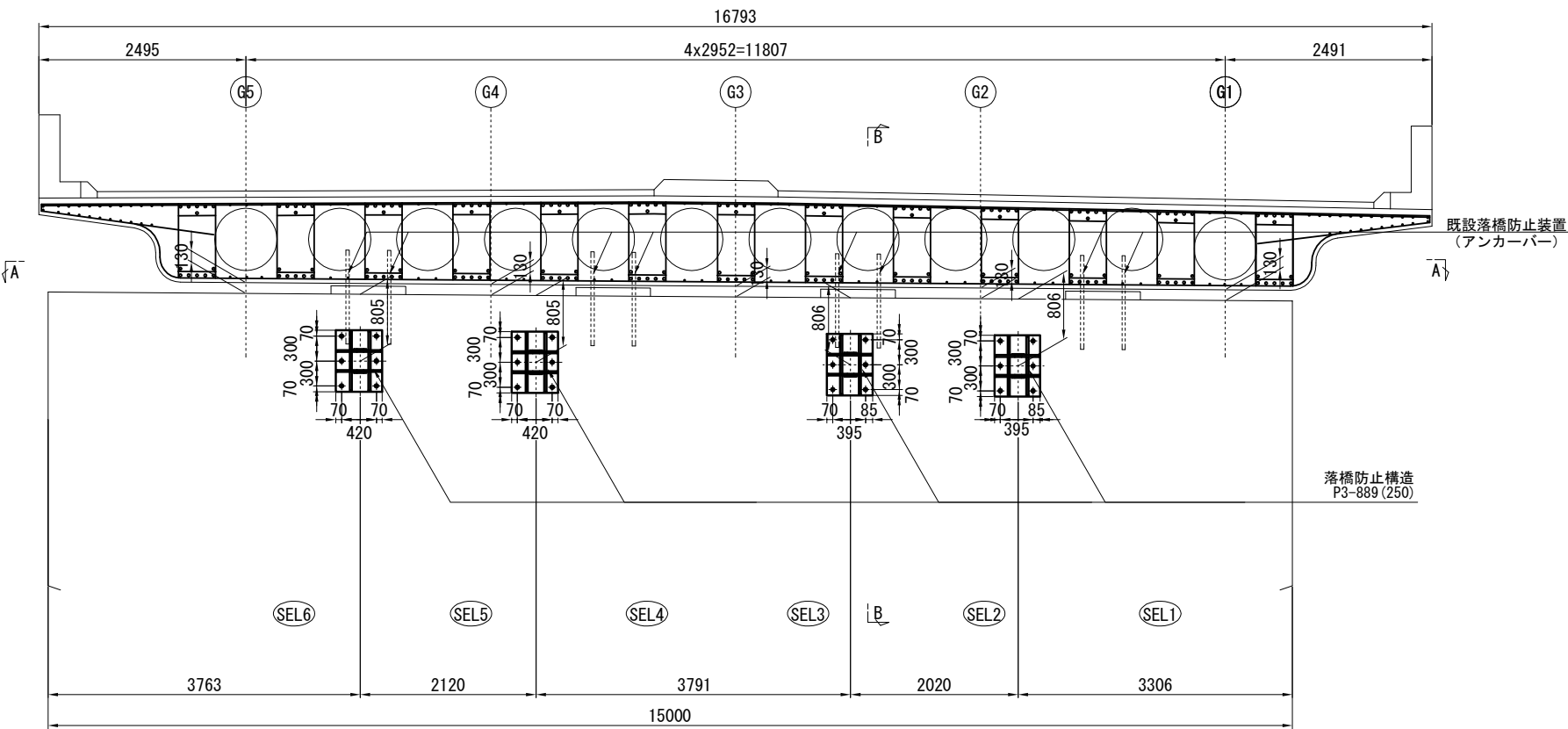


注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。

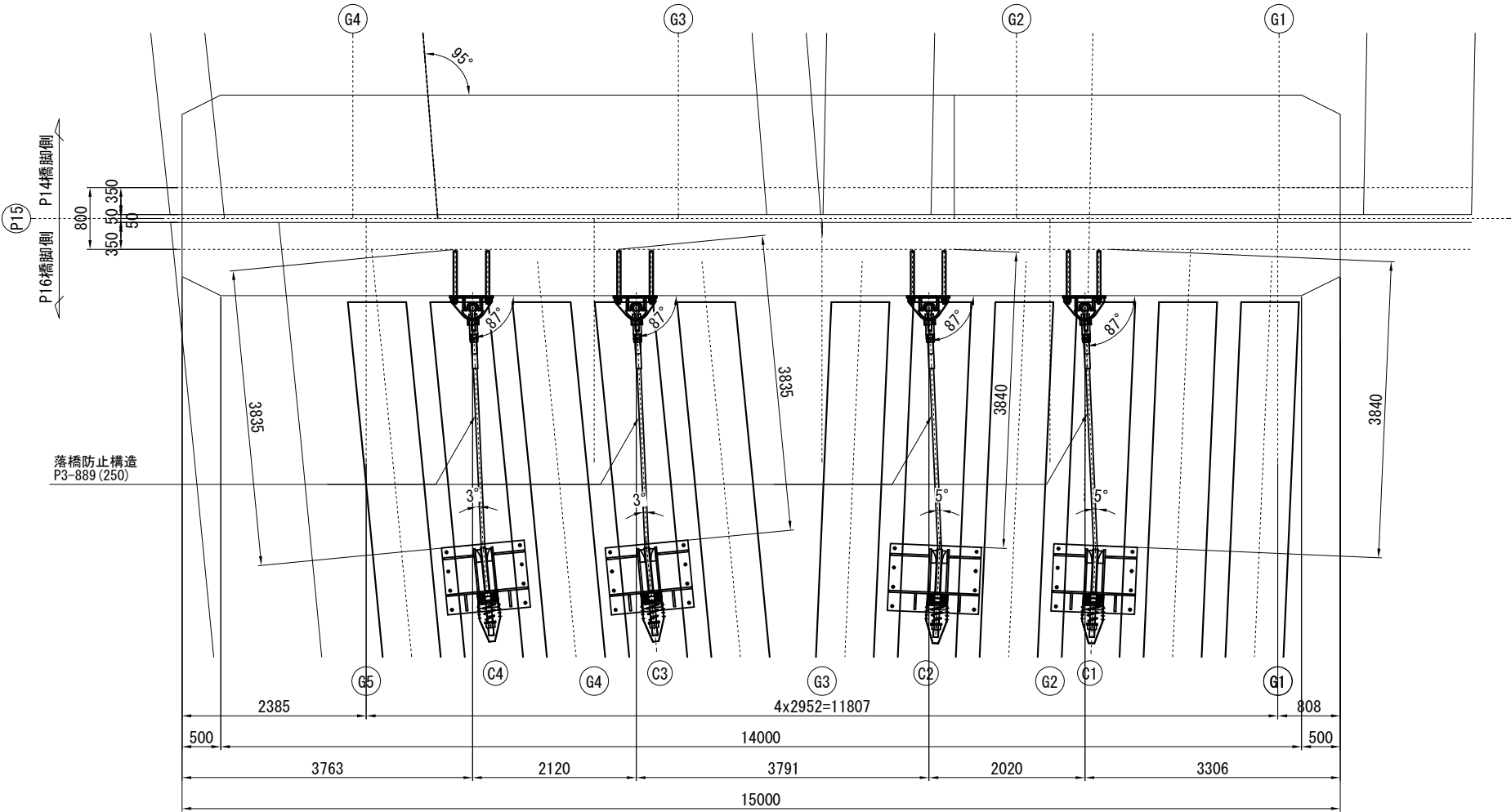
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚（起点側）落橋防止構造詳細図（その3）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	56 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷JCT第一橋 P15橋脚（終点側） 耐震補強配置図

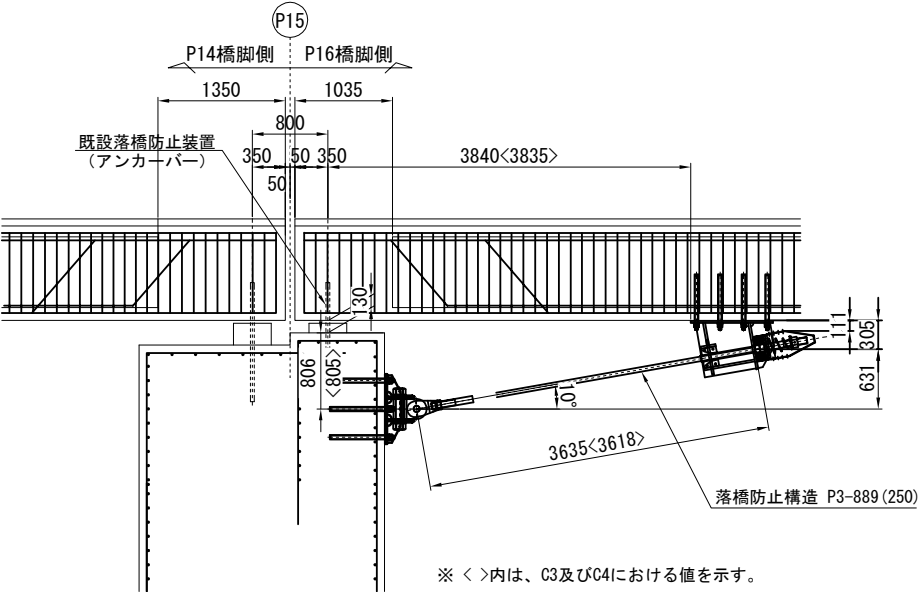
正面図 S=1:40



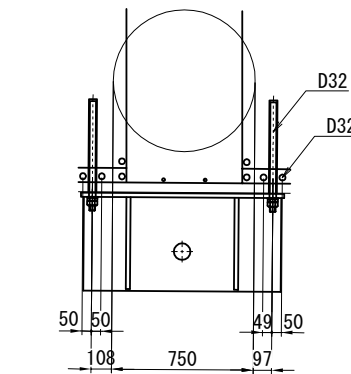
平面図 (A - A) S=1:40



側面図 (B - B) S=1:40



落橋防止構造 取付詳細図 S=1:20



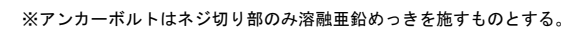
注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚（終点側） 耐震補強配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	57 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

2 - 2



4 - 4



	L1	L2	L3	L4	L5	L6	LL1	LL2
C1, C2	550	520	160	145	395	85	520	550
C3, C4	560	530	170	155	420	70	530	560

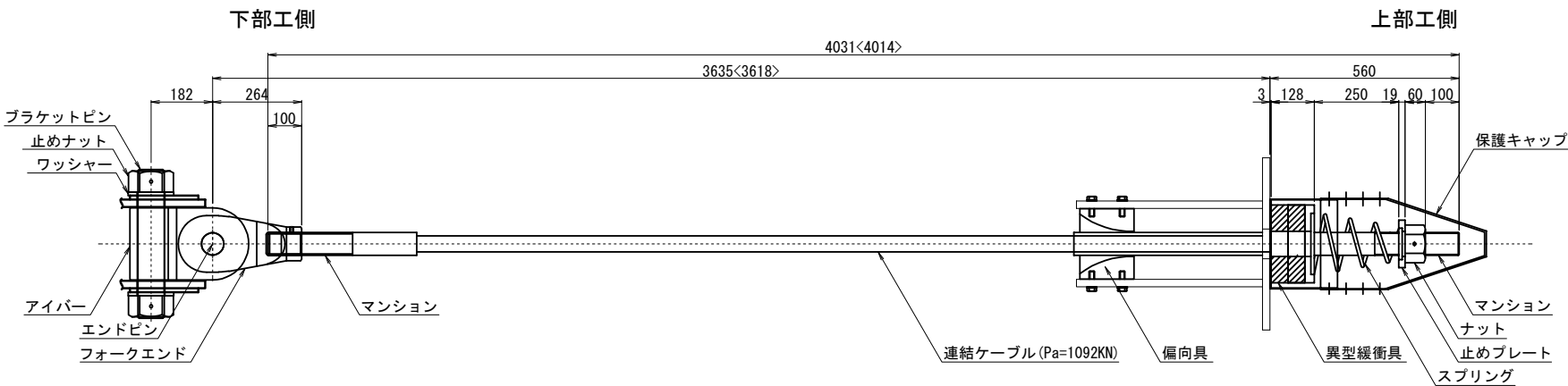
注記)

1. 特記なき材質は全てSM490Aとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕掛けとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
4. プラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
5. 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜須賀買道路 金谷谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類		金谷谷JCT第一橋 P15欄柵（兼点検） 落橋防止柵違詳細図（その2）	
縮 尺	図 式	図面番号	59 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

落橋防止構造 P3-889 (250)

取付詳細図



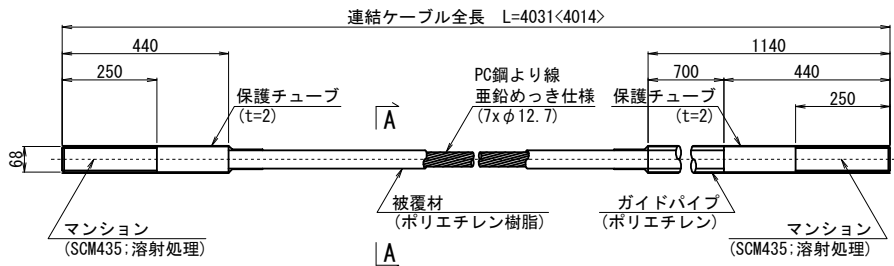
材 料 表（落橋防止構造1組当たり）

全4組

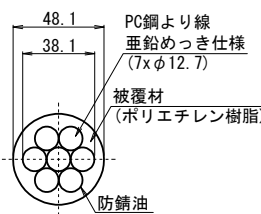
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル	Pa=1092KN L=4031<4014>mm	本	1	PC鋼より線, 垂鉛めっき仕様, ポリエチレン被覆
(マンション)	Pa=1092KN用 標準	個	2	SCM435, 垂鉛アルミ溶射, ねじり標準 <ケーブルに組込>
(ガイドパイプ)	Pa=1092KN用 700mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット	Pa=1092KN用	個	1	S45C: 垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	Pa=1092KN用	個	1	SS400: 垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング	Pa=1092KN用 L=400	個	1	SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理
異型緩衝具	Pa=1092KN用	個	1	SS400: 垂鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	Pa=1092KN用	個	1	ポリエチレン
(取付ボルト)	M16x50 1W付	本	8	SS400相当品: 垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
保護キャップ	Pa=1092KN用	組	1	ポリエチレン: 8-止めビス付
ユニバーサルシステム	Pa=1092KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
止めナット	Pa=1092KN用	個	2	S45C, 垂鉛めっき (HDZT77)
ワッシャー	Pa=1092KN用	個	2	SS400, 垂鉛めっき (HDZT77)
アイバー	Pa=1092KN用	個	1	S45C, 垂鉛めっき (HDZT77)
フォークエンド	Pa=1092KN用	個	1	S45C, 垂鉛めっき (HDZT77)
エンドピン (ピン)	Pa=1092KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
止めプレート	Pa=1092KN用	個	1	SS400, 垂鉛めっき

※ L=4031mm 2本, L=4014mm 2本

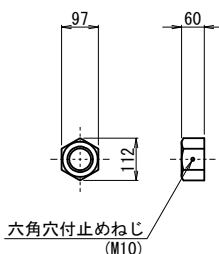
連結ケーブル



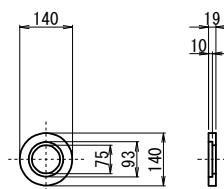
A-A断面図 S=1:2



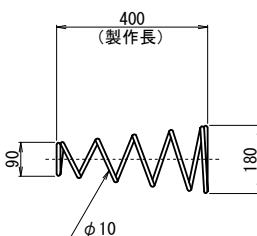
ナット (S45C: 垂鉛めっき)



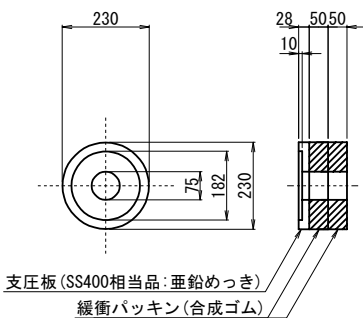
止めプレート (SS400相当品: 垂鉛めっき)



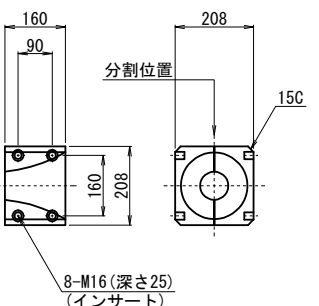
スプリング (SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理)



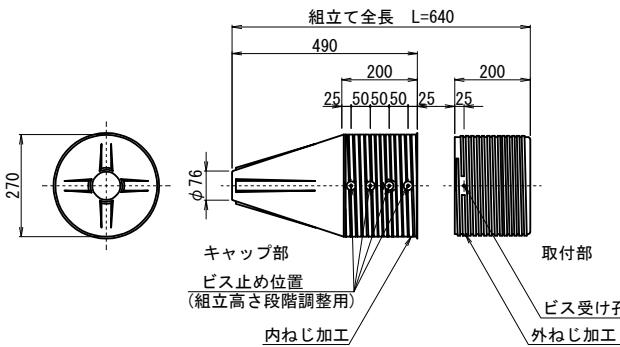
異型緩衝具 (支圧板+緩衝パッキン)



偏 向 具 (ポリエチレン)



保護キャップ (ポリエチレン)

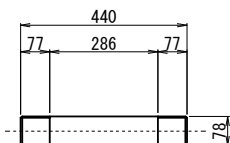


規格表

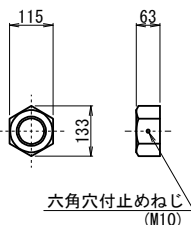
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	889 kN
設 計 遊 間 量	250 mm
設 計 耐 力	1092 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

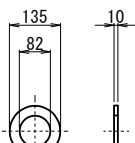
ブラケットピン (SCM435: DMコート)



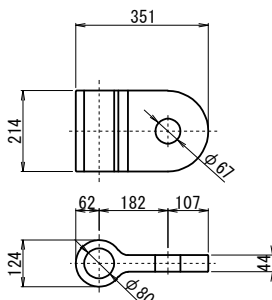
止めナット (S45C: 垂鉛めっき)



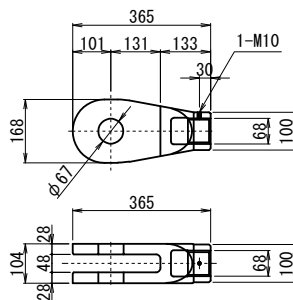
ワッシャー (SS400: 垂鉛めっき)



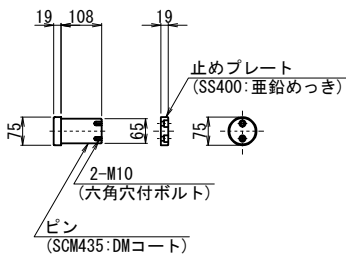
アイバー (S45C: 垂鉛めっき)



フォークエンド (S45C: 垂鉛めっき)



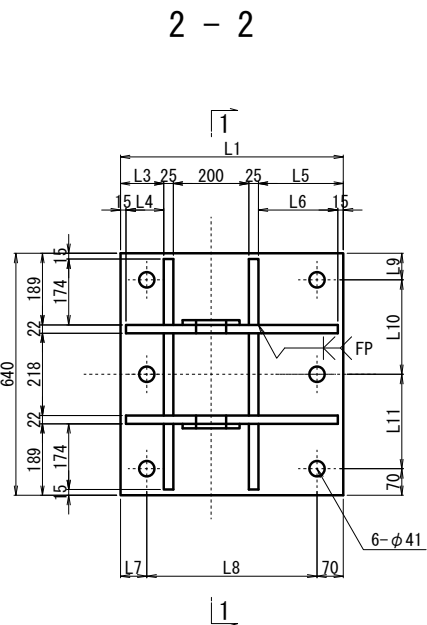
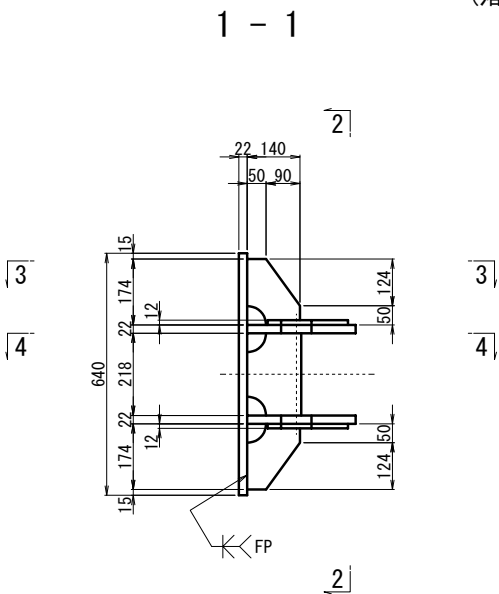
エンドピン (ピン+止めプレート)



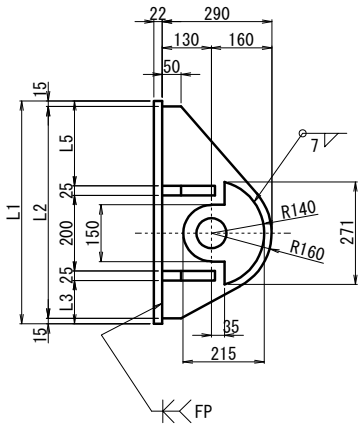
注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
2. < >内は、C3及びC4における値を示す。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚（終点側）落橋防止構造詳細図（その3）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	60 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

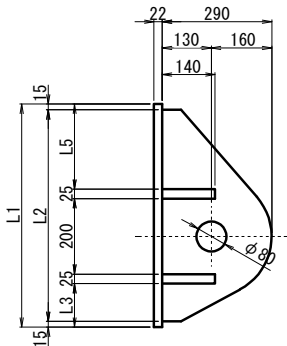
ブラケット詳細図 S=1:10
(落橋防止構造 P3-962 (250))



3 - 3



4 - 4

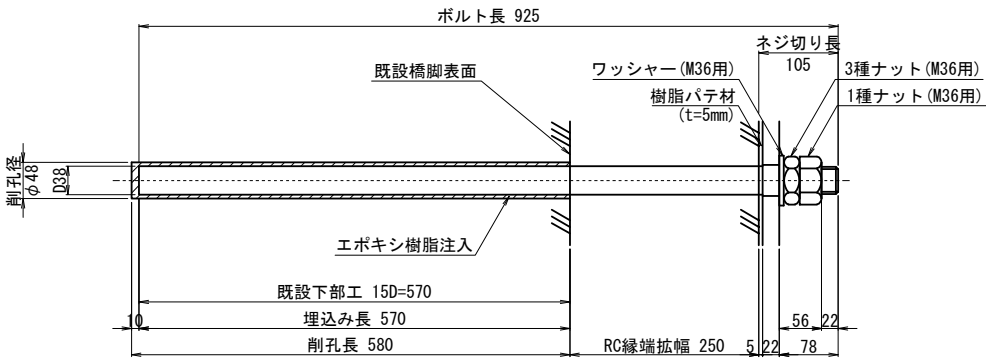


ブラケット1基当り(製作数:3基)

- 2-PL 215x12x271
- 2-PL 290x22xLL1
- 4-PL 140x25x174
- 2-PL 140x25x218
- 1-PL LL2x22x640
- 6-Anc Bolt D38x925 (SD490)
- 6-1種 Nut M36用 (SS400)
- 6-3種 Nut M36用 (SS400)
- 6-Washer M36用 (SS400)

	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	LL1	LL2
C1, C2	590	560	115	100	225	210	70	450	70	250	250	560	590
C3	530	500	140	125	140	125	95	365	85	240	245	500	530

落橋防止構造 S=1:5
アンカーエφ48・580(水平方向)

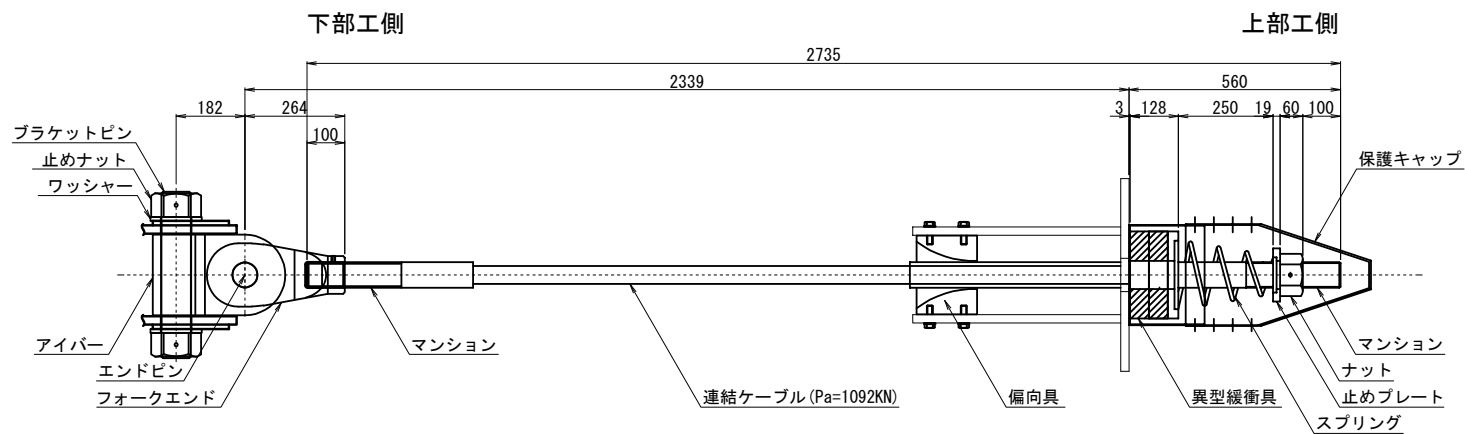


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 - 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 落橋防止構造詳細図(その2)		
	縮 尺	図 示	図面番号 63 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

取付詳細図



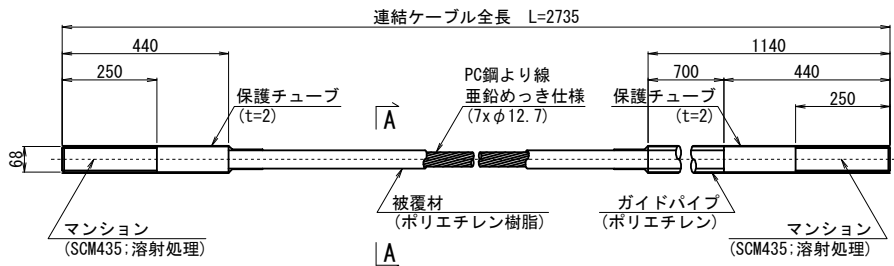
材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

全3組

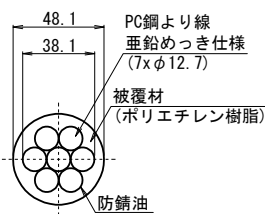
名 称		規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル		Pa=1092KN L=2735mm	本	1	PC鋼より線、亜鉛めっき仕様、ポリエチレン被覆
(マンション)		Pa=1092KN用 標準	個	2	SCM435、亜鉛アルミ溶射、ねじきり標準 <ケーブルに組込>
(ガイドパイプ)		Pa=1092KN用 700mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット		Pa=1092KN用	個	1	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
止めプレート		Pa=1092KN用	個	1	SS400、亜鉛めっき (HDZT77)
スプリング		Pa=1092KN用 L=400	個	1	SW-C、亜鉛めっき、クロメート処理
異型緩衝具		Pa=1092KN用	個	1	SS400、亜鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具		Pa=1092KN用	個	1	ポリエチレン
(取付ボルト)		M16x50 1W付	本	8	SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
保護キャップ		Pa=1092KN用	組	1	ポリエチレン、8-止めビス付
ユニバーサルシステム	ブラケットピン	Pa=1092KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズド処理、DMコート
	止めナット	Pa=1092KN用	個	2	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
	ワッシャー	Pa=1092KN用	個	2	SS400、亜鉛めっき (HDZT77)
	アイバー	Pa=1092KN用	個	1	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
	フォークエンド	Pa=1092KN用	個	1	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
	エンドピン (ピン)	Pa=1092KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズド処理、DMコート
	(止めプレート)	Pa=1092KN用	個	1	SS400、亜鉛めっき

※ L=2735mm 3本

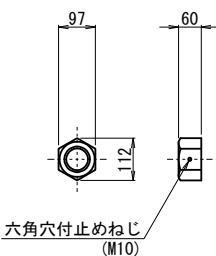
連結ケーブル



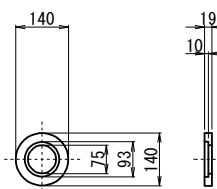
A-A断面図 S=1:2



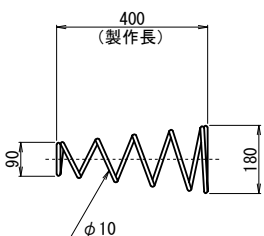
ナット
(S45C: 垂鉛めっき)



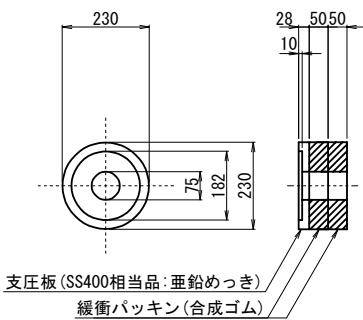
止めプレート
(SS400相当品: 垂鉛めっき)



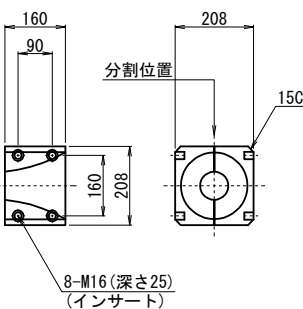
スプリング
(SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理)



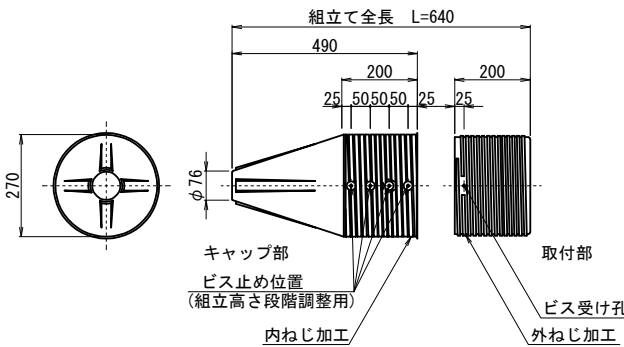
異型緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



偏 向 具
(ポリエチレン)



保護キャップ
(ポリエチレン)

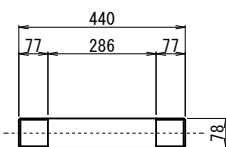


規格表

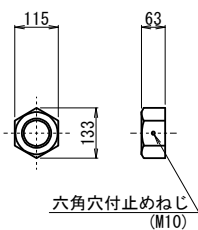
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	962 kN
設 計 遊 間 量	250 mm
設 計 耐 力	1092 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

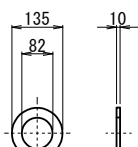
ブラケットピン
(SCM435: DMコート)



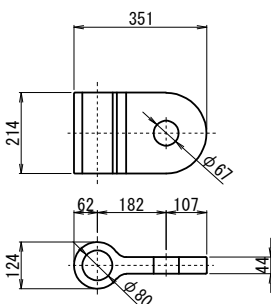
止めナット
(S45C: 垂鉛めっき)



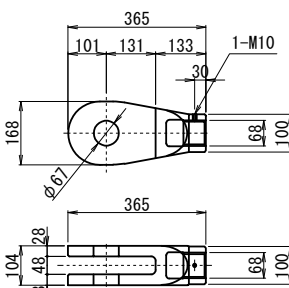
ワッシャー
(SS400: 垂鉛めっき)



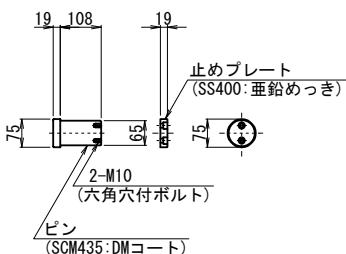
アイバー
(S45C: 垂鉛めっき)



フォークエンド
(S45C: 垂鉛めっき)



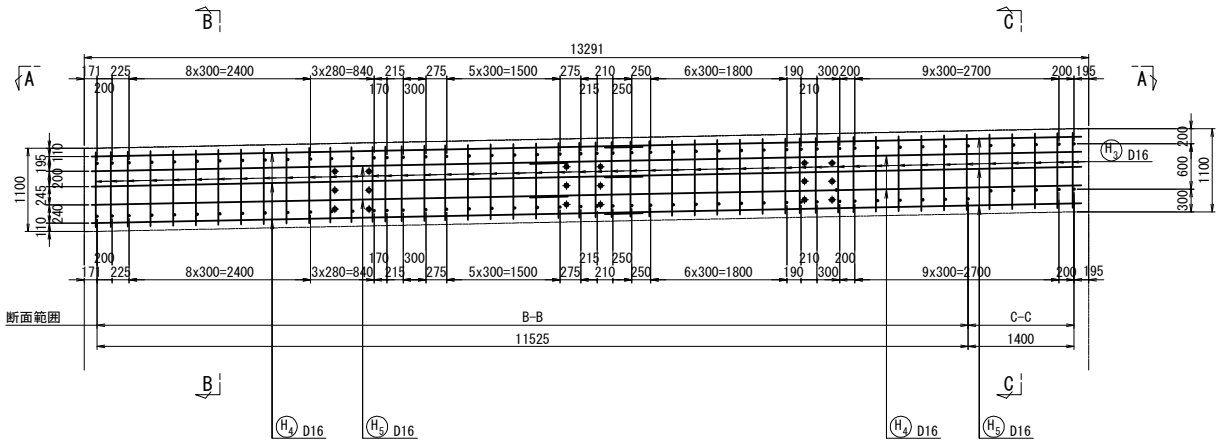
エンドピン
(ピン+止めプレート)



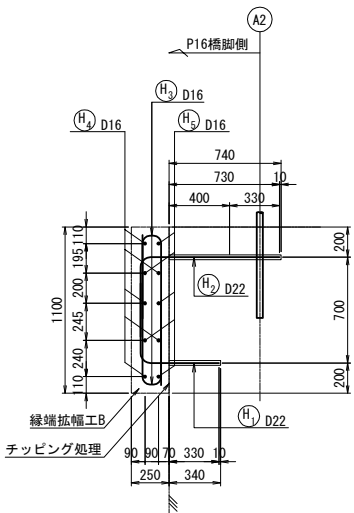
- 注記)
- 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
 - < >内は、C3における値を示す。

釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 落橋防止構造詳細図(その3)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	64 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

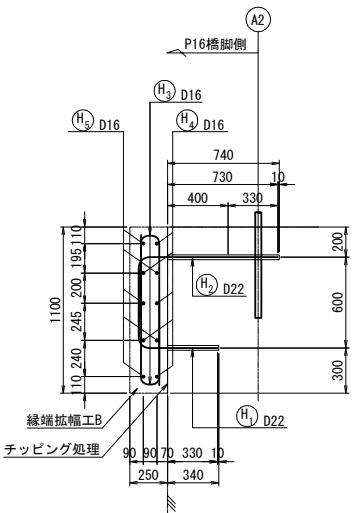
正面図 S=1:50



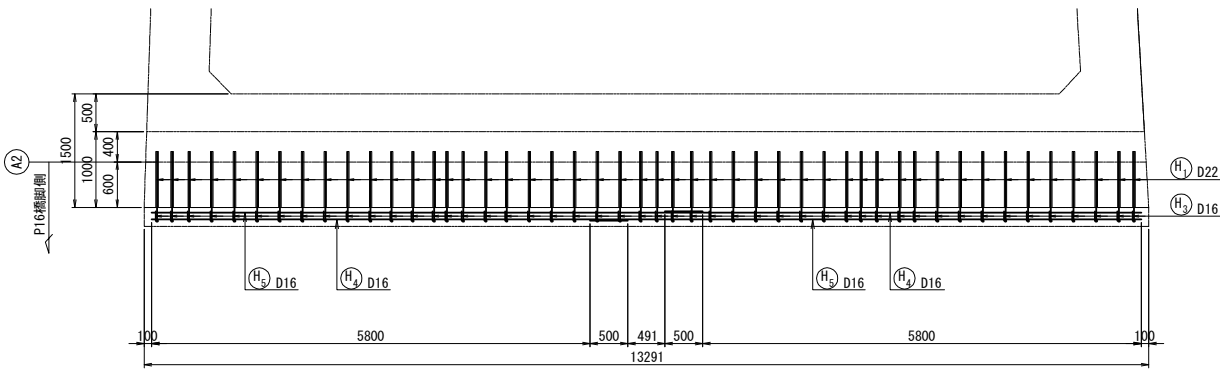
B - B S=1:25



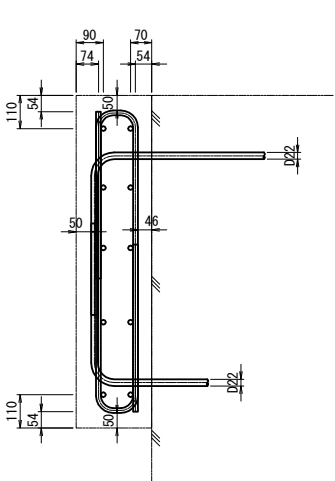
C - C S=1:25



平面図(A - A) S=1:50

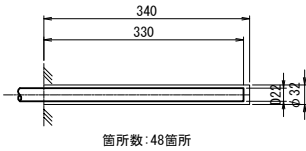


鉄筋かぶり詳細 S=1:12.5

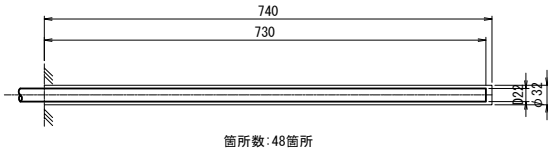


アンカー鉄筋定着詳細図 S=1:6.25

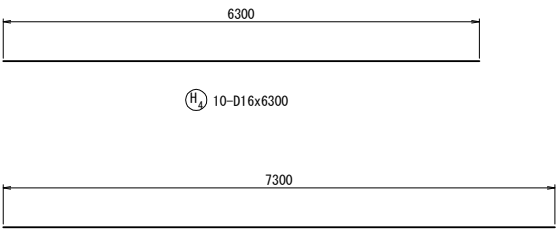
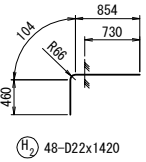
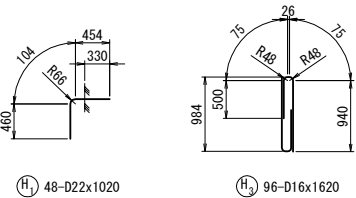
縁端拡幅工B
アンカーエφ32・340(水平方向)



縁端拡幅工B
アンカーエφ32・740(水平方向)



鉄筋加工図 S=1:50



鉄筋加工寸法表

曲げ加工 <直角フック>					
径	$\theta \leq 90^\circ$		$\theta > 90^\circ$		減長
	R=3.0φ	R=5.5φ	a	b	
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

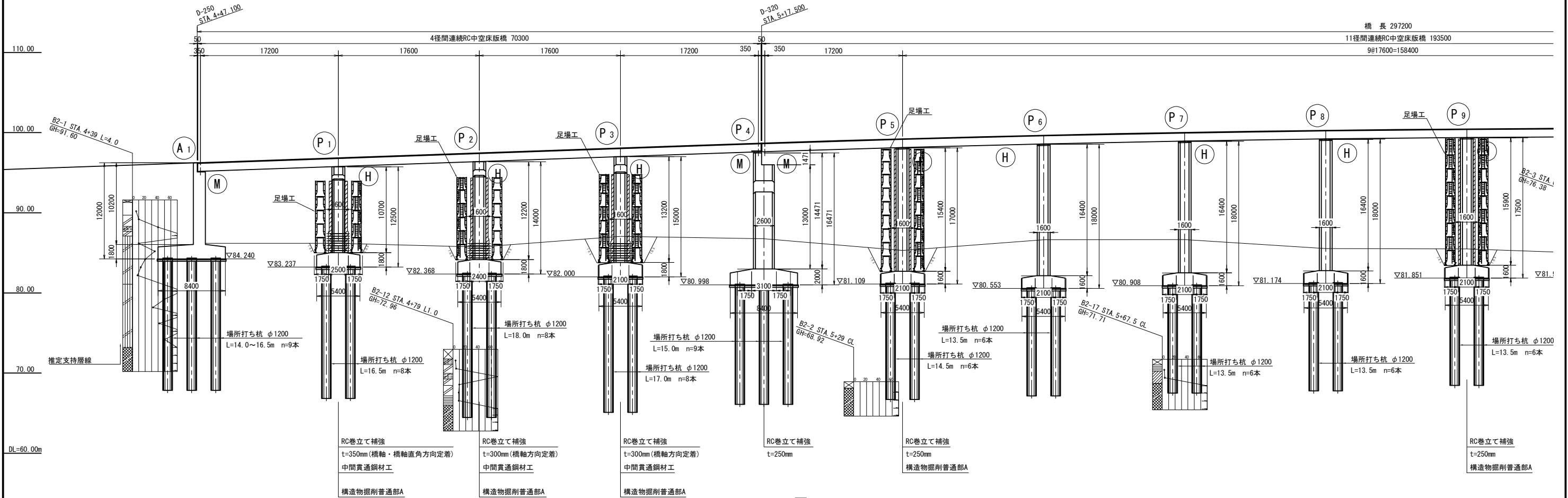
鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	備考
H1	D22	1020	48	3.04	3.10	149	
H2	D22	1420	48	3.04	4.32	207	
H3	D16	1620	96	1.56	2.53	243	
H4	D16	6300	10	1.56	9.83	98	
H5	D16	7300	10	1.56	11.39	114	
鉄筋質量(SD345)							
					D16	455	kg
					D22	356	kg
縁端拡幅工B 鉄筋					合計	811	kg
縁端拡幅工B コンクリート							3.655 m3
縁端拡幅工B 型わく							18.49 m2

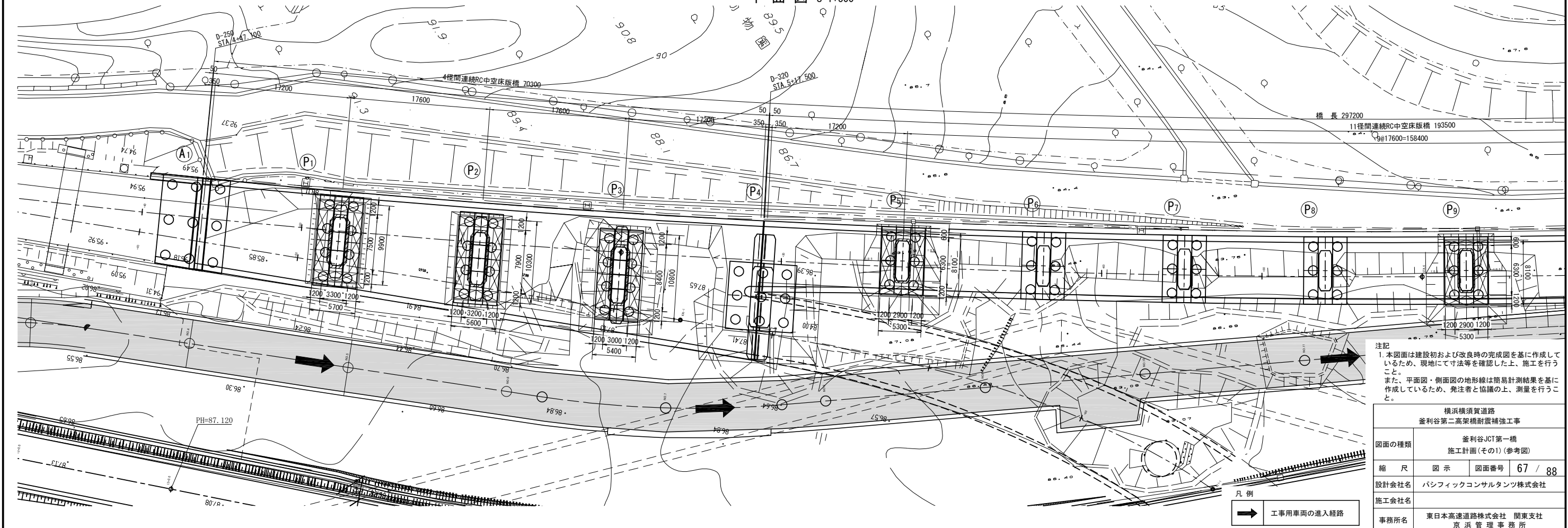
- 注記)
- 製作は現地にて寸法を計測し確認後行なうこと。
 - 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し既設鉄筋は、切断しないこと。また、既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
 - コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 縁端拡幅工B詳細図		
	縮 尺	図 示	図面番号 65 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

【柱補強時】
側面図 S=1:500



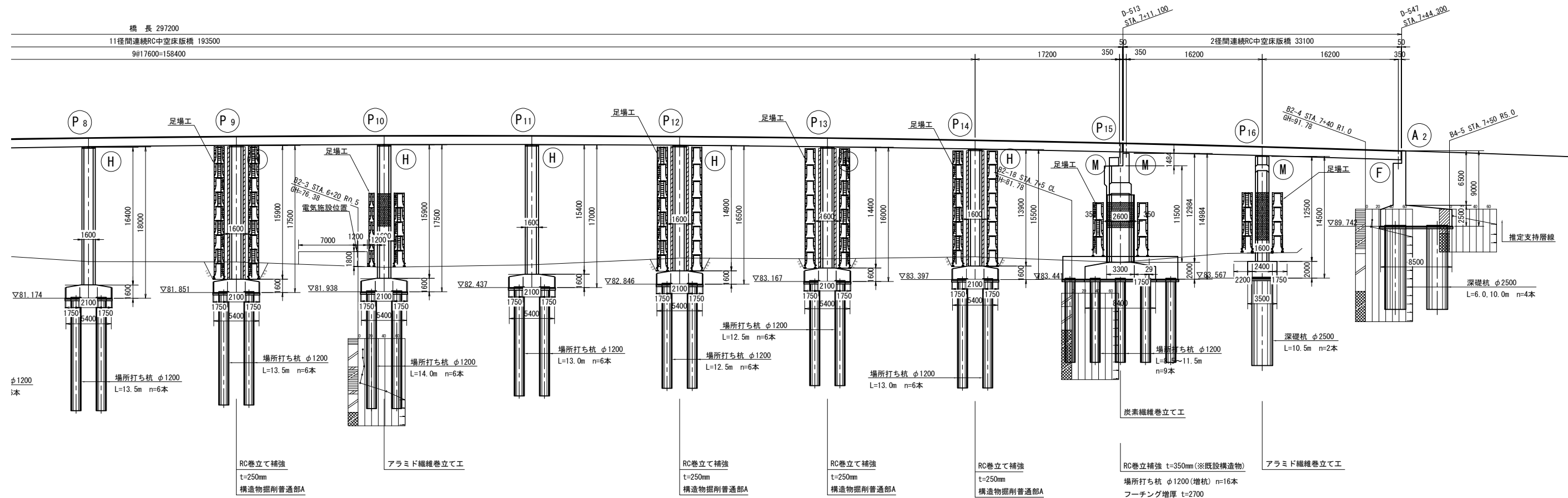
平面图 S=1:500



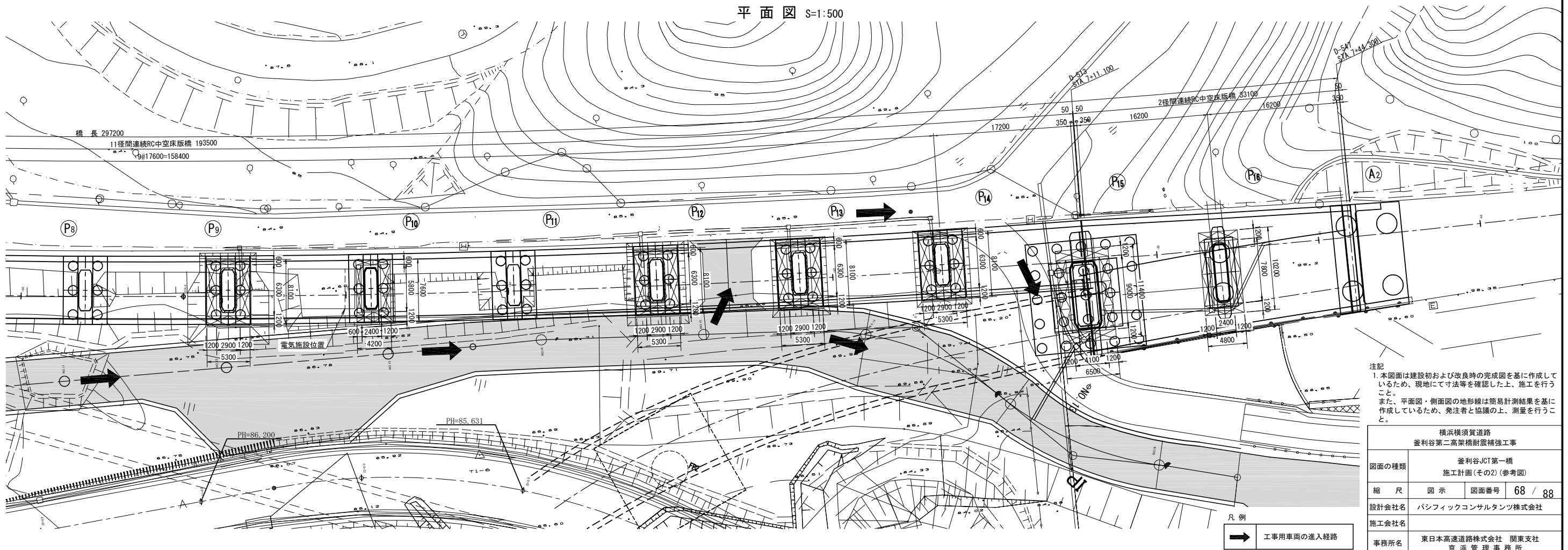
注記
1. 本図面は建設初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事	
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 施工計画（その1）（参考図）
縮 尺	図 示 図面番号 67 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東東支社 京 浜 管 理 事 務 所

【柱補強時】
側面図 S=1:500



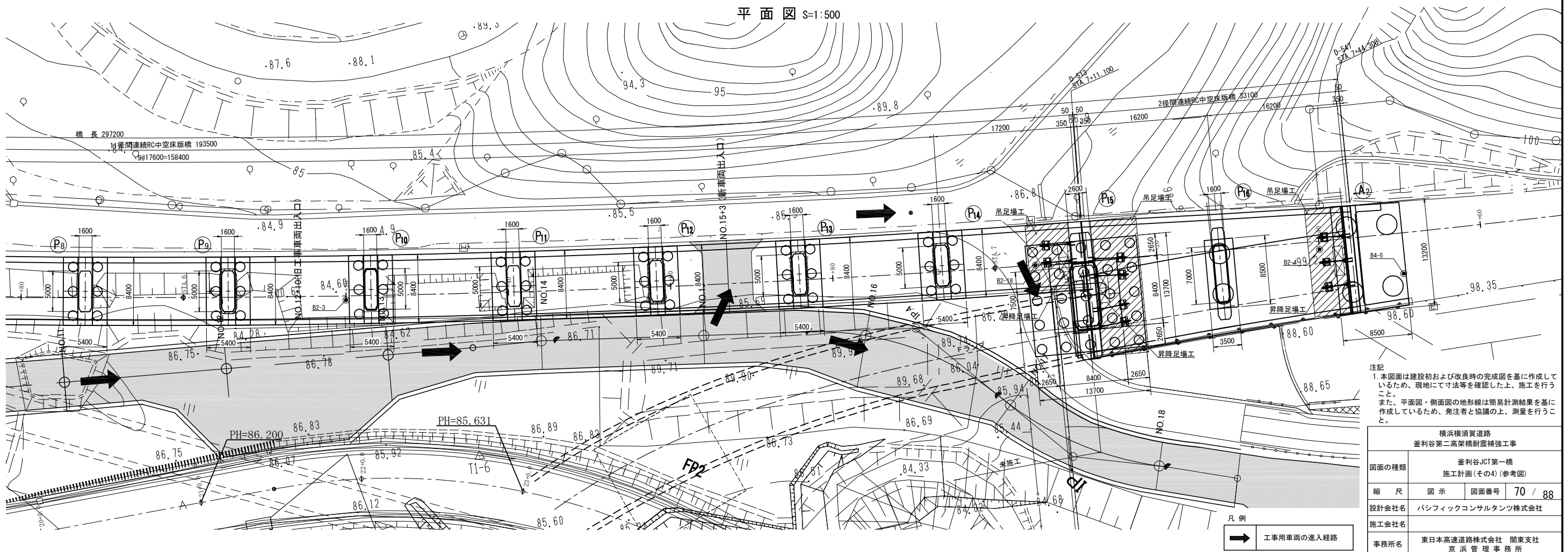
平面图 S=1:500



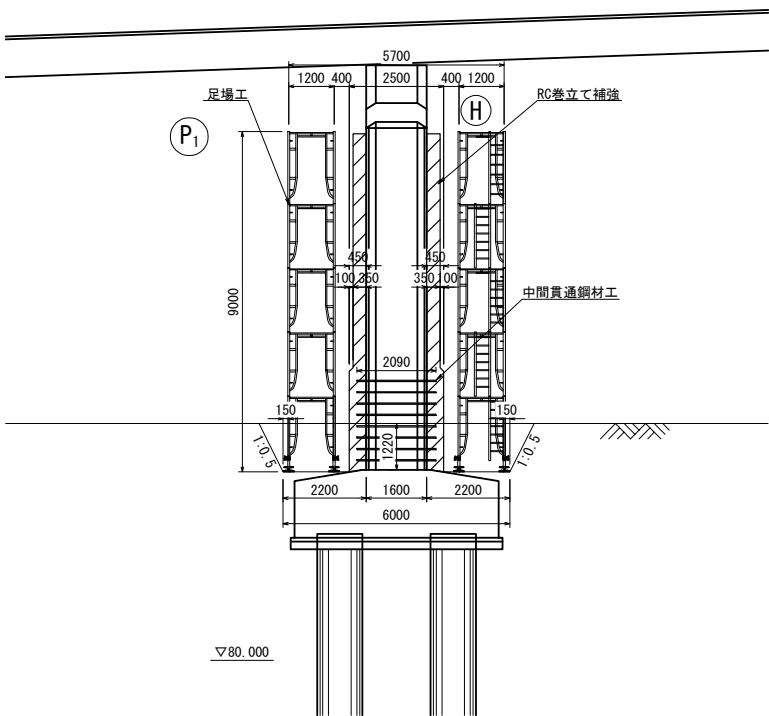
注記
1. 本図面は建設初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 施工計画（その2）（参考図）		
	縮 尺	図 示	図面番号 68 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 倉 庫 管 理 課 所		

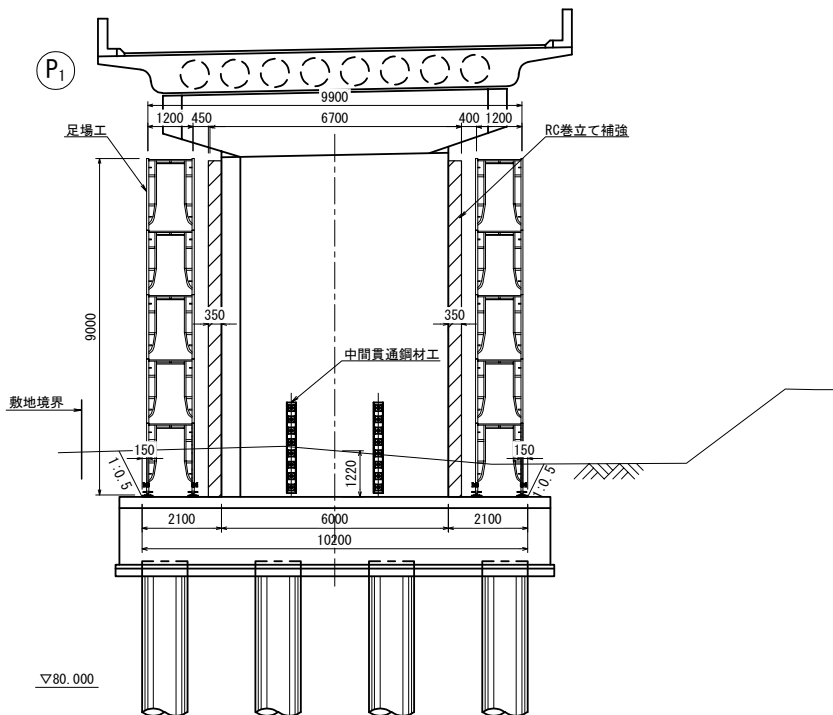
側面図 S=1:500



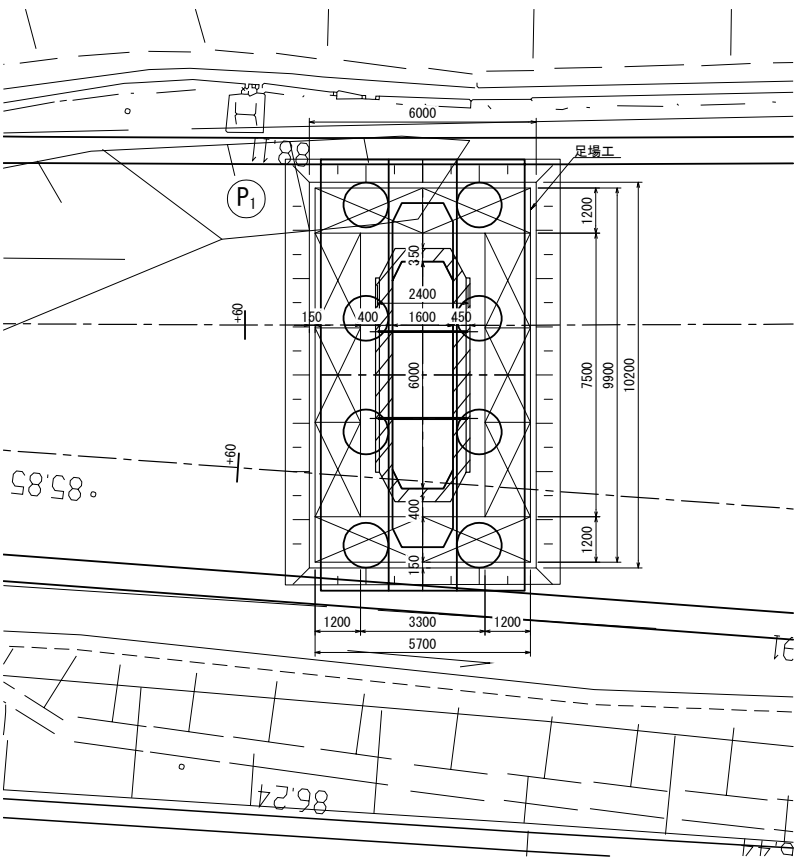
側 面 図



正 面 図



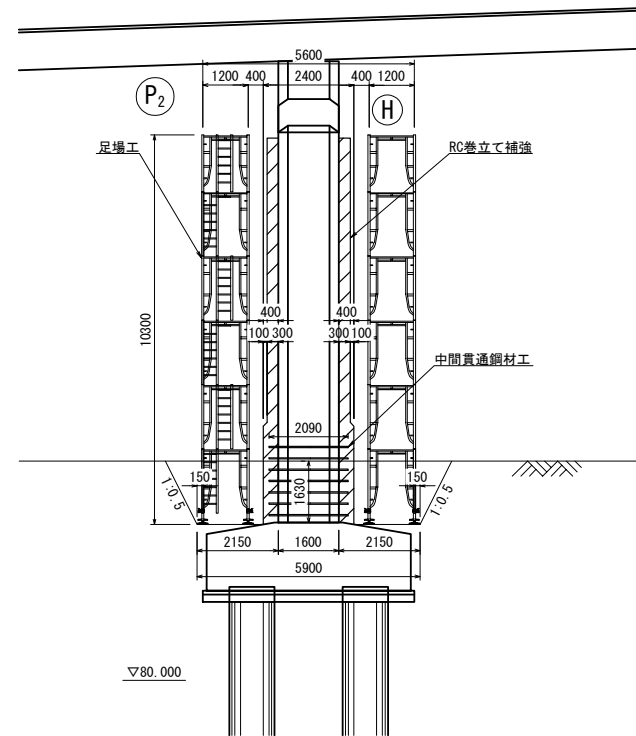
平 面 図



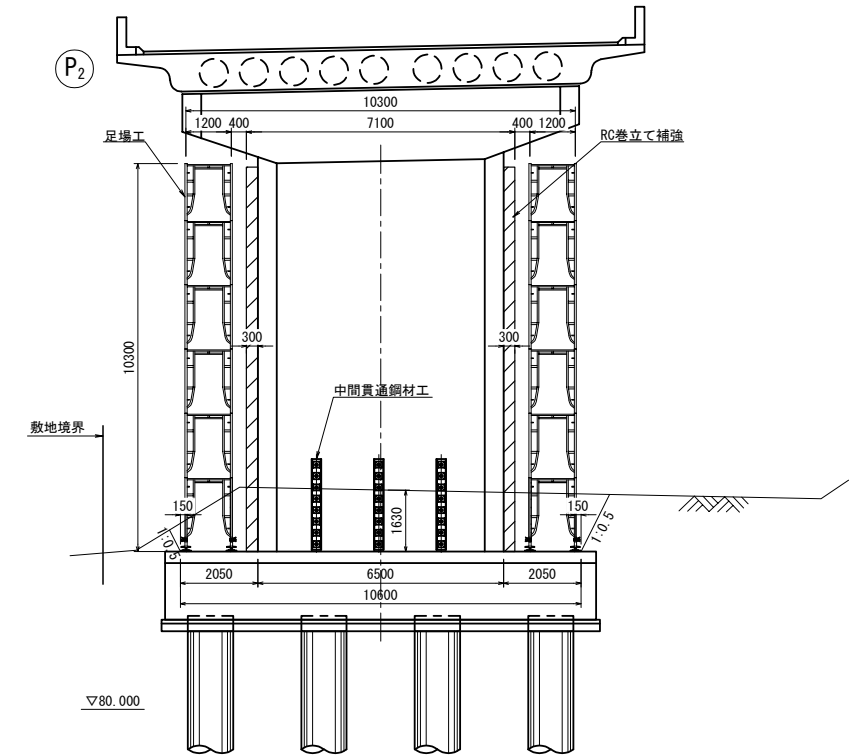
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その1)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	71 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

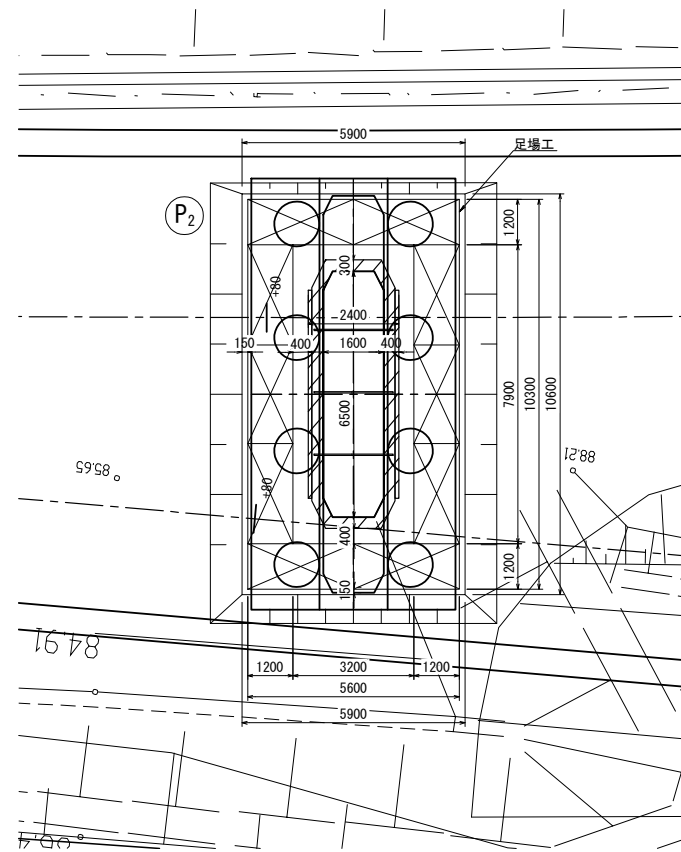
側 面 図



正 面 图



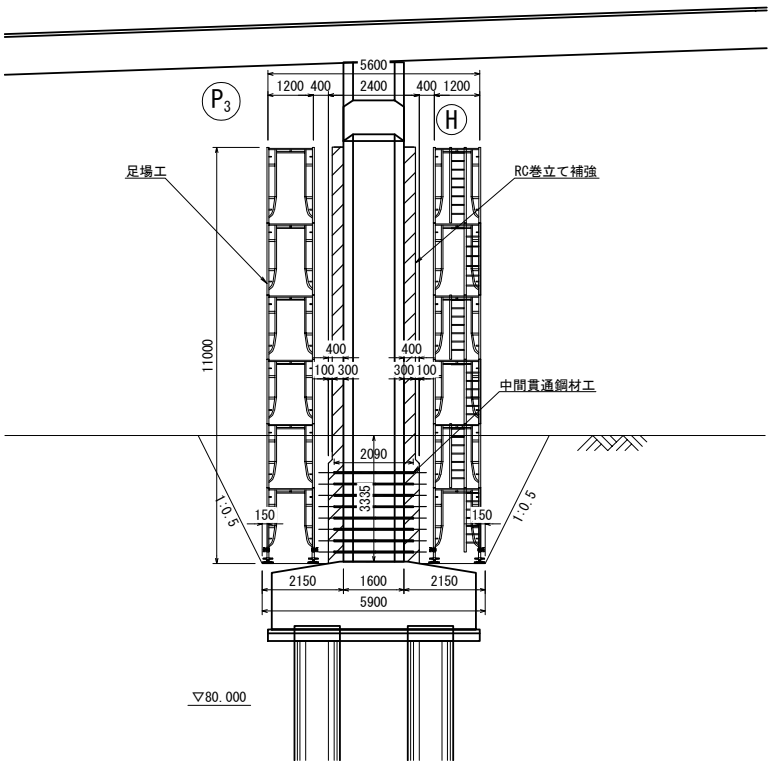
平面图



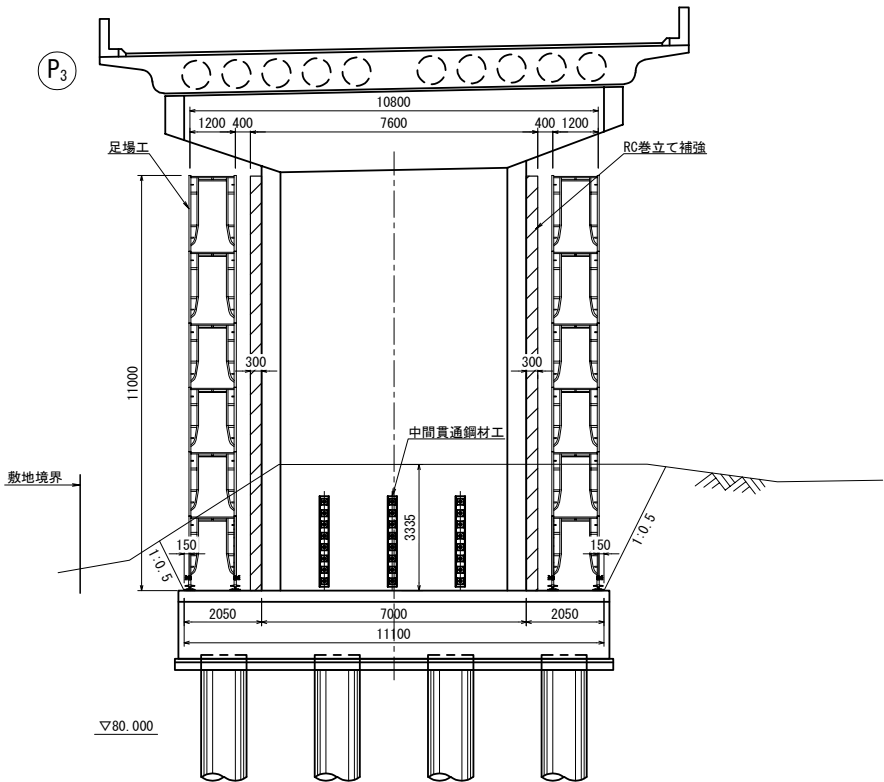
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

<p>横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図（橋脚補強施工時）（その2）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	72 / 88
設計社社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

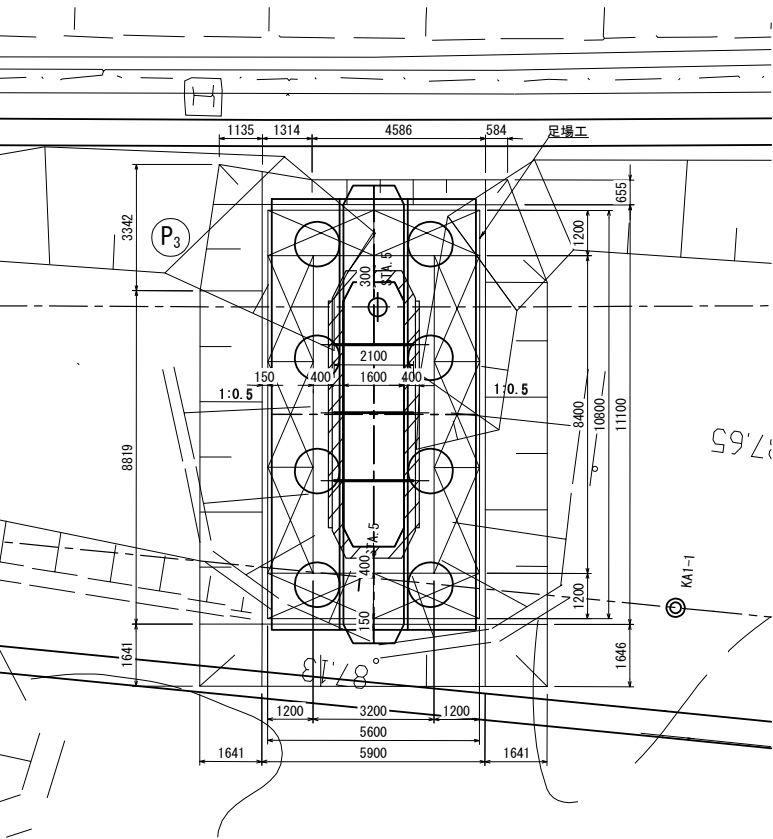
側面図



正面図



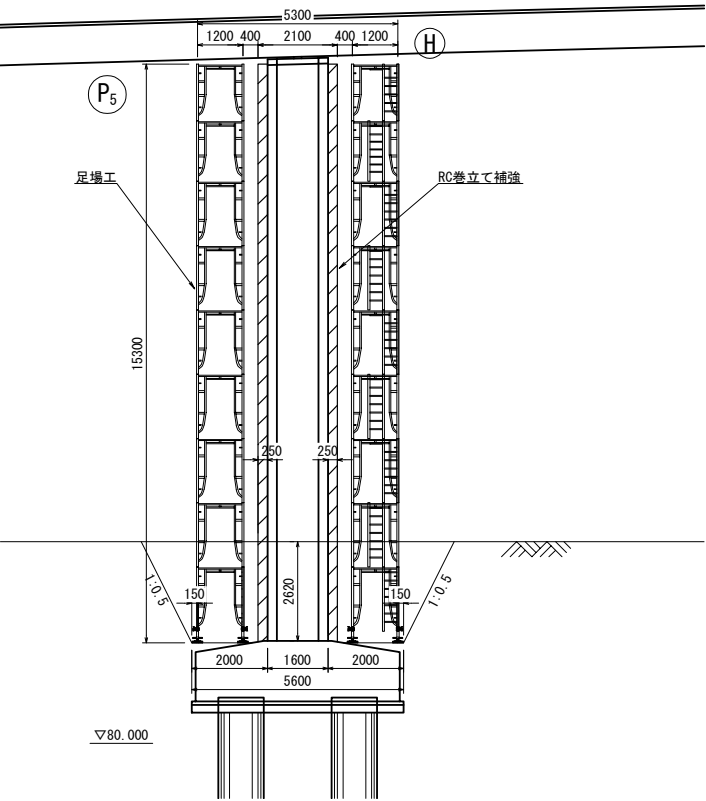
平面図



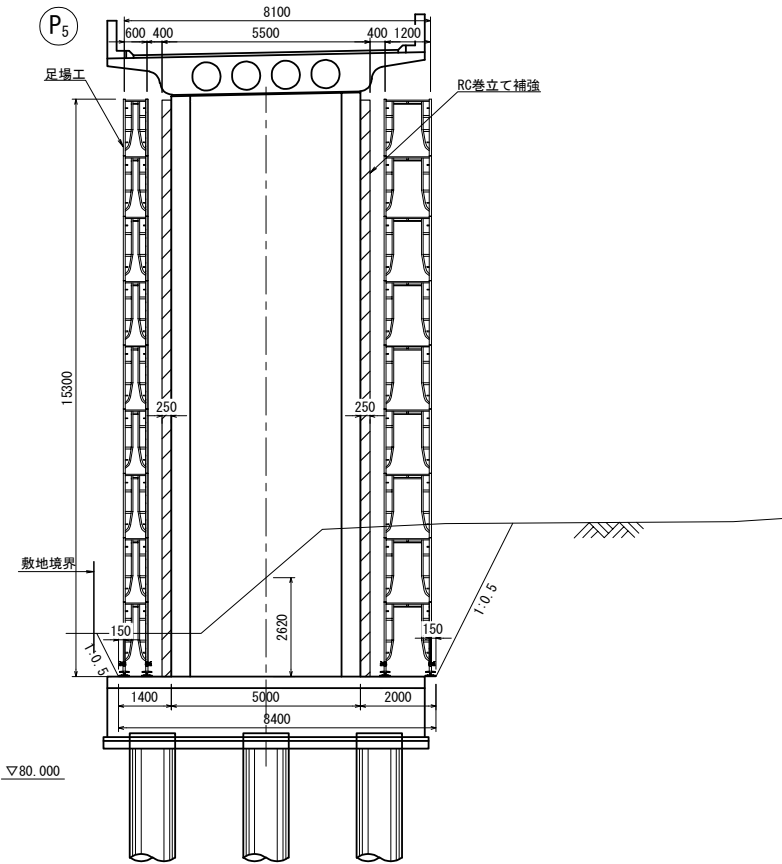
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その3)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	73 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

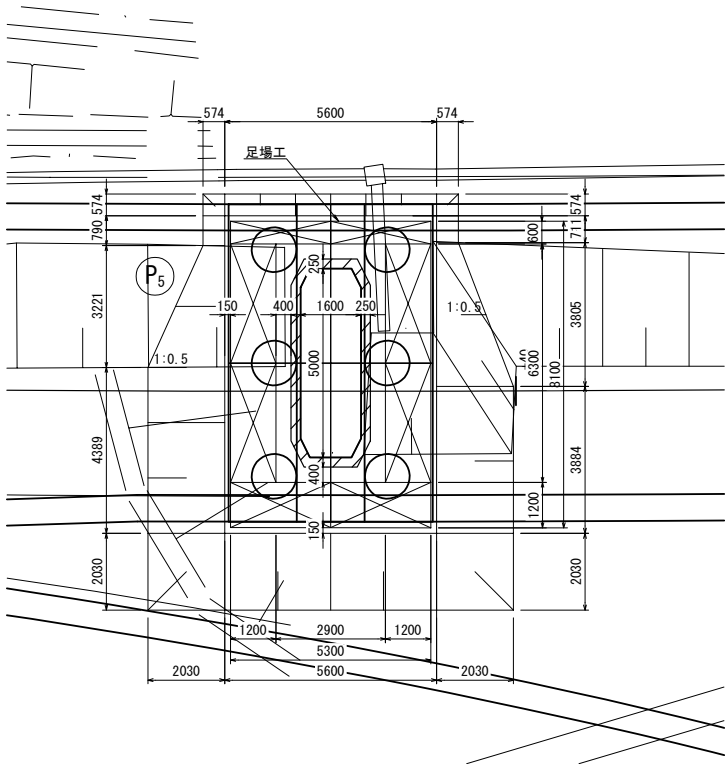
側面図



正面図



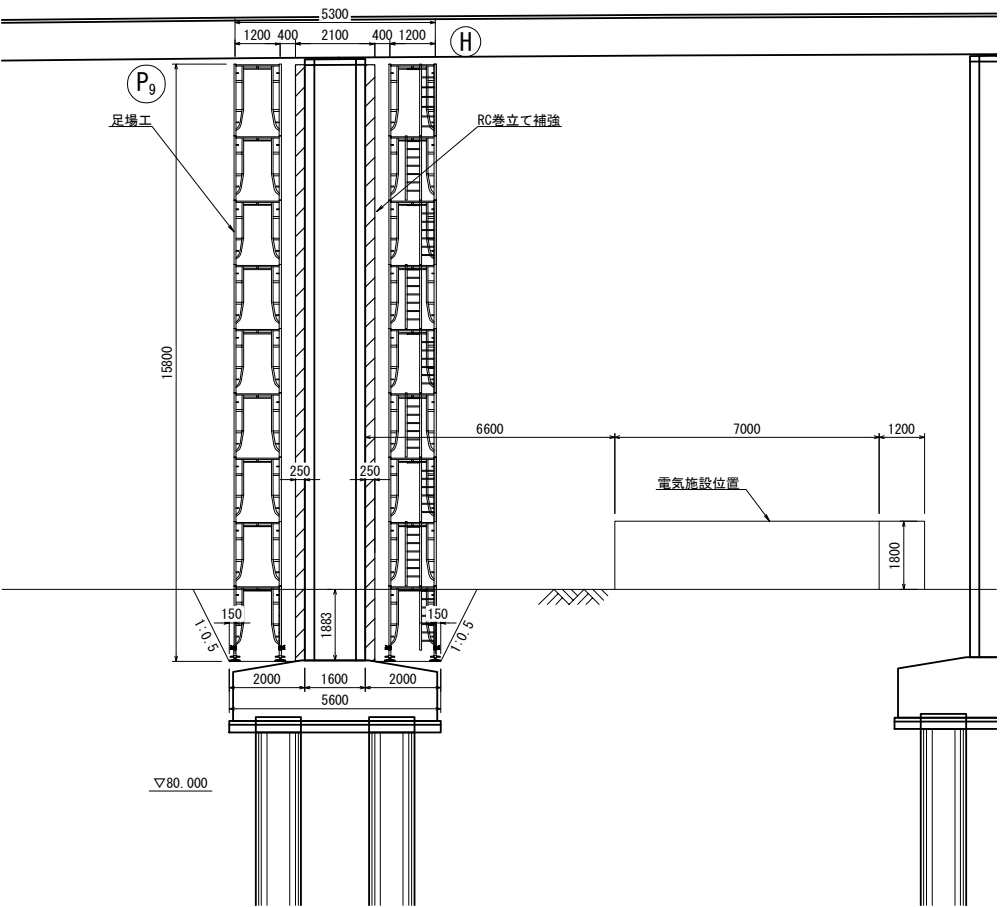
平面図



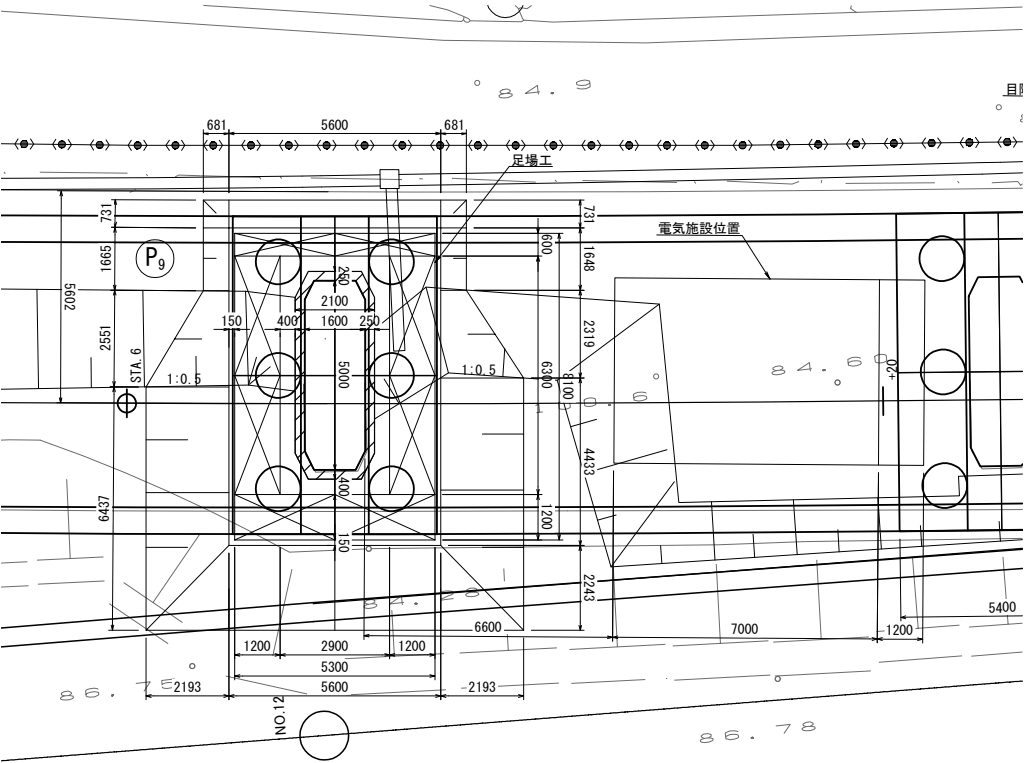
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その4)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	74 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

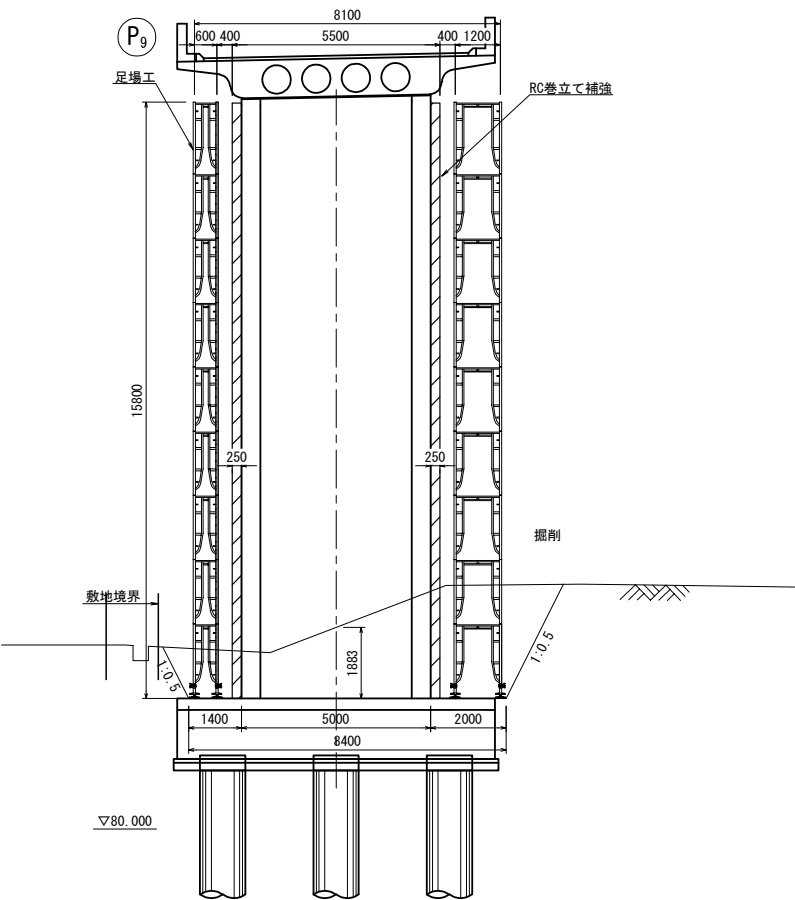
側面図



平面図



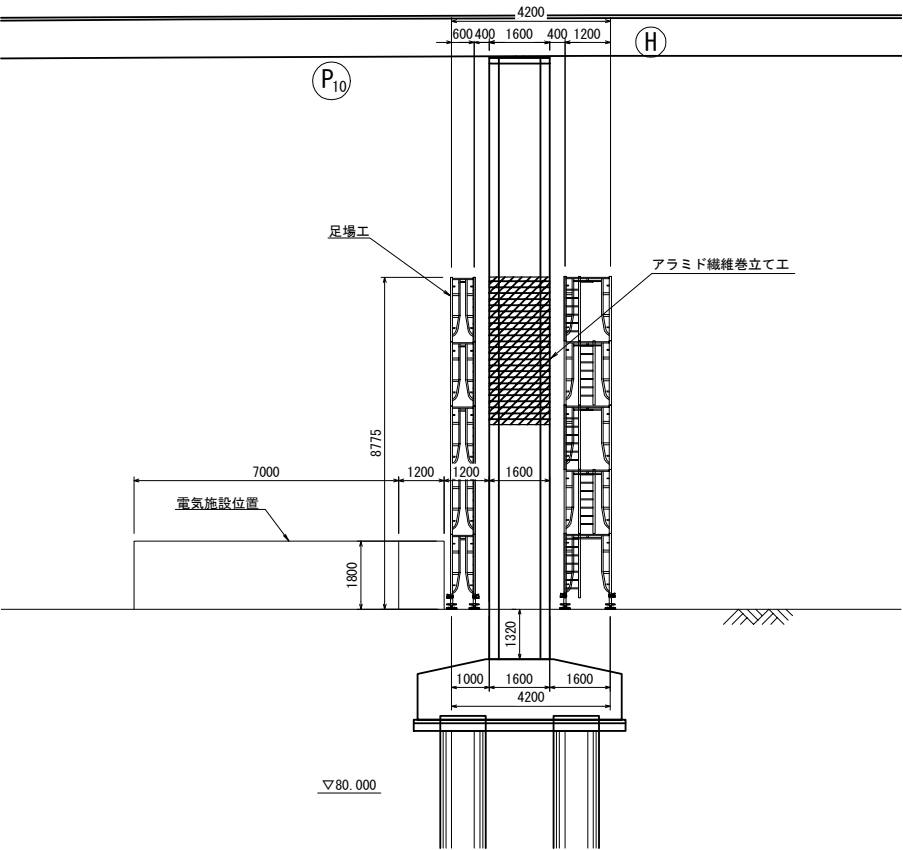
正面図



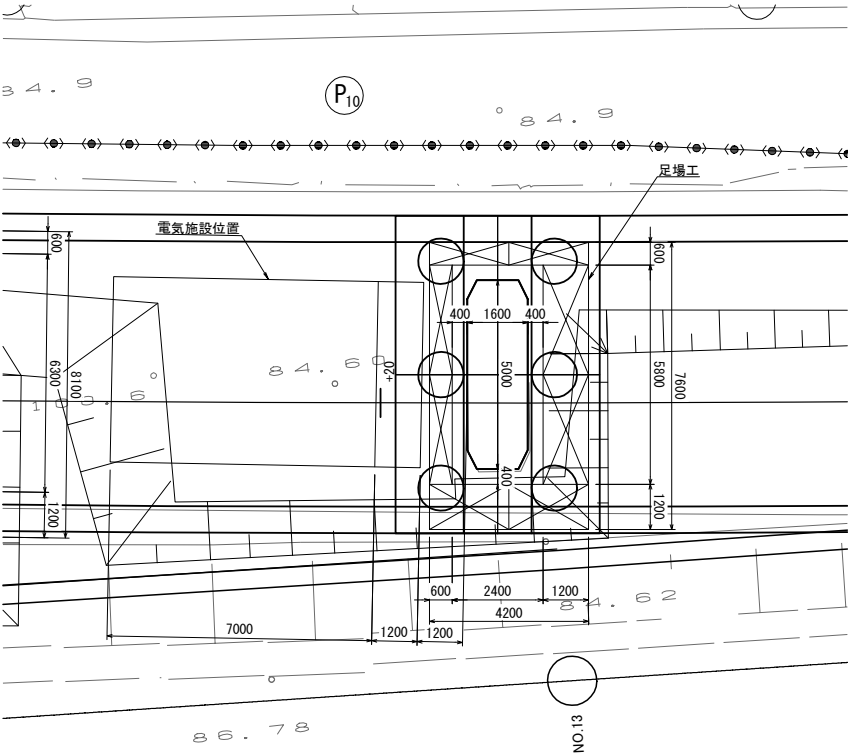
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その5)(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	75 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

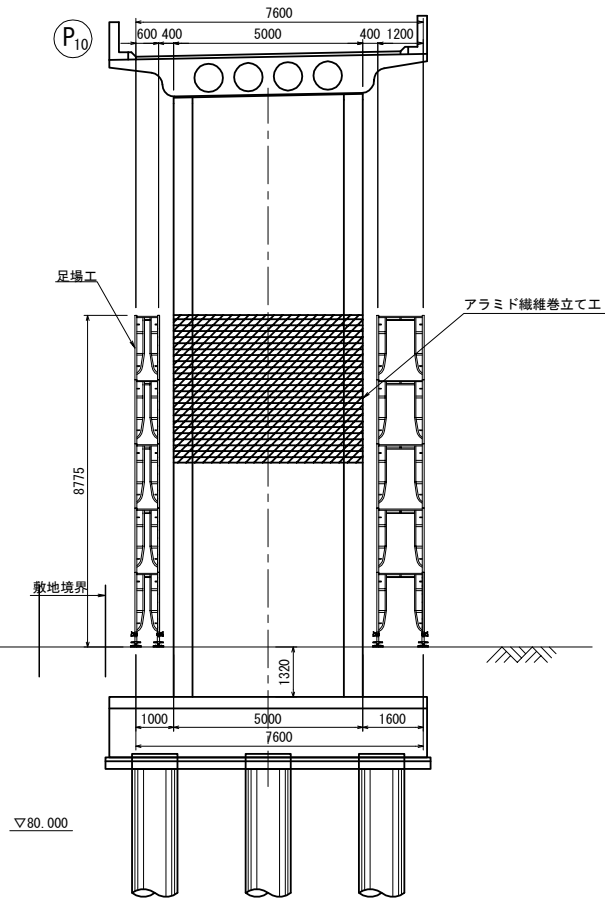
側 面 図



平 面 図



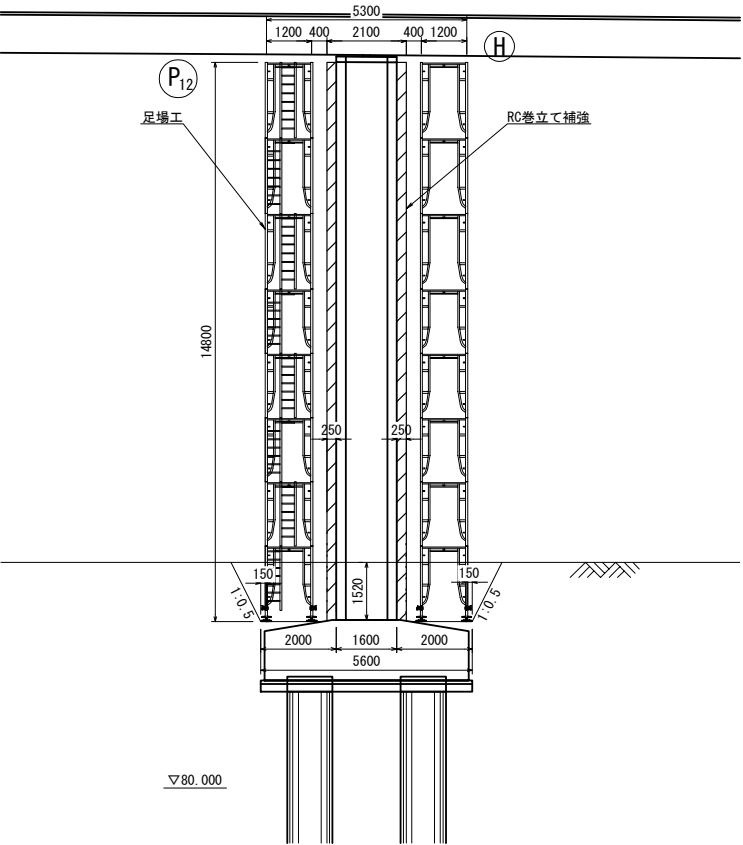
正 面 図



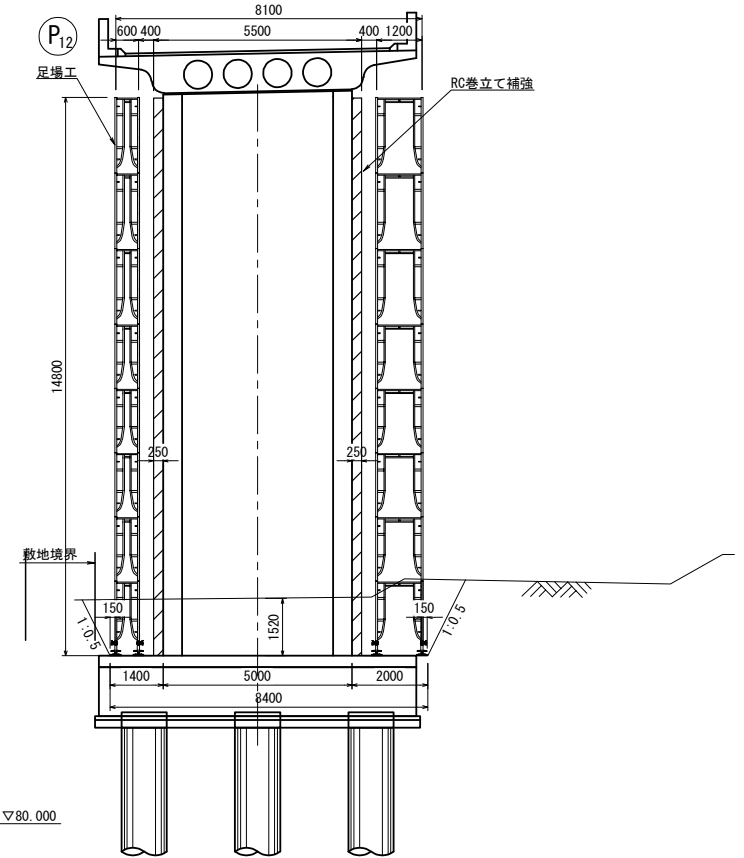
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その6)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	76 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

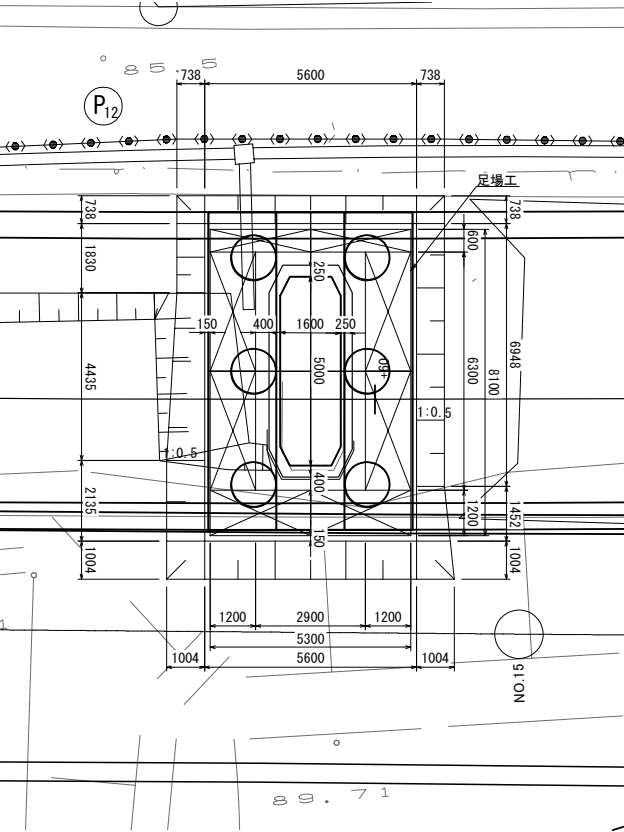
側面図



正面図



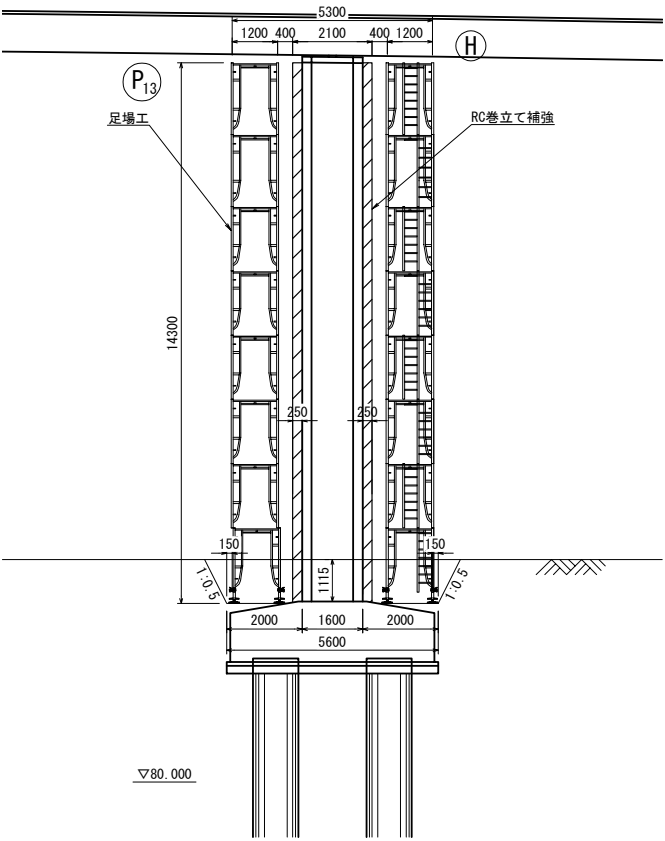
平面図



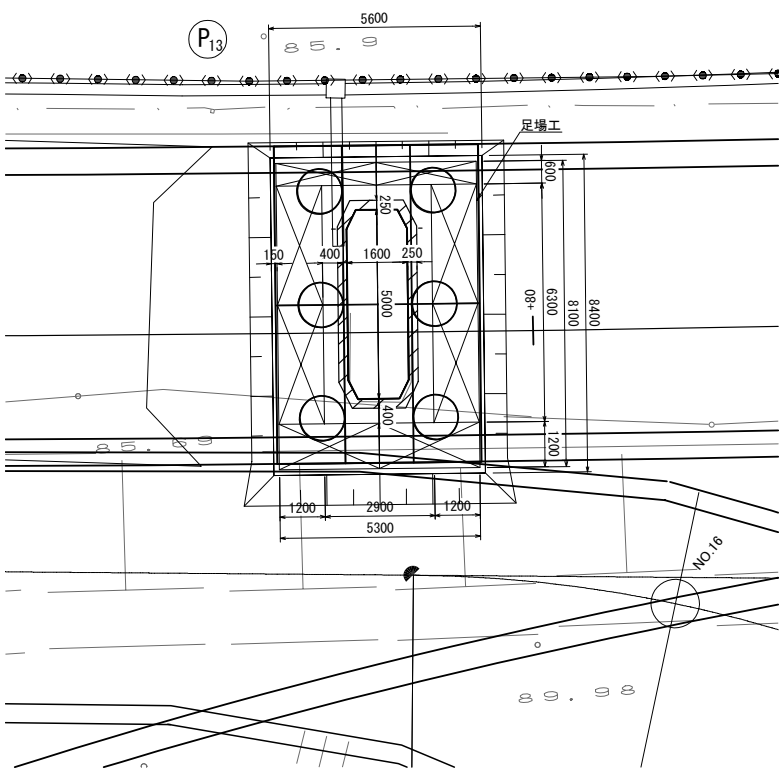
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その7)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	77 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

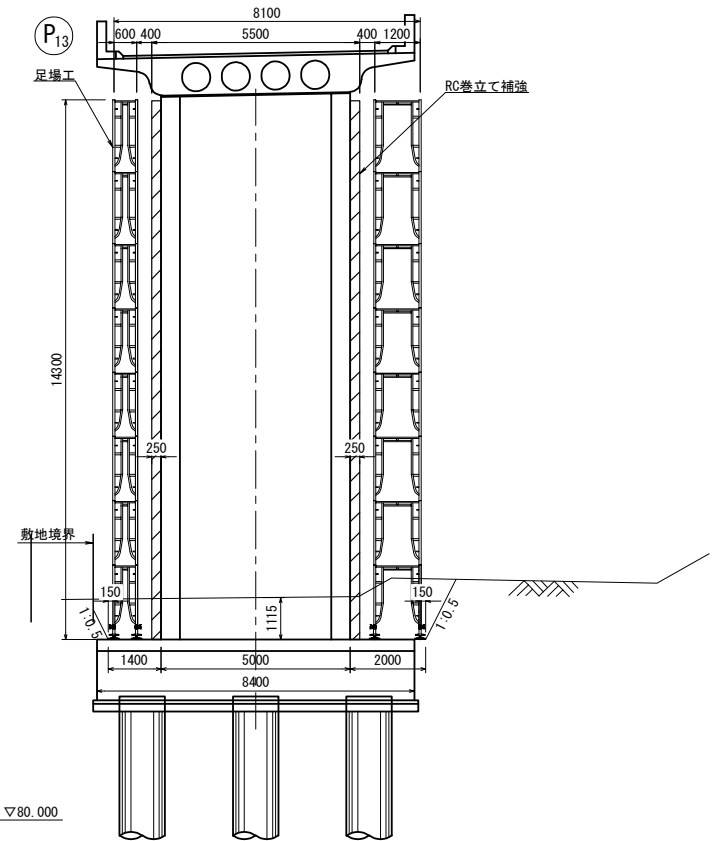
側面図



平面図



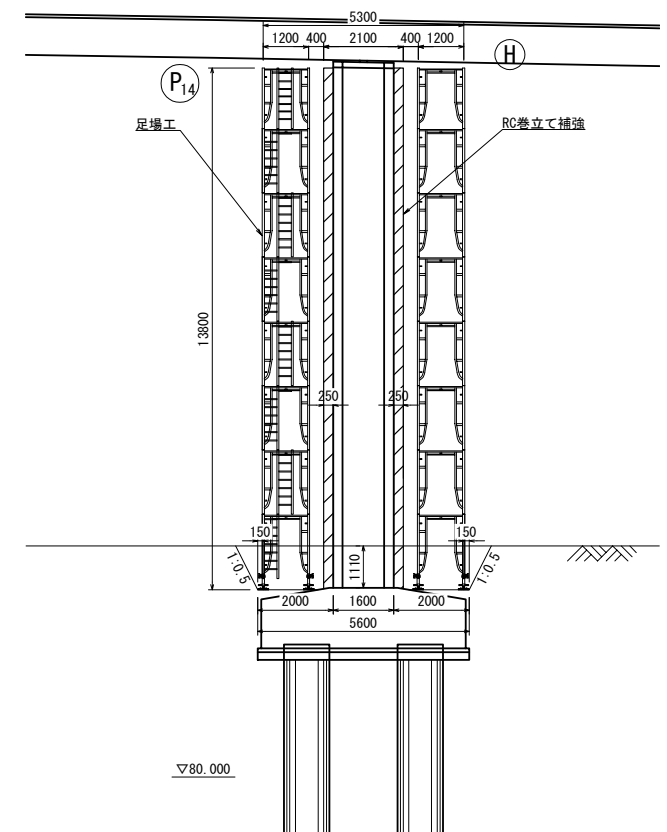
正面図



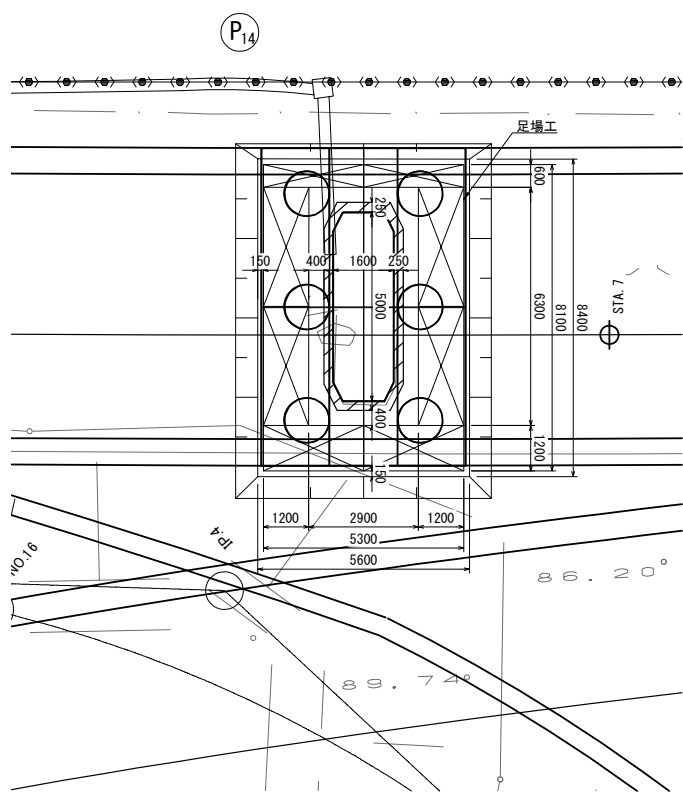
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その8)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	78 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

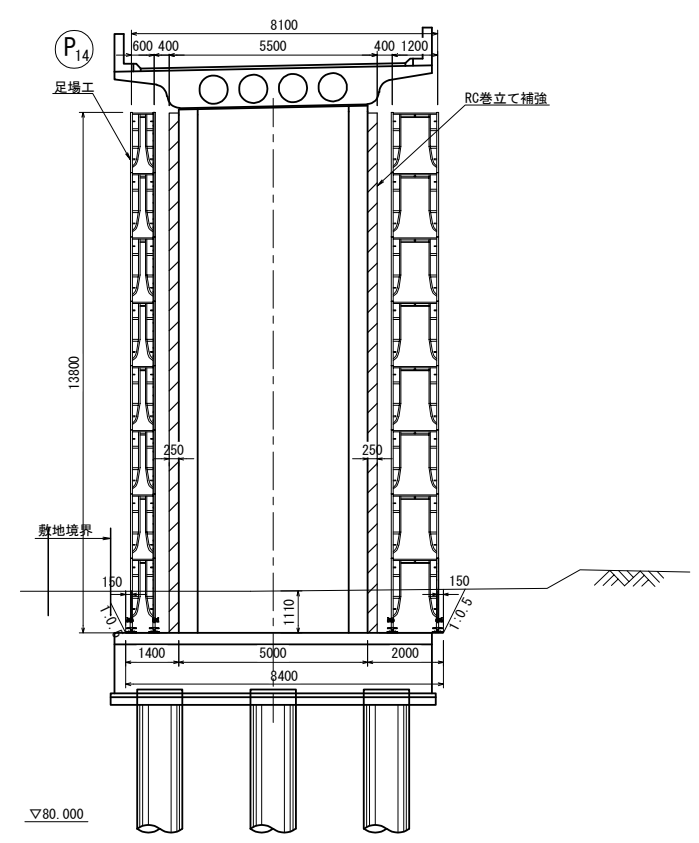
側面図



平面図



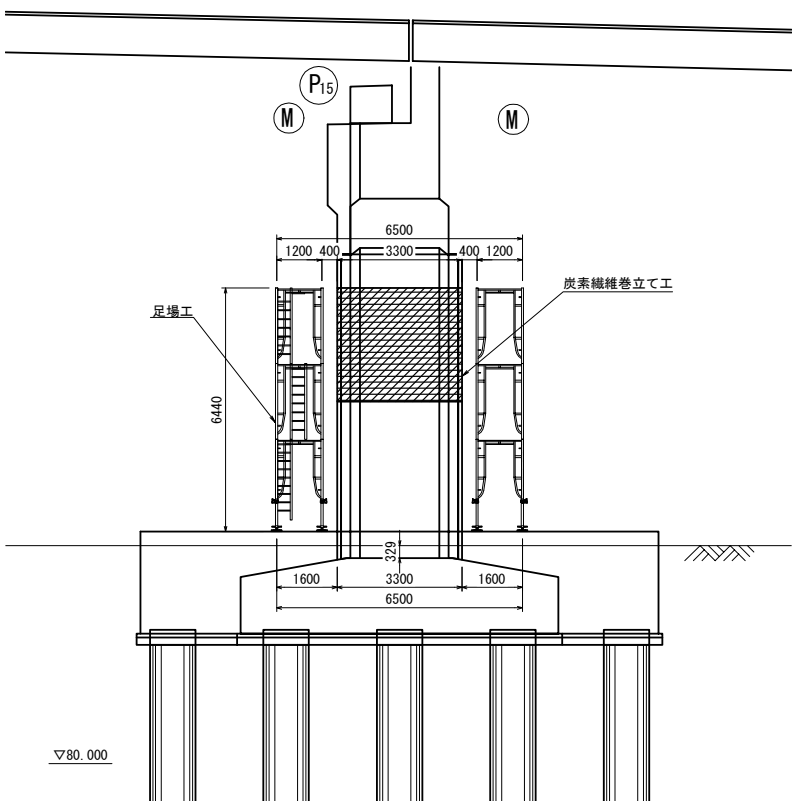
正面図



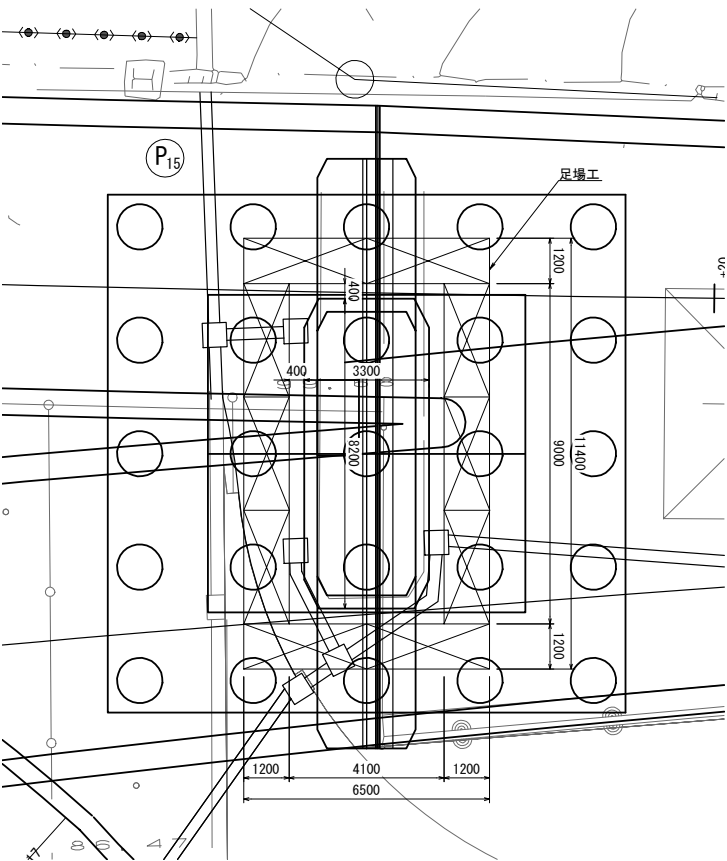
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋		
	足場工計画図(橋脚補強施工時)(その9)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	79 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

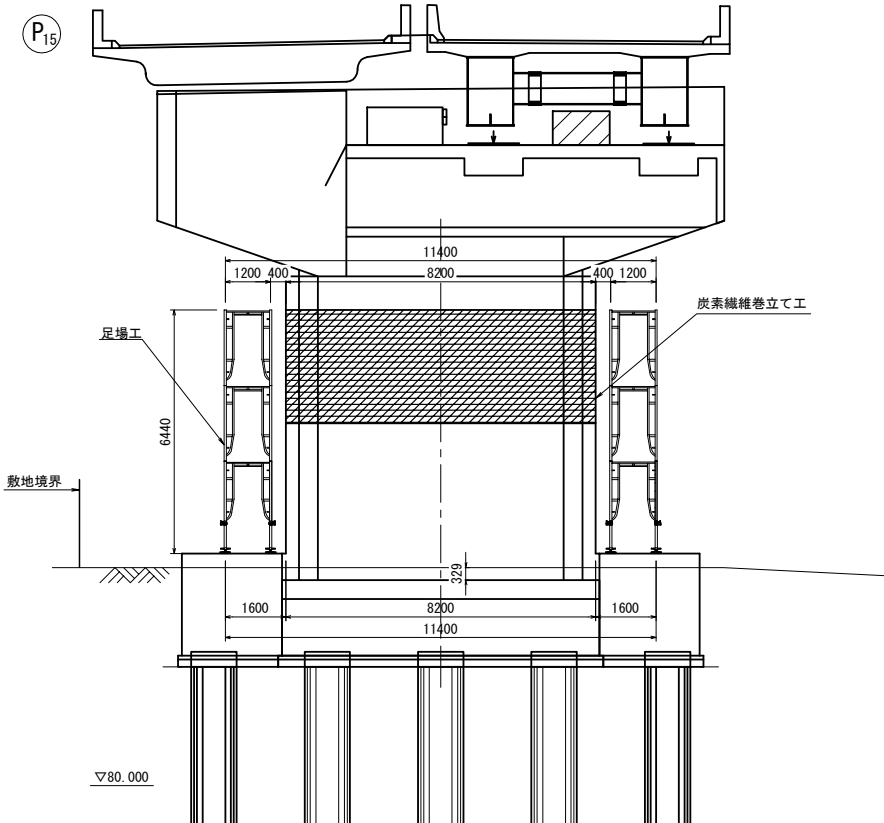
側 面 図



平 面 図



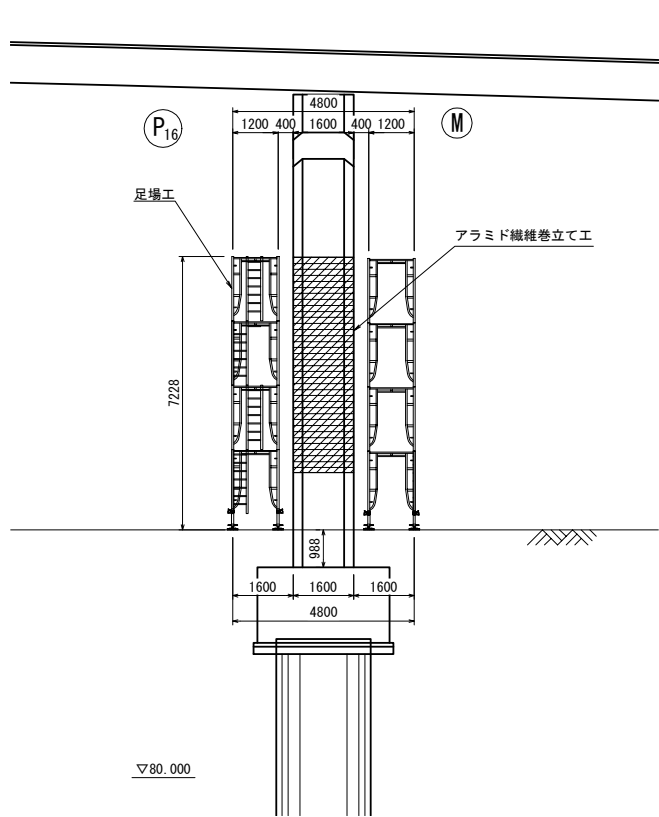
正 面 図



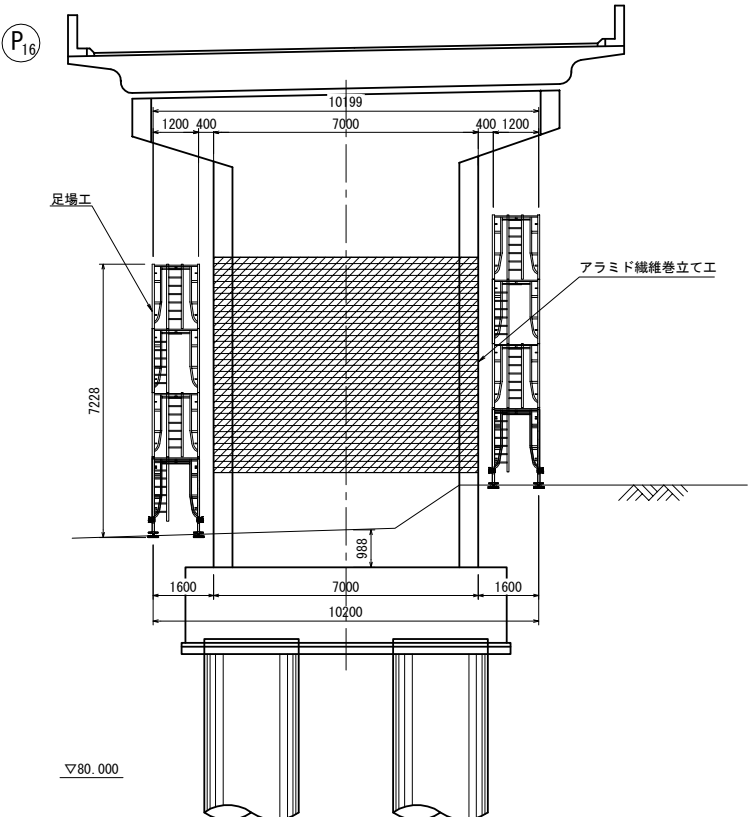
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その10)(参考図)		
	縮 尺	図 示	図面番号 80 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

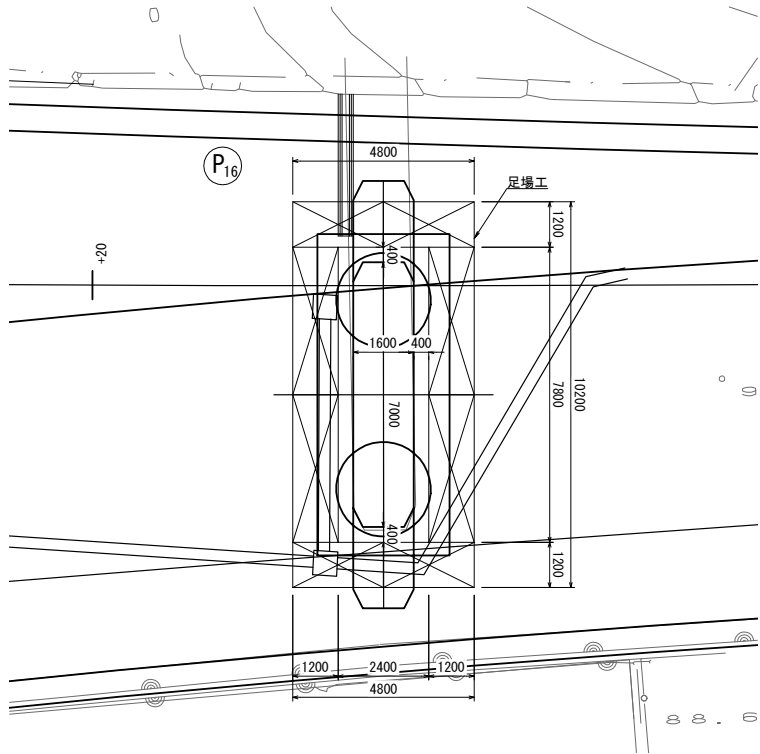
側 面 図



正 面 図

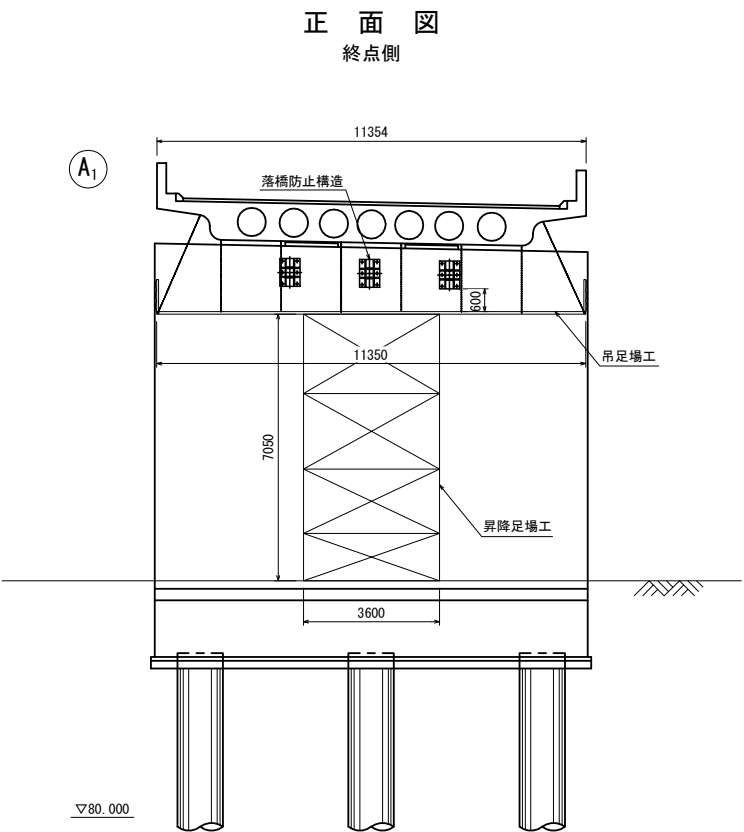
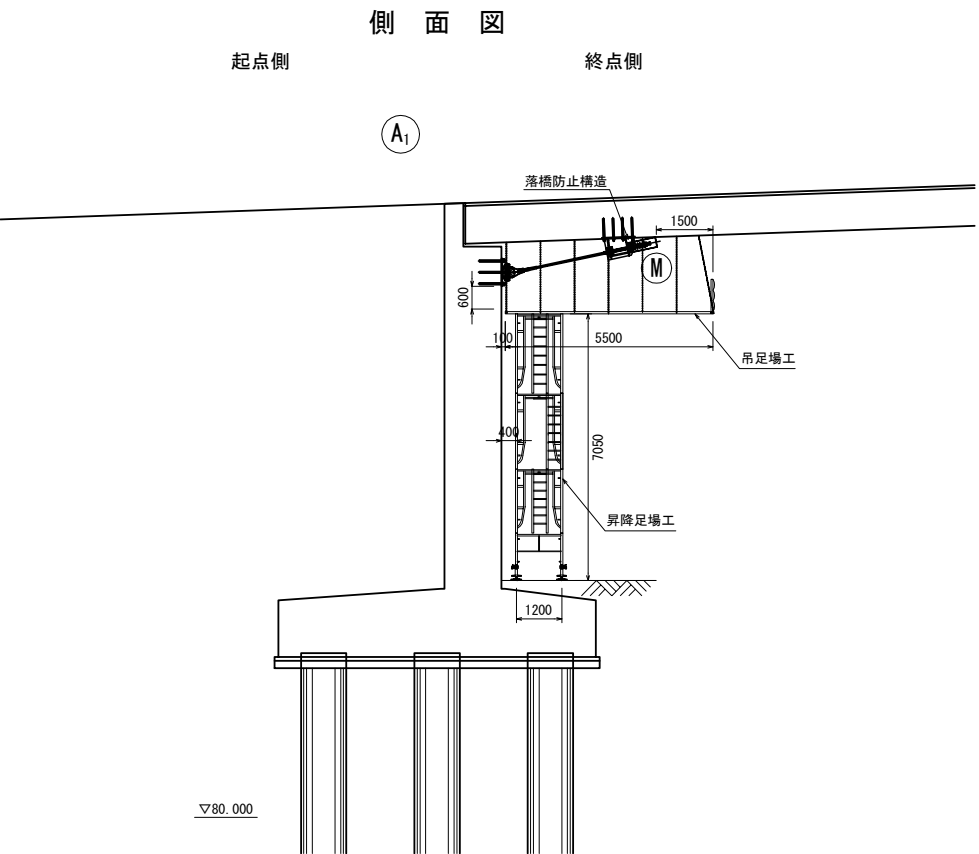


平 面 図

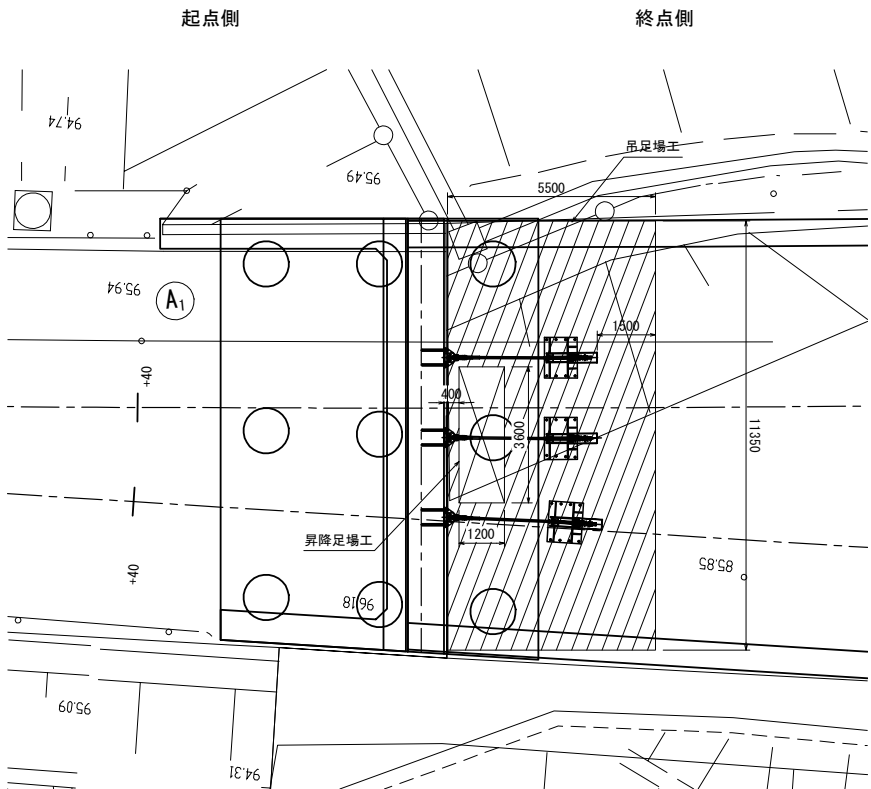


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その11)(参考図)		
	縮 尺	図 示	図面番号 81 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



平面図

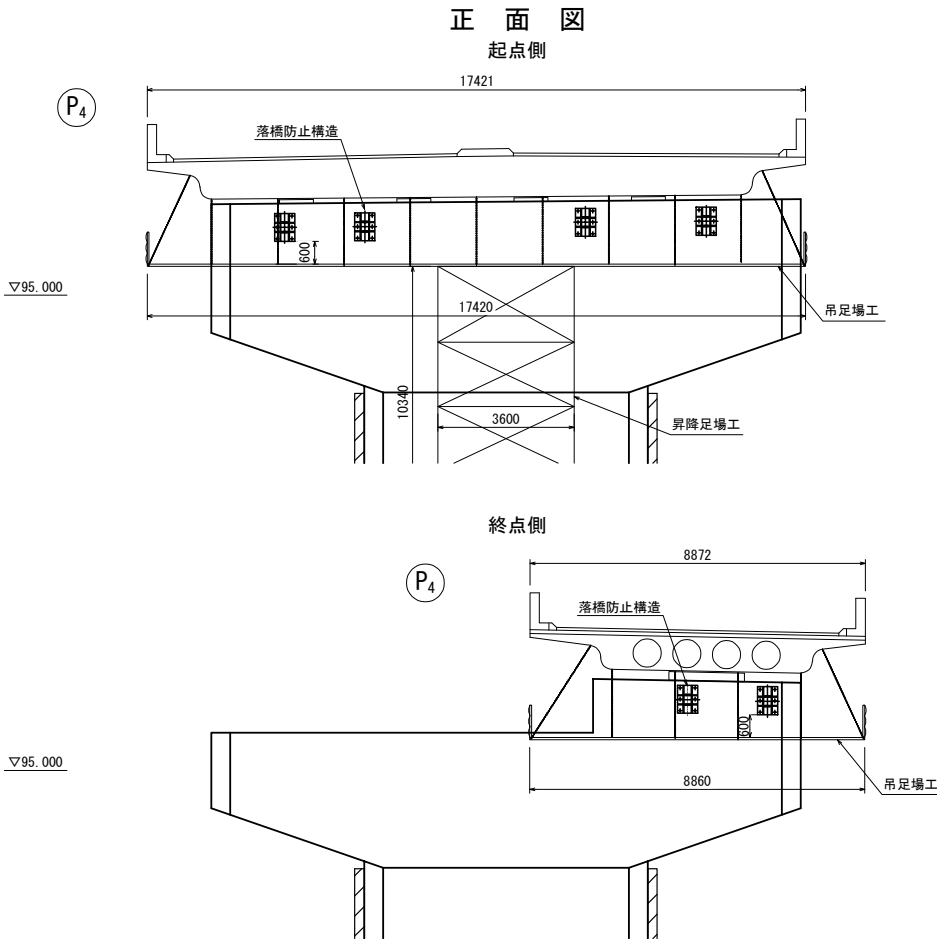
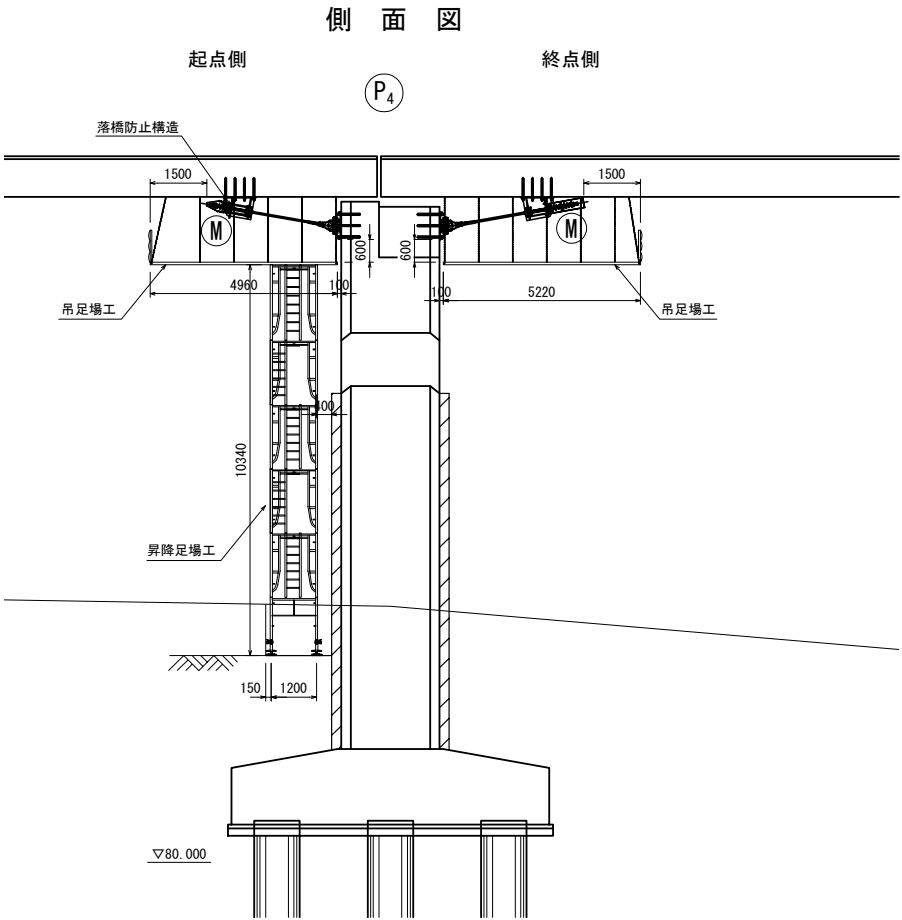


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

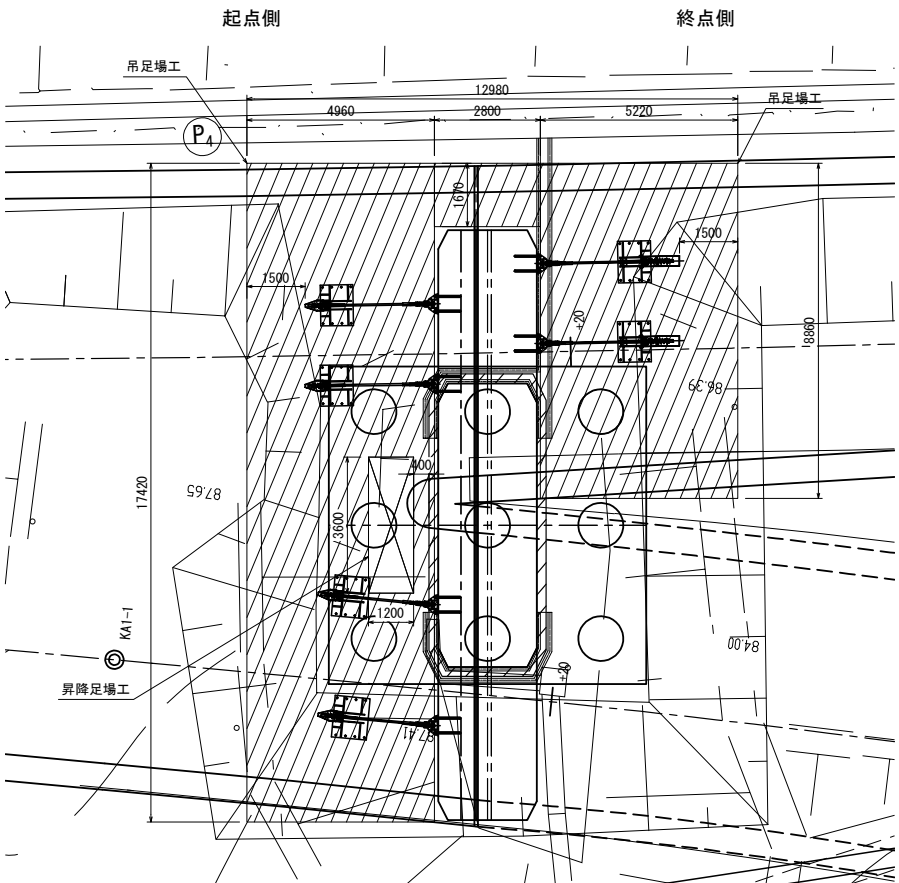
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その1)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	82 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その2)(参考図)
【P4橋脚】

S=1:200



平面図



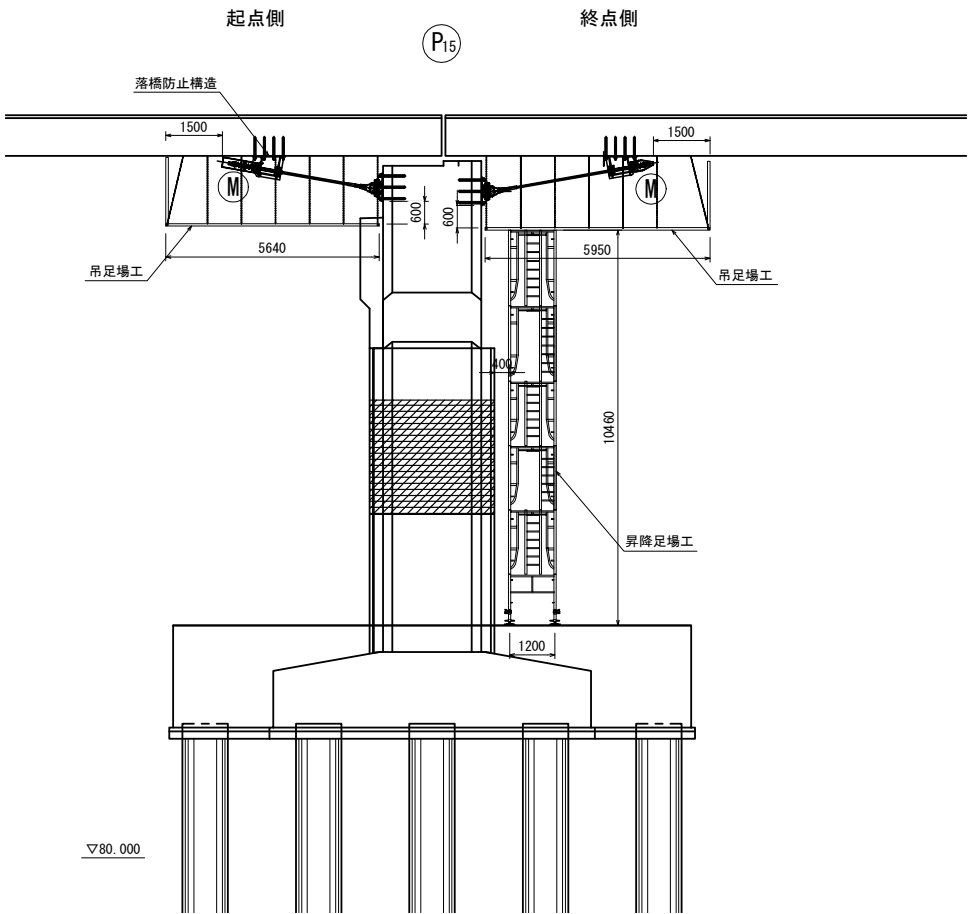
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その2)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	83 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

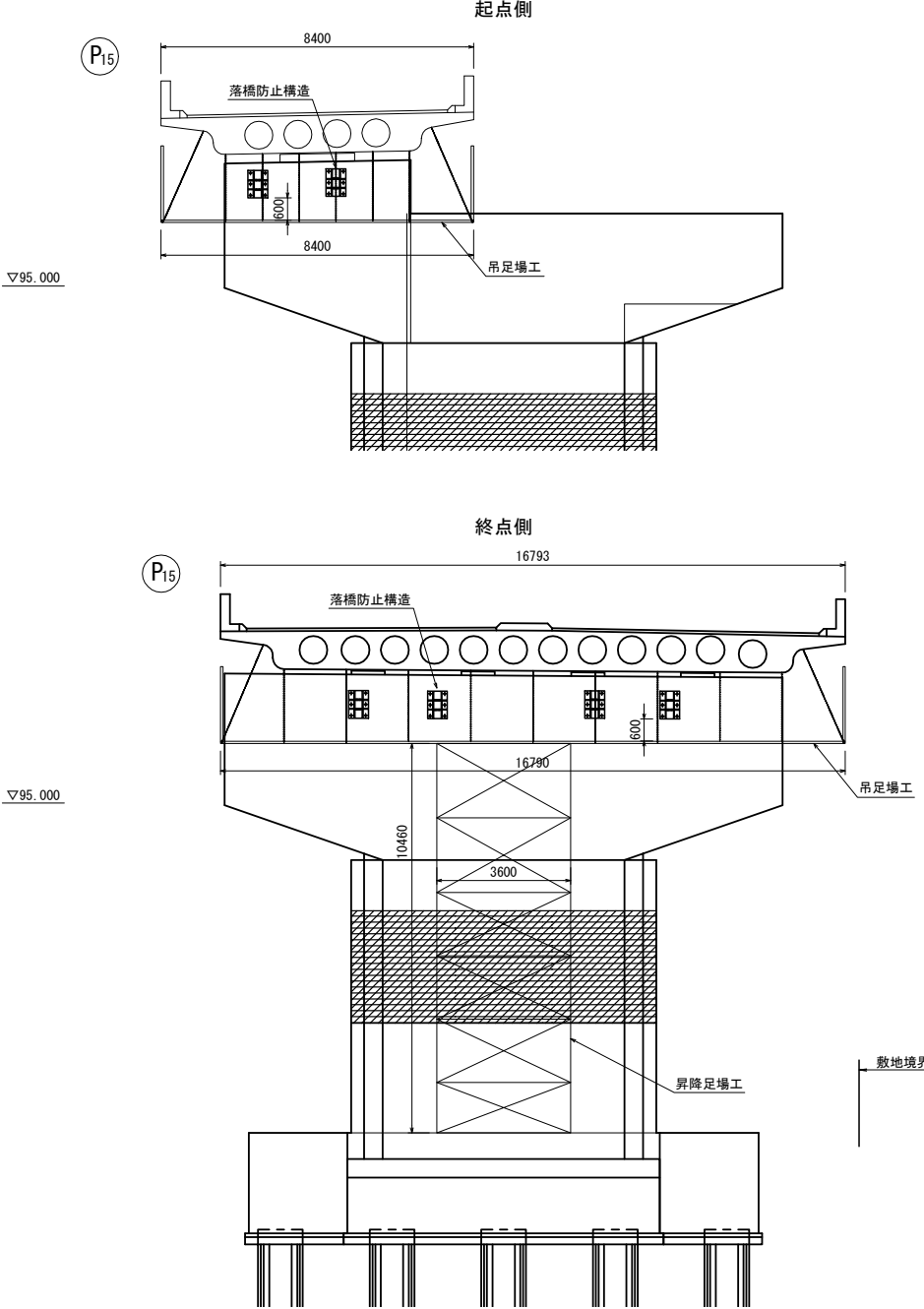
釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その3)(参考図)
【P15橋脚】

S=1:200

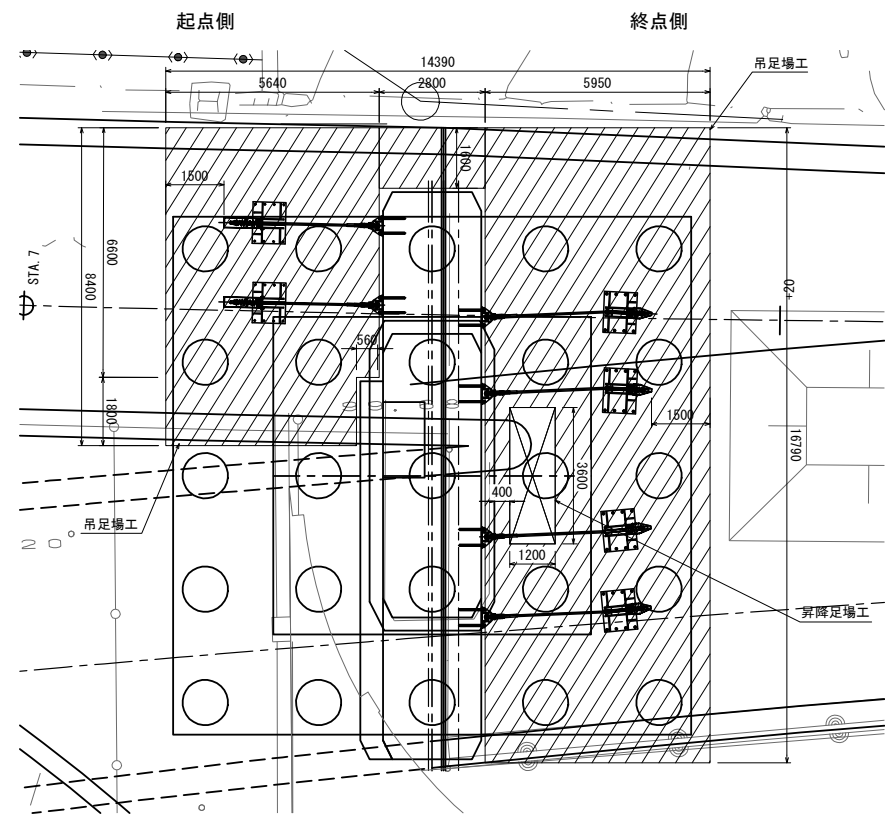
側面図



正面図



平面図



注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

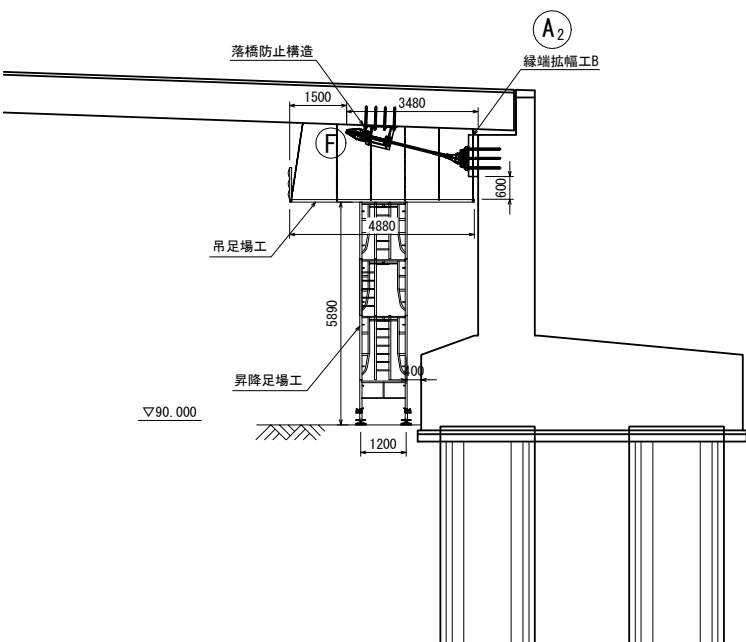
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その3)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	84 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その4)(参考図)
【A2橋台 落橋防止システム施工時】

S=1:200

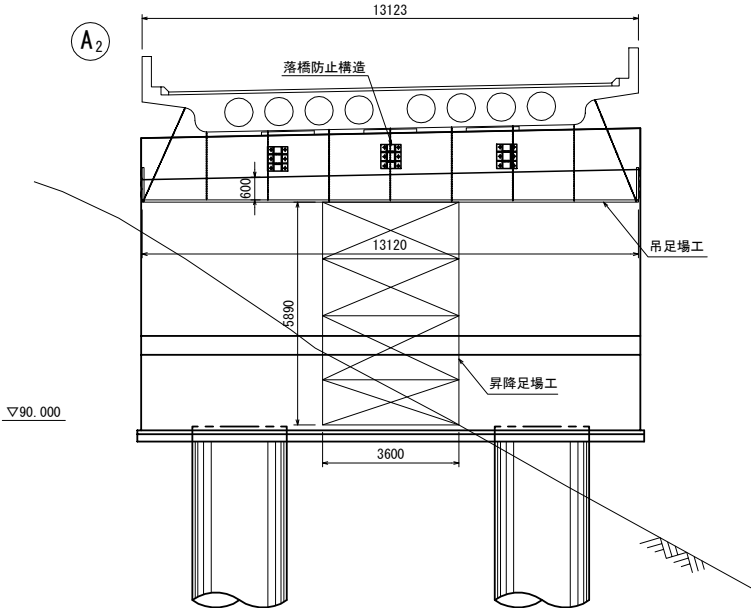
側面図

起点側 終点側



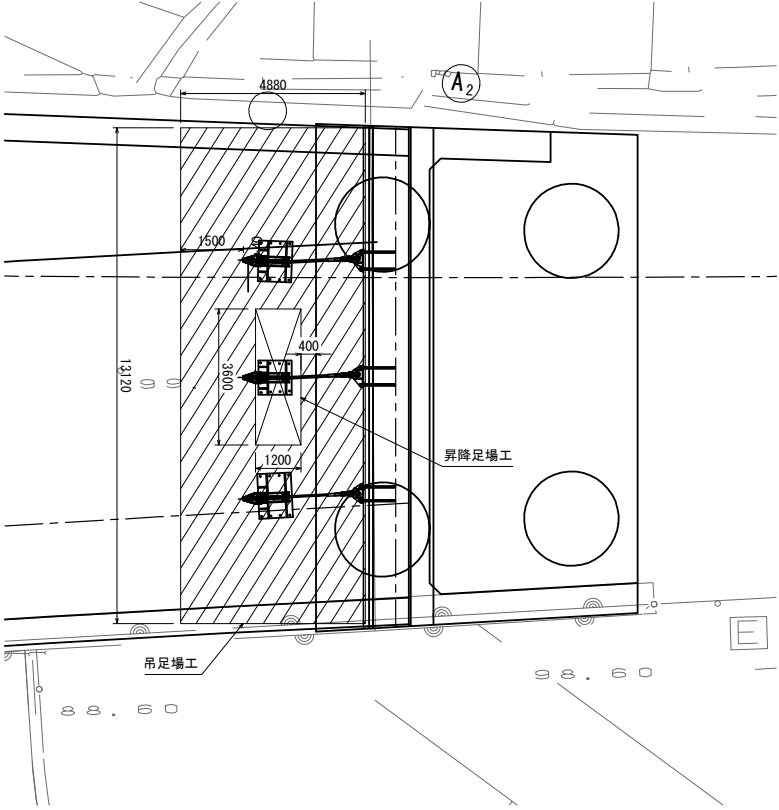
正面図

起点側



平面図

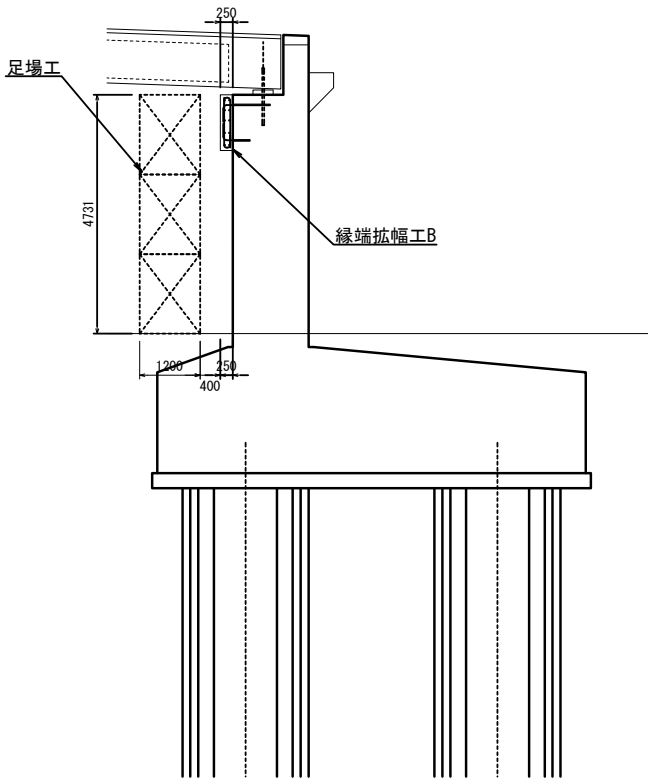
起点側 終点側



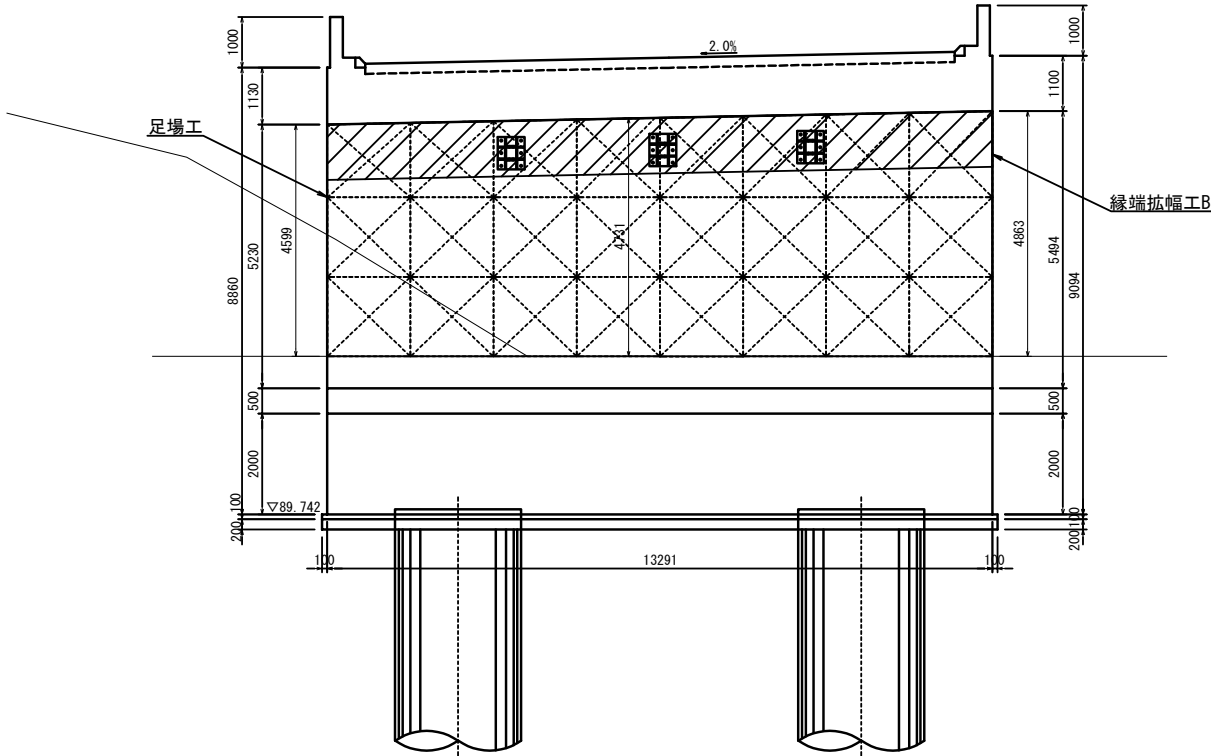
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その4)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	85 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

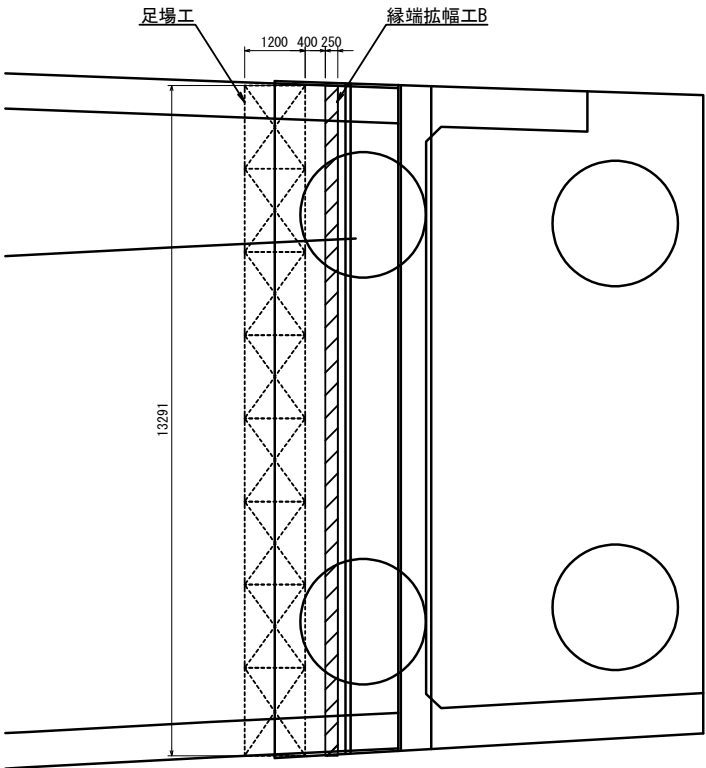
側面図



正面図

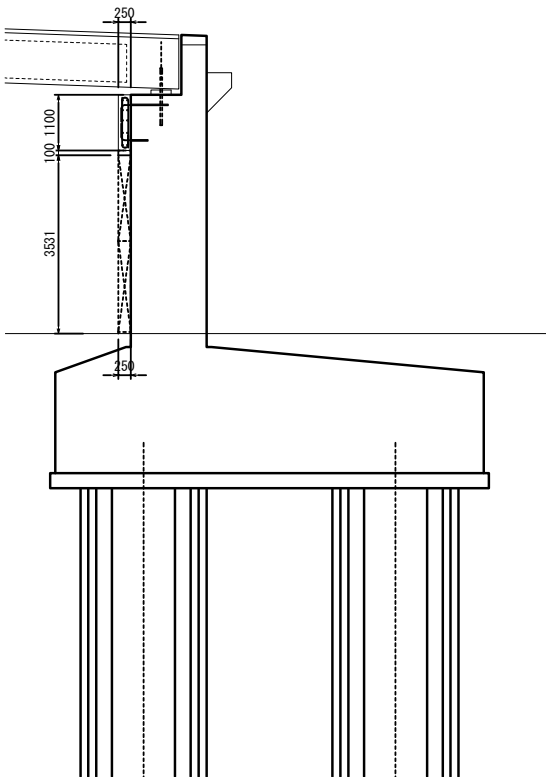


平面図

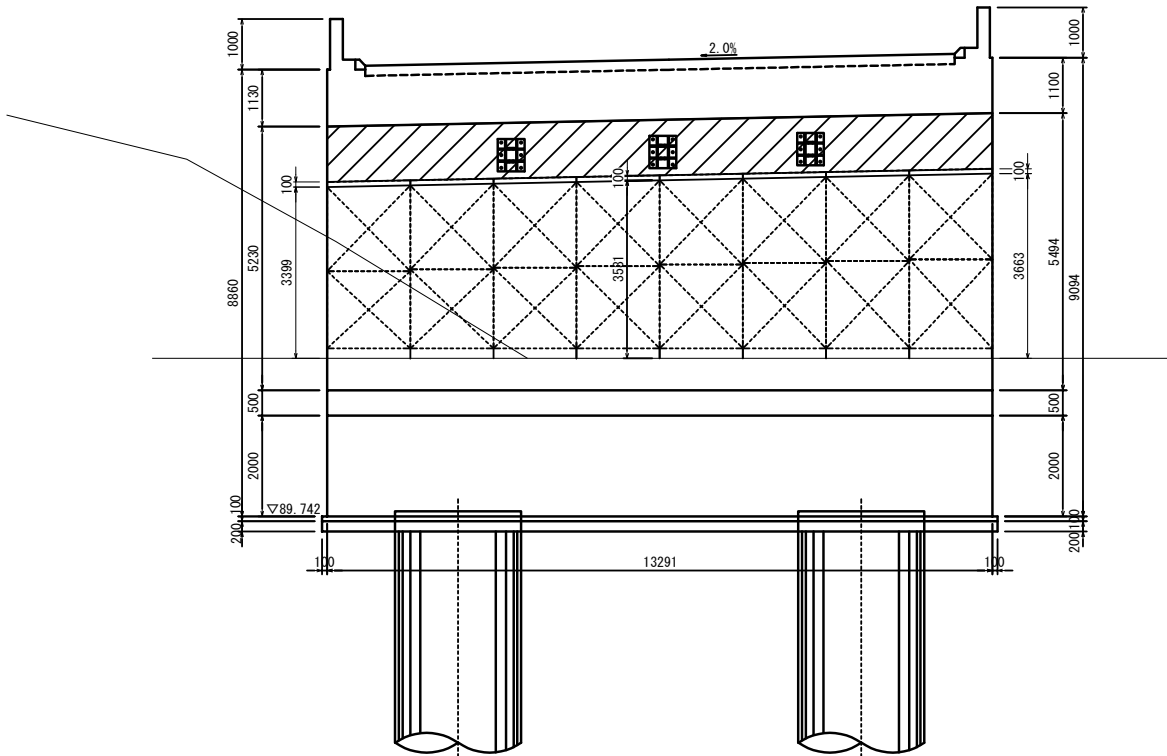


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋		
	足場工計画図(支承周り施工時)(その5)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	86 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

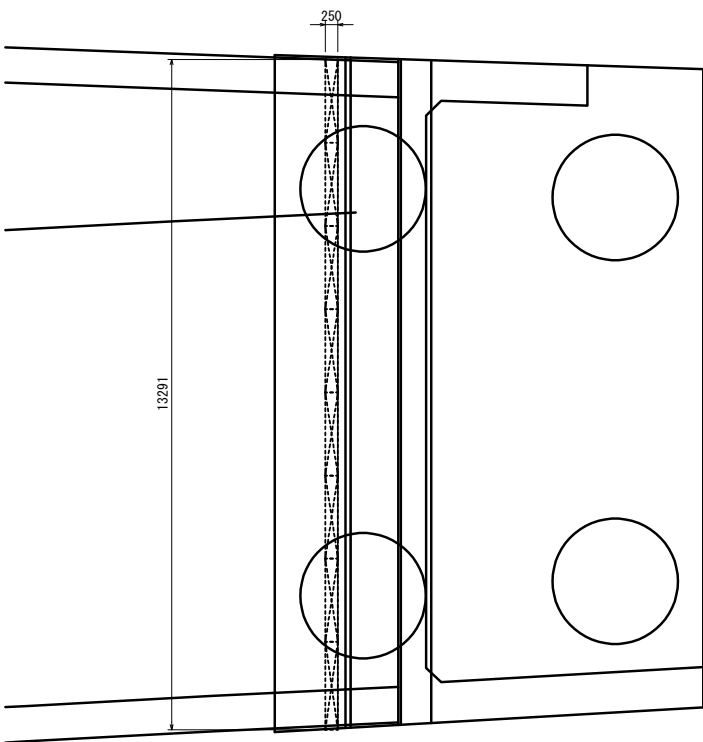
側面図



正面図

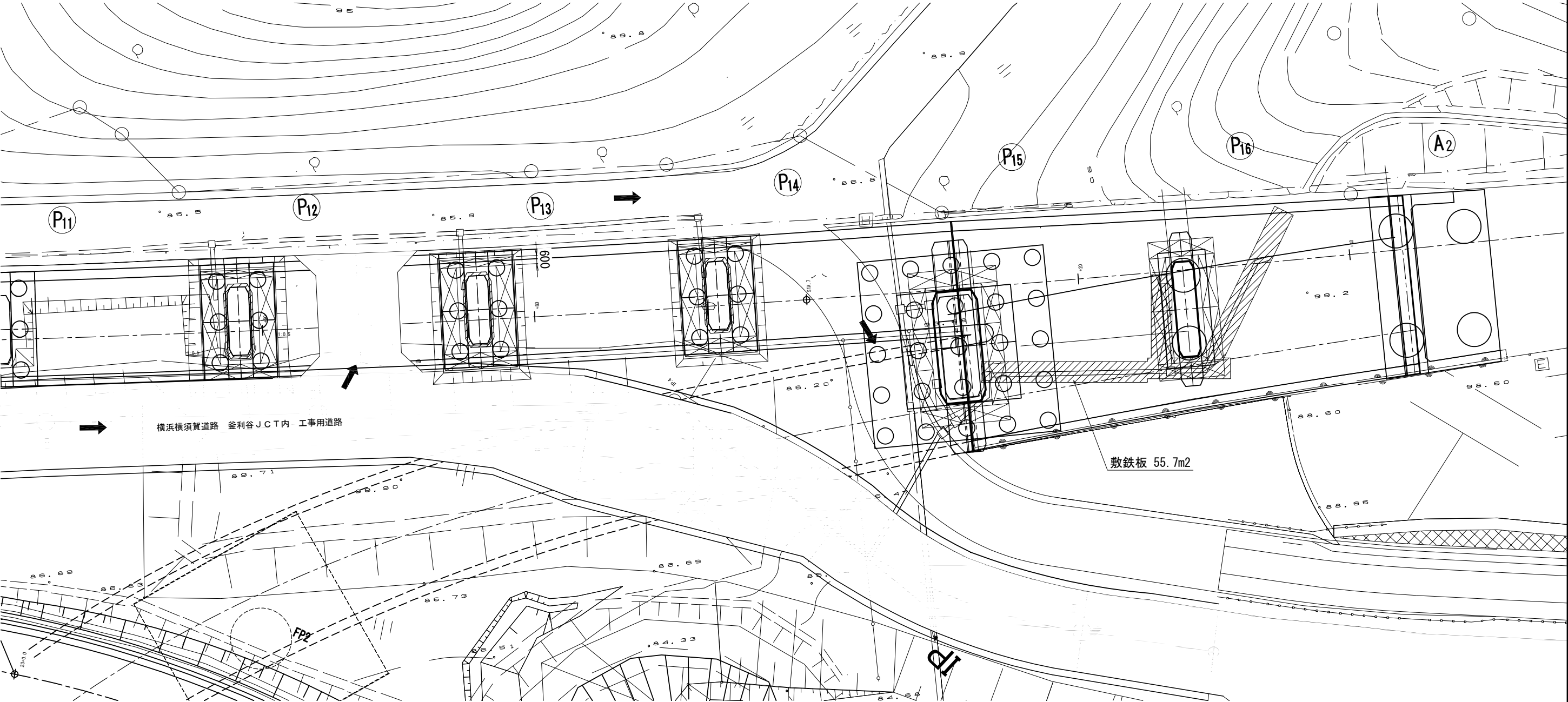


平面図



横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 支保工(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	87 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

平面図 S=1:300



	寸法等	単位	数 量
敷鉄板	1524×6096×22	m2	55.7

凡 例

→

工事用車両の進入経路

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 ヤード整備工(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	88 / 88
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

横 浜 横 須 賀 道 路
釜 利 谷 第 二 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事

設 計 図
【釜利谷 J C T 第二橋】

令和 7 年 7 月

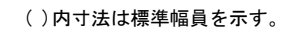
東日本高速道路株式会社 関東支社
京浜管理事務所

目次

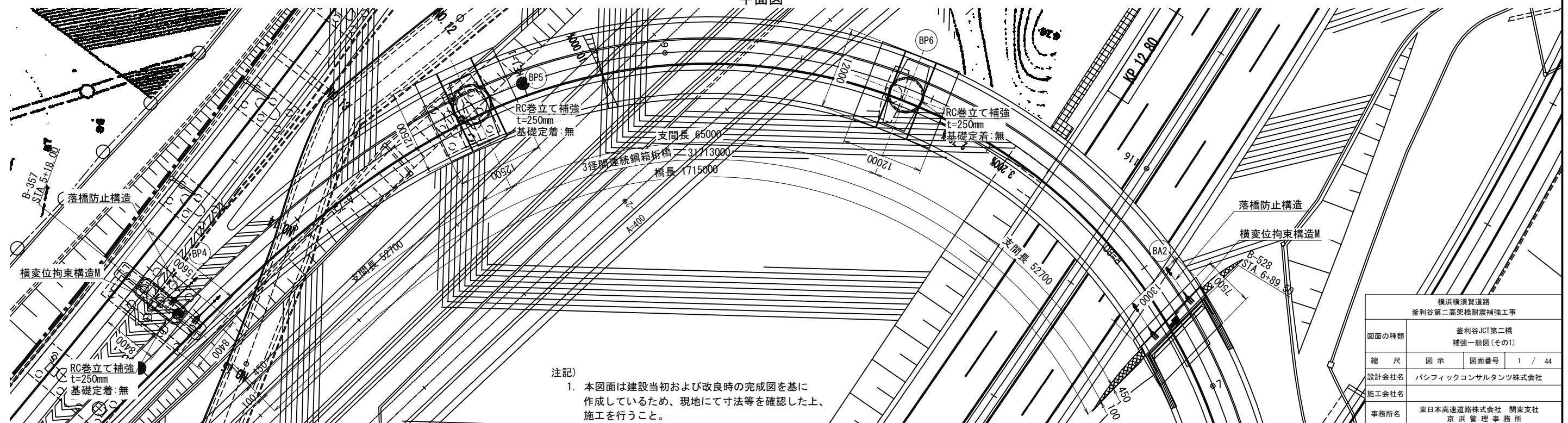
番号	設計図名称
1～2	釜利谷JCT第二橋 補強一般図(その1)～(その2)
3～6	釜利谷JCT第二橋 構造物掘削(その1)～(その4)
7	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚耐震補強構造一般図
8～9	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
10	釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚耐震補強構造一般図
11～13	釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その3)
14	釜利谷JCT第二橋 BP6橋脚耐震補強構造一般図
15～16	釜利谷JCT第二橋 BP6橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
17	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚耐震補強配置図
18～20	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚落橋防止構造図(その1)～(その3)
21	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚落橋防止構造桁内補強図
22～24	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚横変位拘束構造図(その1)～(その3)
25	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台耐震補強配置図
26～28	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台落橋防止構造図(その1)～(その3)
29	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台落橋防止構造桁内補強図
30～32	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台横変位拘束構造図(その1)～(その3)
33	釜利谷JCT第二橋 塗替塗装区分図
34	釜利谷JCT第二橋 はく落防止対策工図
35	釜利谷JCT第二橋 交通規制工
36～38	釜利谷JCT第二橋 施工計画(その1)～(その3)(参考図)

[illegible]

橋 長 171500




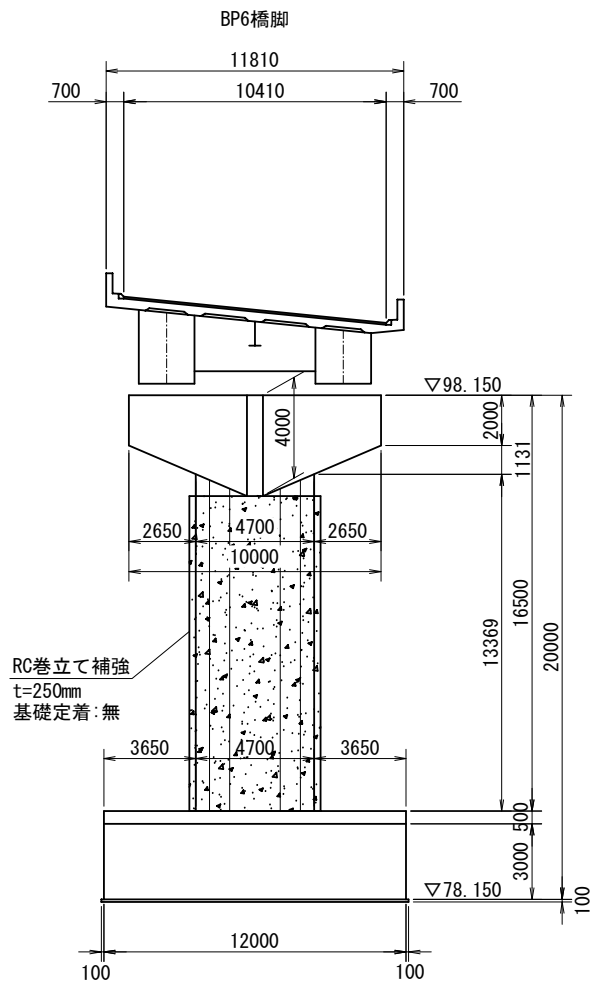
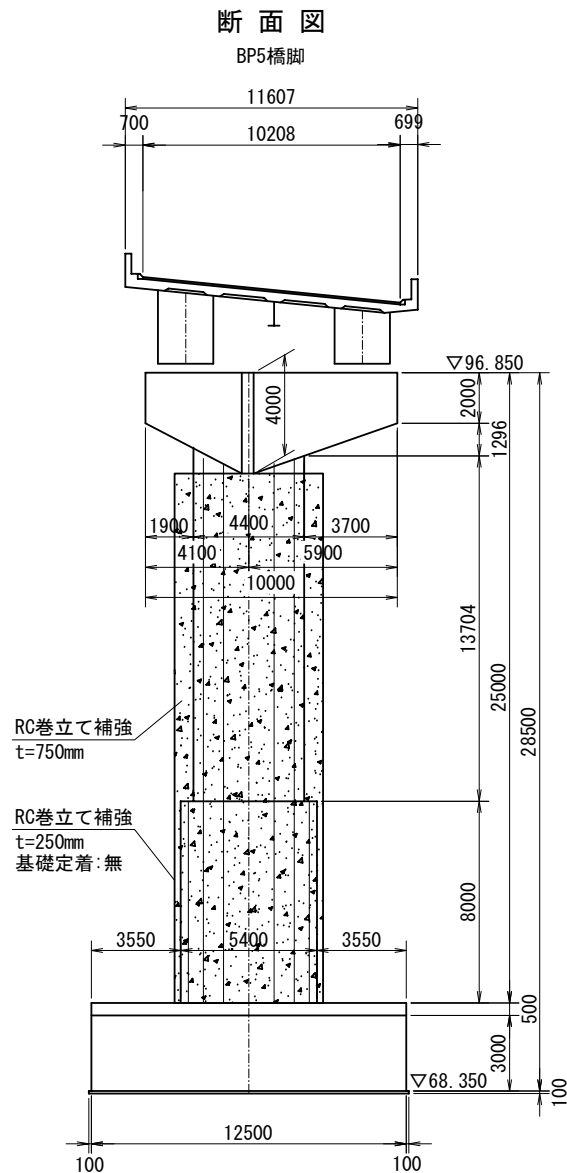
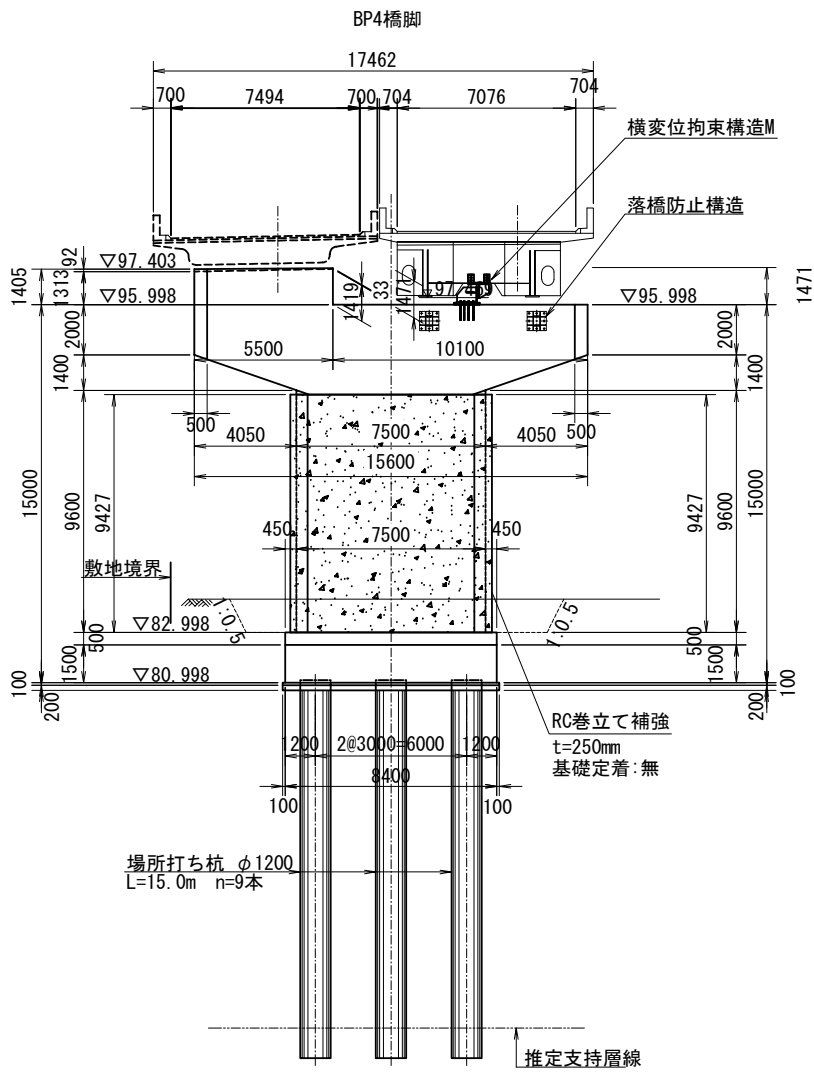
平面图



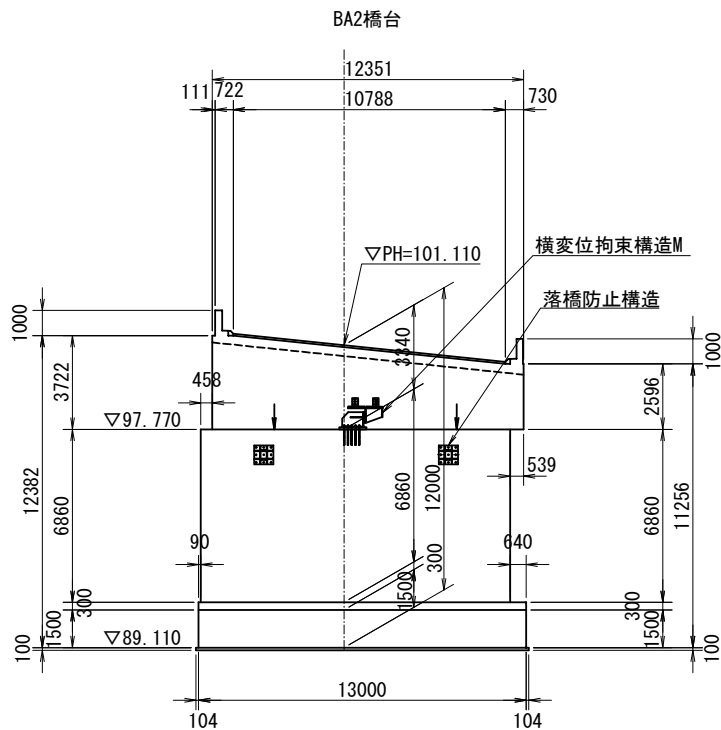
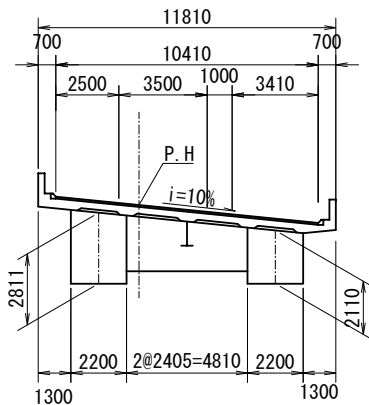
注記)

1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

			
<p>横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 補強一般図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



標準断面図



【竣工時】設計条件表（昭和62年2月[1987年]）

路線名	横浜横須賀道路 金沢支線	橋名	釜利谷JCT第二橋
重要度区分	第1種2級B規格	活荷重	TL-20, TT-43
橋長	171.500m	交差条件	圏央道・横浜横須賀道路
上部構造	上部工形式 P4~BA2 鋼3径間連続曲線箱桁橋	桁長	支間長
幅員構成	総幅員 8.400m~11.810m	有効幅員	7.000m ~ 10.410m
線形条件	平面線形 A=75.0m+R=80.0m 横断線形 i=10.0%~0.7%	縦断線形	i=2.764% / ~ \ 3.200%
斜角	BA2 75° 00' 00"		
床版・舗装	RC床版, アスファルト舗装 t=75mm		
支承形式	BP-A支承		
下部構造	張出式橋脚 (P4)、張出式円柱橋脚 (BP5・BP6) 場所打ちコンクリート杭 (P4)、直接基礎 (BP5~BA2) コンクリート $\sigma_{ck}=24.0\text{N/mm}^2$ 、鉄筋SD345		
適用示方書	道路橋示方書・同解説 (昭和53年・55年、日本道路協会) 設計要領第二集 (昭和55年)		
地盤種別	I種地盤		
設計水平震度	Kh=0.18		

【耐震補強設計時】設計条件表（令和6年12月[2024年]）

上部構造 耐震補強	横変位拘束構造	鋼製ブラケット	
	落橋防止構造	PCケーブル	
	使用材料	設計基準強度 $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ 、SM90A、SM400A、SD345	
下部構造 耐震補強	RC巻立て補強（P4、BP5、BP6）		
	設計基準強度 $\sigma_{ck}=30.0\text{N/mm}^2$ 、鉄筋SD345		
適用示方書	道路橋示方書・同解説（平成24年、日本道路協会） 設計要領第二集（令和2年）		
重要度区分	B種	活 荷 重	B活荷重
地 盤 種 別	Ⅰ種地盤		
地域別補正係数	地域区分A1： $c_z=1.0$ 、 $c_{Iz}=1.2$ 、 $c_{IIz}=1.0$		
目標耐震性能	橋脚	耐震性能2(a)および2(b)混合を許容する。	
	支承	補強は実施しない。	
	落橋防止システム	支承部の耐震性能が2を満足しないため、省略条件を適用しない。	

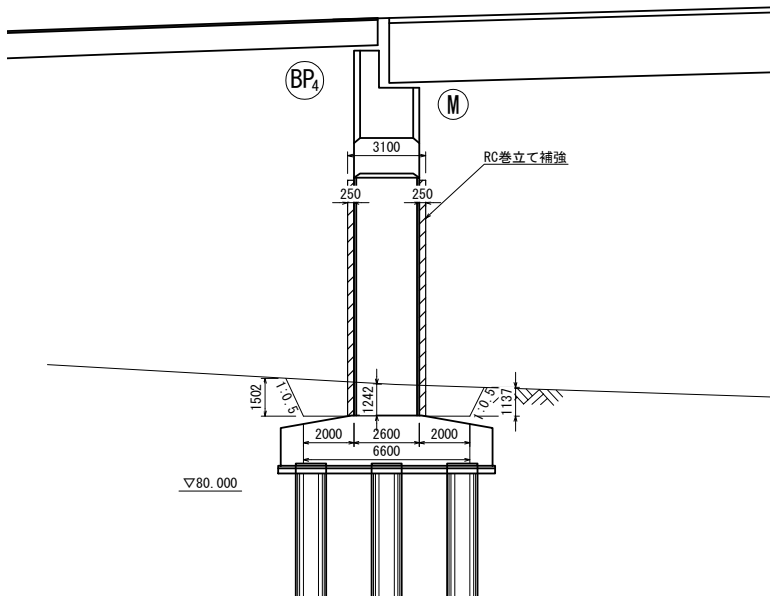
注記)

- 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

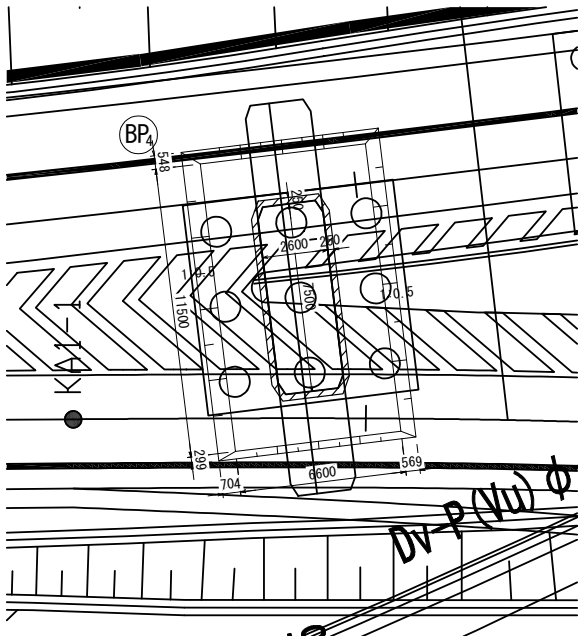
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 補強一般図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	2 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

構造物掘削 普通部A

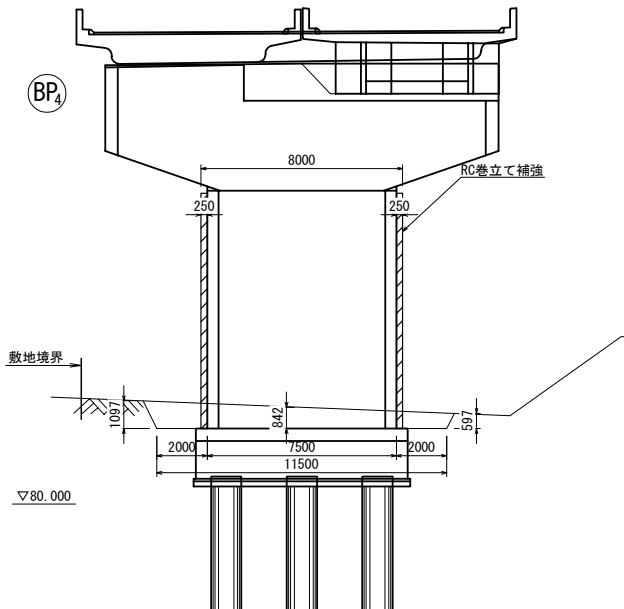
側 面 図



平 面 図



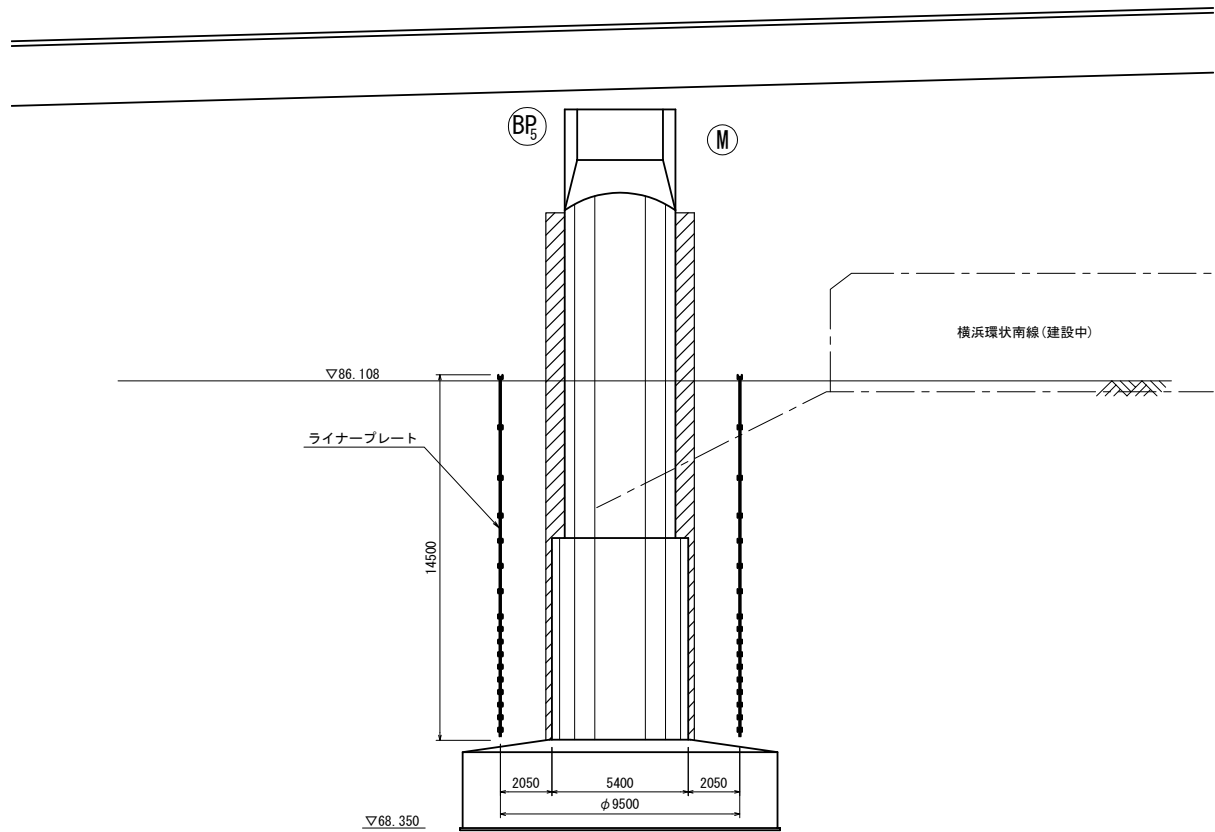
正 面 図



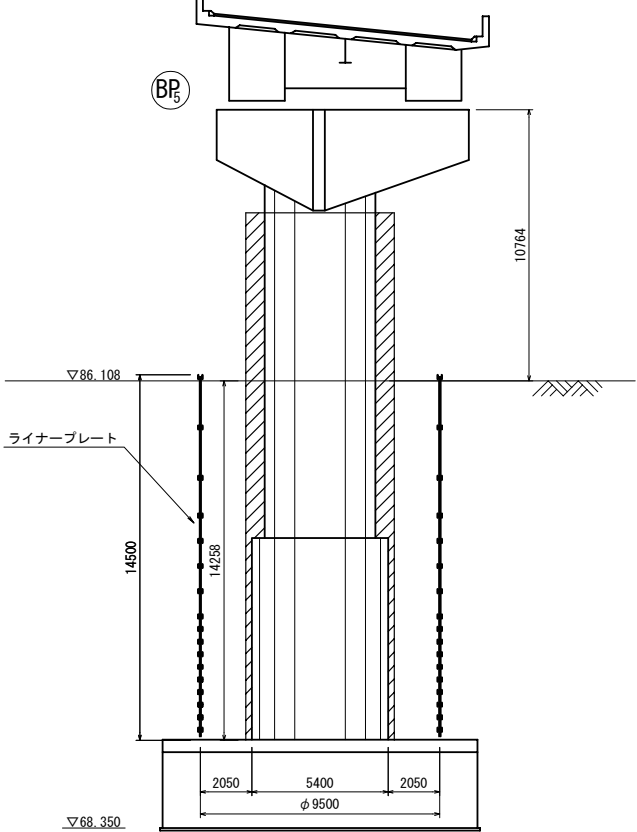
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 構造物掘削(その1)			
	縮 尺	図 示	図面番号	3 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

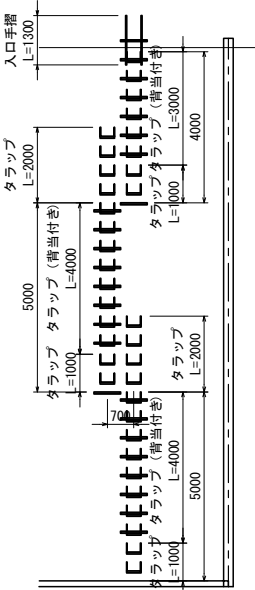
側 面 図 S=1:300



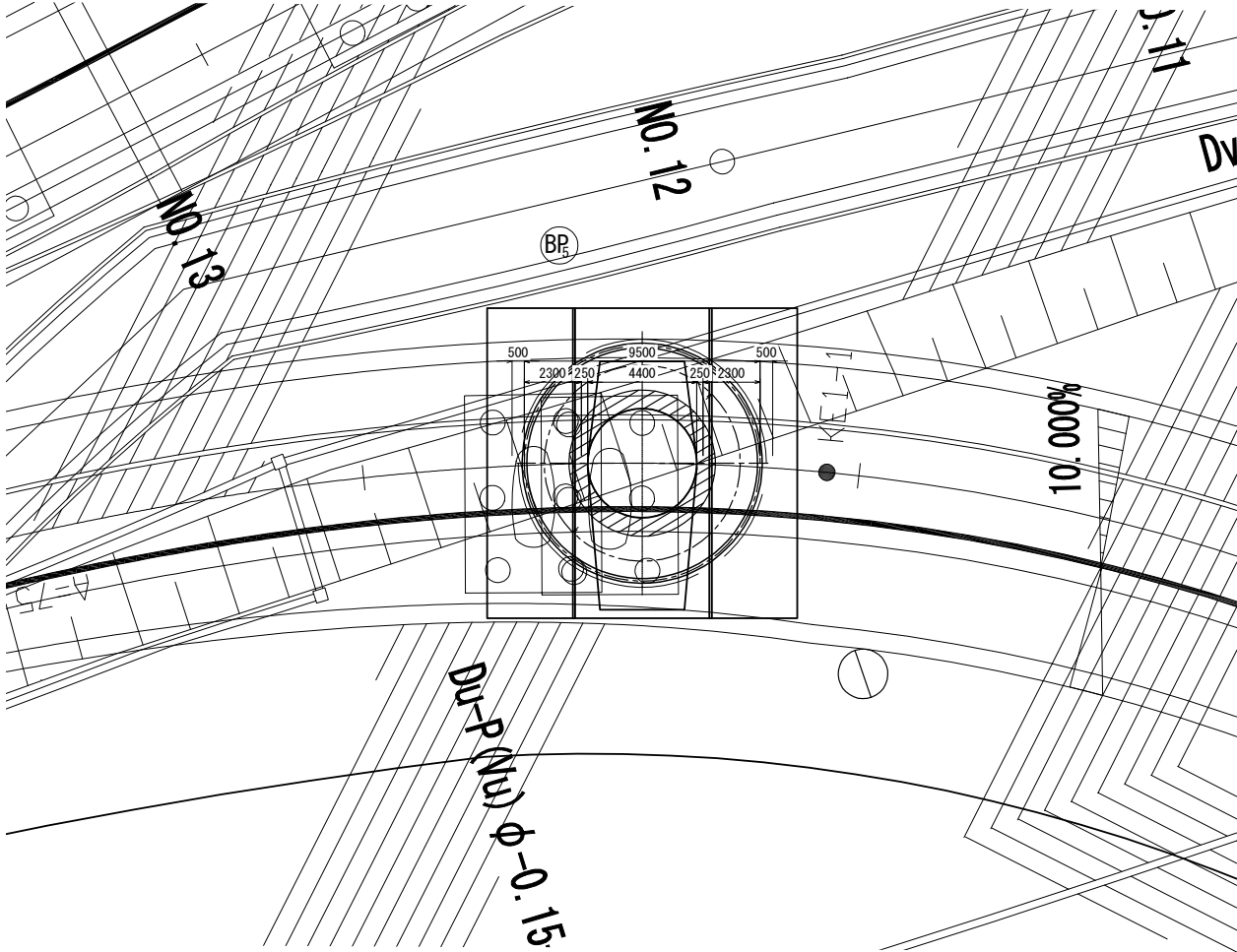
正 面 図 S=1:300



昇降設備参考図 S=1:200



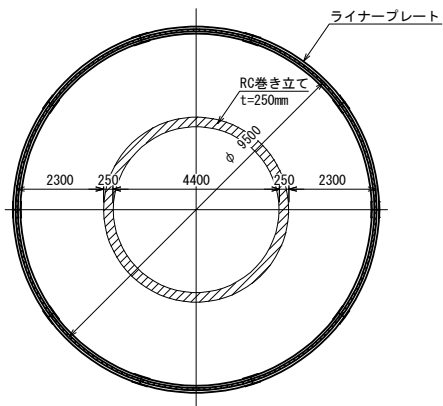
平 面 図 S=1:300



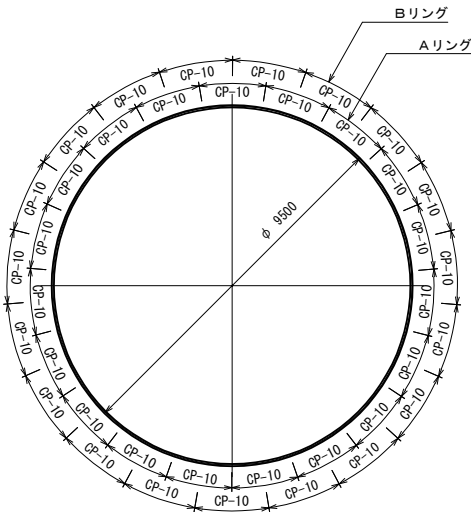
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 構造物掘削(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

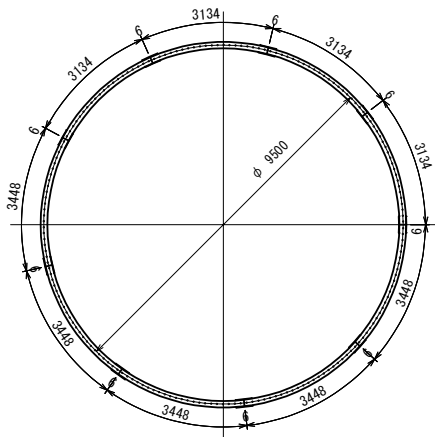
平面図 縮尺=1:200



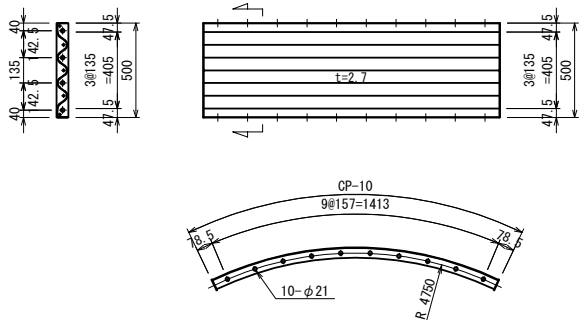
ライナープレート構成図 縮尺=1:200



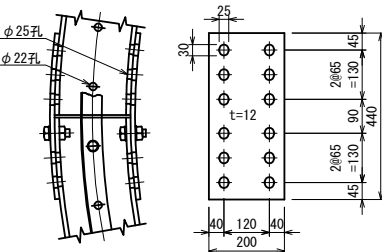
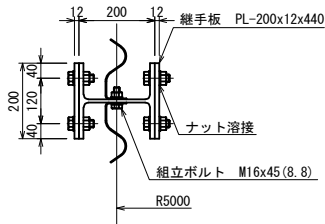
補強リング構成図 縮尺=1:200



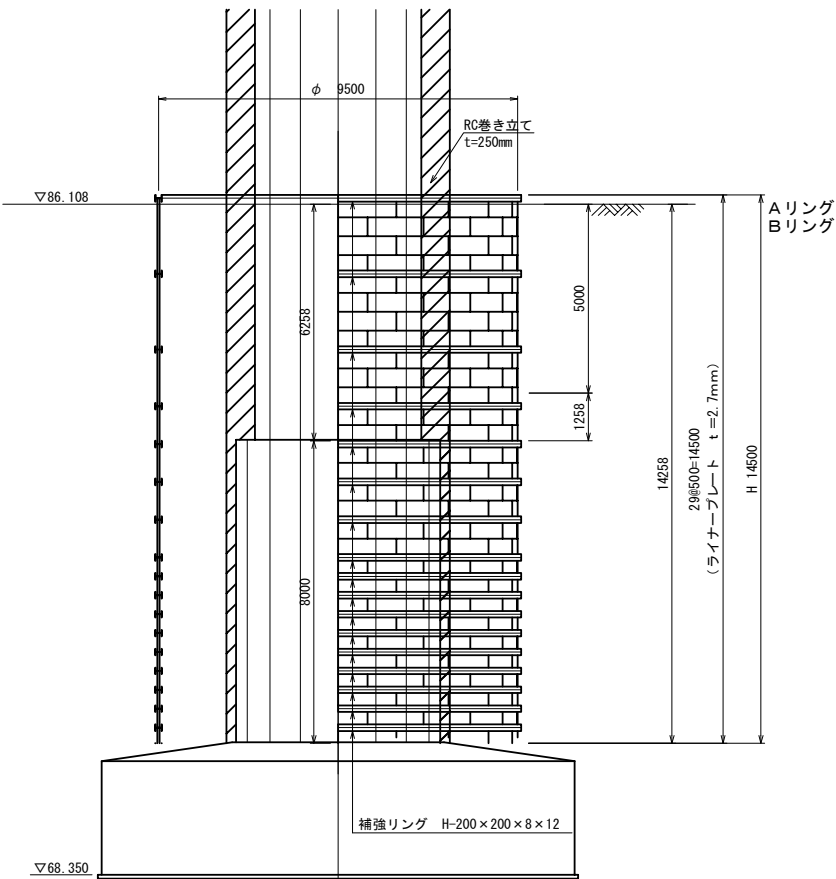
ライナープレート 縮尺=1:40



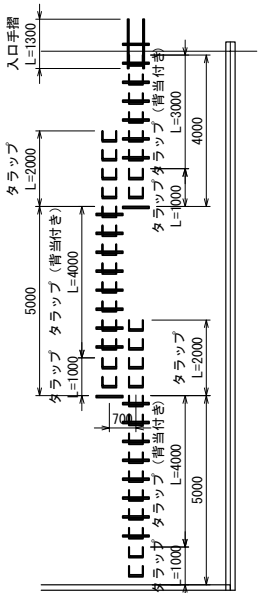
補強リング継手詳細図 縮尺=1:20



側面図 縮尺=1:200



昇降設備参考図 縮尺=1:200



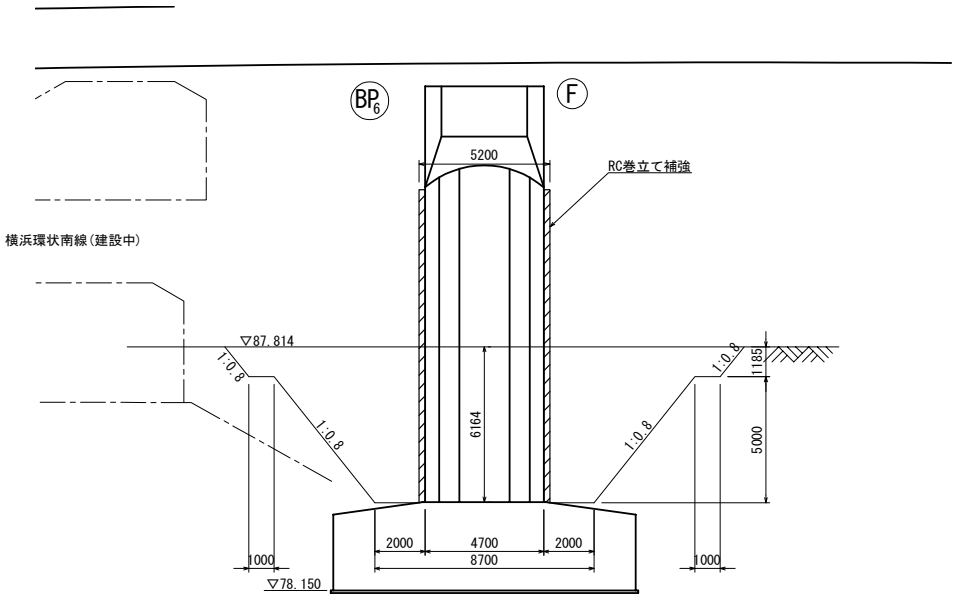
材料表

名 称	寸 法 (mm)	単体質量 (kg)	数 量	質 量 (kg)	備 考
ライナープレート (t=2.7mm)・・・H=14.5m					
ライナープレート	2.7×500×1570 (CP-10)	26.0	551	14326.0	黒皮
組立ボルト	M16×30 (4.6, LP用)	0.137	2394	328.0	
組立ボルト	M16×45 (8.8, HR用)	0.158	3230	510.3	
小計				15164.3 kg	
補強リング (H-200)・・・13リング (継ぎ手部 10箇所/1リング)					
補強リング	H-200×200×8×12×3134	156.4	68	10635.2	黒皮
補強リング	H-200×200×8×12×3448	172.1	85	14628.5	黒皮
継手板	PL-200×12×440	8.29	306	2536.7	黒皮
継手ボルト	M20×55 (8.8)	0.287	3672	1053.9	
小計				28854.3 kg	
合計				44018.6 kg	

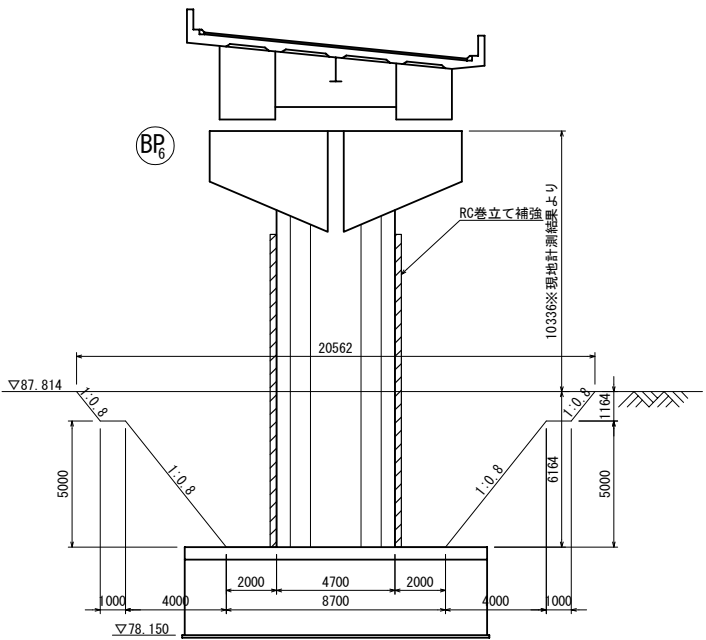
- 注記
- 1) 施工時に現地にて高さを確認し、
ライナープレート深度を調整すること。
 - 2) 昇降施設については、現地にて割り付けを確認し、
適宜調整すること。
 - 3) 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 構造物掘削(その3)			
縮 尺	図 示	図面番号	5 / 44	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

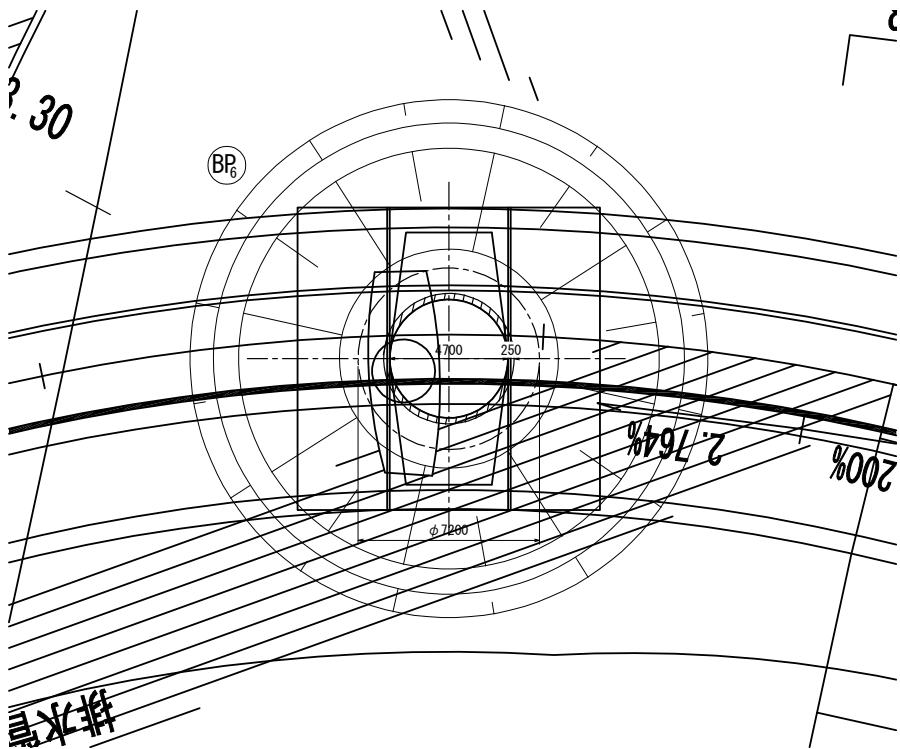
側 面 図



正 面 図



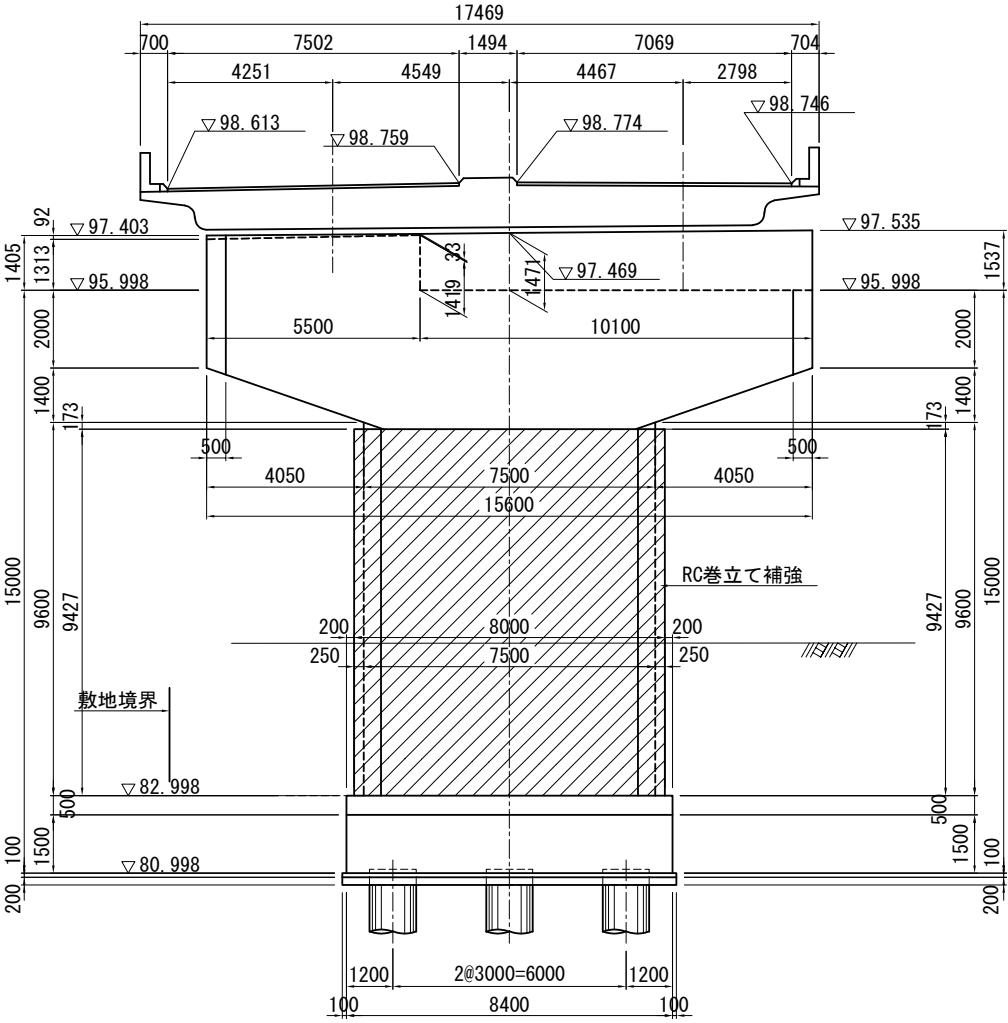
平 面 図



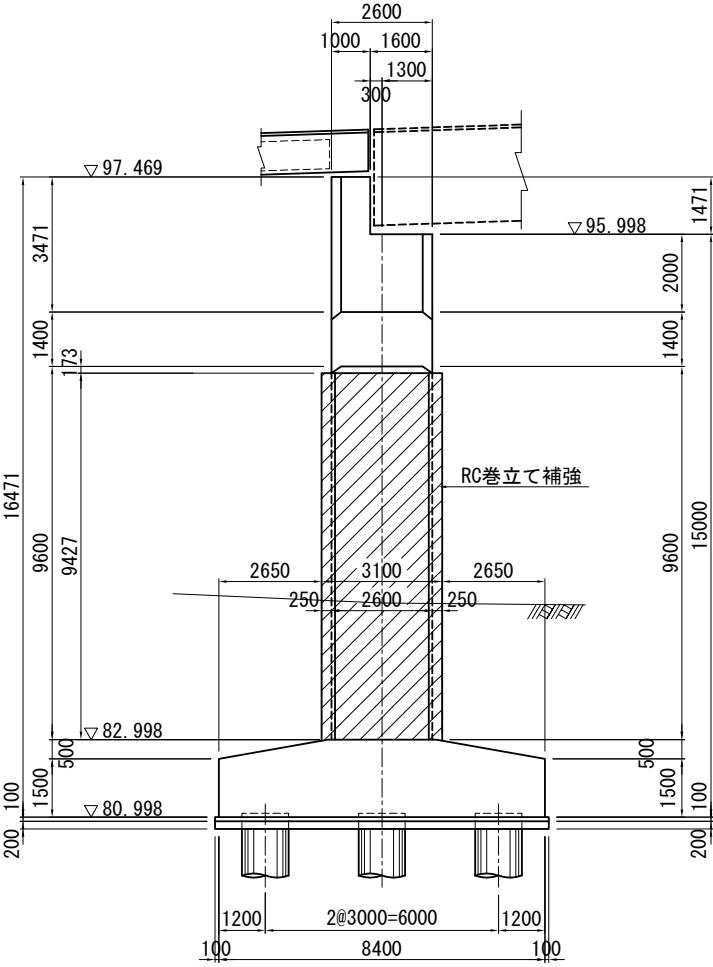
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 構造物掘削(その4)		
	縮 尺	図 示	図面番号 6 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

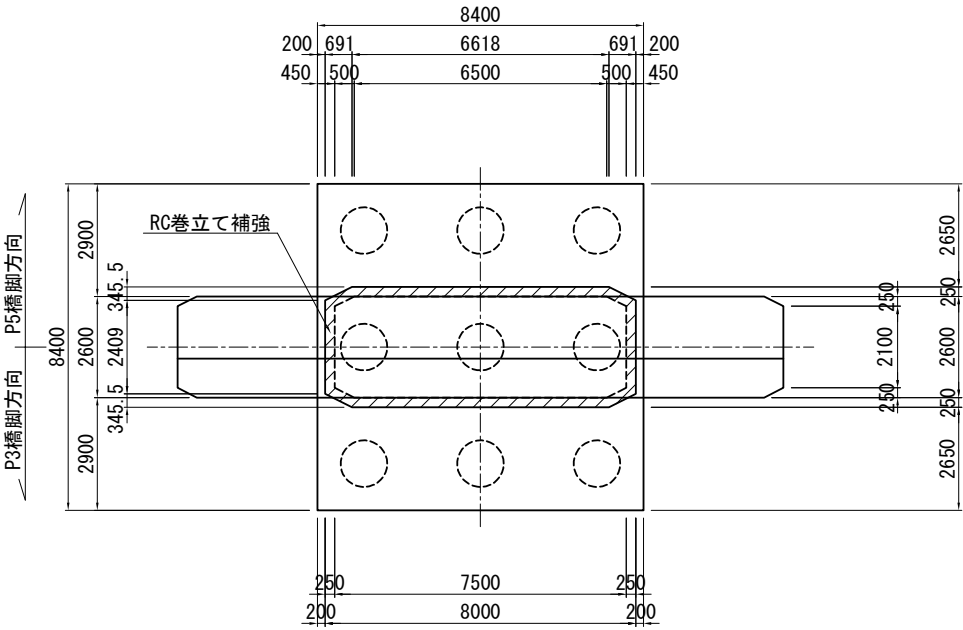
正面図 S=1:250



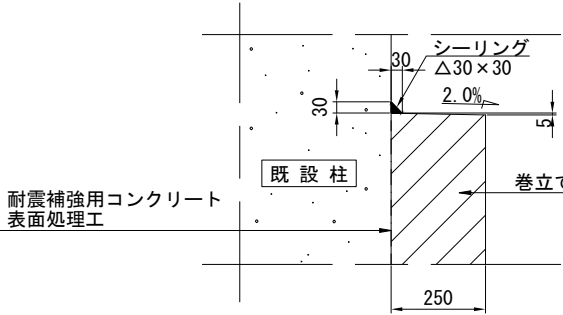
側面図 S=1:250



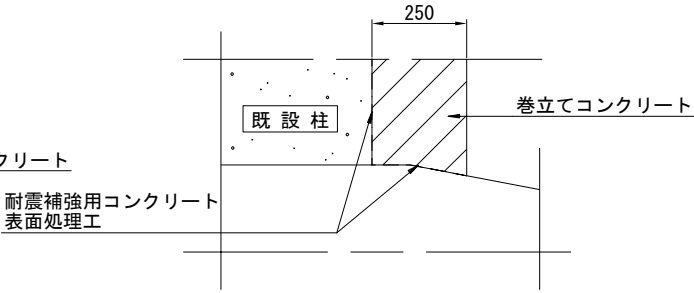
平面図 S=1:250



巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20

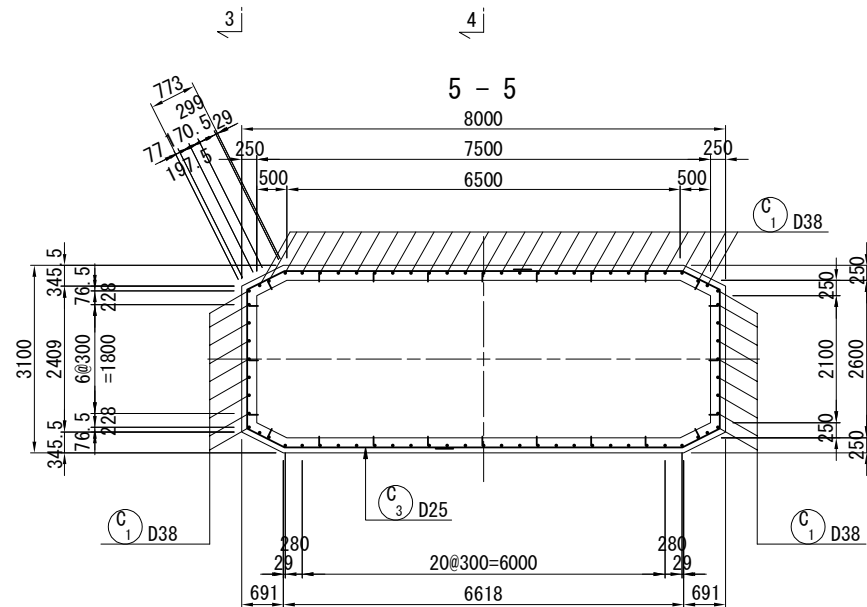
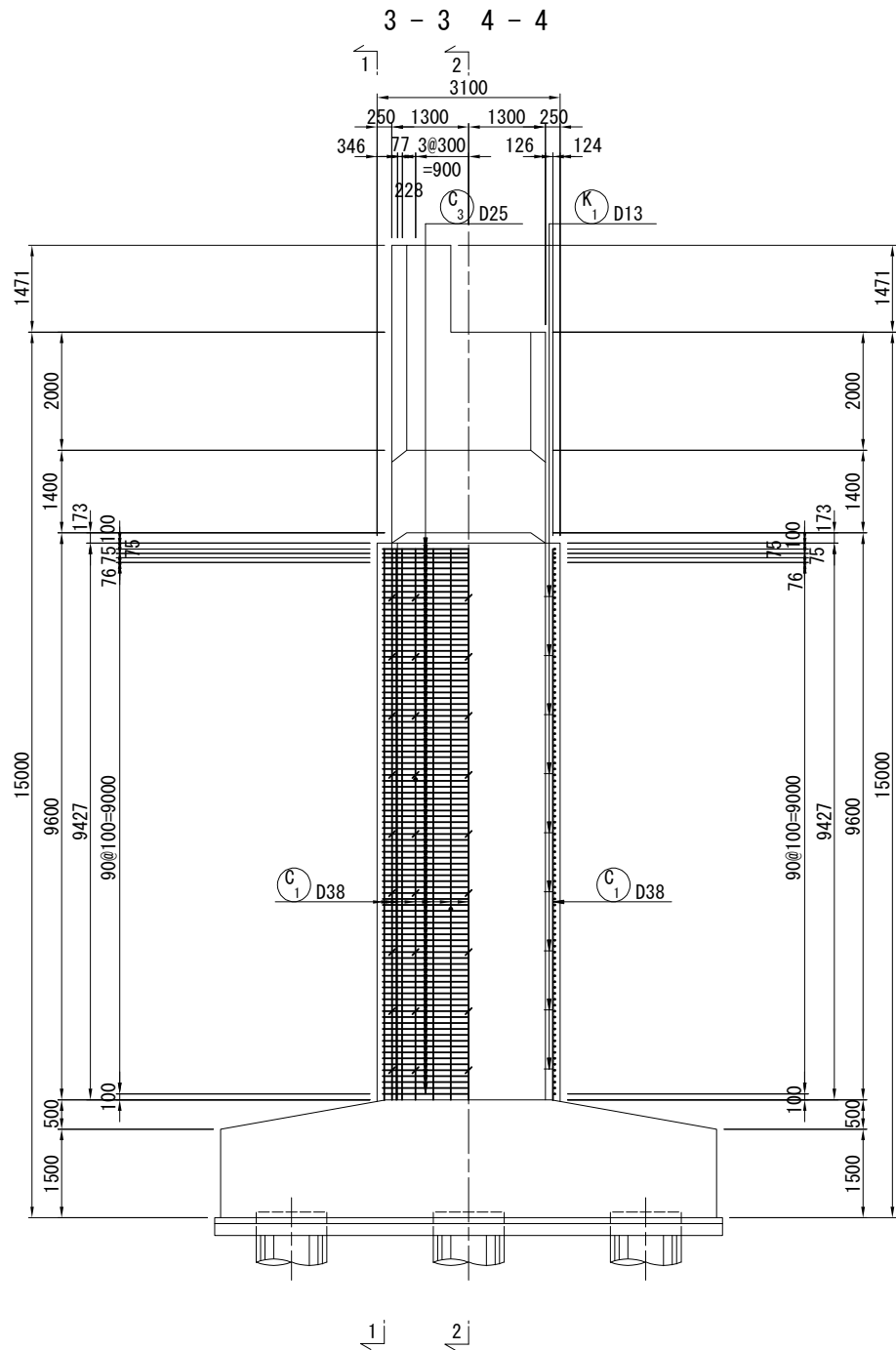
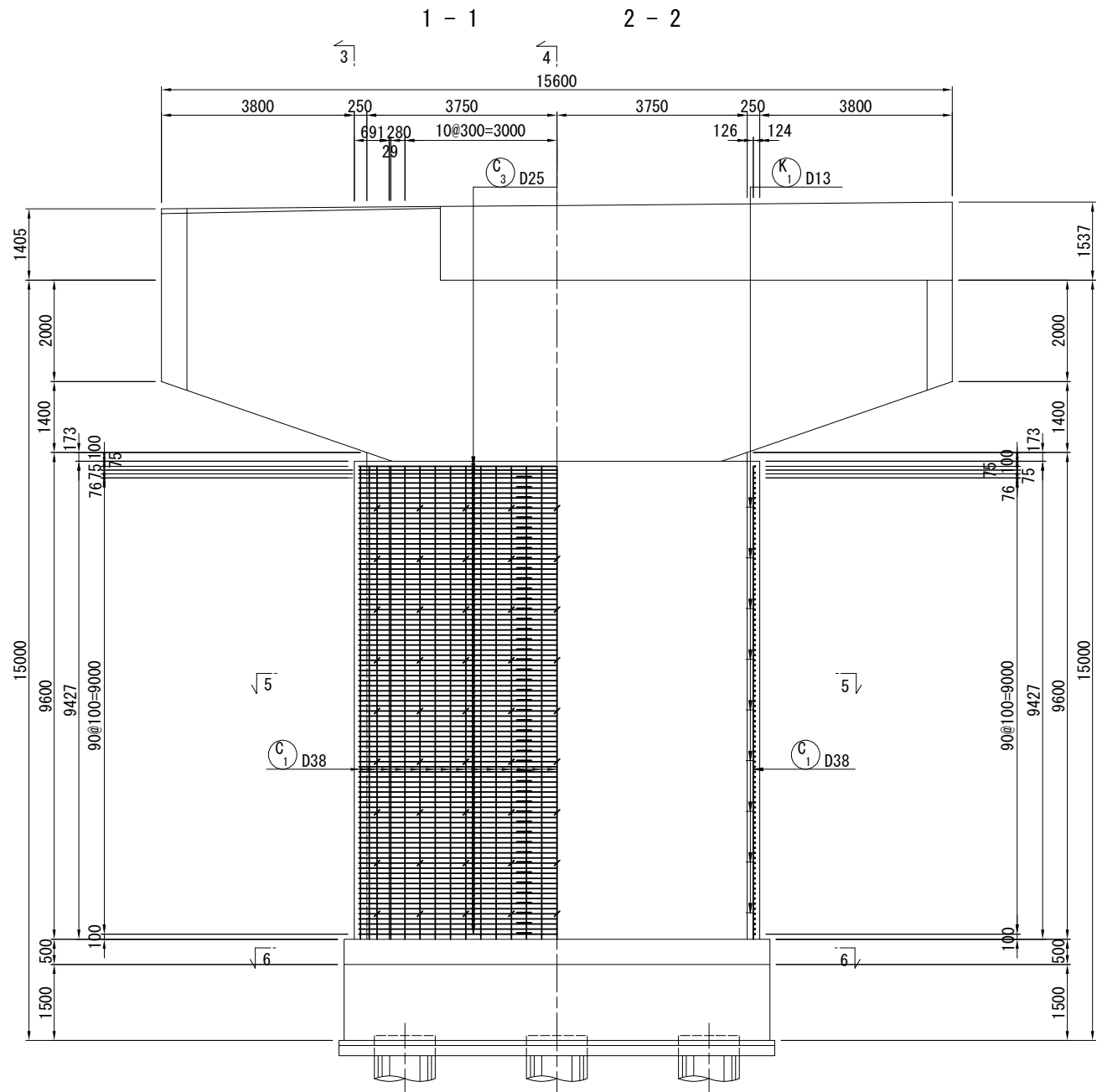


巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20



- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

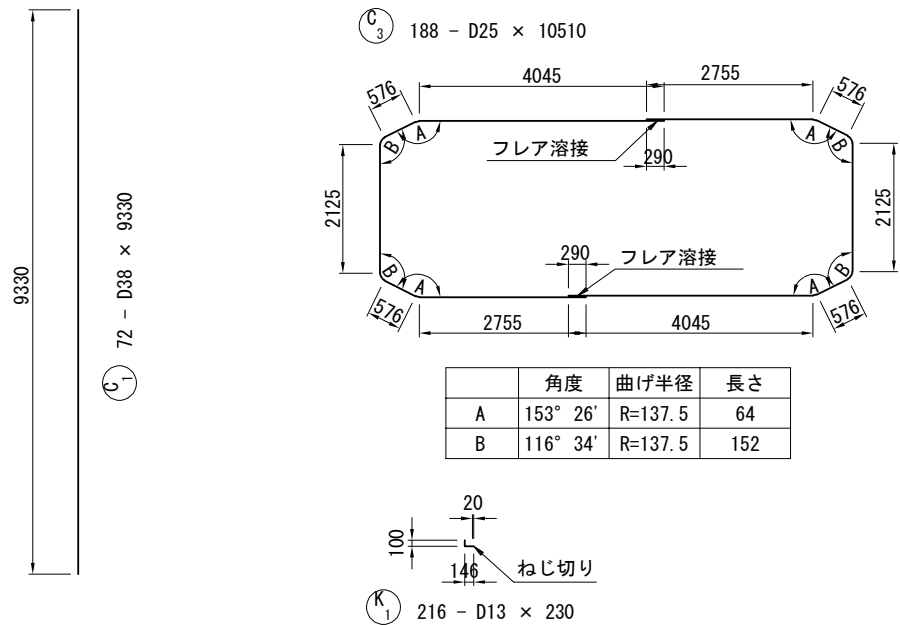
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚耐震補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	7 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



注記)

1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚耐震補強詳細図(その1)		
	縮 尺	図 示	図面番号 8 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



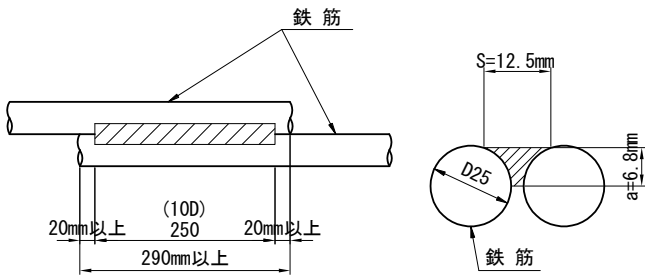
鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C ₁	D38	9330	72	8.95	83.5	6012	I
C ₃	D25	10510	188	3.98	41.8	7858	II
SD345小計						13870	kg
鉄筋I集計表							
D38						6012	kg
D25						7858	kg
(SD345) 合計						13870	kg
フレア溶接の箇所数 D25 + D25 188 箇所							
K ₁	D13	230	216	0.995	0.229	49	III
D13						49	kg

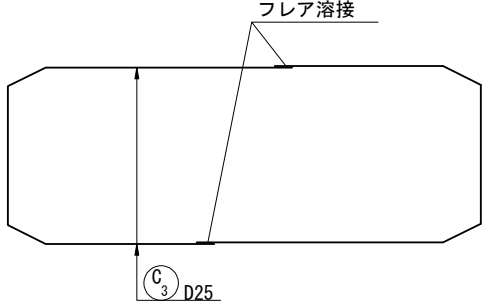
鉄筋加工寸法表

曲げ加工 〈直角フック〉					
SD345					
径	θ ≤ 90° R=3.0φ	θ > 90° R=5.5φ	θ = 90°		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

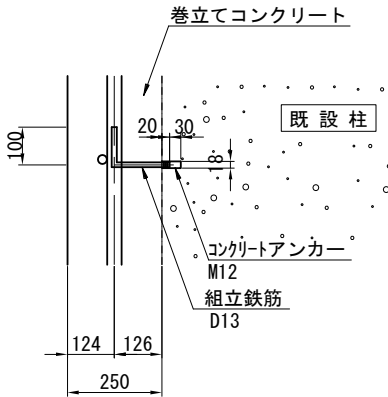
フレア溶接詳細図 S=1:10



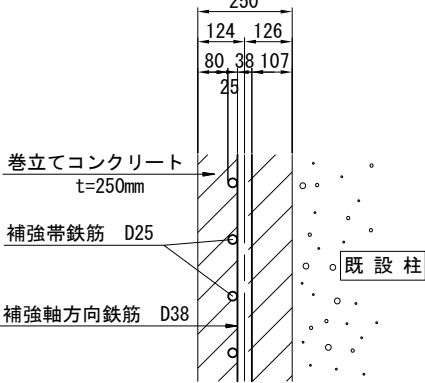
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



組立て筋詳細図(参考図) S=1:20

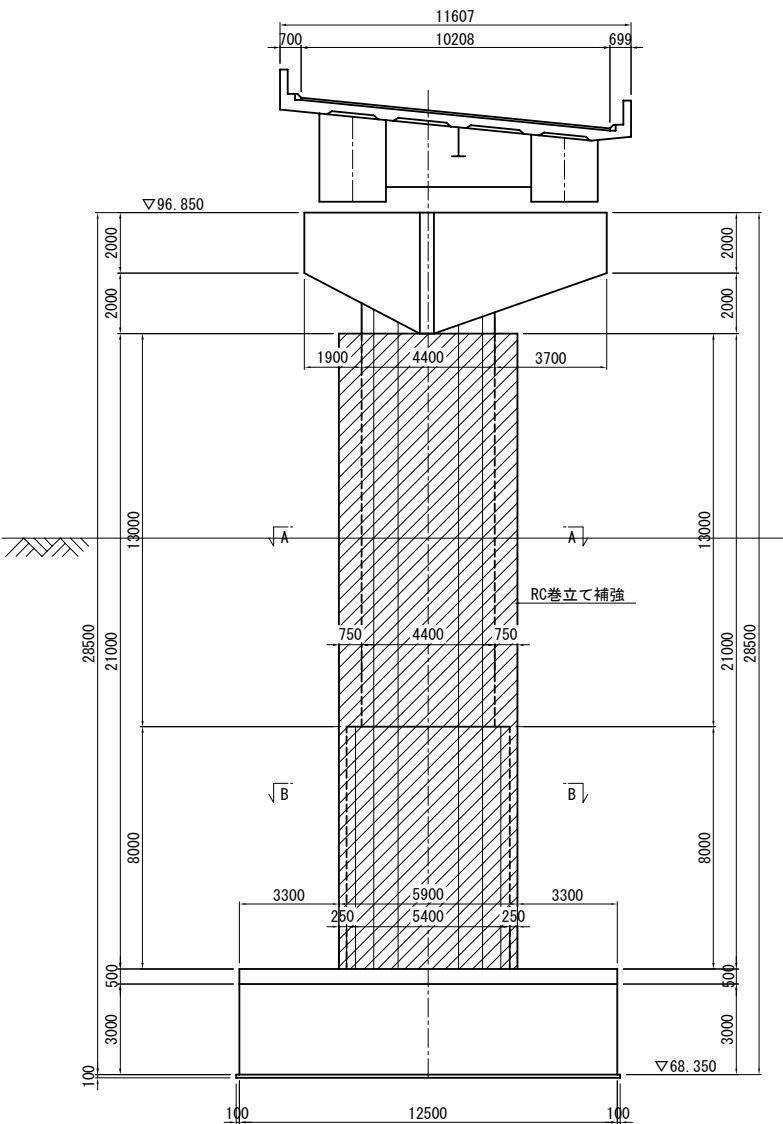


かぶり詳細図 S=1:20

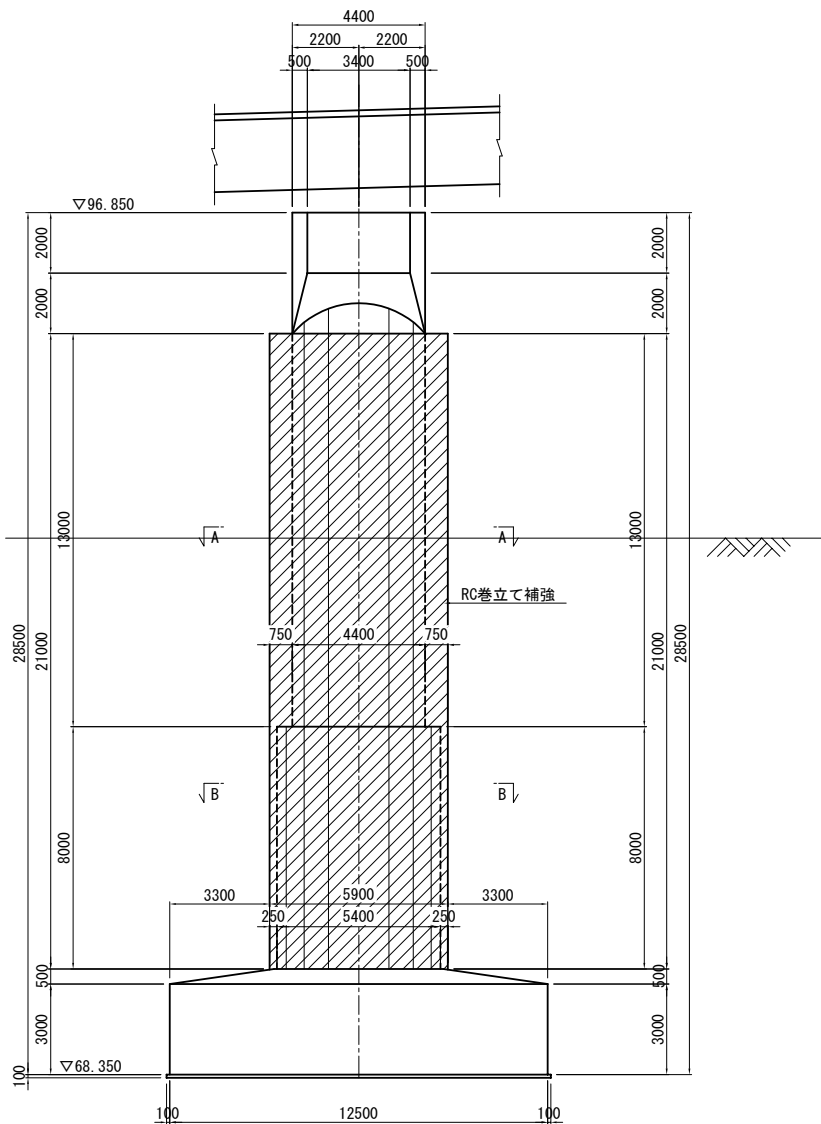


注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
8. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m²に配置すること。

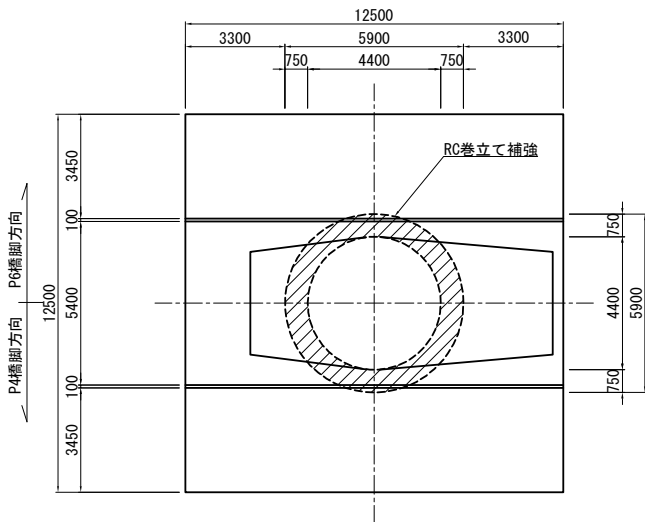
正面図 S=1:250



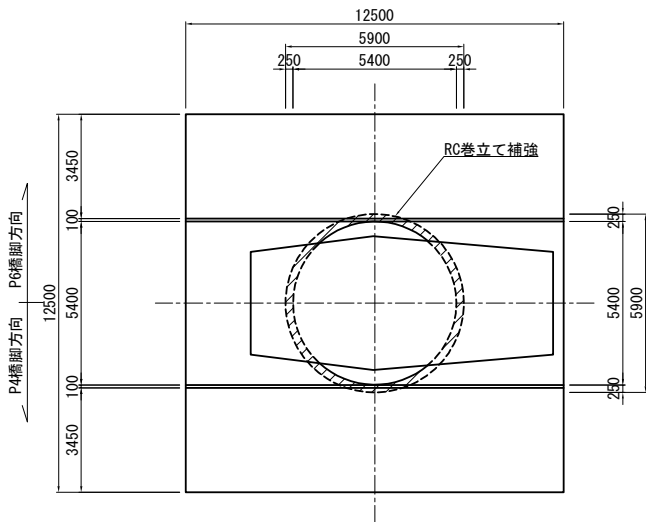
側面図 S=1:250



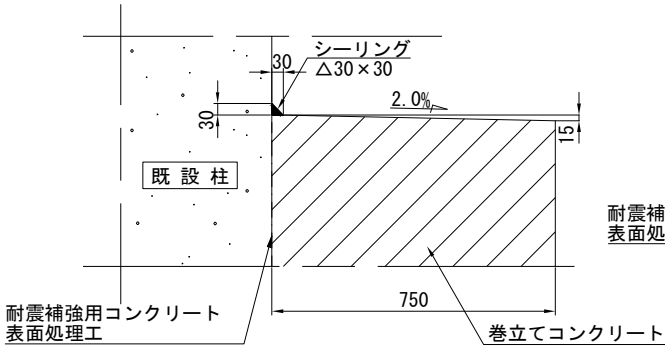
平面図(A-A) S=1:250



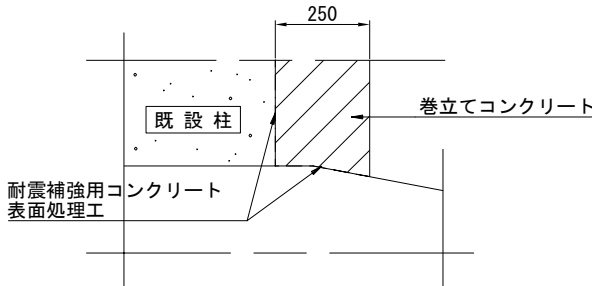
平面図(B-B) S=1:250



巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20

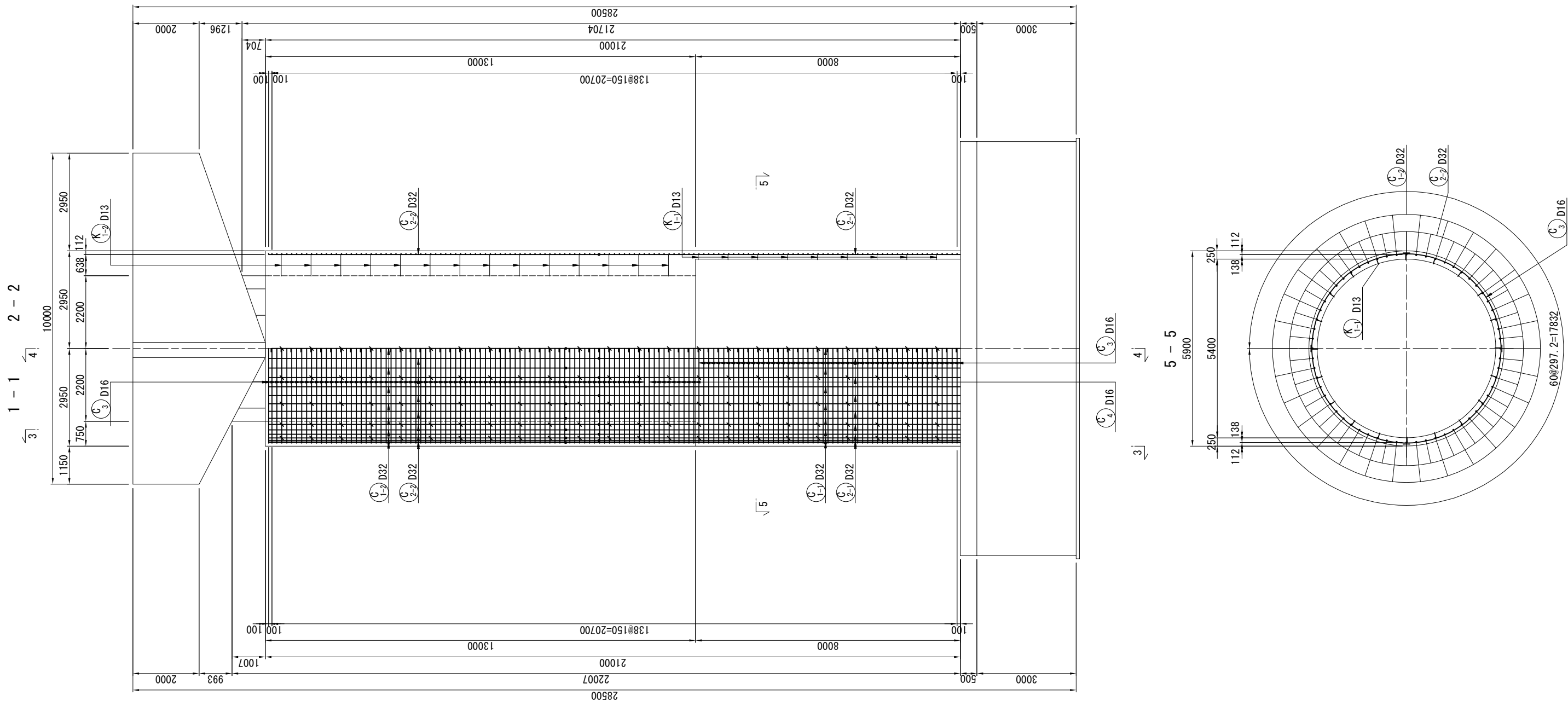


巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20



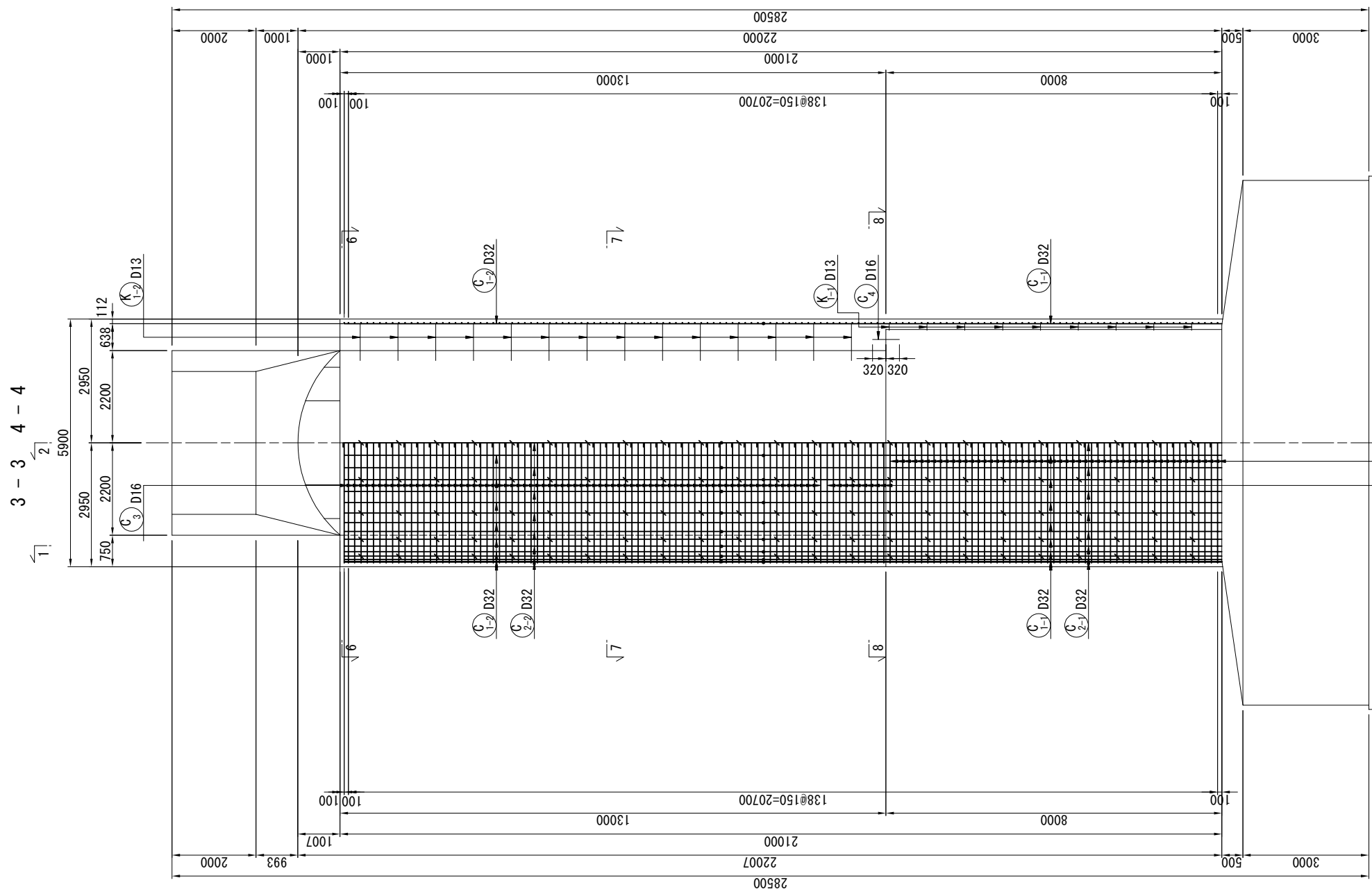
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚耐震補強構造一般図			
縮 尺	図 示	図面番号	10	/ 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

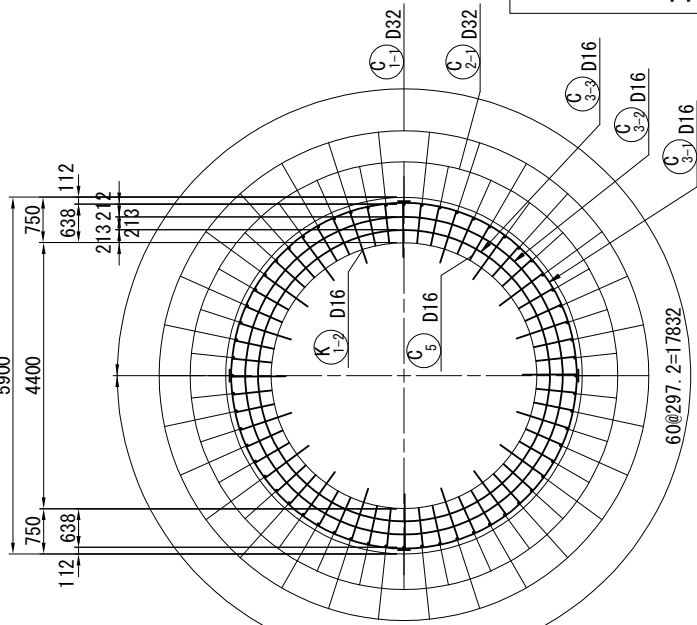


注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N}/\text{mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

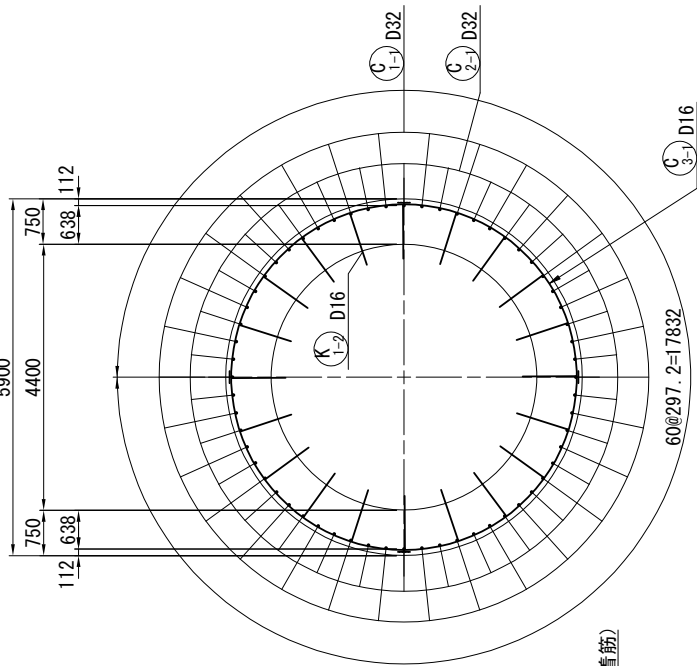
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚耐震補強詳細図(その1)		
	縮尺	図示	図面番号 11 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



6-6

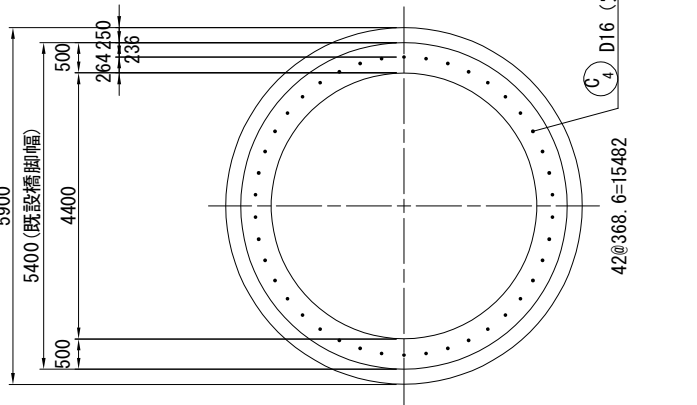


7-7



8-8

(断面変化位置のアンカー定着部)



注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚耐震補強詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	12 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

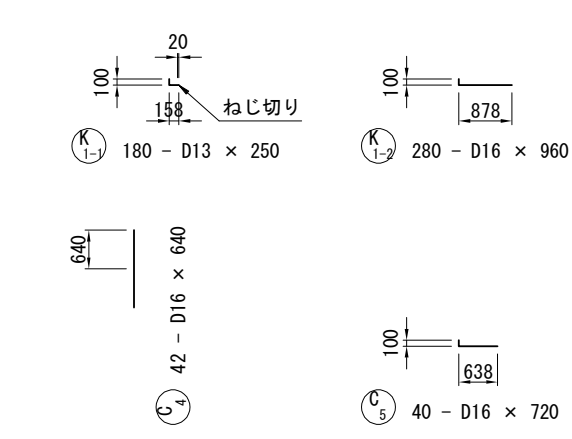
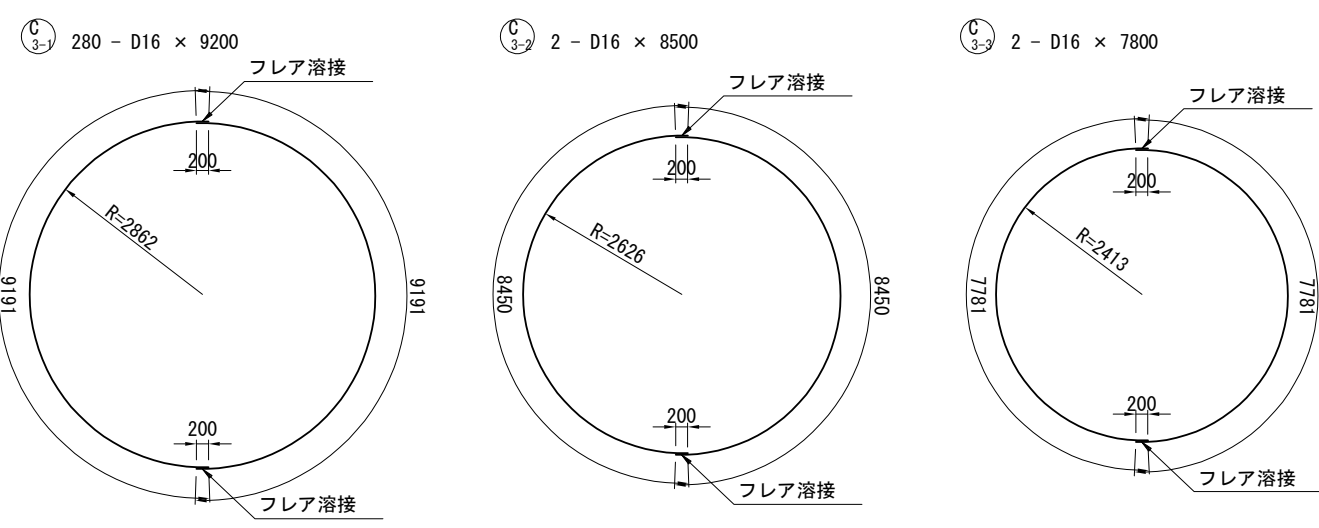
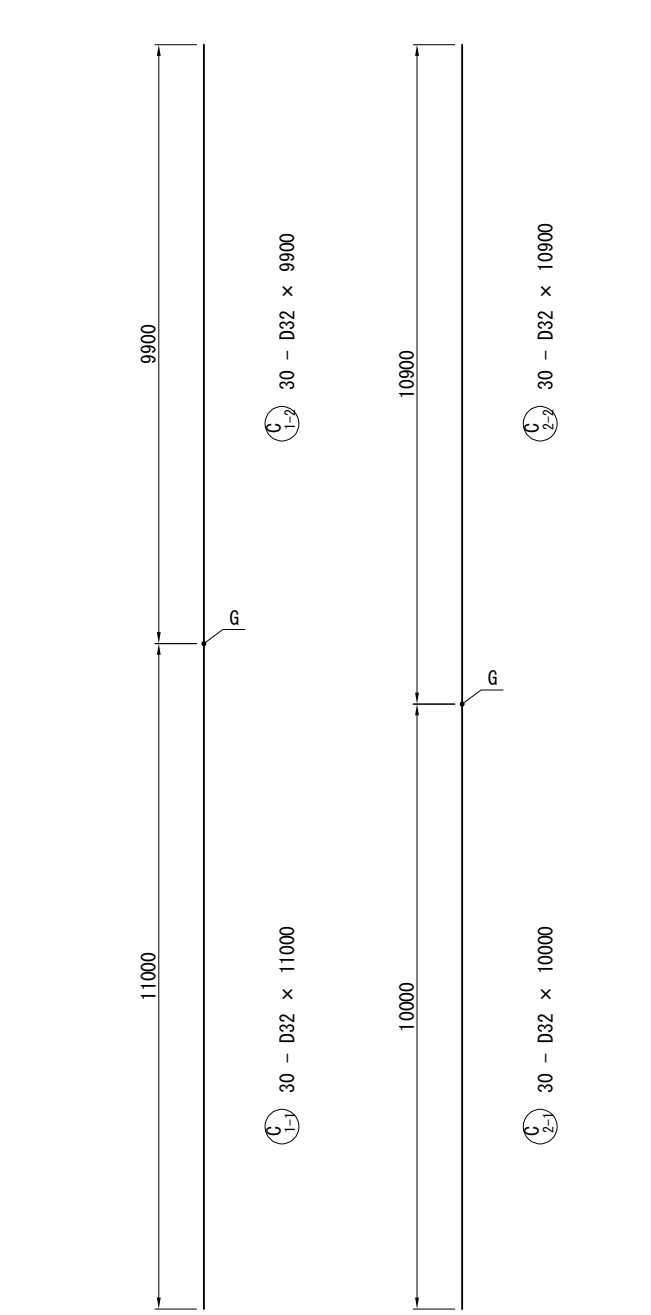
釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚耐震補強詳細図(その3)

鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘 要
C 1-1	D32	11000	30	6.23	68.5	2055	↑ (30)
C 1-2	D32	9900	30	6.23	61.7	1851	↓
C 2-1	D32	10000	30	6.23	62.3	1869	↑ (30)
C 2-2	D32	10900	30	6.23	67.9	2037	↓
C 3-1	D16	9200	280	1.56	14.4	4032	○
C 3-2	D16	8500	2	1.56	13.3	27	○
C 3-3	D16	7800	2	1.56	12.2	24	○
SD345 小計						11895	kg
鉄 筋 T 集 計 表							
D32					7812	kg	(60)
D16					4083	kg	
(SD345) 合計					11895	kg	(60)
フレア溶接の箇所数 D16 + D16							
					284	箇所	
ガス圧接の箇所数 D32 + D32							
					60	箇所	
C 4	D16	640	42	1.56	1.00	42	↓
C 5	D16	720	40	1.56	1.12	45	↓
K 1-1	D13	250	180	0.995	0.249	45	└─┘
K 1-2	D16	960	280	1.56	1.50	420	└─┘
D13					45	kg	
D16					507	kg	
合計					552	kg	

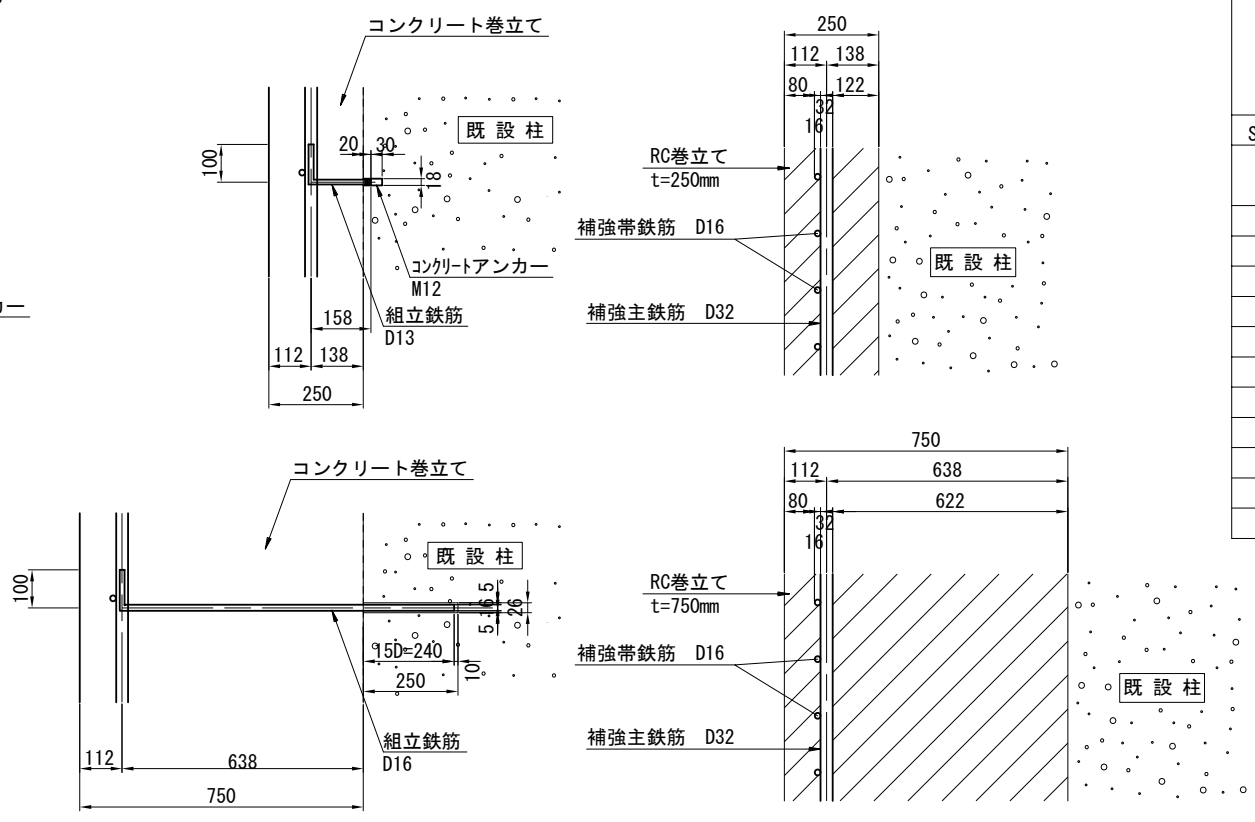
鉄筋加工寸法表

曲げ加工 〈直角フック〉					
SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=3.0\phi$	$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$	$\theta=90^\circ$		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

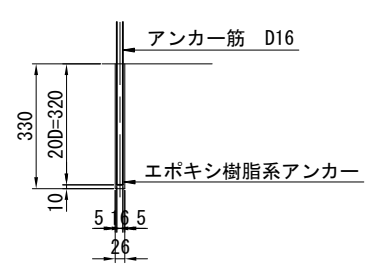


組立て筋詳細図(参考図) S=1:20

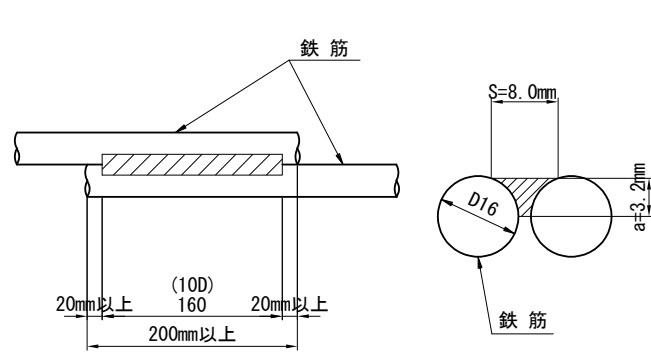
かぶり詳細図 S=1:20



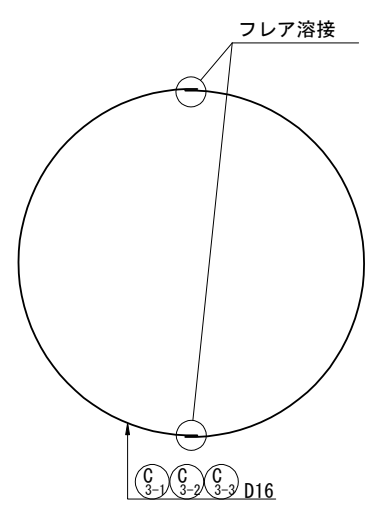
アンカー詳細図 S=1:20



フレア溶接詳細図 S=1:10

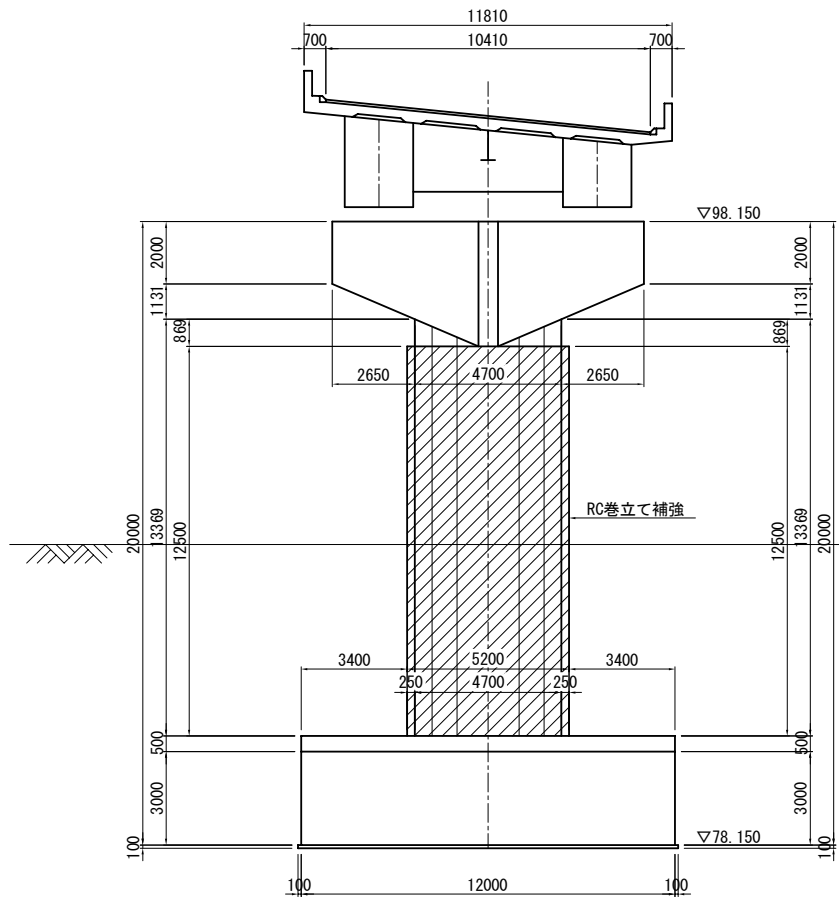


補強帯鉄筋組立図 S=1:20

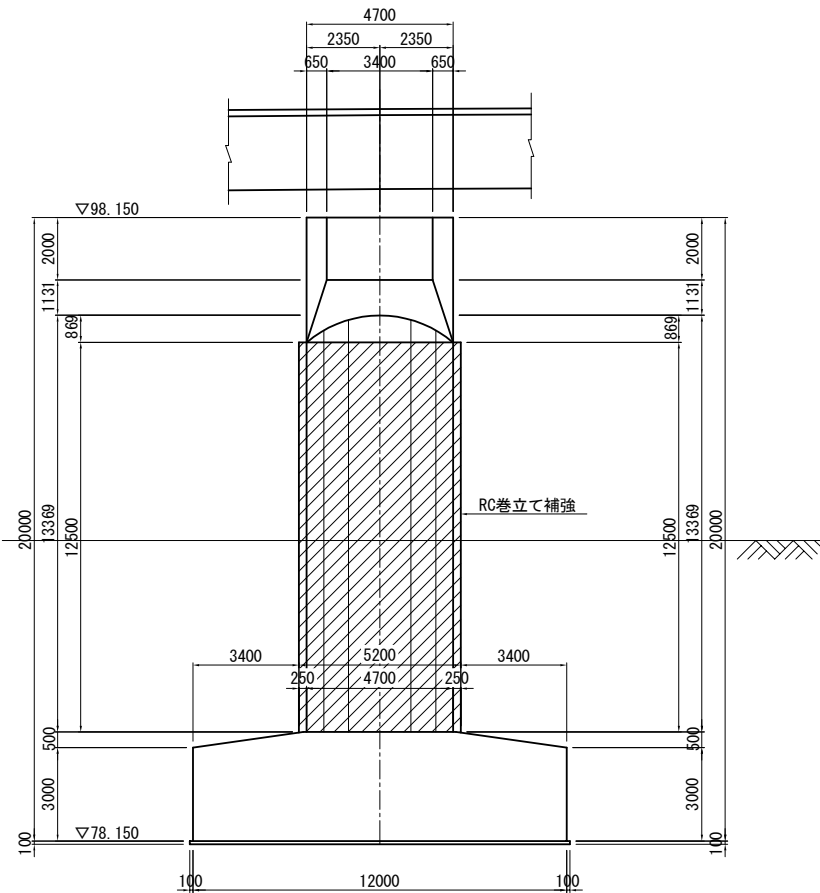


- 注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m²に配置すること。

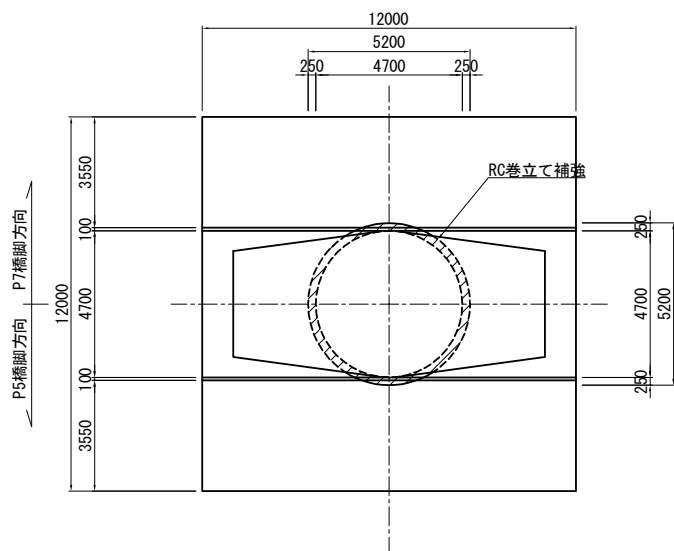
正面図 S=1:250



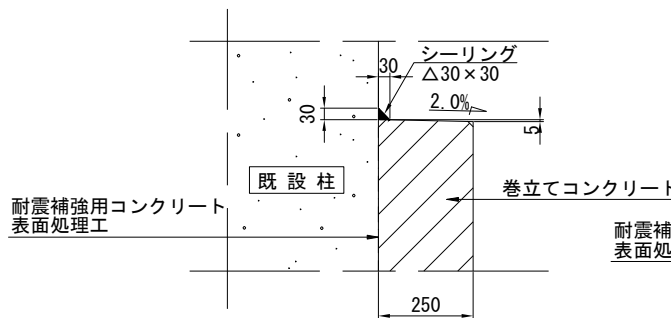
側面図 S=1:250



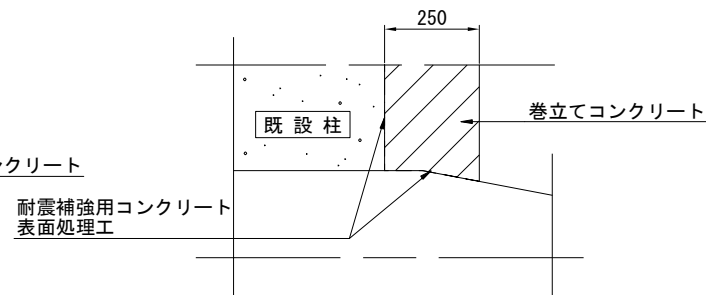
平面図 S=1:250



巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20

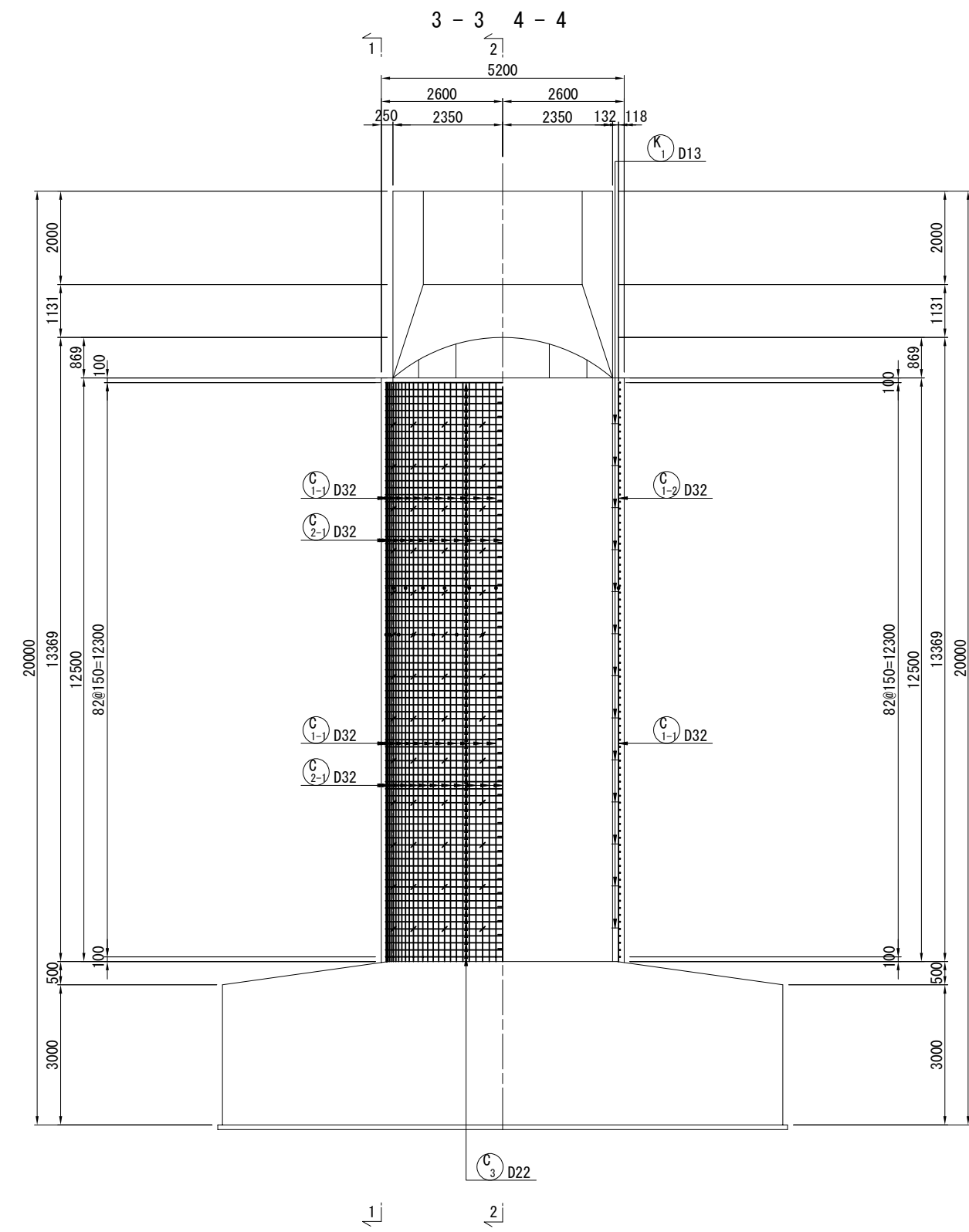
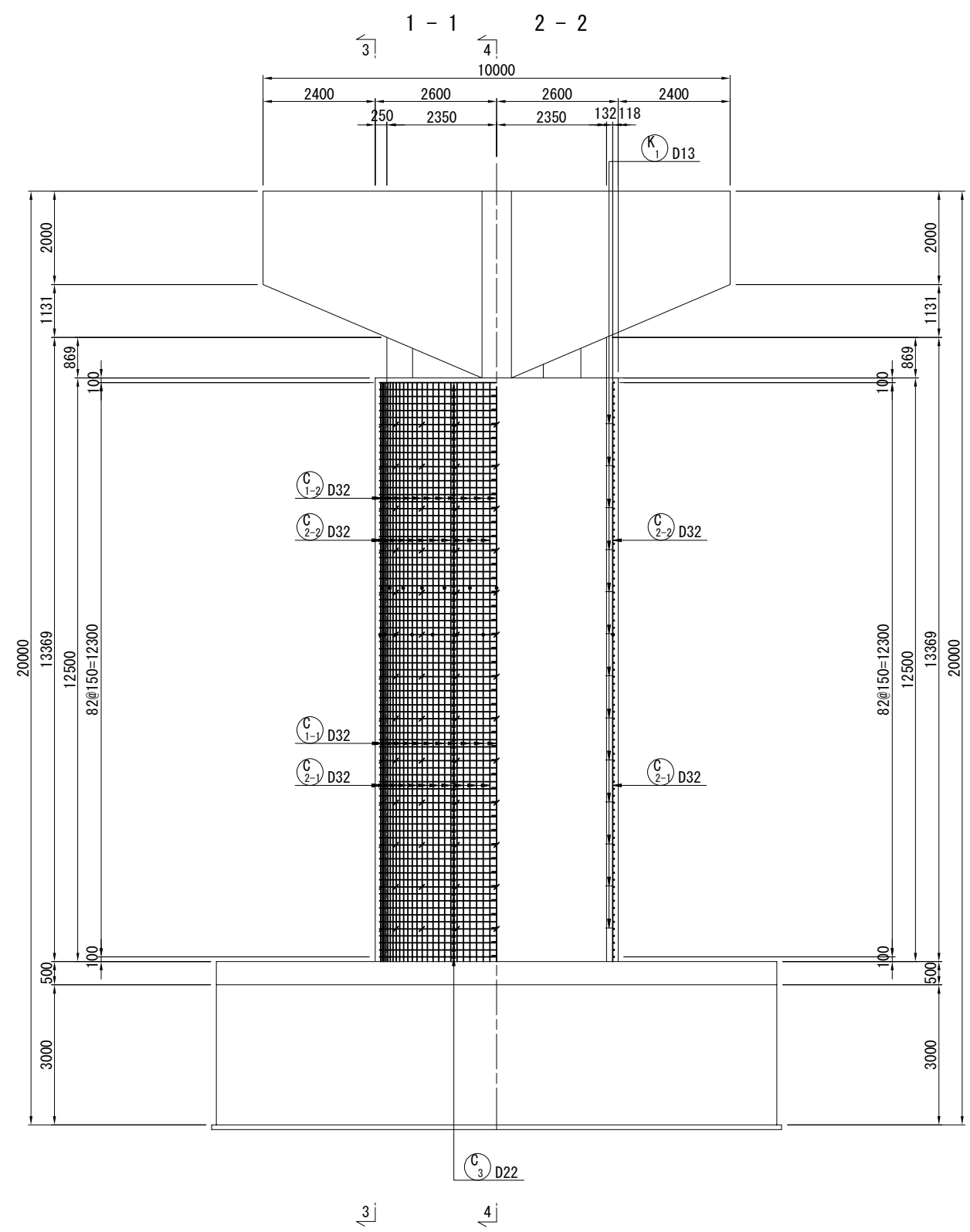


巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20



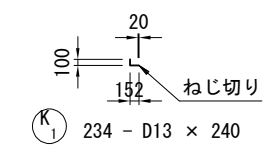
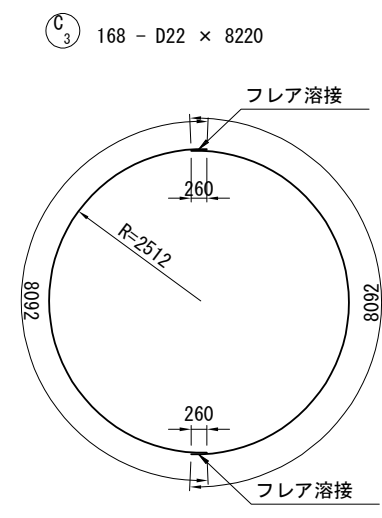
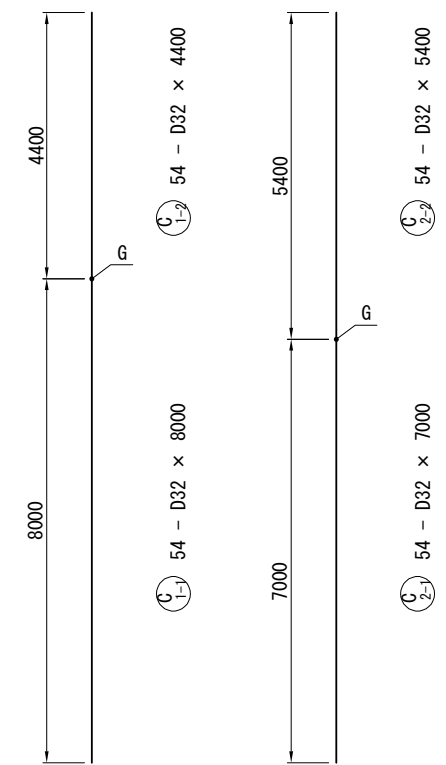
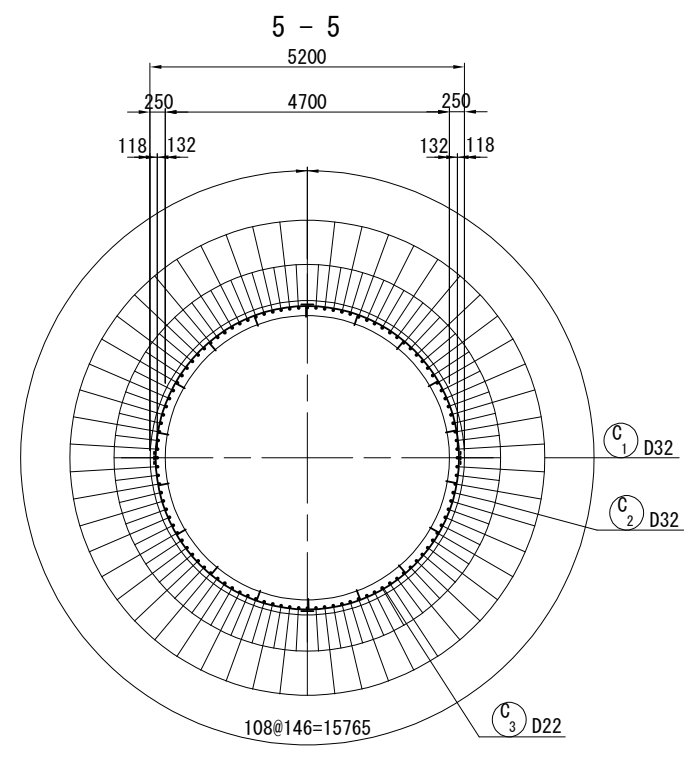
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP6橋脚耐震補強構造一般図			
	縮 尺	図 示	図面番号	14 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			



注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP6橋脚耐震補強詳細図（その1）			
縮 尺	図 示	図面番号	15 / 44	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			



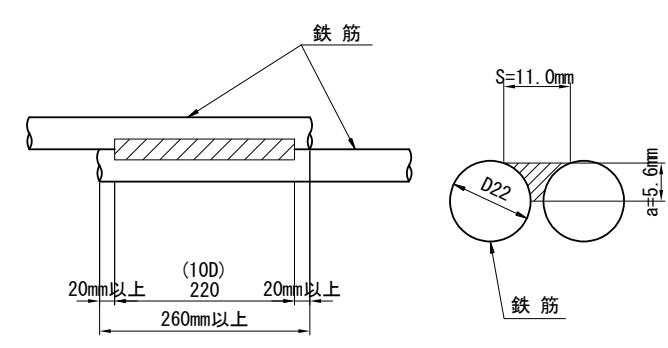
鉄筋表

種別	径	長 さま (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1 本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D32	8000	54	6. 23	49. 8	2689	↑ (54)
C 1-2	D32	4400	54	6. 23	27. 4	1480	↓
C 2-1	D32	7000	54	6. 23	43. 6	2354	↑ (54)
C 2-2	D32	5400	54	6. 23	33. 6	1814	↓
C 3	D22	8220	168	3. 04	25. 0	4200	○
SD345 小計						12537	kg
鉄 筋 Ⅰ 集 計 表							
D32					8337	kg	(90)
D22					4200	kg	
(SD345) 合計					12537	kg	(90)
フレア溶接の箇所数				D22 + D22	168	箇所	
ガス圧接の箇所数				D32 + D32	108	箇所	
K Ⅰ	D13	240	234	0. 995	0. 239	56	└┬┘
D13					56	kg	

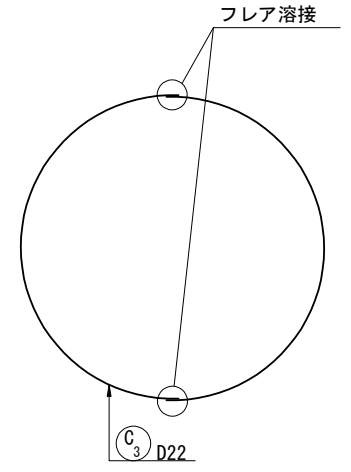
鉄筋加工寸法表

曲げ加工 〈直角フック〉					
SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 90^\circ$		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

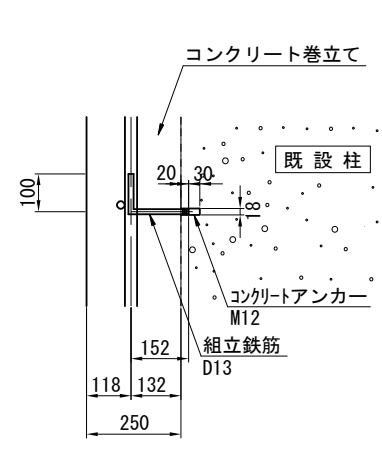
フレア溶接詳細図 S=1:10



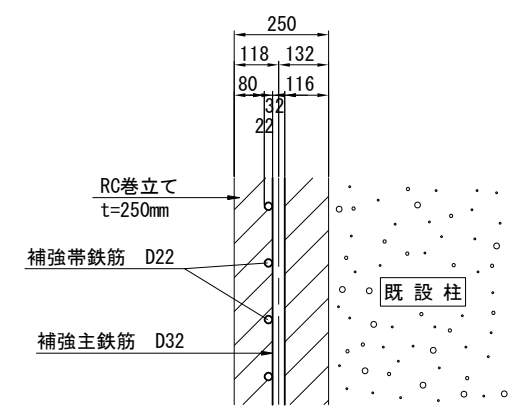
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



組立て筋詳細図(参考図) S=1:20



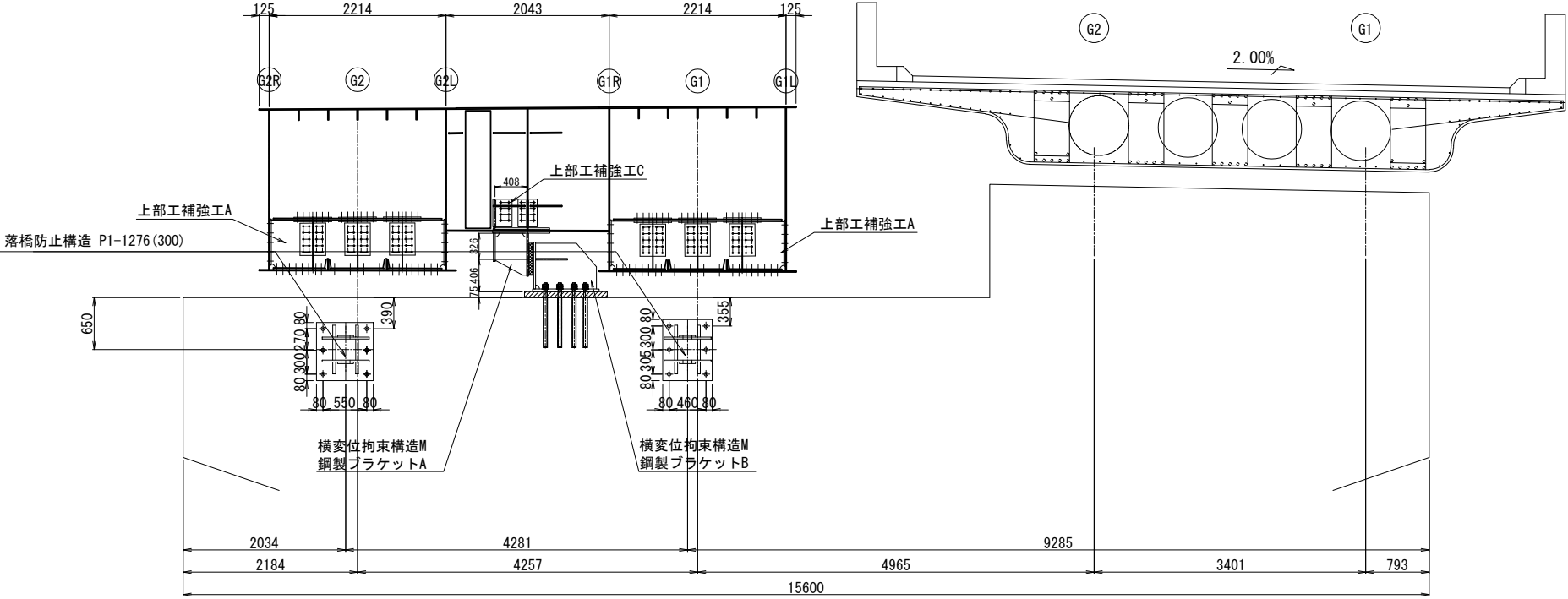
かぶり詳細図 S=1:20



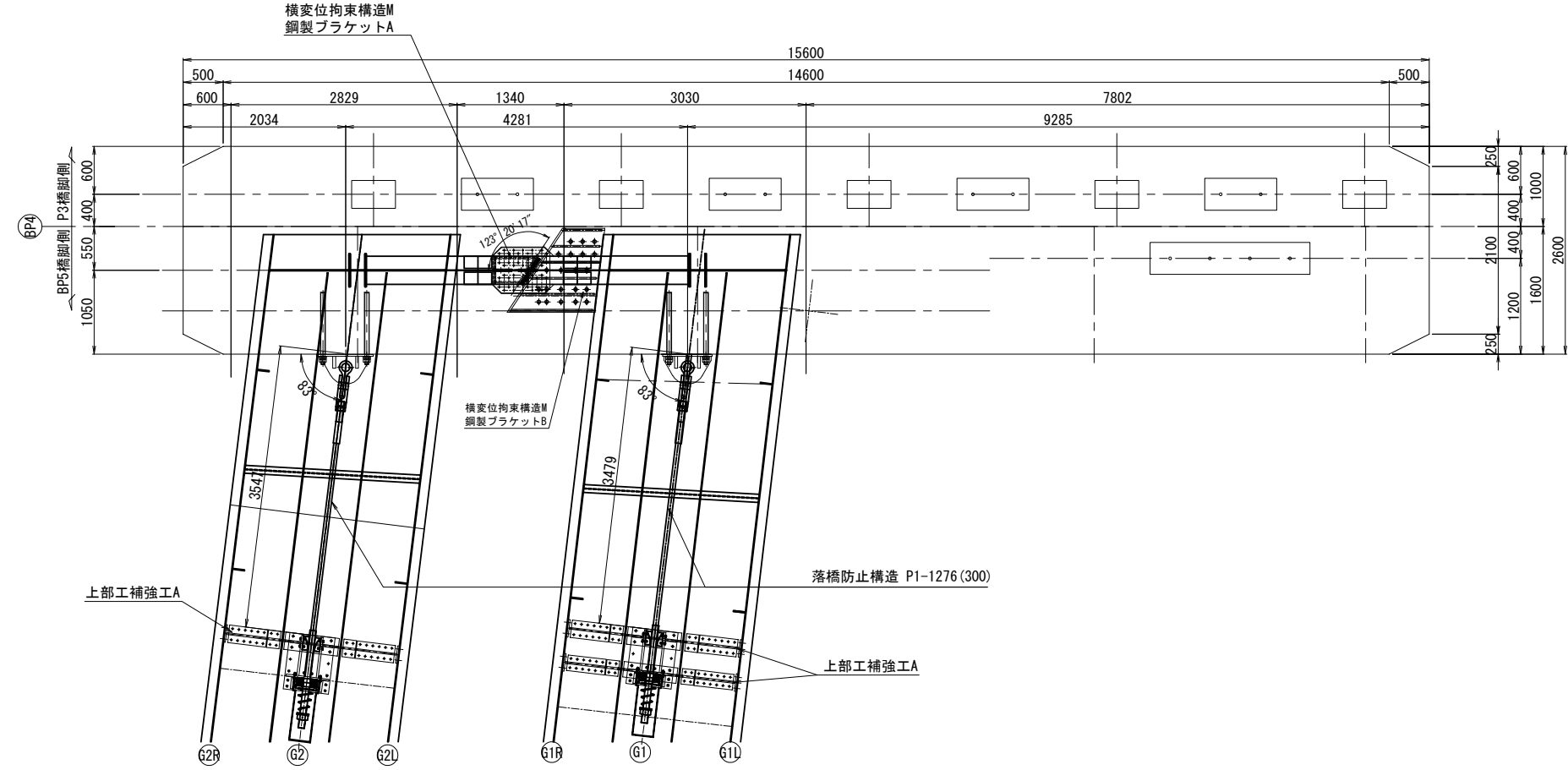
- 注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m2に配置すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP6橋脚耐震補強詳細図(その2)			
	縮尺	図示	図面番号	16 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			

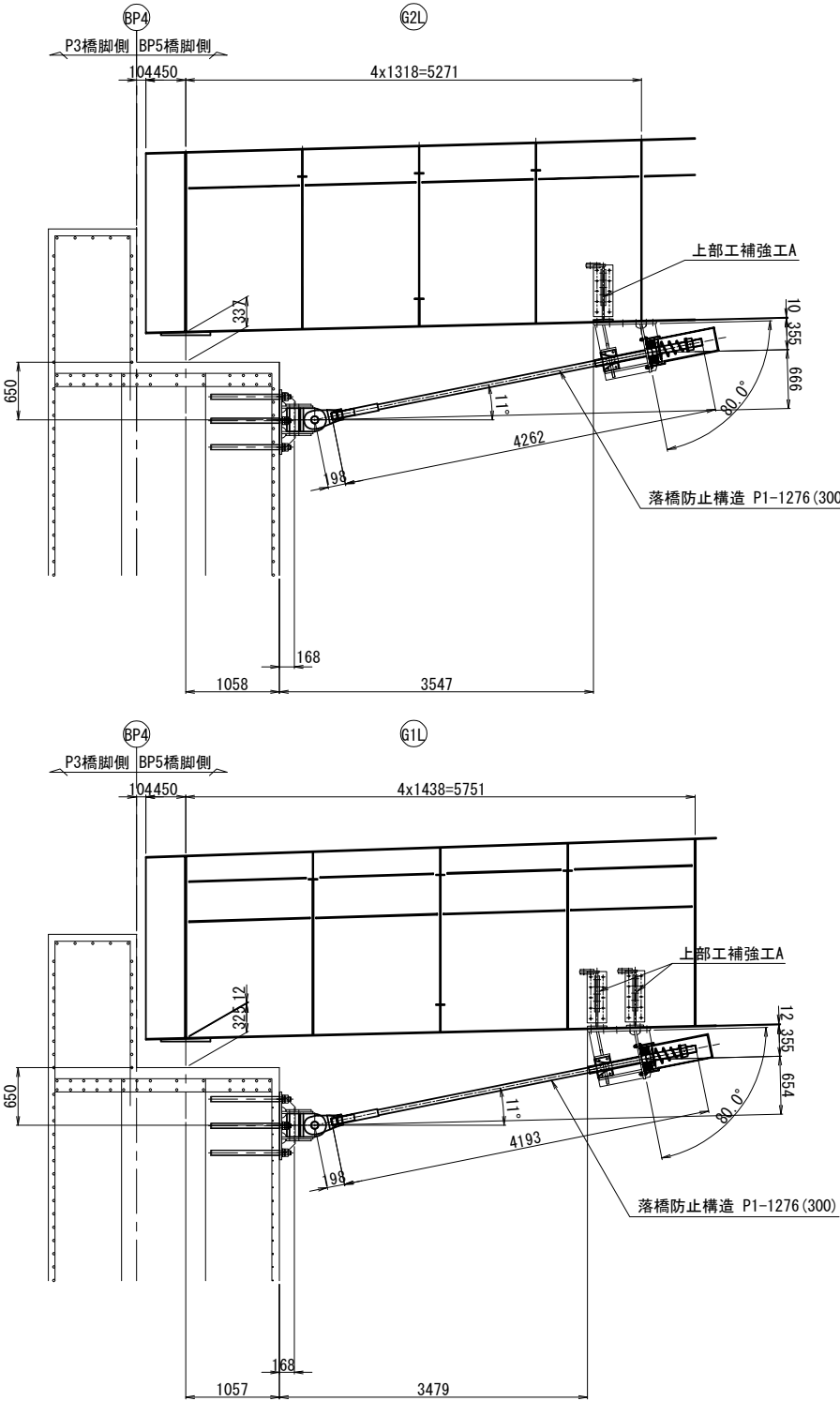
正面図



平面図



側面図

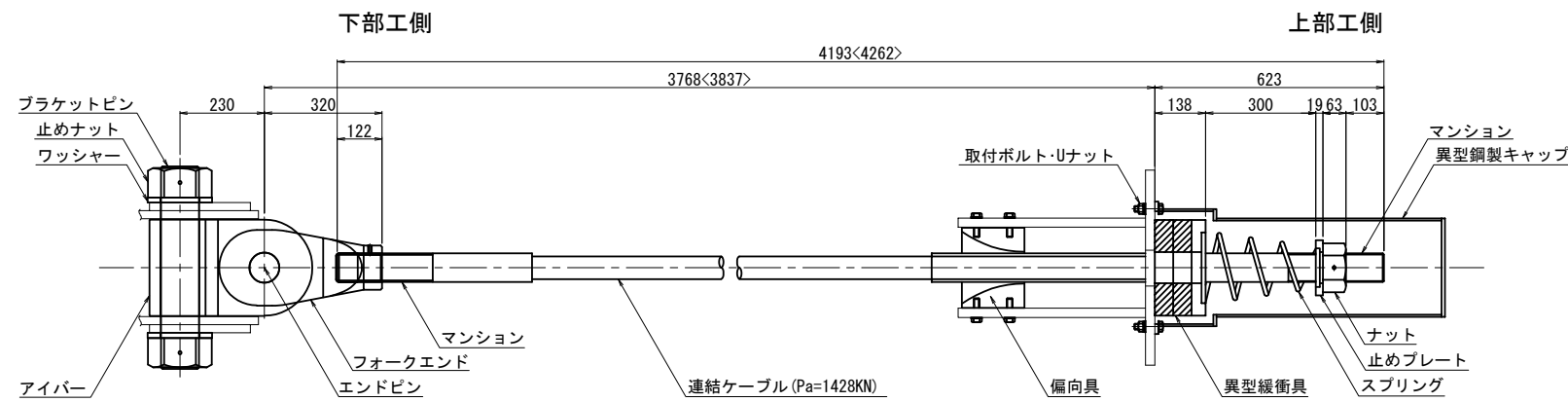


注記)
1. 本図面は竣工図を基に作成しているため、
現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。

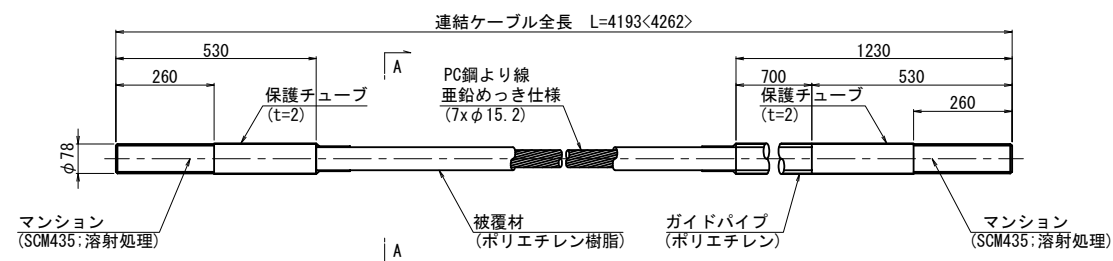
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚耐震補強配置図		
縮 尺	1:80	図面番号	17 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

落橋防止構造 P1-1276(300)

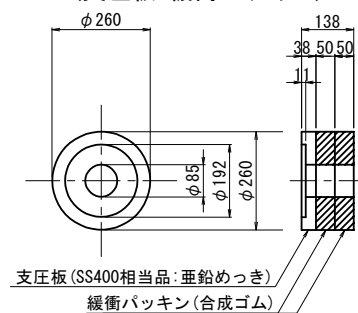
取付詳細図



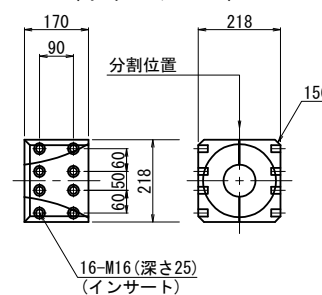
連結ケーブル



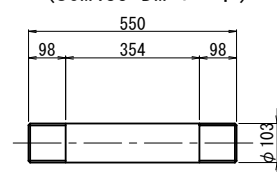
異型緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



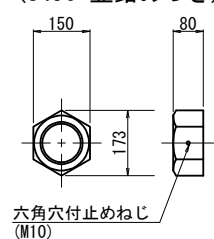
偏 向 具
(ポリエチレン)



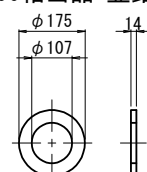
ブラケットピン
(SCM435:DMコート)



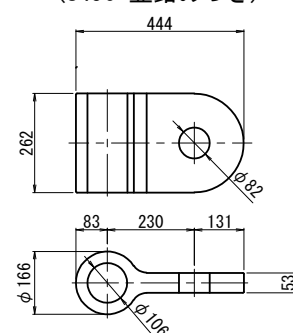
止めナット
(S45C:亜鉛めっき)



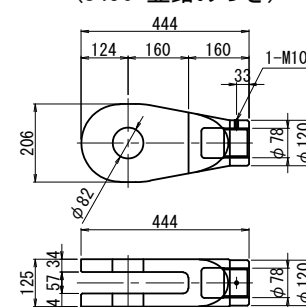
ワッシャー
(SS400相当品:亜鉛めっき)



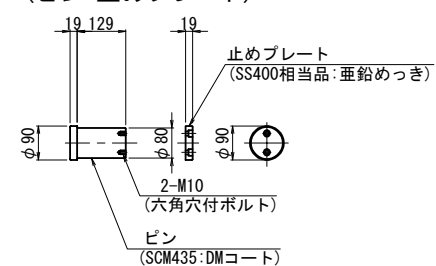
アイバー
(S45C:亜鉛めっき)



フォークエンド
(S45C:亜鉛めっき)



エンドピン
(ピン+止めプレート)



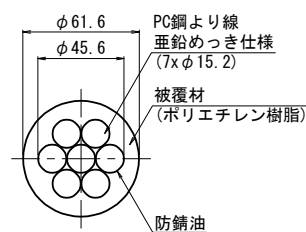
材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

全2組

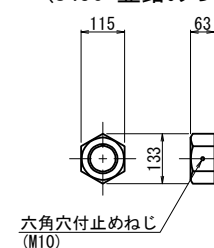
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	Pa=1428KN L=4193<4262>mm Pa=1428KN用 標準 Pa=1428KN用 700mm	本 個 本	1 2 1	PC鋼より線、垂鉛めっき仕様、ポリエチレン被覆 SCM435、垂鉛アルミ溶射、ねじきり標準 <ケーブルに組込> ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット	Pa=1428KN用	個	1	S45C、垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	Pa=1428KN用	個	1	SS400相当品、垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング	Pa=1428KN用 L=450	個	1	SW-C、垂鉛めっき、クロメート処理
異型緩衝具	Pa=1428KN用	個	1	SS400相当品、垂鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具 (取付ボルト)	Pa=1428KN用 M16x55 1W付	個 本	1 16	ポリエチレン SS400相当品、垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
異型鋼製キャップ	Pa=1428KN用 L=780	個	1	SS400, STK400、垂鉛めっき (HDZT77, t=6未満HDZT70)
取付ボルト・リナット	M16x65 2W付	本	4	SS400相当品、垂鉛めっき (HDZT49)
ブラケットピン	Pa=1428KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズド処理, DMコート
止めナット	Pa=1428KN用	個	2	S45C、垂鉛めっき (HDZT77)
ワッシャー	Pa=1428KN用	個	2	SS400相当品、垂鉛めっき (HDZT77)
アイバー	Pa=1428KN用	個	1	S45C、垂鉛めっき (HDZT77)
フォークエンド	Pa=1428KN用	個	1	S45C、垂鉛めっき (HDZT77)
エンドピン (ピン)	Pa=1428KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズド処理, DMコート
(止めプレート)	Pa=1428KN用	個	1	SS400相当品、垂鉛めっき (HDZT77)

※ L=4193mm 1本, L=4262mm 1本

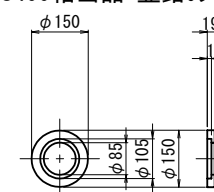
A-A断面図 S=1:2



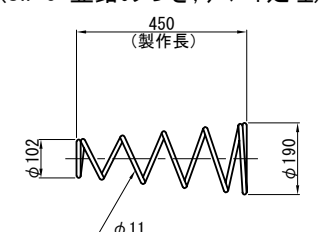
ナット
(S45C:亜鉛めっき)



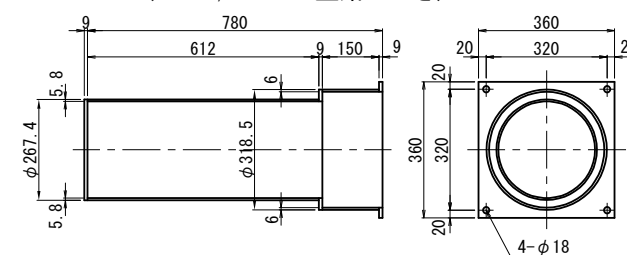
止めプレート
(SS400相当品:亜鉛めっき)



スプリング
(SW-C:亜鉛めっき,クロメート処理)



異型鋼製キャップ
(SS400, STK400:亜鉛めっき)



規格表

落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力(PCケーブル1本当たり)	1276 kN
設 計 遊 間 量	300 mm
許 容 耐 力	1428 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

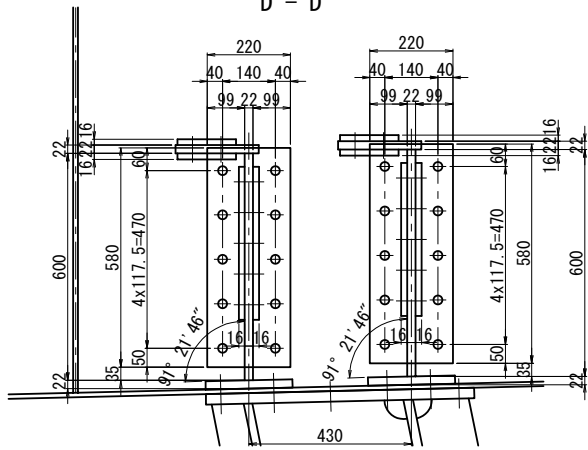
注記)

1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
2. < >内の数値はG2主桁の値を示す。

横浜須賀買道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二種 BP4橋脚落橋防犯工構造図(その1)(参考図)		
縮 尺	1:20	図面番号	18 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

上部工補強工A

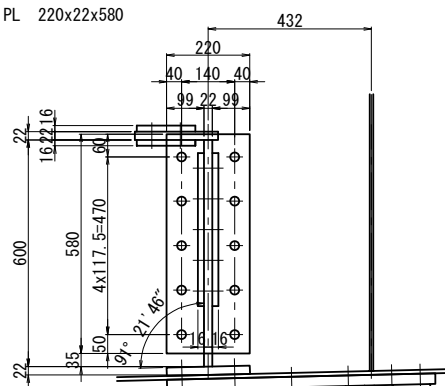
D - D



現場孔明 SS41 t=10 φ24.5 40本

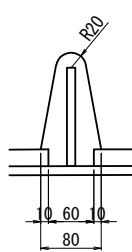
- | | | | |
|---------------------|------------------------------|---------------------|-----------------------------|
| 2-FLG PL 220x22x479 | 12-SPL PL 155x16x470 (SS400) | 1-FLG PL 220x22x479 | 6-SPL PL 155x16x470 (SS400) |
| 2-WEB PL 600x22x507 | 72-TCB M22x90 (S10T) | 1-WEB PL 600x22x507 | 36-TCB M22x90 (S10T) |
| 1-FLG PL 195x22x480 | 12-SPL PL 405x16x320 (SS400) | 1-FLG PL 220x22x480 | 6-SPL PL 405x16x320 (SS400) |
| 1-FLG PL 220x22x480 | 120-TCB M22x90 (S10T) | 1-SPL PL 220x22x580 | 60-TCB M22x90 (S10T) |
| 2-SPL PL 220x22x580 | 64-TCB M22x70 (S10T) | 2-FLG PL 220x22x550 | 32-TCB M22x70 (S10T) |
| 4-FLG PL 220x22x550 | 40-TCB M22x70 (S10T) | 2-WEB PL 600x22x550 | 20-TCB M22x70 (S10T) |
| 4-WEB PL 600x22x550 | | 2-FLG PL 220x22x332 | |
| 2-FLG PL 195x22x332 | | 2-FLG PL 220x22x158 | |
| 2-FLG PL 220x22x332 | | 1-FLG PL 220x22x481 | |
| 2-FLG PL 195x22x158 | | 1-WEB PL 600x22x509 | |
| 2-FLG PL 220x22x158 | | 1-FLG PL 220x22x480 | |
| 2-WEB PL 600x22x509 | | 1-SPL PL 220x22x580 | |
| 1-FLG PL 195x22x480 | | | |
| 1-FLG PL 220x22x480 | | | |
| 2-SPL PL 220x22x580 | | | |

H - H



現場孔明 SS41 t=10 φ24.5 20本

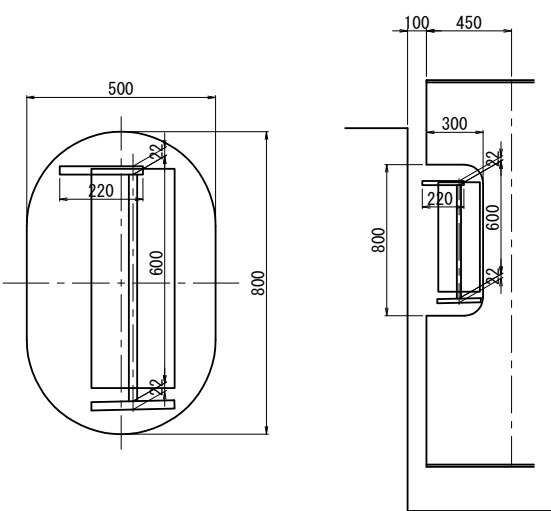
"a"部詳細 S=1:10



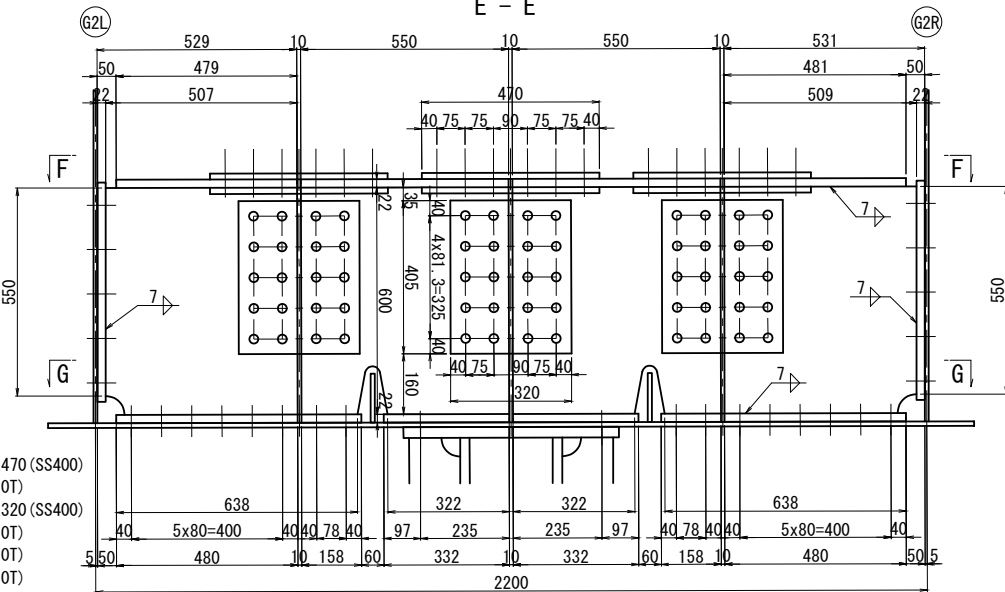
搬入確認図

横桁部

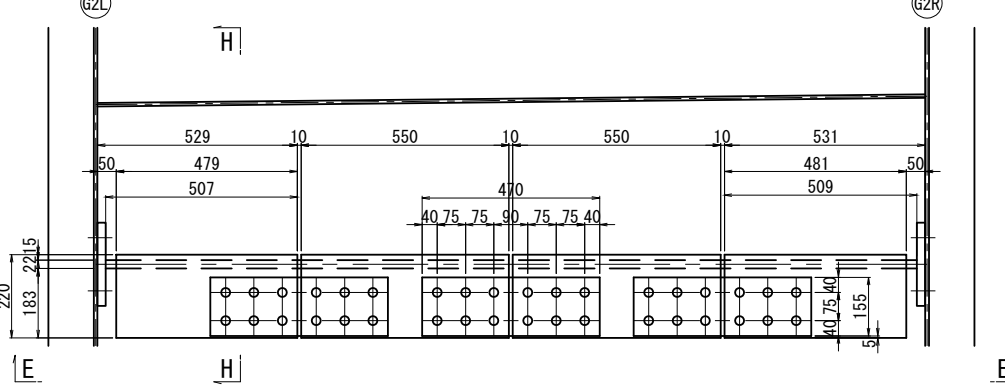
桁端部 S=1:40



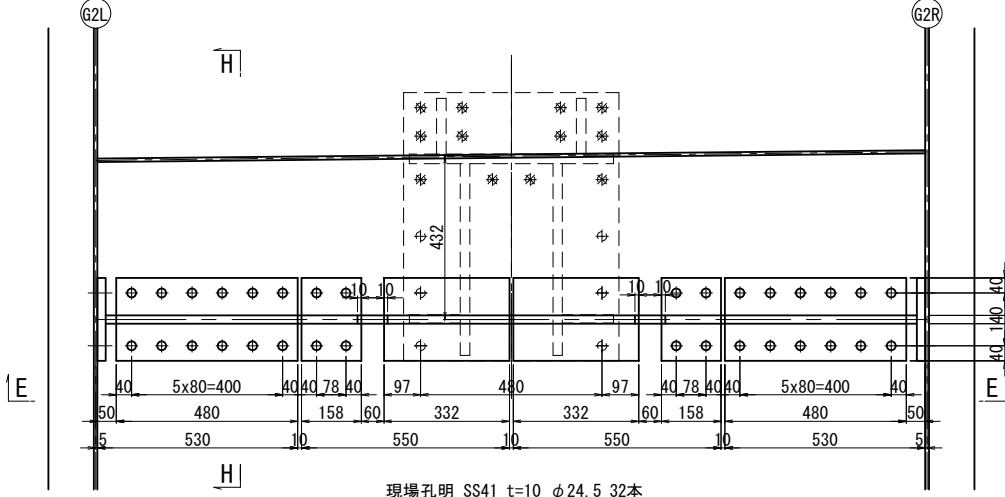
E - E



F - F



G - G



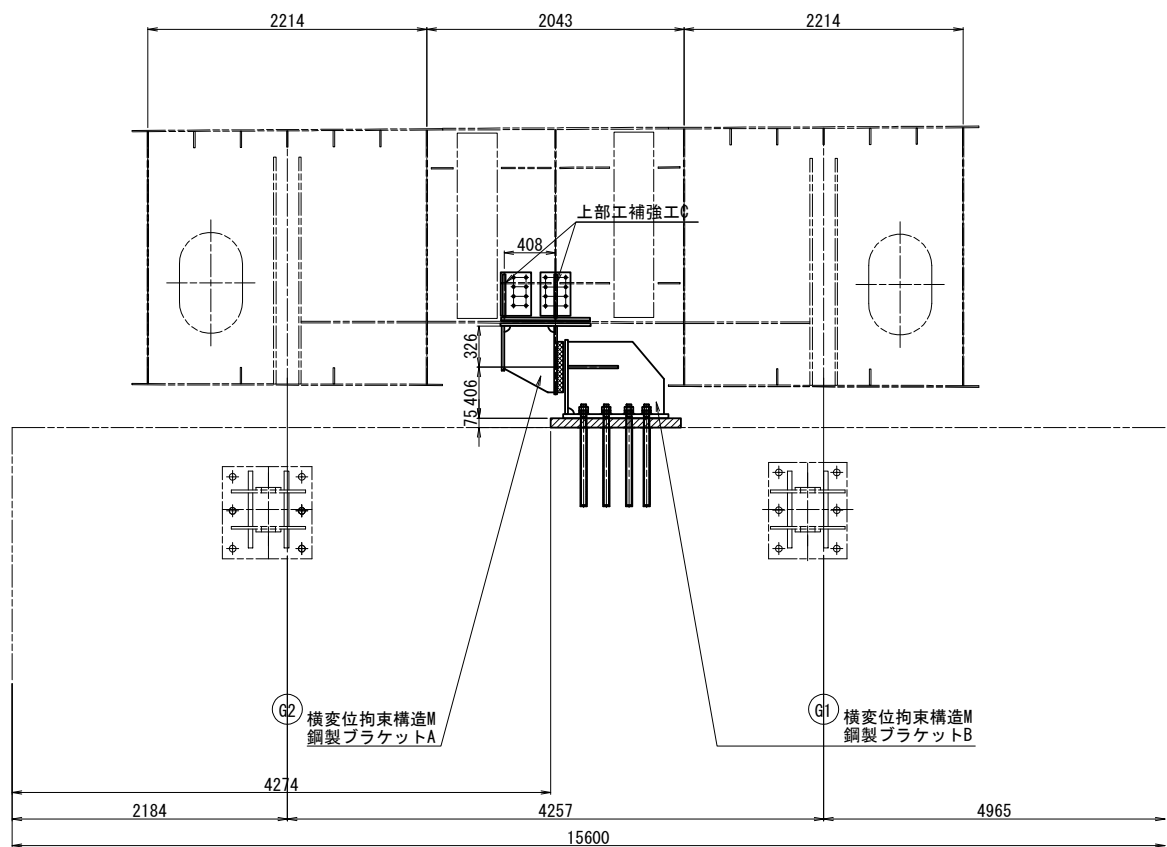
現場孔明 SS41 t=10 φ24.5 32本

- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. 特記なきボルトの孔径は、既設部材：φ24.5、新設部材：φ26.5とする。
 4. 部材の寸法および工場制作は、現地実測後決定のこと。

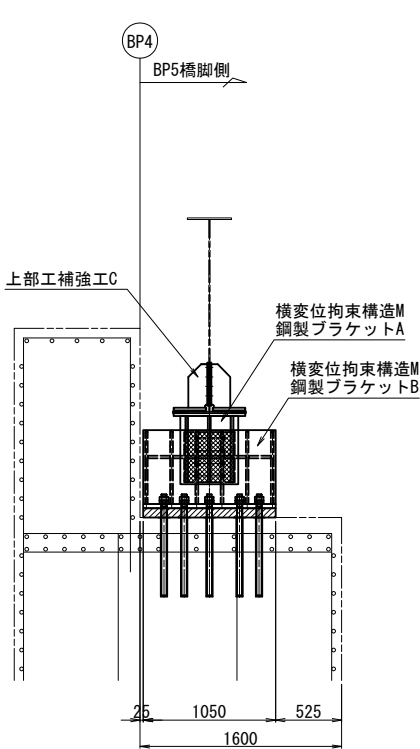
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚落橋防止構造桁内補強図		
縮 尺	1:20	図面番号	21 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

現場孔明 SS41 t=12 φ24.5 64本

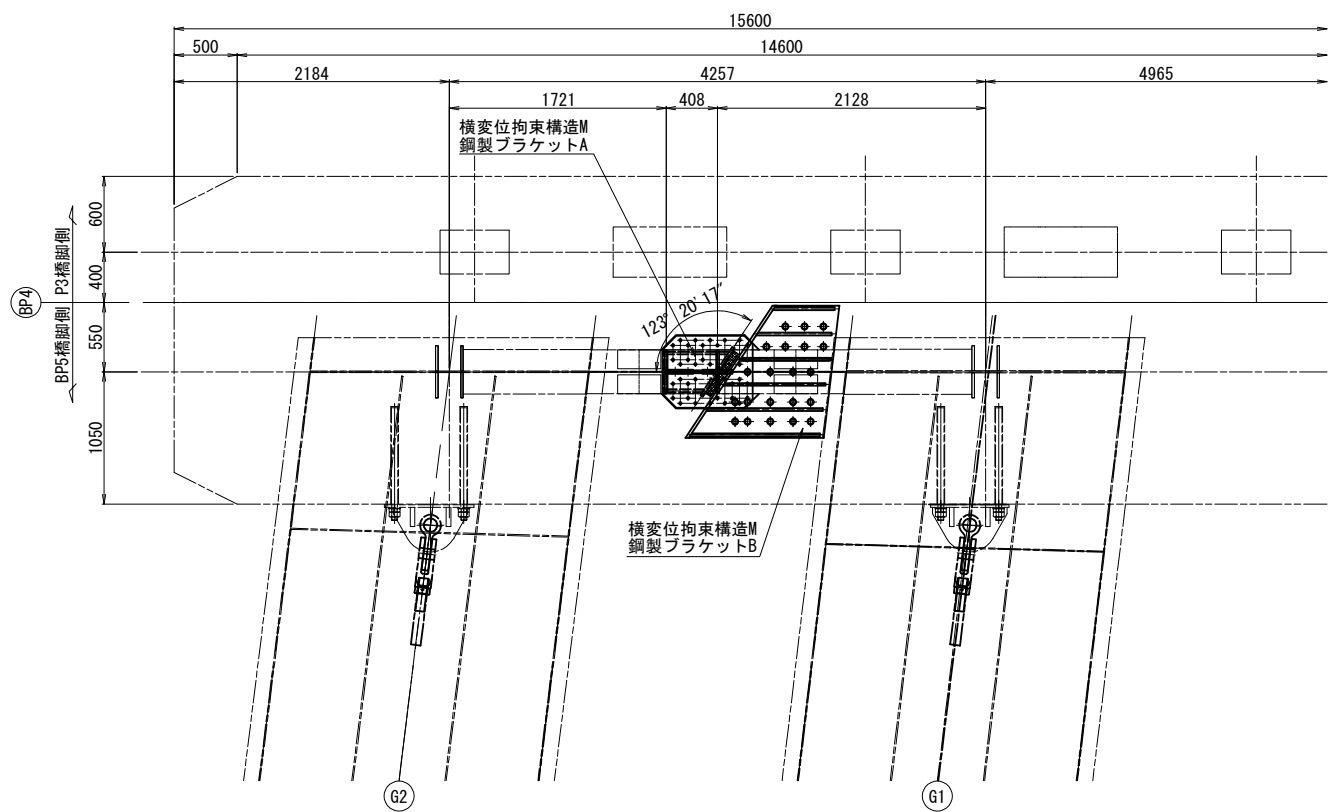
正面図 S=1:60



側面図 S=1:60



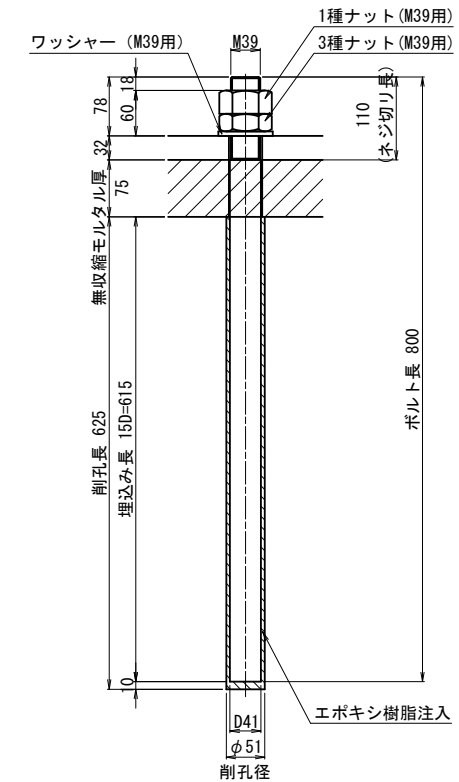
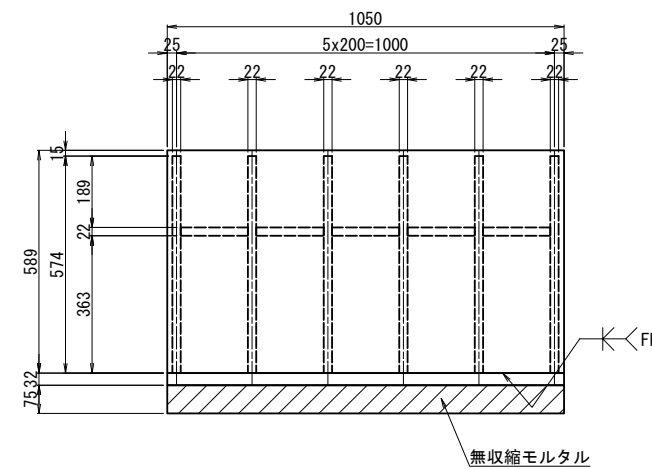
平面図 S=1:60



注記)
1. 本図面は竣工図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

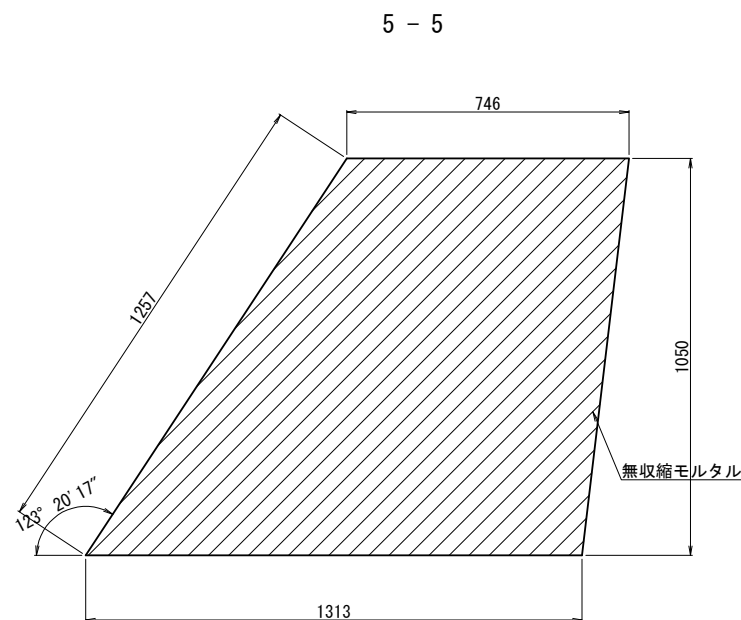
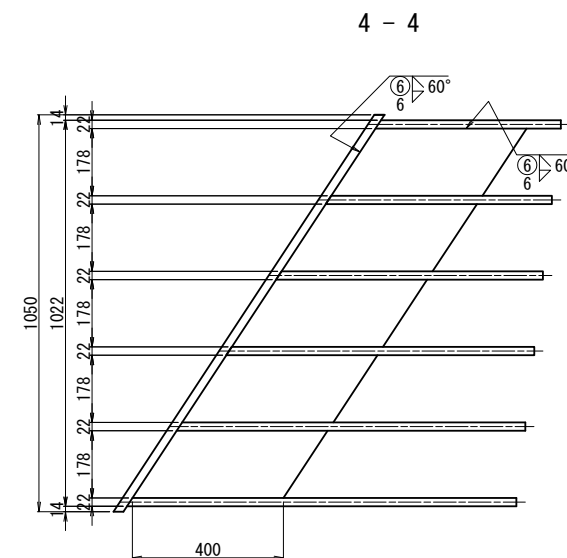
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚横変位拘束構造図(その1)			
	縮 尺	図示	図面番号	22 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

横変位拘束構造M アンカー工φ51・625(下方向)
アンカーボルト詳細図 S=1:10



21-ANC BOLT D41x800 (SD345)
21-1種 Nut M39用 (SS400)
21-3種 Nut M39用 (SS400)
21-WASHER M39 (SS400)

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

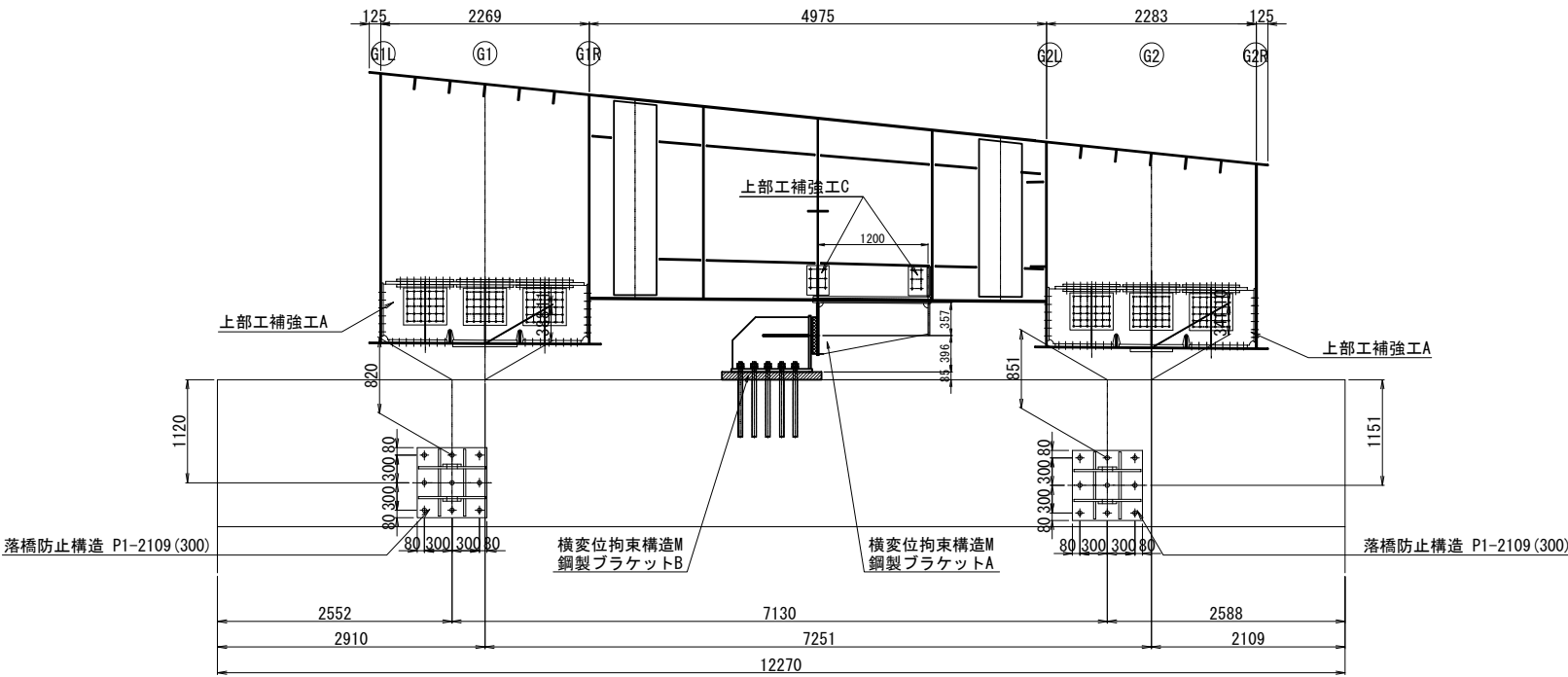


1-PL BASE 1050x32x1237
1-PL BASE 1271x22x589
1-PL RIB 491x22x574
1-PL RIB 599x22x574
1-PL RIB 707x22x574
1-PL RIB 815x22x574
1-PL RIB 923x22x574
1-PL RIB 1031x22x574
5-PL RIB 178x22x517

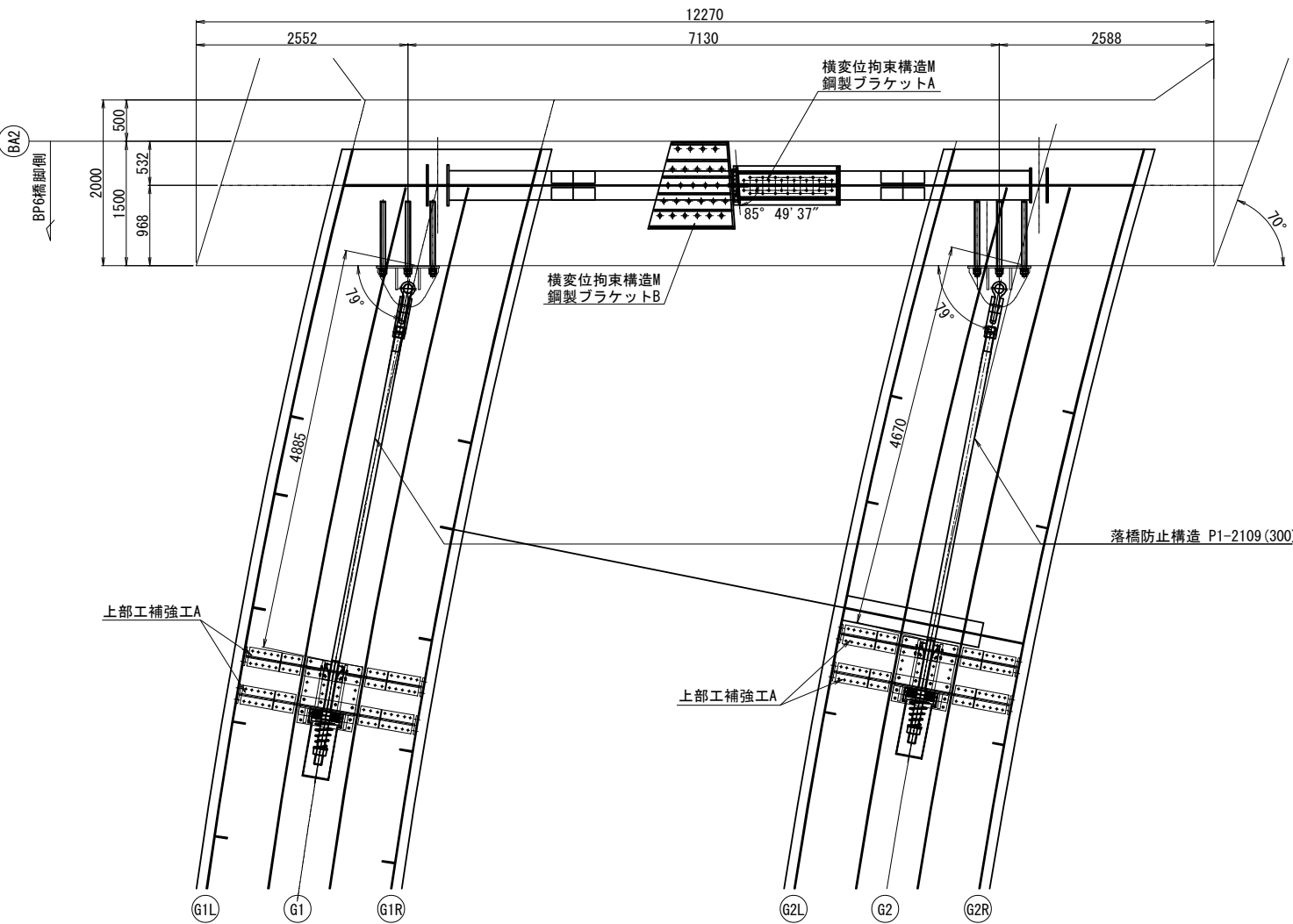
- (注記)
1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
 2. 特記なきスカーラップは50Rとする。
 3. 下部工プラケットは溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641:2021 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類はHDZT49とする。
 4. 上部工付きプラケットは塗装仕様とする。
 5. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探索により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
 6. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成している。
施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

<p>横浜須賀買道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚横梁変位拘束構造図(その3)		
縮 尺	1:20	図面番号	24 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

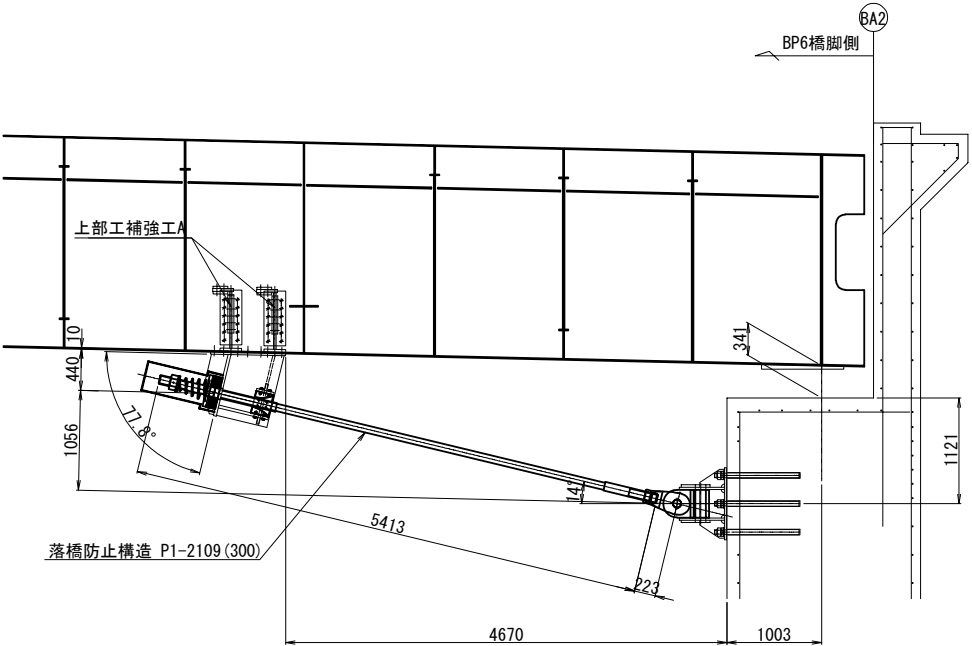
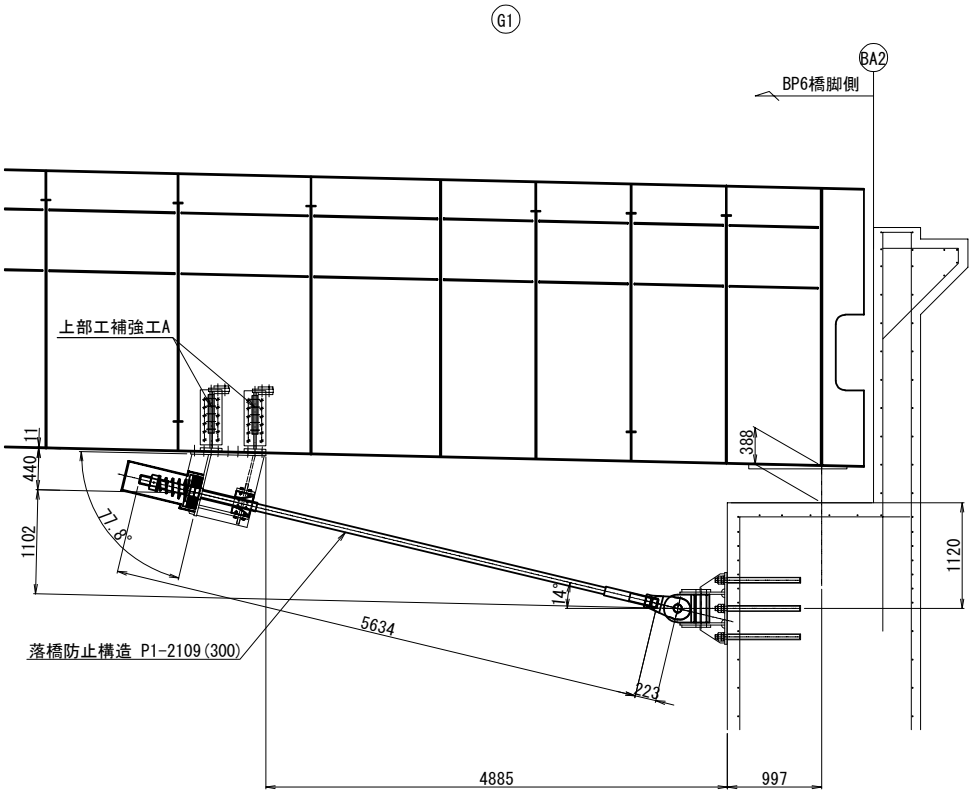
正面図



平面図



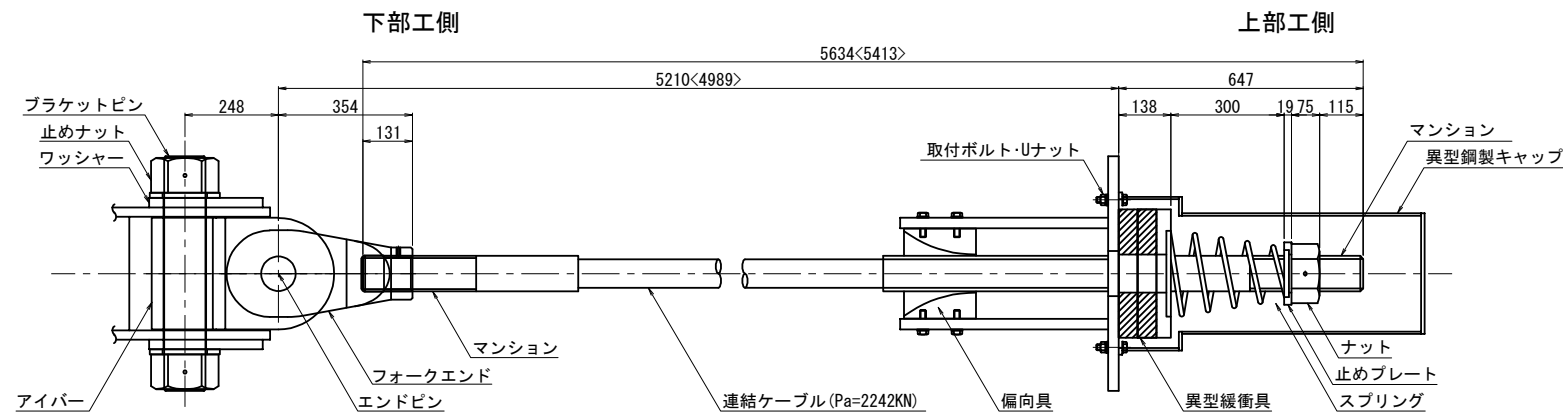
側面図



注記)
1. 本図面は竣工図を基に作成しているため、
現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台耐震補強配置図		
	縮 尺	1:80	図面番号 25 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

取付詳細図



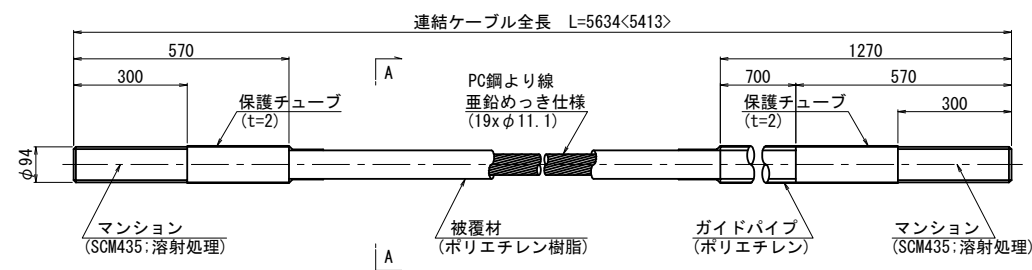
材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

全2組

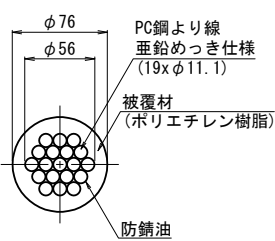
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル	Pa=2242KN L=5634<5413>mm	本	1	PC鋼より線, 垂鉛めっき仕様, ポリエチレン被覆
(マンション)	Pa=2242KN用 標準	個	2	SCM435, 垂鉛アルミ溶射, ねじきり標準 <ケーブルに組込>
(ガイドパイプ)	Pa=2242KN用 700mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット	Pa=2242KN用	個	1	S45C; 垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	Pa=2242KN用	個	1	SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング	Pa=2242KN用 L=450	個	1	SW-C; 垂鉛めっき, クロメート処理
異型緩衝具	Pa=2242KN用	個	1	SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	Pa=2242KN用	個	1	ポリエチレン
(取付ボルト)	M16x55 1W付	本	16	SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
異型鋼製キャップ	Pa=2242KN用 L=800	個	1	SS400, STK400; 垂鉛めっき (HDZT77)
取付ボルト・Uナット	M16x65 2W付	本	4	SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT49)
ブラケットピン	Pa=2242KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
止めナット	Pa=2242KN用	個	2	S45C; 垂鉛めっき (HDZT77)
ワッシャー	Pa=2242KN用	個	2	SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT77)
アイバー	Pa=2242KN用	個	1	S45C; 垂鉛めっき (HDZT77)
フォークエンド	Pa=2242KN用	個	1	S45C; 垂鉛めっき (HDZT77)
エンドピン (ピン)	Pa=2242KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
止めプレート	Pa=2242KN用	個	1	SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT77)

※ L=5634mm 1本, L=5413mm 1本

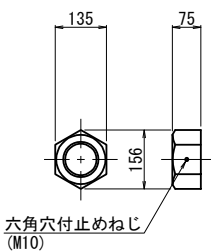
連結ケーブル



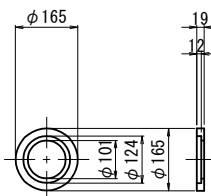
A-A断面図 S=1:3



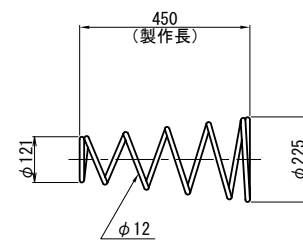
ナット (S45C; 垂鉛めっき)



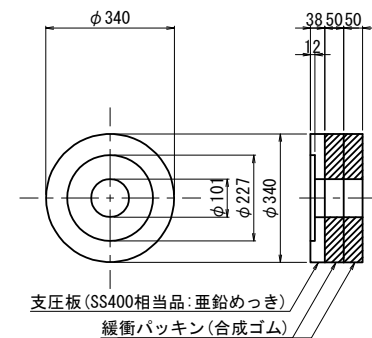
止めプレート (SS400相当品; 垂鉛めっき)



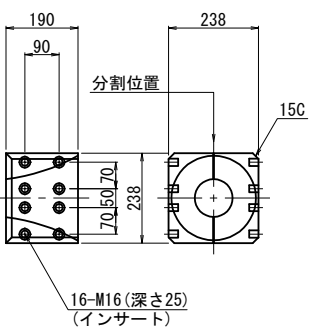
スプリング (SW-C; 垂鉛めっき, クロメート処理)



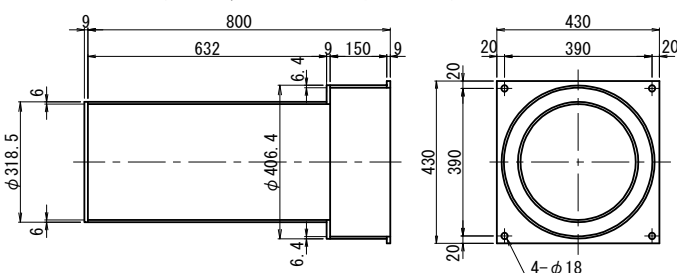
異型緩衝具 (支圧板+緩衝パッキン)



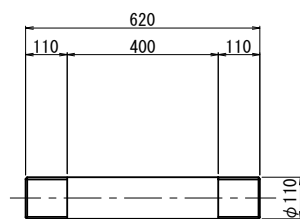
偏向具 (ポリエチレン)



異型鋼製キャップ (SS400, STK400; 垂鉛めっき)



ブラケットピン (SCM435; DMコート)

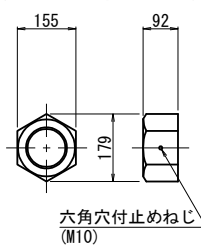


規格表

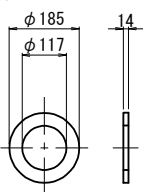
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	2109 kN
設計 遊 間 量	300 mm
許 容 耐 力	2242 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

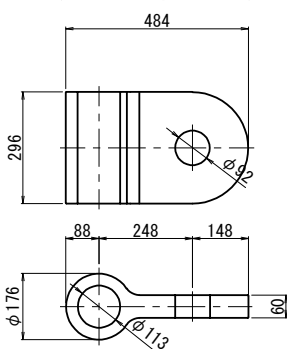
止めナット (S45C; 垂鉛めっき)



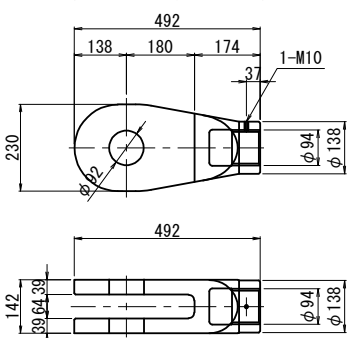
ワッシャー (SS400相当品; 垂鉛めっき)



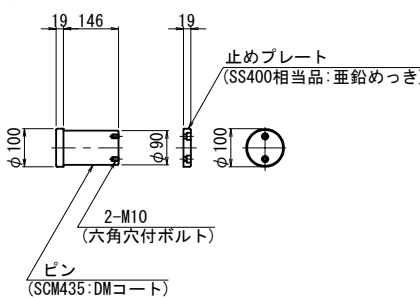
アイバー (S45C; 垂鉛めっき)



フォークエンド (S45C; 垂鉛めっき)



エンドピン (ピン+止めプレート)



注記)

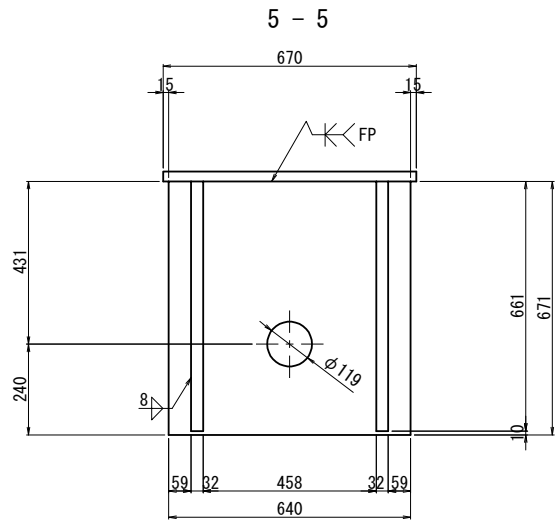
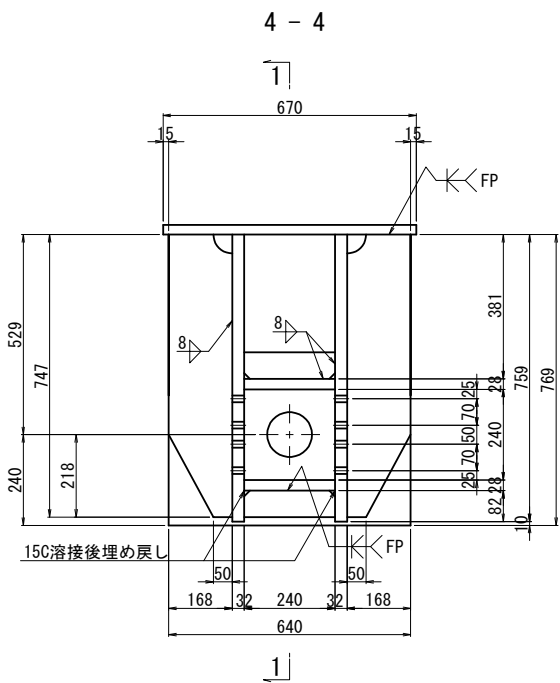
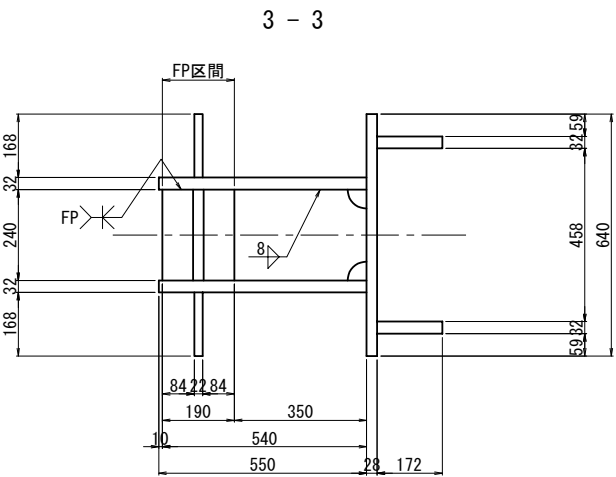
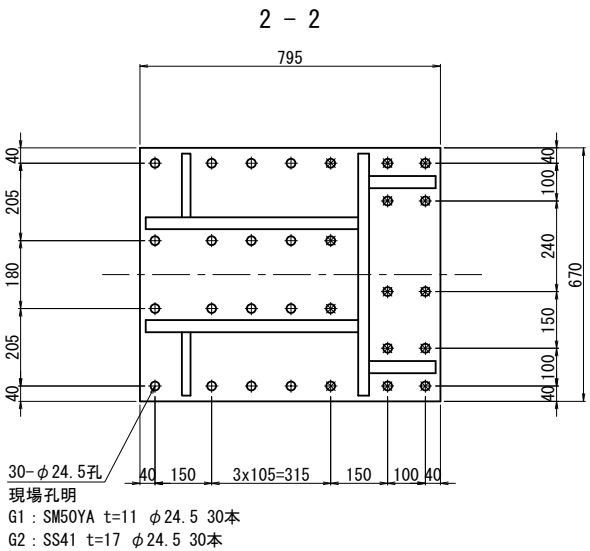
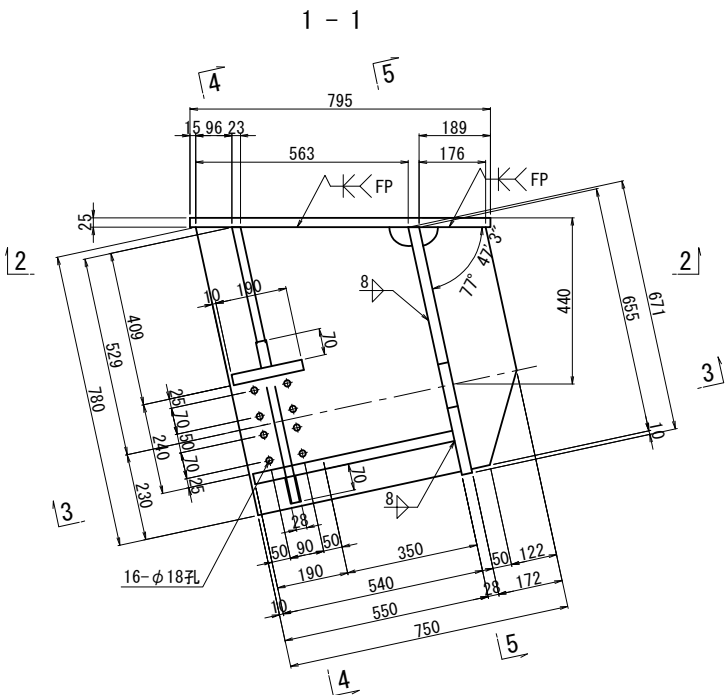
- 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
- < >内の数値はG2主桁の値を示す。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事	
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台落橋防止構造図(その1)(参考図)
縮 尺	1:20 図面番号 26 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所

上部エブラケット詳細図

G1<G2>

落橋防止構 P1-2109 (300)



ブラケット1基当り (製作数: 2基)

- 2-PL 172x32x655
- 2-PL 550x32x780
- 2-PL 168x22x747
- 2-PL 70x28x240
- 1-PL 240x28x540
- 1-PL 190x28x240
- 1-PL 640x28x671
- 1-PL 795x25x670
- 5-TCB M22x L1 (S10T) [+1W]
- 9-TCB M22x100 (S10T) [+1W]
- 8-TCB M22x L2 (S10T)
- 8-TCB M22x 95 (S10T)

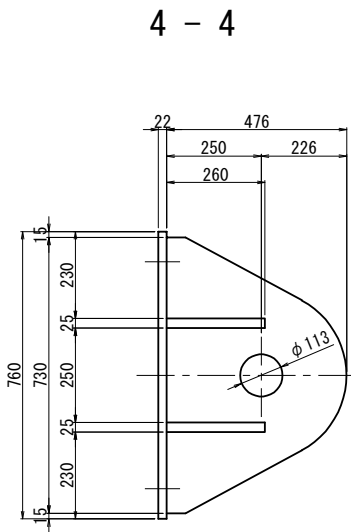
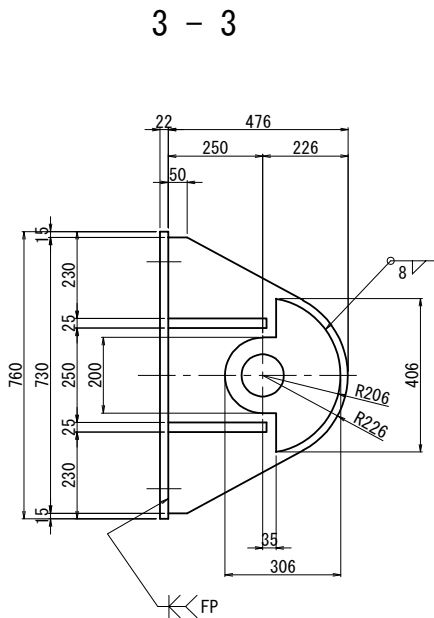
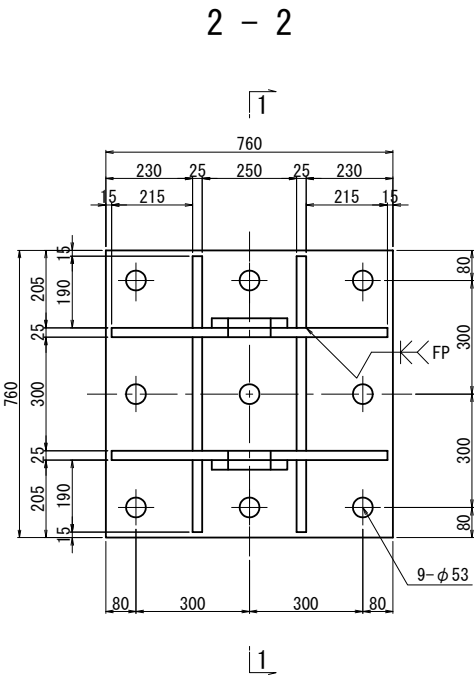
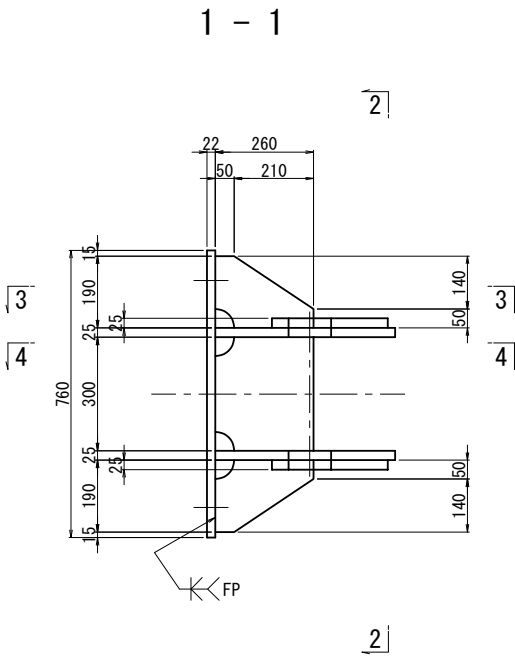
	L1	L2
G1	80	75
G2	75	70

注記)

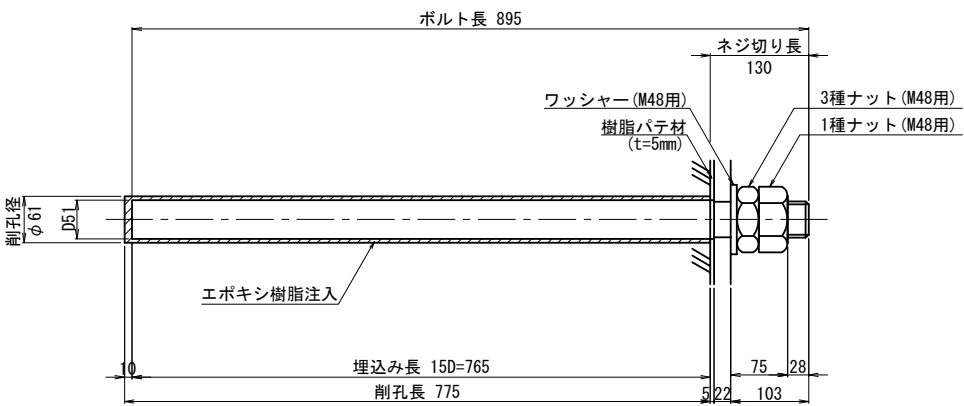
- 特記なき材質は全てSM490YBとする。
- 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
- 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
- 上部エブラケット及び、桁補強は主桁と同等以上の防錆塗装を施すものとする。
- の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
- 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台落橋防止構造図(その2)		
縮 尺	1:20	図面番号	27 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

下部エブラケット詳細図
落橋防止構造 P1-2109 (300)



アンカーボルト詳細図 S=1:10
落橋防止構造 アンカーエφ61・775(水平方向)



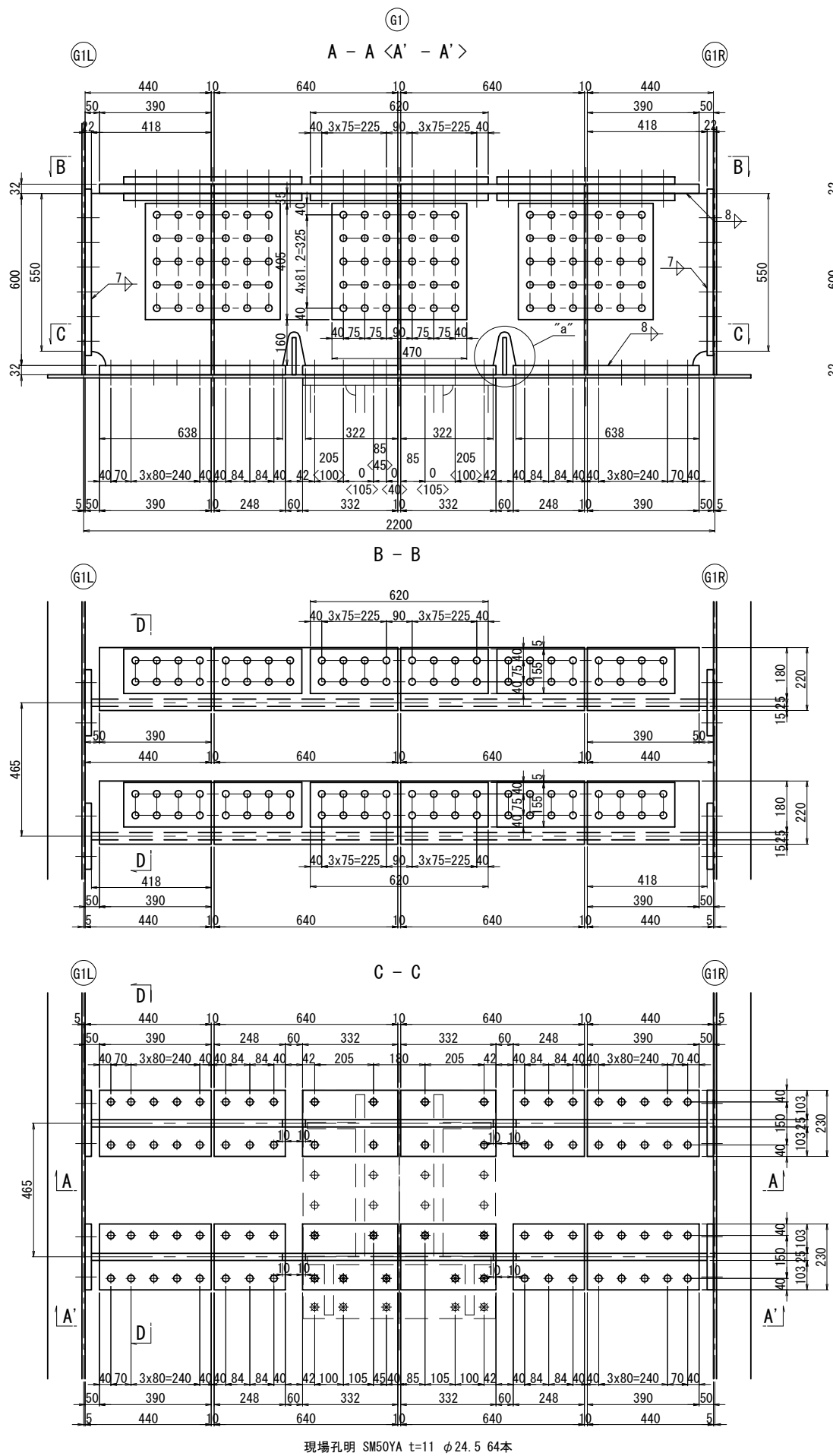
ブラケット1基当り(製作数:2基)

2-PL	306x25x406
2-PL	476x25x730
4-PL	260x25x190
2-PL	260x25x300
1-PL	760x22x760
9-Anc Bolt	D51x895 (SD490)
9-1種 Nut	M48用 (SS400)
9-3種 Nut	M48用 (SS400)
9-Washer	M48用 (SS400)

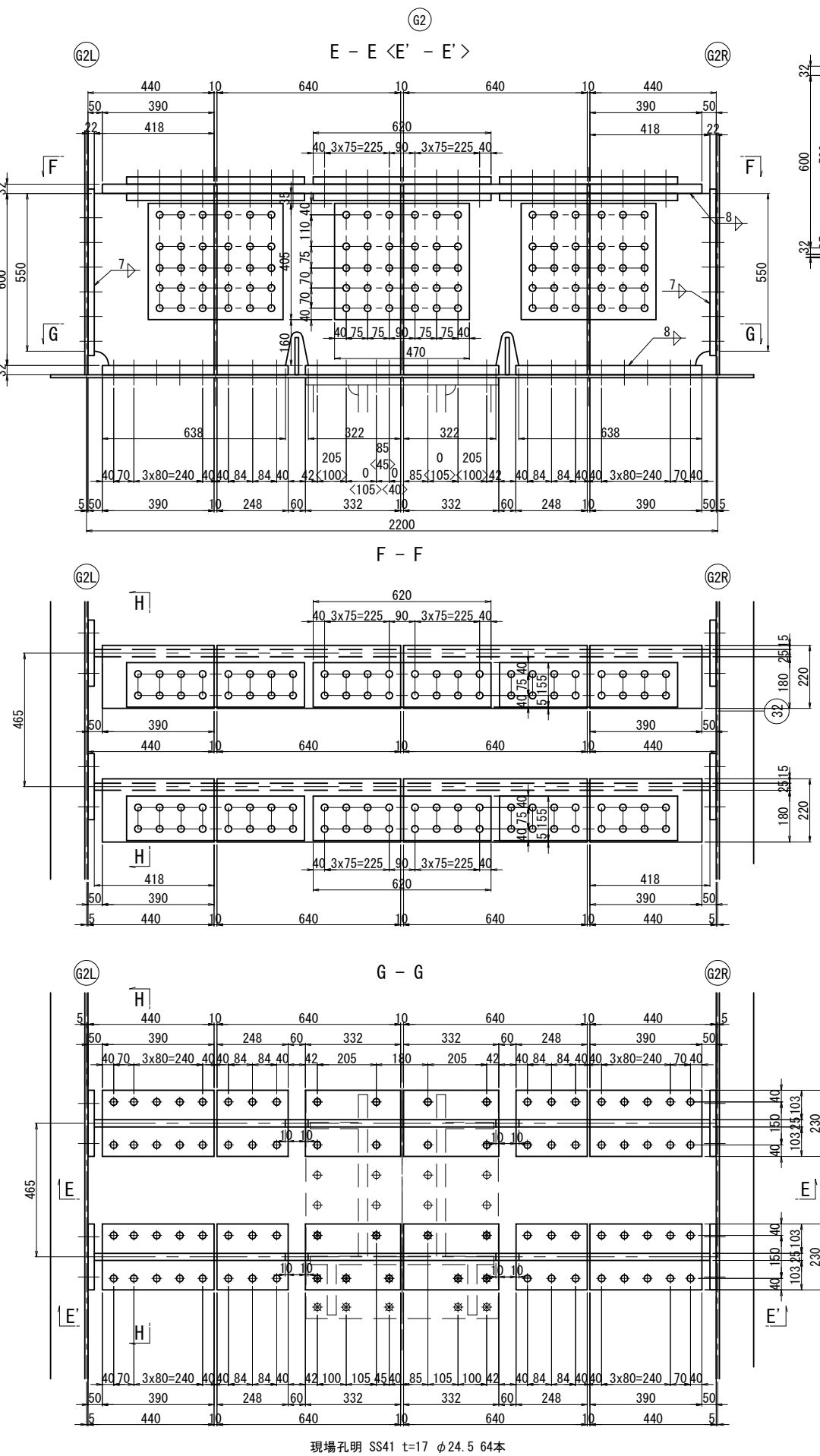
- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台落橋防止構造図(その3)		
縮 尺	1:20	図面番号	28 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

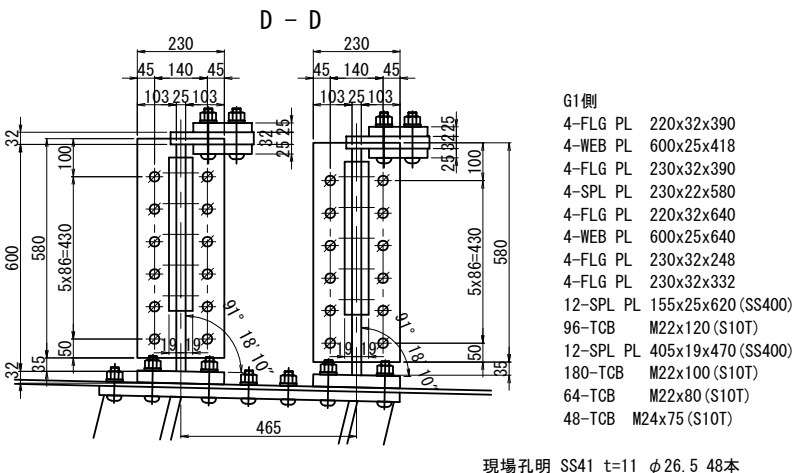
上部工補強工A



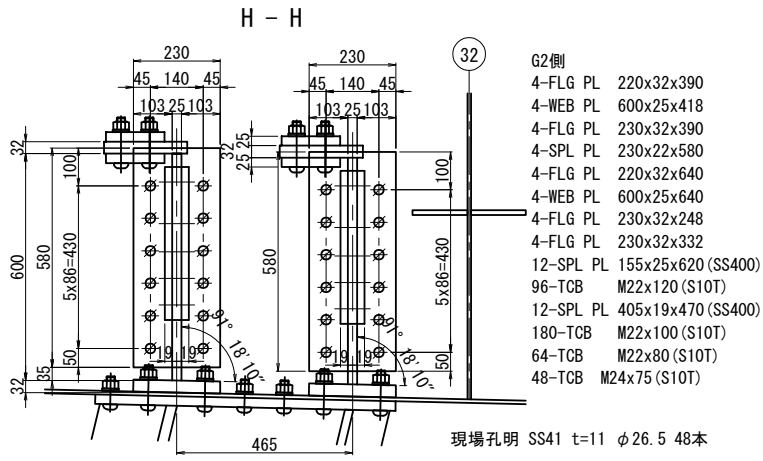
現場孔明 SM50YA t=11 φ24.5 64本



現場孔明 SS41 t=17 φ24.5 64本

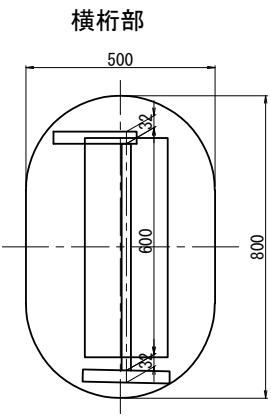


現場孔明 SS41 t=11 φ26.5 48本

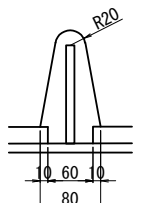


現場孔明 SS41 t=11 φ26.5 48本

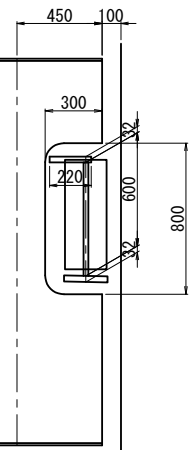
搬入確認図



“a”部詳細 S=1:10



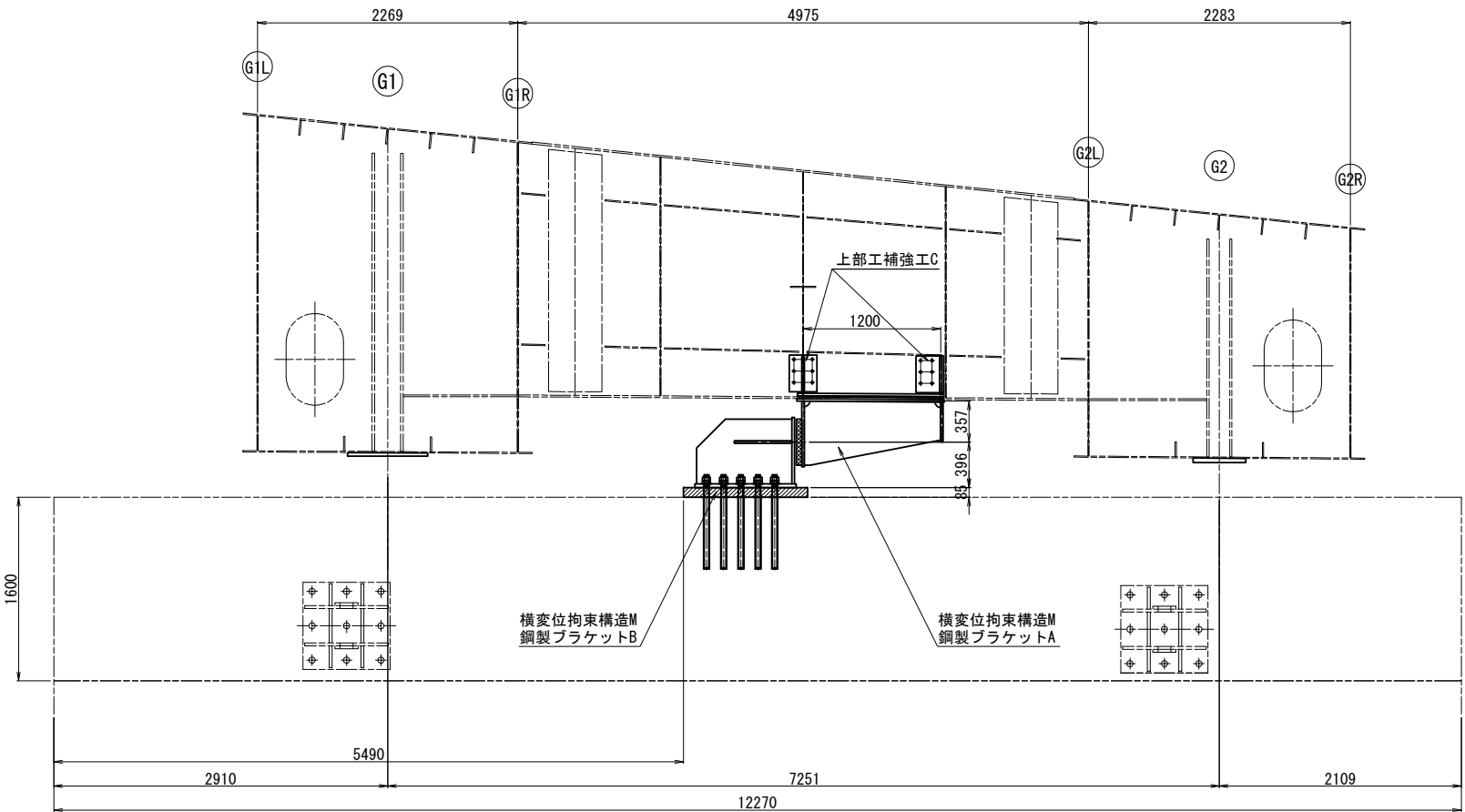
桁端部 S=1:40



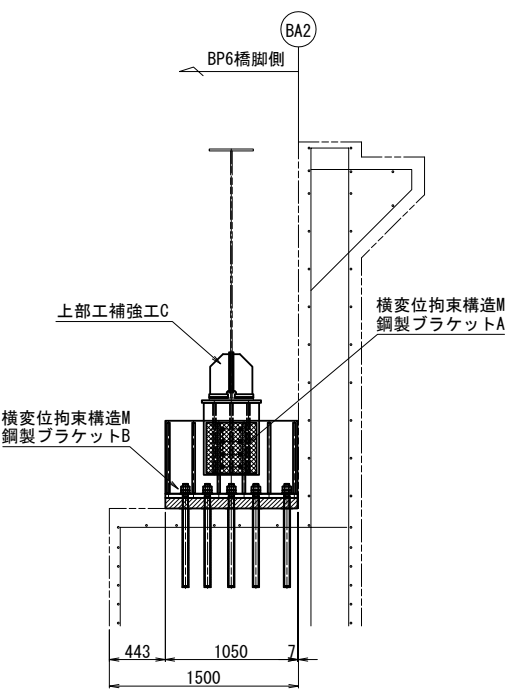
- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーリップは全て50Rとする。
 3. ◆印は、トルシア形高力ボルトM22(S10T)を示す。
 4. ★印は、トルシア形高力ボルトM24(S10T)を示す。
 5. 特記なきボルトM22の孔径は、既設部材: φ24.5, 新設部材: φ26.5とする。
 6. 特記なきボルトM24の孔径は、既設部材: φ26.5, 新設部材: φ28.5とする。
 7. 部材の寸法および工場制作は、現地実測後決定のこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台落橋防止構造桁内補強図		
縮 尺	1:20	図面番号	29 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

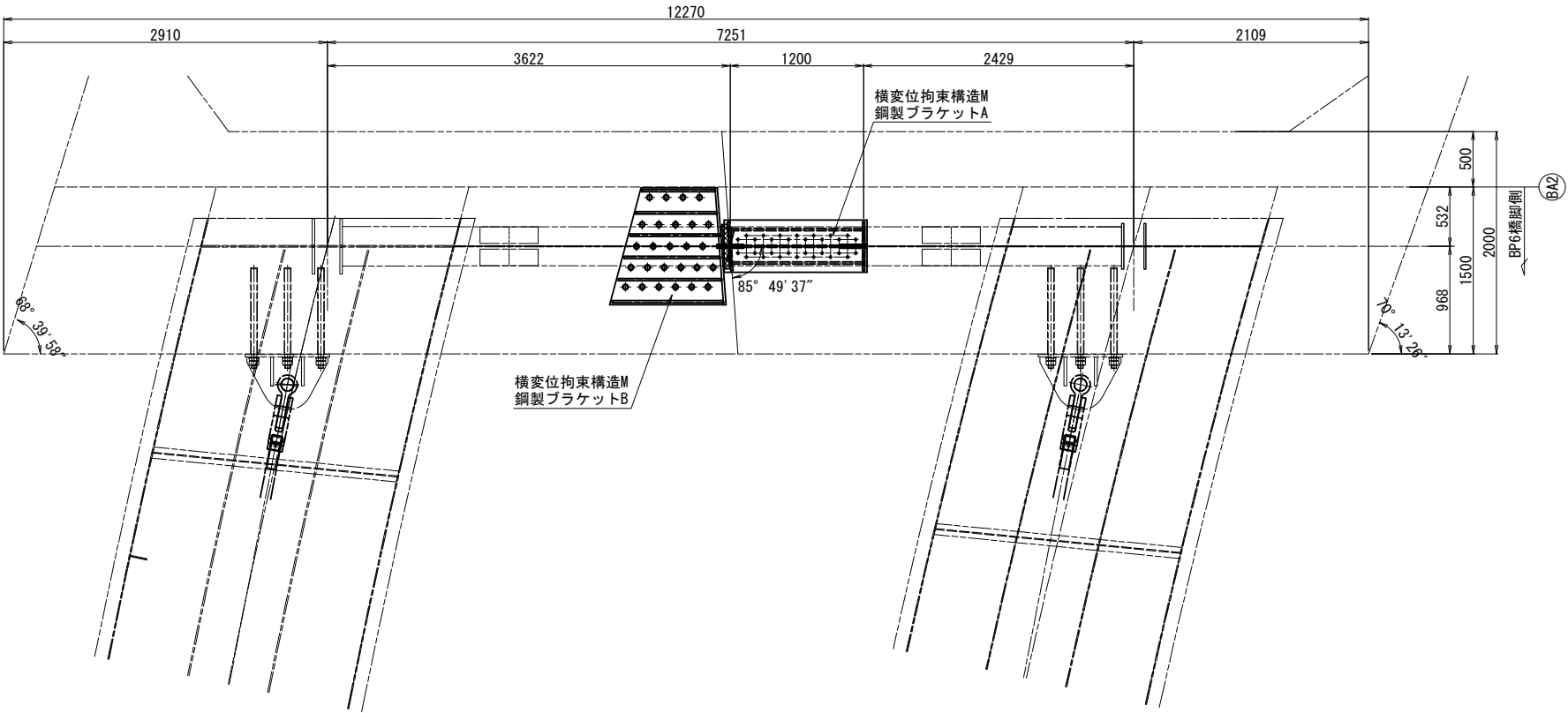
正面図 S=1:60



側面図 S=1:60



平面図 S=1:60

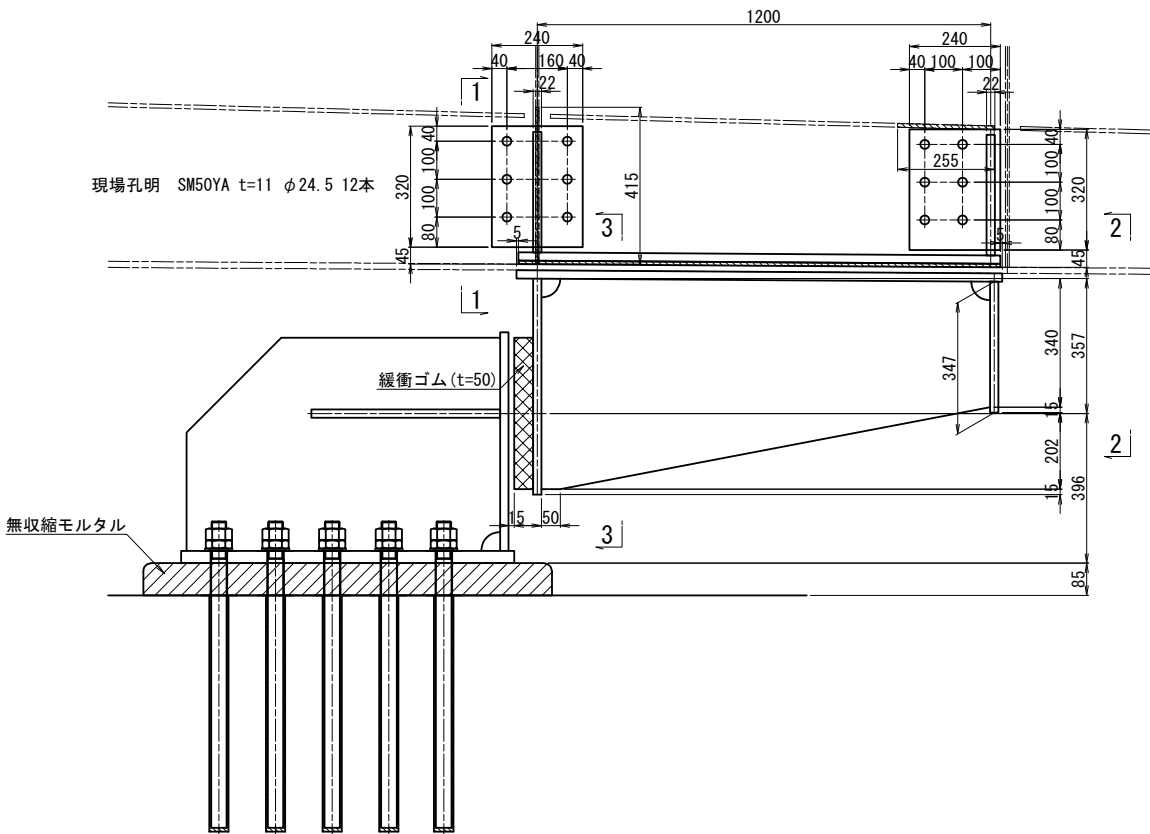


注記)
1. 本図面は竣工図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

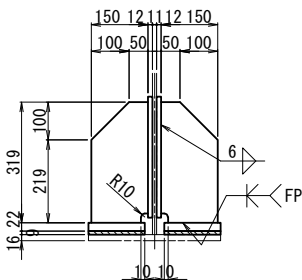
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台横変位拘束構造図(その1)			
	縮 尺	図 示	図面番号	30 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

上部工付きブラケット
横変位拘束構造M 鋼製ブラケットA

正面図

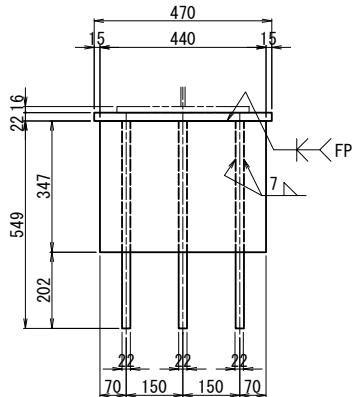


上部工補強工C
1 - 1

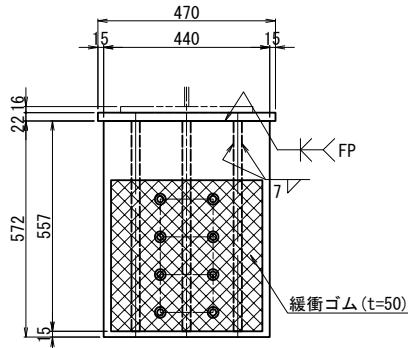


4-PL BASE 240x12x320
4-PL 150x22x319
2-PL 149x22x1275
2-FILL PL 149x9x1275 (SS400)
12-TCB M22x70 (S10T)

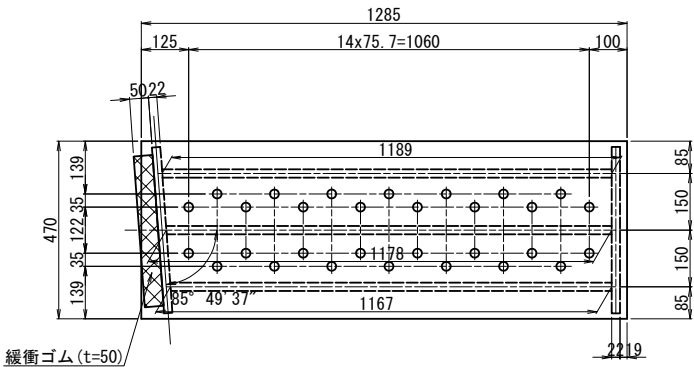
2 - 2



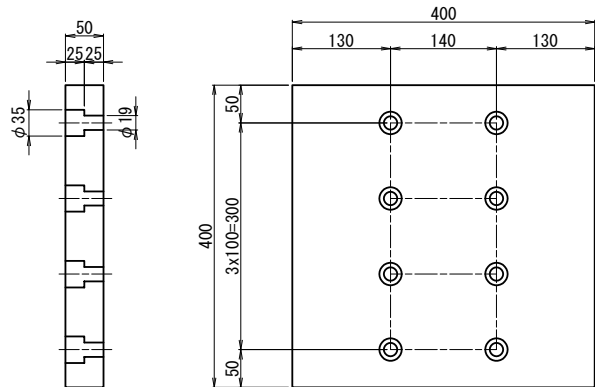
3 - 3



下側ベースプレート詳細

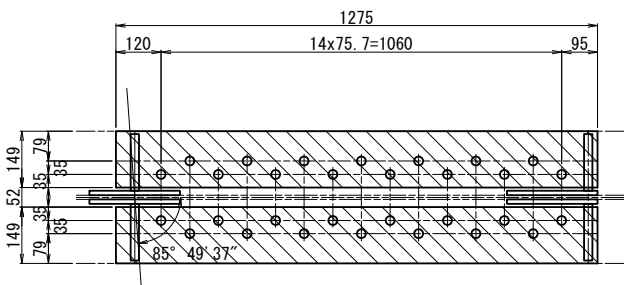


緩衝ゴム詳細図 S=1:10



1-緩衝ゴム 400x50x400 (クロロプレンゴム) (硬度55° ±5° 程度)
※ 8-BN M16x75 (2-W, SS400)

上側ベースプレート詳細



現場孔明 SM50YA t=16 φ24.5 30本

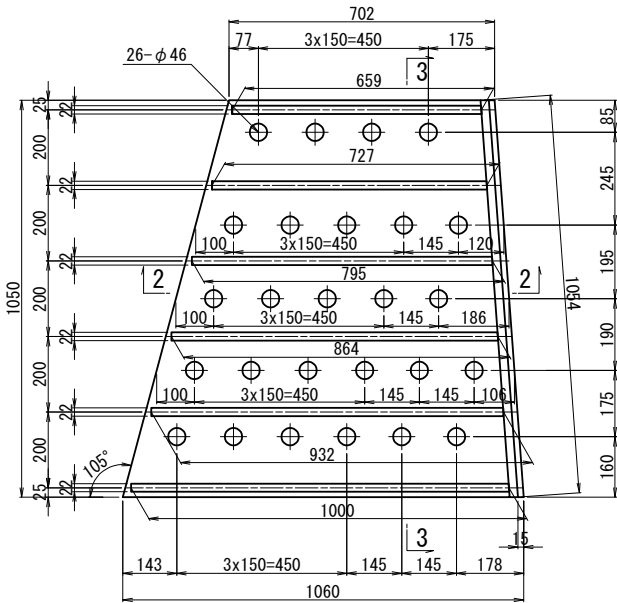
1-PL 470x22x1285
1-PL 440x22x347
1-RIB PL 1190x22x557
1-RIB PL 1179x22x557
1-RIB PL 1168x22x557
1-PL 440x22x572
30-TCB M22x105 (S10T)

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは50Rとする。
 - ※印部材は全て溶融亜鉛めっき仕上とする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641:2021 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類はHDZT49とする。
 - 既設コンクリートの削孔は鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
 - 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成している。
施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

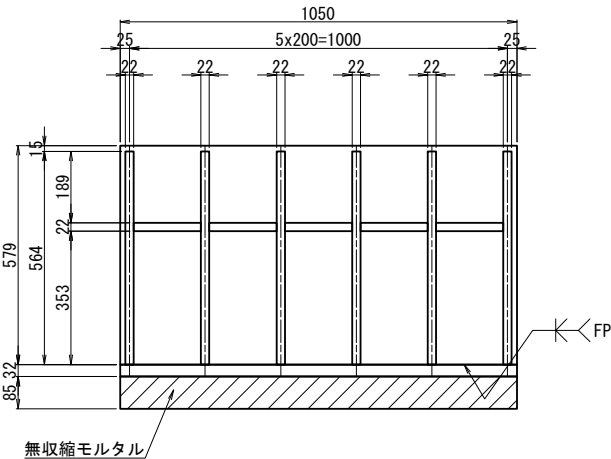
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台横変位拘束構造図(その2)		
	縮 尺	1:20	図面番号 31 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

橋座面ブラケット
横変位拘束構造M 鋼製ブラケットB

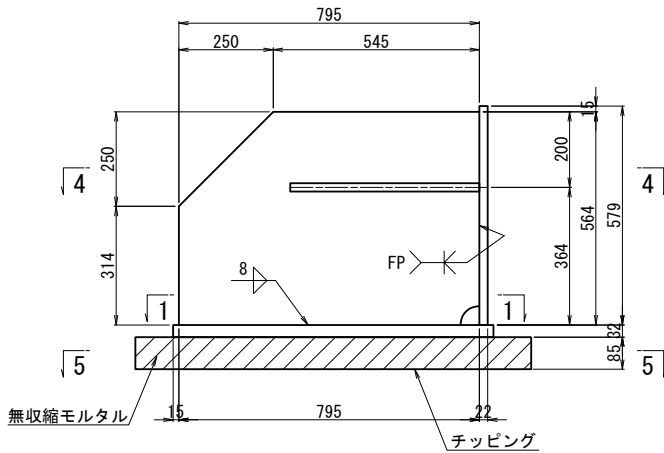
1 - 1



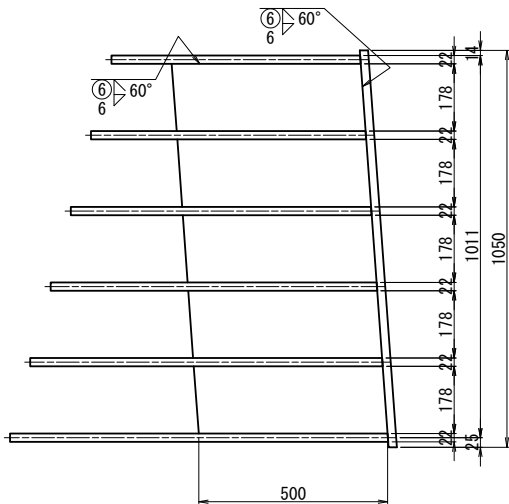
3 - 3



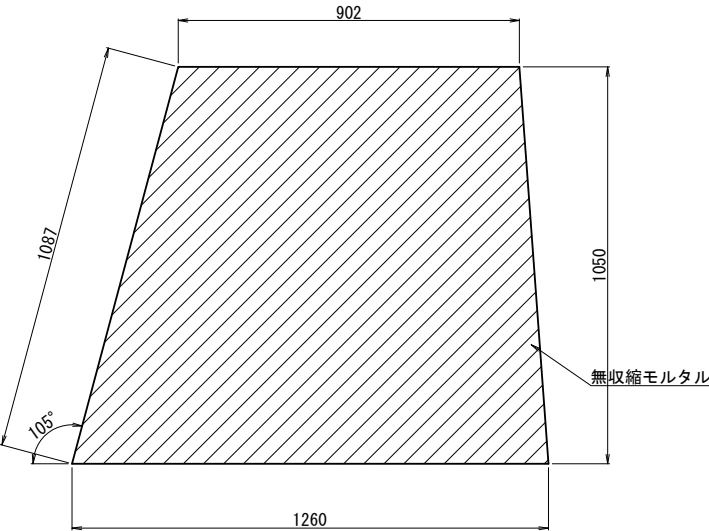
2 - 2



4 - 4



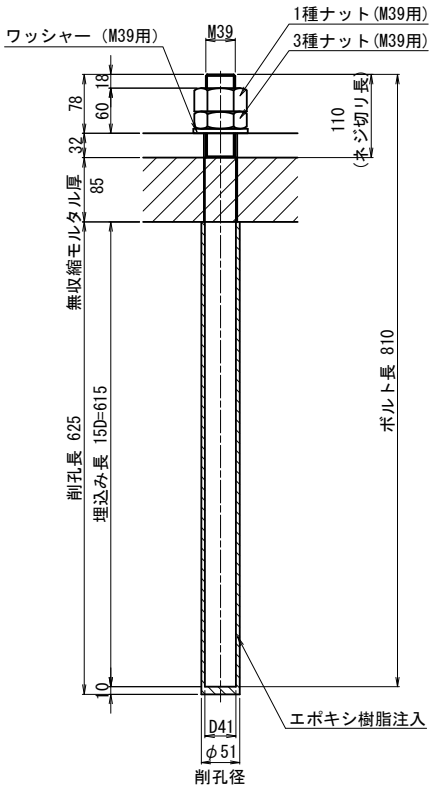
5 - 5



- 1-PL BASE 1050x32x1060
- 1-PL BASE 1054x22x579
- 1-PL RIB 660x22x564
- 1-PL RIB 728x22x564
- 1-PL RIB 796x22x564
- 1-PL RIB 864x22x564
- 1-PL RIB 932x22x564
- 1-PL RIB 1001x22x564
- 5-PL RIB 178x22x513

横変位拘束構造M アンカーエφ51・625(下方向)

アンカーボルト詳細図 S=1:10



- 26-ANC BOLT D41x810 (SD345)
- 26-1種 Nut M39用 (SS400)
- 26-3種 Nut M39用 (SS400)
- 26-WASHER M39 (SS400)

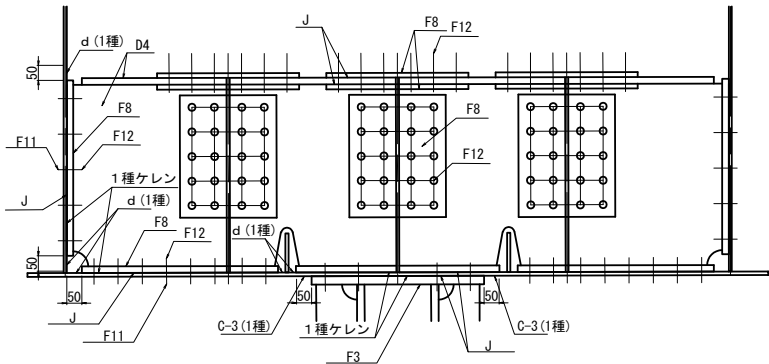
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めっきを施すものとする。

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490YBとする。
 - 特記なきスカーラップは50Rとする。
 - 下部エブラケットは溶融垂鉛めっき仕上げとする。
垂鉛の膜厚はJIS H 8641:2021 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類はHDZT49とする。
 - 上部工付きブラケットは塗装仕様です。
 - 既設コンクリートの削孔は鉄筋探索により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
 - 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成している。
施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

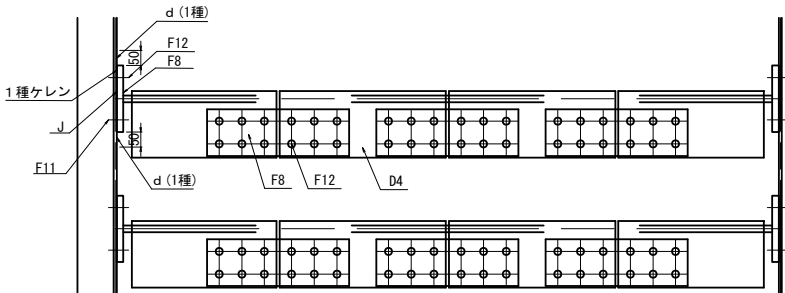
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台横変位拘束構造図(その3)		
	縮 尺	1:20	図面番号 32 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

落橋防止装置桁内補強

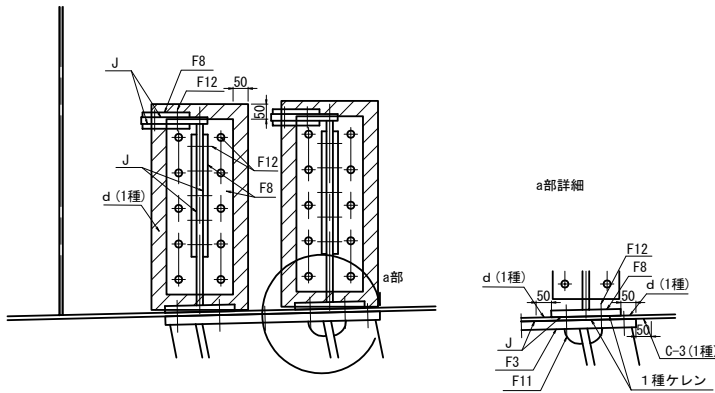
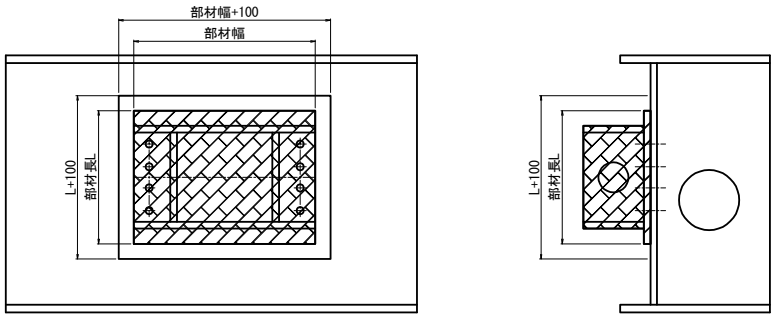
正面図



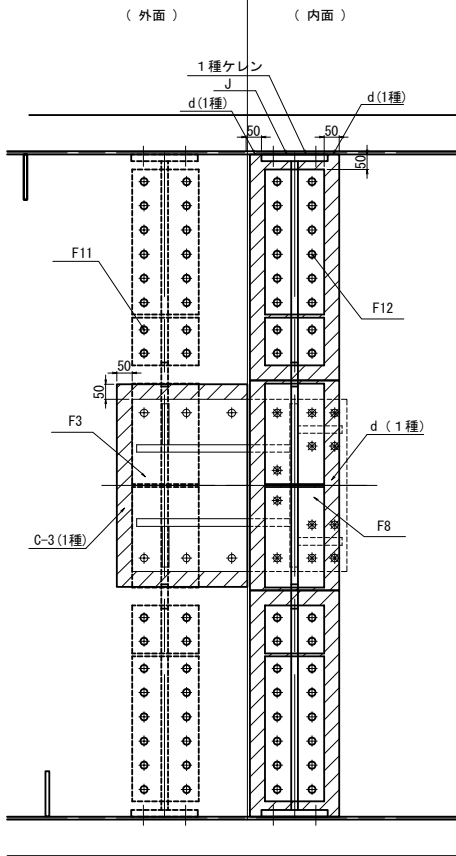
平面図



補強部材ボルト取付の素地調整範囲

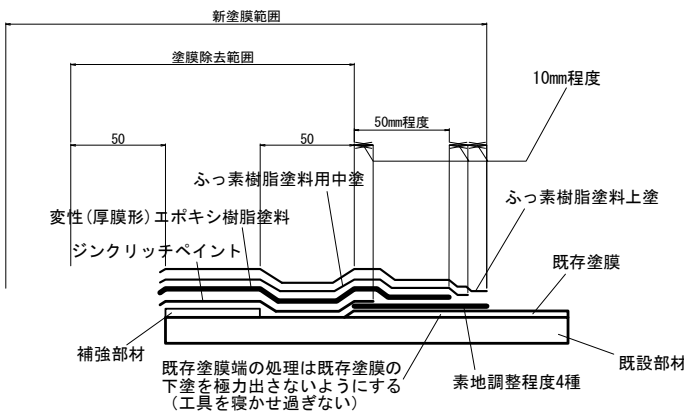


平面図



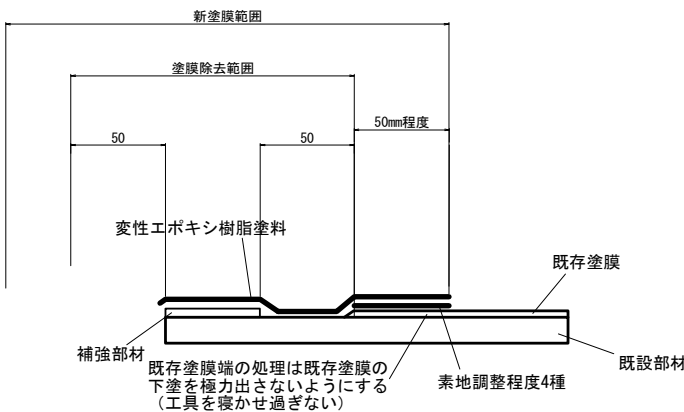
既設塗膜との境界部の処理
箱桁外面
塗膜除去工A

S=1:4



既設塗膜との境界部の処理
箱桁内面
塗膜除去工B

S=1:4

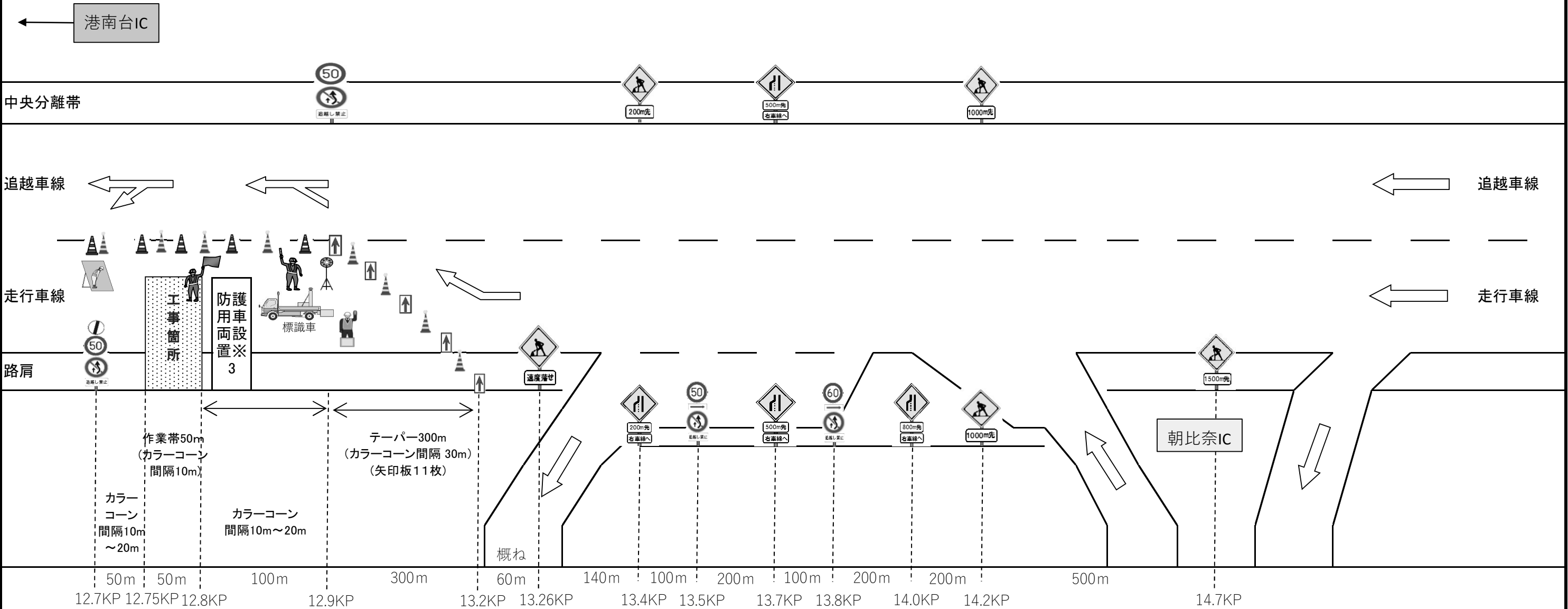


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 塗替塗装区分図			
縮 尺	図 示	図面番号	33	/ 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			


<p style="text-align: center;">横浜横須賀道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
図面の種類	<p style="text-align: center;">金沢谷JCT第二橋 はく落防止対策工図</p>		
縮 尺	図 示	図面番号	34 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	<p style="text-align: center;">東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所</p>		


釜利谷JCT第二橋 交通規制工


車線規制 I × 1 × 0 × 1 ・ A 1（夜）





規制材数量		車線規制 I × 1 × 0 × 1 ・ A 1（夜）		1回当たり
項目	単位	数量	備考	
標識車	台	1	貸与品	
矢印板	枚	11	貸与品	
カラーコーン	本	25	貸与品	
工事予告看板	枚	13	貸与品	
ガードマンロボット	台	1	貸与品	
赤色回転灯	台	1	貸与品	
お礼看板	枚	1	貸与品	
交通監視員	人	2	規制保守(規制費に含む)	
交通監視員(交替)	人	1	規制保守交替要員(規制費に含む)	
交通監視員A(夜)	人	1	別途検測※1	
発炎筒(5分)	本	24	受注者所有(工事予告看板設置撤去時)(規制費に含む)※2	
発炎筒(15分)	本	6	受注者所有(テーパー設置撤去時)(規制費に含む)※2	


 標識車


 : 工事予告看板


 : お礼看板


 : デリネーター付き
カラーコーン


 : 矢印板

 : ガードマンロボット

 : 交通監視員
(規制保守)

 : カラーコーン

 : 赤色回転灯

 : 交通監視員 A(夜)
(別途検測)

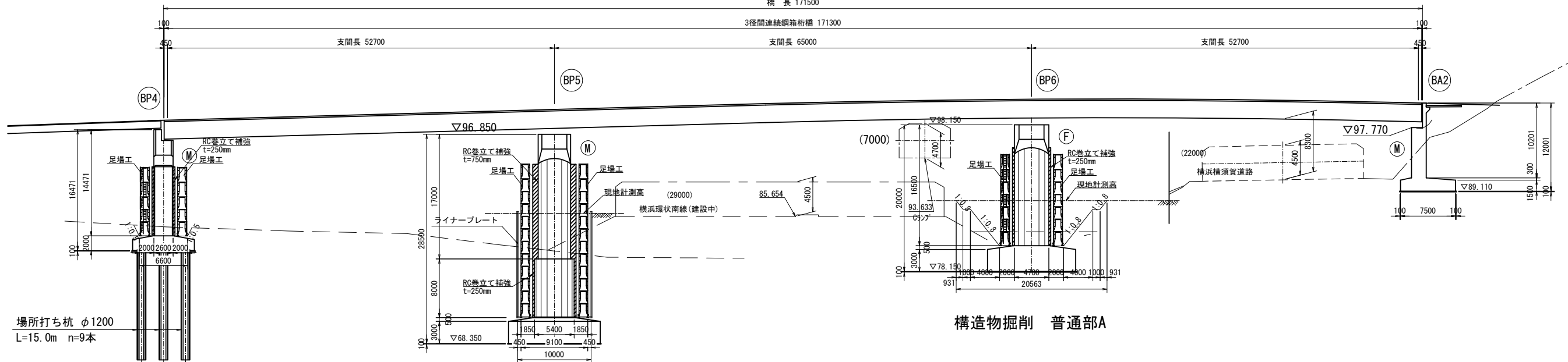
- ※1：交通監視員 A は、工事箇所に配置する
- ※2：発炎筒は、設置・撤去各 3 本の使用を基本とする
- ※3：工事箇所手前に進入車両強制停止装置又は防護車両を設置する

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 交通規制工		
縮 尺	—	図面番号	35 / 44
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

【柱補強時】

側面図

橋長 171500



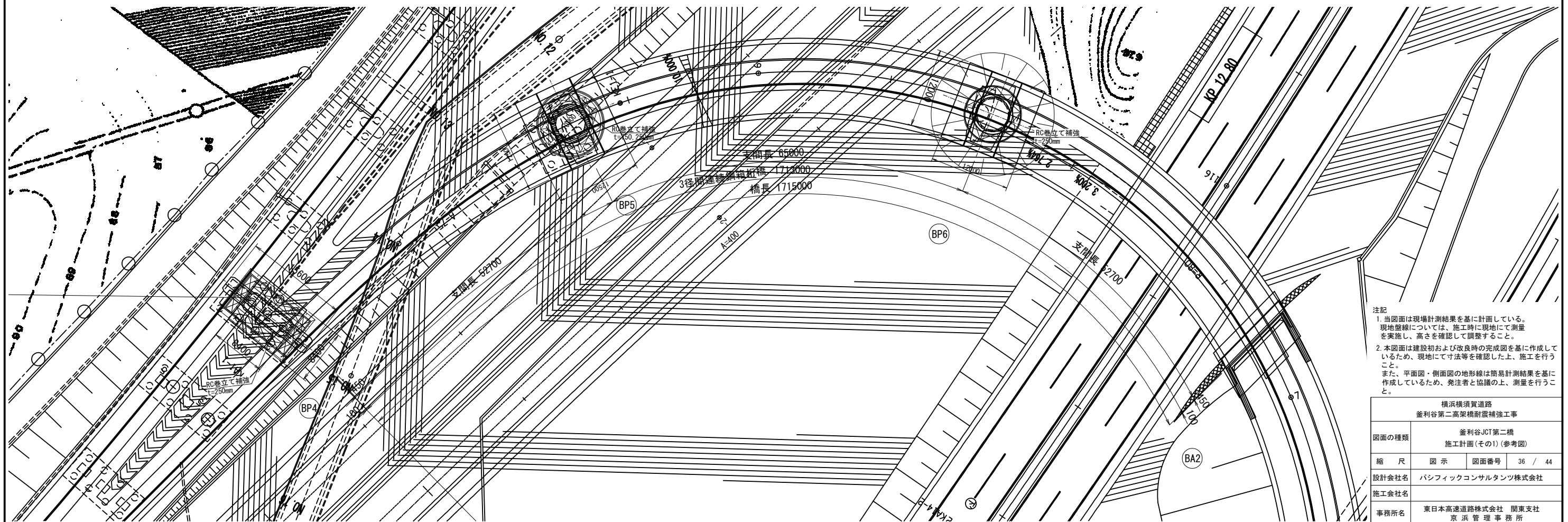
構造物掘削 普通部A

構造物掘削 特殊部A

構造物掘削 普通部A

平面図

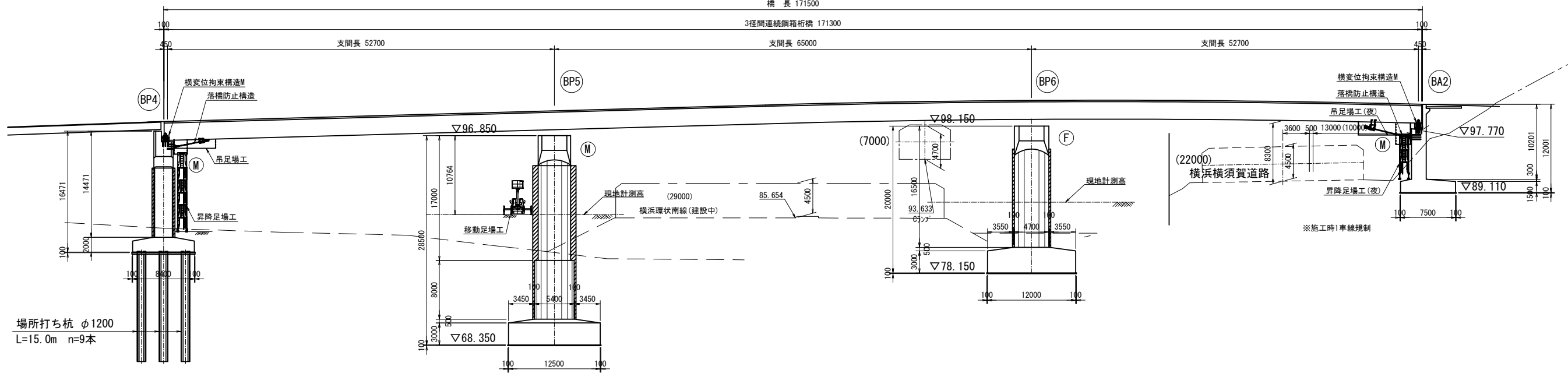
() 内寸法は標準幅員を示す。



- 注記
1. 当図面は現場計測結果を基に計画している。
現地盤線については、施工時に現地にて測量を実施し、高さを確認して調整すること。
 2. 本図面は建設初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

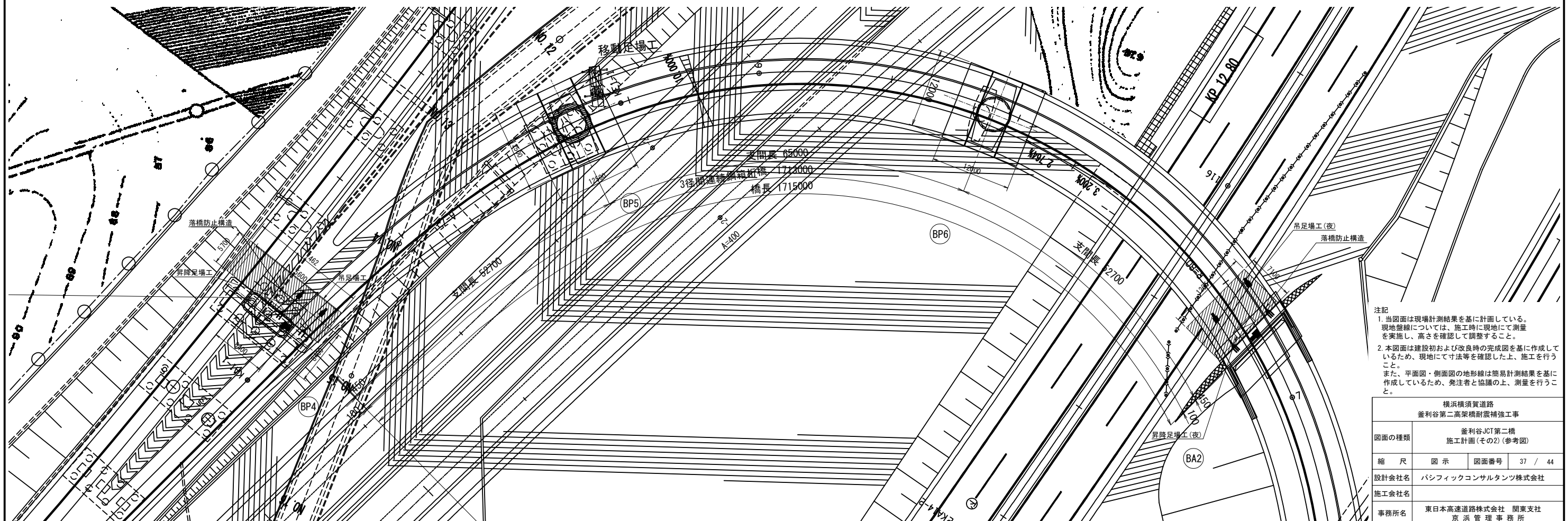
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 施工計画(その1)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	36 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

橋 長 171500



()内寸法は標準幅員を示す。

平面图

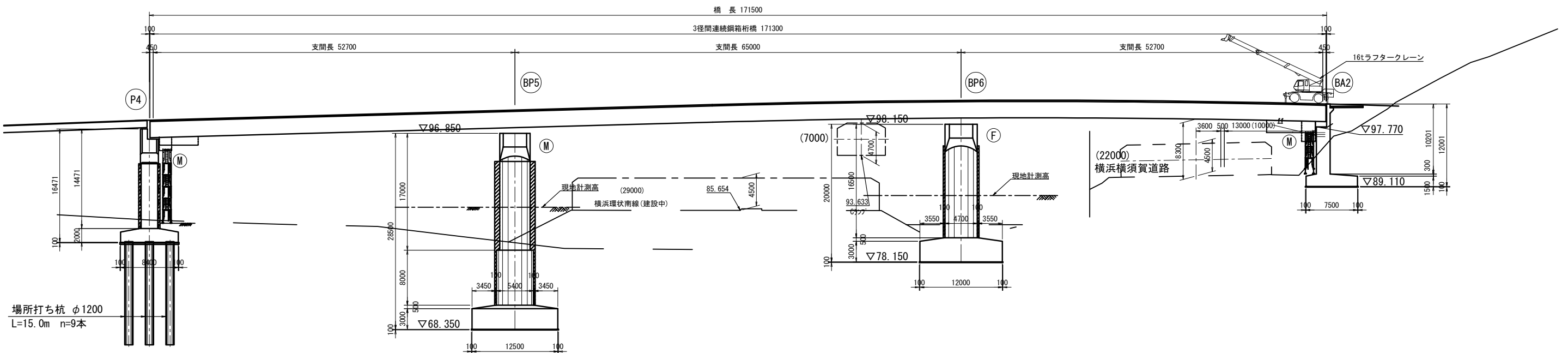


- 注記
1. 当図面は現場計測結果を基に計画している。
現地盤線については、施工時に現地に於て測量を実施し、高さを確認して調整すること。
 2. 本図面は建設初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地に於て寸法等を確認した上、施工を行うこと。
また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 施工計画（その2）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	37 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 京 浜 管 理 事 務 所		関東支社

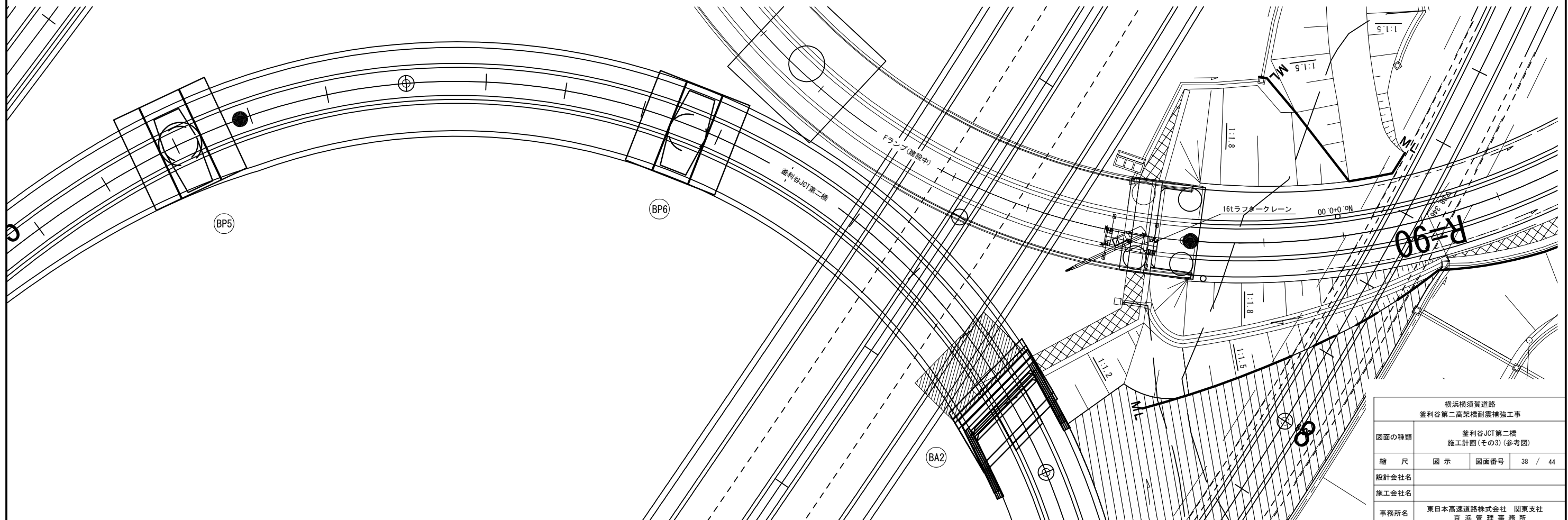
【BA2橋台資材搬入時】

側面図



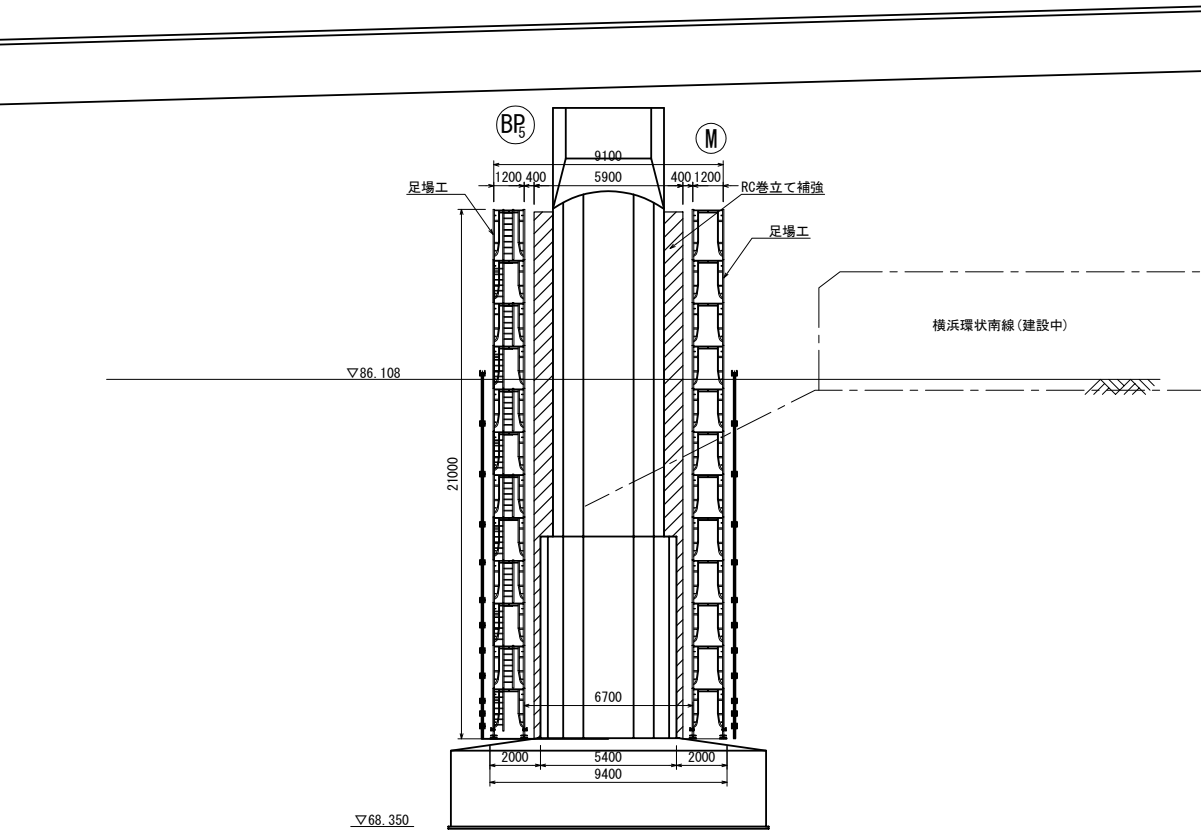
() 内寸法は標準幅員を示す。

平面図

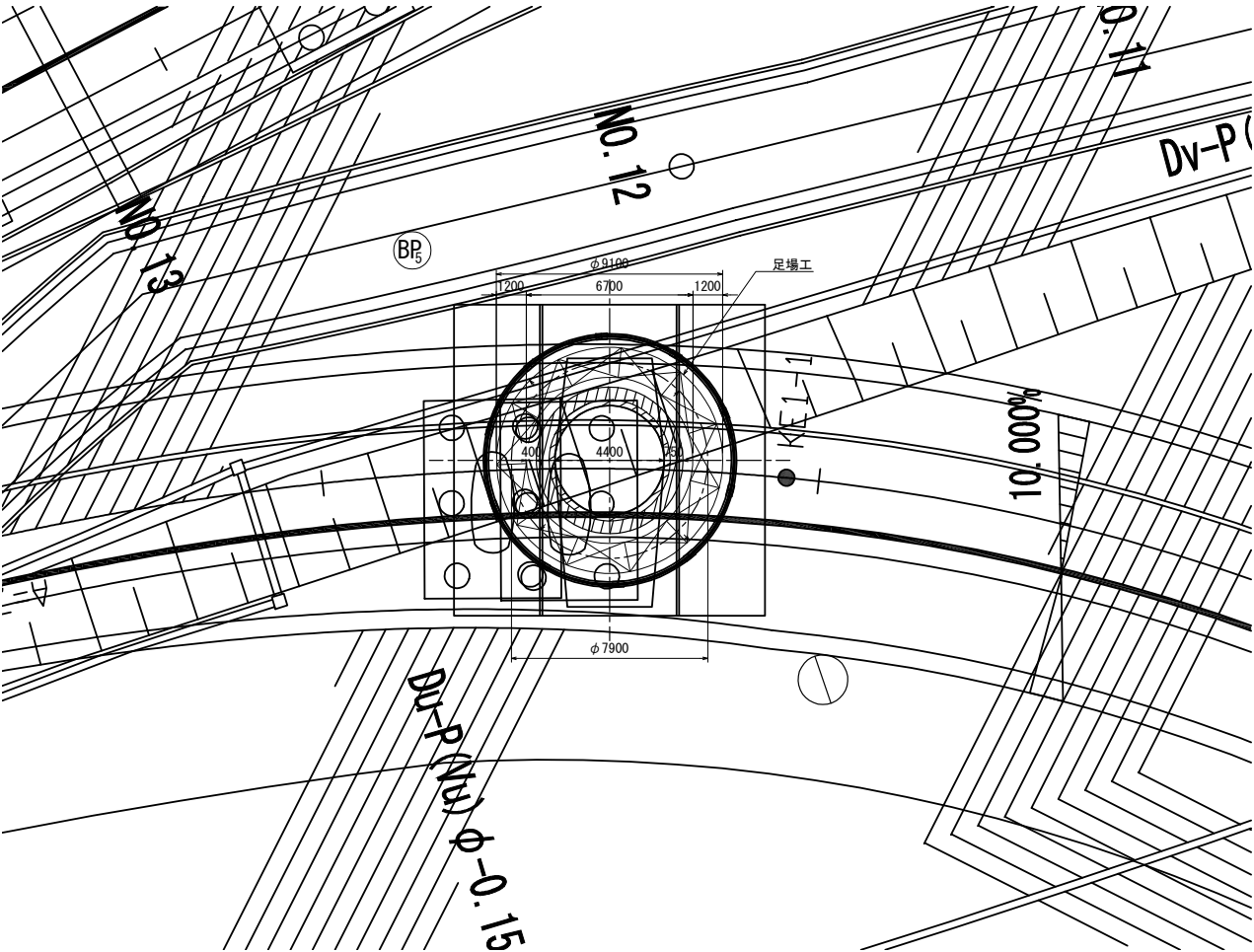


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 施工計画(その3)(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	38 / 44
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

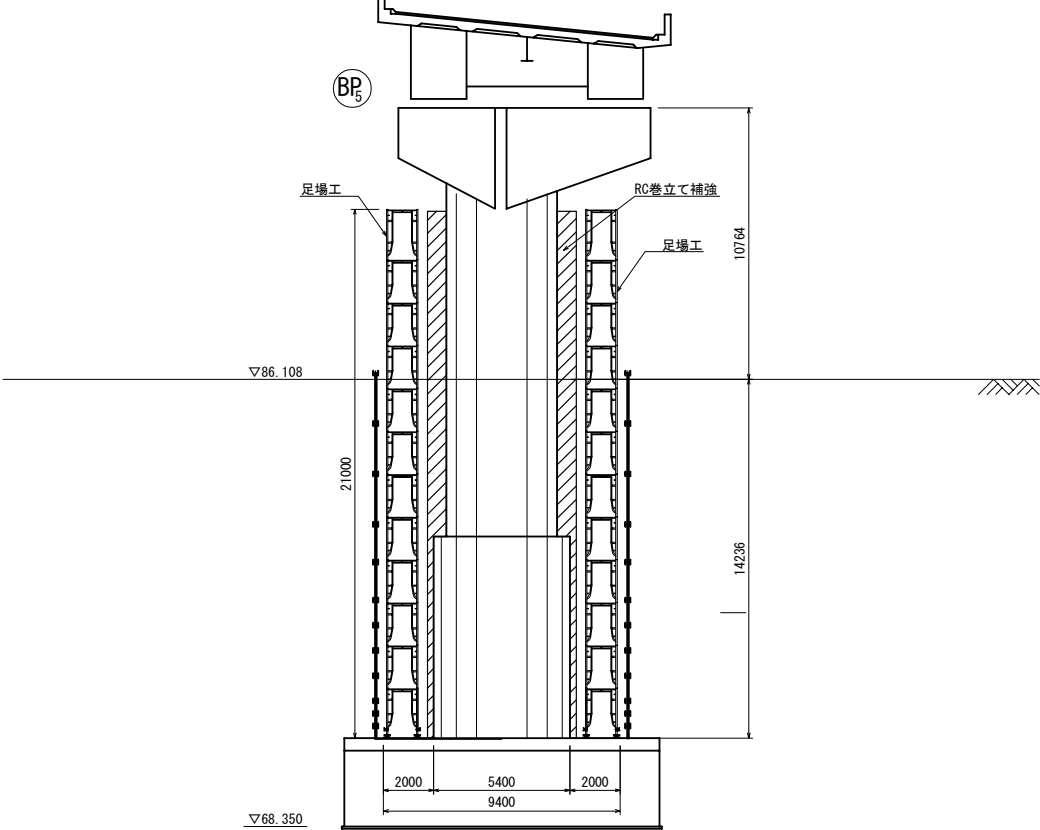
側面図



平面図



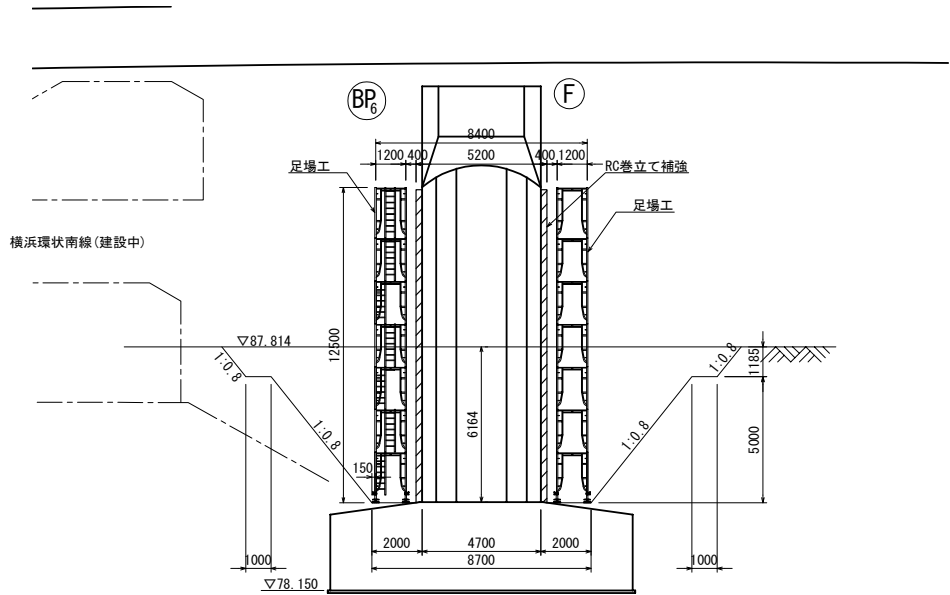
正面図



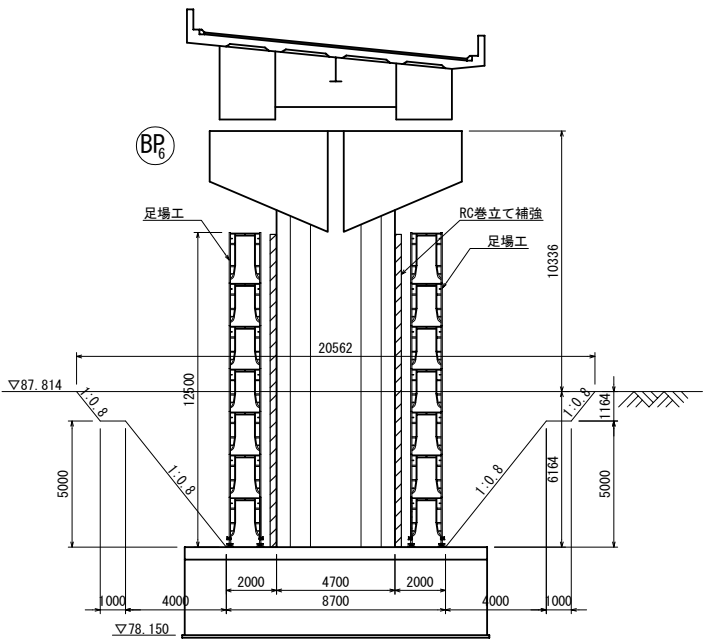
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その2)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	40 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

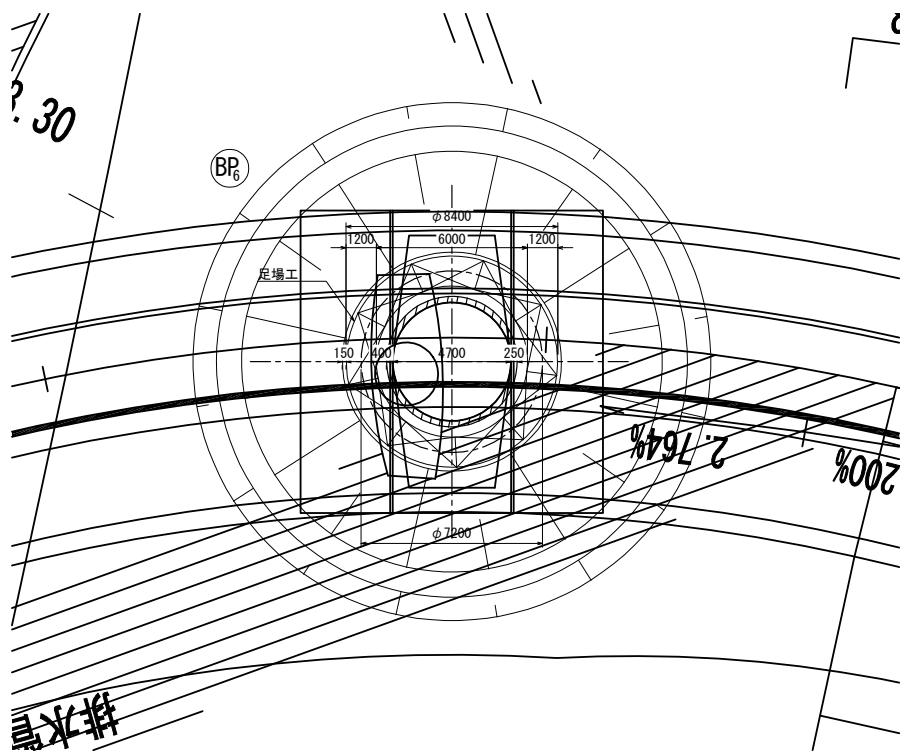
側 面 図



正 面 図



平 面 図

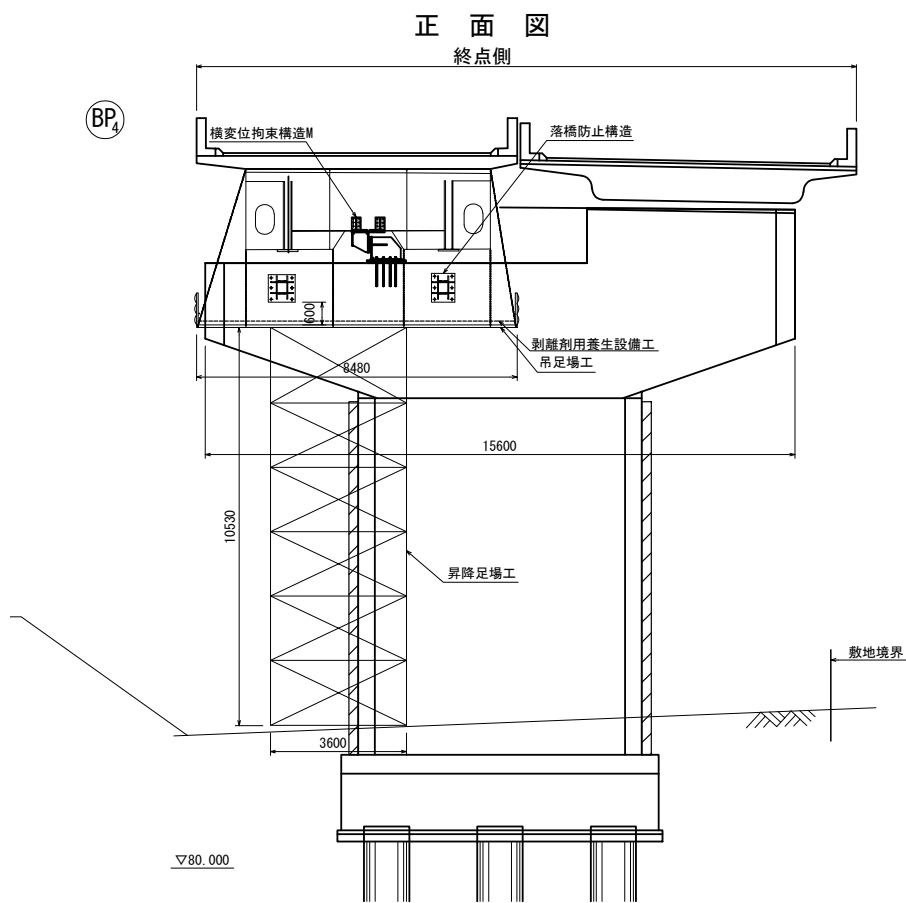
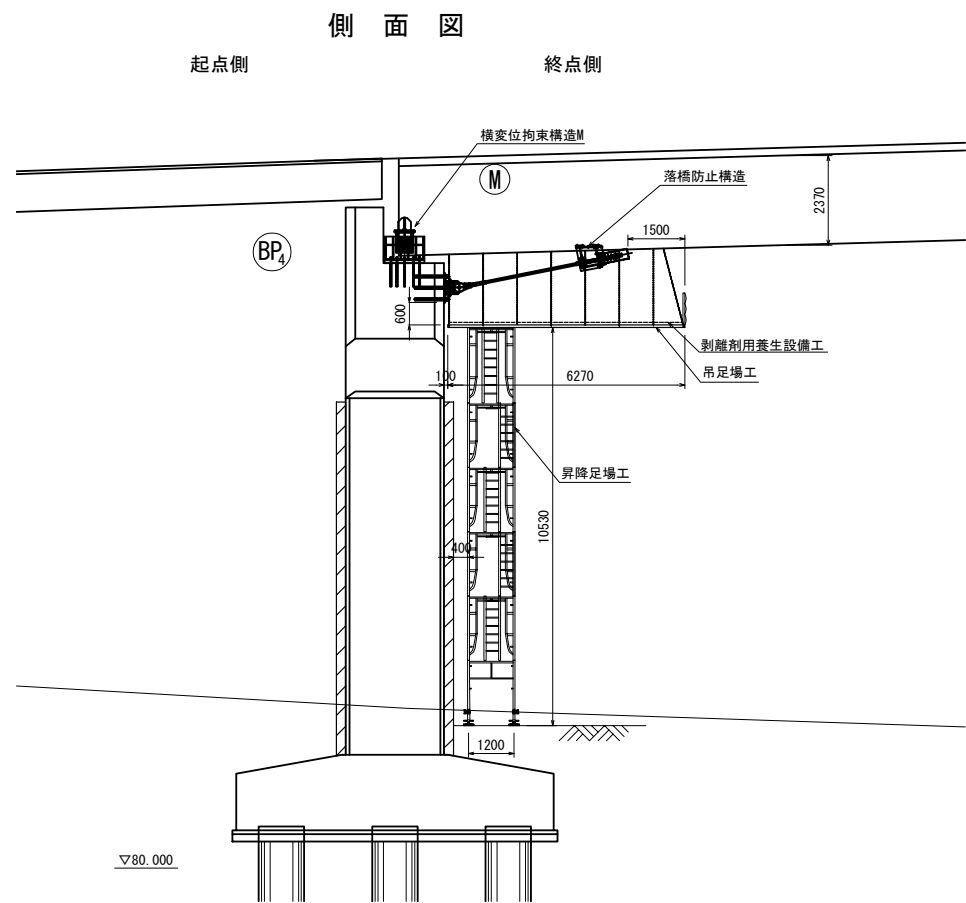


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

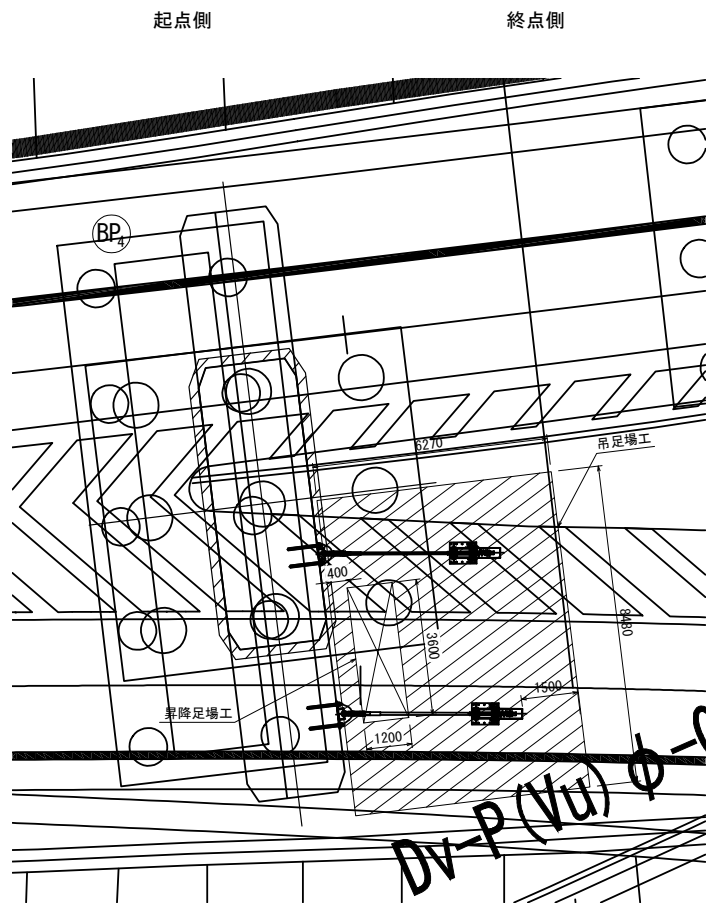
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その3) (参考図)			
縮 尺	図 示	図面番号	41 / 44	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その4)(参考図)
【BP4橋脚支承周り施工時】

S=1:200



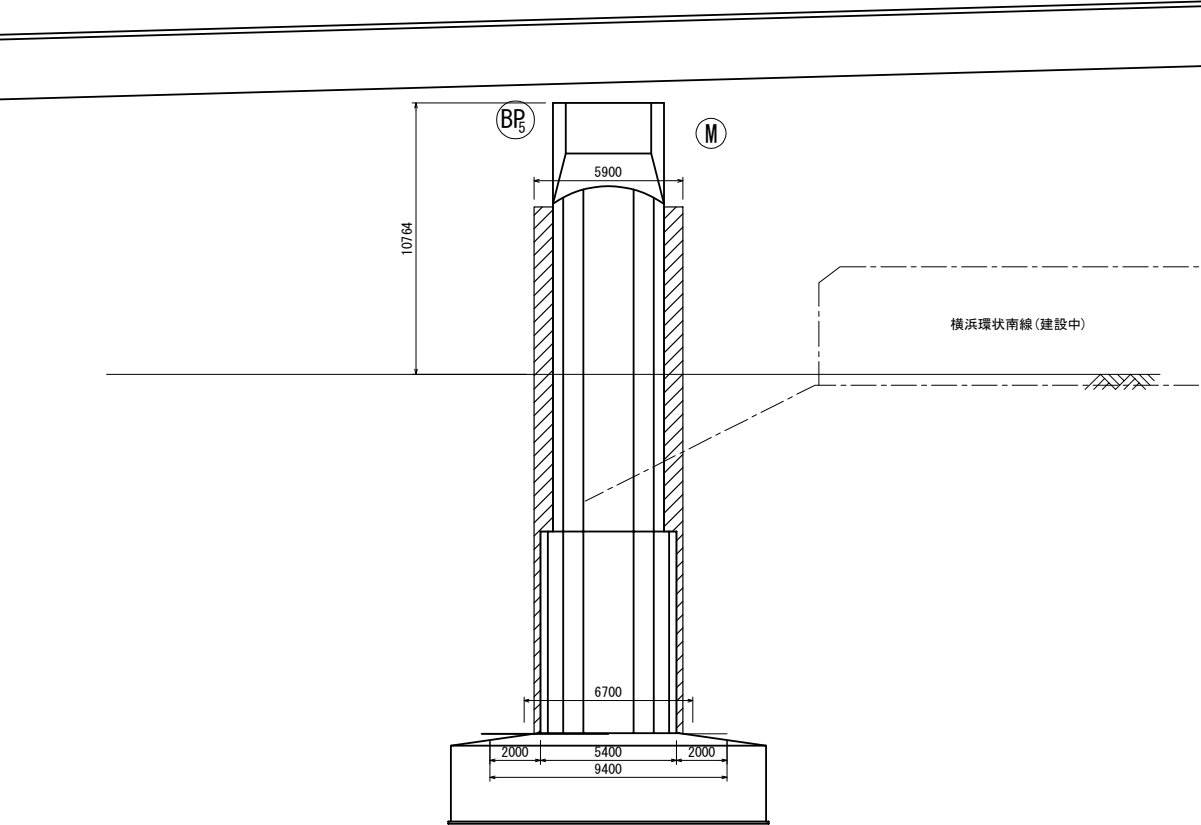
平面図



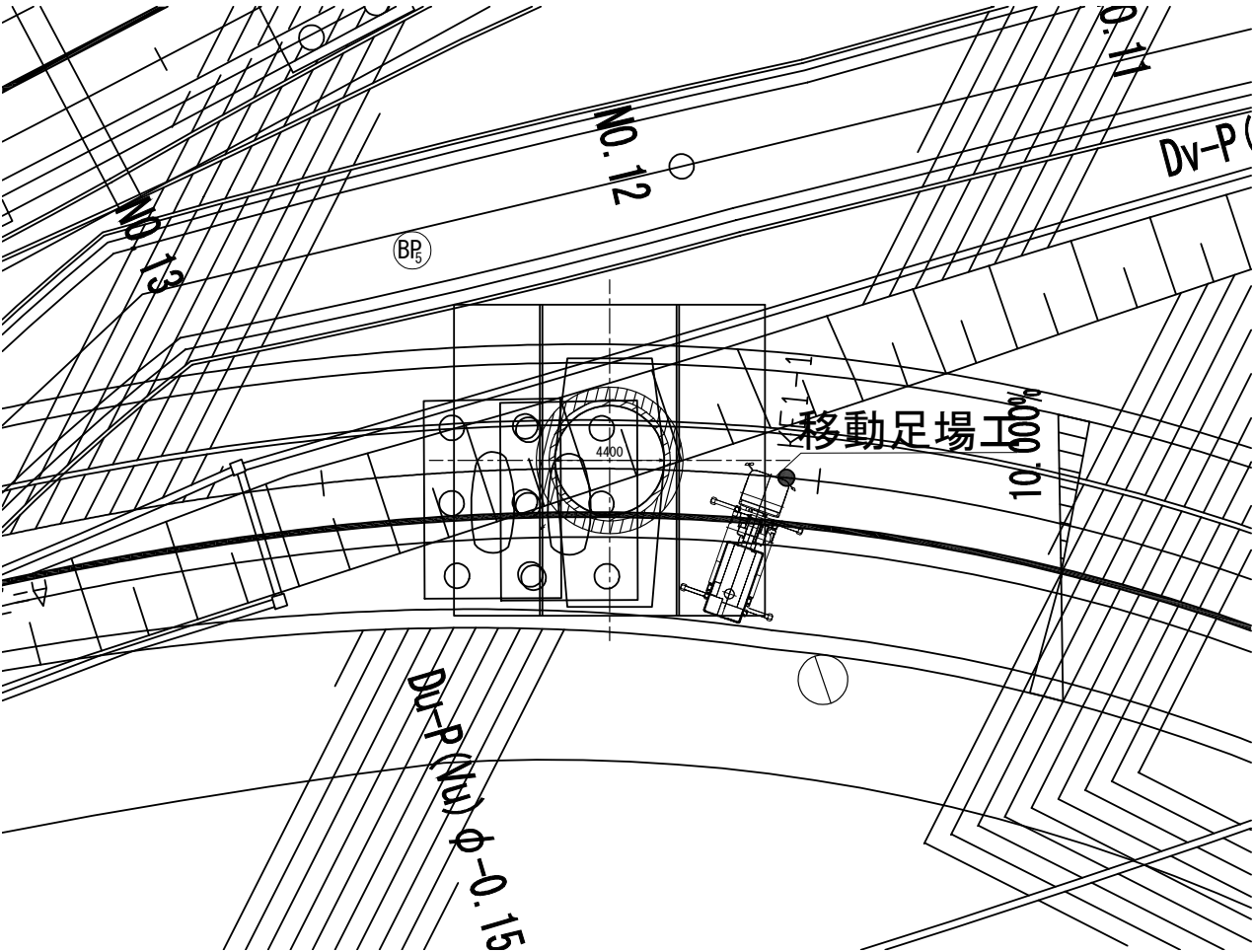
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その4) (参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	42 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

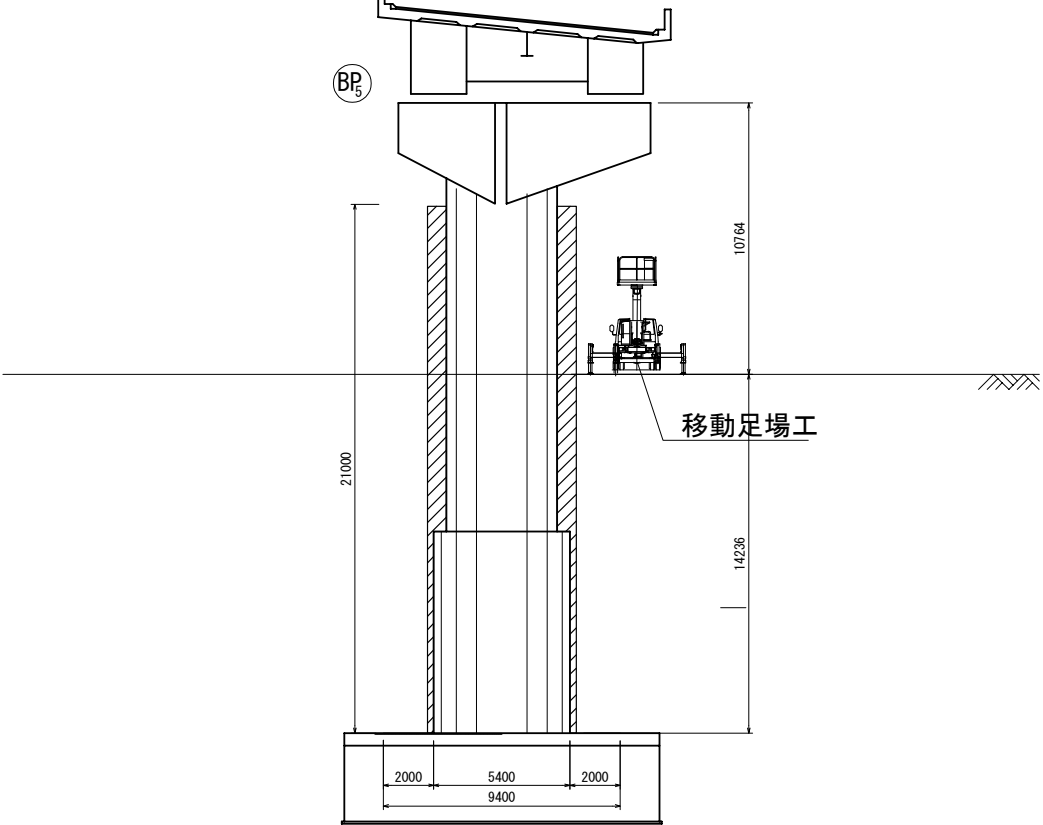
側面図



平面図



正面図



注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その5)(参考図)			
縮 尺	図 示	図面番号	43 / 44	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

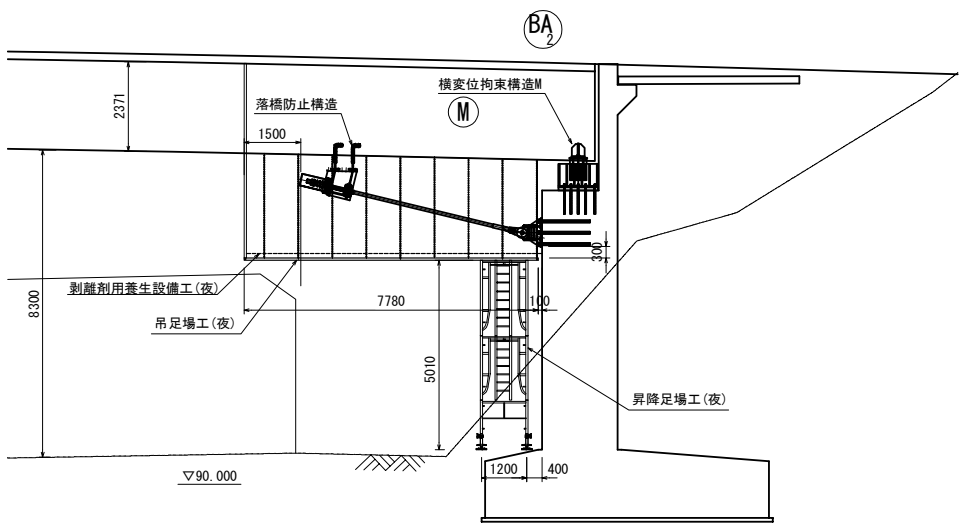
釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その6)(参考図)
【BA2橋台支承周り施工時】

S=1:200

側面図

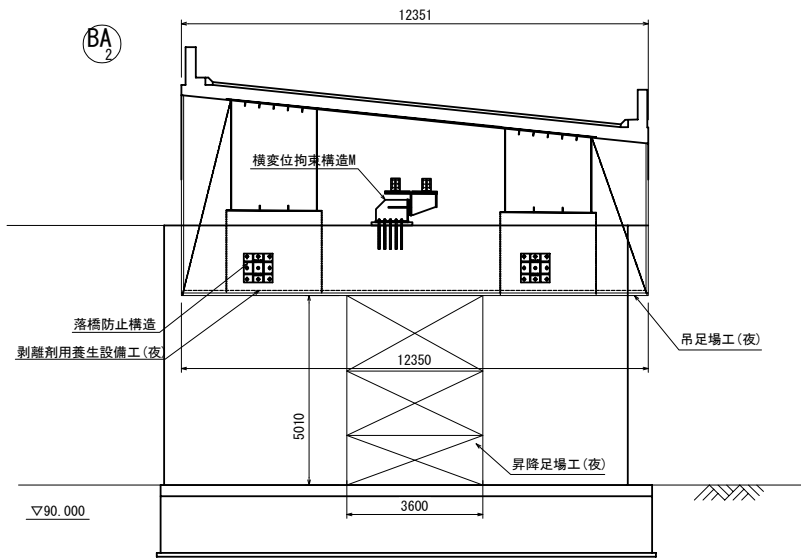
起点側

終点側



正面図

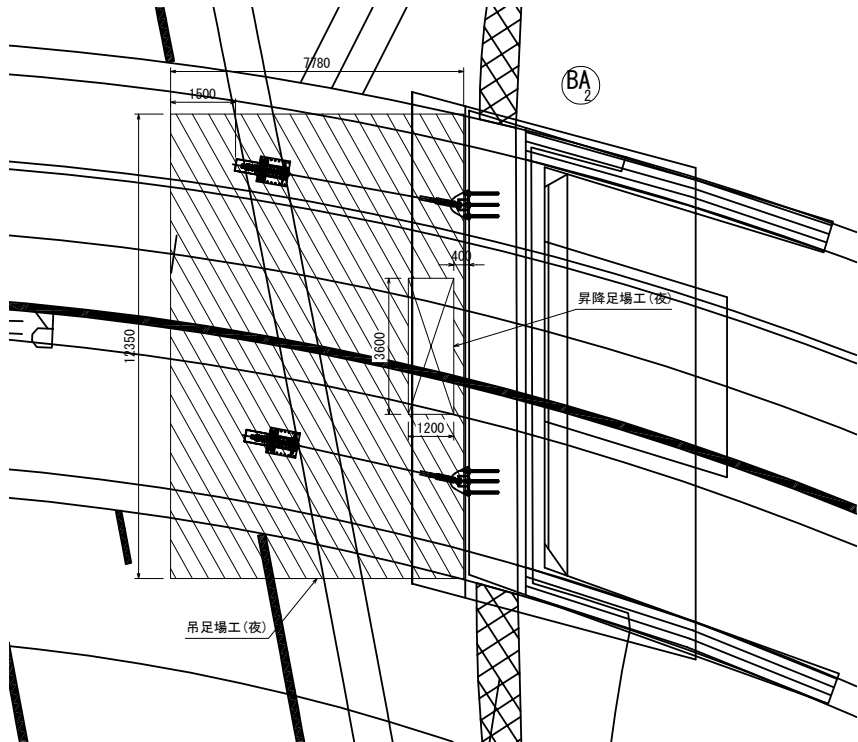
起点側



平面図

起点側

終点側



注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その6)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	44 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

横 浜 横 須 賀 道 路
釜 利 谷 第 二 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事

設 計 図
【釜利谷第二高架橋】

令和 7 年 7 月

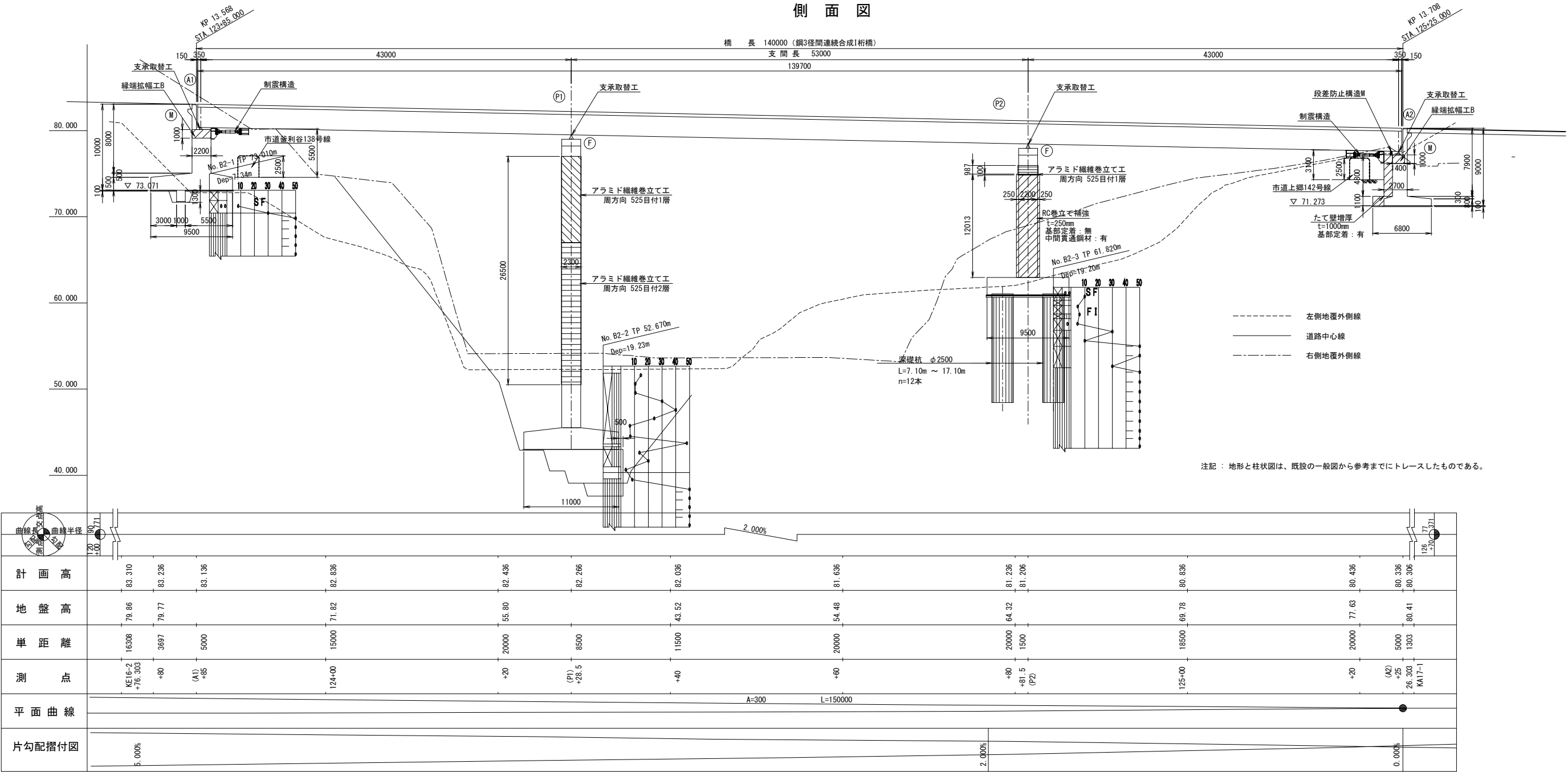
東日本高速道路株式会社 関東支社
京浜管理事務所

目 次

番号	設計図名称
1	釜利谷第二高架橋 補強一般図
2～9	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その1)～(その8)
10～11	釜利谷第二高架橋 P1橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
12～14	釜利谷第二高架橋 P2橋脚耐震補強構造一般図(その1)～(その3)
15～17	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線)耐震補強詳細図(その1)～(その3)
18～20	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線)耐震補強詳細図(その1)～(その3)
21	釜利谷第二高架橋 A2橋台耐震補強構造一般図
22～27	釜利谷第二高架橋 A2橋台耐震補強詳細図(その1)～(その6)
28～31	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線)支承取替工(その1)～(その4)
32～35	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線)支承取替工(その1)～(その4)
36～39	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線)支承取替工(その1)～(その4)
40～43	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線)支承取替工(その1)～(その4)
44～49	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線)支承取替工(その1)～(その6)
50～55	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線)支承取替工(その1)～(その6)
56～60	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線)支承取替工(その1)～(その5)
61～65	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線)支承取替工(その1)～(その5)
66～76	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その1)～(その11)
77～80	釜利谷第二高架橋 支承詳細図(その1)～(その4)
81	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線)制震ダンパー配置図
82～84	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線)制震ダンパー取り付け詳細図(その1)～(その3)

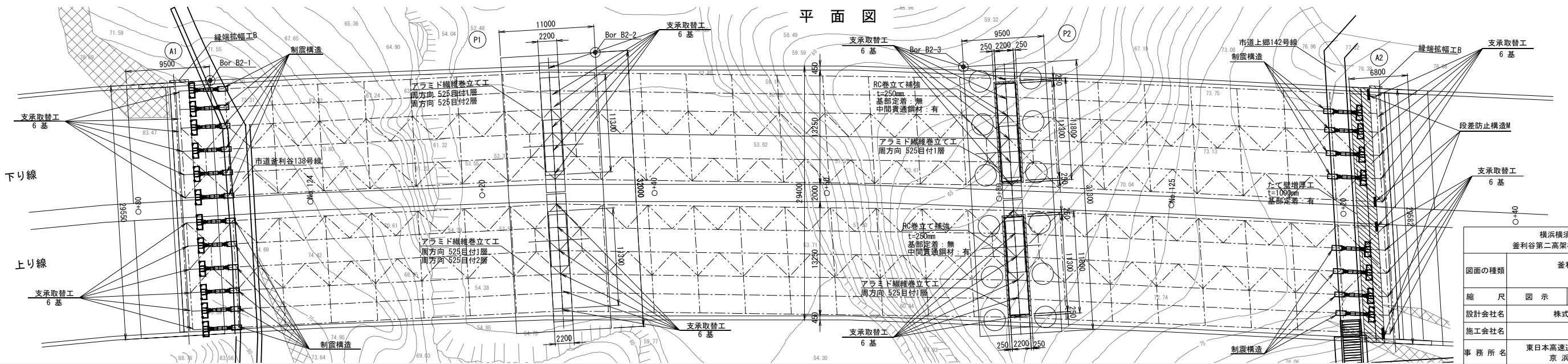
番号	設計図名称
85	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線)制震ダンパー配置図
86～88	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線)制震ダンパー取り付け詳細図(その1)～(その3)
89	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線)制震ダンパー配置図
90～92	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線)制震ダンパー取り付け詳細図(その1)～(その3)
93	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線)制震ダンパー配置図
94～96	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線)制震ダンパー取り付け詳細図(その1)～(その3)
97	釜利谷第二高架橋 制震ダンパー取付け部塗分け区分図
98	釜利谷第二高架橋 制震ダンパー詳細図
99	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線)縁端拡幅工B
100	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線)縁端拡幅工B
101	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線)段差防止構造詳細図
102	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線)段差防止構造詳細図
103	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上下線)段差防止構造詳細図
104	釜利谷第二高架橋 交通保安要員配置図
105	釜利谷第二高架橋 交通規制工
106～107	釜利谷第二高架橋 足場工図(その1)～(その2)(参考図)
108～109	釜利谷第二高架橋 支保工(その1)～(その2)(参考図)
110～112	釜利谷第二高架橋 ヤード整備工(その1)～(その3)(参考図)

側面図



注記：地形と柱状図は、既設の一般図から参考までにトレースしたものである。

平面図

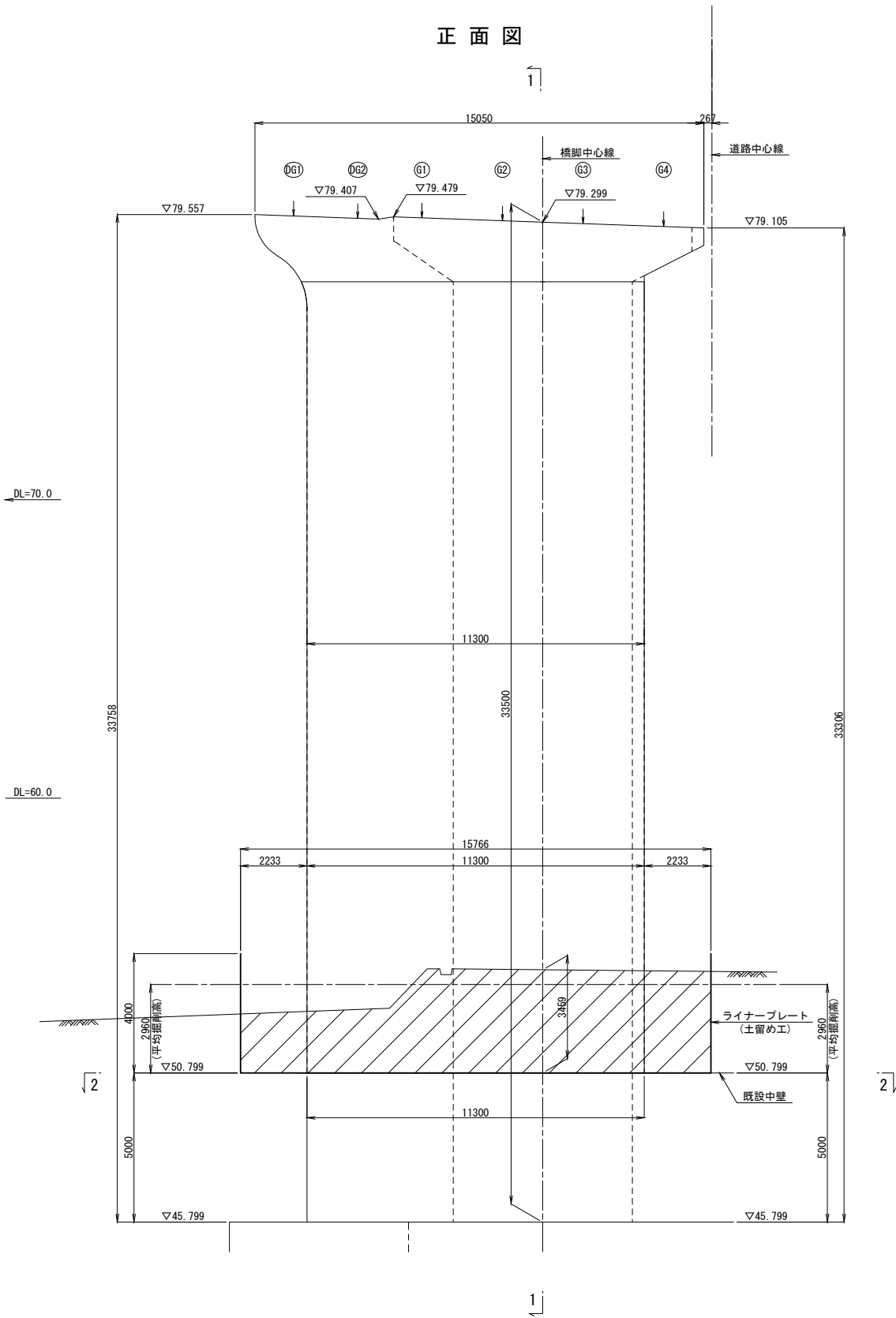


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類		釜利谷第二高架橋 補強一般図		
縮尺	図示	図面番号	1 / 112	
設計会社名	株式会社 近代設計			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			

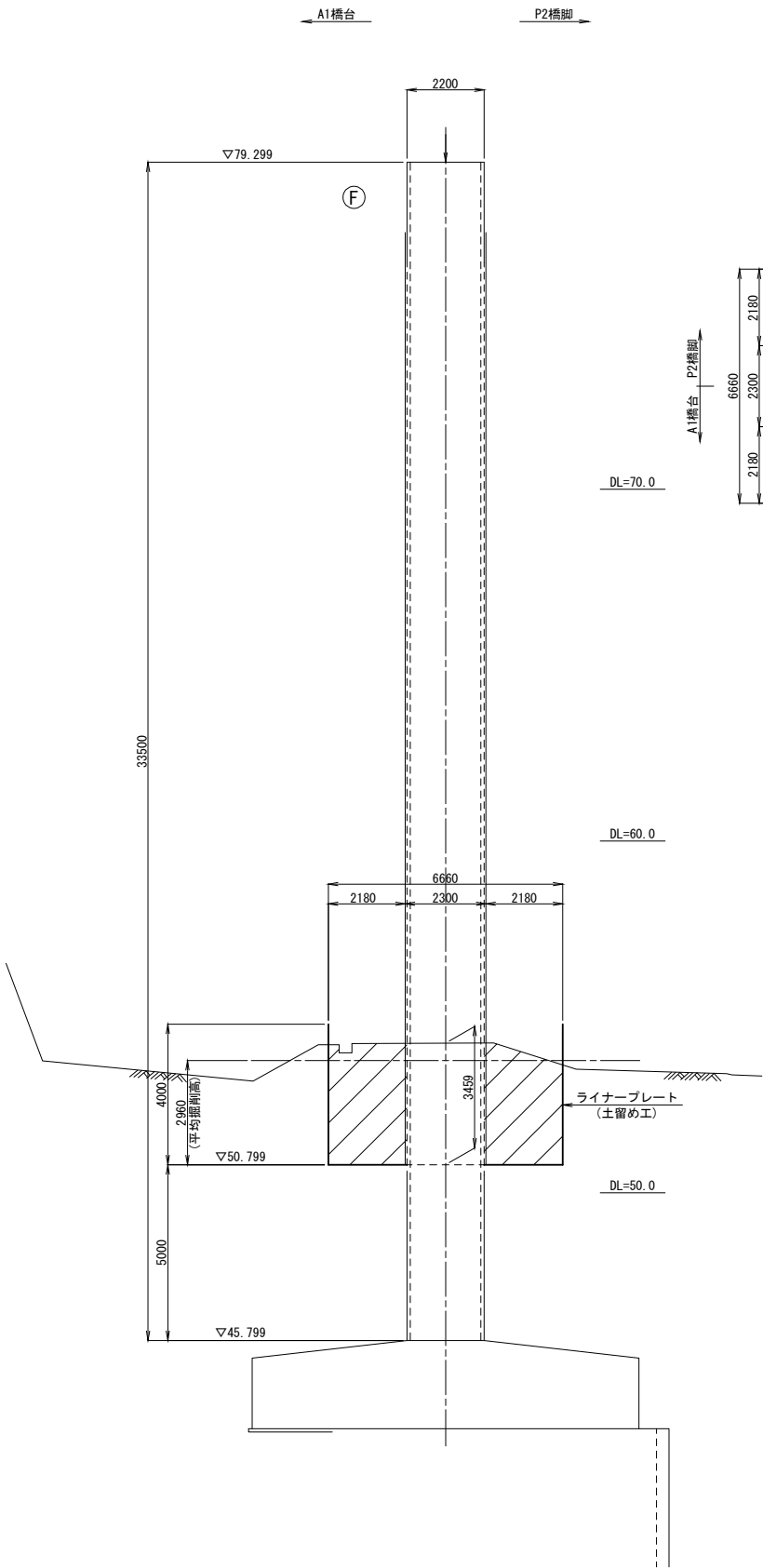
構造物掘削 特殊部D

P1橋脚 下り線

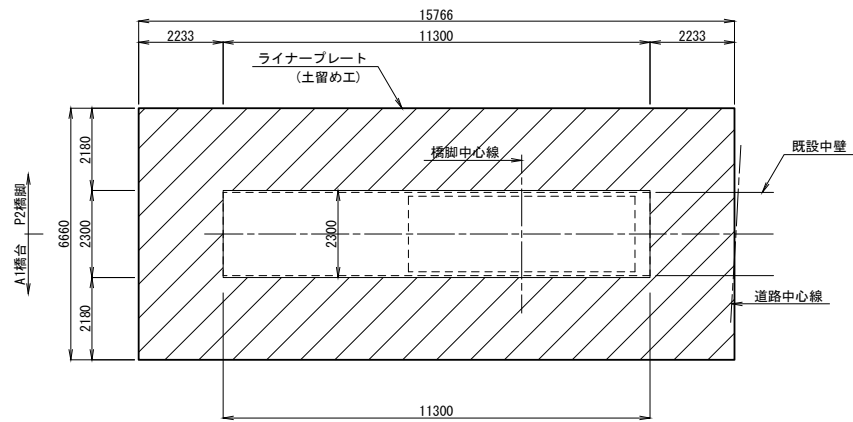
正面図



断面図 (1 - 1)



平面図 (2 - 2)



* 現地盤線は既往の設計成果等を基に設定している。
このため、着工前測量成果を基に適宜見直しを行うこと。
* 土留め設計は、釜利谷第二高架橋耐震補強検討業務 (R5.9)に基づいている。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	2 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その2)

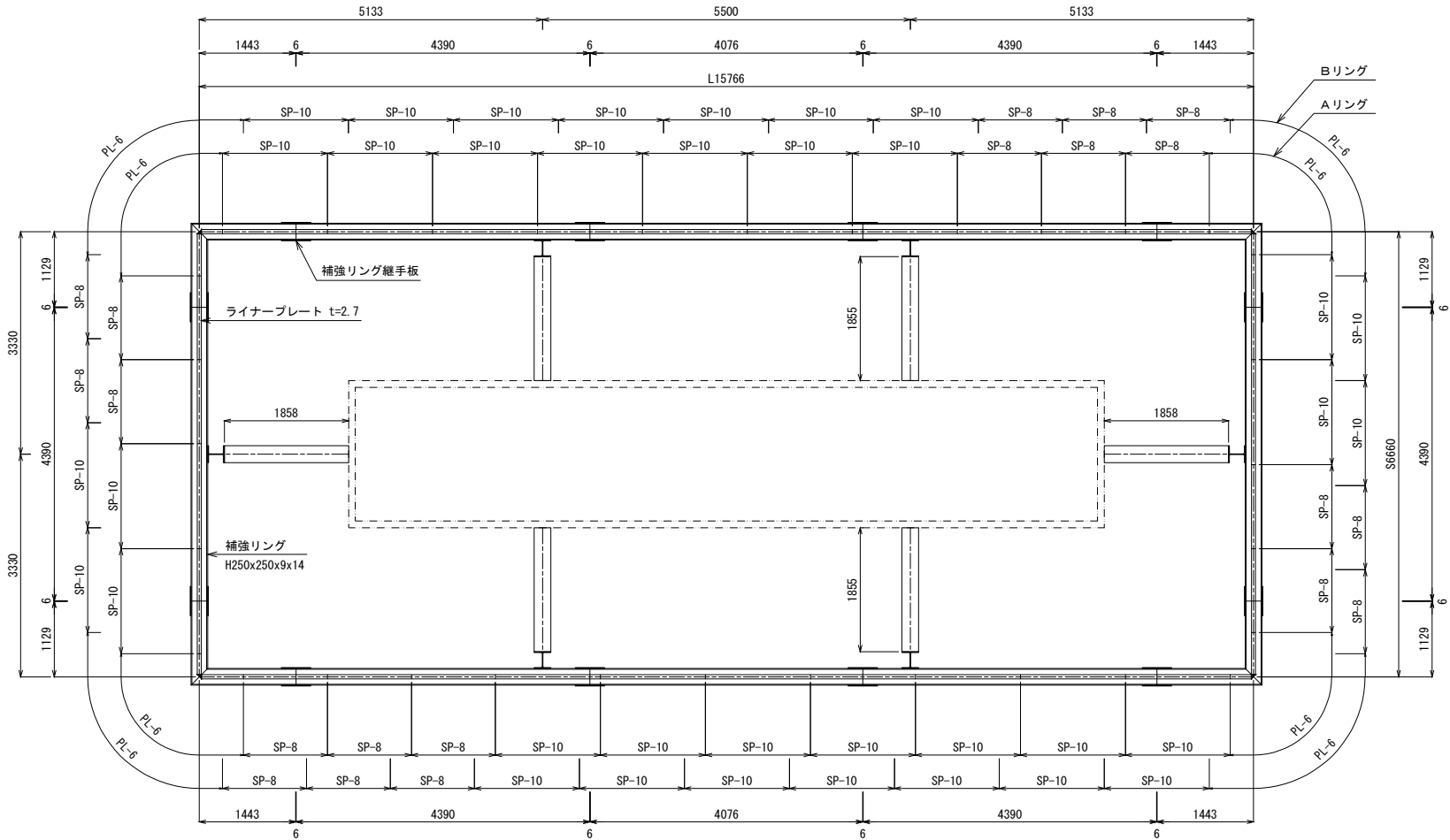
構造物掘削 特殊部D

P1橋脚 下り線

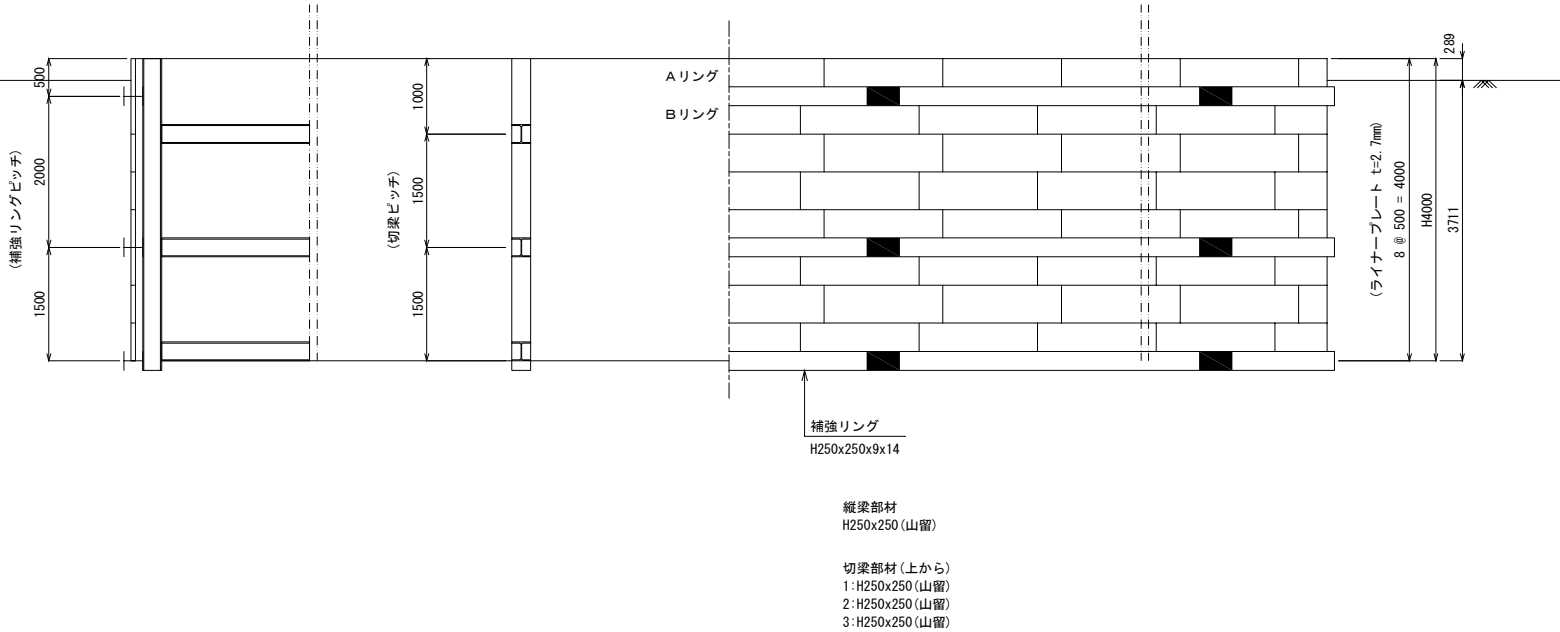
材料表

名 称	寸 法 (mm)	数 量	単 質 (kg)	質 量 (kg)	備 考
ライナープレート (t =2.7mm)・・・H=4.0m					
ライナープレート	2.7x500x1570 (SP-10)	144	26.0	3744	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1256 (SP- 8)	80	21.1	1688	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1008 (PL- 6)	32	20.8	666	黒皮
組立ボルト	M16x30 (4. 6, L P用)	2444	0.137	335	
組立ボルト	M16x45 (8. 8, H R用)	852	0.158	135	
小 計				6568	kg
補強リング (H250)・・・3リング (継手部・・・12箇所/1リング当たり)					
直 材	H250x250x9x14x4390	18	315	5670	黒皮
直 材	H250x250x9x14x4076	6	293	1758	黒皮
コーナー材	H250x250x9x14x2572	12	185	2220	黒皮
継手板	PL250x12x440 (SM490)	72	10.4	749	黒皮
継手ボルト	M20x60 (10. 9)	864	0.297	257	
小 計				10654	kg
合 計				17222	kg
参考					
縦梁	H250x250x9x14x4125	6	330	1980	山留材
切梁	H250x250x9x14x1855	12	148	1776	山留材
切梁	H250x250x9x14x1858	6	149	894	山留材
合 計				4650	kg

平面図 縮尺 1:100



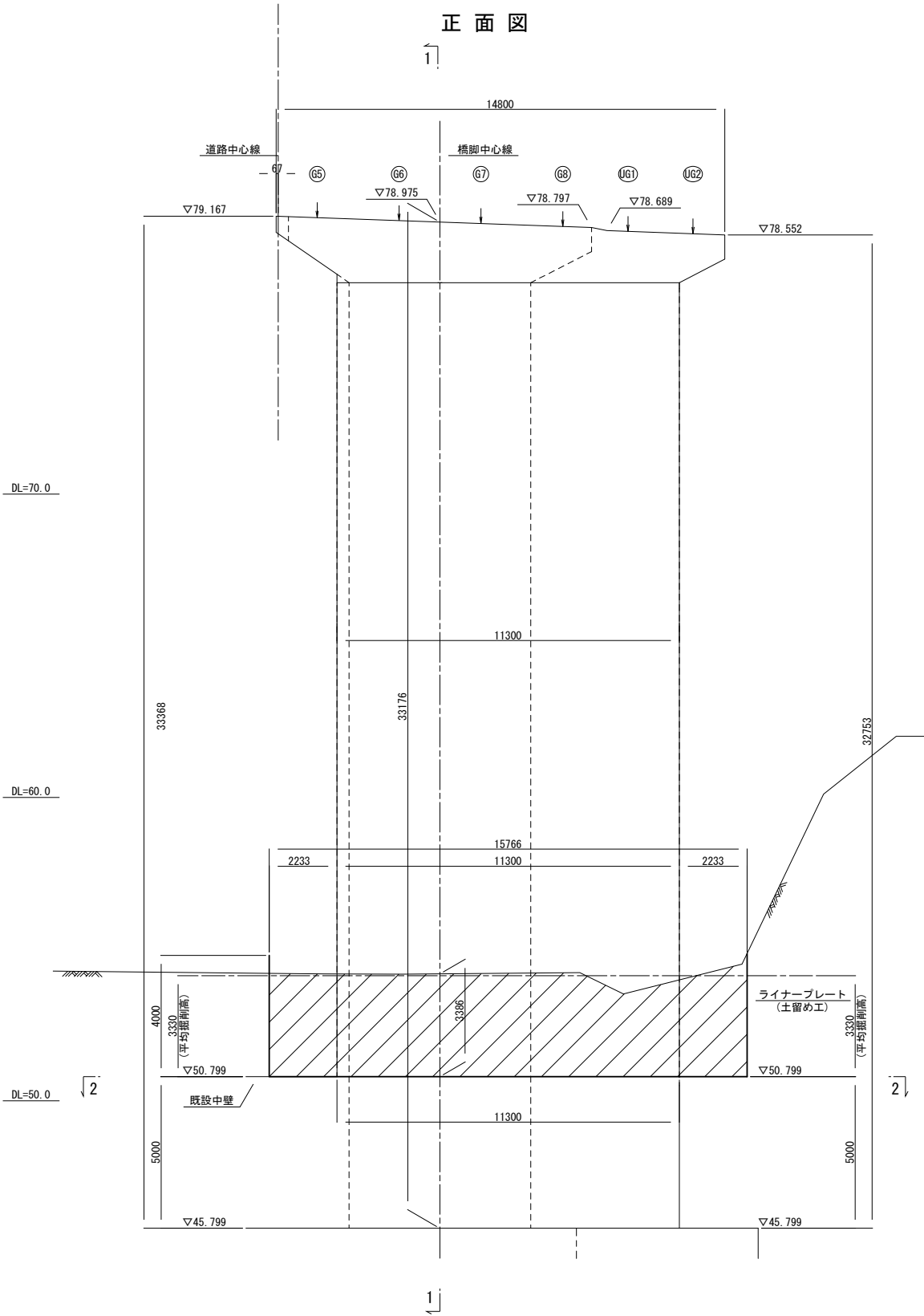
断面図及び側面図 縮尺 1:100



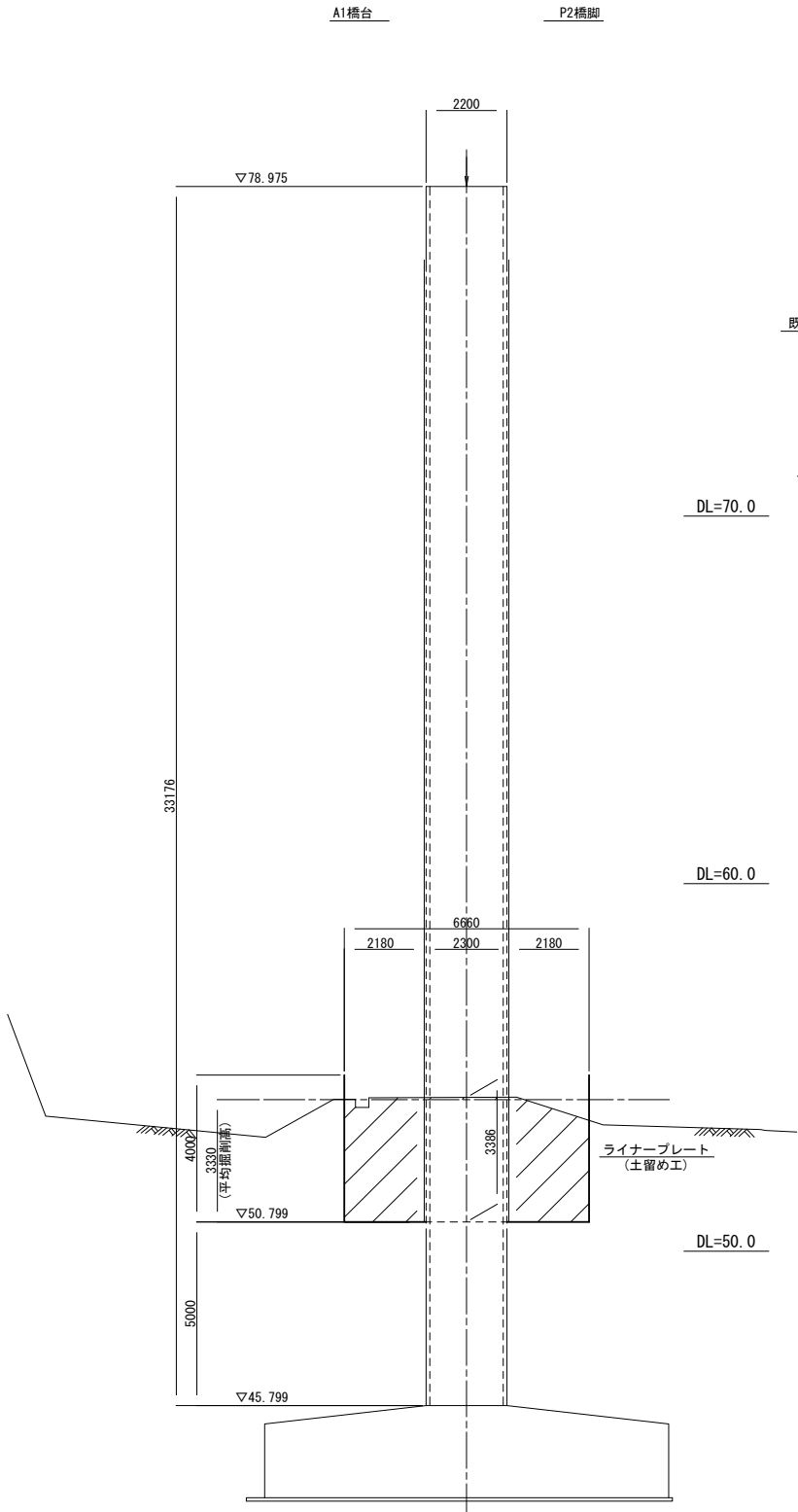
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

構造物掘削 特殊部B
P1橋脚 上り線

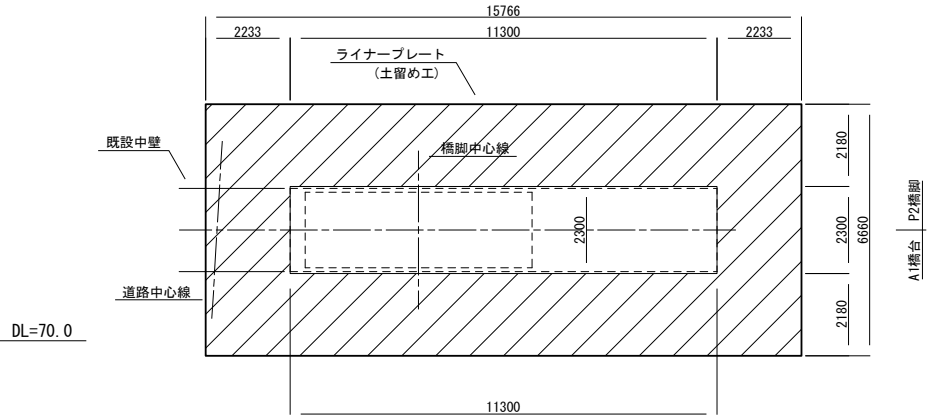
正面図



断面図 (1 - 1)



平面図 (2 - 2)



* 現地盤線は既往の設計成果等を基に設定している。
このため、着工前測量成果を基に適宜見直しを行うこと。
* 土留め設計は、釜利谷第二高架橋耐震補強検討業務 (R5.9)に基づいている。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

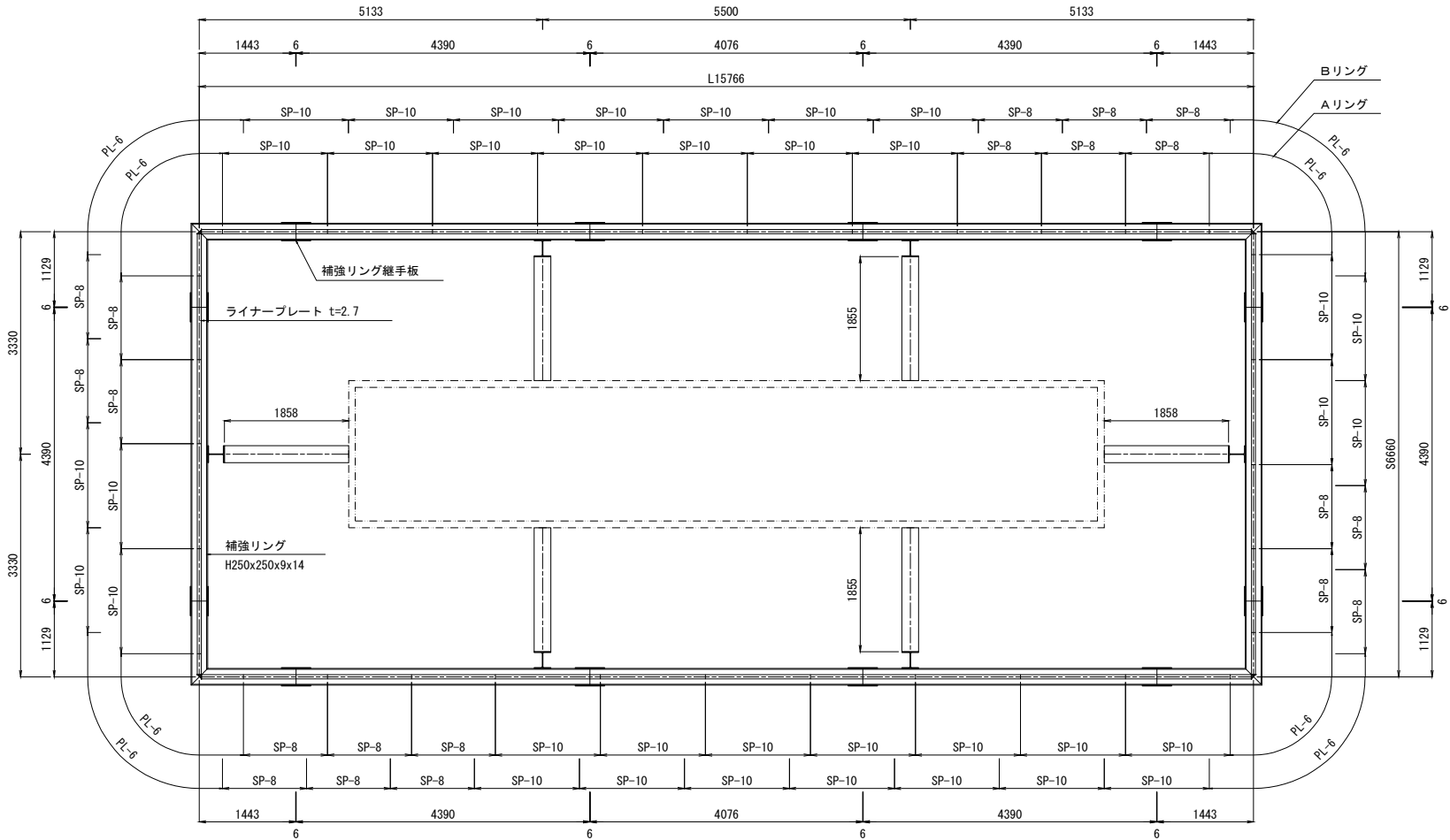
釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その4)

構造物掘削 特殊部B
P1橋脚 上り線

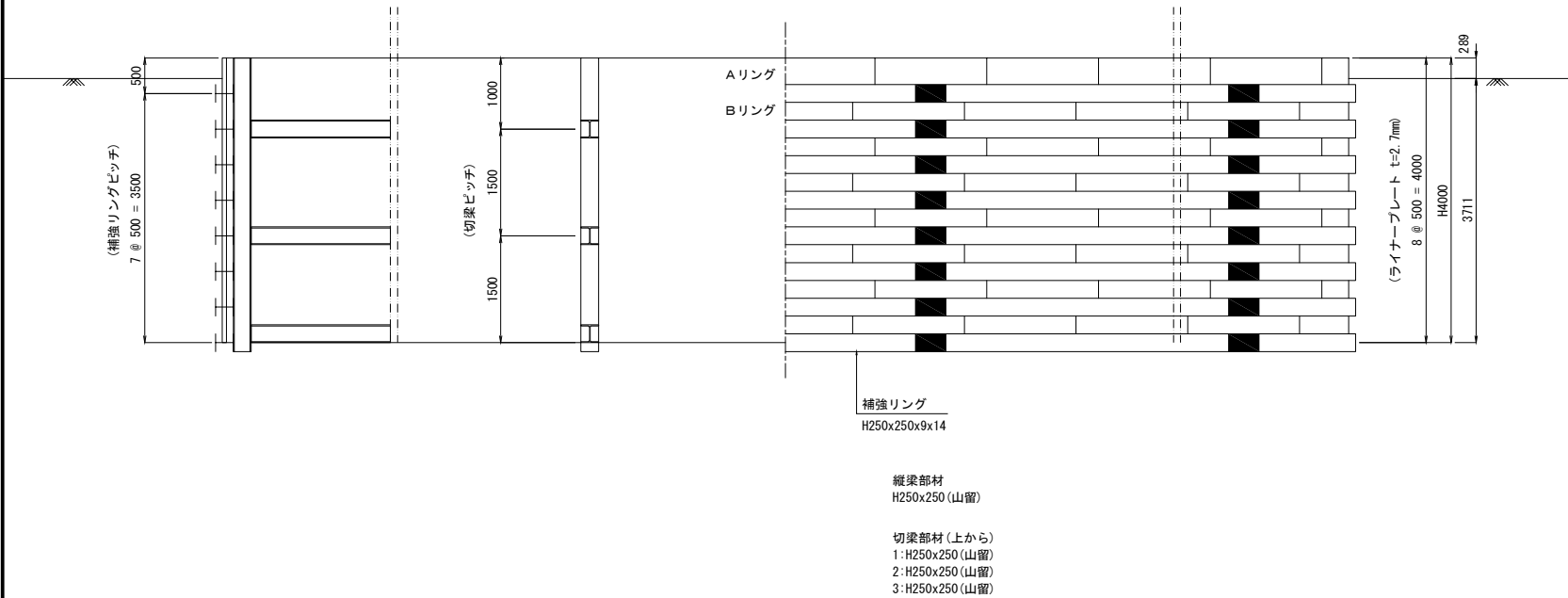
材料表

名 称	寸 法 (mm)	数 量	単 質 (kg)	質 量 (kg)	備 考
ライナープレート (t =2.7mm) ・ ・ ・ H=4.0m					
ライナープレート	2.7x500x1570 (SP-10)	144	26.0	3744	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1256 (SP- 8)	80	21.1	1688	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1008 (PL- 6)	32	20.8	666	黒皮
組立ボルト	M16x30 (4. 6, L P 用)	1024	0.137	140	
組立ボルト	M16x45 (8. 8, H R 用)	2272	0.158	359	
小 計				6597	kg
補強リング (H250) ・ ・ ・ 8リング (継手部 ・ ・ ・ 12箇所/1リング当たり)					
直 材	H250x250x9x14x4390	48	315	15120	黒皮
直 材	H250x250x9x14x4076	16	293	4688	黒皮
コーナー材	H250x250x9x14x2572	32	185	5920	黒皮
継手板	PL250x12x440 (SM490)	192	10.4	1997	黒皮
継手ボルト	M20x60 (10. 9)	2304	0.297	684	
小 計				28409	kg
合 計				35006	kg
参考					
縦梁	H250x250x9x14x4125	6	330	1980	山留材
切梁	H250x250x9x14x1855	12	148	1776	山留材
切梁	H250x250x9x14x1858	6	149	894	山留材
合 計				4650	kg

平面図 縮尺 1:100



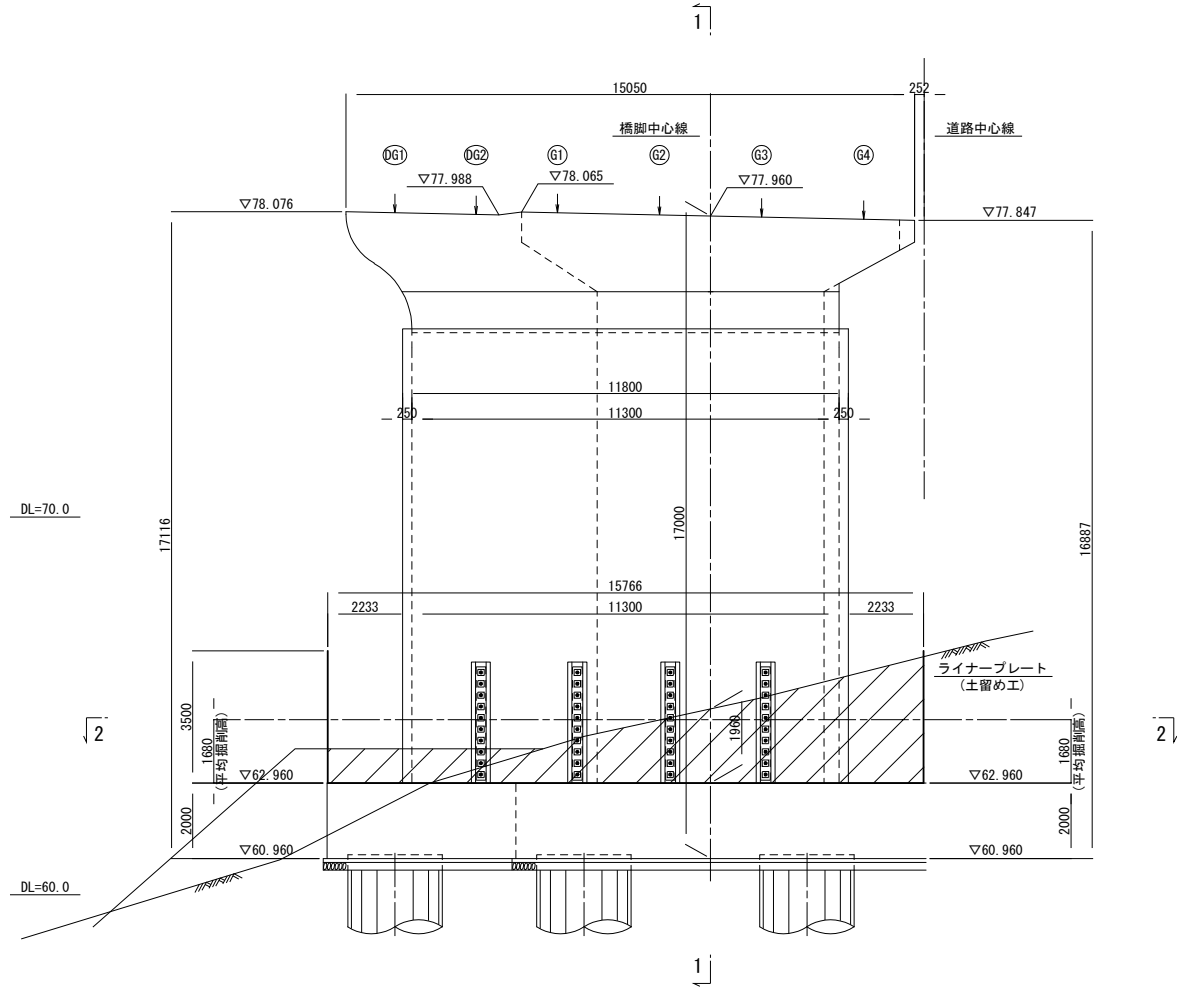
断面図及び側面図 縮尺 1:100



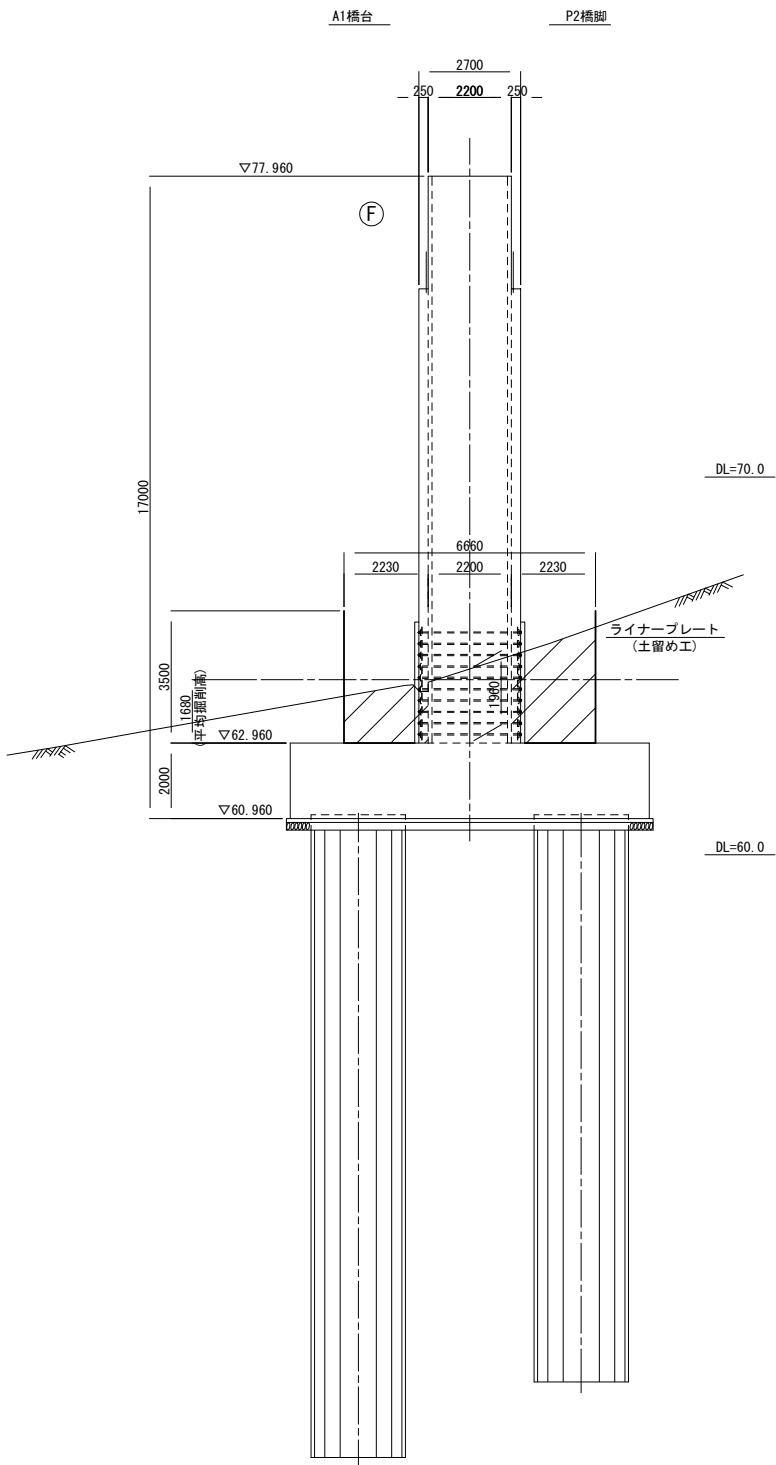
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	5 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

構造物掘削 特殊部E
P2橋脚 下り線

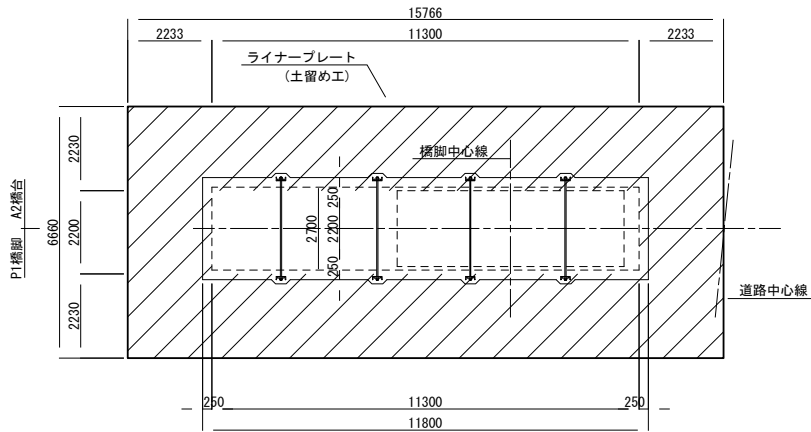
正面図



断面図 (1 - 1)



平面図 (2 - 2)



* 現地盤線は既往の設計成果等を基に設定している。
このため、着工前測量成果を基に適宜見直しを行うこと。

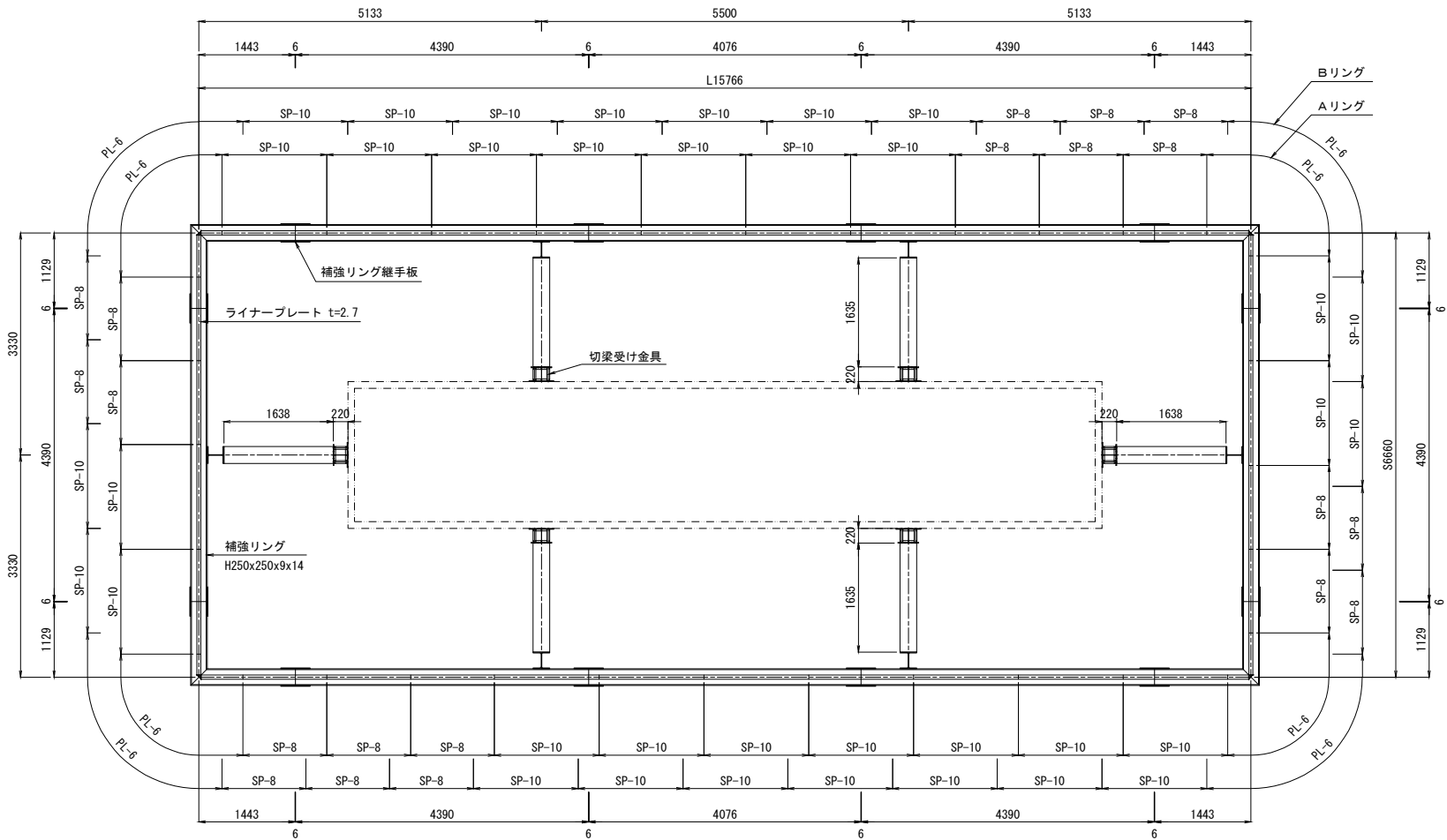
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その5)		
	縮 尺	図 示	図面番号 6 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

構造物掘削 特殊部E
P2橋脚 下り線

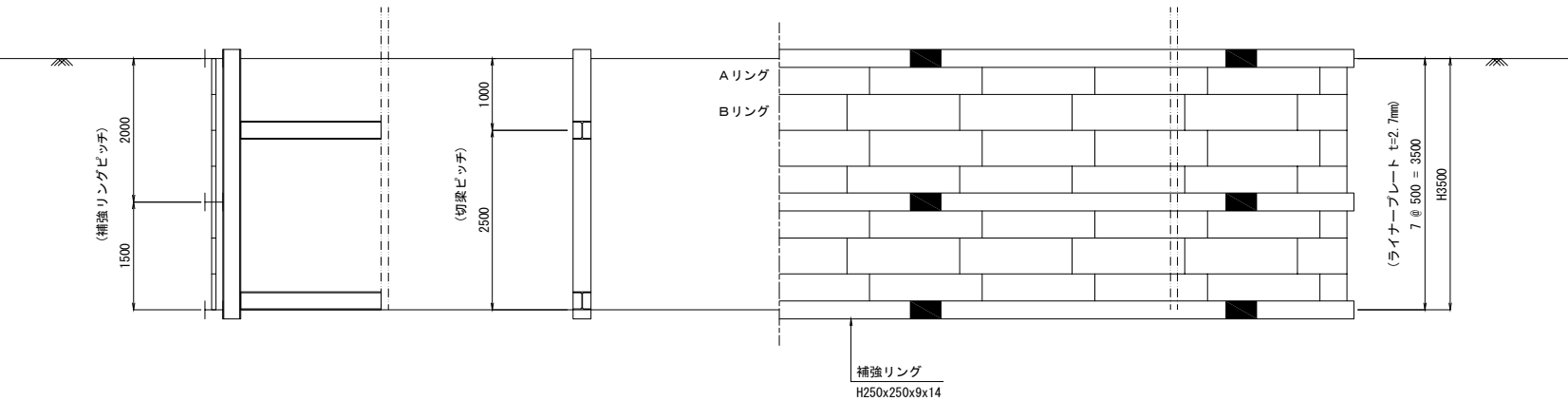
材料表

名 称	寸 法 (mm)	数 量	単 質 (kg)	質 量 (kg)	備 考
ライナープレート (t=2.7mm)・・・H=3.5m					
ライナープレート	2.7x500x1570 (SP-10)	126	26.0	3276	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1256 (SP- 8)	70	21.1	1477	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1008 (PL- 6)	28	20.8	582	黒皮
組立ボルト	M16x30 (4. 6, L P用)	2316	0.137	317	
組立ボルト	M16x45 (8. 8, H R用)	852	0.158	135	
小 計				5787	kg
補強リング (H250)・・・3リング (継手部・・・12箇所/1リング当たり)					
直 材	H250x250x9x14x4390	18	315	5670	黒皮
直 材	H250x250x9x14x4076	6	293	1758	黒皮
コーナー材	H250x250x9x14x2572	12	185	2220	黒皮
継手板	PL250x12x440 (SM490)	72	10.4	749	黒皮
継手ボルト	M20x60 (10. 9)	864	0.297	257	
小 計				10654	kg
合 計				16441	kg
参考					
縦梁	H250x250x9x14x3750	6	300	1800	山留材
切梁	H250x250x9x14x1635	8	131	1048	山留材
切梁	H250x250x9x14x1638	4	131	524	山留材
合 計				3372	kg
切梁受け金具	H25-T25	12			個
ポリマーセメントモルタル	310x310x30	12	0.003	0.036	m3

平面図 縮尺 1:100



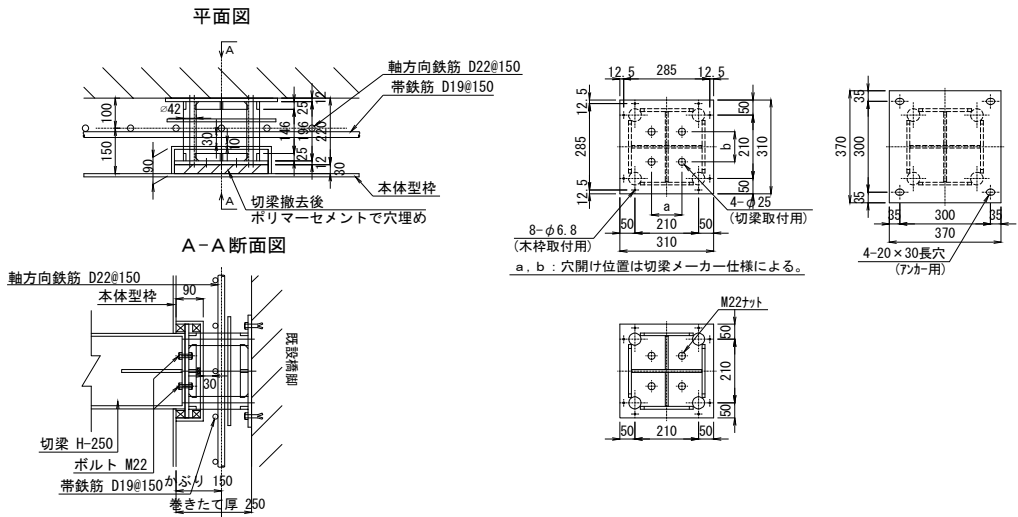
断面図及び側面図 縮尺 1:100



縦梁部材
H250x250 (山留)

切梁部材 (上から)
1: H250x250 (山留)
2: H250x250 (山留)

切梁受け金具 詳細図 縮尺 1:25

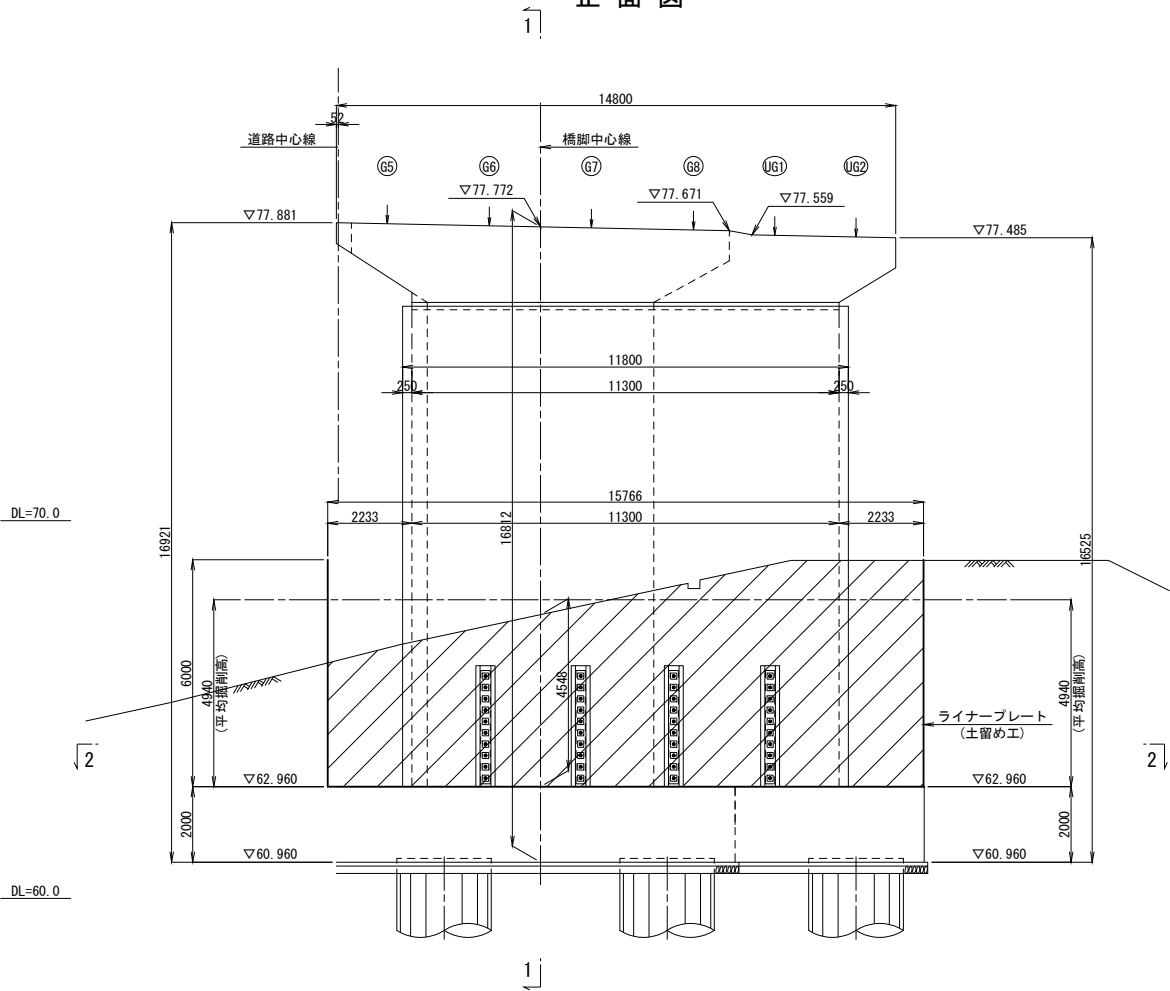


注記)
1. 切梁受け金具は適切な防錆を施すものとする。

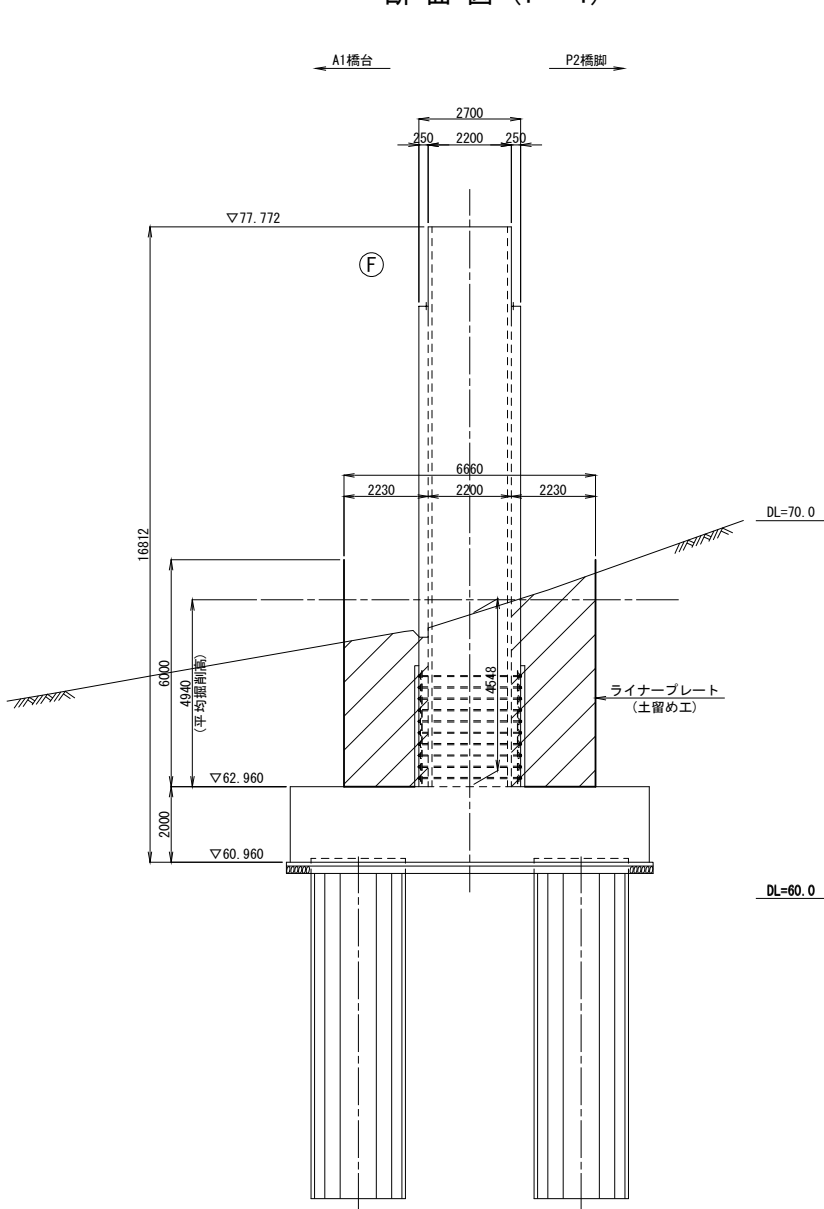
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その6)			
縮 尺	図 示	図面番号	7 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

構造物掘削 特殊部C
P2橋脚 上り線

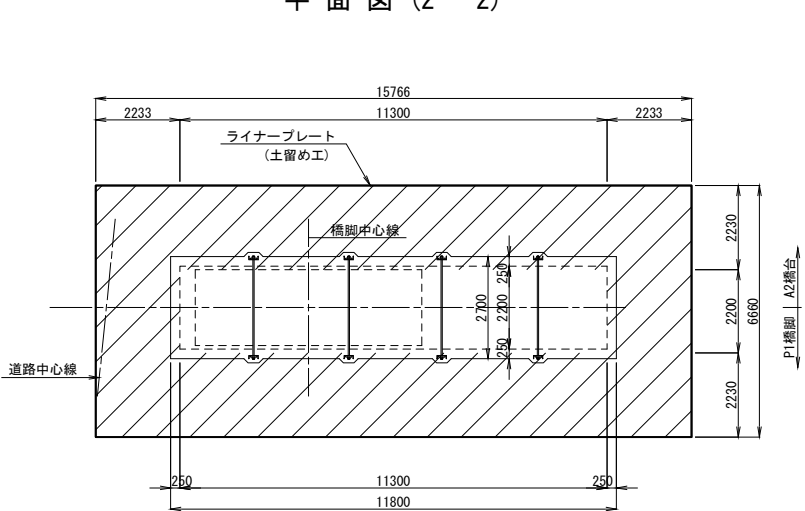
正面図



断面図 (1 - 1)



平面図 (2 - 2)



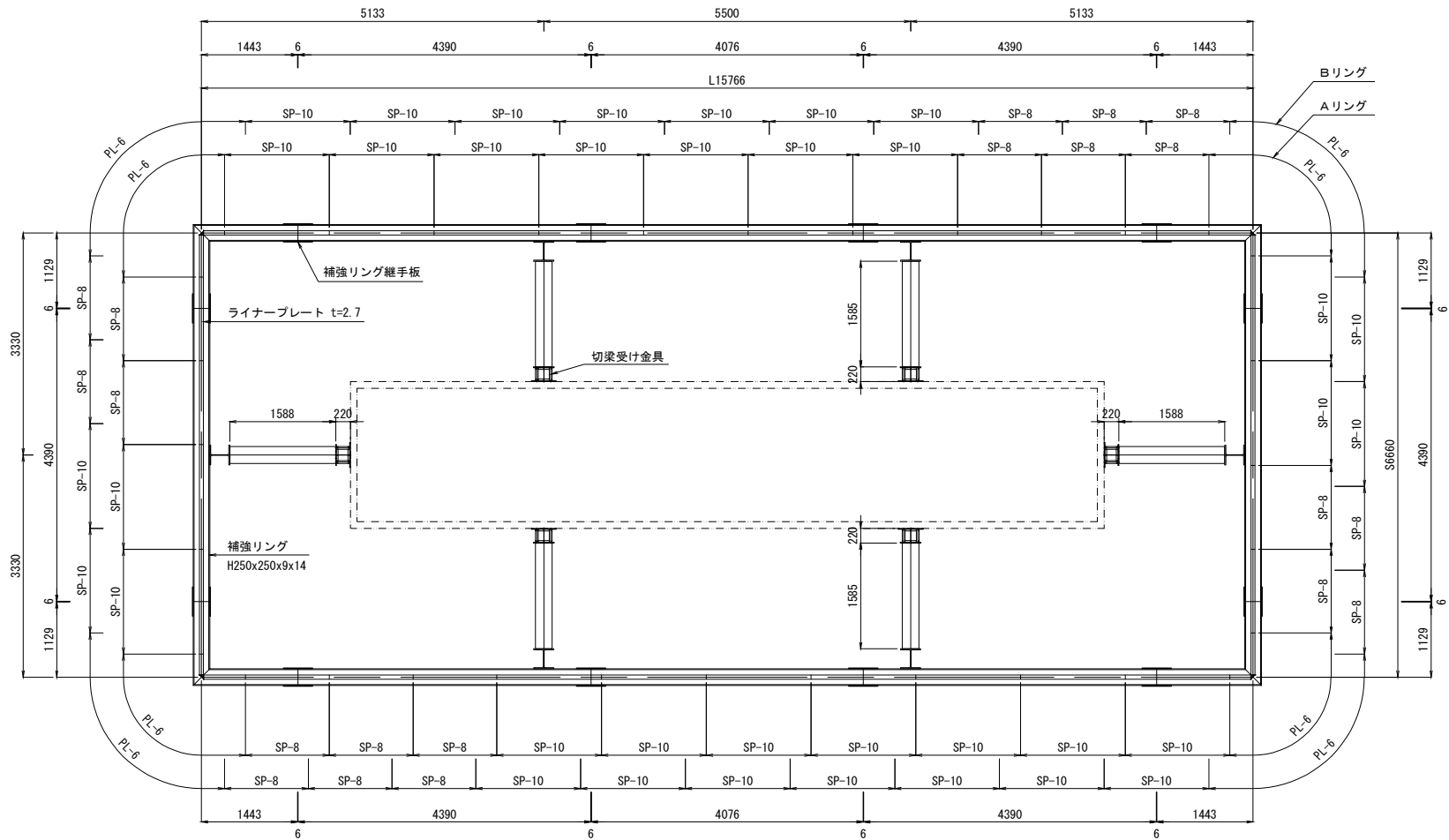
* 現地盤線は既往の設計成果等を基に設定している。
このため、着工前測量成果を基に適宜見直しを行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その7)		
縮 尺	図 示	図面番号	8 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

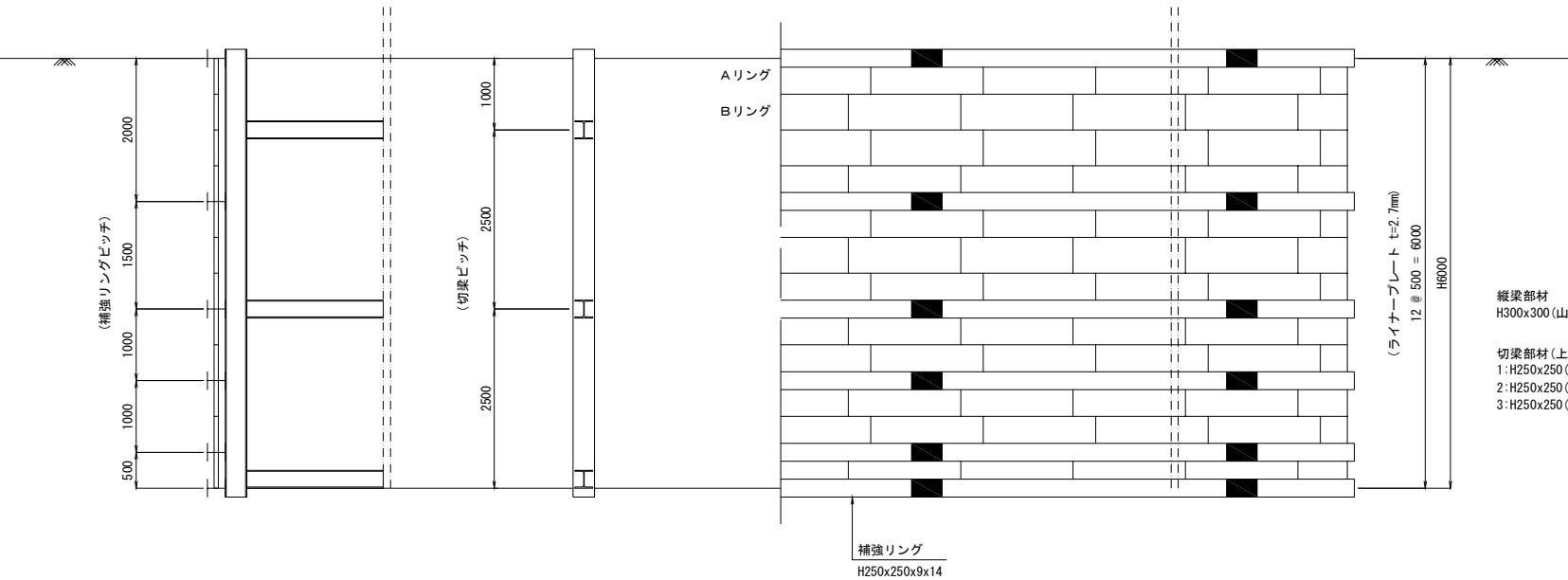
材料表

名 称	寸 法 (mm)	数 量	単 質 (kg)	質 量 (kg)	備 考
ライナープレート (t=2.7mm)・・・H=6.0m					
ライナープレート	2.7x500x1570 (SP-10)	216	26.0	5616	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1256 (SP- 8)	120	21.1	2532	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1008 (PL- 6)	48	20.8	998	黒皮
組立ボルト	M16x30 (4. 6, L P 用)	3524	0.137	483	
組立ボルト	M16x45 (8. 8, H R 用)	1704	0.158	269	
小 計				9898	kg
補強リング (H250)・・・6リング (継手部・・・12箇所/1リング当たり)					
直 材	H250x250x9x14x4390	36	315	11340	黒皮
直 材	H250x250x9x14x4076	12	293	3516	黒皮
コーナー材	H250x250x9x14x2572	24	185	4440	黒皮
継手板	PL250x12x440 (SM490)	144	10.4	1498	黒皮
継手ボルト	M20x60 (10. 9)	1728	0.297	513	
小 計				21307	kg
合 計				31205	kg
参考					
縦梁	H300x300x10x15x6250	6	625	3750	山留材
切梁	H250x250x9x14x1585	12	127	1524	山留材
切梁	H250x250x9x14x1588	6	127	762	山留材
合 計				6036	kg
切梁受け金具	H25-T25	18			個
ポリマーセメントモルタル	310x310x30	18	0.003	0.054	m3

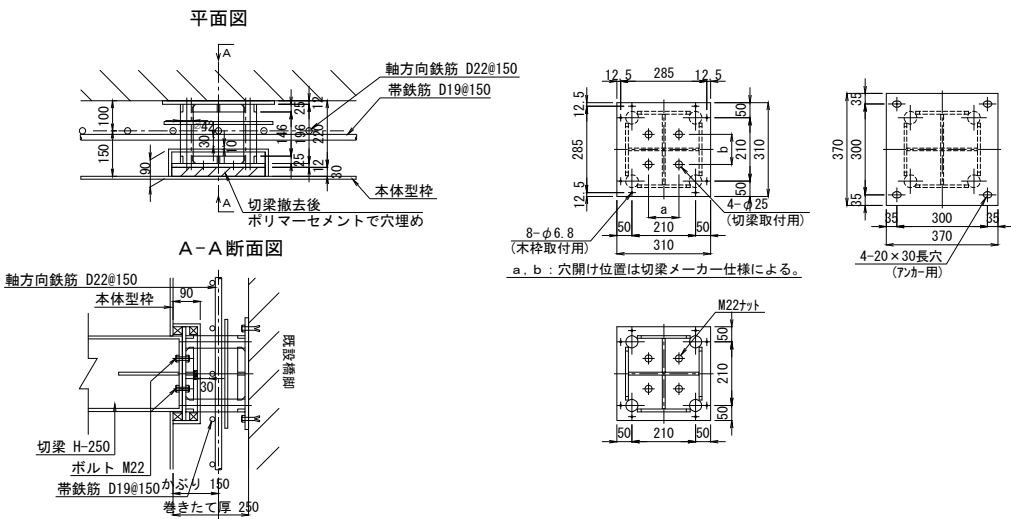
平面図 縮尺 1:100



断面図及び側面図 縮尺 1:100



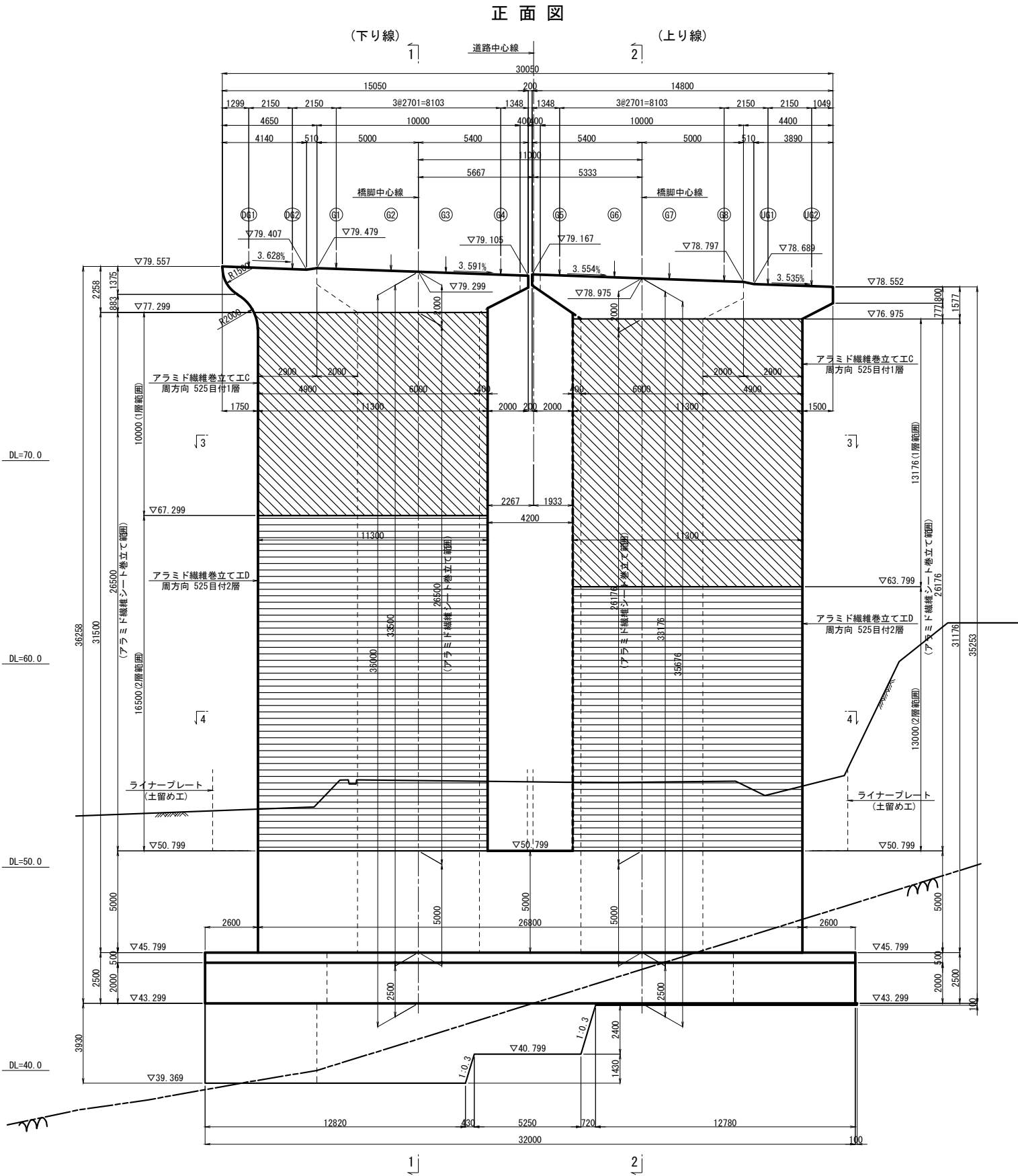
切梁受け金具 詳細図 縮尺 1:25



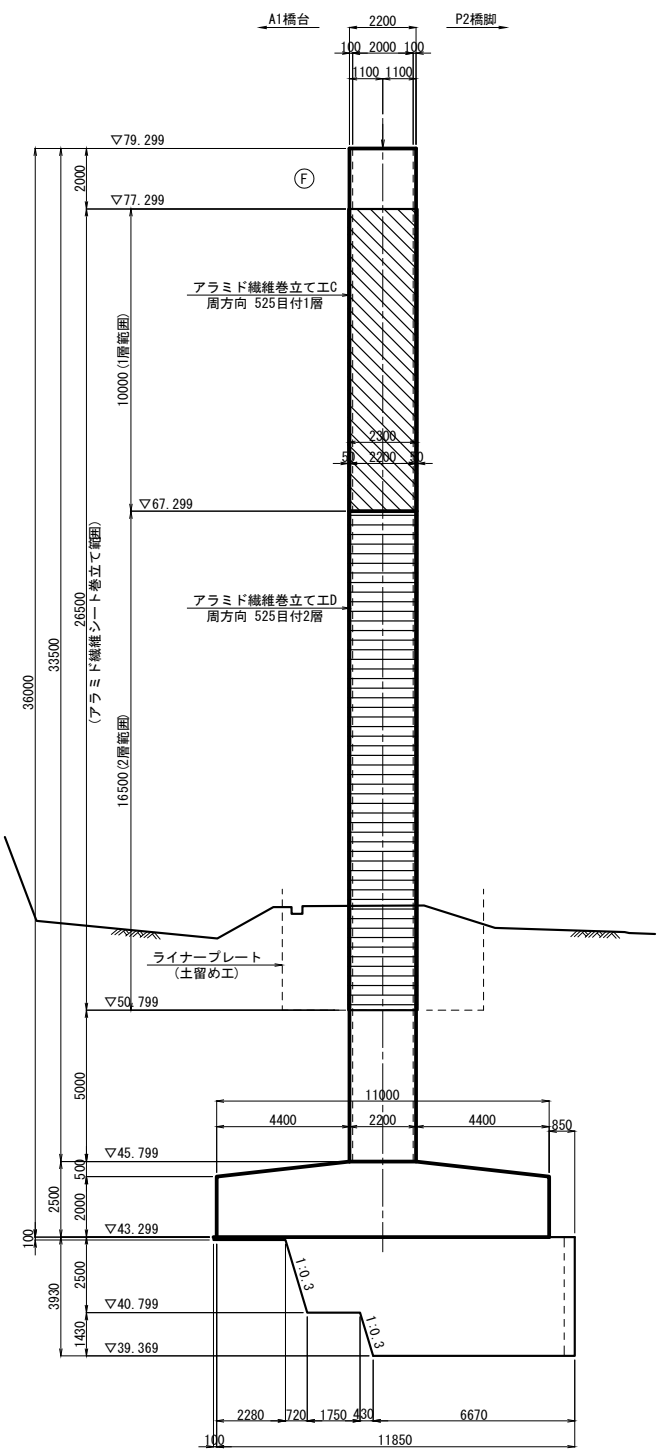
注記)
1. 切梁受け金具は適切な防錆を施すものとする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その8)		
縮 尺	図 示	図面番号	9 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

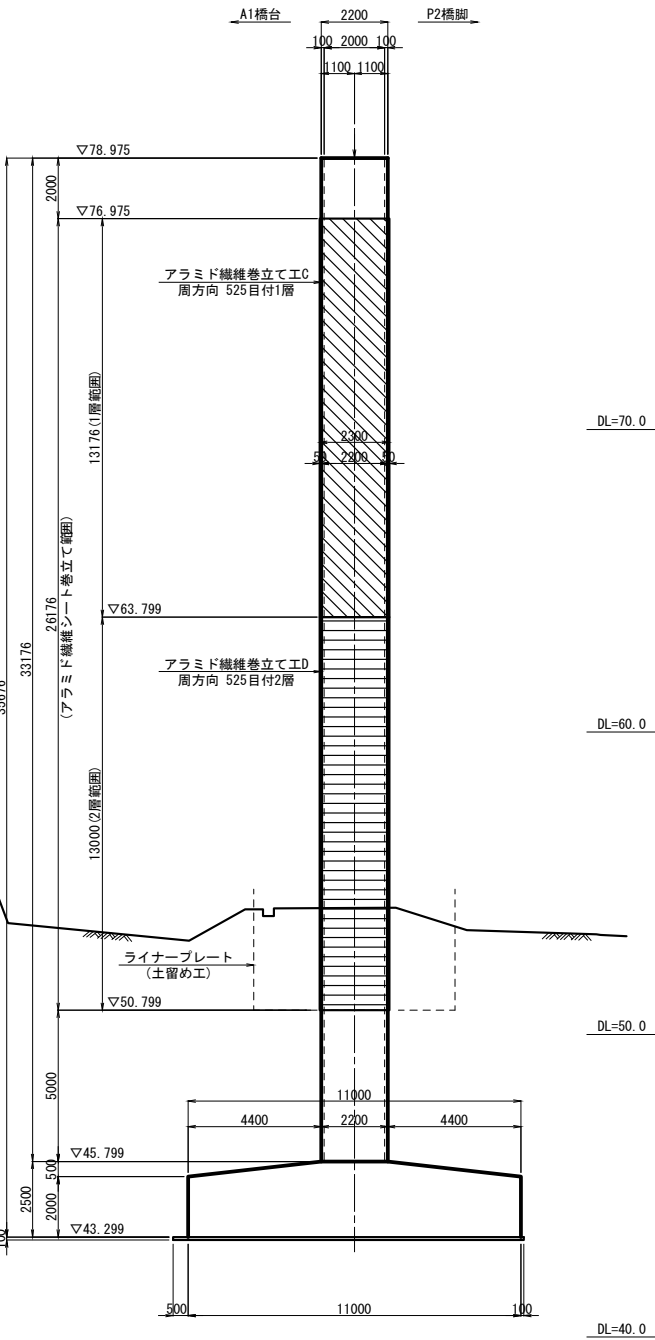
正面図



断面図 (1 - 1)



断面図 (2 - 2)



アラミド繊維シート性能表

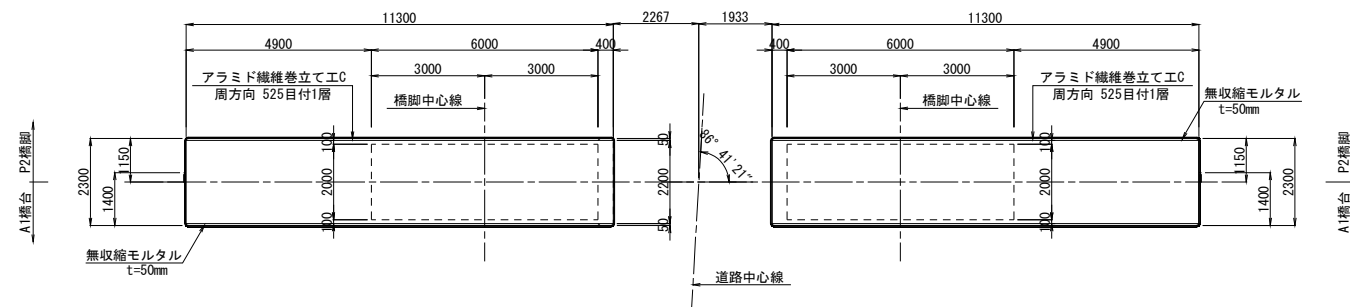
繊維目付 (g/m ²)	引張強度 (N/mm ²)	設計厚さ (mm/枚)
525	2.350	0.378

注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。

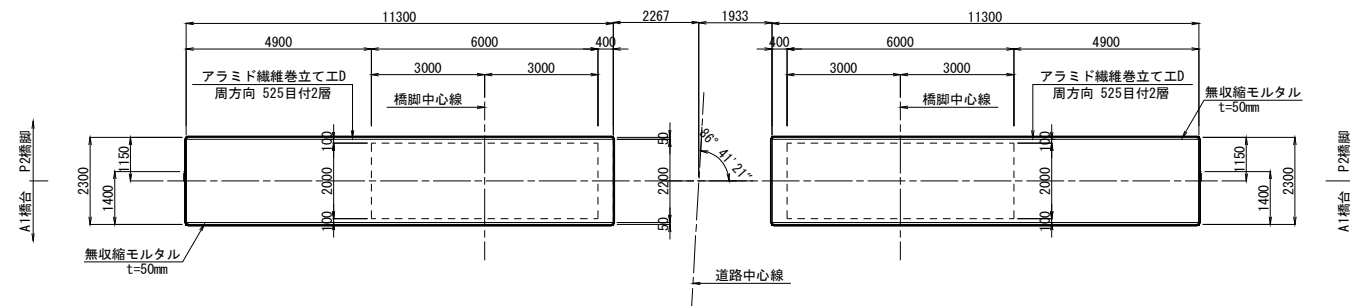
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 耐震補強詳細図 (その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	10 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

躯体部補強詳細図

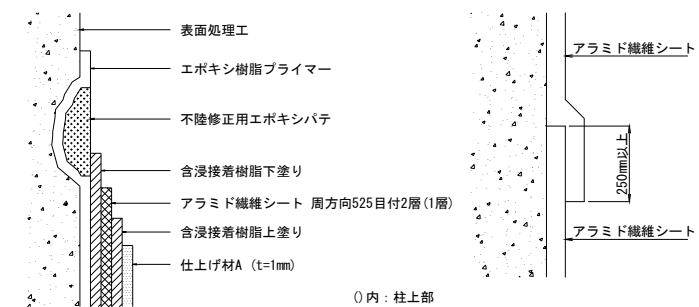
平面图 (3-3)



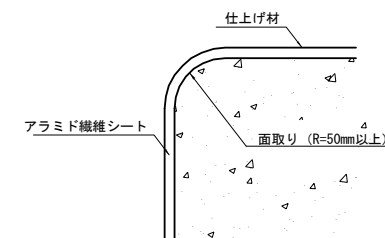
平面图 (4-4)



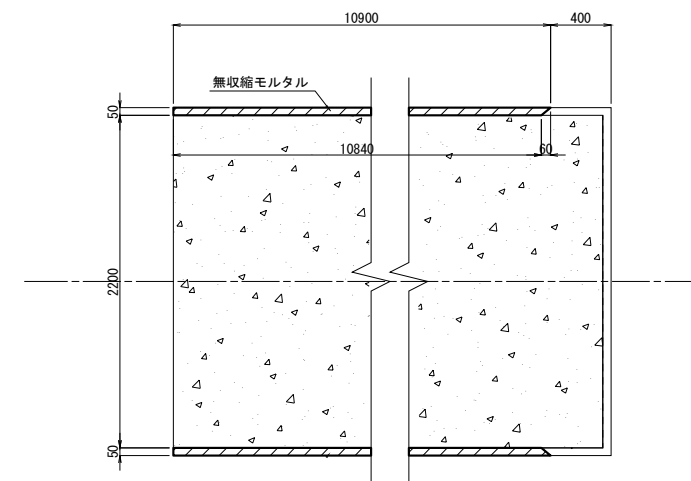
アラミド繊維シート施工断面図 重ね継手部詳細図



面取り部詳細図



無収縮モルタル詳細図



（注記）

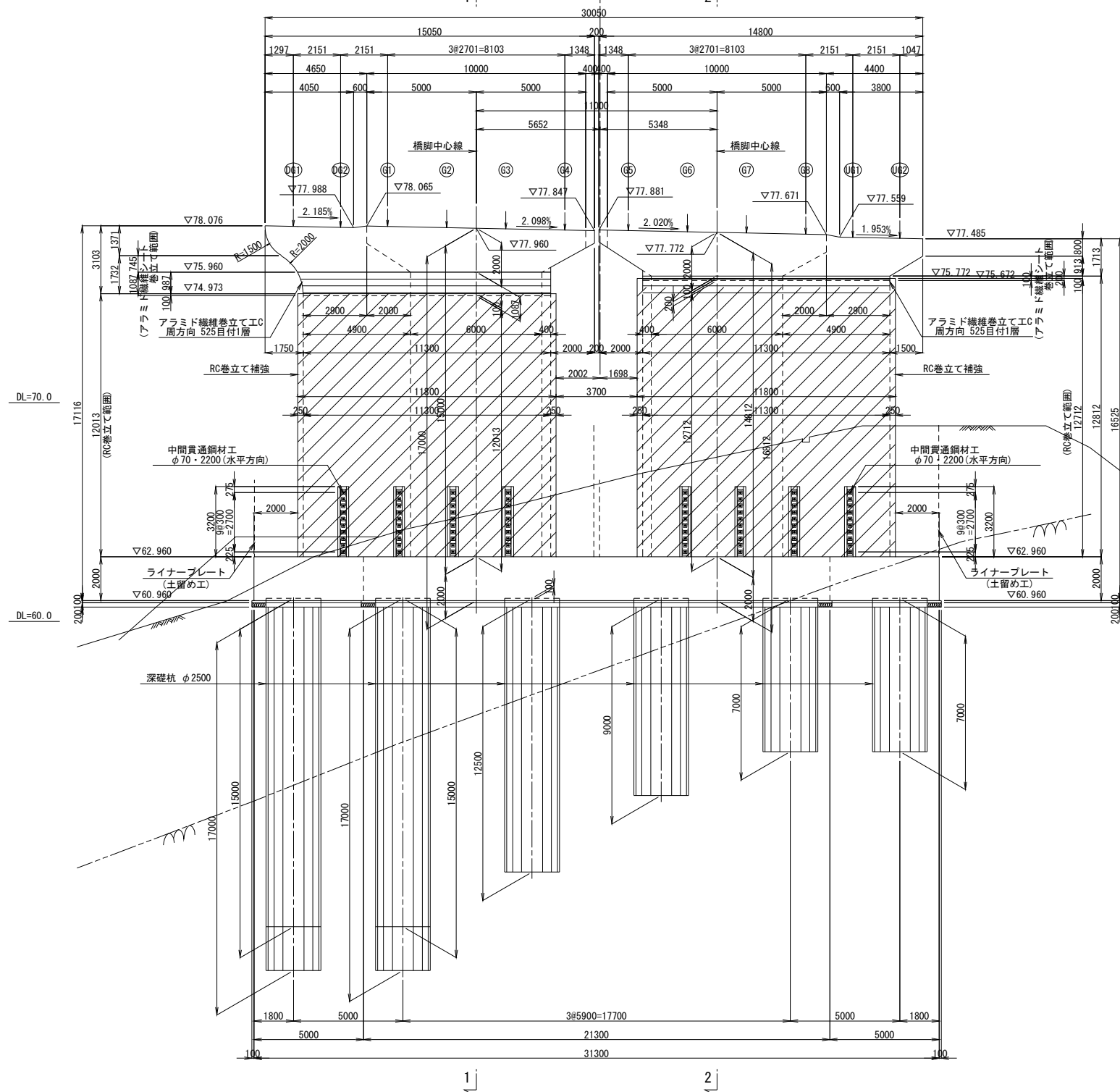
- 1 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- 2 柱断面の隅角部は、半径50mm以上の面取りを行うこと。
- 3 アラミド繊維シート巻立て前に無収縮モルタルにて増し厚を行い突起部を平らにすること。

横浜須賀買道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事		
図面の種類	釜利谷第二高架橋 耐震補強詳細図（その2）	
縮 尺	図 示	図面番号 11 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所	

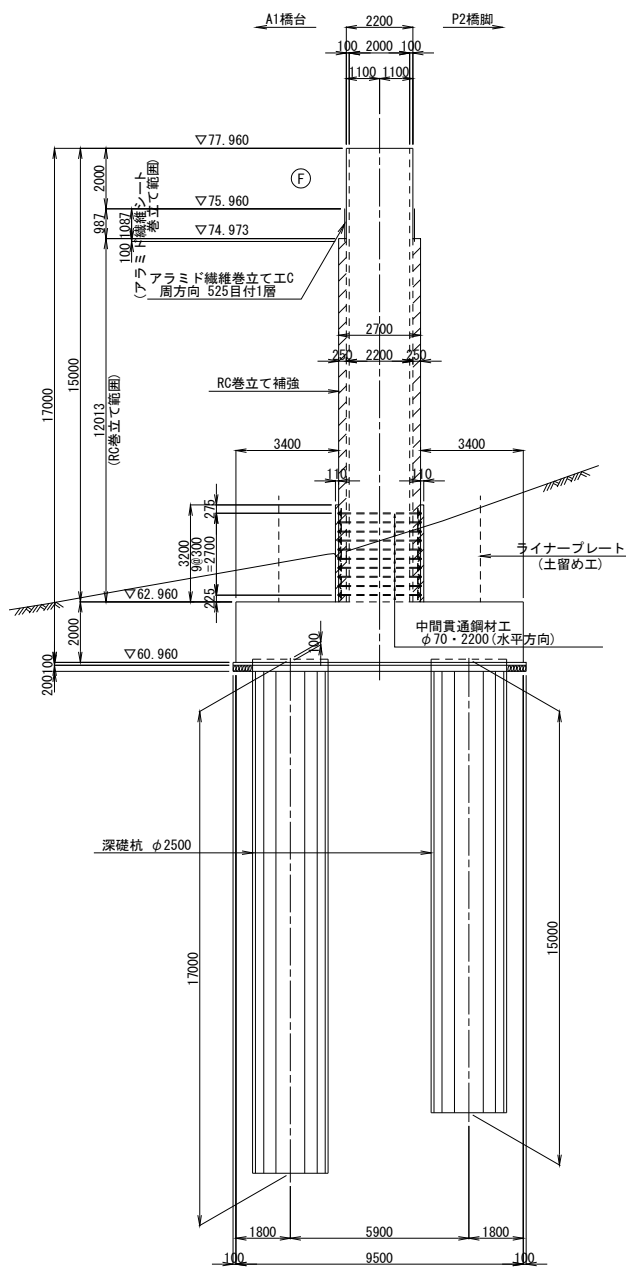
正面图

(下り線)

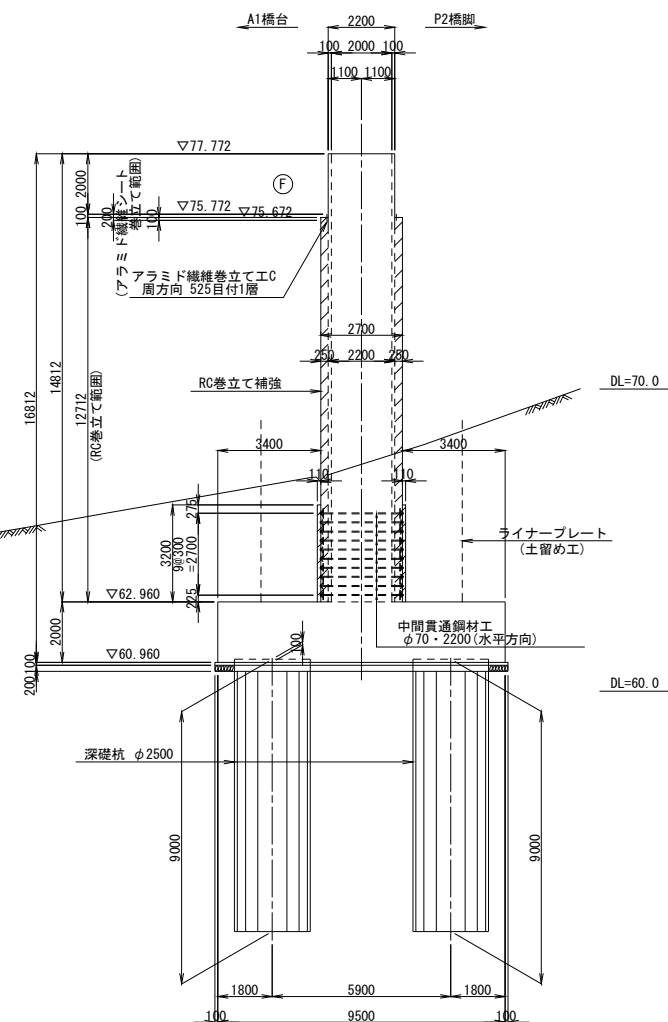
(上り線)



断面图 (1 - 1)



断面图 (2-2)





使用材料

既設構造 (橋脚躯体)	鉄 筋	SD295
	コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
補強構造	鉄 筋	SD345
	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$

アラミド繊維シート性能表

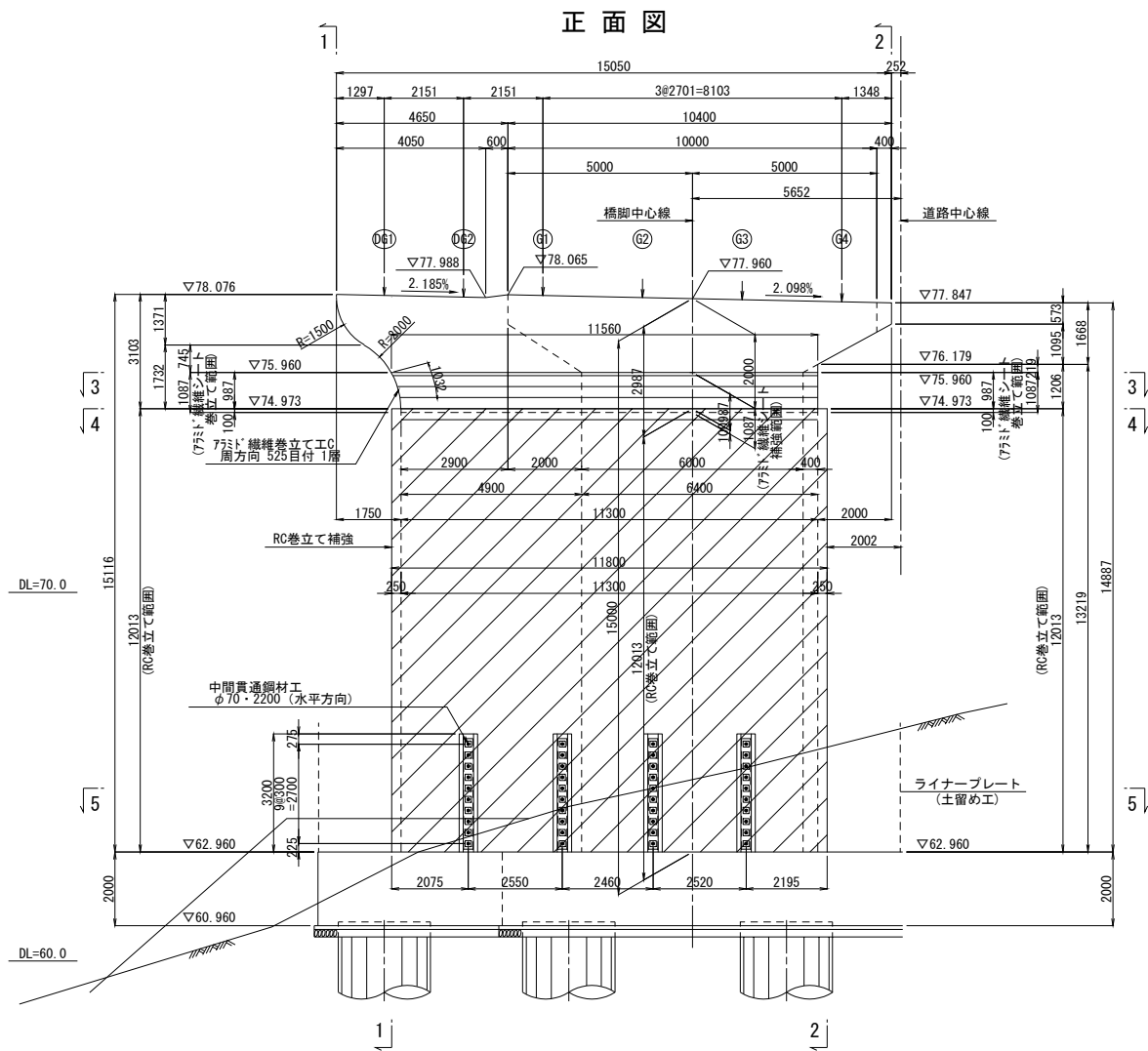
繊維目付 (g/m ²)	引張強度 (N/mm ²)	設計厚さ (mm/枚)
525	2,350	0.378

注記)

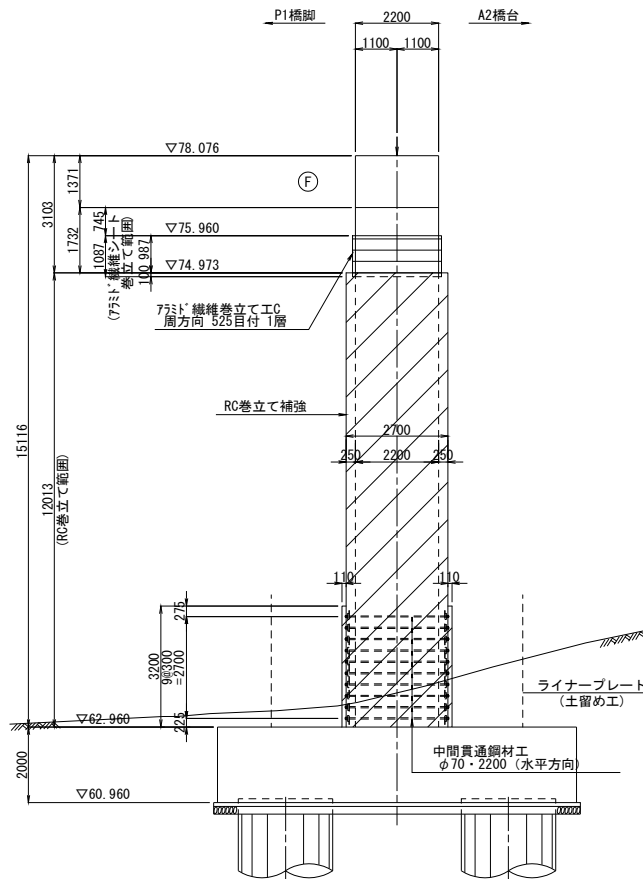
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリートと、新設コンクリートおよびアラミド繊維シート
の接合面は、全て表面処理を行うこと。
3. は、RC巻立て補強を示す。
4. は、アラミド繊維巻立て工を示す。

横浜横浜須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 耐震補強構造一般図 (その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	12 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

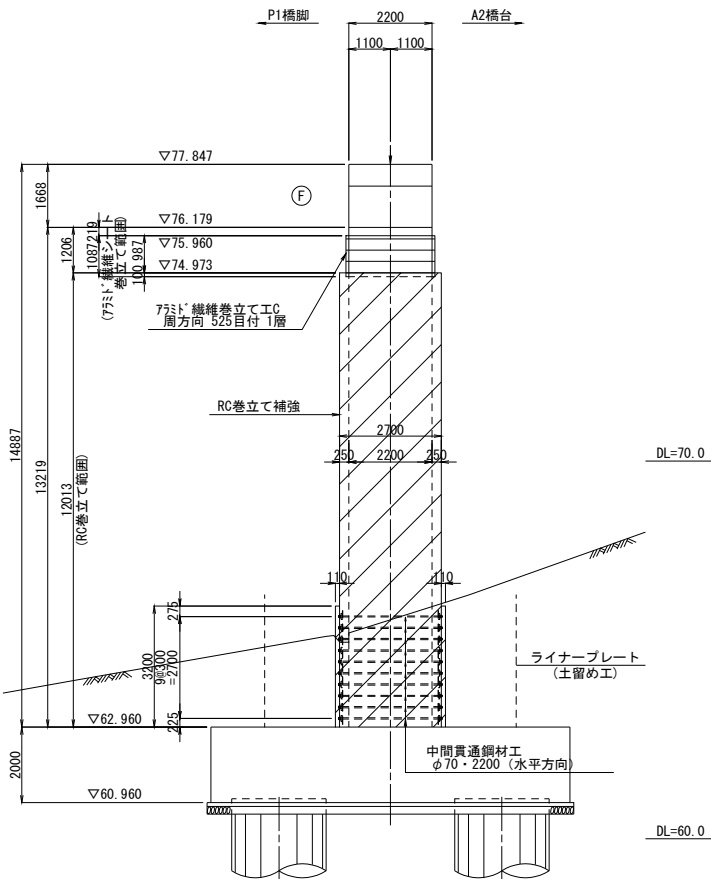
下り線 躯体部補強詳細図



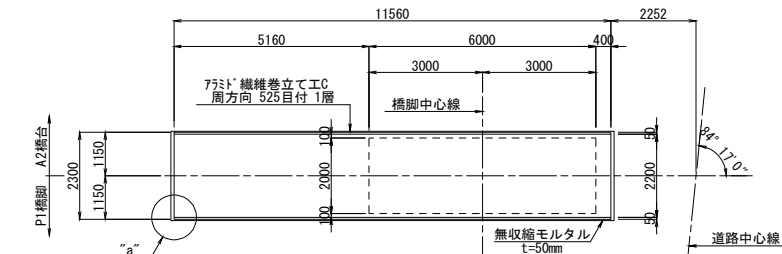
側面図 (1 - 1)



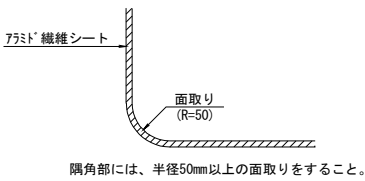
側面図 (2 - 2)



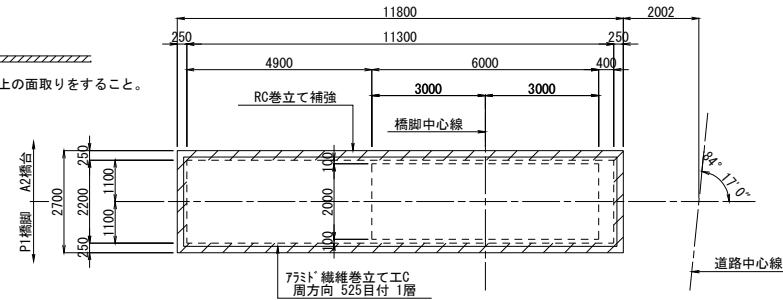
平面図 (3 - 3)



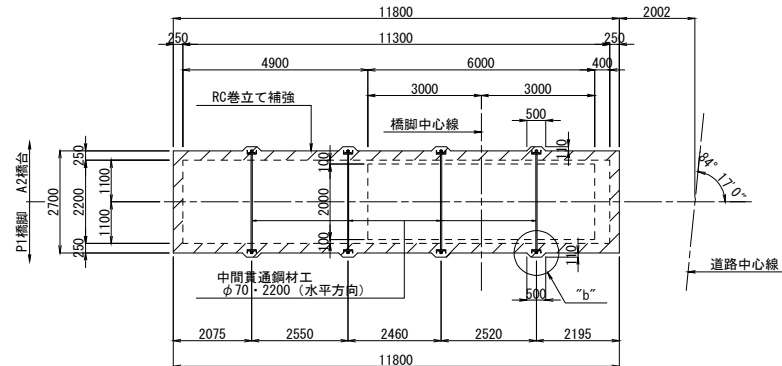
"a"部詳細図 S=1:10



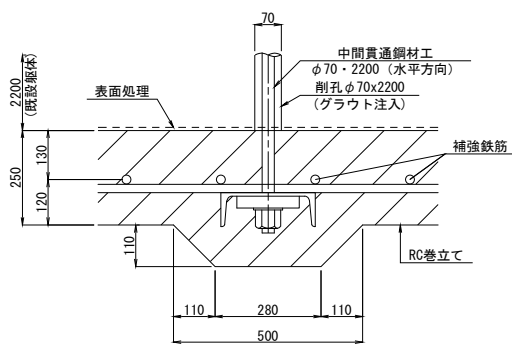
平面図 (4 - 4)



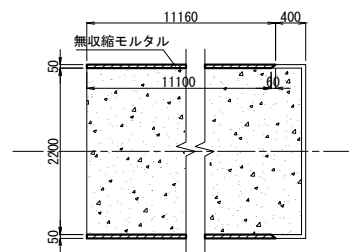
平面図 (5 - 5)



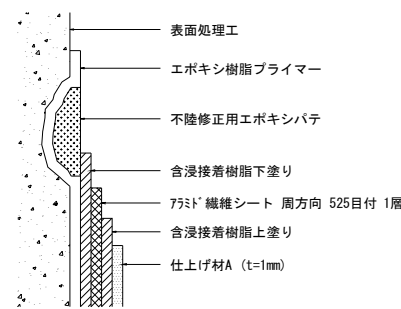
"b"部詳細図 S=1:20



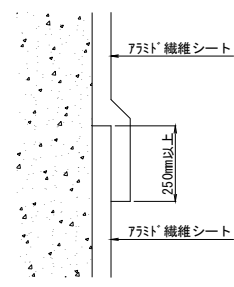
無収縮モルタル詳細図



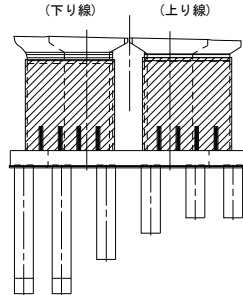
77ミッド繊維シート施工断面図



重ね継手部詳細図



位置図

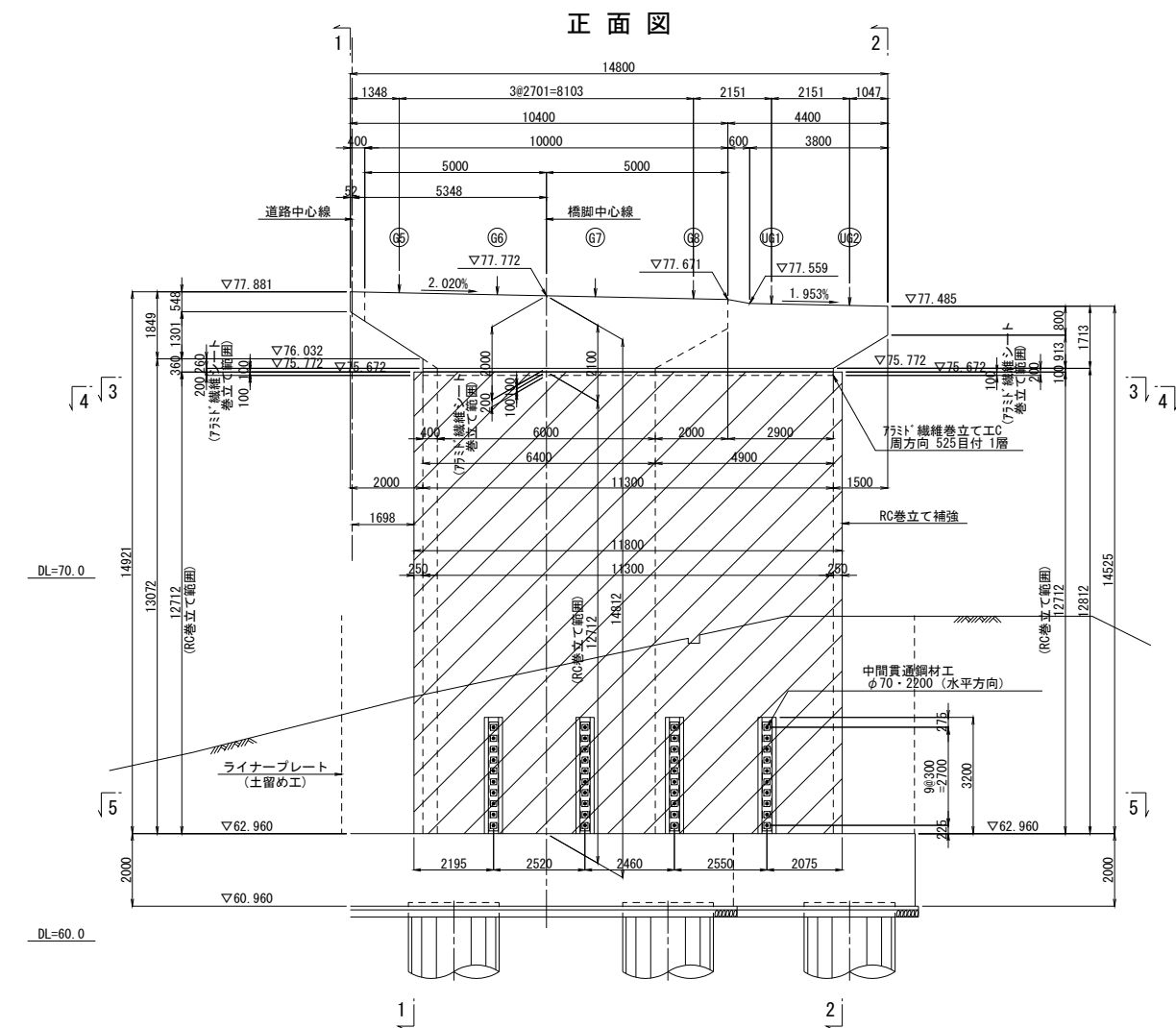


- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと、新設コンクリートおよびアラミド繊維シートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
 3. [Z]は、RC巻立て補強を示す。
 4. [F]は、アラミド繊維巻立て工を示す。
 5. 含浸接着樹脂はアラミド繊維シートの規格に合わせ、適切な量で施工すること。
 6. アラミド繊維シート巻立て部に著しい断面欠損や豆板等の不良部が確認された場合は、監督員と協議すること。
 7. アラミド繊維シート巻立て前に無収縮モルタルにて増し厚を行い突起部を平らにすること。

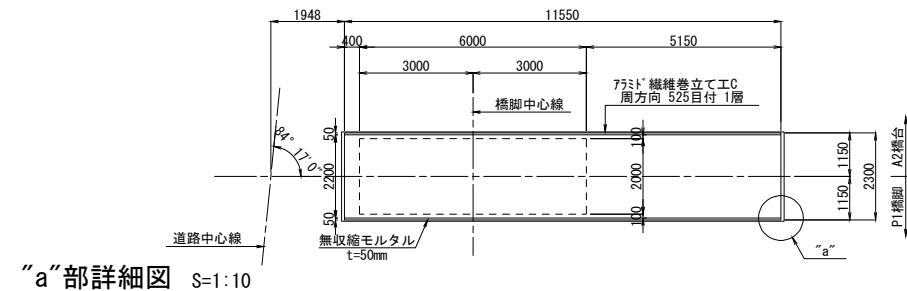
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚 耐震補強構造一般図(その2)	図面番号	13 / 112
縮 尺	図 示	図面番号	13 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

S=1:200

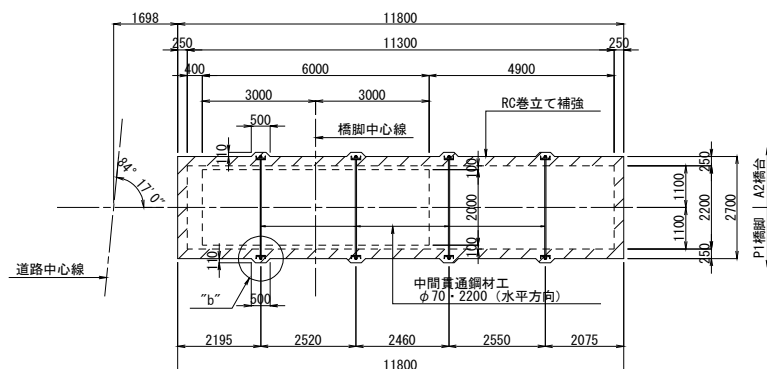
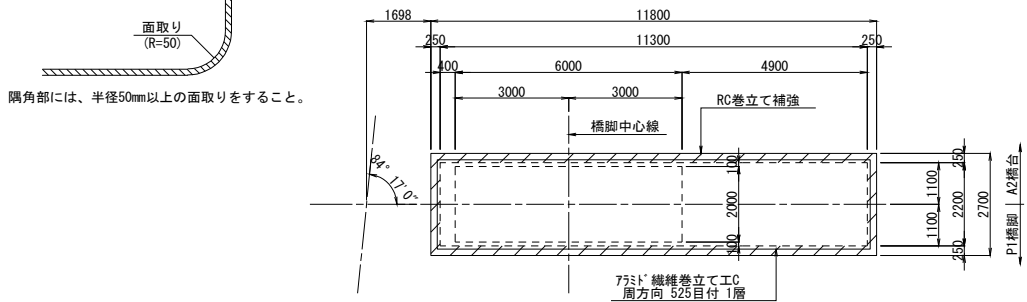
上り線 躯体部補強詳細図



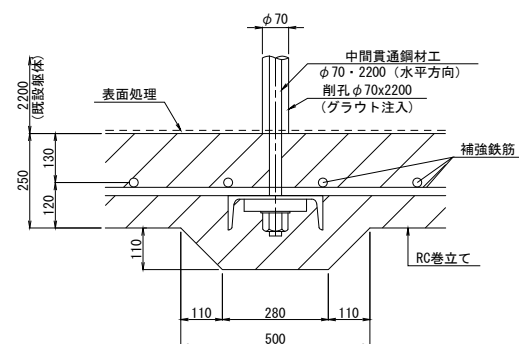
平面图 (3-3)



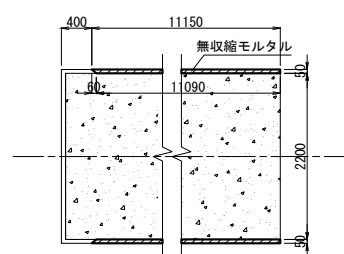
平面图 (4-4)



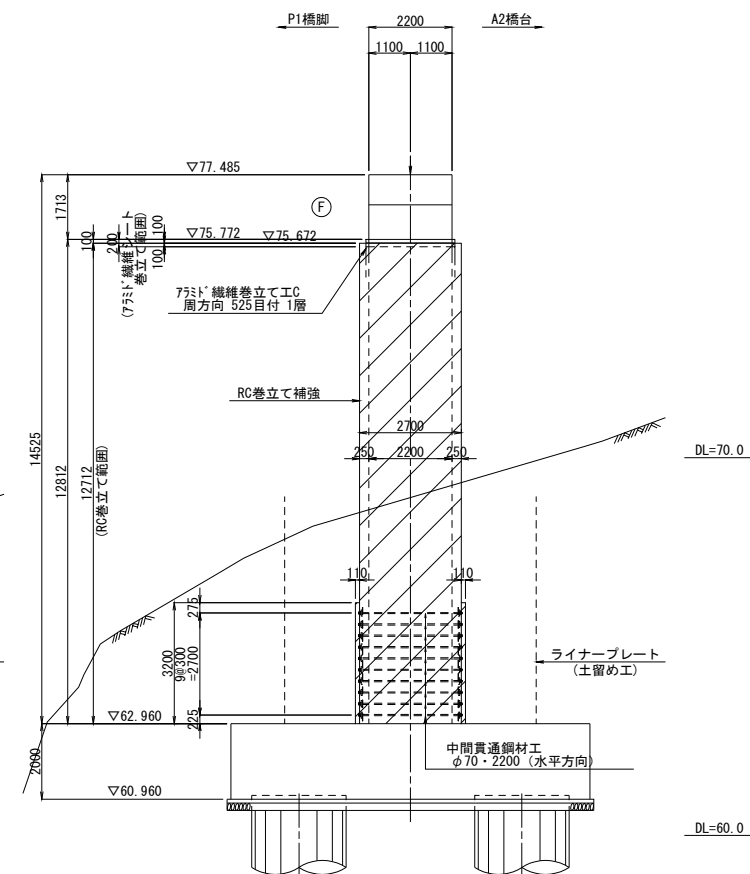
“b”部詳細図 S=1:20



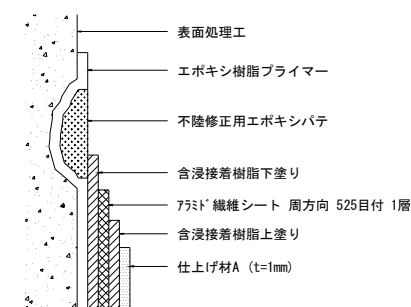
無収縮モルタル詳細図



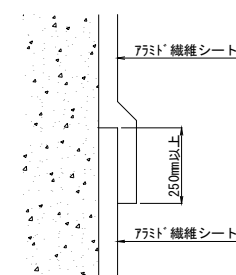
側面図 (2 - 2)



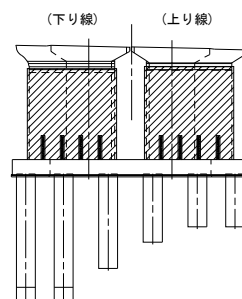
アラミド繊維シート施工断面図





重ね継手部詳細図

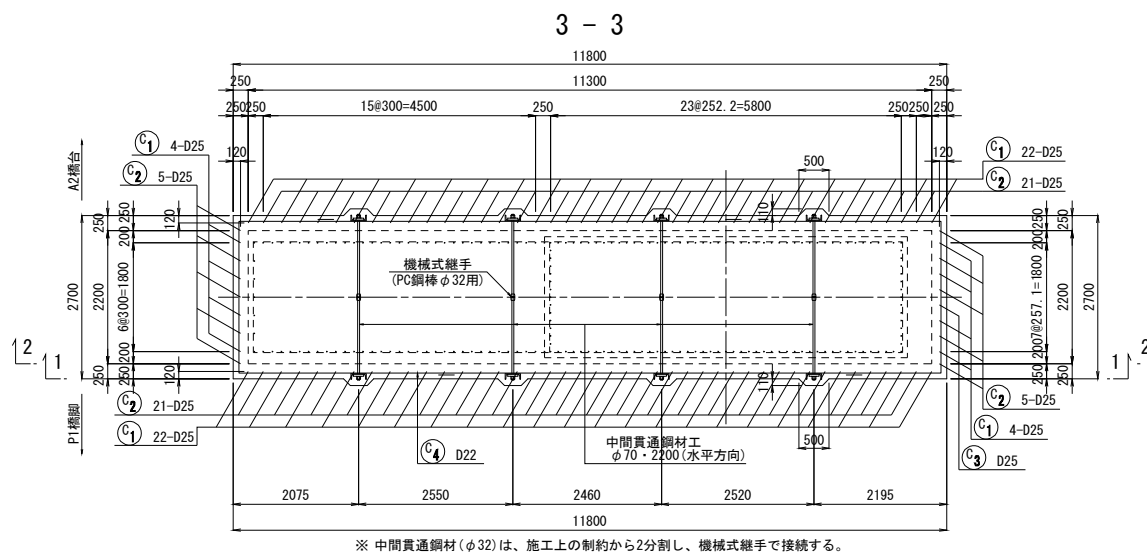
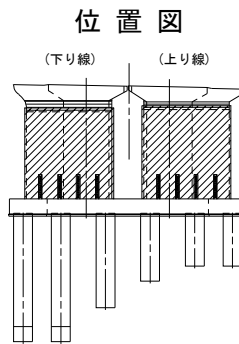
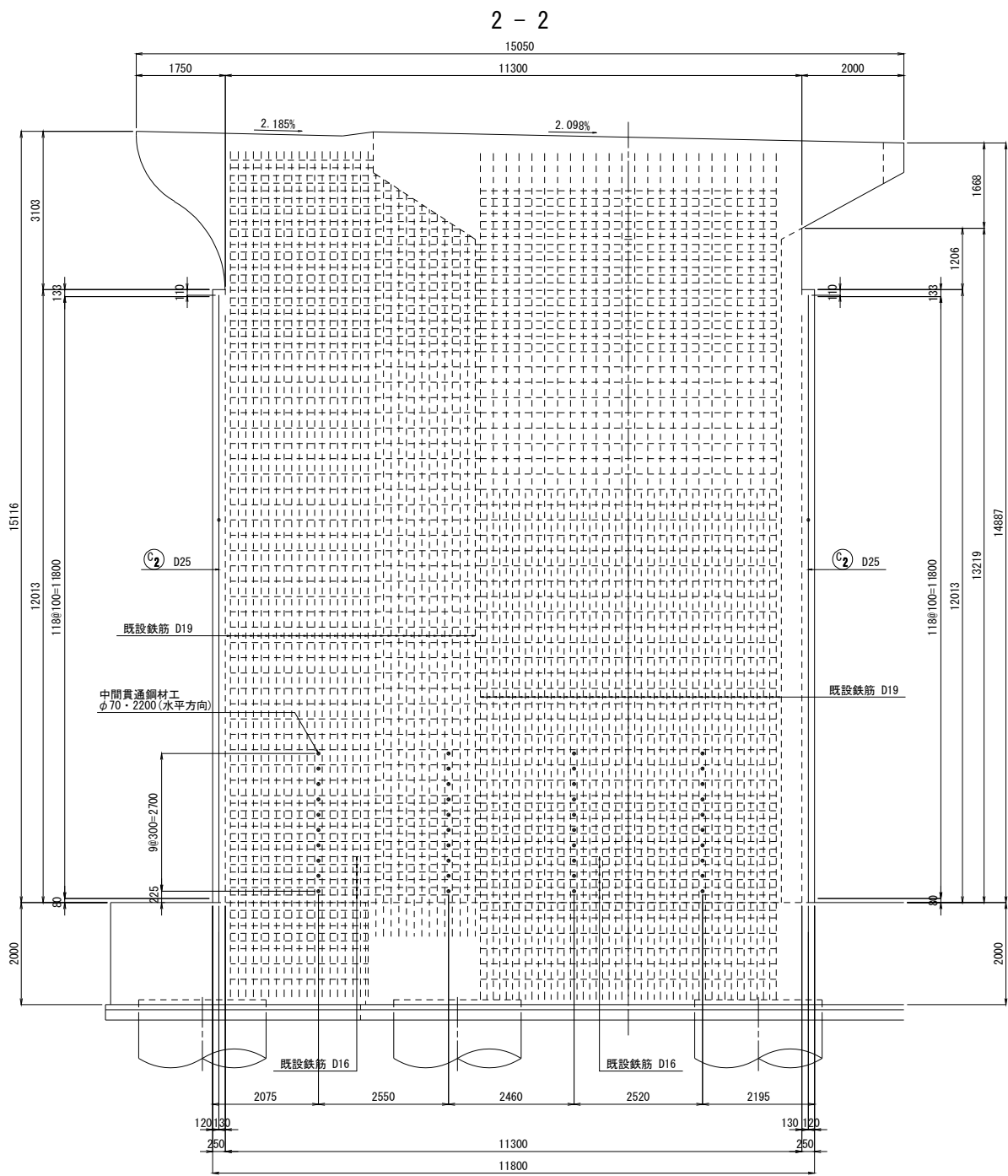
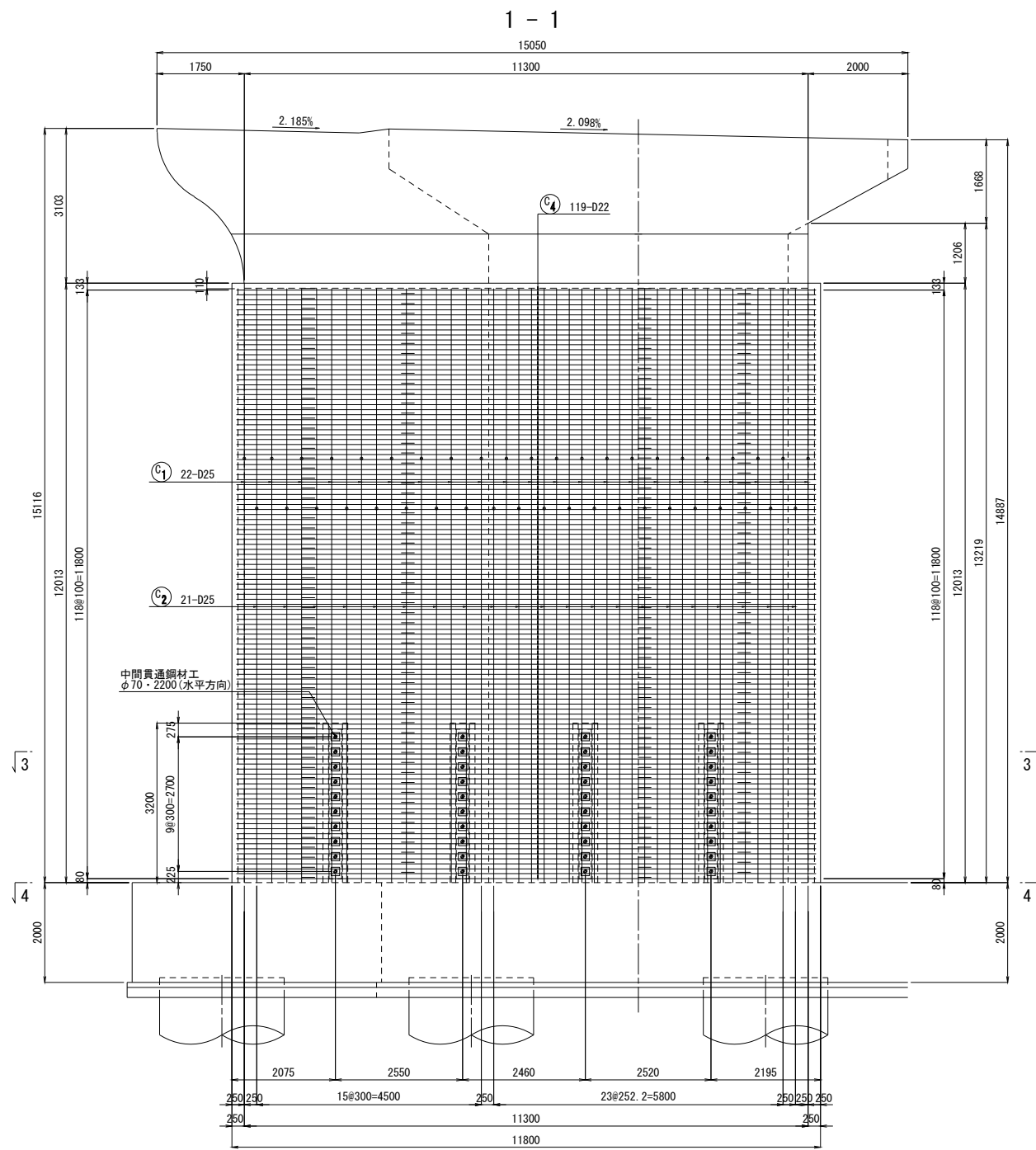


位置図



- (注記)
- 1 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
- 2 既設コンクリートと、新設コンクリートおよびアラミド繊維シートの
接合面は、全て表面処理を行うこと。
- 3 は、RC巻立て補強を示す。
- 4 は、アラミド繊維巻立て工を示す。
- 5 含浸接着樹脂面はアラミド繊維シートへの規格に合わせ、
適切な量で施工すること。
- 6 アラミド繊維シート巻立て部に著しい断面欠損や塩板等の不良部が
確認された場合は、監督員と協議すること。
- 7 アラミド繊維シート巻立て前に無収縮モルタルにて増し厚を行い
突起部を平らにすること。

横浜横須賀道路 金谷谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金谷谷第二高架橋 P2橋脚 耐震補強構造一般図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	14 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

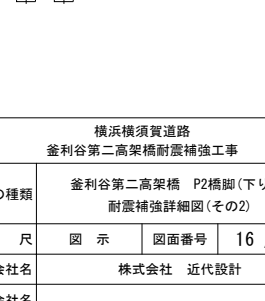
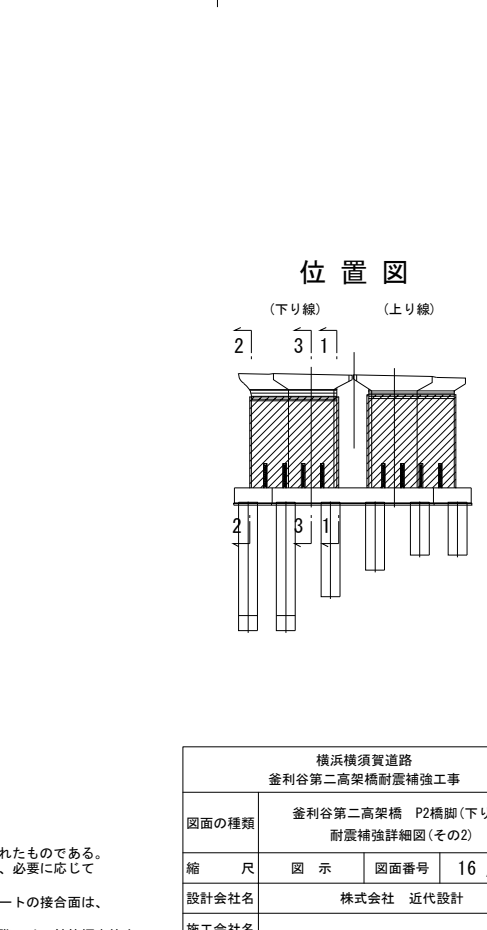
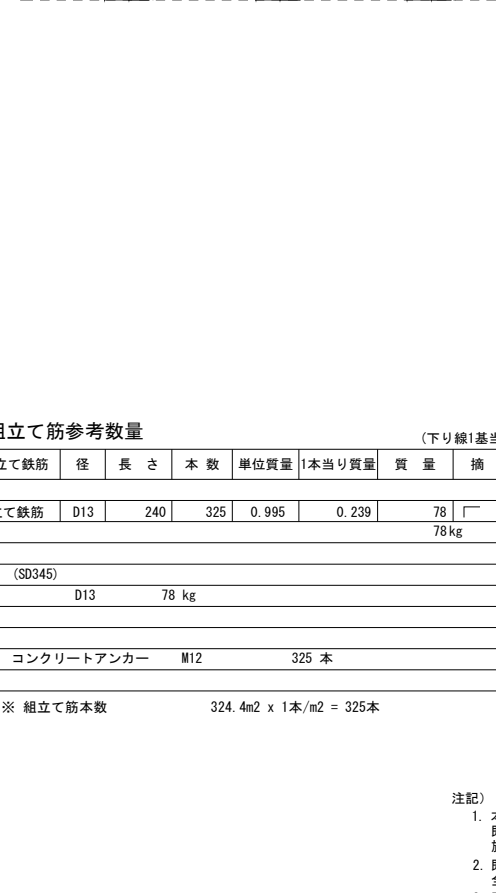
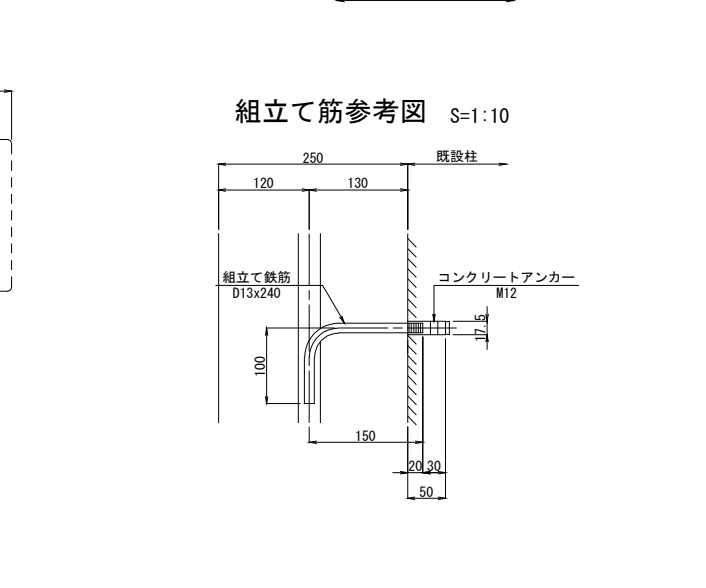
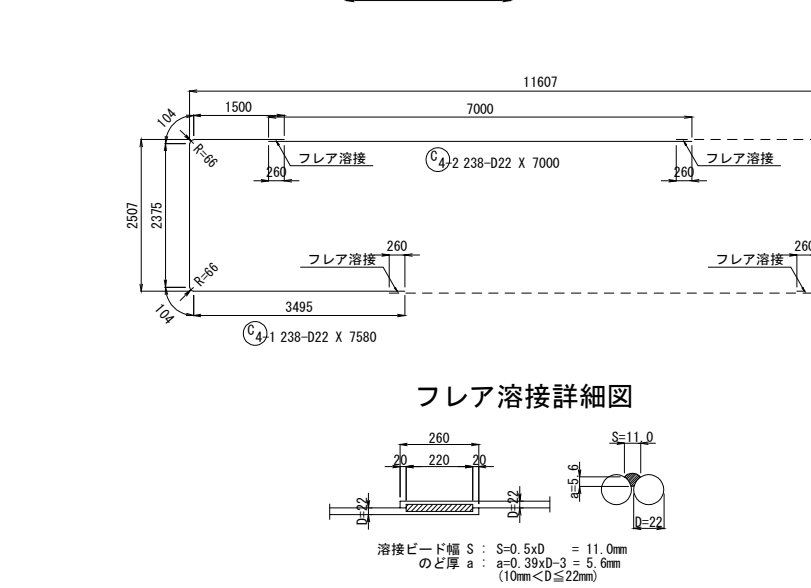


※ 中間貫通鋼材(φ32)は、施工上の制約から2分割し、機械式継手で接続する。

- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
 3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探索等を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないように注意すること。

既設構造 (橋脚躯体)	鉄 筋	S D295
	コンクリート	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$
補強構造	鉄 筋	S D345
	コンクリート	$\sigma_{ck}=30N/mm^2$

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	15 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



注記)

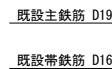
1. 本図
既設
施工
2. 既設
全て

(注記)

1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
3. 既設コンクリートに対する削削の際には、鉄筋探索等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

横浜横須賀道路 金利谷第2高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金利谷第2高架橋 P2橋脚(下り線) 耐震補強詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	16 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

PC鋼材定着部・かぶり詳細図



PC鋼棒詳細図



注) ()内は、ガス圧接箇所数、[]内は、フレア溶接箇所数を示す。

機械式継手(PC鋼棒φ32用) 40 個

[-250x90x9x13	3000	8	34.6
---------------	------	---	------

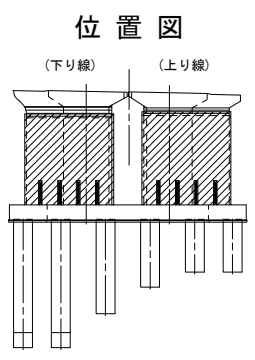
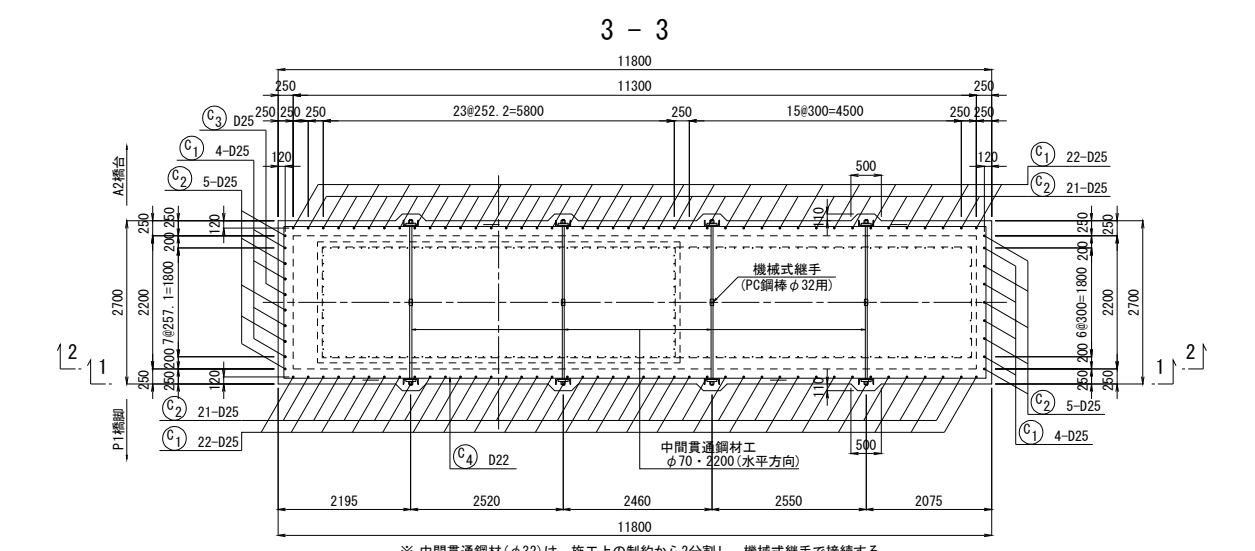
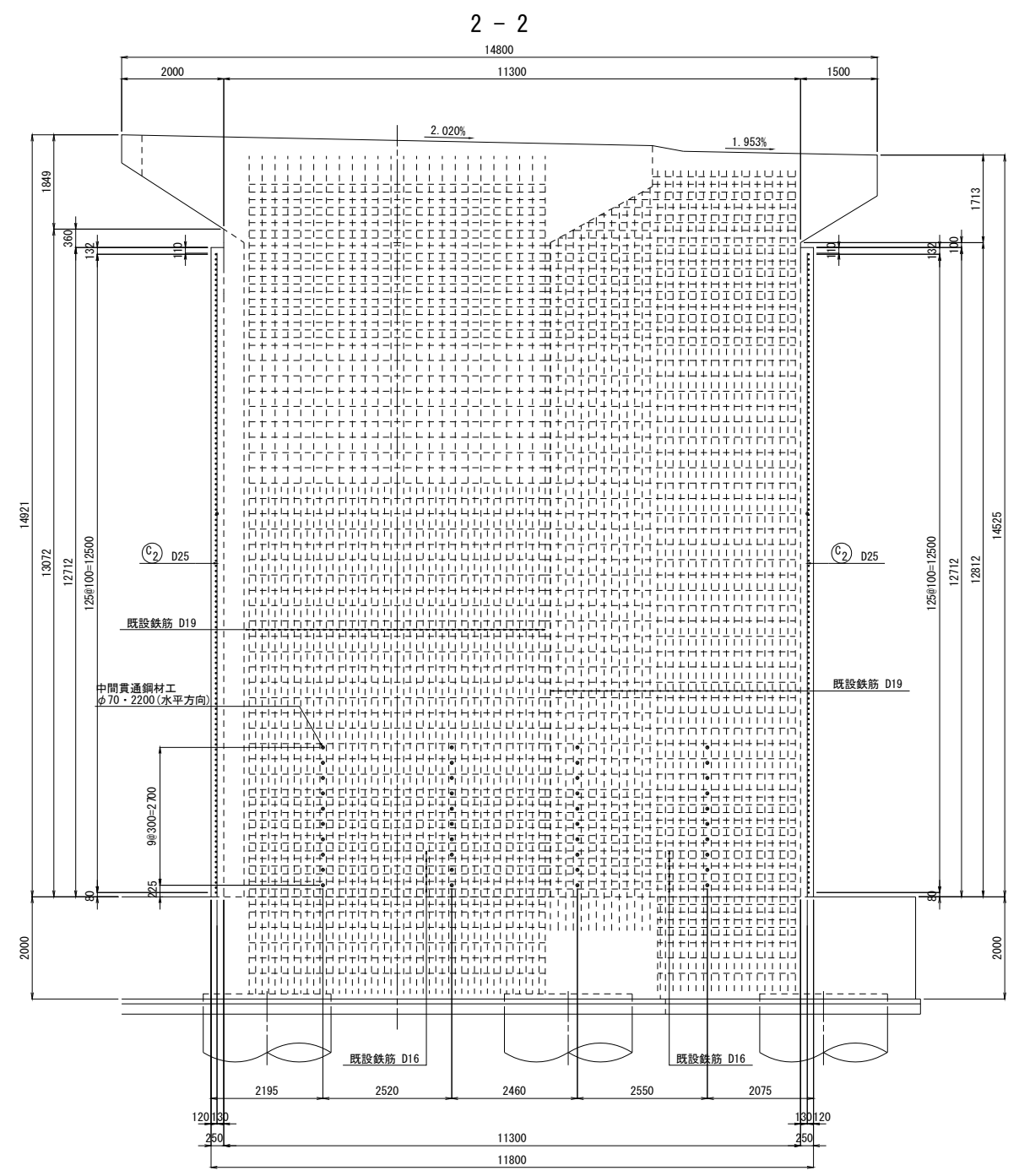
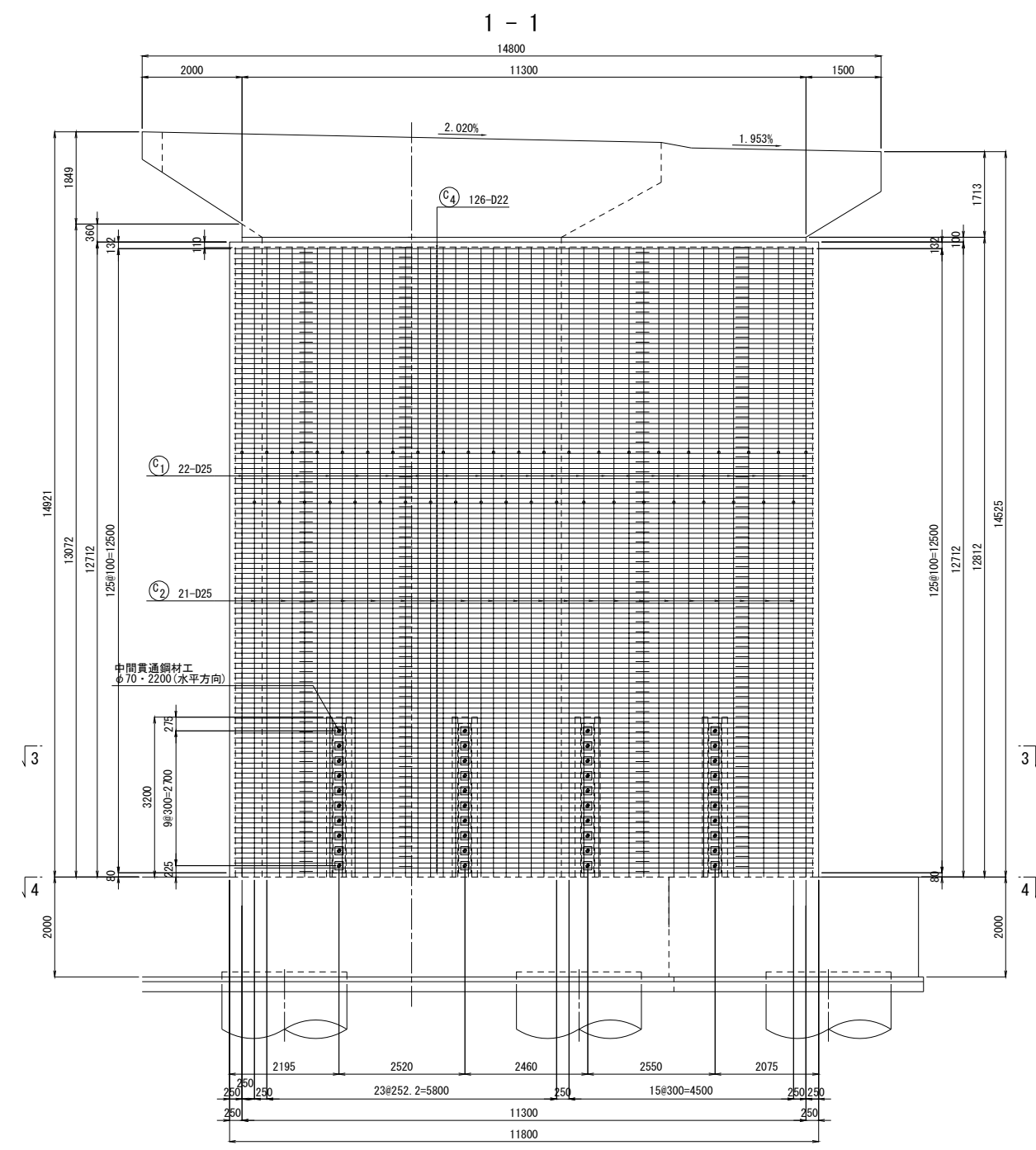
躯 体	φ32	φ70 x 2200mm	水 平	40
-----	-----	--------------	-----	----

$\theta > 90^\circ$
 $R = 5\phi + 1/2\phi$
 $\theta \leq 90^\circ$
 $R = 2.5\phi + 1/2\phi$

(注記)

1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
3. 既設コンクリートに対する削削の際には、鉄筋探査等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所
------	-----------------------------

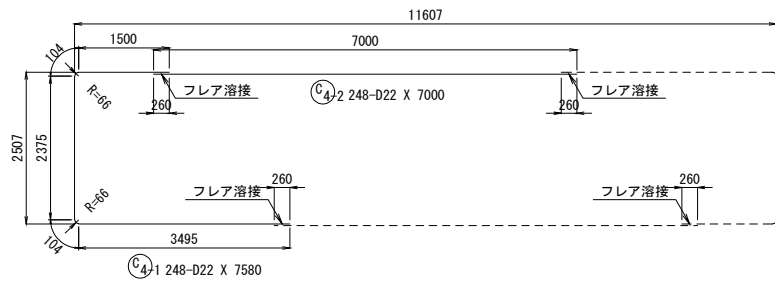
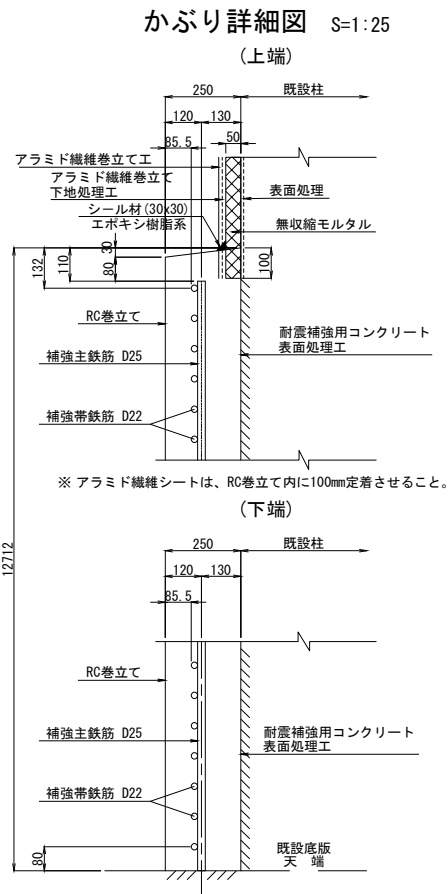
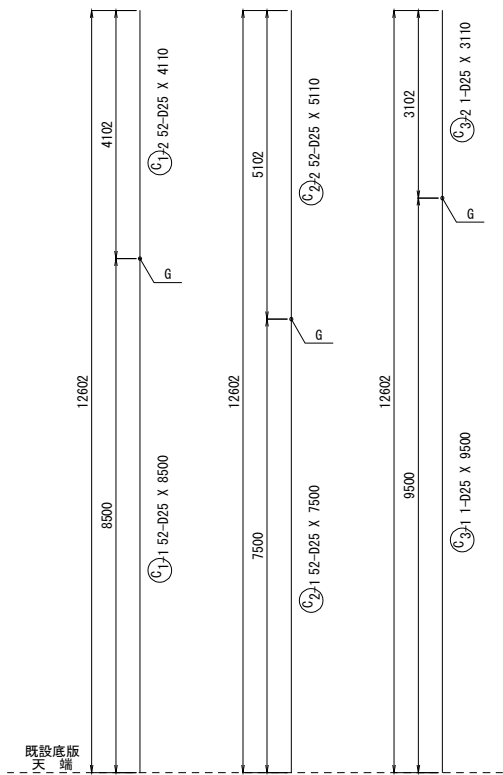
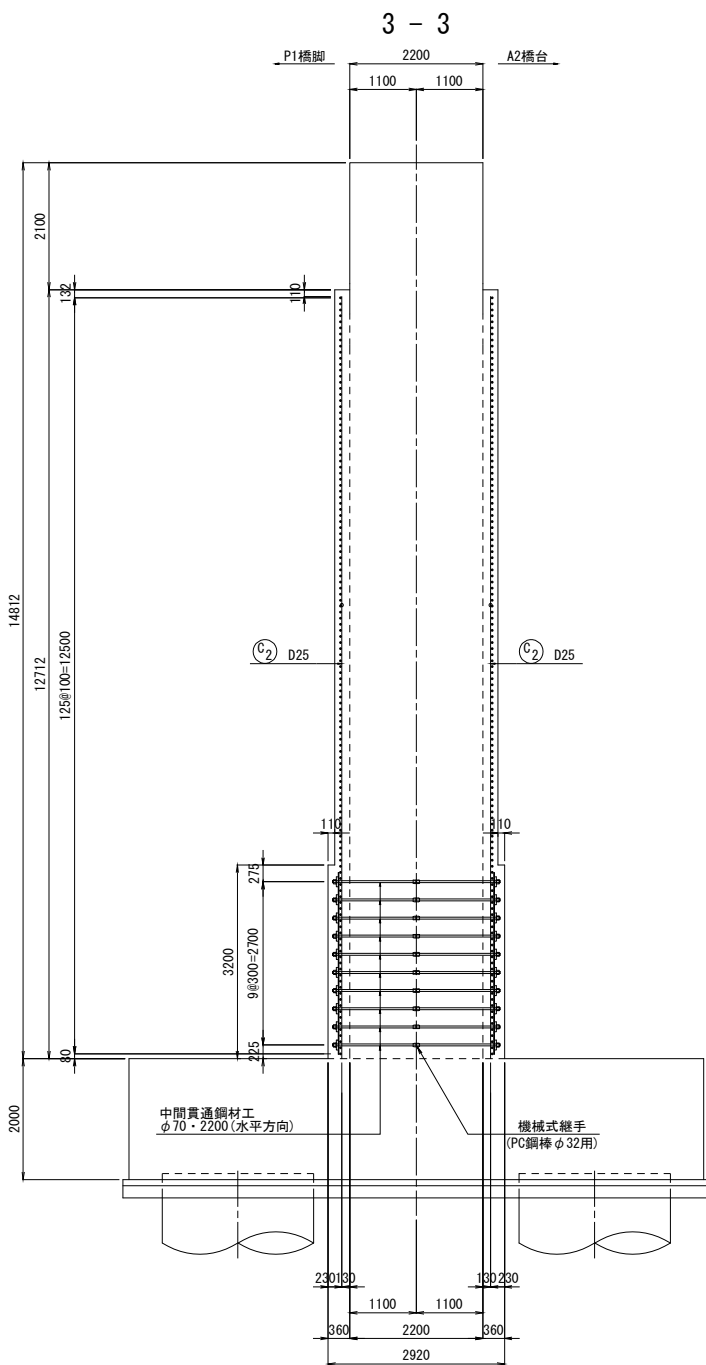
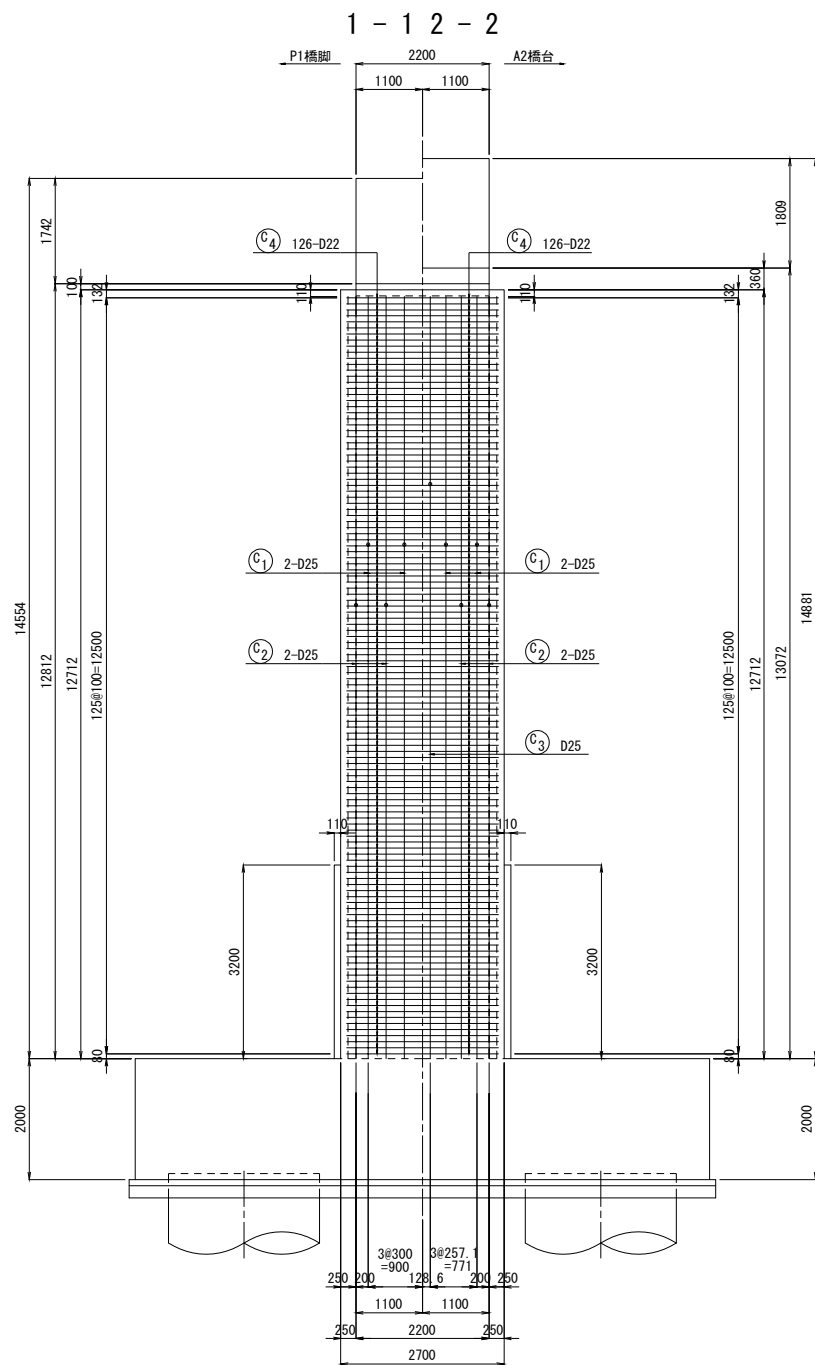


- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
 3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探索等を
実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

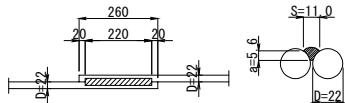
既設構造 (橋脚躯体)	鉄 筋	S0295
	コンクリート	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$
補強構造	鉄 筋	S0345
	コンクリート	$\sigma_{ck}=30N/mm^2$

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	18 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

※ 中間貫通鋼材(φ32)は、施工上の制約から2分割し、機械式継手で接続する。

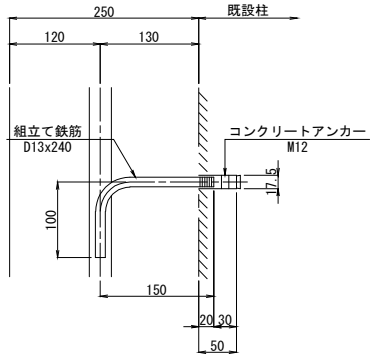


フレア溶接詳細図



溶接ビード幅 S : $S=0.5xD = 11.0\text{mm}$
のど厚 a : $a=0.39xD-3 = 5.6\text{mm}$
($10\text{mm} < D \leq 22\text{mm}$)

組立て筋参考図 S=1:10

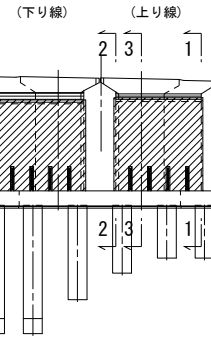


組立て筋参考数量

(上り線1基当り)						
組立て鉄筋	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量
組立て鉄筋	D13	240	344	0.995	0.239	82
						82 kg
(SD345)						
	D13		82	kg		
コンクリートアンカー	M12		344	本		

※ 組立て筋本数 343.2m2 x 1本/m2 = 344本

位置図

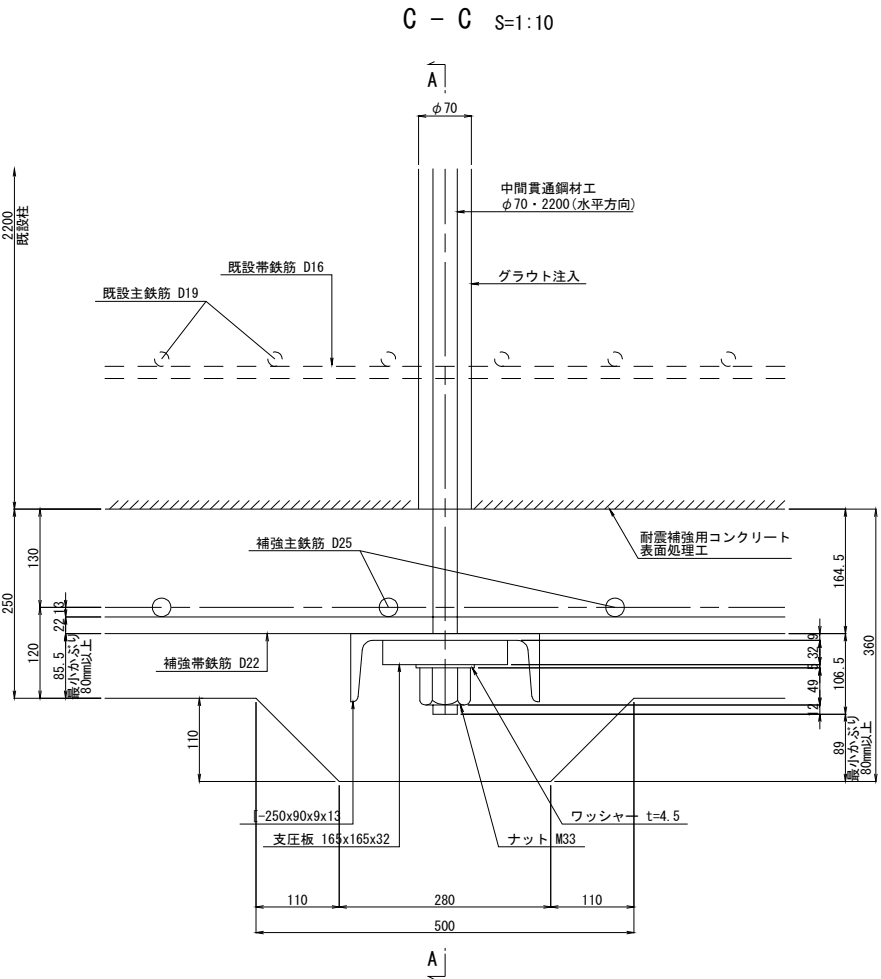
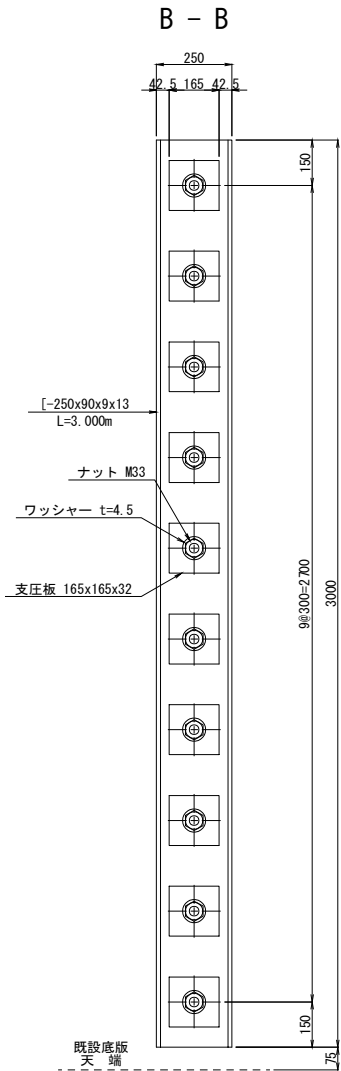
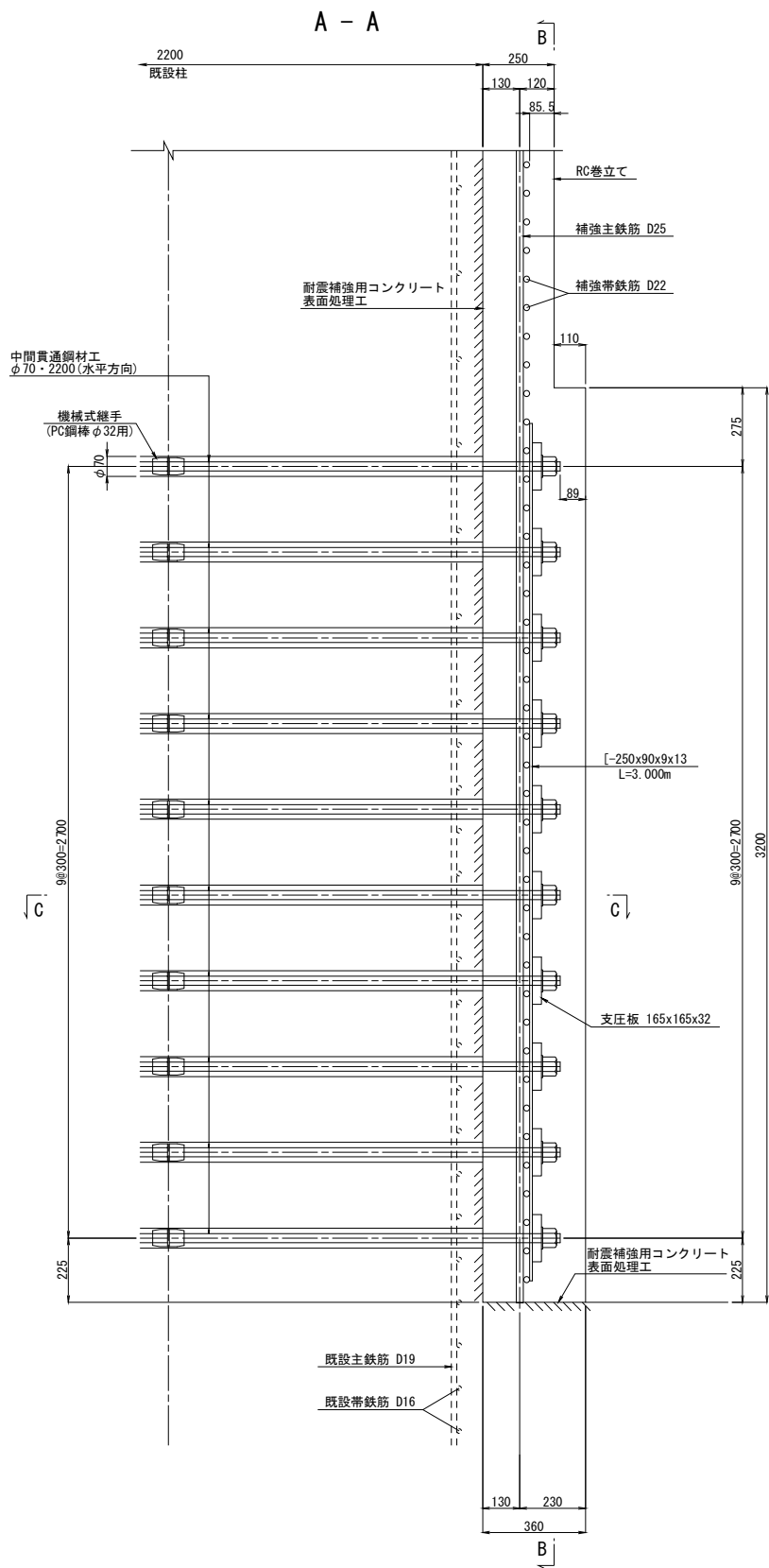


注記)

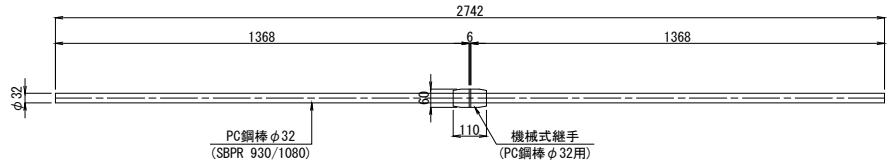
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探査等を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 耐震補強詳細図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	19 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

PC鋼材定着部・かぶり詳細図



PC鋼棒詳細図



※ 中間貫通鋼材(φ32)は、施工上の制約から2分割し、機械式継手で接続する。

鉄筋質量表

(上り線1基当り)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
H<25m							
C ₁₋₁	D25	8500	52	3.98	33.8	1758	[52]
C ₁₋₂	"	4110	52	"	16.4	853	[52]
C ₂₋₁	"	7500	52	"	29.9	1555	[52]
C ₂₋₂	"	5110	52	"	20.3	1056	[52]
C ₃₋₁	"	9500	1	"	37.8	38	[1]
C ₃₋₂	"	3110	1	"	12.4	12	[1]
C ₄₋₁	D22	7580	248	3.04	23.0	5704	[248]
C ₄₋₂	"	7000	248	"	21.3	5282	[248]
16258 kg							
(SD345) T (ガス圧接箇所数) [フレア溶接箇所数]							
D25				5272 kg	(105)		
D22				10986 kg		[496]	
総質量				16258 kg	(105)	[496]	

注) ()内は、ガス圧接箇所数、[]内は、フレア溶接箇所数を示す。

PC鋼材質量

(上り線1基当り)

径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
PC鋼棒 φ32	1368	80	6.31	8.63	690	SBPR930/1080
機械式継手 (PC鋼棒 φ32用)					40 個	

型钢質量

(上り線1基当り)

径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
[-250x90x9x13	3000	8	34.6	104	832	SS400

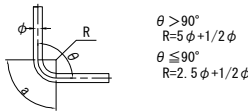
削孔集計表

(上り線1基当り)

径	削孔径 (mm)	x L (mm)	方向	箇所数
躯体	φ32	φ70 x 2200mm	水平	40

鉄筋加工寸法表
曲げ加工時の減長

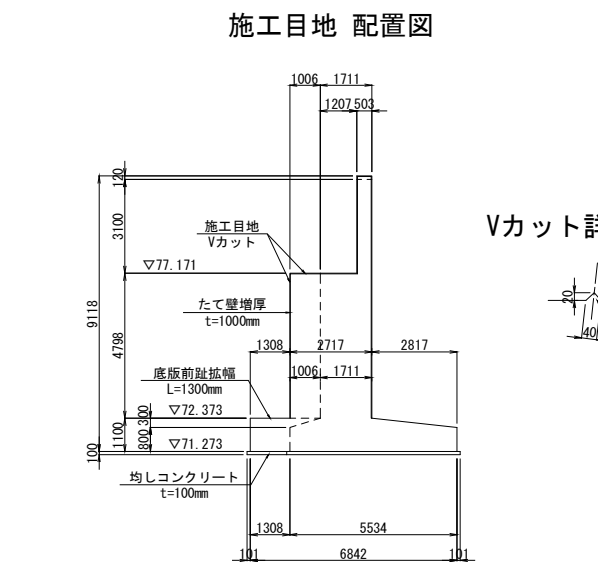
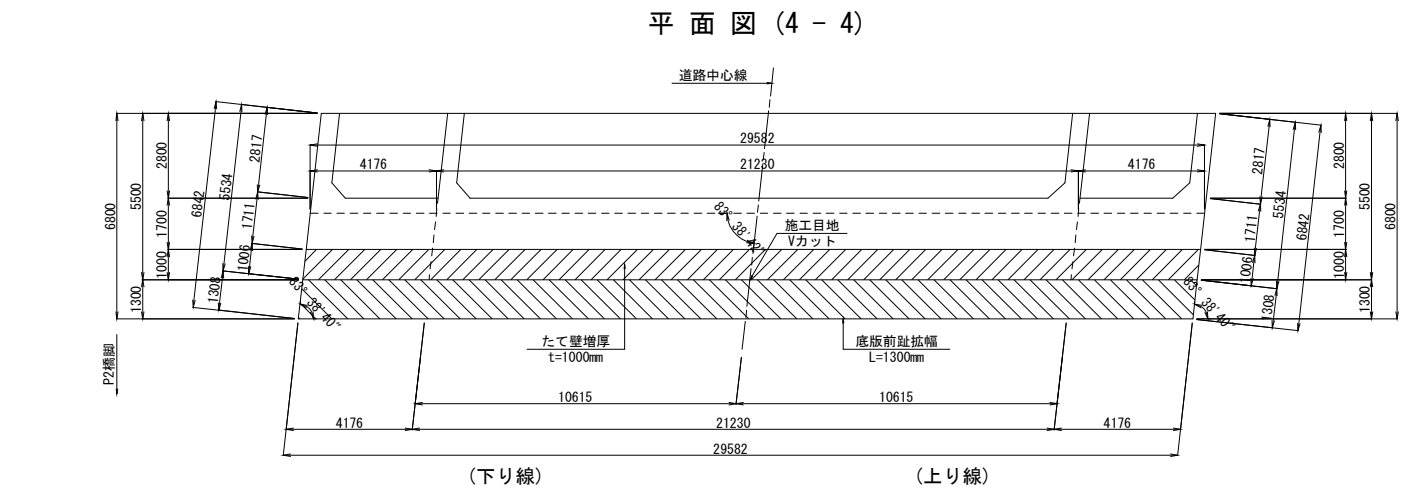
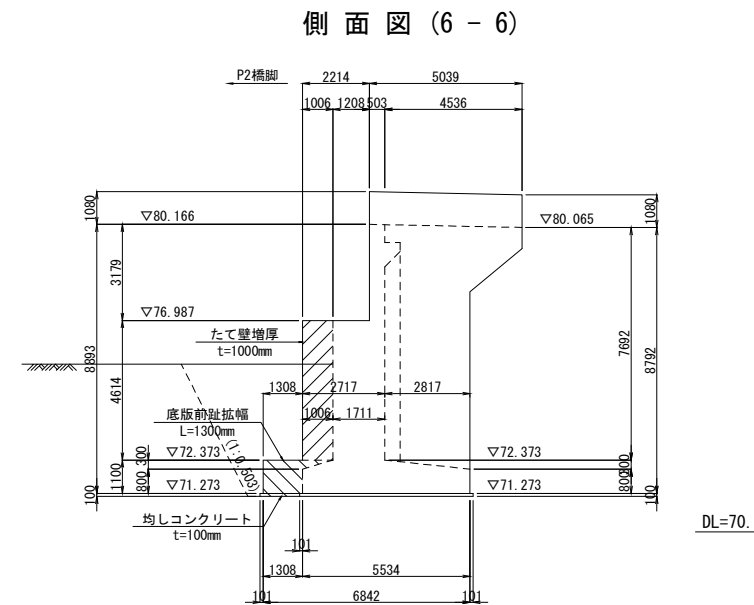
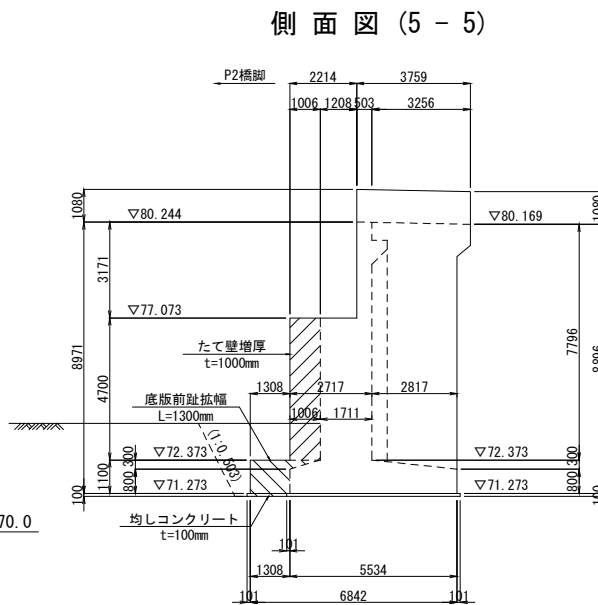
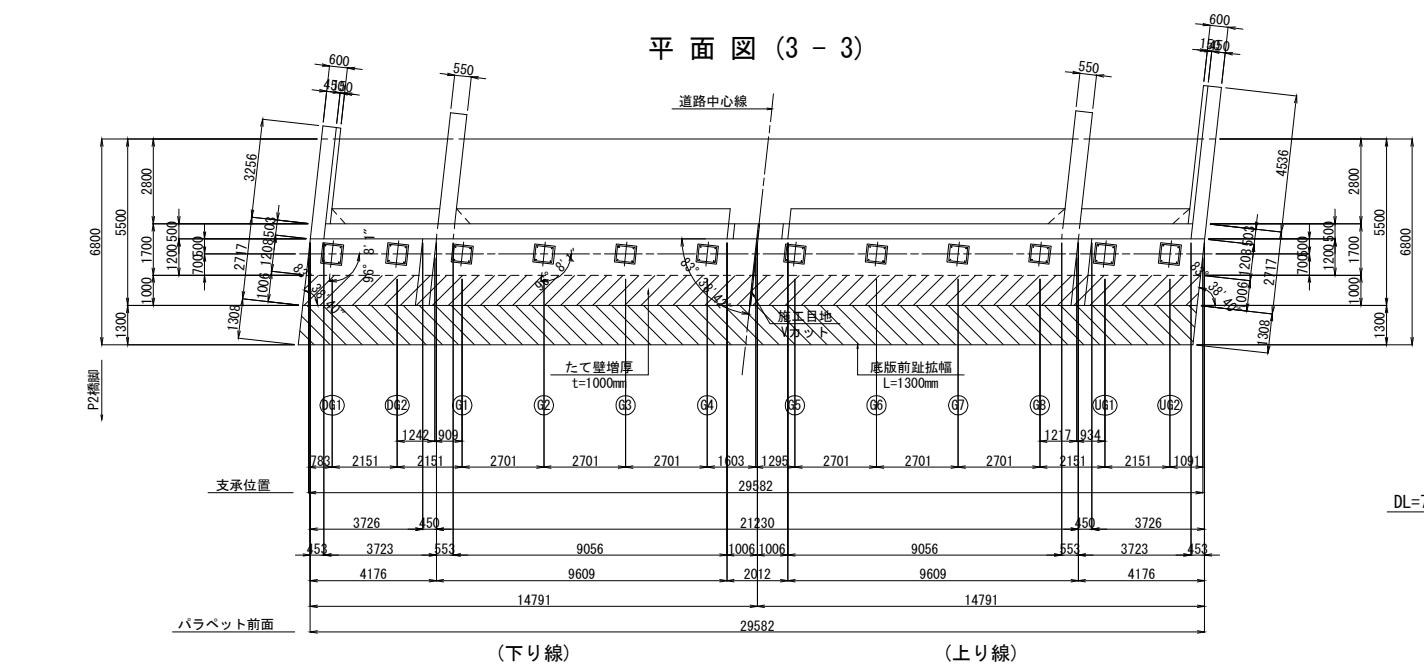
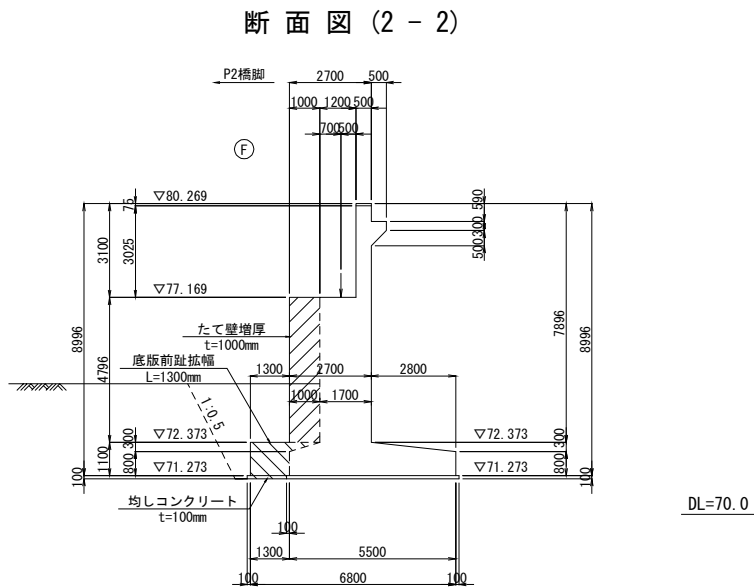
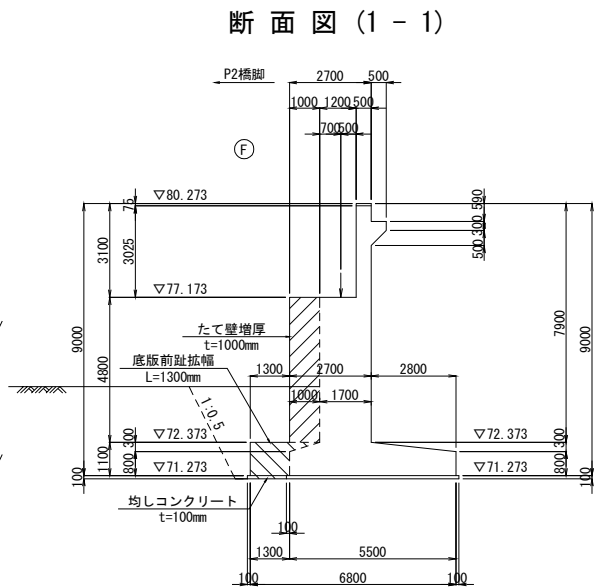
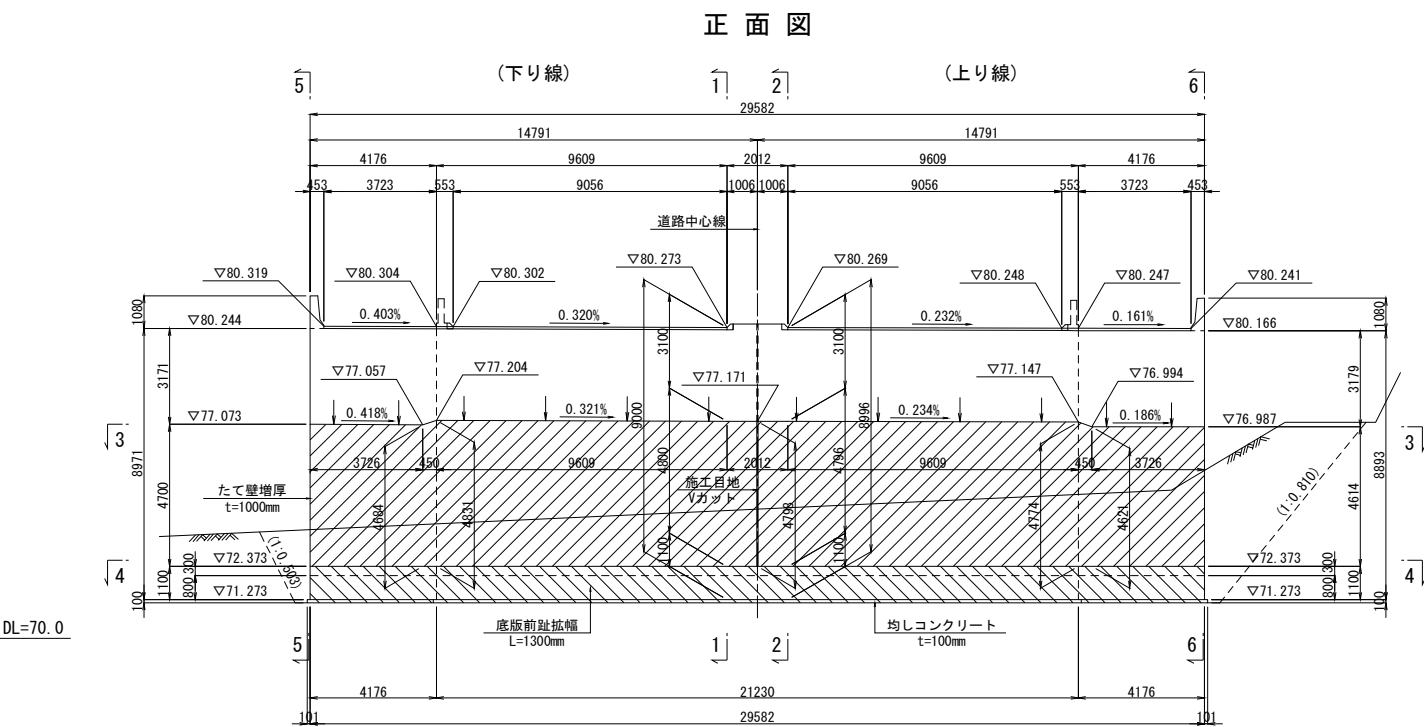
径	90°			135°		
	R	a	Δl	R	a	Δl
D13	39	61	17	71.5	56	3
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5
D25	75	118	32	137.5	108	6
D29	87	137	37	159.5	125	7
D32	96	151	41	176	138	8
D35	105	165	45	192.5	151	8
D38	114	179	49	209	164	9
D41	123	193	53	225.5	177	10
D51	153	240	66	280.5	220	12



注記)

- 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
- 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探査等を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 耐震補強詳細図(その3)		
縮尺	図示	図面番号	20 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



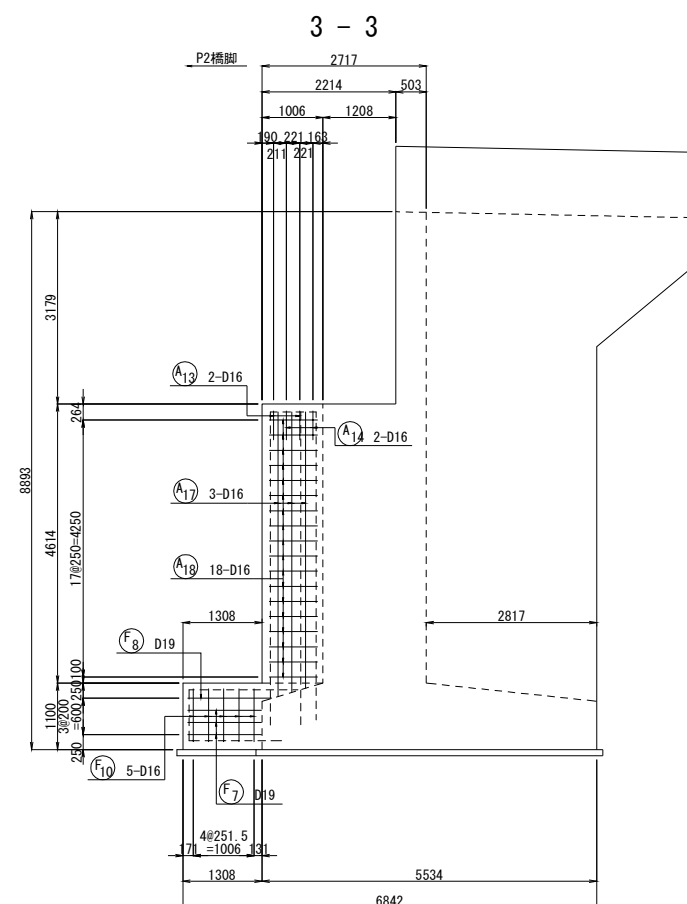
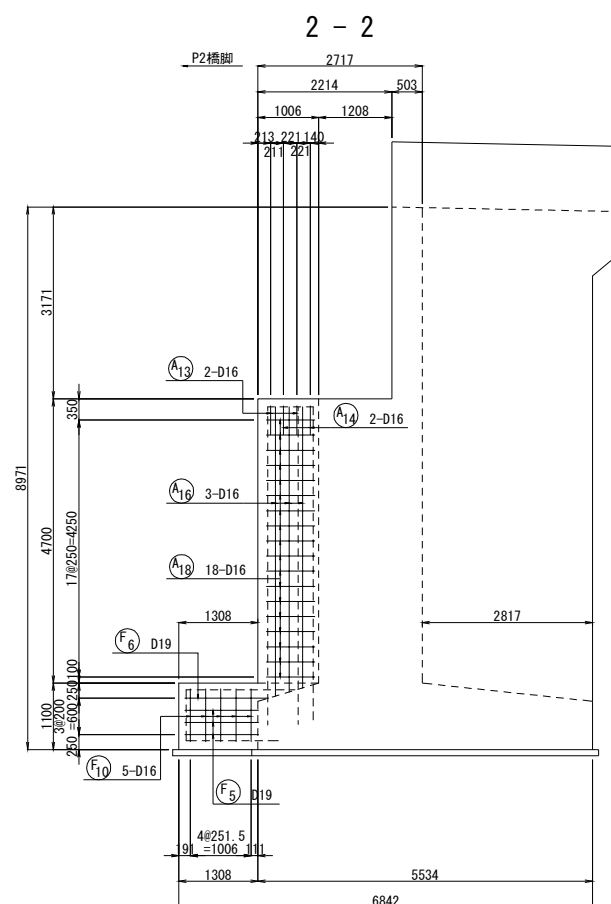
Vカット詳細図 S=1:20



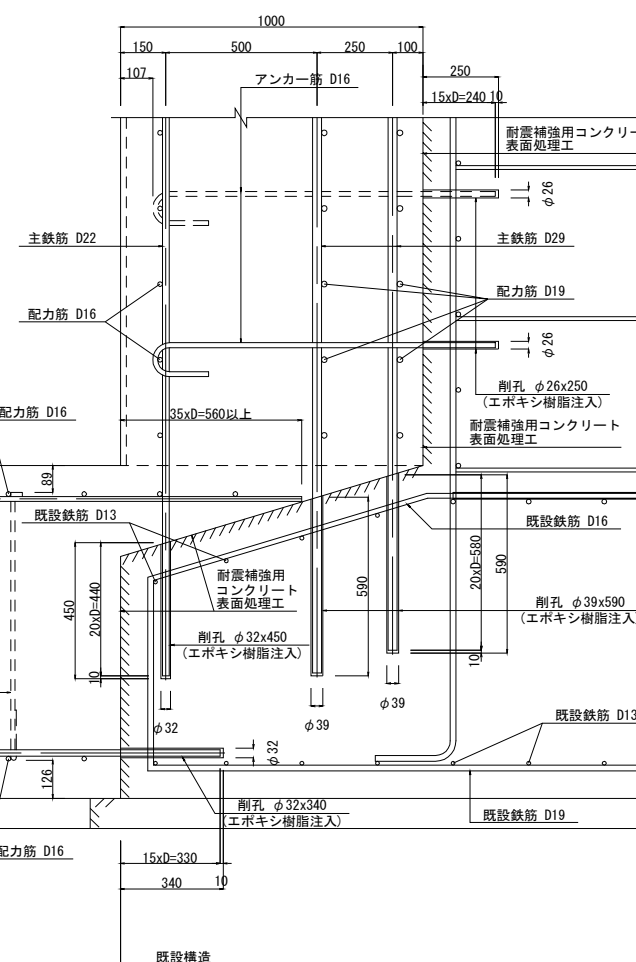
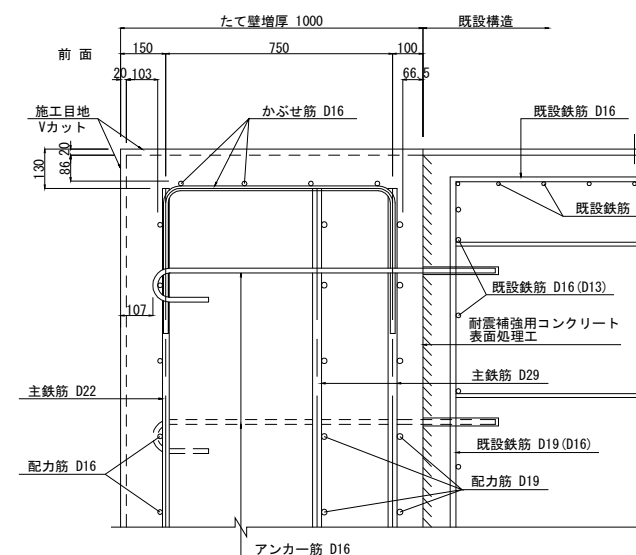
- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
 3. \square は、たて壁増厚工を示す。
 4. \square は、底版前趾拡幅工を示す。

使用材料			
既設構造	たて壁	鉄筋	SD295
	コンクリート	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$	
補強構造	底版	鉄筋	SD295
	コンクリート	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$	
補強構造	たて壁増厚	鉄筋	SD345
	コンクリート	$\sigma_{ck}=30N/mm^2$	
補強構造	底版拡幅	鉄筋	SD345
	コンクリート	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$	
補強構造	均しコンクリート	鉄筋	SD345
	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18N/mm^2$	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	21 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



S=1 : 25

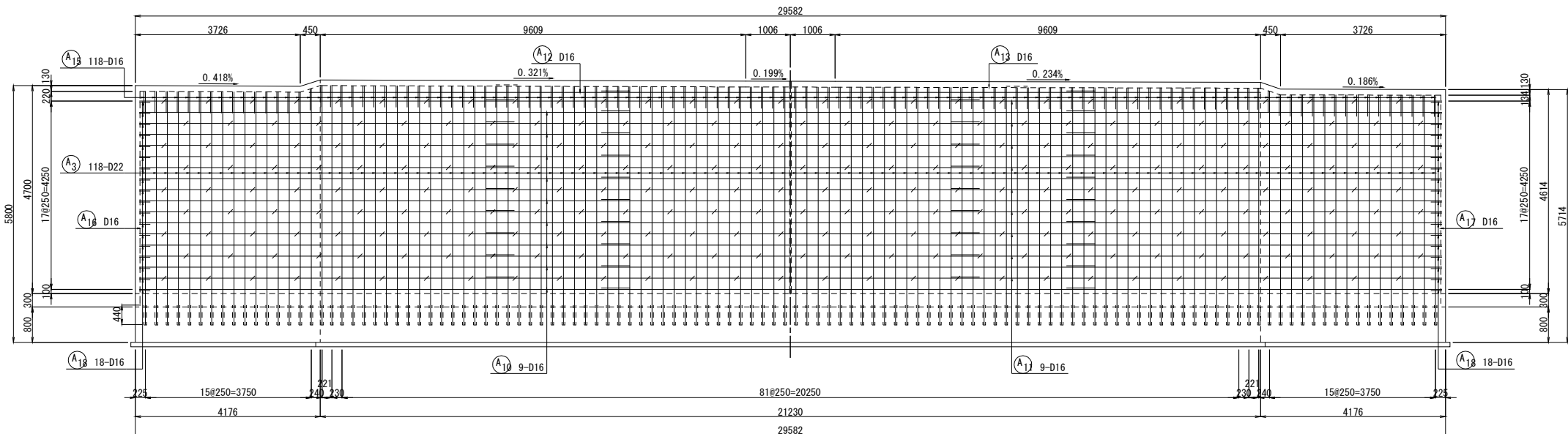


既設構造	たて壁	鉄筋	SD295
		コンクリート	$\sigma k=24N/mm^2$
	底版	鉄筋	SD295
		コンクリート	$\sigma k=24N/mm^2$
補強構造	たて壁増厚	鉄筋	SD345
		コンクリート	$\sigma k=30N/mm^2$
	底版拡幅	鉄筋	SD345
		コンクリート	$\sigma k=24N/mm^2$
		均しコンクリート	$\sigma k=18N/mm^2$

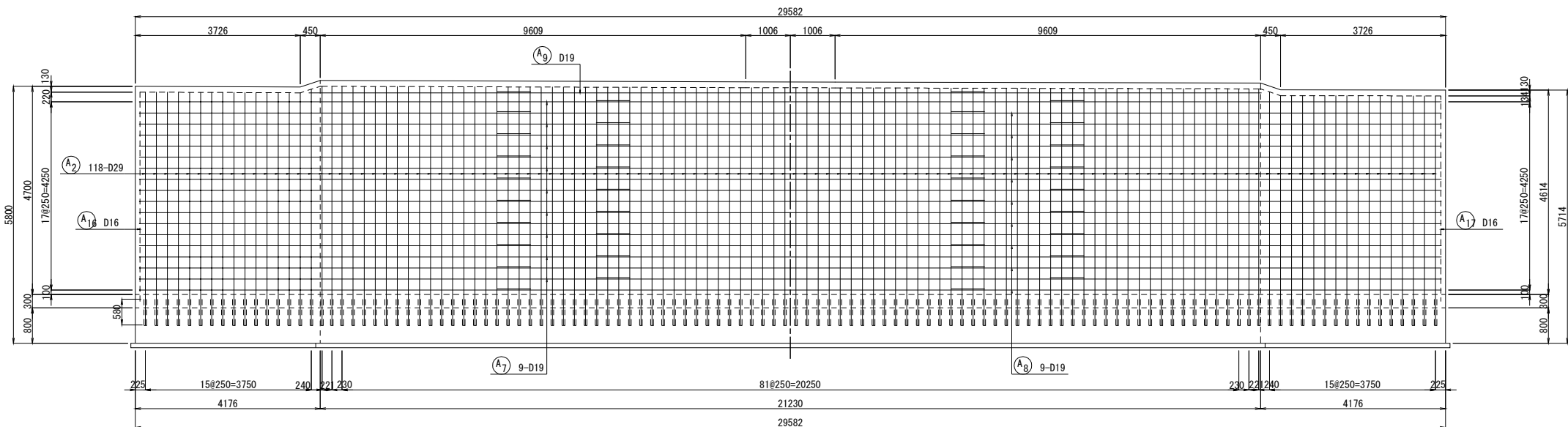
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探査等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

横浜須賀野道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金沢谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	22 / 11
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

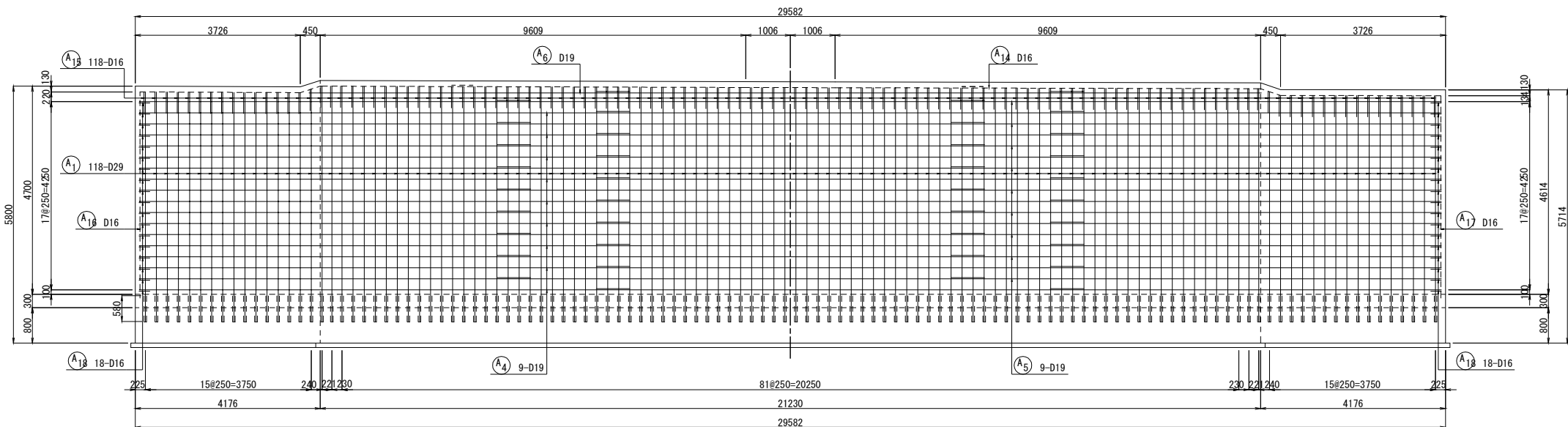
1 - 1
たて壁前面側鉄筋



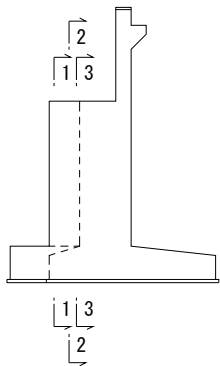
2 - 2
たて壁背面側鉄筋 (2段目)



3 - 3
たて壁背面側鉄筋 (1段目)

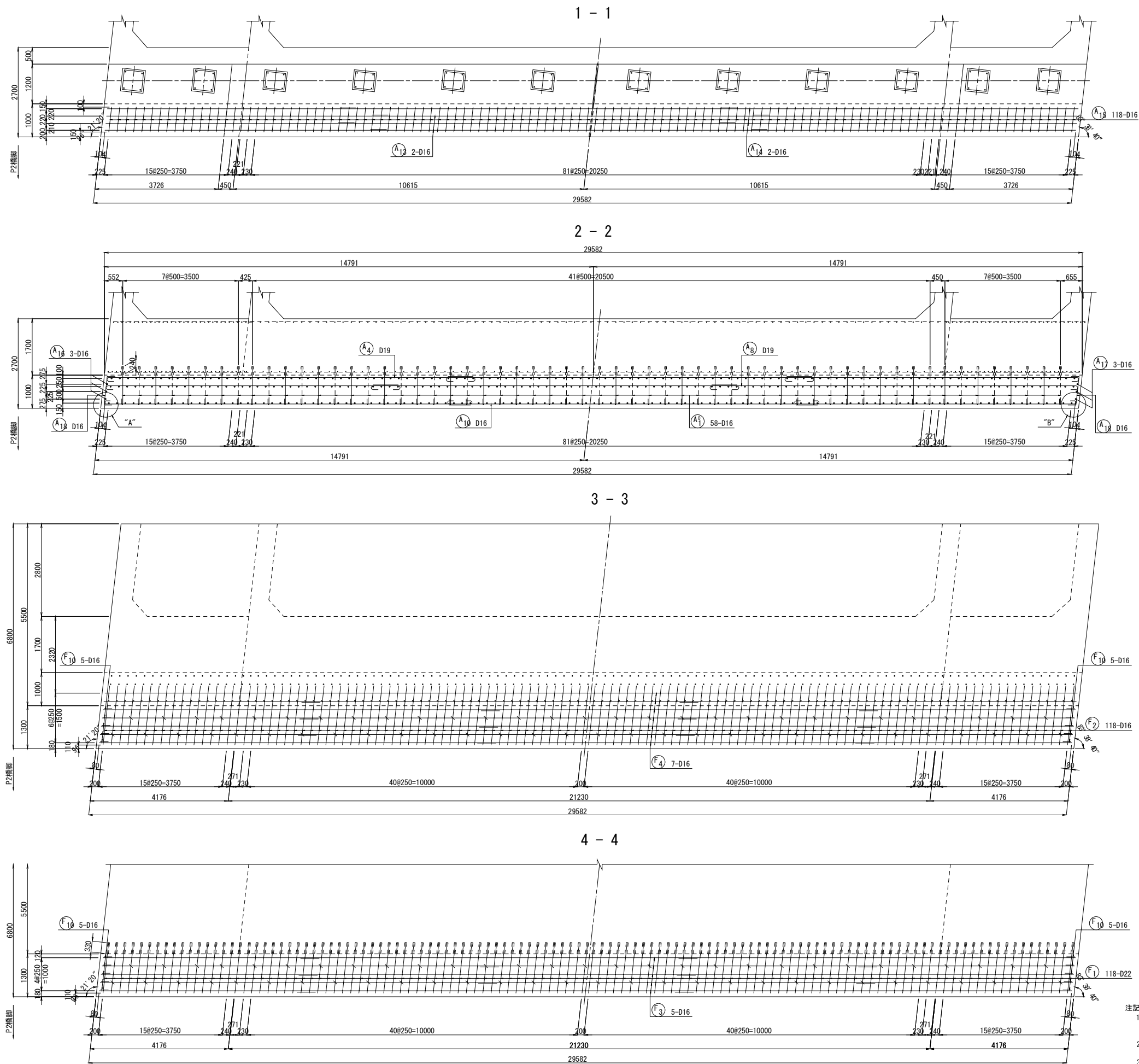


位置図

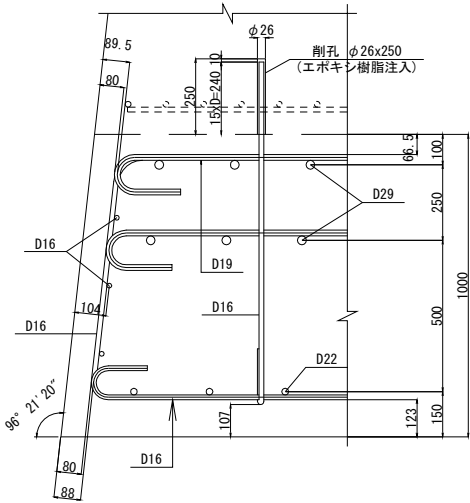


- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
 3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探査等を
実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

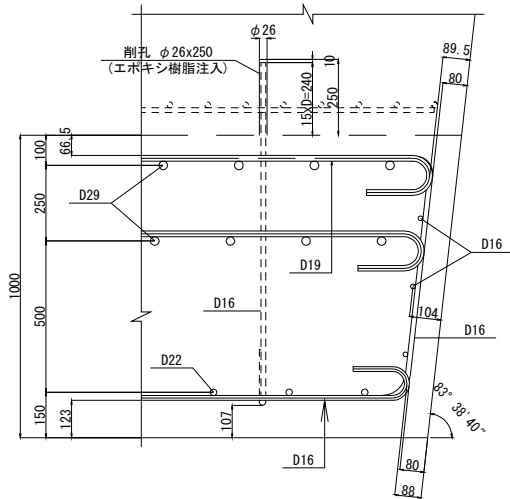
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	23 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



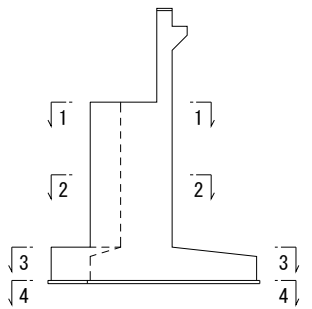
A部詳細図 S=1:25



B部詳細図 S=1:25

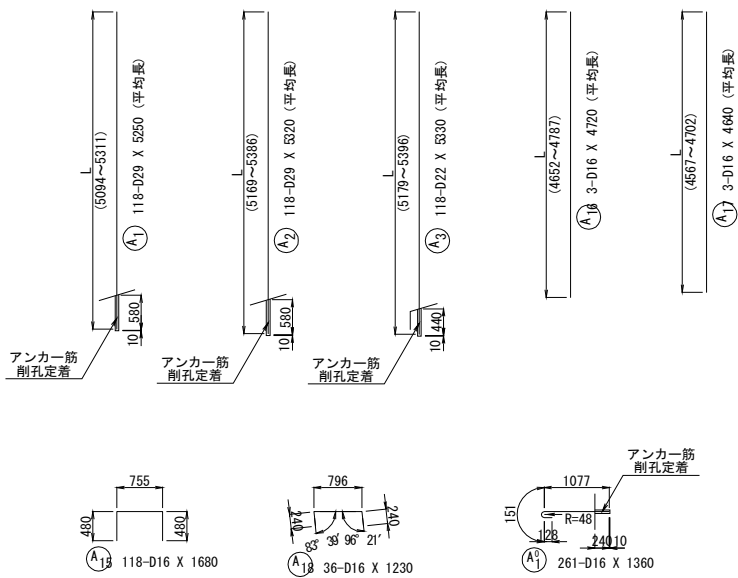


位置図



- 注記
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
 3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探査等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	24 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



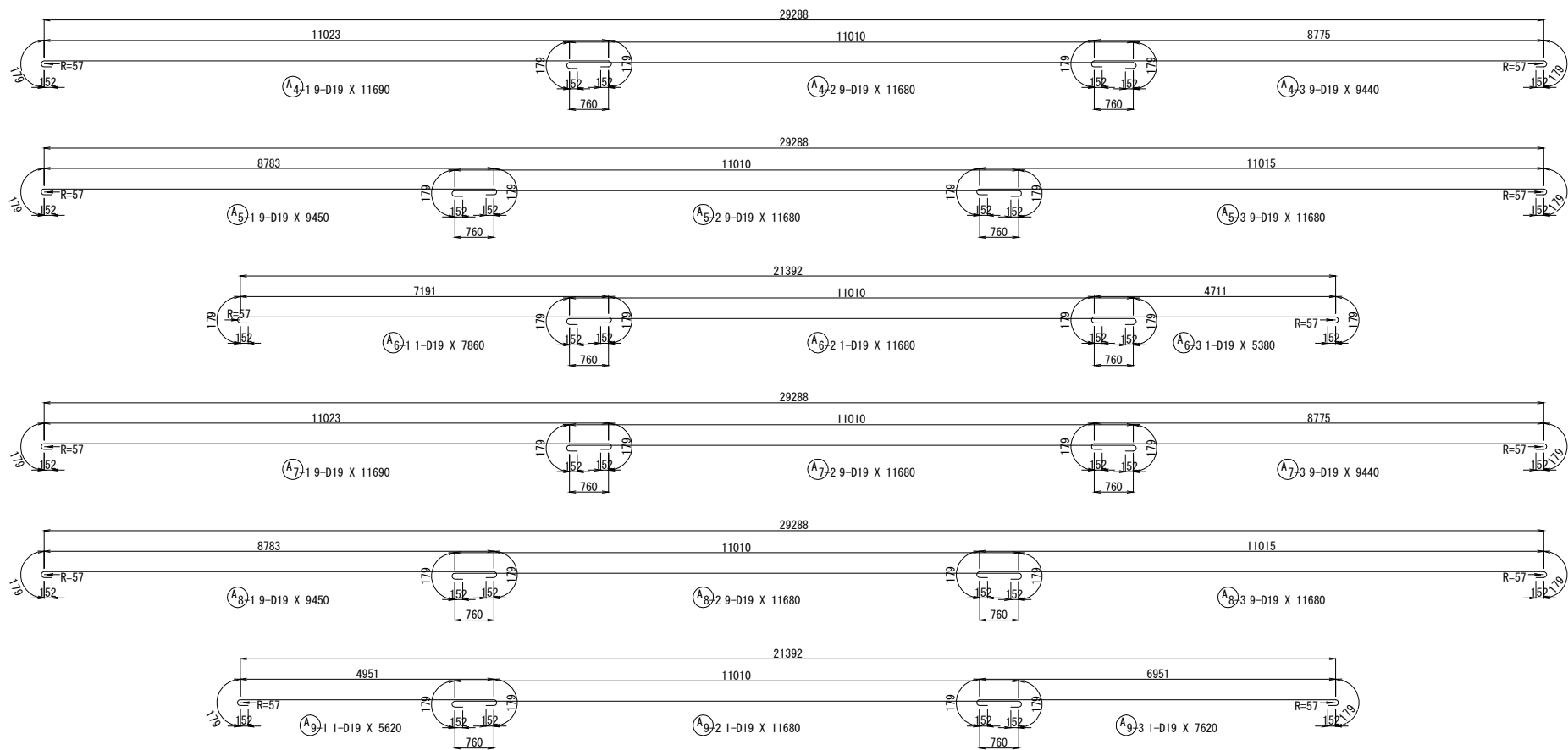
記号	径	本数	L	記号	径	本数	L	記号	径	本数	L
A1-1	D29	1	5179	A1-41	D29	1	5292	A1-81	D29	1	5266
-2	"	1	5178	-42	"	1	5291	-82	"	1	5265
-3	"	1	5177	-43	"	1	5290	-83	"	1	5265
-4	"	1	5176	-44	"	1	5289	-84	"	1	5264
-5	"	1	5175	-45	"	1	5288	-85	"	1	5263
-6	"	1	5174	-46	"	1	5288	-86	"	1	5263
-7	"	1	5173	-47	"	1	5287	-87	"	1	5262
-8	"	1	5172	-48	"	1	5286	-88	"	1	5262
-9	"	1	5171	-49	"	1	5285	-89	"	1	5261
-10	"	1	5170	-50	"	1	5284	-90	"	1	5261
-11	"	1	5169	-51	"	1	5284	-91	"	1	5260
-12	"	1	5168	-52	"	1	5283	-92	"	1	5259
-13	"	1	5167	-53	"	1	5282	-93	"	1	5259
-14	"	1	5165	-54	"	1	5281	-94	"	1	5258
-15	"	1	5164	-55	"	1	5280	-95	"	1	5258
-16	"	1	5245	-56	"	1	5280	-96	"	1	5257
-17	"	1	5311	-57	"	1	5279	-97	"	1	5256
-18	"	1	5310	-58	"	1	5279	-98	"	1	5256
-19	"	1	5309	-59	"	1	5278	-99	"	1	5255
-20	"	1	5308	-60	"	1	5278	-100	"	1	5255
-21	"	1	5308	-61	"	1	5277	-101	"	1	5254
-22	"	1	5307	-62	"	1	5277	-102	"	1	5254
-23	"	1	5306	-63	"	1	5276	-103	"	1	5185
-24	"	1	5305	-64	"	1	5276	-104	"	1	5101
-25	"	1	5304	-65	"	1	5275	-105	"	1	5100
-26	"	1	5304	-66	"	1	5275	-106	"	1	5100
-27	"	1	5303	-67	"	1	5274	-107	"	1	5100
-28	"	1	5302	-68	"	1	5273	-108	"	1	5099
-29	"	1	5301	-69	"	1	5273	-109	"	1	5099
-30	"	1	5300	-70	"	1	5272	-110	"	1	5098
-31	"	1	5300	-71	"	1	5272	-111	"	1	5098
-32	"	1	5299	-72	"	1	5271	-112	"	1	5097
-33	"	1	5298	-73	"	1	5270	-113	"	1	5097
-34	"	1	5297	-74	"	1	5270	-114	"	1	5096
-35	"	1	5296	-75	"	1	5269	-115	"	1	5096
-36	"	1	5296	-76	"	1	5269	-116	"	1	5095
-37	"	1	5295	-77	"	1	5268	-117	"	1	5095
-38	"	1	5294	-78	"	1	5268	-118	"	1	5094
-39	"	1	5293	-79	"	1	5267	平均長		118	5250
-40	"	1	5292	-80	"	1	5266				

記号	径	本数	L	記号	径	本数	L	記号	径	本数	L
A2-1	D29	1	5254	A2-41	D29	1	5367	A2-81	D29	1	5341
-2	"	1	5253	-42	"	1	5366	-82	"	1	5340
-3	"	1	5252	-43	"	1	5365	-83	"	1	5340
-4	"	1	5251	-44	"	1	5364	-84	"	1	5339
-5	"	1	5250	-45	"	1	5363	-85	"	1	5338
-6	"	1	5249	-46	"	1	5363	-86	"	1	5338
-7	"	1	5248	-47	"	1	5362	-87	"	1	5337
-8	"	1	5247	-48	"	1	5361	-88	"	1	5337
-9	"	1	5246	-49	"	1	5360	-89	"	1	5336
-10	"	1	5245	-50	"	1	5359	-90	"	1	5336
-11	"	1	5244	-51	"	1	5359	-91	"	1	5335
-12	"	1	5243	-52	"	1	5358	-92	"	1	5334
-13	"	1	5242	-53	"	1	5357	-93	"	1	5334
-14	"	1	5240	-54	"	1	5356	-94	"	1	5333
-15	"	1	5239	-55	"	1	5355	-95	"	1	5333
-16	"	1	5320	-56	"	1	5355	-96	"	1	5332
-17	"	1	5386	-57	"	1	5354	-97	"	1	5331
-18	"	1	5385	-58	"	1	5354	-98	"	1	5331
-19	"	1	5384	-59	"	1	5353	-99	"	1	5330
-20	"	1	5383	-60	"	1	5353	-100	"	1	5330
-21	"	1	5383	-61	"	1	5352	-101	"	1	5329
-22	"	1	5382	-62	"	1	5352	-102	"	1	5329
-23	"	1	5381	-63	"	1	5351	-103	"	1	5260
-24	"	1	5380	-64	"	1	5351	-104	"	1	5176
-25	"	1	5379	-65	"	1	5350	-105	"	1	5175
-26	"	1	5379	-66	"	1	5350	-106	"	1	5175
-27	"	1	5378	-67	"	1	5349	-107	"	1	5175
-28	"	1	5377	-68	"	1	5348	-108	"	1	5174
-29	"	1	5376	-69	"	1	5348	-109	"	1	5174
-30	"	1	5375	-70	"	1	5347	-110	"	1	5173
-31	"	1	5375	-71	"	1	5347	-111	"	1	5173
-32	"	1	5374	-72	"	1	5346	-112	"	1	5172
-33	"	1	5373	-73	"	1	5345	-113	"	1	5172
-34	"	1	5372	-74	"	1	5345	-114	"	1	5171
-35	"	1	5371	-75	"	1	5344	-115	"	1	5171
-36	"	1	5371	-76	"	1	5344	-116	"	1	5170
-37	"	1	5370	-77	"	1	5343	-117	"	1	5170
-38	"	1	5369	-78	"	1	5343	-118	"	1	5169
-39	"	1	5368	-79	"	1	5342	平均長		118	5320
-40	"	1	5367	-80	"	1	5341				

記号	径	本数	L	記号	径	本数	L	記号	径	本数	L
A3-1	D22	1	5264	A3-41	D22	1	5377	A3-81	D22	1	5351
-2	"	1	5263	-42	"	1	5376	-82	"	1	5350
-3	"	1	5262	-43	"	1	5375	-83	"	1	5350
-4	"	1	5261	-44	"	1	5374	-84	"	1	5349
-5	"	1	5260	-45	"	1	5373	-85	"	1	5348
-6	"	1	5259	-46	"	1	5373	-86	"	1	5348
-7	"	1	5258	-47	"	1	5372	-87	"	1	5347
-8	"	1	5257	-48	"	1	5371	-88	"	1	5347
-9	"	1	5256	-49	"	1	5370	-89	"	1	5346
-10	"	1	5255	-50	"	1	5369	-90	"	1	5346
-11	"	1	5254	-51	"	1	5369	-91	"	1	5345
-12	"	1	5253	-52	"	1	5368	-92	"	1	5344
-13	"	1	5252	-53	"	1	5367	-93	"	1	5344
-14	"	1	5250	-54	"	1	5366	-94	"	1	5343
-15	"	1	5249	-55	"	1	5365	-95	"	1	5343
-16	"	1	5330	-56	"	1	5365	-96	"	1	5342
-17	"	1	5396	-57	"	1	5364	-97	"	1	5341
-18	"	1	5395	-58	"	1	5364	-98	"	1	5341
-19	"	1	5394	-59	"	1	5363	-99	"	1	5340
-20	"	1	5393	-60	"	1	5363	-100	"	1	5340
-21	"	1	5393	-61	"	1	5362	-101	"	1	5339
-22	"	1	5392	-62	"	1	5362	-102	"	1	5339
-23	"	1	5391	-63	"	1	5361	-103	"	1	5270
-24	"	1	5390	-64	"	1	5361	-104	"	1	5186
-25	"	1	5389	-65	"	1	5360	-105	"	1	5185
-26	"	1	5389	-66	"	1	5360	-106	"	1	5185
-27	"	1	5388	-67	"	1	5359	-107	"	1	5185
-28	"	1	5387	-68	"	1	5358	-108	"	1	5184
-29	"	1	5386	-69	"	1	5358	-109	"	1	5184
-30	"	1	5385	-70	"	1	5357	-110	"	1	5183
-31	"	1	5385	-71	"	1	5357	-111	"	1	5183
-32	"	1	5384	-72	"	1	5356	-112	"	1	5182
-33	"	1	5383	-73	"	1	5355	-113	"	1	5182
-34	"	1	5382	-74	"	1	5355	-114	"	1	5181
-35	"	1	5381	-75	"	1	5354	-115	"	1	5181
-36	"	1	5381	-76	"	1	5354	-116	"	1	5180
-37	"	1	5380	-77	"	1	5353	-117	"	1	5180
-38	"	1	5379	-78	"	1	5353	-118	"	1	5179
-39	"	1	5378	-79	"	1	5352	平均長		118	5330
-40	"	1	5377	-80	"	1	5351				

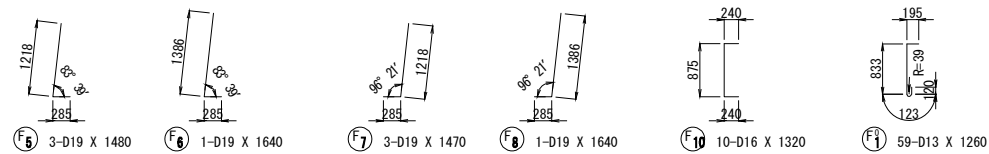
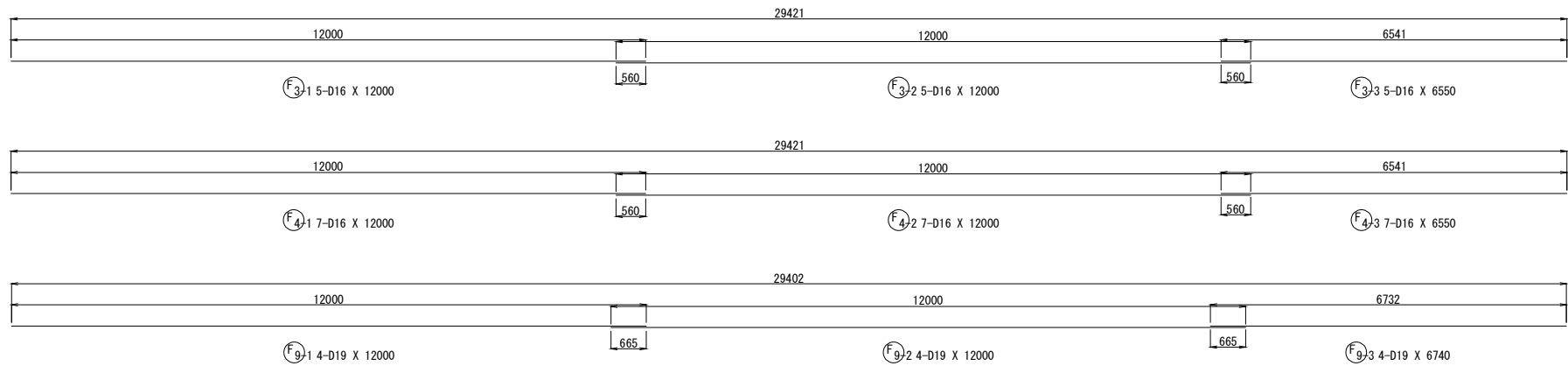
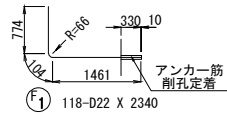
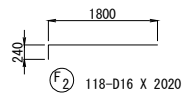
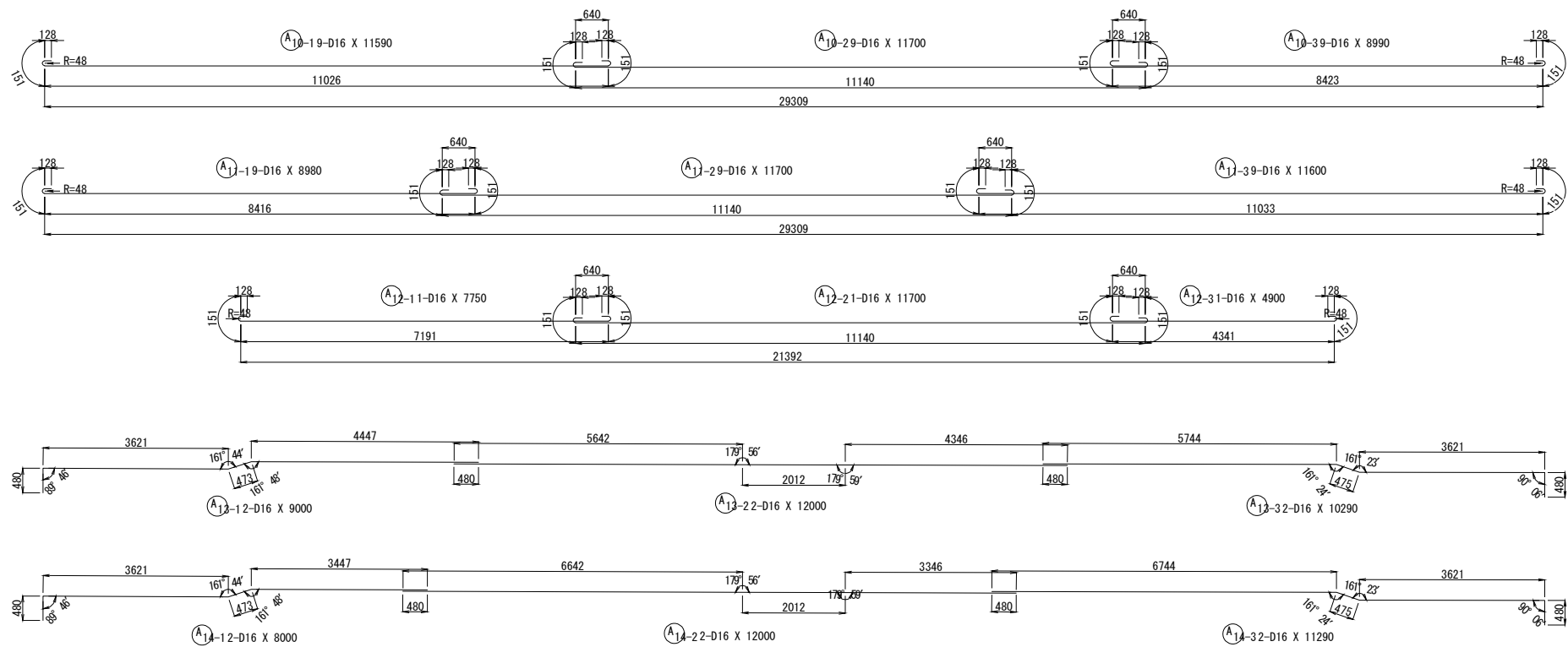
記号	径	本数	L
A16-1	D16	1	4652
-2	"	1	4720
-3	"	1	4787
平均長		3	4720

記号	径	本数	L
A17-1	D16	1	4567
-2	"	1	4634
-3	"	1	4702
平均長		3	4640



- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
 3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探索等を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	25 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

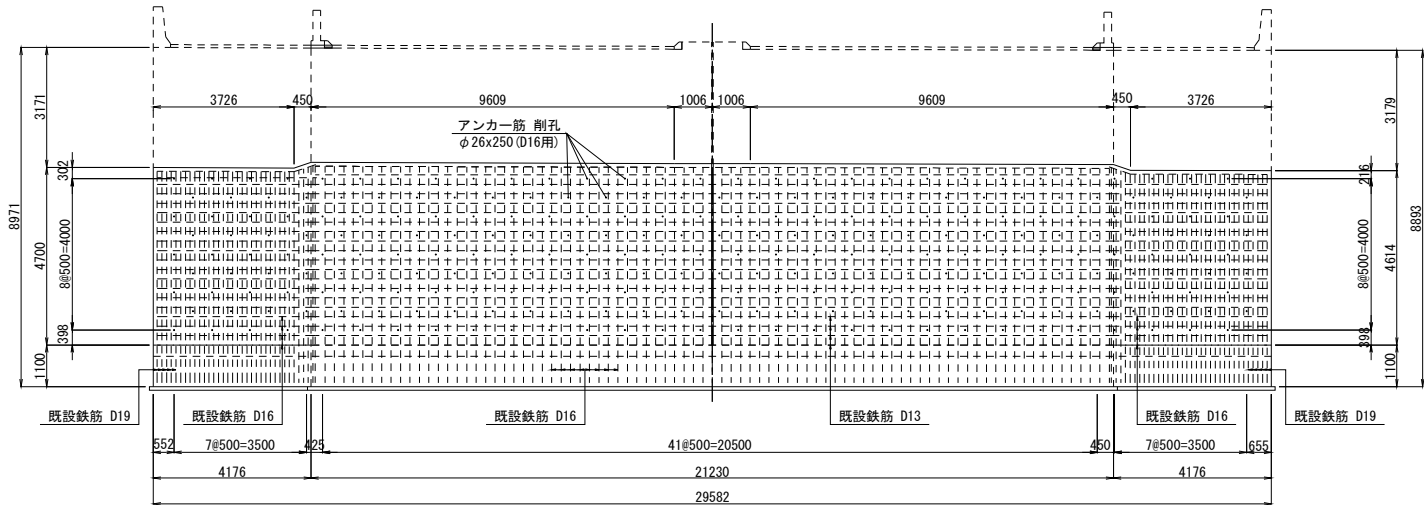


注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探査等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

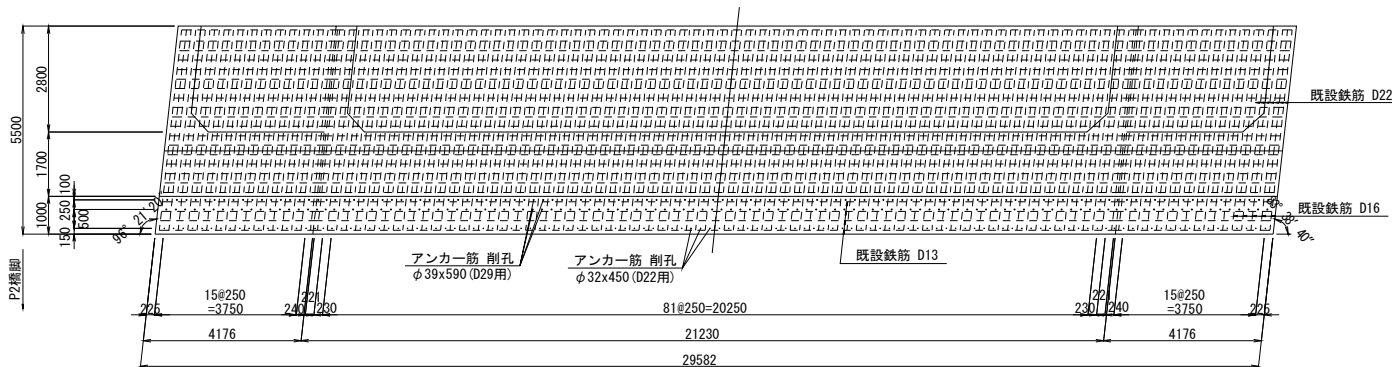
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	26 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

アンカー筋削孔位置図(参考図)

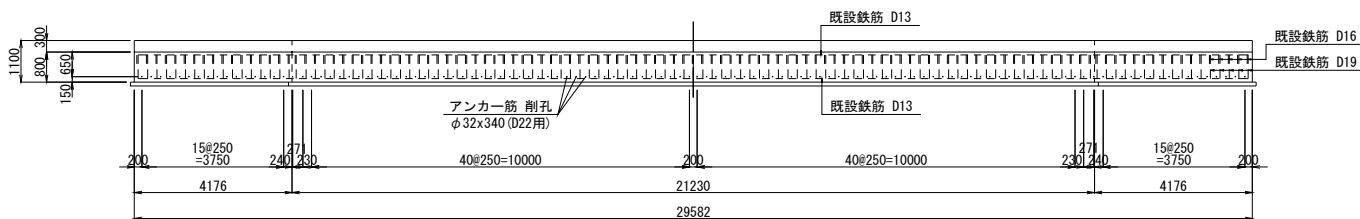
たて壁前面



底版上面



底版前趾先端



※ アンカー削孔は既設鉄筋を探索の上、適宜削孔位置をずらして施工すること。

鉄筋質量表

単価項目	記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
(たて壁増厚)								
鉄筋 T1	A ₁	D29	5250	118	5.04	26.5	3127	1 (平均値)
	A ₂	"	5320	118	"	26.8	3162	1 (平均値)
	A ₃	D22	5330	118	3.04	16.2	1912	1 (平均値)
鉄筋 T	A ₄₋₁	D19	11690	9	2.25	26.3	237	—
	A ₄₋₂	"	11680	9	"	26.3	237	—
	A ₄₋₃	"	9440	9	"	21.2	191	—
	A ₅₋₁	"	9450	9	"	21.3	192	—
	A ₅₋₂	"	11680	9	"	26.3	237	—
	A ₅₋₃	"	11680	9	"	26.3	237	—
	A ₆₋₁	"	7860	1	"	17.7	18	—
	A ₆₋₂	"	11680	1	"	26.3	26	—
	A ₆₋₃	"	5380	1	"	12.1	12	—
	A ₇₋₁	"	11690	9	"	26.3	237	—
	A ₇₋₂	"	11680	9	"	26.3	237	—
	A ₇₋₃	"	9440	9	"	21.2	191	—
	A ₈₋₁	"	9450	9	"	21.3	192	—
	A ₈₋₂	"	11680	9	"	26.3	237	—
	A ₈₋₃	"	11680	9	"	26.3	237	—
	A ₉₋₁	"	5620	1	"	12.6	13	—
	A ₉₋₂	"	11680	1	"	26.3	26	—
	A ₉₋₃	"	7620	1	"	17.1	17	—
	A ₁₀₋₁	D16	11590	9	1.56	18.1	163	—
	A ₁₀₋₂	"	11700	9	"	18.3	165	—
	A ₁₀₋₃	"	8990	9	"	14.0	126	—
	A ₁₁₋₁	"	8980	9	"	14.0	126	—
	A ₁₁₋₂	"	11700	9	"	18.3	165	—
	A ₁₁₋₃	"	11600	9	"	18.1	163	—
	A ₁₂₋₁	"	7750	1	"	12.1	12	—
	A ₁₂₋₂	"	11700	1	"	18.3	18	—
	A ₁₂₋₃	"	4900	1	"	7.64	8	—
	A ₁₃₋₁	"	9000	2	"	14.0	28	—
	A ₁₃₋₂	"	12000	2	"	18.7	37	—
	A ₁₃₋₃	"	10290	2	"	16.1	32	—
	A ₁₄₋₁	"	8000	2	"	12.5	25	—
	A ₁₄₋₂	"	12000	2	"	18.7	37	—
	A ₁₄₋₃	"	11290	2	"	17.6	35	—
	A ₁₅	"	1680	118	"	2.62	309	□ (平均値)
	A ₁₆	"	4720	3	"	7.36	22	1 (平均値)
	A ₁₇	"	4640	3	"	7.24	22	1 (平均値)
	A ₁₈	"	1230	36	"	1.92	69	□ (平均値)
							12537 kg	
鉄筋 T2		A ₁ ⁰	D16	1360	261	1.56	2.12	553
							553 kg	

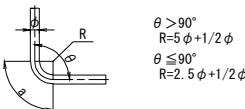
単価項目	記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
(底版前趾拡幅)								
鉄筋 T2	F ₁	D22	2340	118	3.04	7.11	839	□ (平均値)
	F ₂	D16	2020	118	1.56	3.15	372	□ (平均値)
	F ₃₋₁	"	12000	5	"	18.7	94	—
	F ₃₋₂	"	12000	5	"	18.7	94	—
	F ₃₋₃	"	6550	5	"	10.2	51	—
	F ₄₋₁	"	12000	7	"	18.7	131	—
	F ₄₋₂	"	12000	7	"	18.7	131	—
	F ₄₋₃	"	6550	7	"	10.2	71	—
	F ₅	D19	1480	3	2.25	3.33	10	□ (平均値)
	F ₆	"	1640	1	"	3.69	4	□ (平均値)
鉄筋 T	F ₇	"	1470	3	"	3.31	10	□ (平均値)
	F ₈	"	1640	1	"	3.69	4	□ (平均値)
	F ₉₋₁	"	12000	4	"	27.0	108	—
	F ₉₋₂	"	12000	4	"	27.0	108	—
	F ₉₋₃	"	6740	4	"	15.2	61	—
	F ₁₀	D16	1320	10	1.56	2.06	21	□ (平均値)
							2109 kg	
鉄筋 T		F ₁ ⁰	D13	1260	59	0.995	1.25	74
							74 kg	
		(SD345)		T	T1	T2		
合 計		D29			6289 kg			
		D22			1912 kg	839 kg		
		D19			3079 kg			
		D16			2527 kg	553 kg		
		D13			74 kg			
総質量				5680 kg	8201 kg	1392 kg		

削孔集計表

(下部工1基当り)				
径	削孔径 (mm) x L (mm)	方 向	箇所数	
軀 体	D16 φ26 x 250mm	水 平	261	
底 版	D22 φ32 x 340mm	水 平	118	
底 版	D22 φ32 x 450mm	鉛直 (下)	118	
底 版	D29 φ39 x 590mm	鉛直 (下)	236	

鉄筋加工寸法表
曲げ加工時の減長

径	90°			135°		
	R	a	Δ l	R	a	Δ l
D13	39	61	17	71.5	56	3
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5
D25	75	118	32	137.5	108	6
D29	87	137	37	159.5	125	7
D32	96	151	41	176	138	8
D35	105	165	45	192.5	151	8
D38	114	179	49	209	164	9
D41	123	193	53	225.5	177	10
D51	153	240	66	280.5	220	12

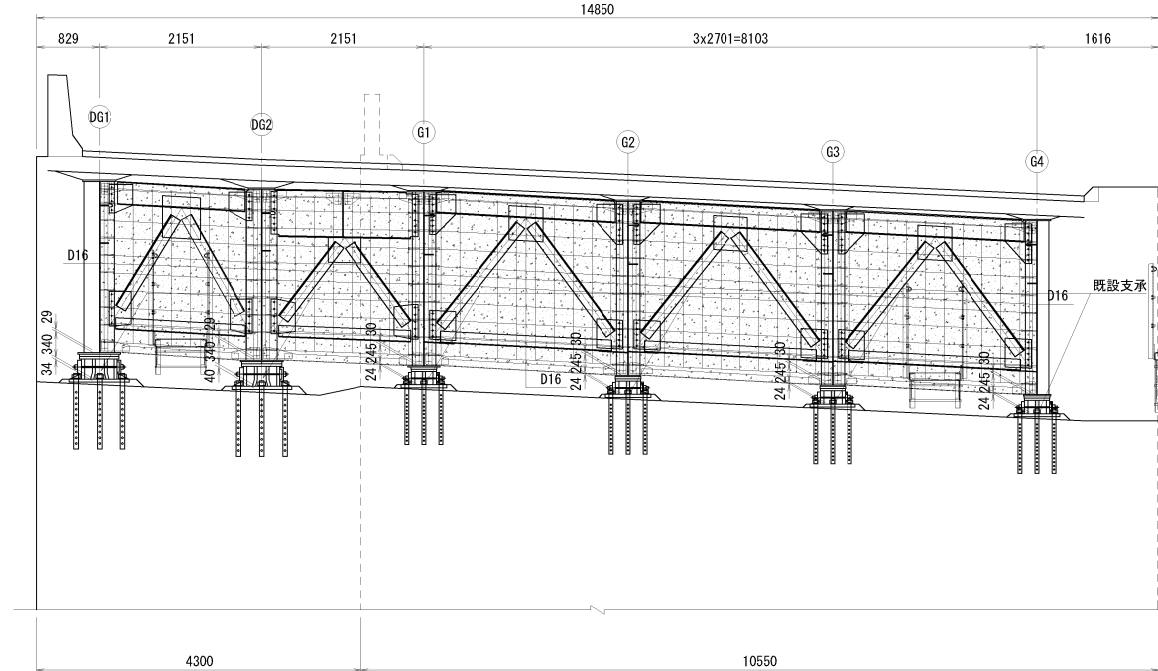


注記)

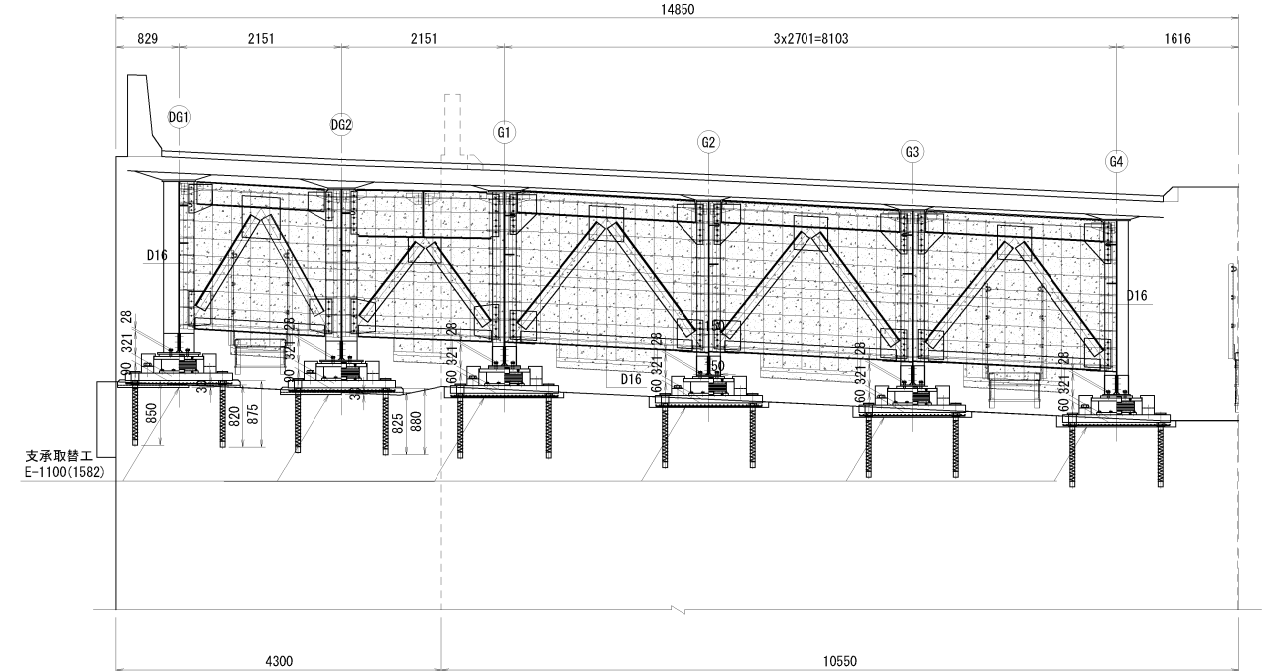
- 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
- 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
- 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探索等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その6)		
	縮 尺	図 示	図面番号 27 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

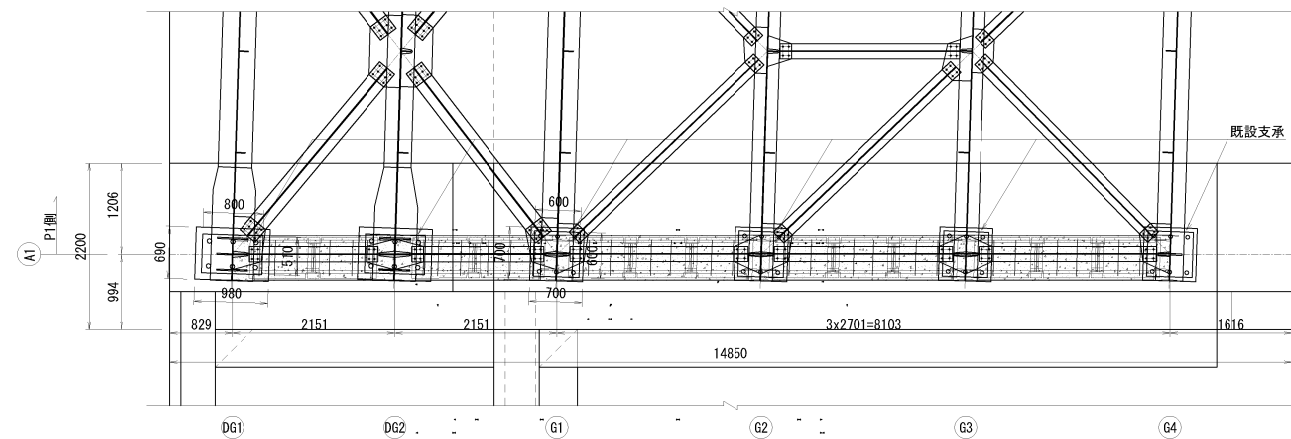
取替前
断面図



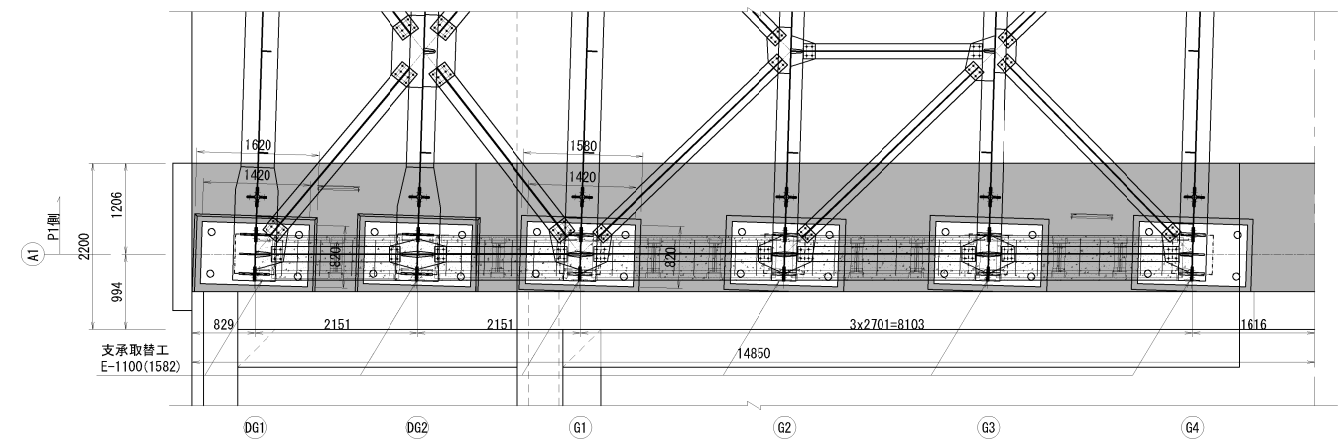
取替後
断面図



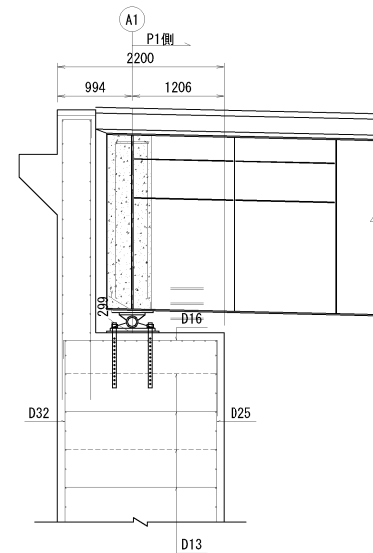
平面図



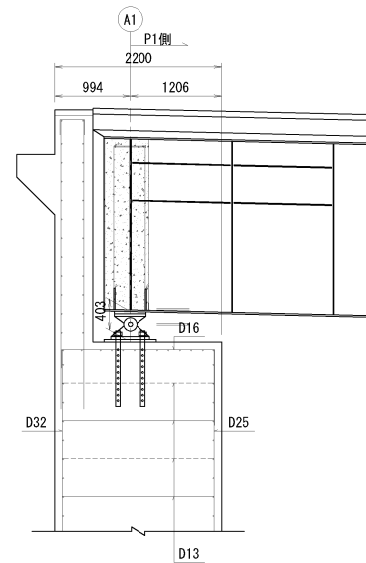
平面図



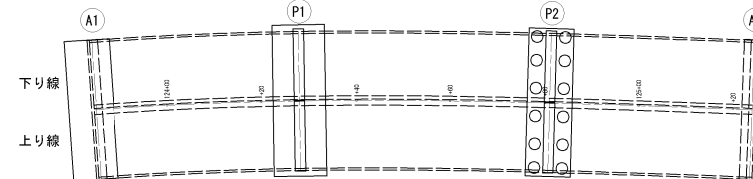
側面図(建設当初 G1)



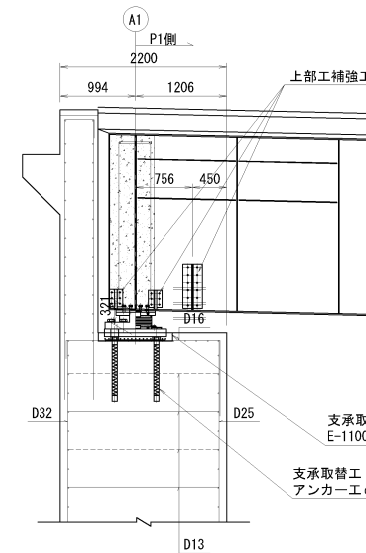
側面図(拡幅部 DG1)



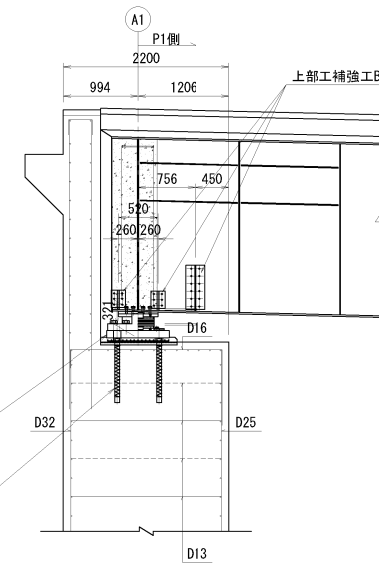
位置図



側面図(建設当初 G1)

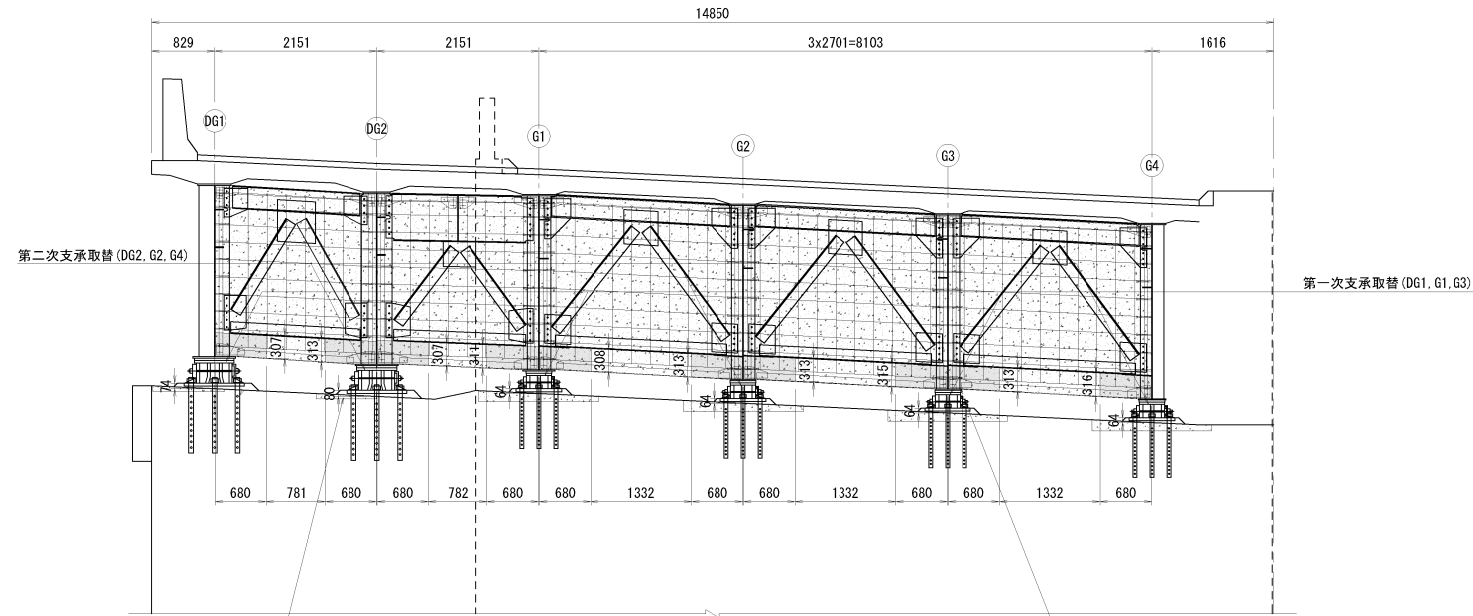


側面図(拡幅部 DG1)

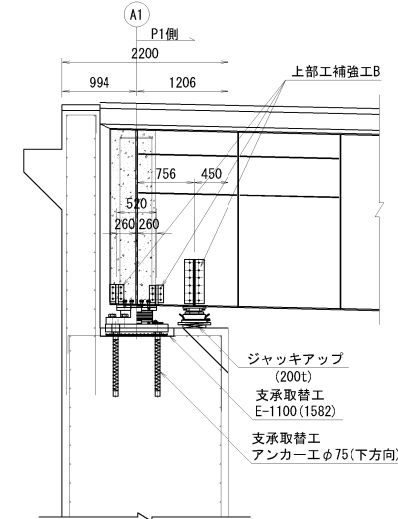


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 支承取替工(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	28 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

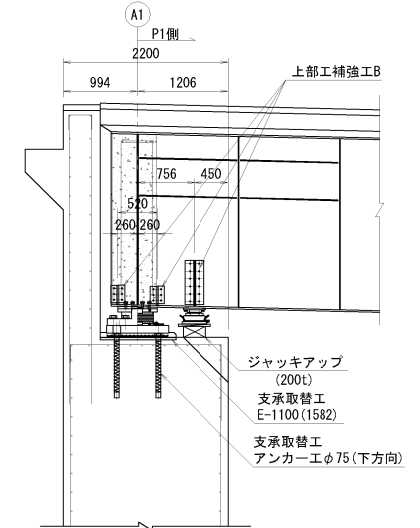
支承取替順序 断面図



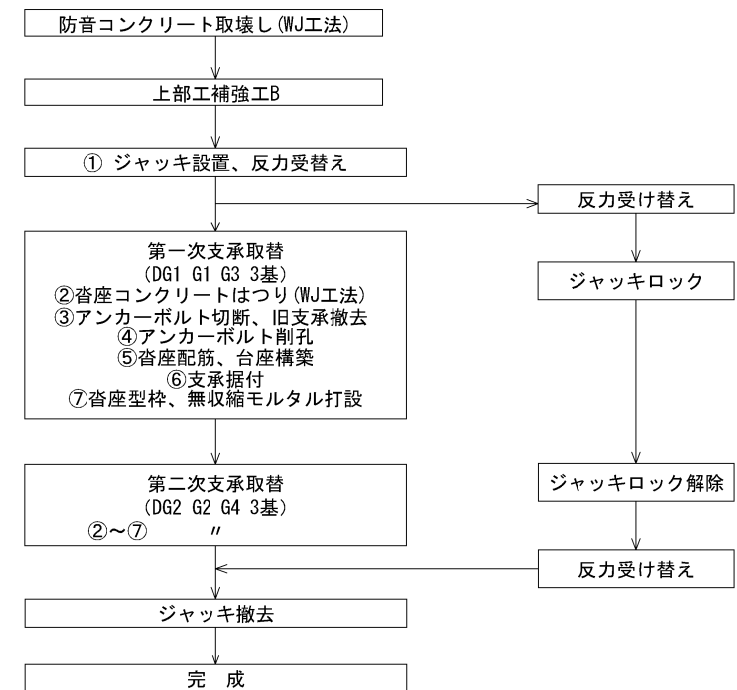
側面図(建設当初 G1)



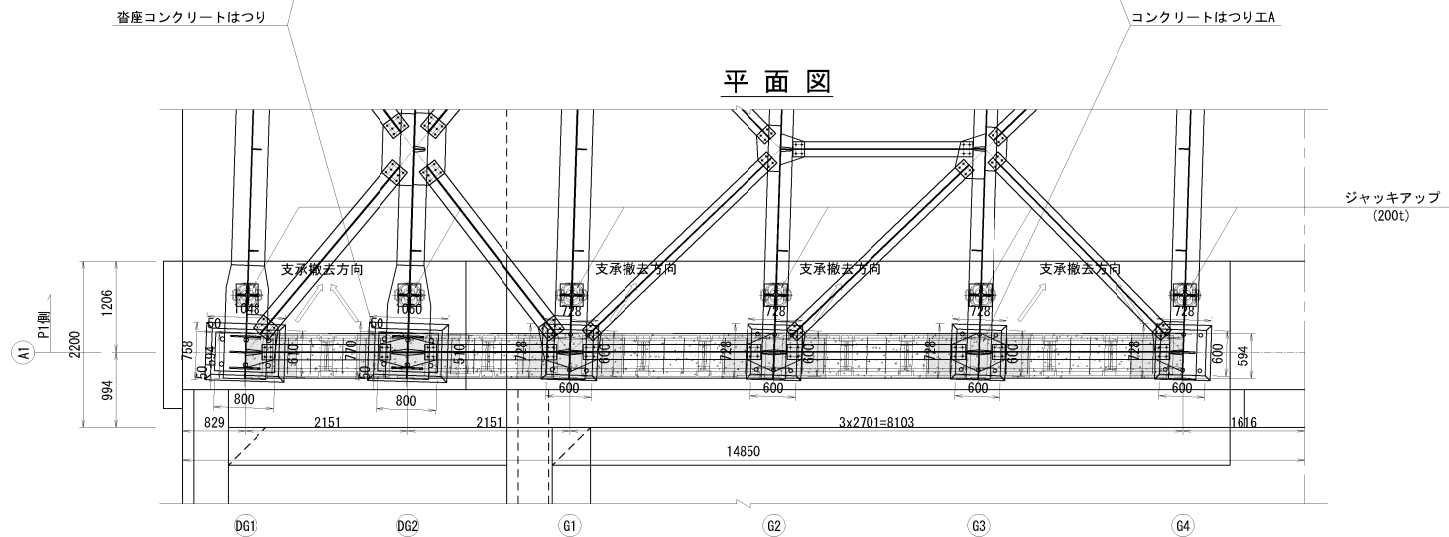
側面図(拡幅部 DG1)



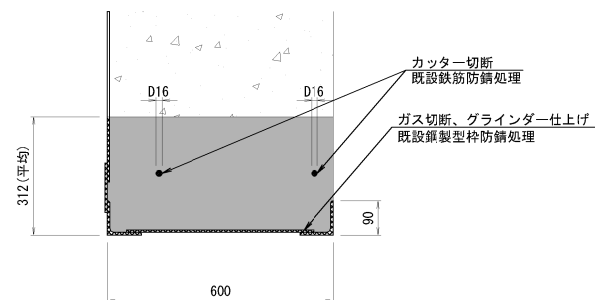
施工順番図(参考)



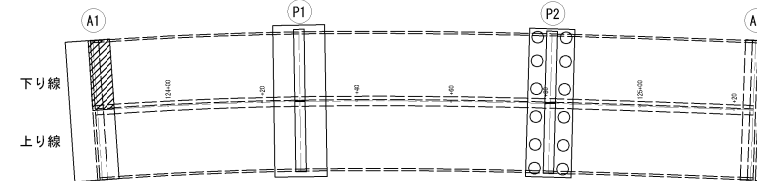
平面図



コンクリートはつり工A
防音コンクリート撤去詳細図 縮尺1:20



位置図



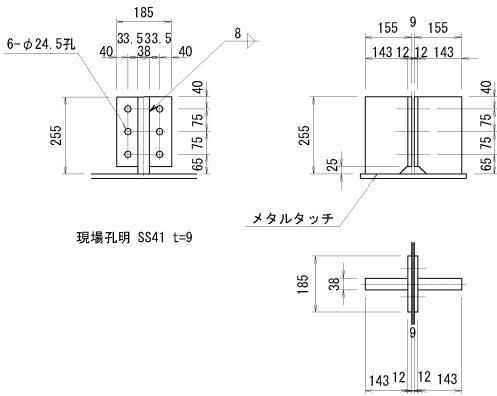
- 注 記
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
 4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱い、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 支取取替工(その2)			
縮 尺	図 示	図面番号	29 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			

上部工補強工B

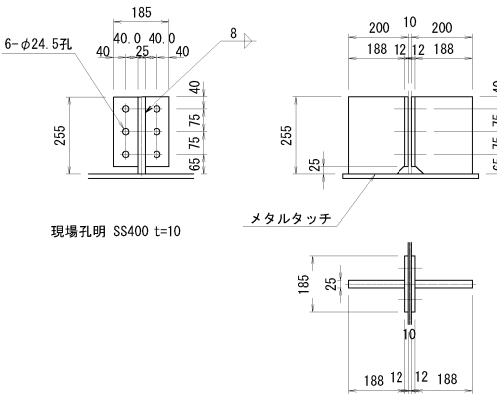
主桁補強材

支点上部補強材詳細図
(G1~G4)



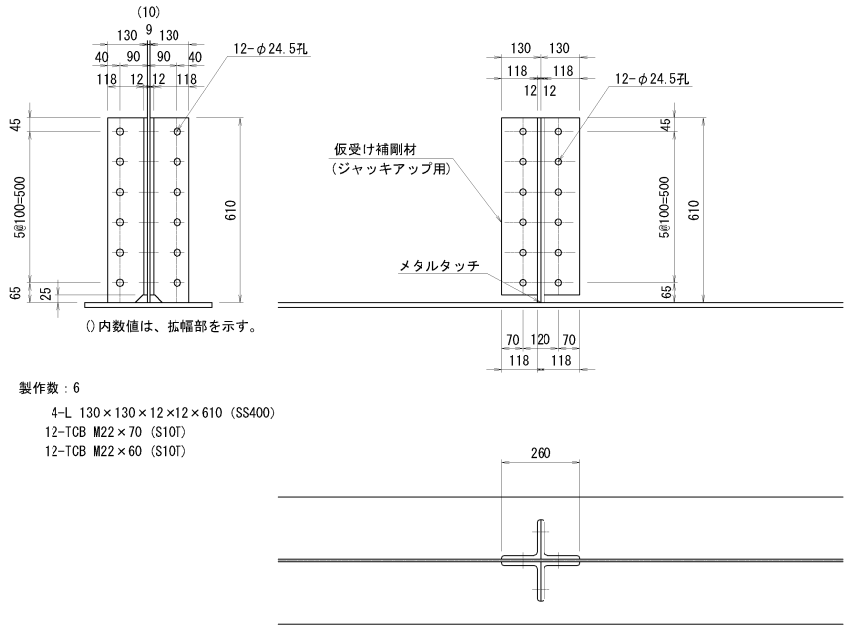
製作数 : 8
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 143×38×255 (SM400B)
6-TCB M22×70 (S10T)

支点上部補強材詳細図
(DG1, DG2)



製作数 : 4
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 188×25×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

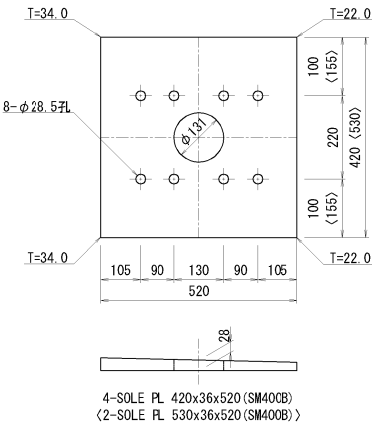
仮受け補剛材(ジャッキアップ用)



製作数 : 6
4-L 130×130×12×12×610 (SS400)
12-TCB M22×70 (S10T)
12-TCB M22×60 (S10T)

支承取替工
E-1100(1582)

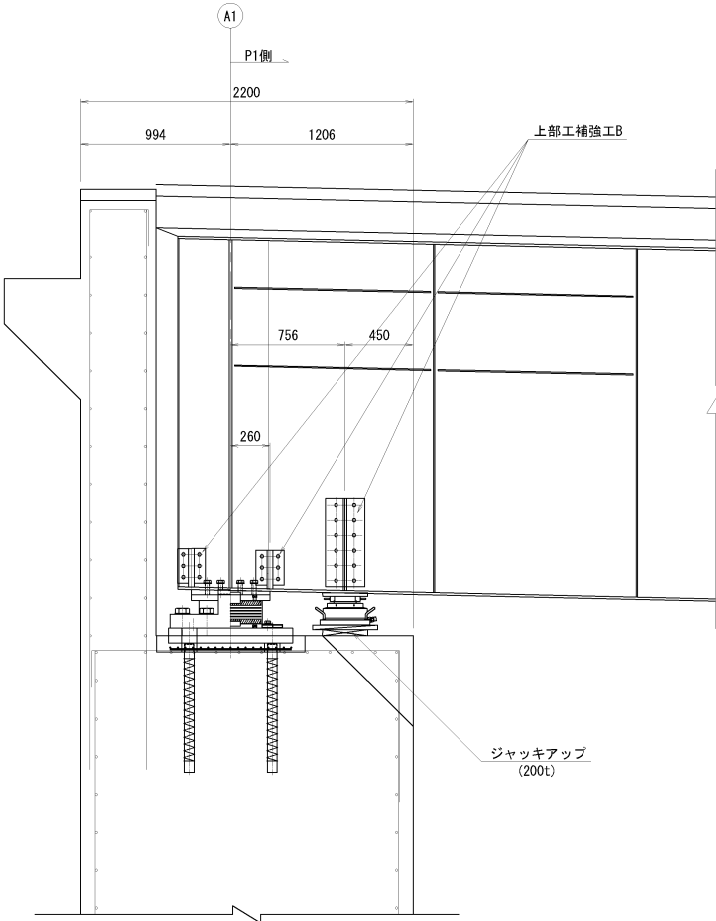
ソールプレート詳細図 縮尺1:20
(内数値は、拡幅部を示す。)



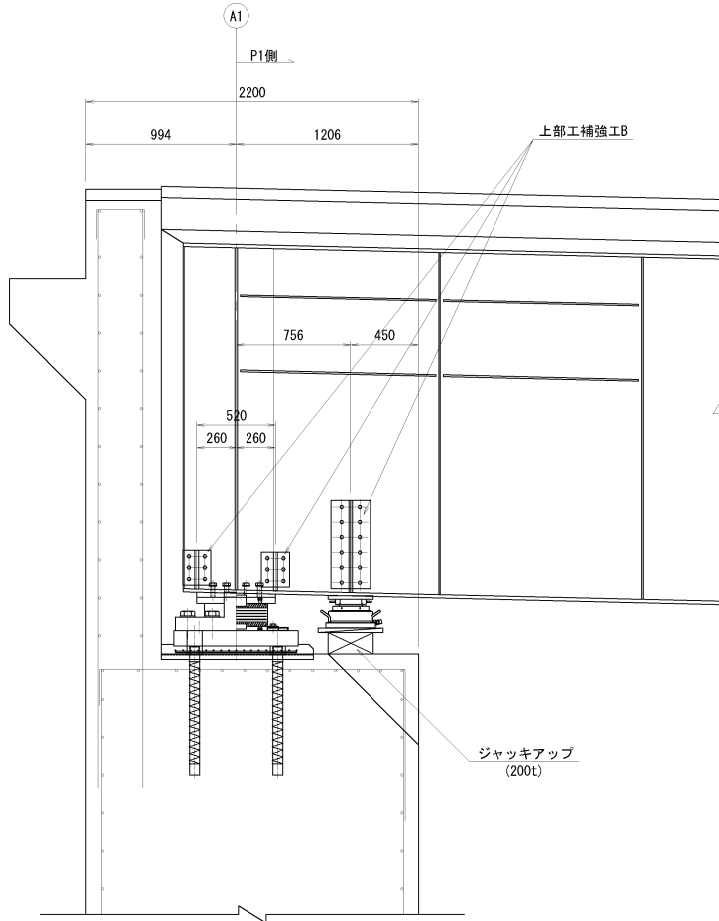
※溶融亜鉛めっき処理(膜厚は、JIS H8641 H8641 H8641とする。)

主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G1)



側面図(拡幅部 DG1)



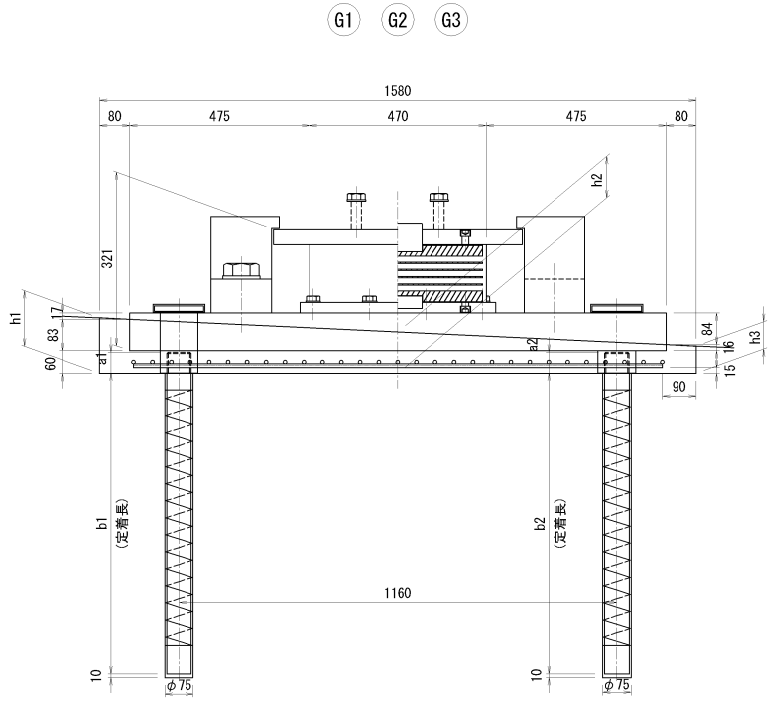
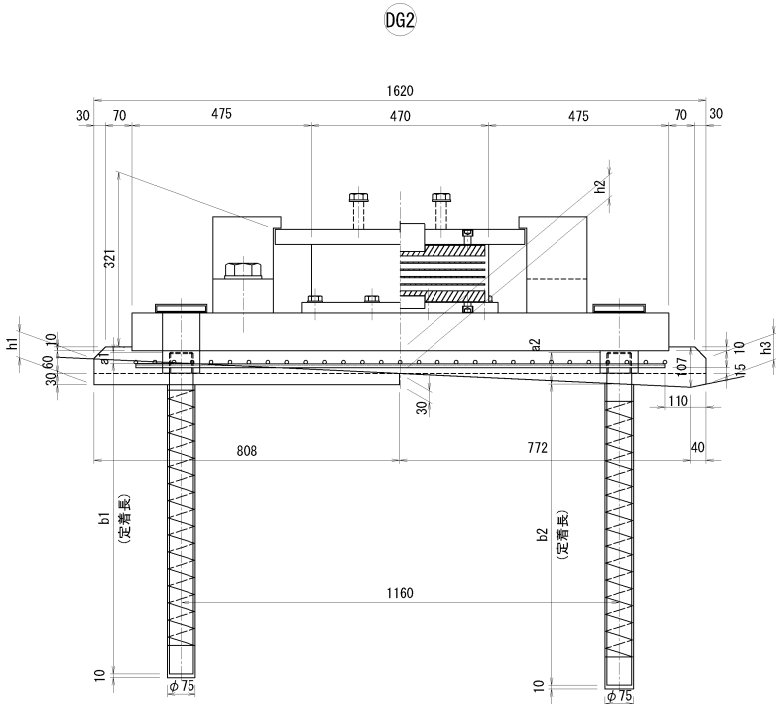
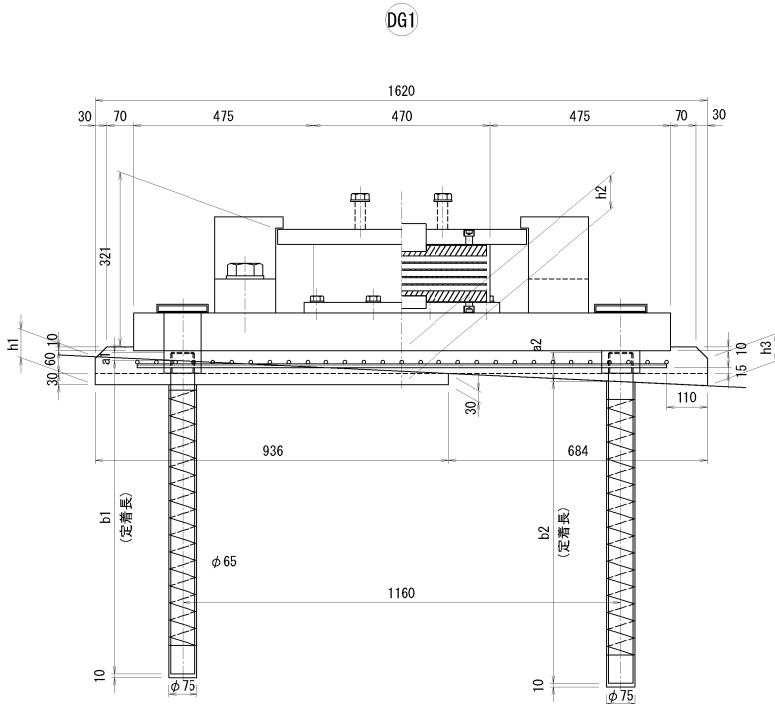
注 記
1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
2. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	30 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

支承取替工 E-1100(1582)

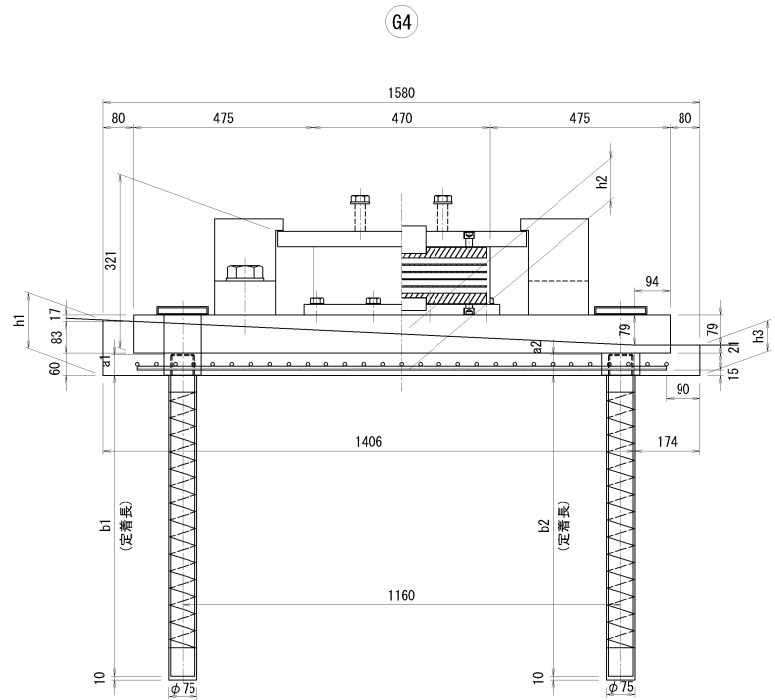
新支承設置

新支承 標準断面図 縮尺 1:20

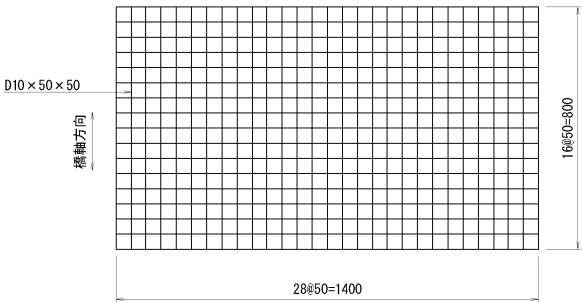


沓座格子鉄筋

支承取替工 アンカーエφ75(下方向)



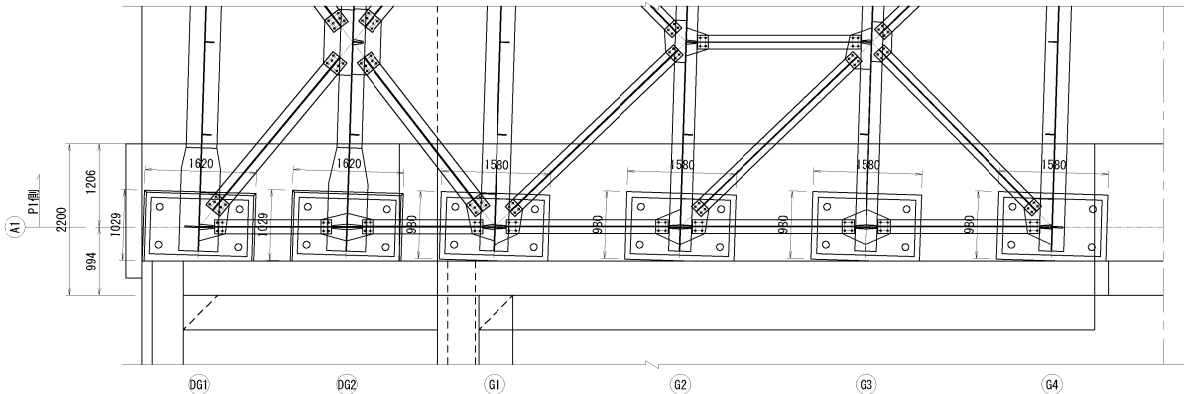
台座高				アンカー長(下り線側)				アンカー長(上り線側)			
	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a1 (mm)	b1 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a2 (mm)	b2 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)
DG1	74	90	72	23	827	850	337	78	797	875	807
DG2	68	60	68	29	821	850	331	84	796	880	806
G1	147	110	72	55	795	850	305	55	795	850	805
G2	147	110	72	55	795	850	305	55	795	850	805
G3	147	110	72	55	795	850	305	55	795	850	805
G4	147	110	81	55	795	850	305	55	795	850	805



格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計(6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	SD345 (HDZ149)	Kg	26.3	158	158	23.50Kg/m2

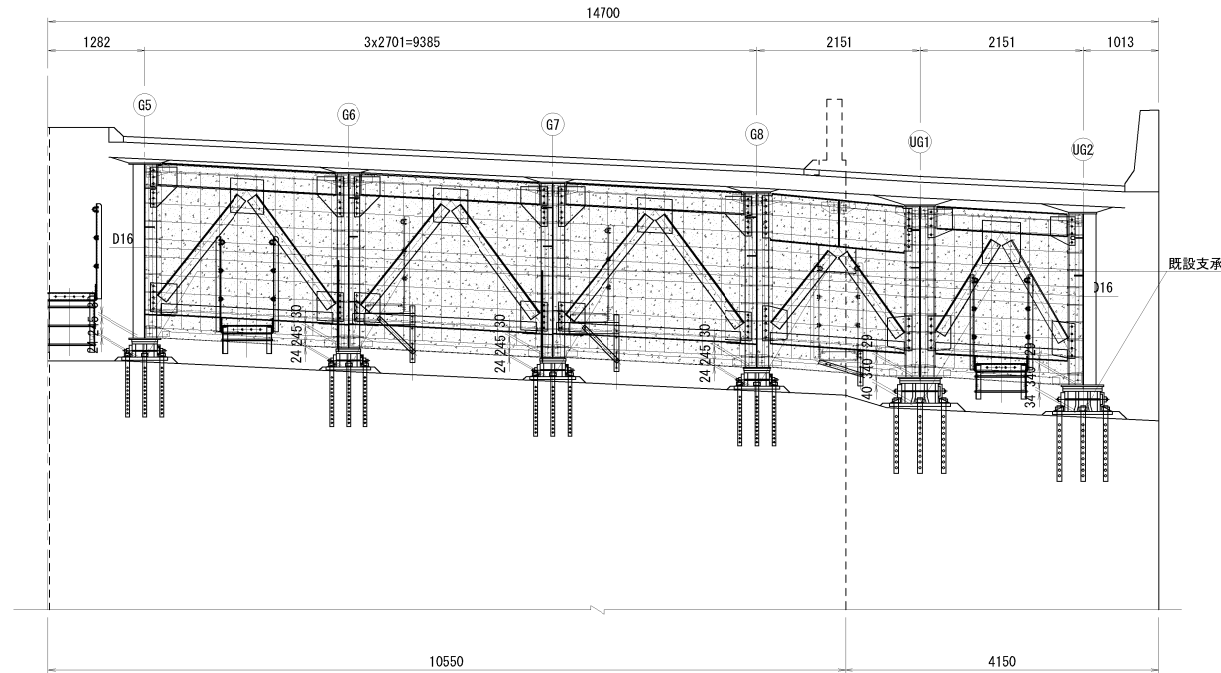
台座配置図



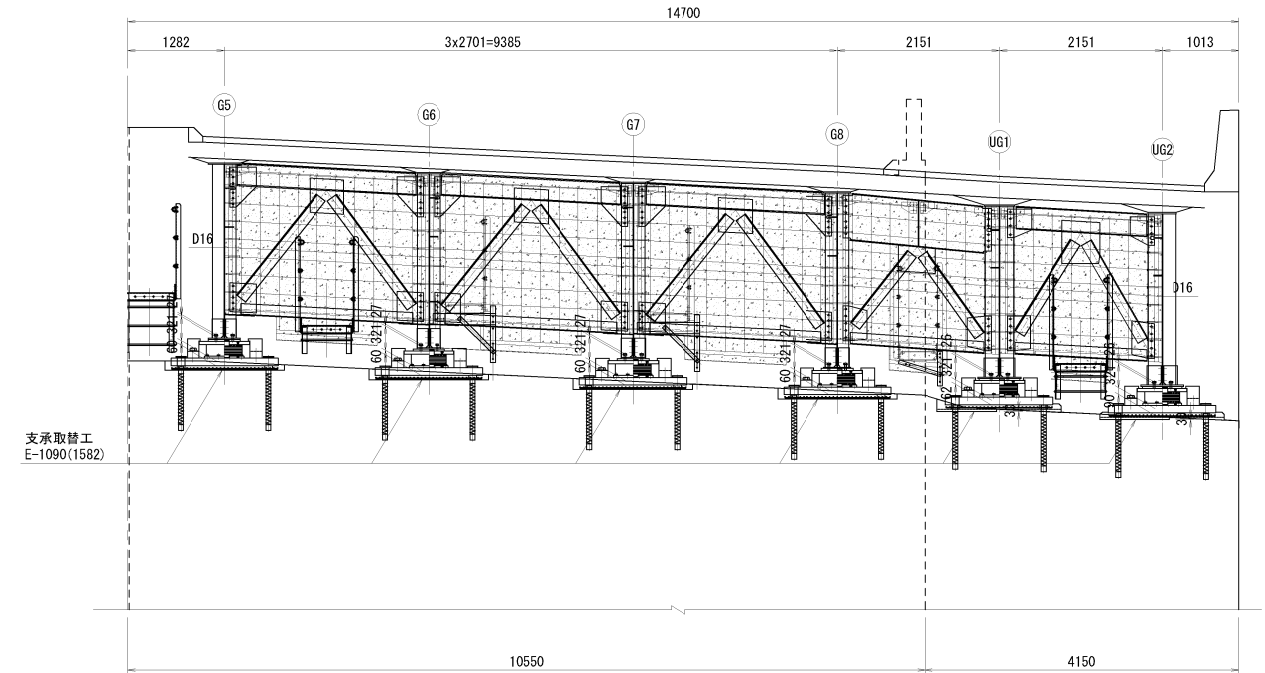
- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 支承取替工(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	31 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

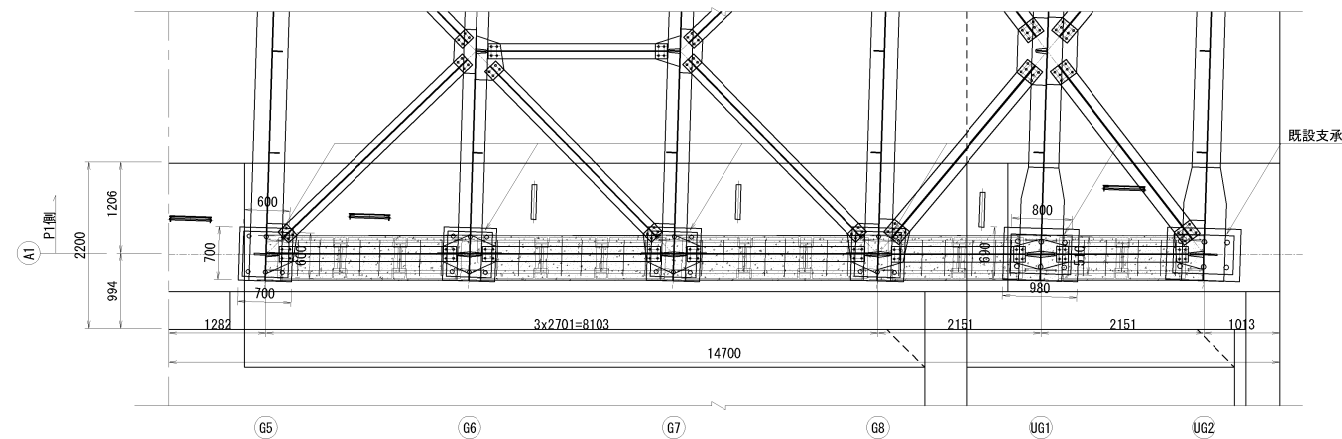
取替前
断面図



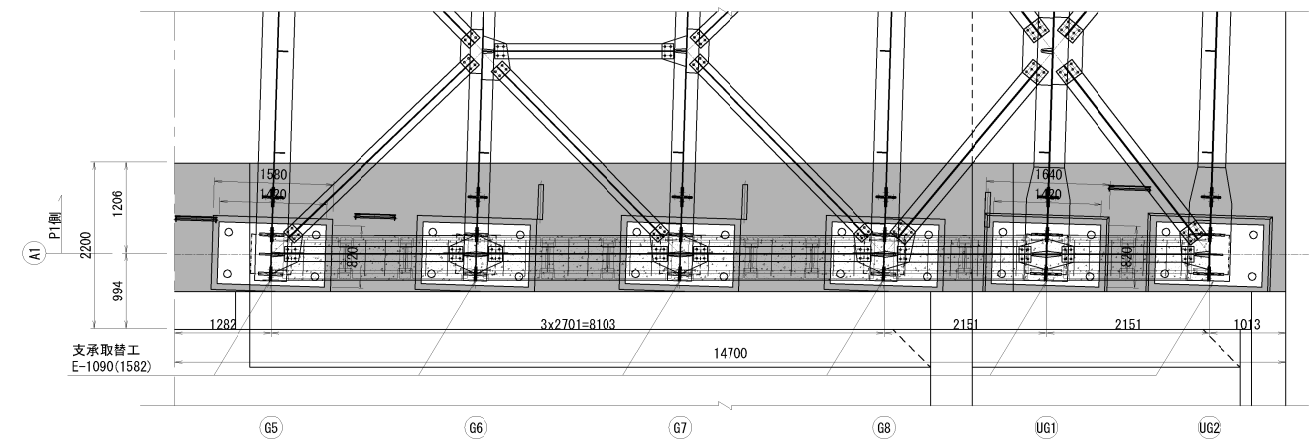
取替後
断面図



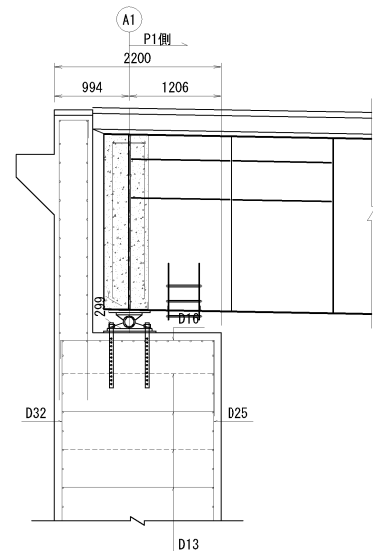
平面図



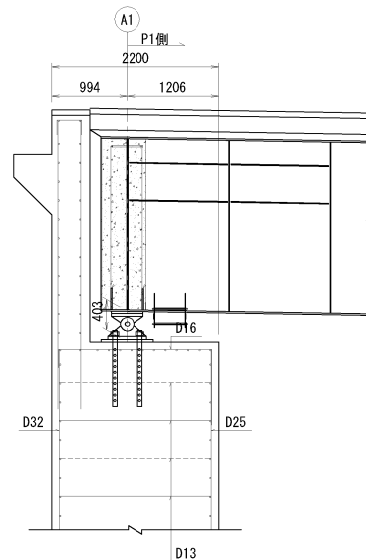
平面図



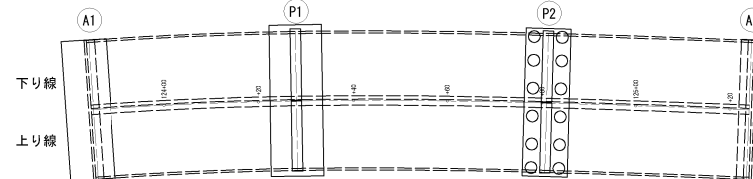
側面図(建設当初 G8)



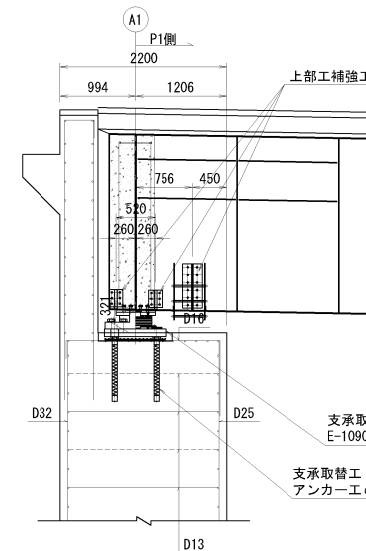
側面図(拡幅部 UG2)



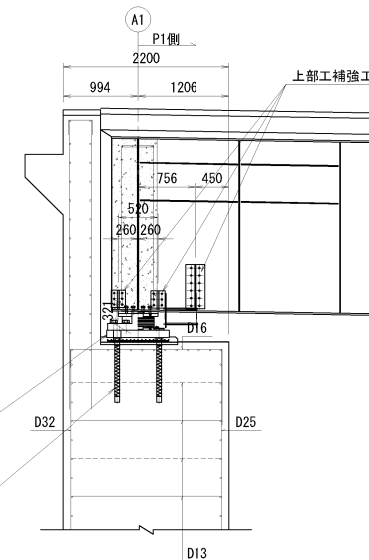
位置図



側面図(建設当初 G8)

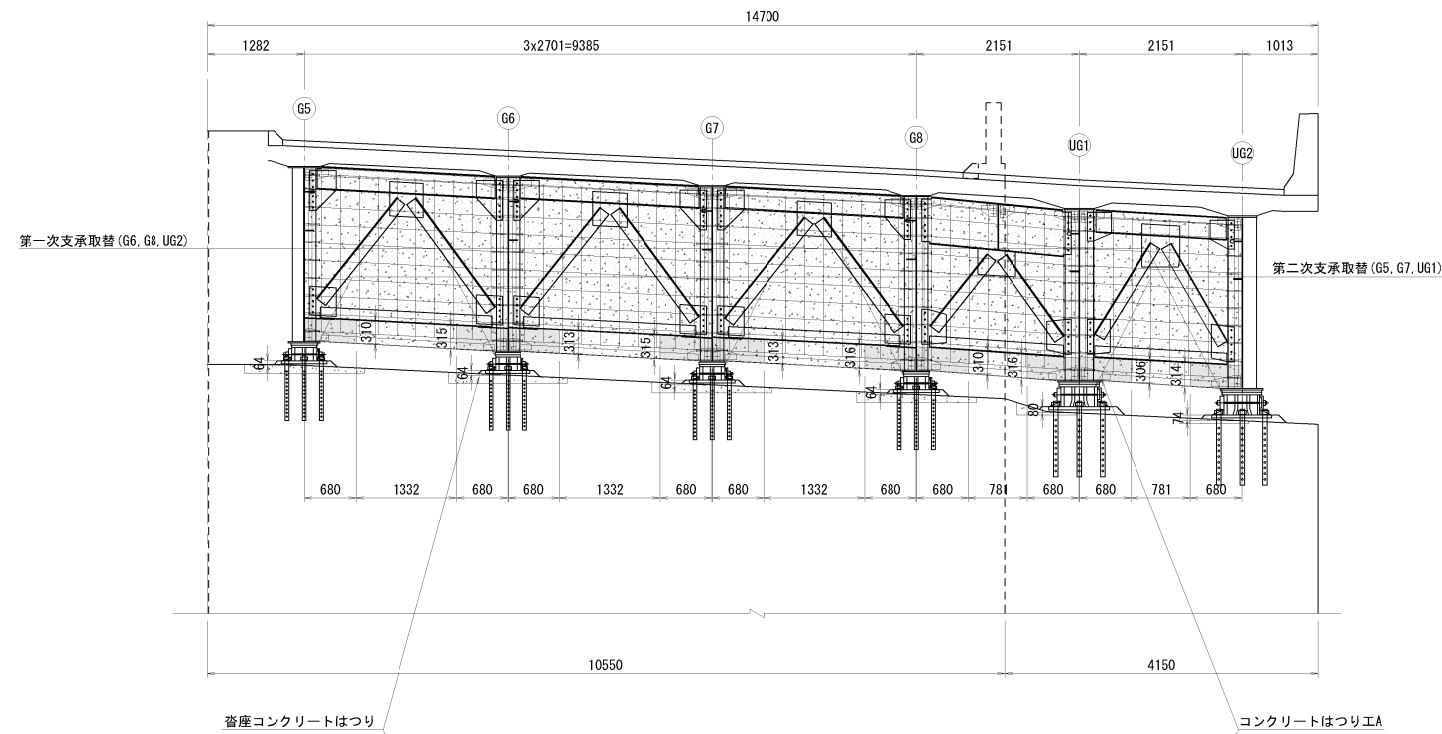


側面図(拡幅部 UG2)

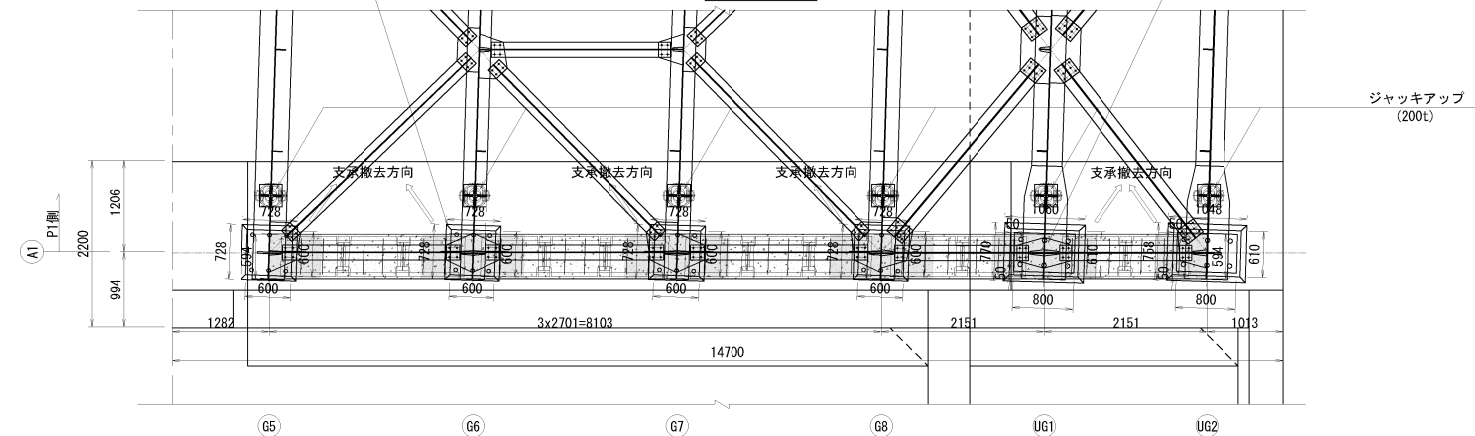


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線) 支承取替工(その1)		
縮尺	図示	図面番号	32 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

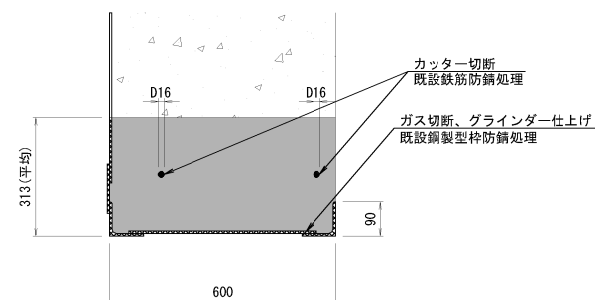
支承取替順序 断面図



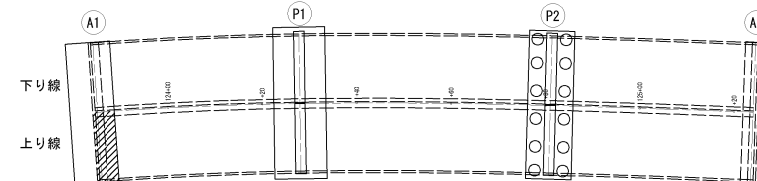
平面図



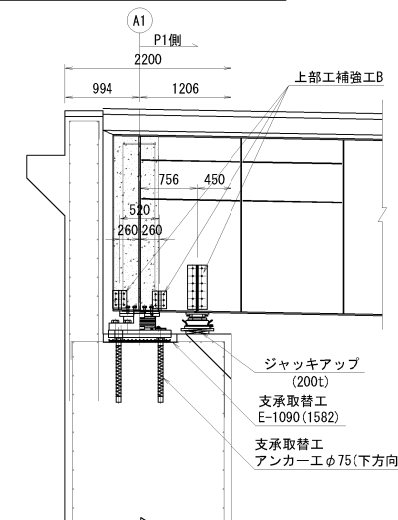
コンクリートはつりエA
防音コンクリート撤去詳細図 縮尺1:20



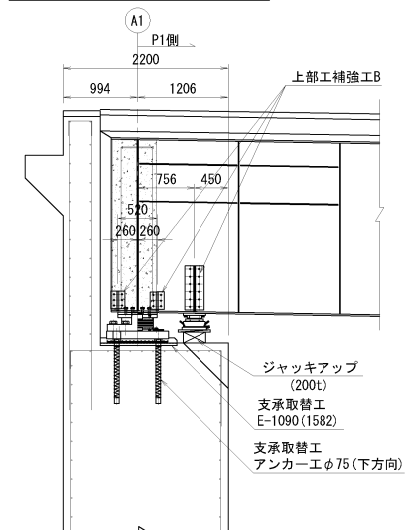
位置図



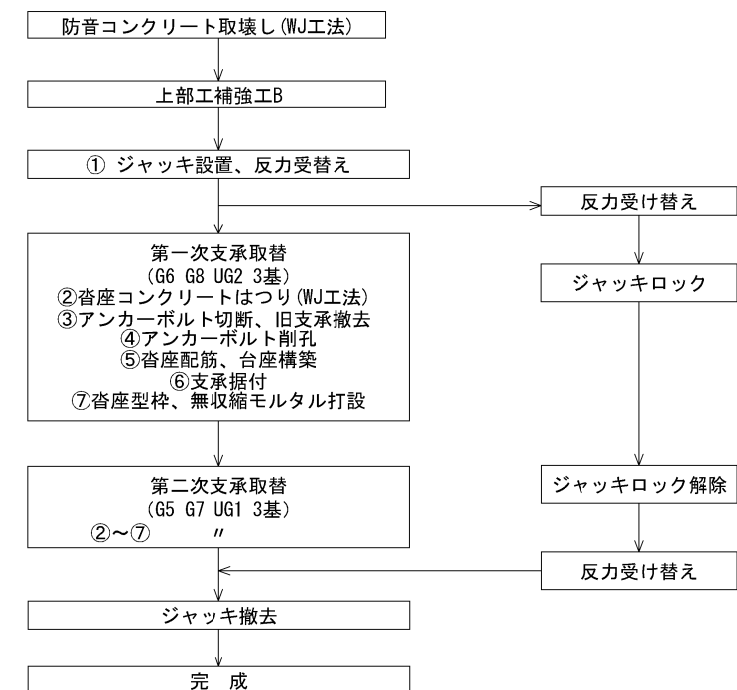
側面図(建設当初 ⑧)



側面図(拡幅部 ⑩2)



施工順番図 (参考)



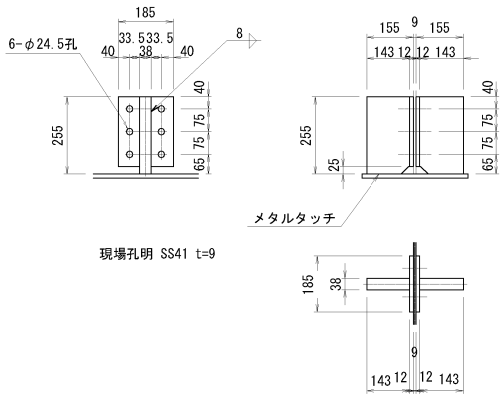
- 注 記
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
 4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱い、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線) 支承取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	33 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

上部工補強工B

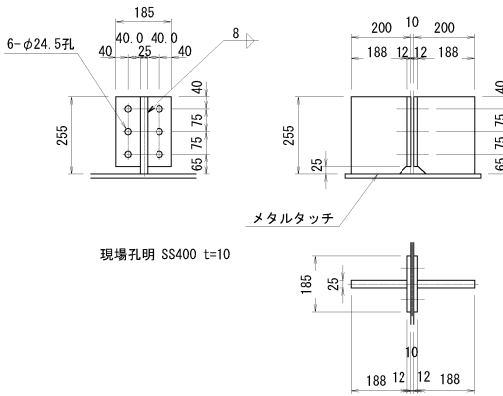
主桁補強材

支点上部補強材詳細図
(G5~G8)



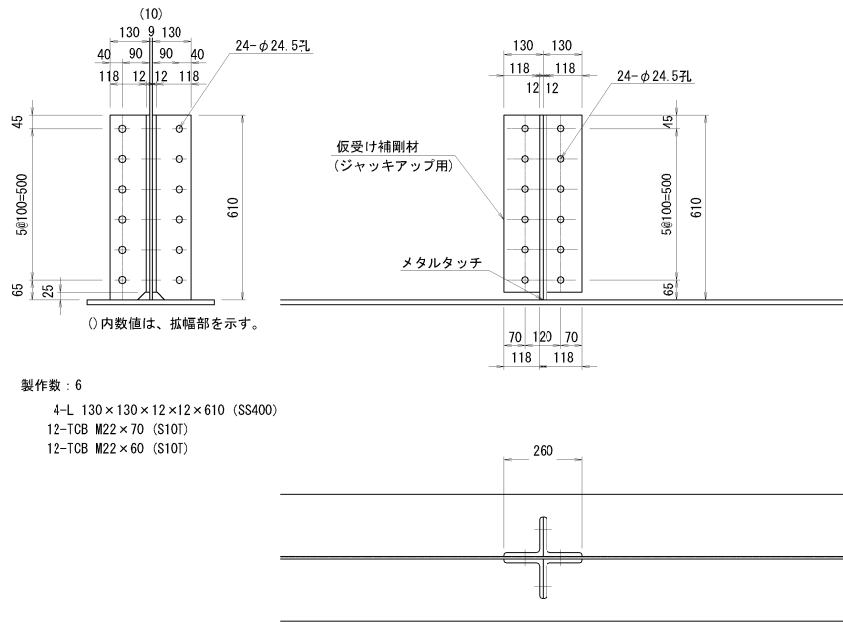
製作数 : 8
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 143×38×255 (SM400B)
6-TCB M22×70 (S10T)

支点上部補強材詳細図
(UG1, UG2)



製作数 : 4
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 188×25×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

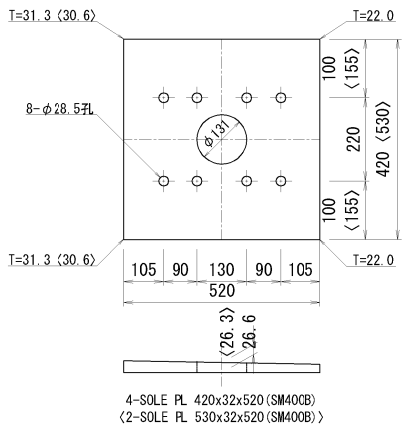
仮受け補剛材(ジャッキアップ用)



製作数 : 6
4-L 130×130×12×12×610 (SS400)
12-TCB M22×70 (S10T)
12-TCB M22×60 (S10T)

支承取替工
E-1090(1582)

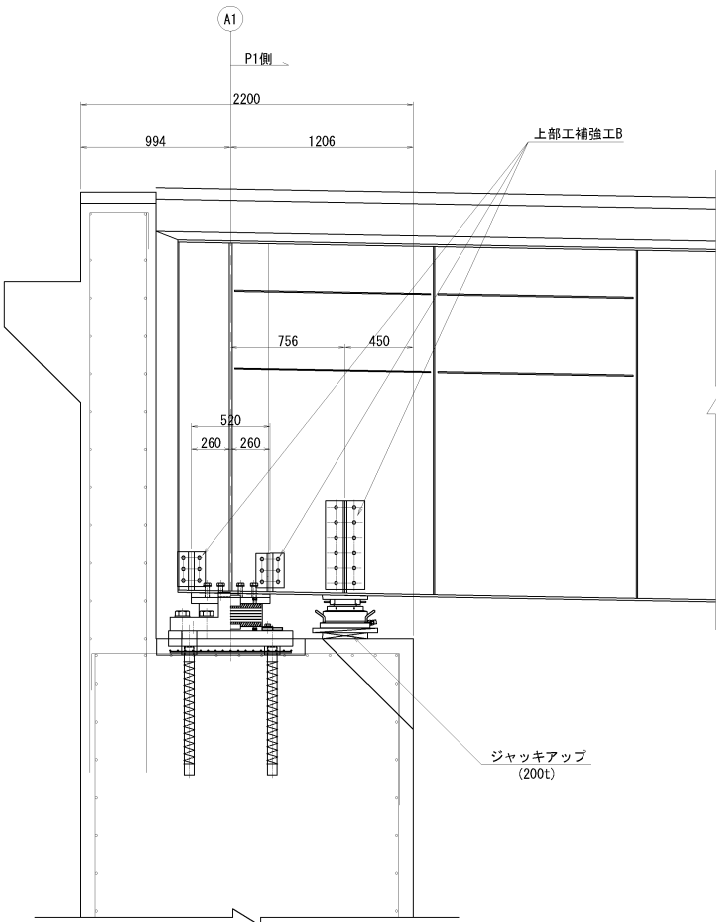
ソールプレート詳細図 縮尺1:20
(内数値は、拡幅部を示す。)



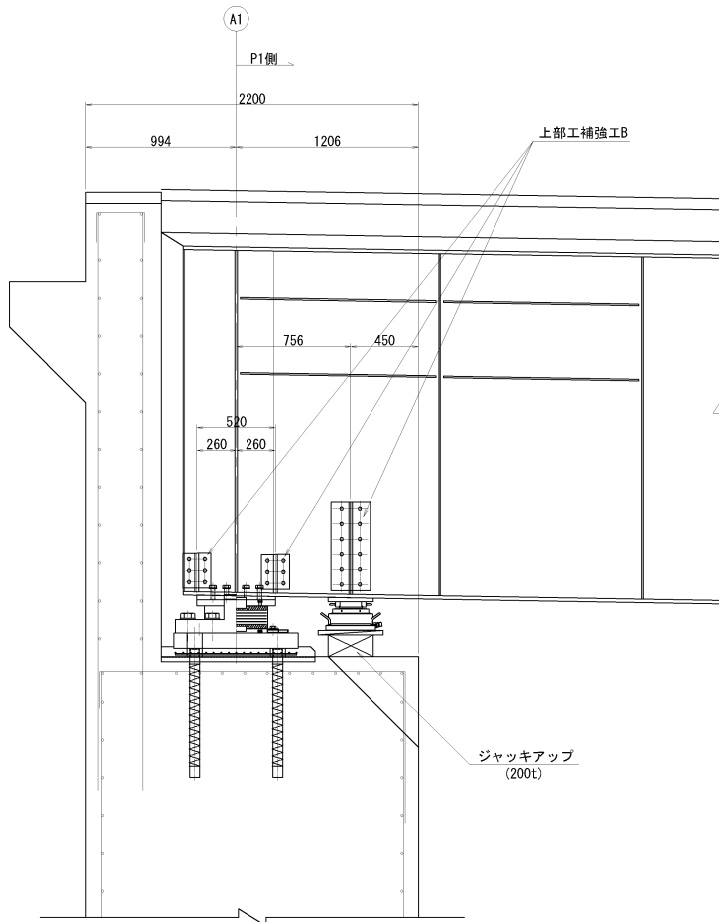
※溶融亜鉛めっき処理 (膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。)

主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G8)



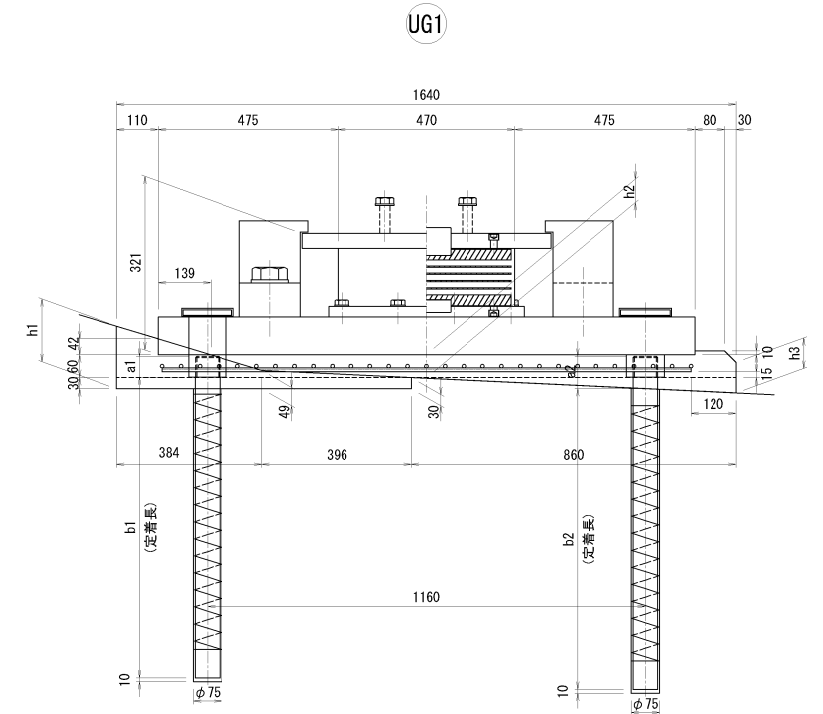
側面図(拡幅部 UG2)



注 記
1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
2. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	34 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

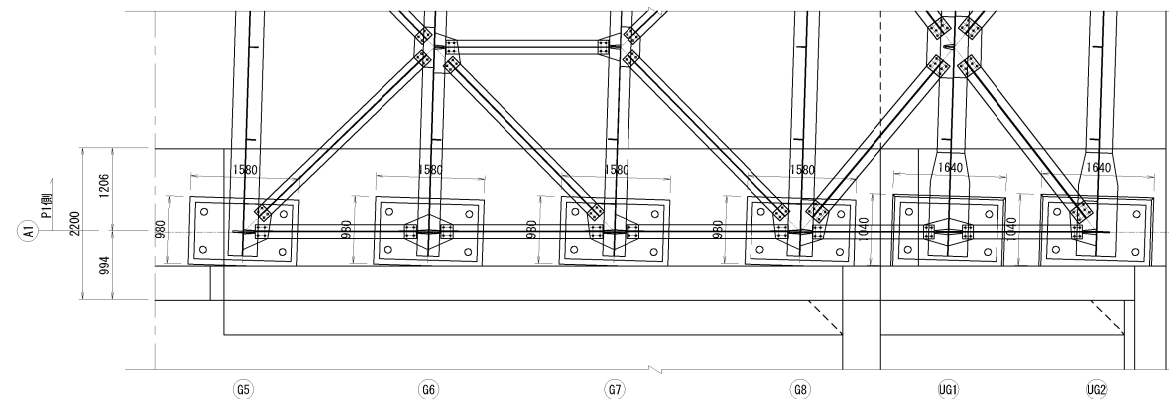
新支承 標準断面図 縮尺 1:20



沓座格子鉄筋

Figure 1 illustrates the reinforcement layout of the slab. The horizontal dimension is 28@50=1400, and the vertical dimension is 16@50=800. The reinforcement bars are labeled D10 x 50 x 50. The direction of the slab surface is indicated by the label 板面方向.

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計 (6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	SD345 (HDZT49)	Kg	26.3	158	158	23.50Kg/㎡

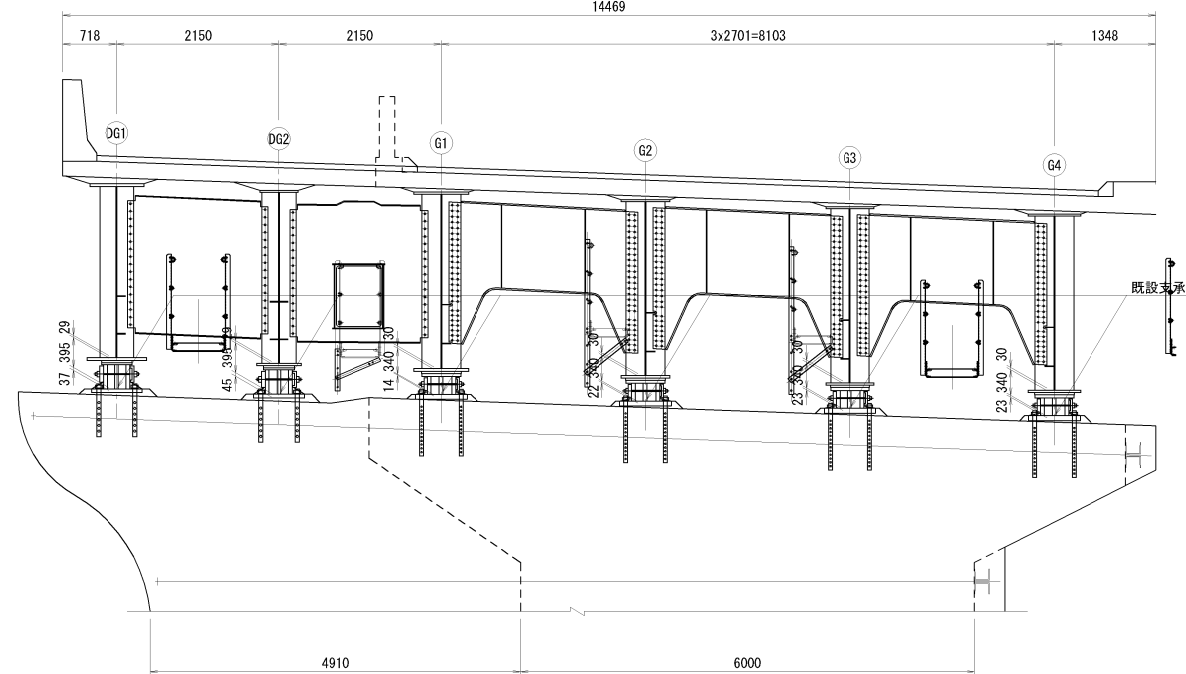


注記)

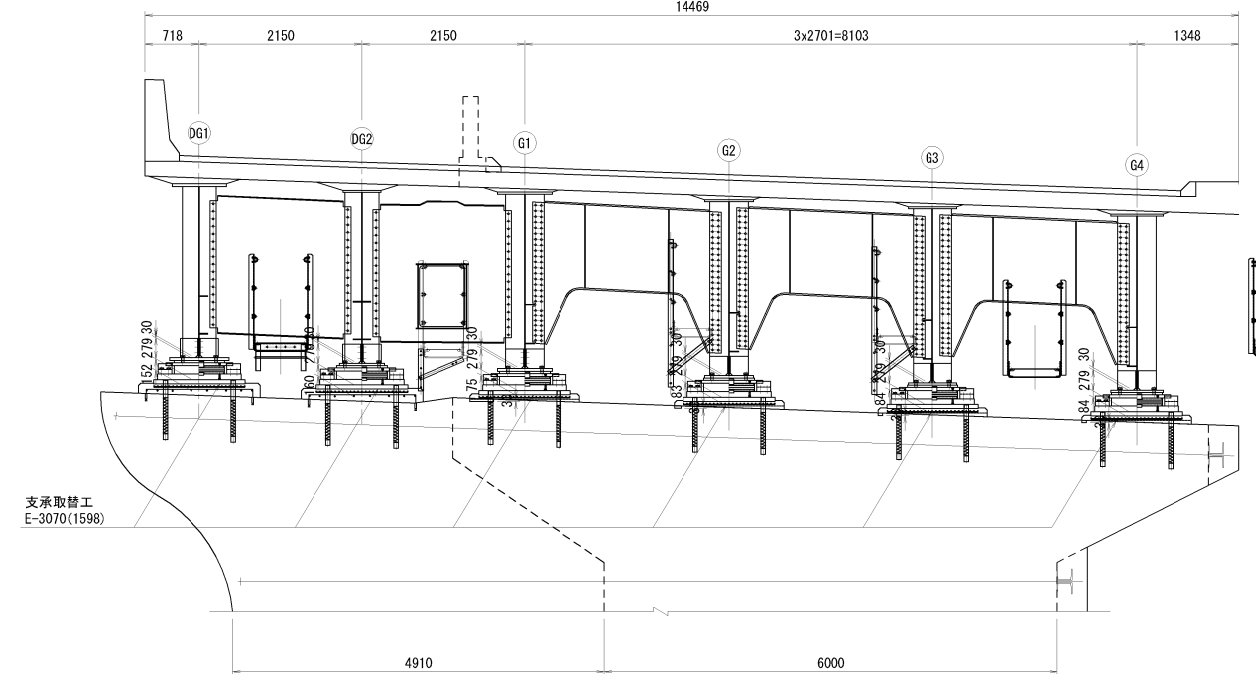
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線) 支承取替工(その他)		
縮 尺	図 示	図面番号	35 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

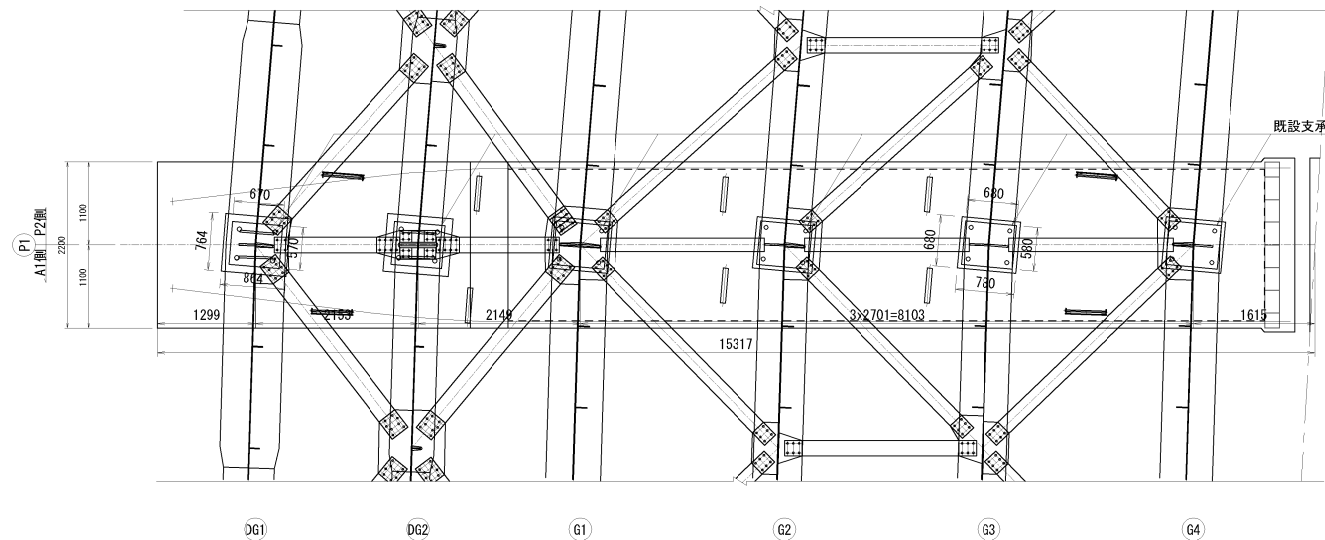
取替前
断面図



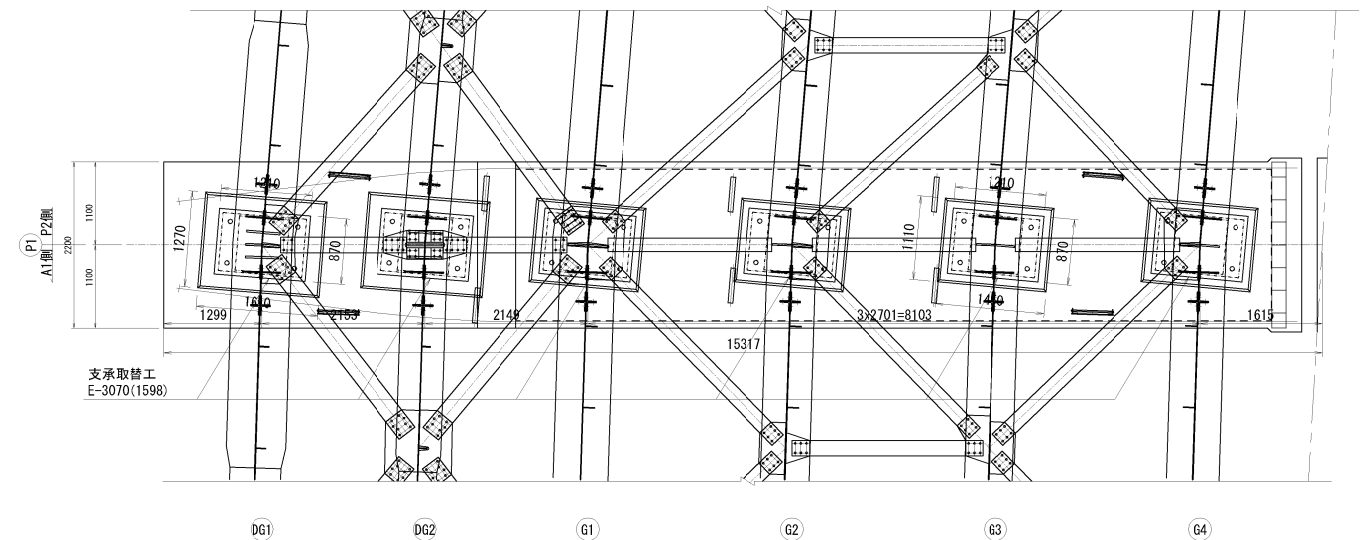
取替後
断面図



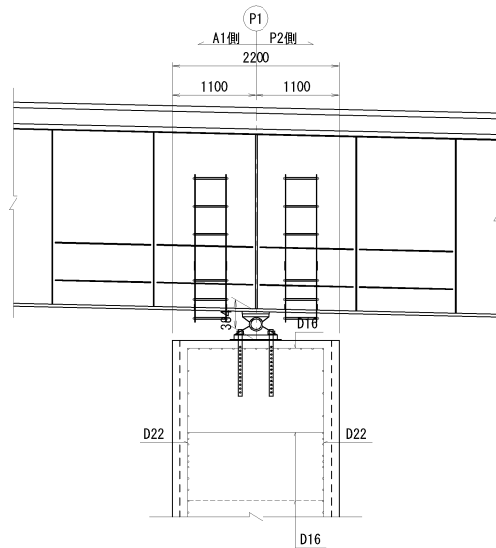
平面図



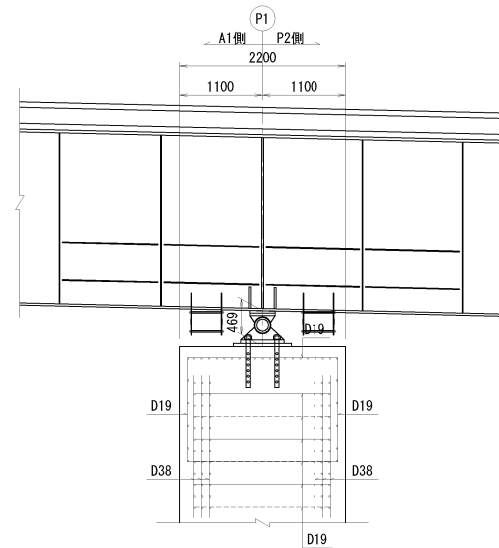
平面図



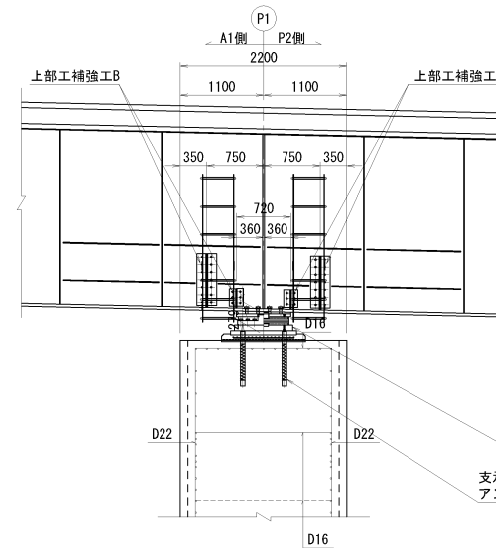
側面図(建設当初 G1)



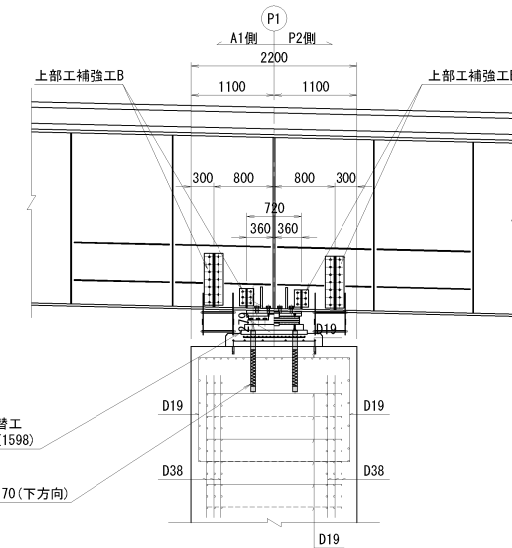
側面図(拡幅部 DG2)



側面図(建設当初 G1)

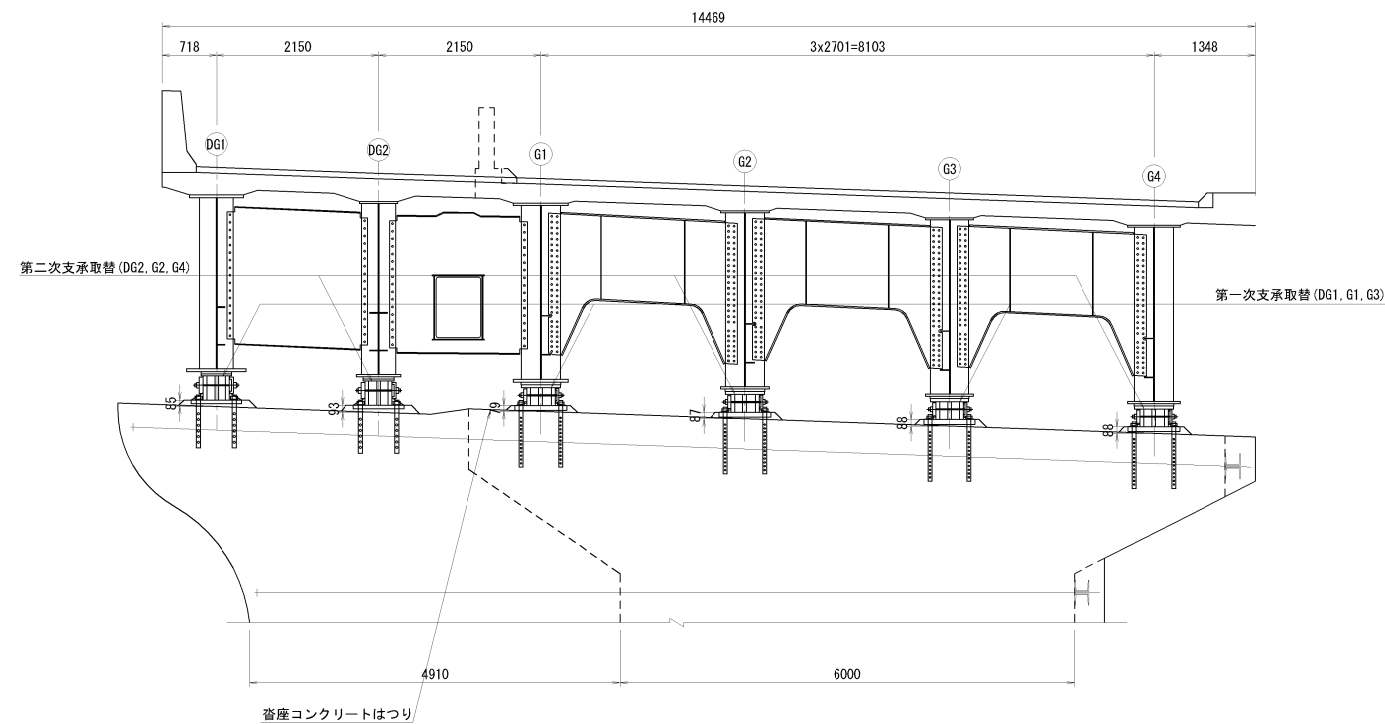


側面図(拡幅部 DG2)

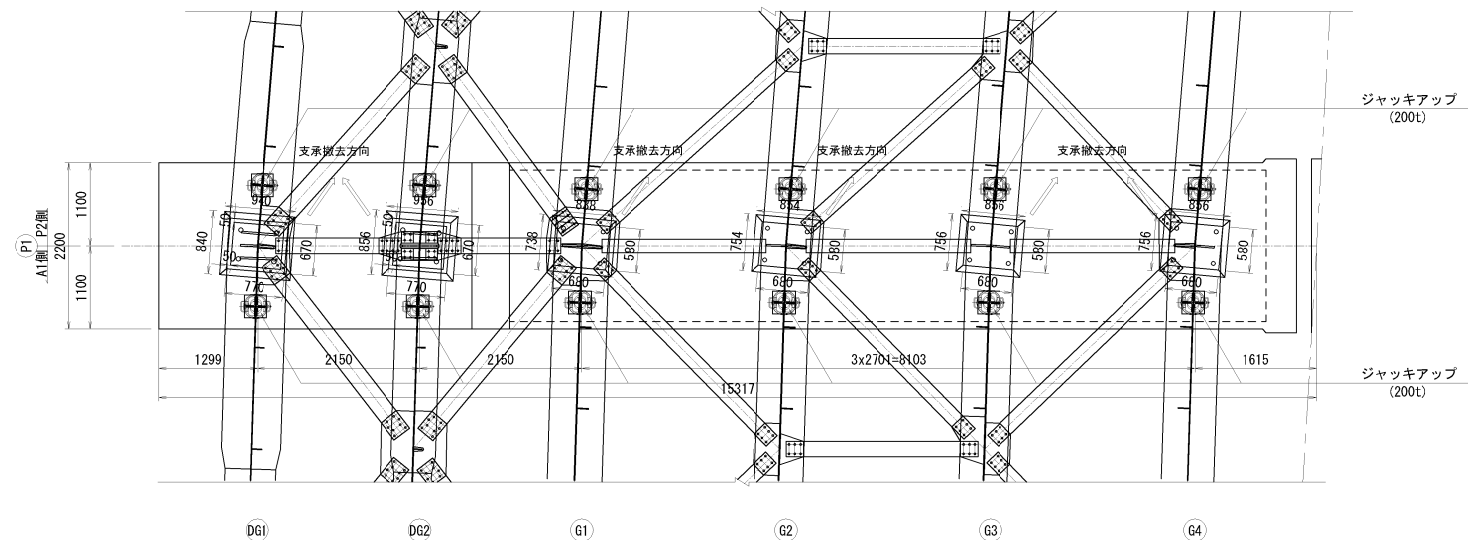


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線) 支承取替工(その1)		
縮尺	図示	図面番号	36 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

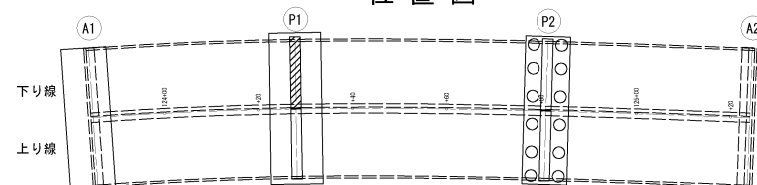
支承取替順序 断面図



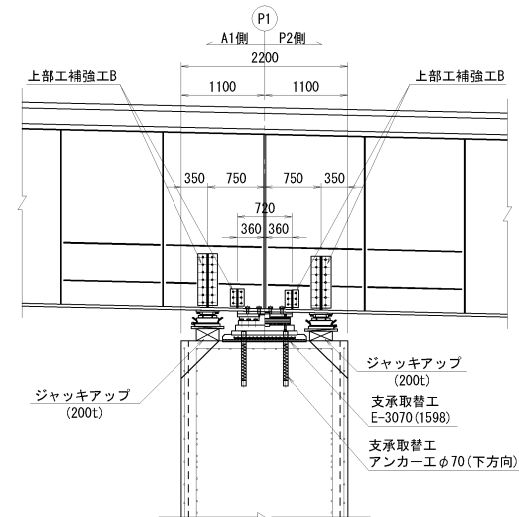
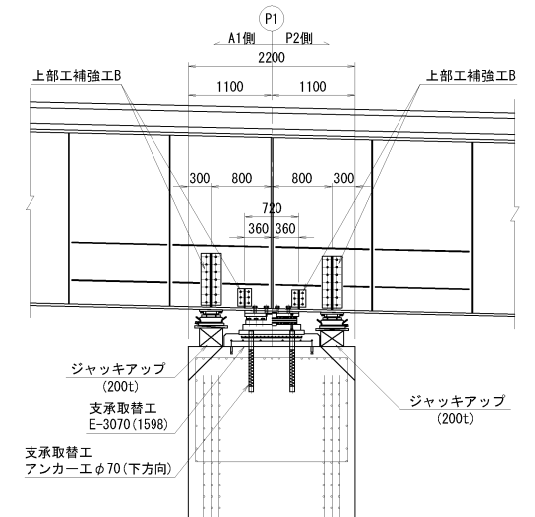
平面图



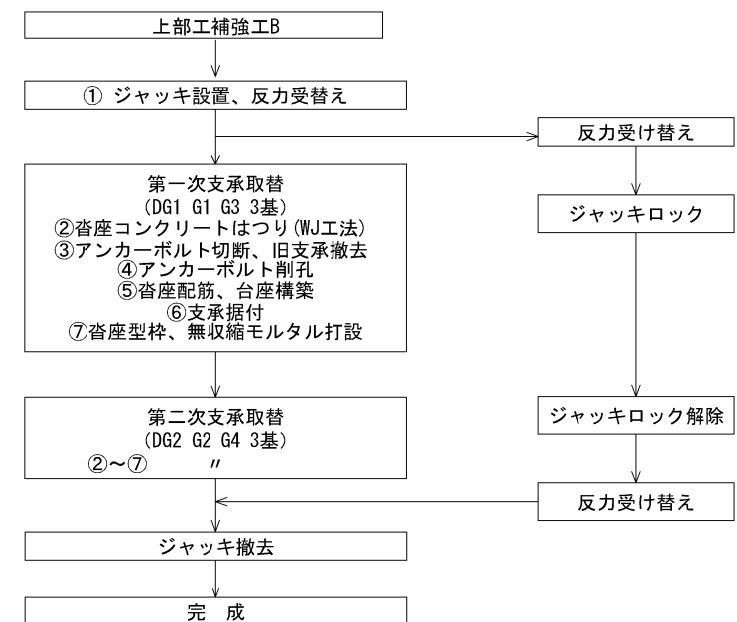
位置図



側面図(建設当初 ①G1)

側 面 図 (拡 幅 部 $\textcircled{\text{DG2}}$)

施工順番図(参考)



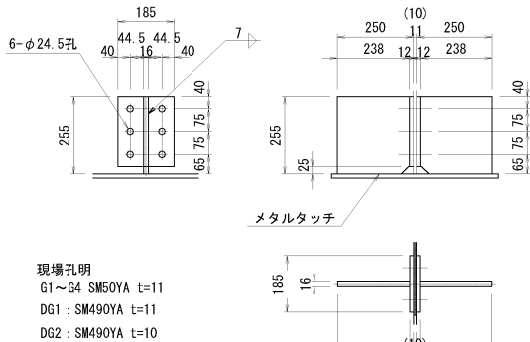
注 記

1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱い、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 金利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線) 支取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	37 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

主桁補強材

支点上部補強材詳細図
(G1~G4, DG1, DG2)



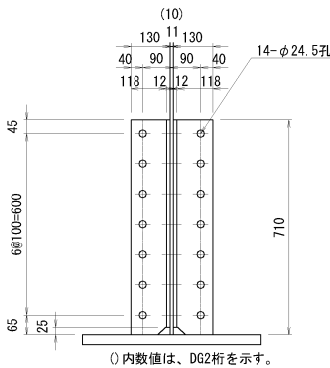
現場孔明
G1~G4 SM50YA t=11
DG1 : SM490YA t=11
DG2 : SM490YA t=10

製作数 : 12
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 238×16×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

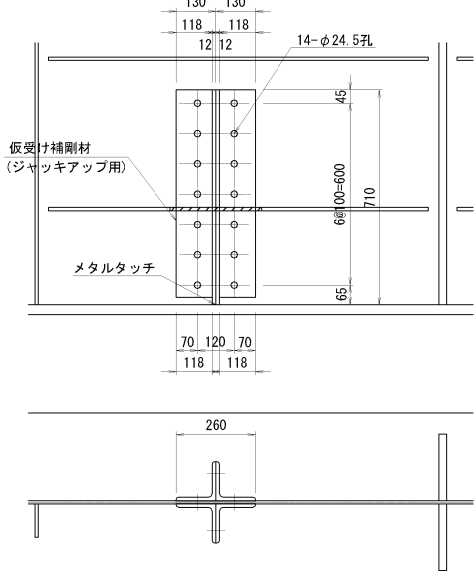
○内数値は、DG2桁を示す。

上部工補強工B

仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

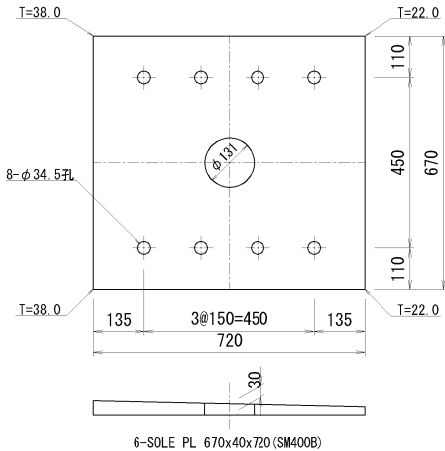


製作数 : 12
4-L 130×130×12×12×710 (SS400)
14-TCB M22×70 (S10T)
14-TCB M22×60 (S10T)



支承取替工
E-3070(1598)

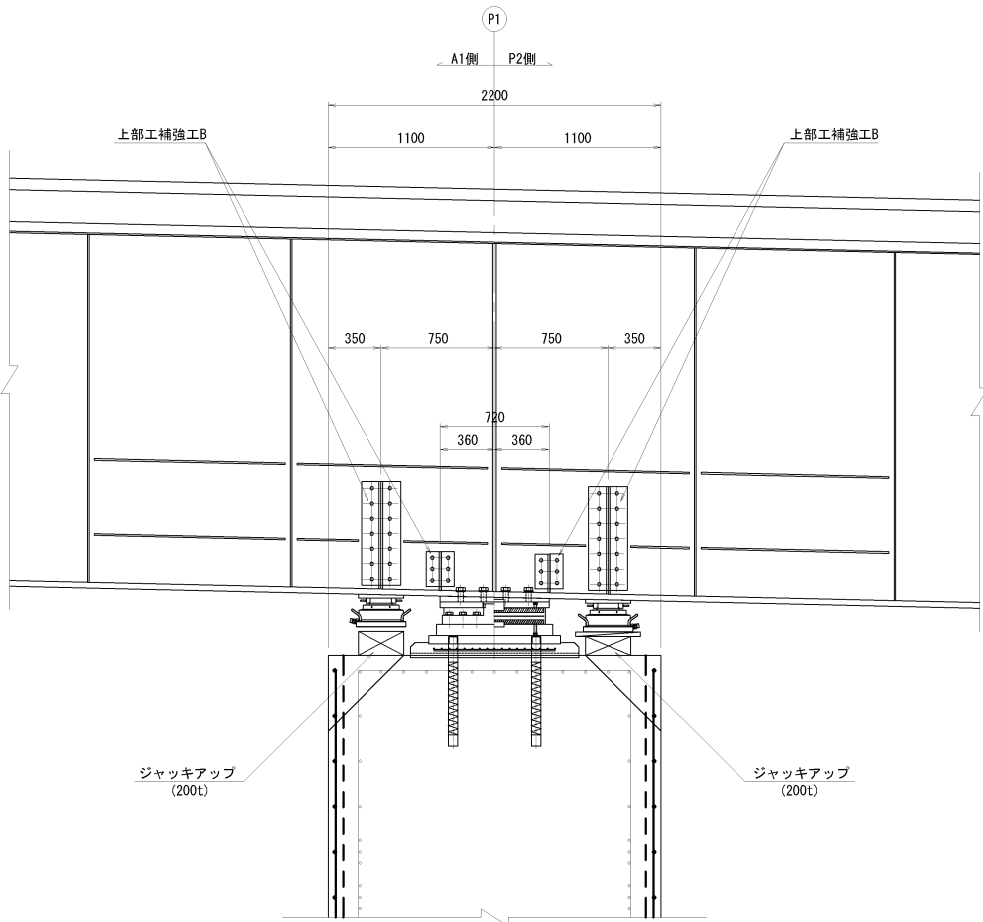
ソールプレート詳細図 縮尺1:20



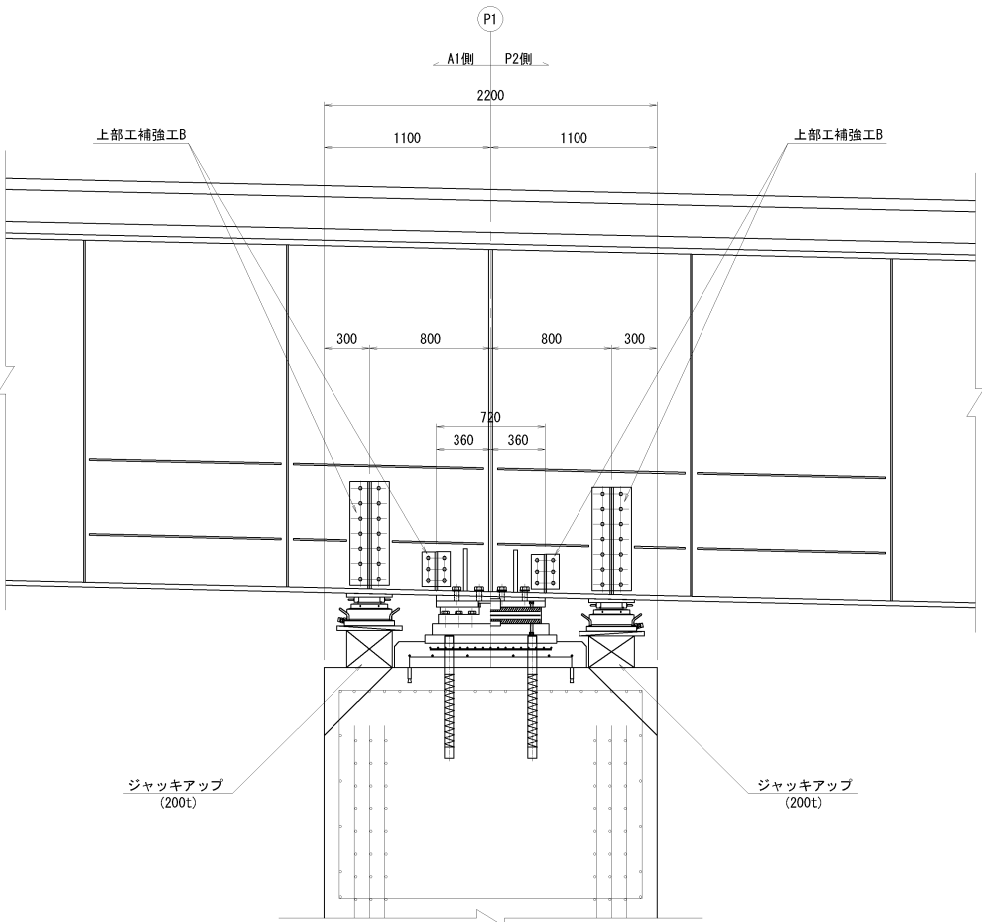
※溶融亜鉛めっき処理 (膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。)

主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G1)



側面図(拡幅部 DG2)



注 記
1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
2. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	38 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

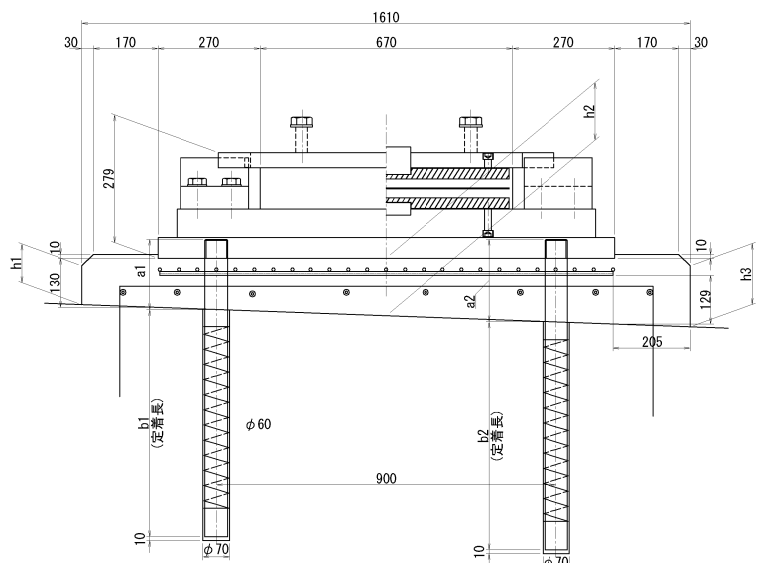
釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線)支承取替工(その4)

支承取替工 E-3070(1598)

新支承設置

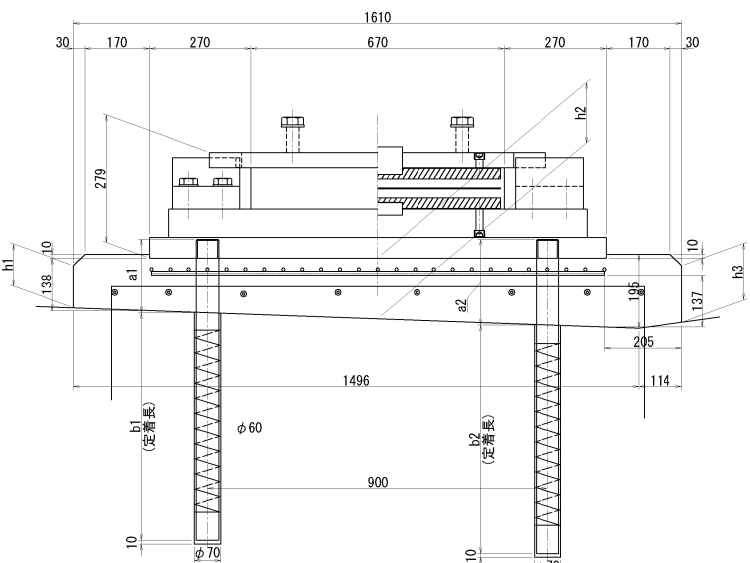
新支承 標準断面図 縮尺 1:20

DG1



沓座配筋図 (DG1)

DG2



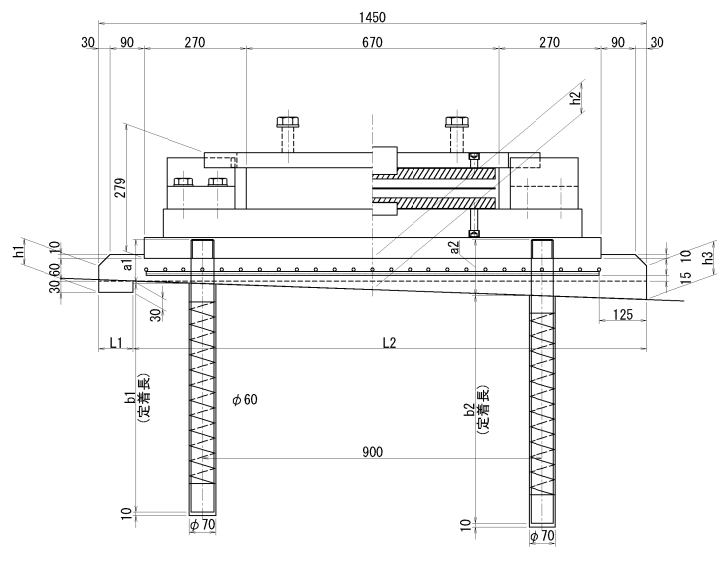
沓座配筋図 (DG2)

G1

G2

G3

G4



沓座格子鉄筋

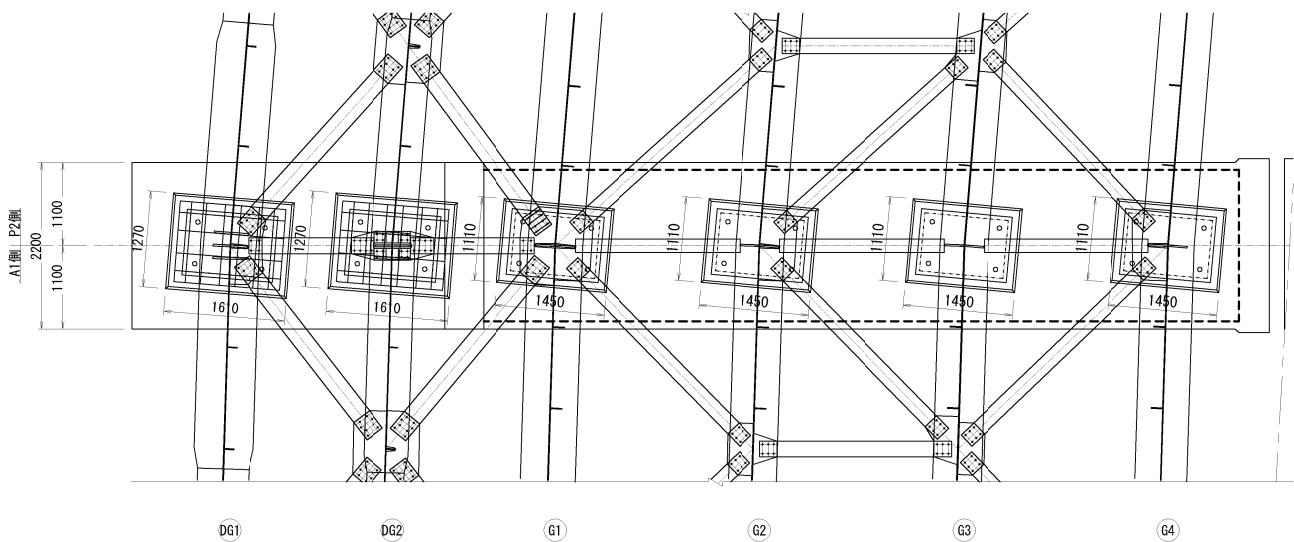
支承取替工 アンカー工φ70(下方向)

	台座高			アンカー長(下り線側)				アンカー長(上り線側)				はつり長	
	h1(mm)	h2(mm)	h3(mm)	a1(mm)	b1(mm)	アンカー長(mm)	剛孔長(mm)	a2(mm)	b2(mm)	アンカー長(mm)	剛孔長(mm)	L1(mm)	L2(mm)
DG1	103	152	161	185	600	785	610	218	602	820	612	-	-
DG2	111	160	149	193	602	795	612	226	604	830	614	-	-
G1	70	75	81	109	601	710	611	141	604	745	614	313	1137
G2	70	83	89	117	603	720	613	149	601	750	611	90	1360
G3	70	84	90	118	602	720	612	150	600	750	610	62	1388
G4	70	84	90	118	602	720	612	150	600	750	610	62	1388

格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計(6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	SD345 (HDZT49)	Kg	22.6	136	136	23.5/Kg/m2

台座配置図



- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線) 支承取替工(その4)		
縮尺	図示	図面番号	39 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

鉄筋加工寸法表

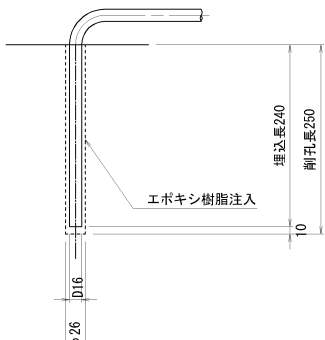
径	主筋		半円径フック		スターラップ		直角フック	
	θ ≤ 90°	θ > 90°	θ = 45°	θ = 60°	θ = 90°	θ = 135°	θ = 45°	θ = 60°
D16	48	88	113	119	100	66	75	21

鉄筋質量表

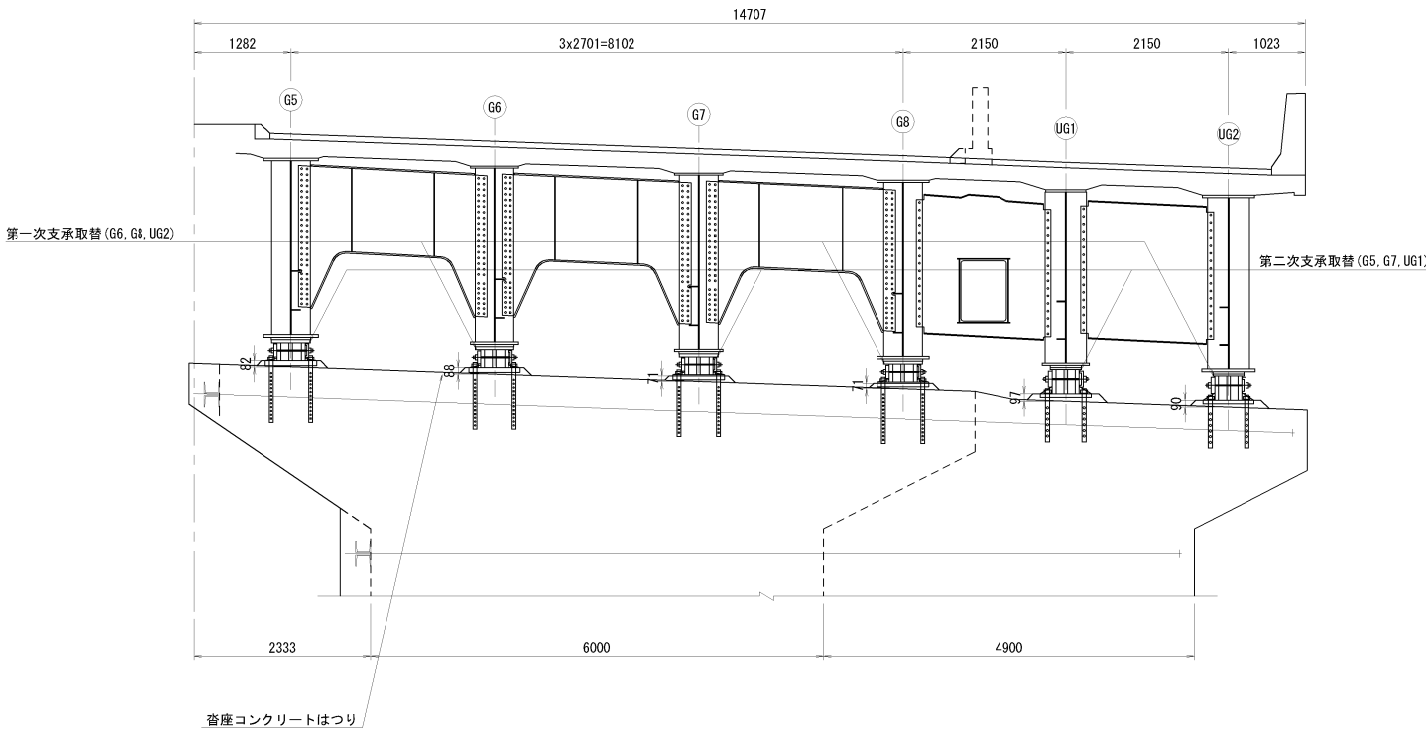
記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
S1	D16	850	24	1.56	1.33	32	差筋AK
S2	D16	840	24	1.56	1.31	31	差筋AK
S3	D16	1070	16	1.56	1.67	27	—
S4	D16	1410	12	1.56	2.20	26	—
							116 kg
D16				63 kg	(差し筋アンカー)		
合計 D16				53 kg			
総質量				116 kg			

支承取替工 アンカー工φ26(下方向)

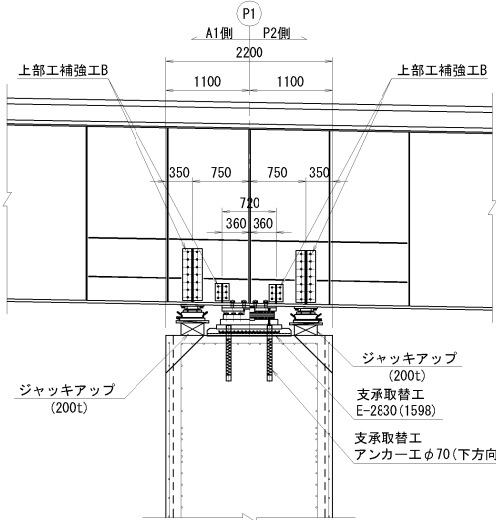
台座補強筋アンカー 詳細図 1:20



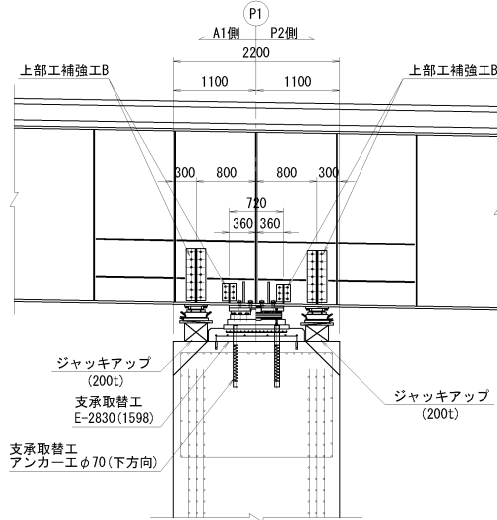
支承取替順序 断面図



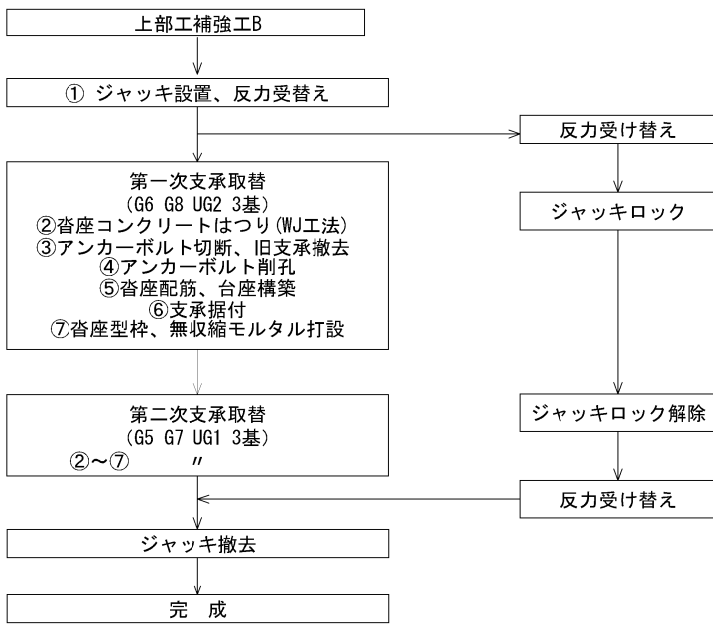
側面図(建設当初 G8)



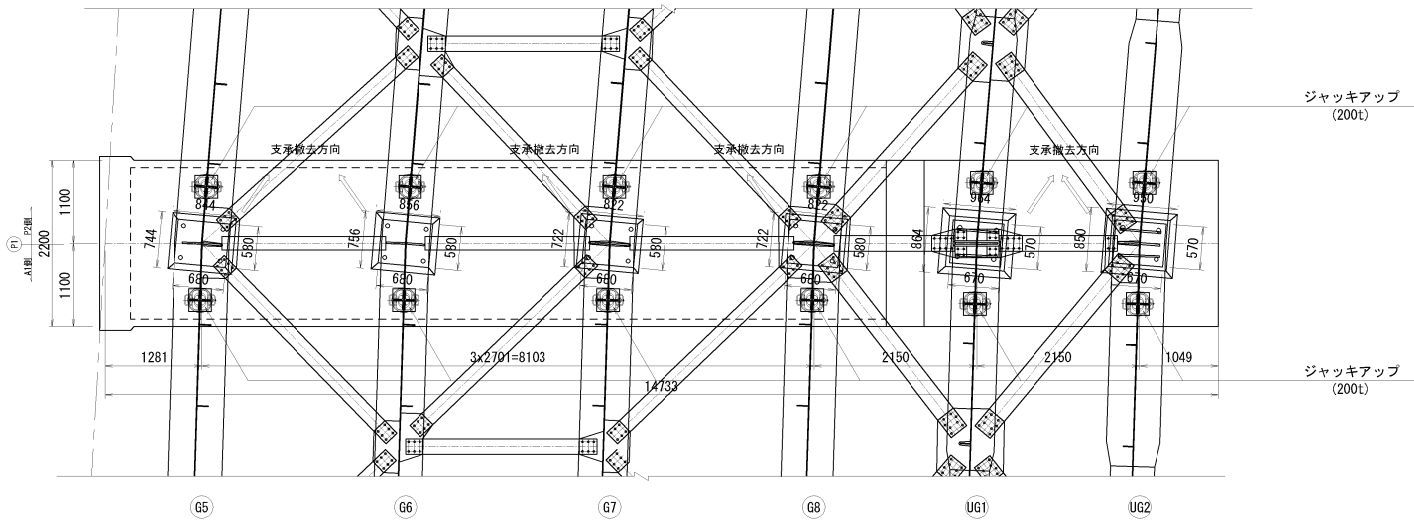
側面図(拡幅部 UG1)



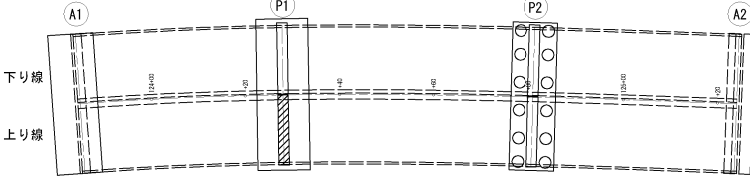
施工順番図(参考)



平面図



位置図

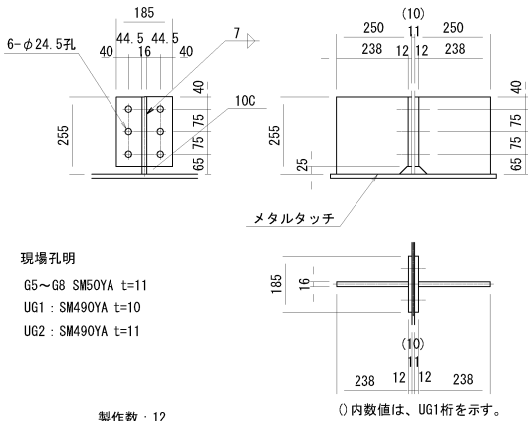


- 注 記
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
 - 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱いは、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線) 支承取替工(その2)			
縮 尺	図 示	図面番号	41 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

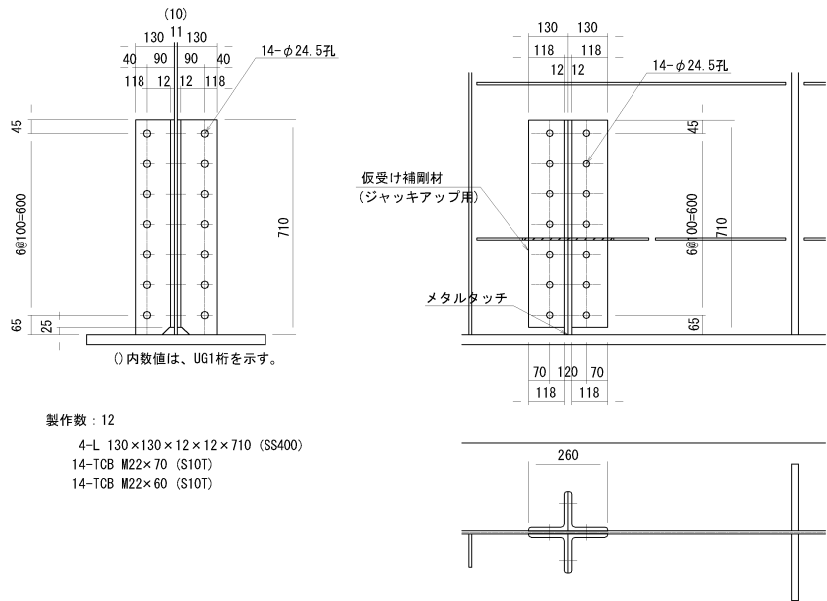
主桁補強材

支点上部補強材詳細図
(G5~G8, UG1, UG2)



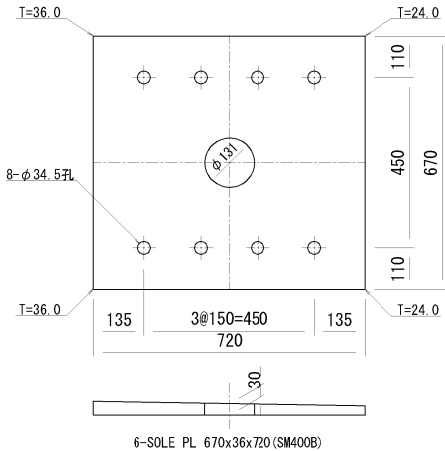
上部工補強工B

仮受け補剛材(ジャッキアップ用)



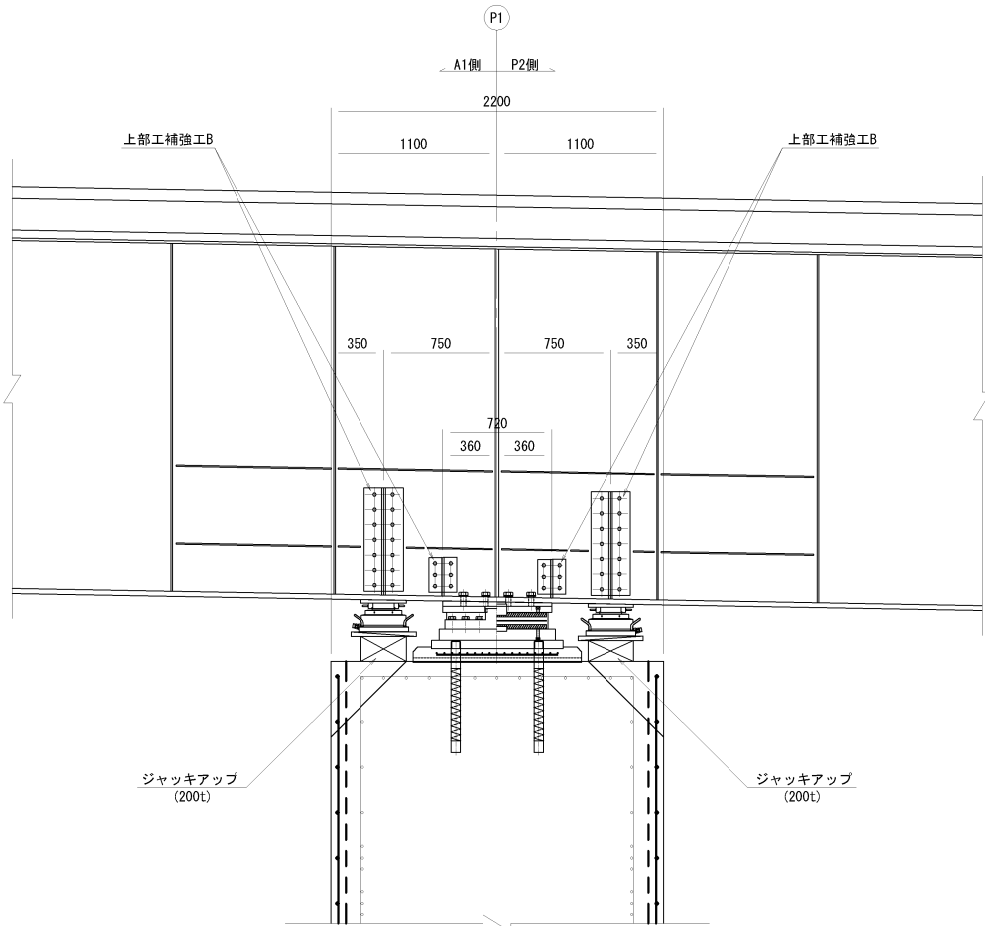
支承取替工
E-2830 (1598)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20

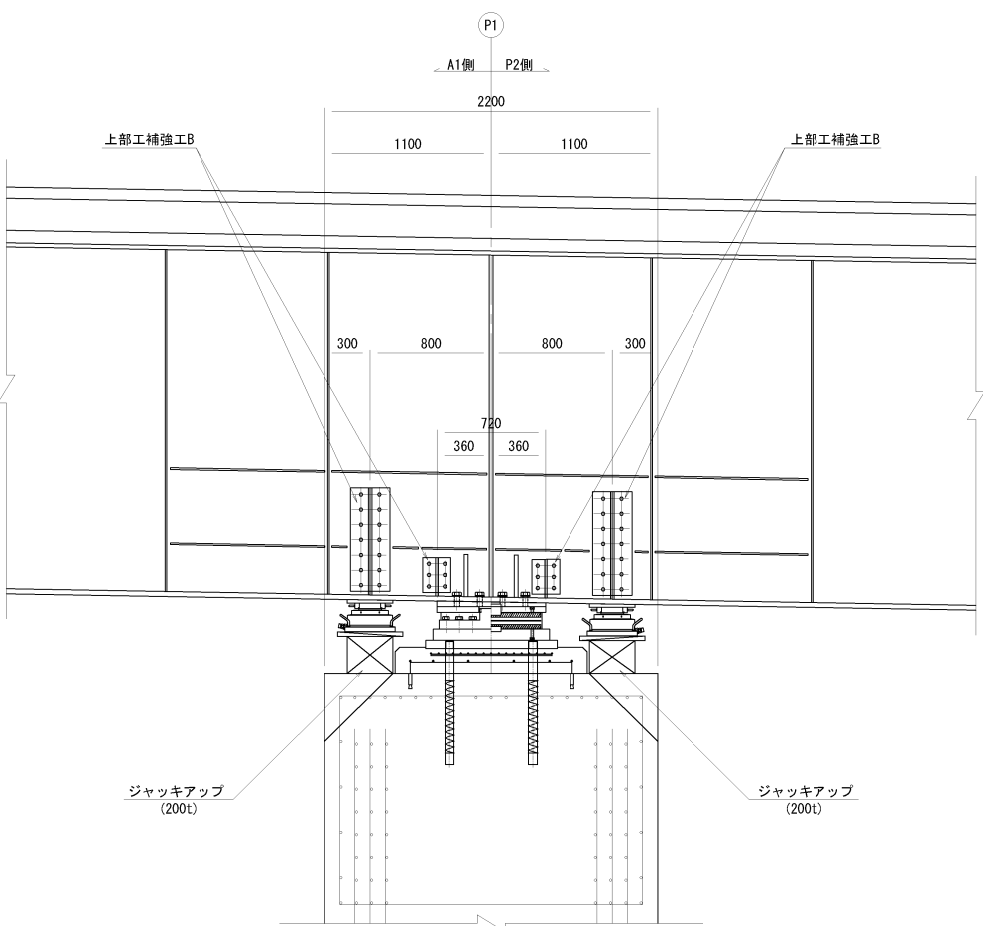


主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 (G8))



側面図(拡幅部 UG1)



注 記

- 本体補強材は全て塗装仕様とする。
- 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	42 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線) 支承取替工(その4)

支承取替工 E-2830 (1598)

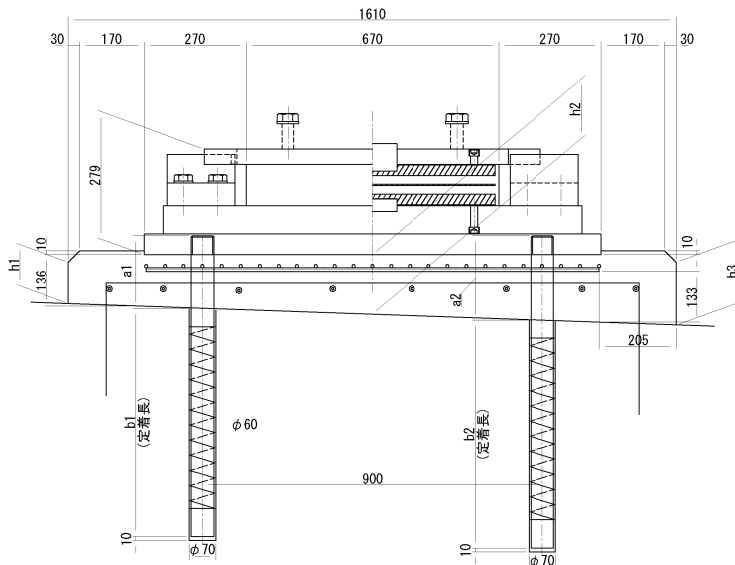
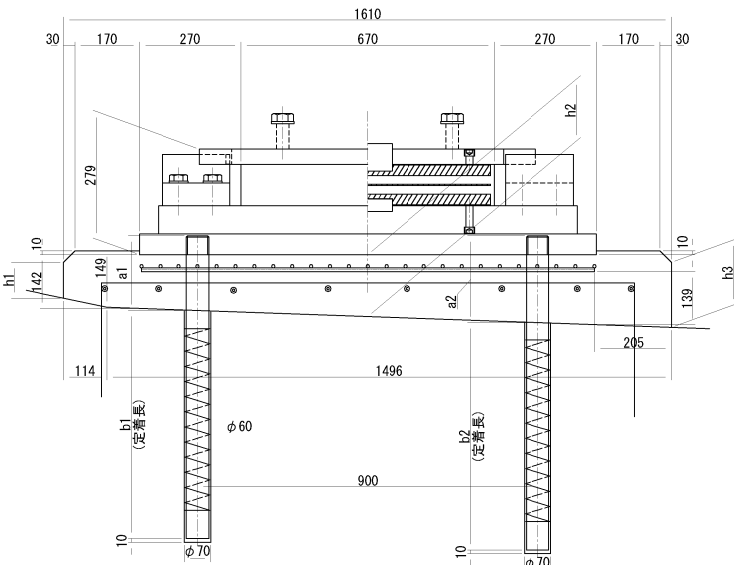
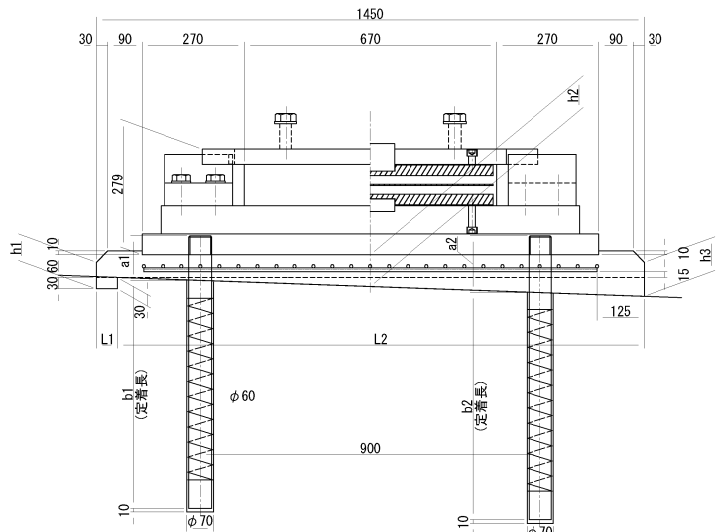
新支承設置

新支承 標準断面図 縮尺 1:20

G5 G6 G7 G8

UG1

UG2



台座配筋図 (UG1)

台座配筋図 (UG2)

支承取替工 アンカー工φ70(下方向)

沓座格子鉄筋

	台座高			アンカー長(下り線側)				アンカー長(上り線側)				はつり長	
	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a1 (mm)	b1 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a2 (mm)	b2 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)
G5	70	78	84	112	603	715	613	144	601	745	611	224	1226
G6	70	84	90	118	602	720	612	150	600	750	610	55	1395
G7	70	84	90	118	602	720	612	150	600	750	610	55	1395
G8	70	84	90	118	602	720	612	150	600	750	610	55	1395
UG1	95	163	172	197	603	800	613	229	601	830	611	-	-
UG2	109	157	165	191	604	795	614	223	602	825	612	-	-

D10×50×50

橋軸方向

24#50=1200

16#50=800

格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計(6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	SD345 (HDZT49)	Kg	22.6	136	136	23.5/Kg/m2

台座配置図

鉄筋加工寸法表

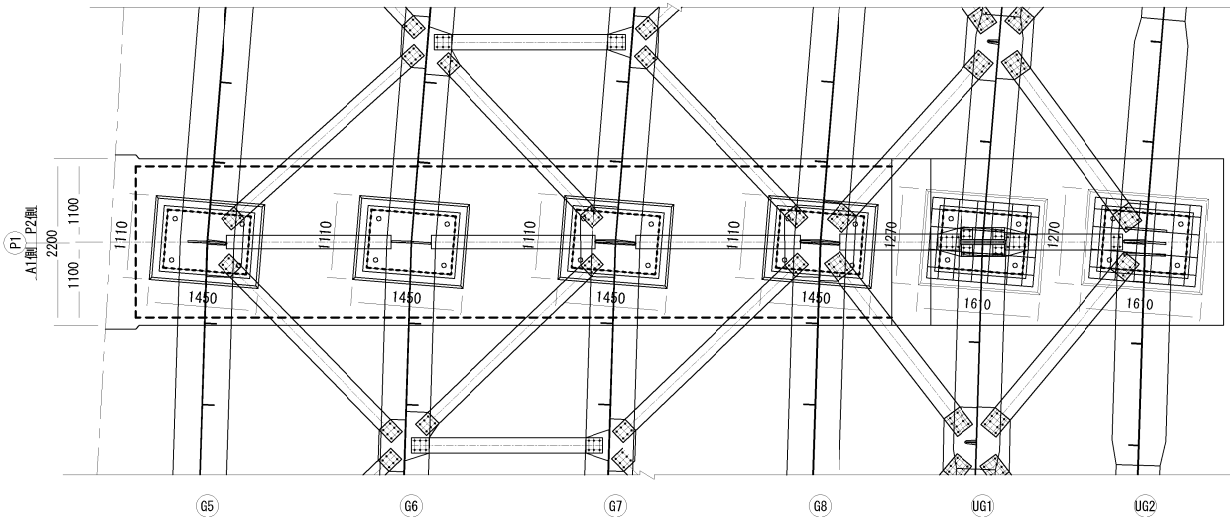
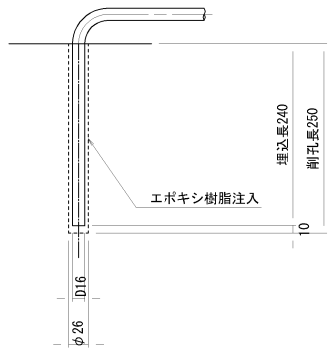
径	主筋		半円径フック		スターラップ		直角フック	
	θ ≤ 90°	θ > 90°	θ = 45°	θ = 60°	θ = 90°	θ = 135°	θ = 45°	θ = 60°
D16	48	88	113	119	100	66	75	21

鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
S1	D16	860	24	1.56	1.34	32	差筋AK
S2	D16	860	24	1.56	1.34	32	差筋AK
S3	D16	1070	16	1.56	1.67	27	-
S4	D16	1410	12	1.56	2.20	26	-
							117 kg
D16				64 kg	(差し筋アンカー)		
合計 D16				53 kg			
総質量				117 kg			

支承取替工 アンカー工φ26(下方向)

台座補強筋アンカー 詳細図 1:20

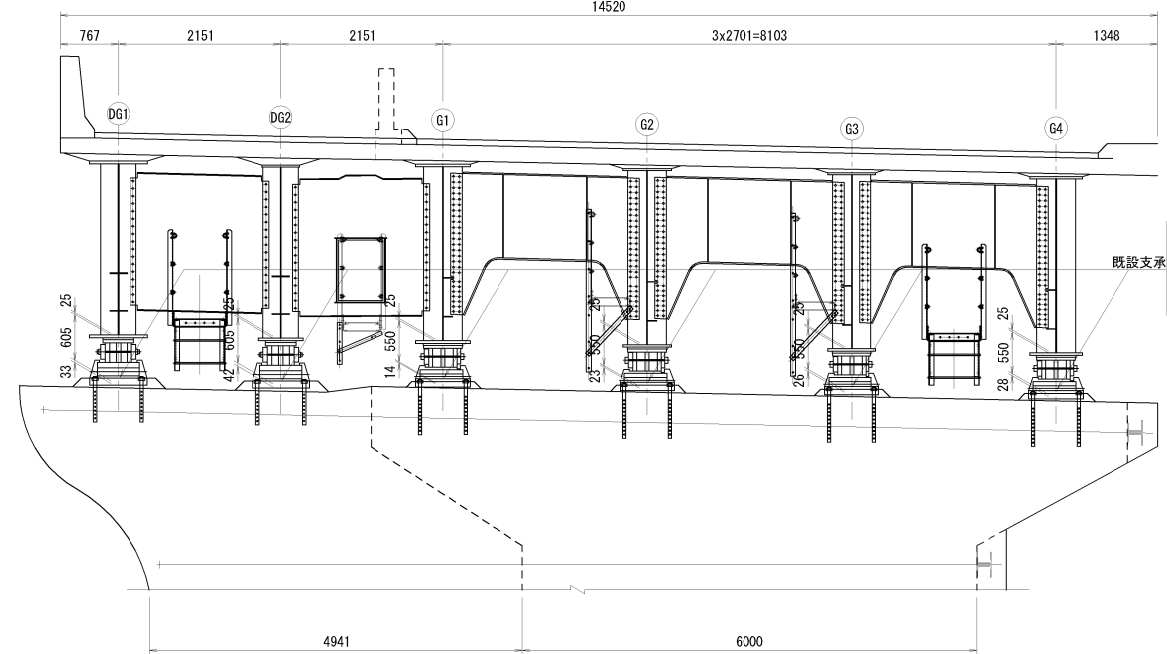


注記)

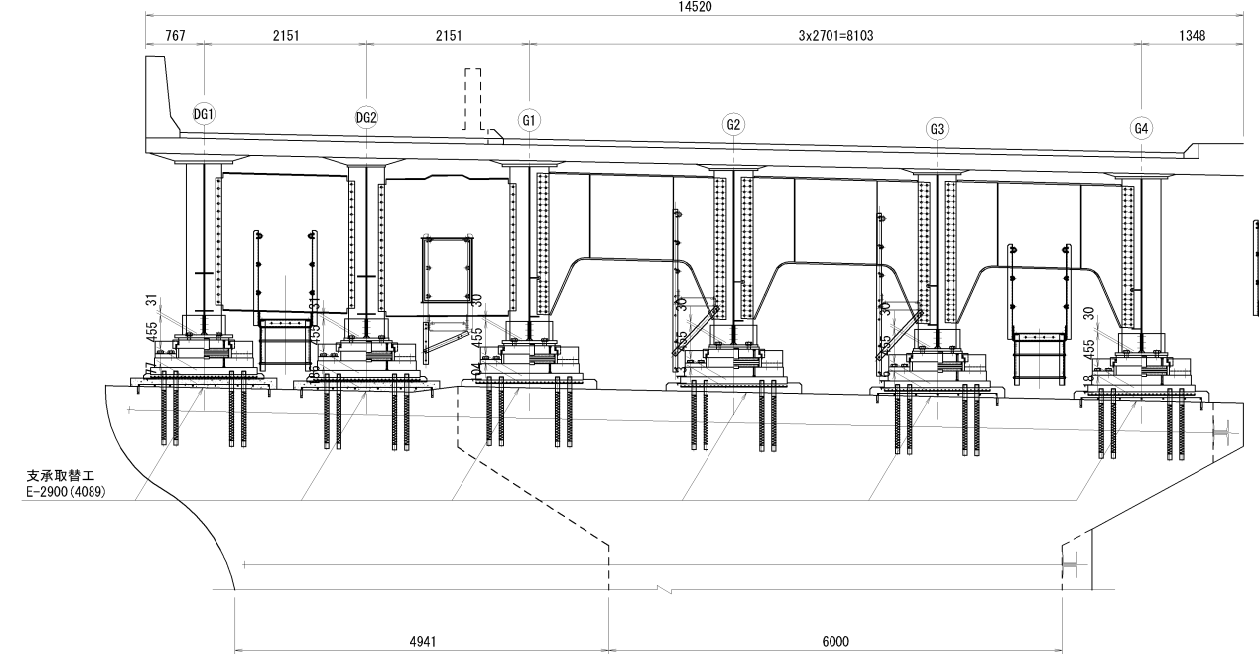
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
- 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
- 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線) 支承取替工(その4)		
縮尺	図示	図面番号	43 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

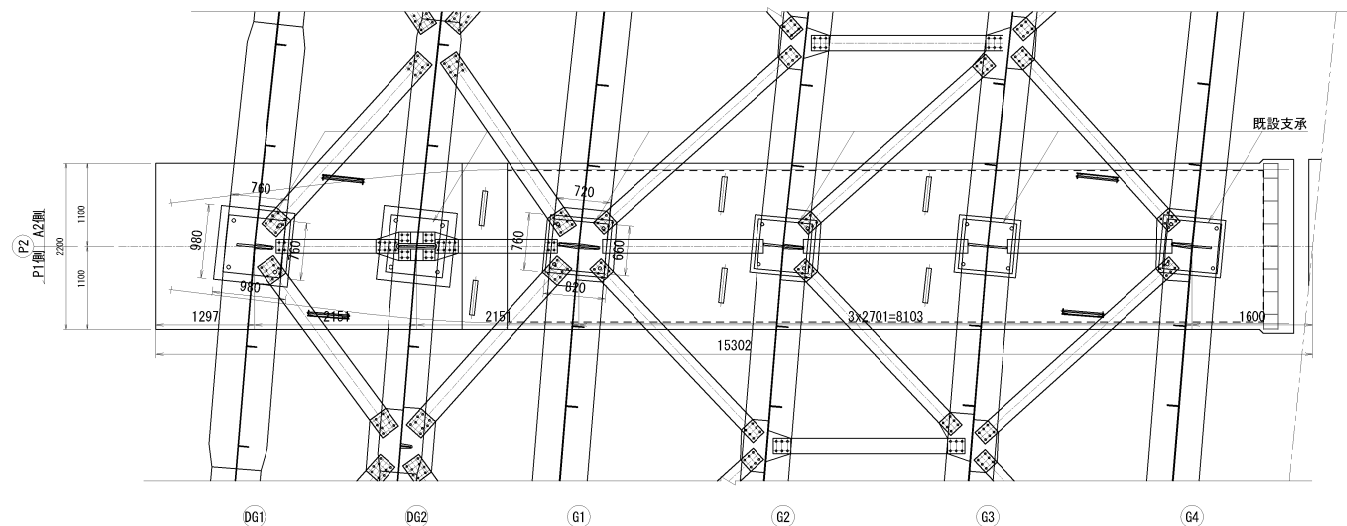
取替前
断面図



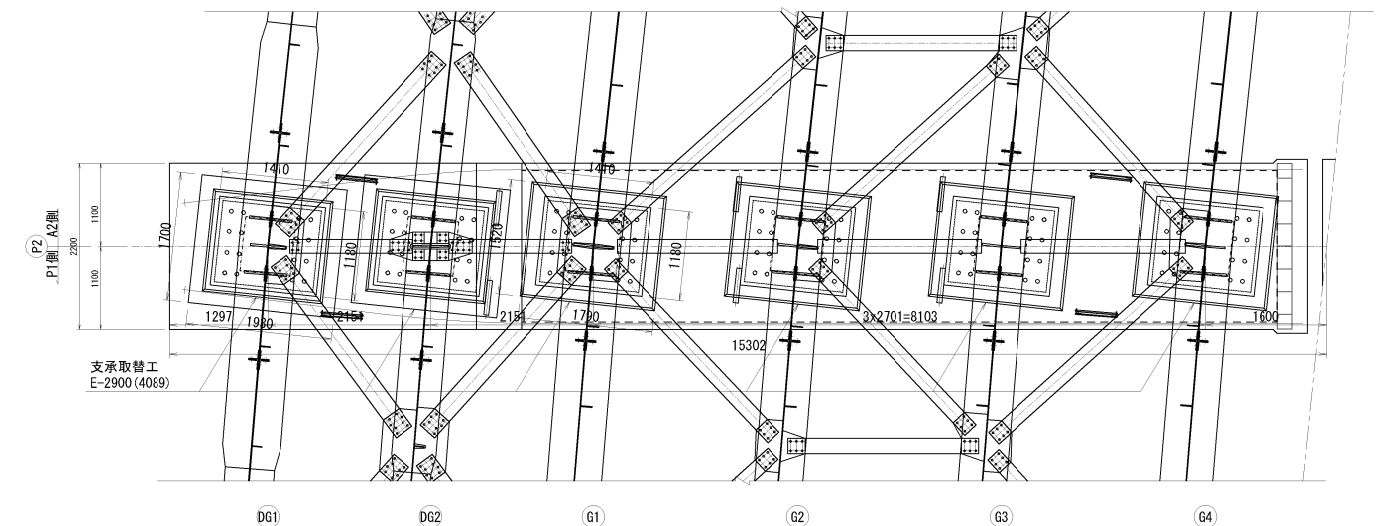
取替後
断面図



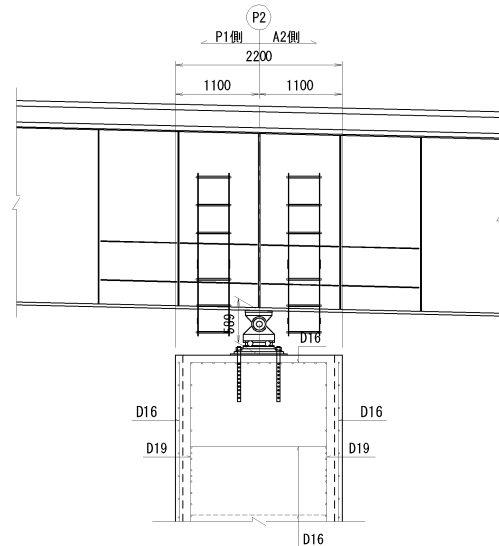
平面図



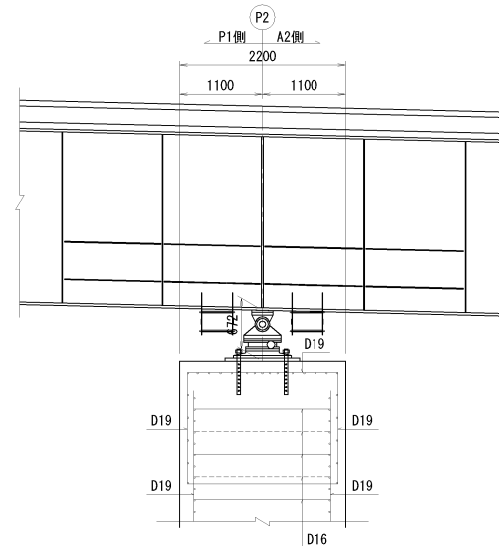
平面図



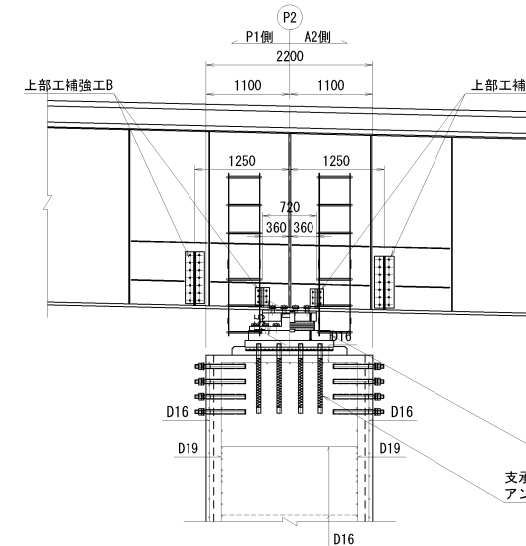
側面図(建設当初 G1)



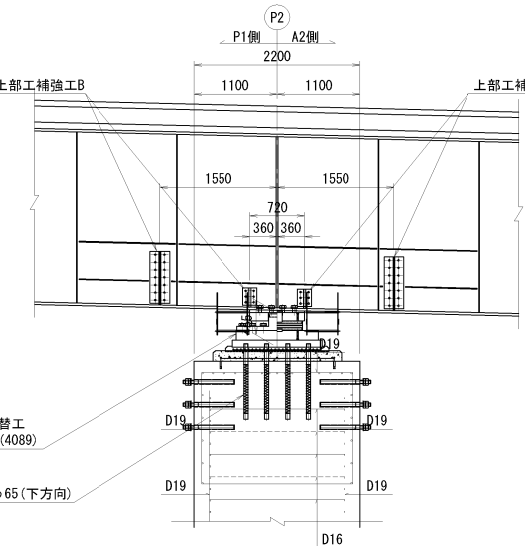
側面図(拡幅部 D62)



側面図(建設当初 G1)

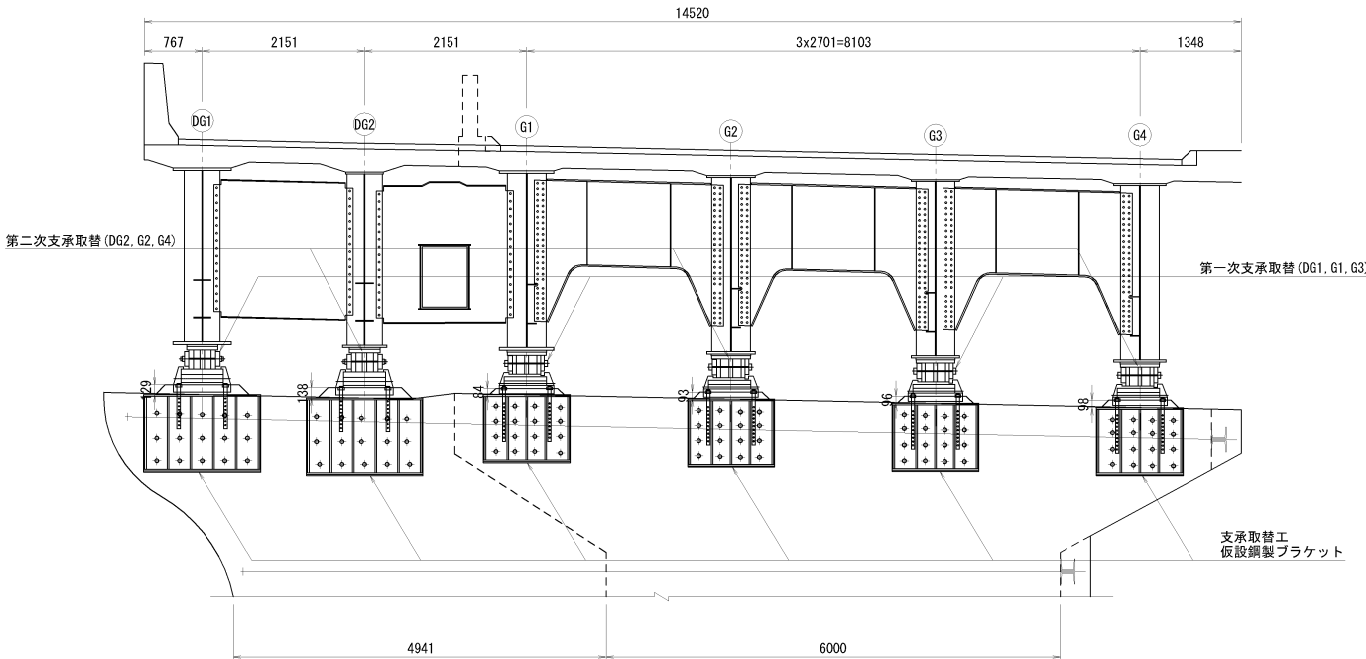


側面図(拡幅部 D62)

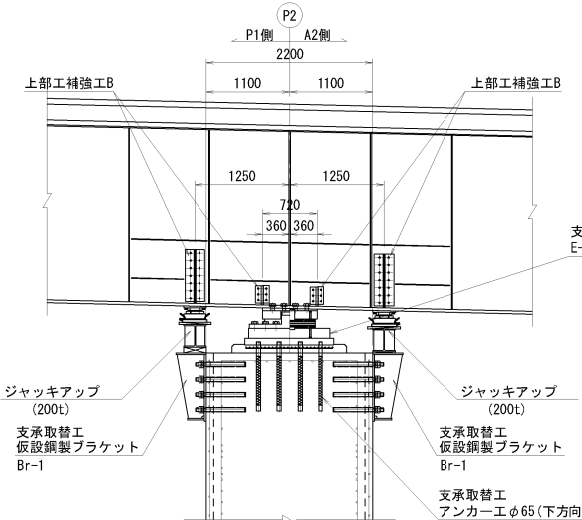


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その1)		
縮尺	図示	図面番号	44 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

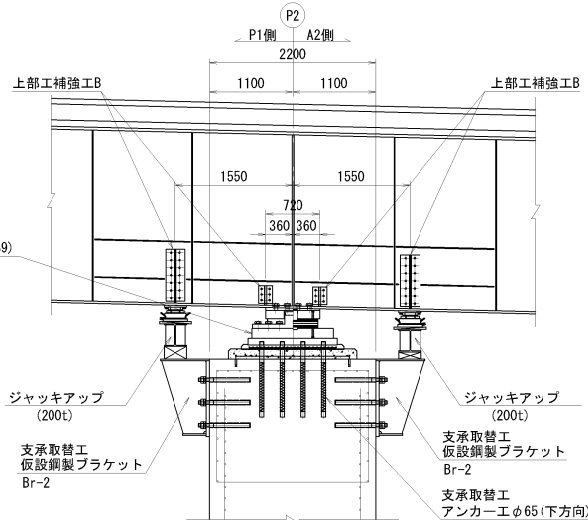
支承取替順序 断面図



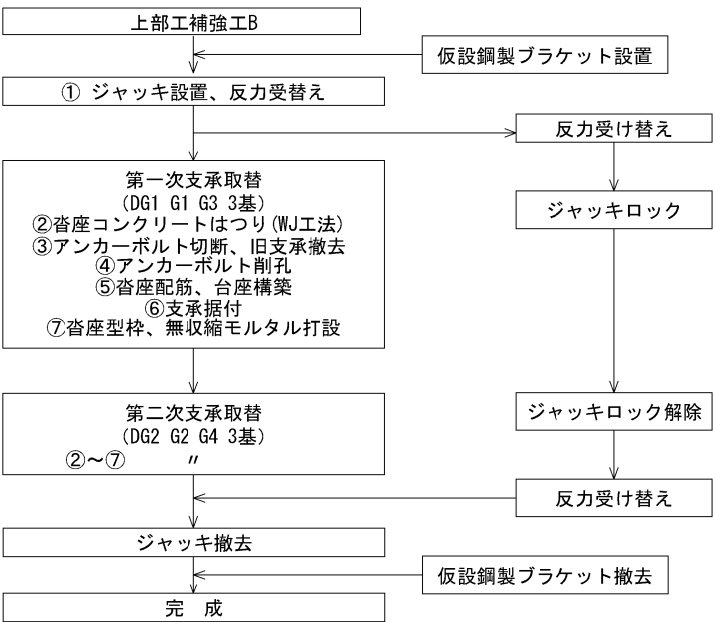
側面図(建設当初 G1)



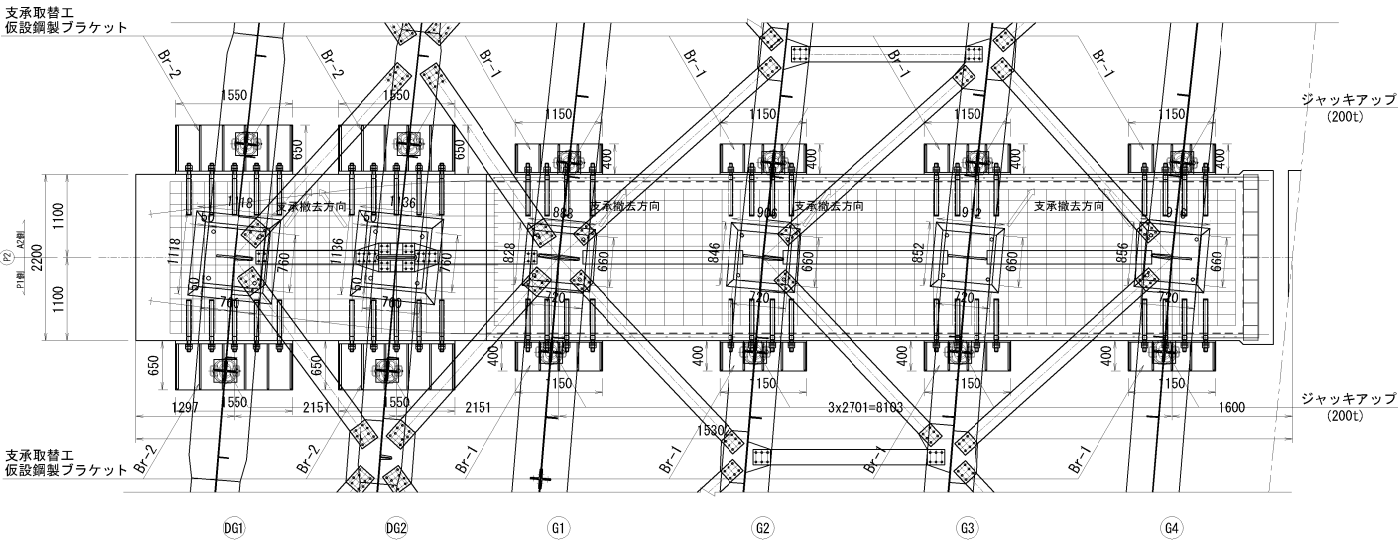
側面図(拡幅部 DG2)



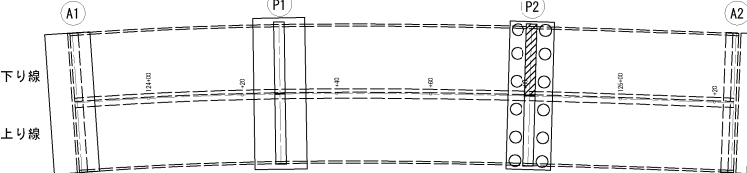
施工順番図(参考)



平面図



位置図

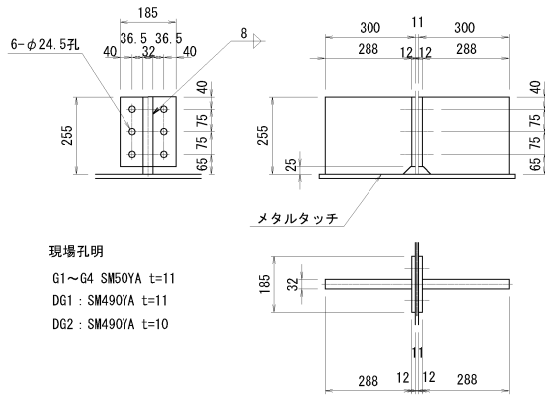


注 記
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱い、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	45 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

主桁補強材

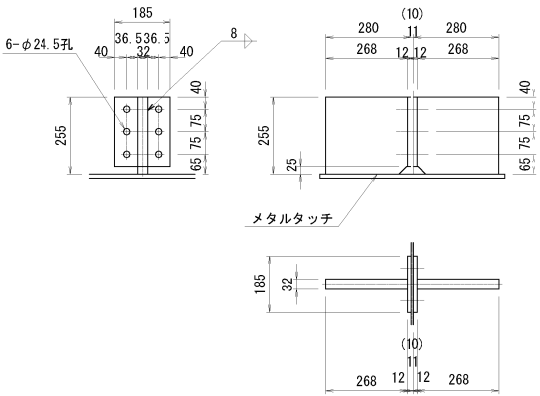
支点上部補強材詳細図
(G1~G4)



現場孔明
G1~G4 SM50YA t=11
DG1: SM490/A t=11
DG2: SM490/A t=10

製作数: 8
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 288×32×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

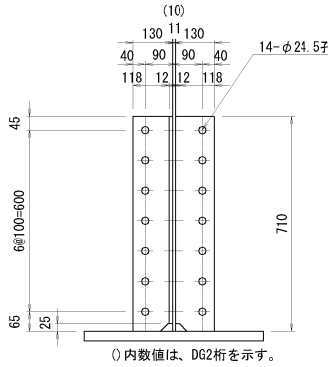
支点上部補強材詳細図
(DG1, DG2)



製作数: 4
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 268×32×255 (SM400A)
6-TCB M21×70 (S10T)

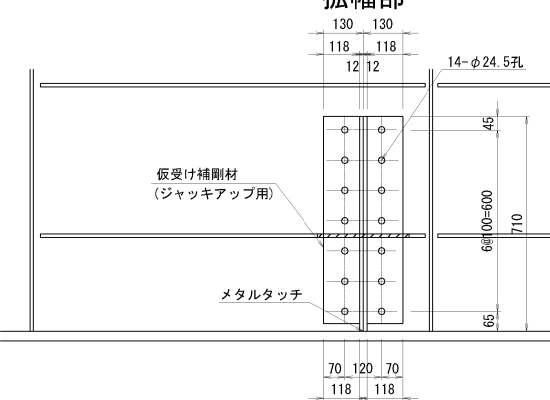
仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

建設当初



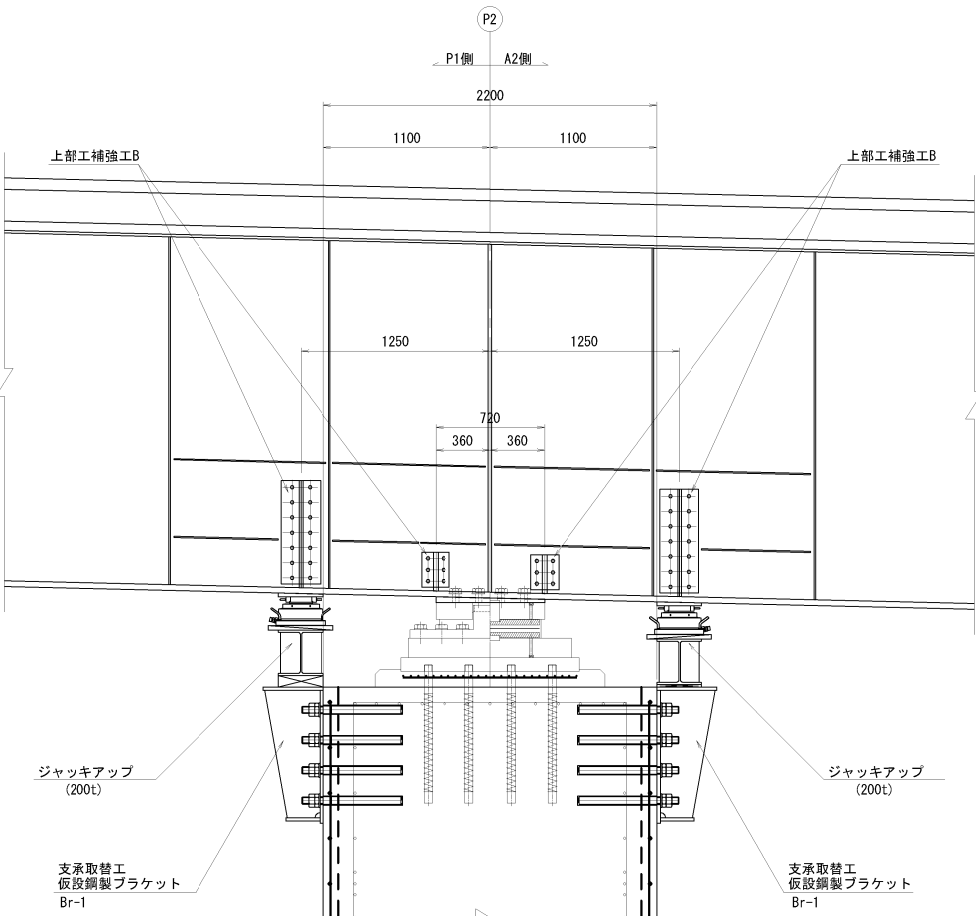
製作数: 12
4-L 130×130×12×12×710 (SS400)
14-TCB M22×70 (S10T)
14-TCB M22×60 (S10T)

拡幅部

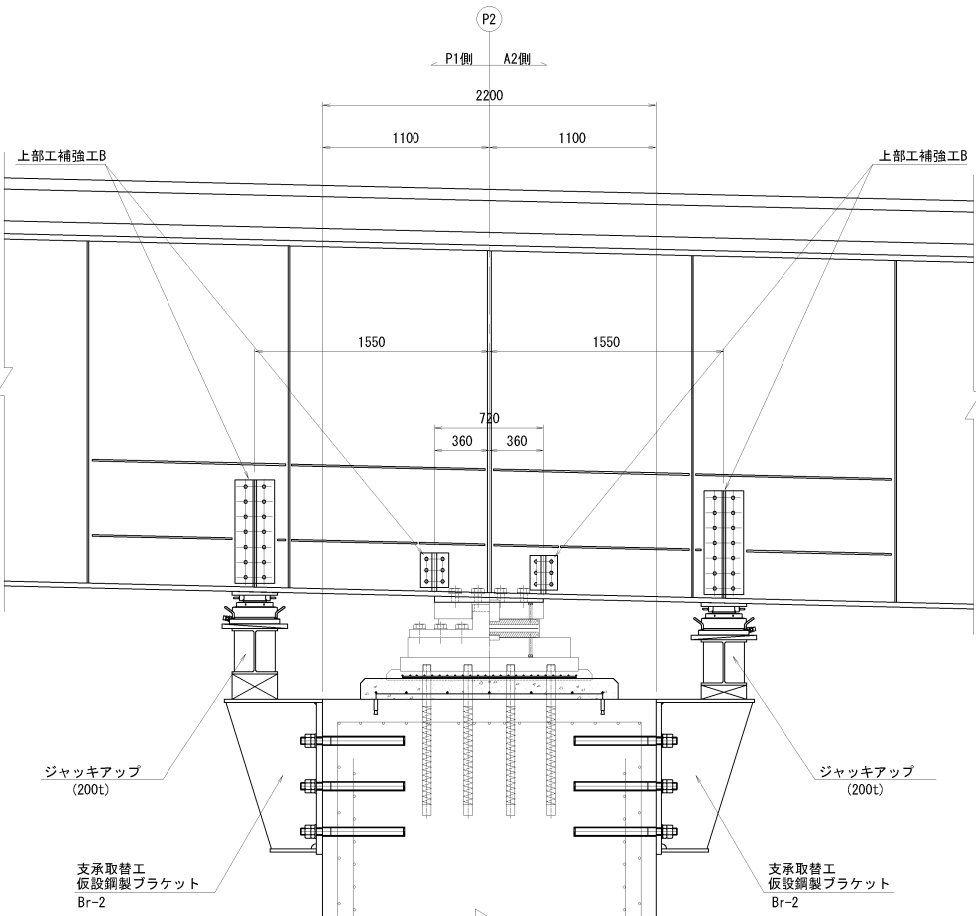


主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G1)

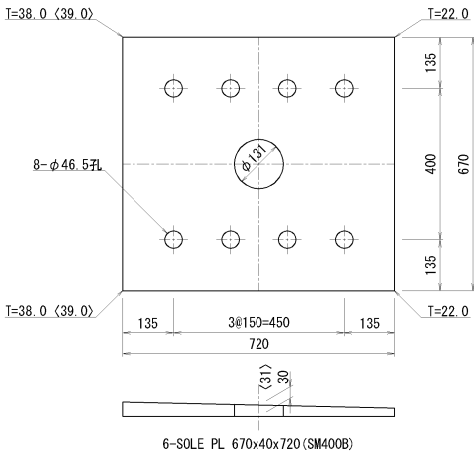


側面図(拡幅部 DG2)



支承取替工
E-2900 (4089)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20
(内数値は、拡幅部を示す。)



※溶融亜鉛めっき処理 (膜厚は、JIS H8641 HDZ77とする。)

注 記
1. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	46 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

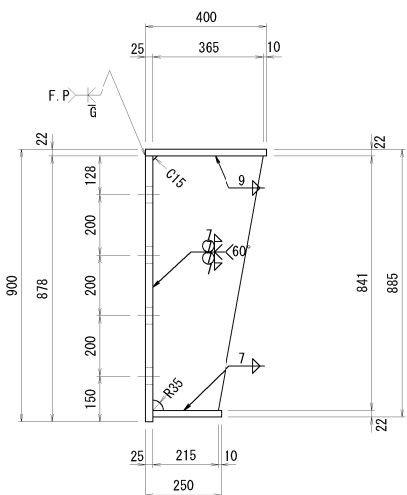
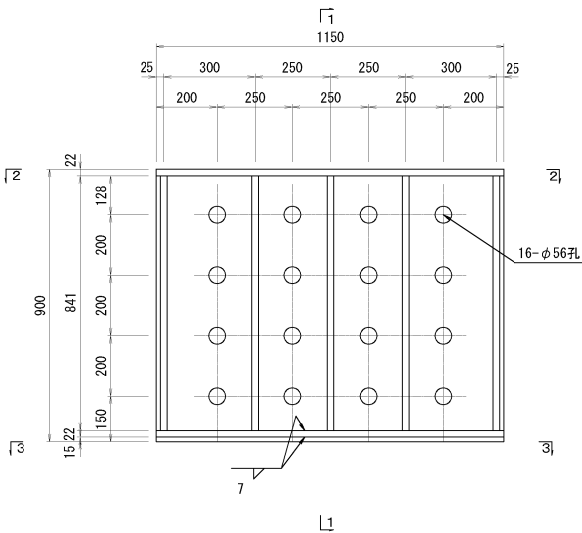
支承取替工 仮設鋼製ブラケット

ブラケット Br-1 詳細図

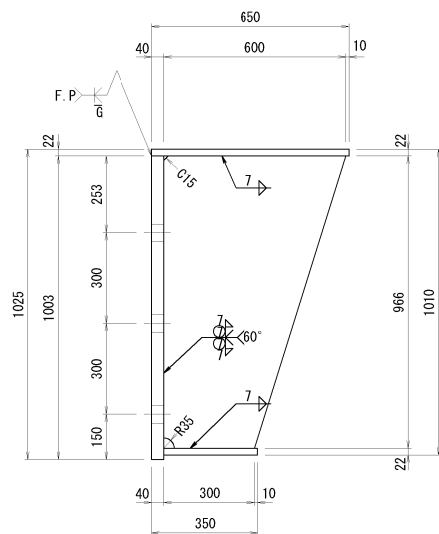
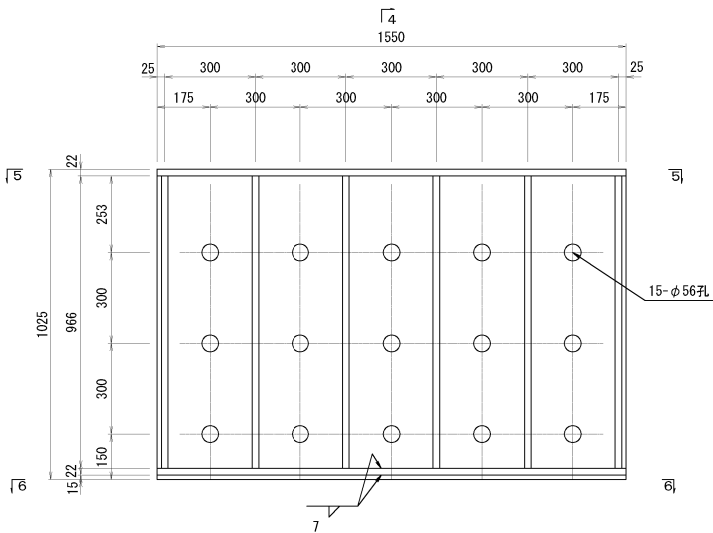
1 - 1

ブラケット Br-2 詳細図

4 - 4

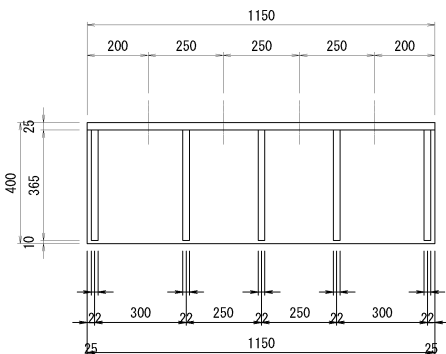


製作数 : 8
※1-Base PL 115(×25× 878 (SM400A)
※1-Flg PL 225×22×1150 (SM400A)
※1-Flg PL 400×22×1150 (SM400A)
※5-Rib PL 365×22× 841 (SM400A)

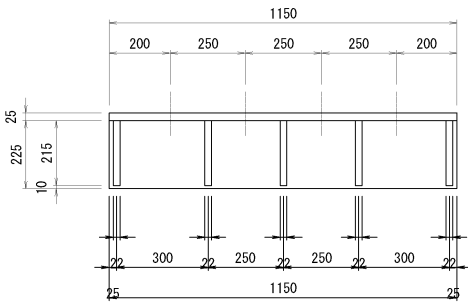


製作数 : 4
※1-Base PL 155(×40×1003 (SM400C)
※1-Flg PL 310×22×1550 (SM400A)
※1-Flg PL 650×22×1550 (SM400A)
※6-Rib PL 600×22×966 (SM400A)

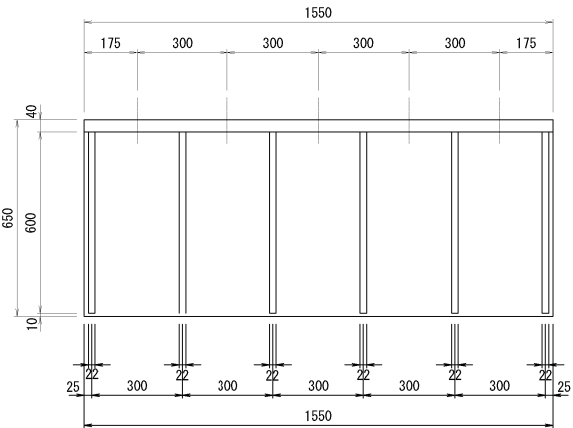
2 - 2



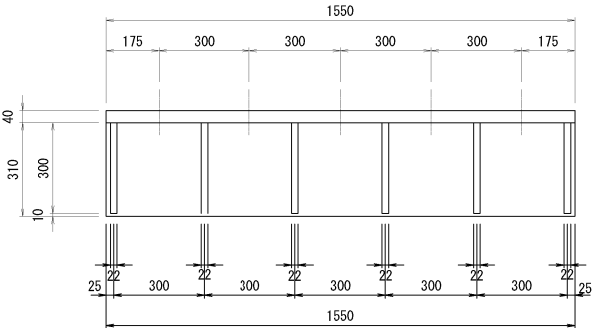
3 - 3



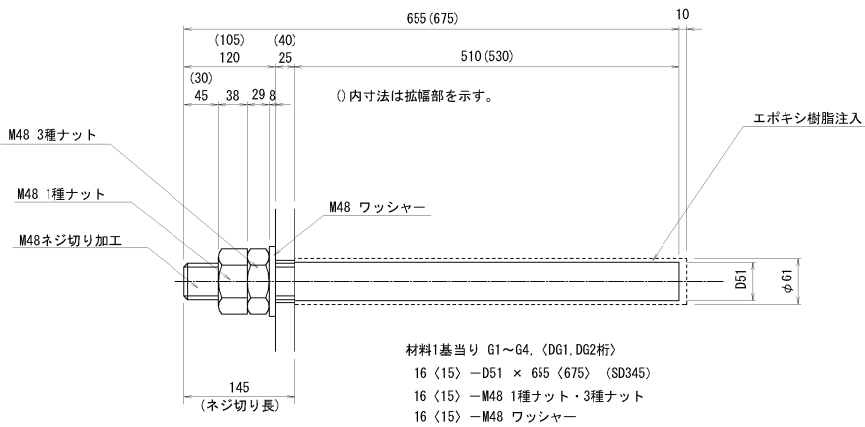
5 - 5



6 - 6

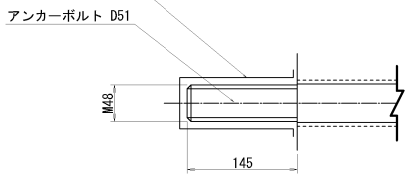


支承取替工
アンカー工φ61（水平方向） 縮尺1:10



ブラケット撤去後

16-防錆ボルトキャップ M48×145
(軟質塩化ビニール)



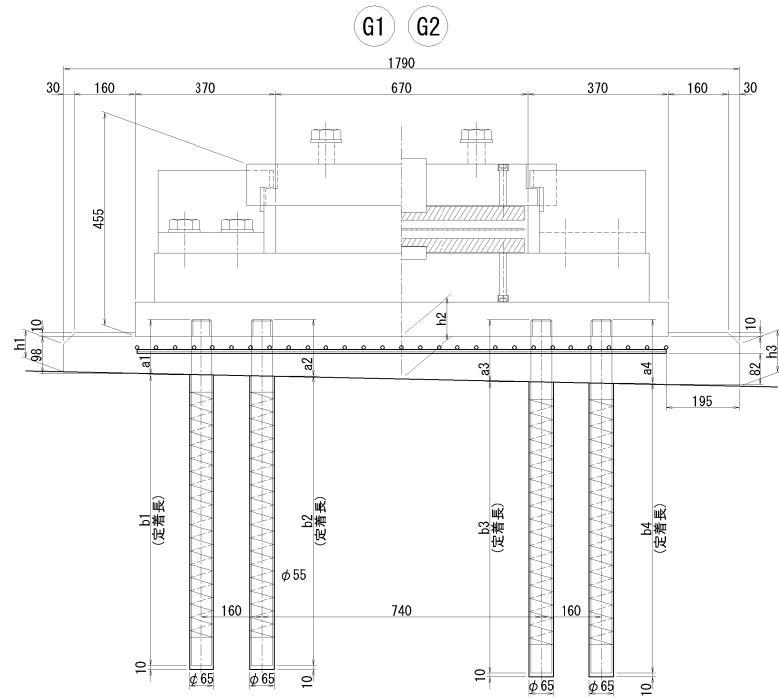
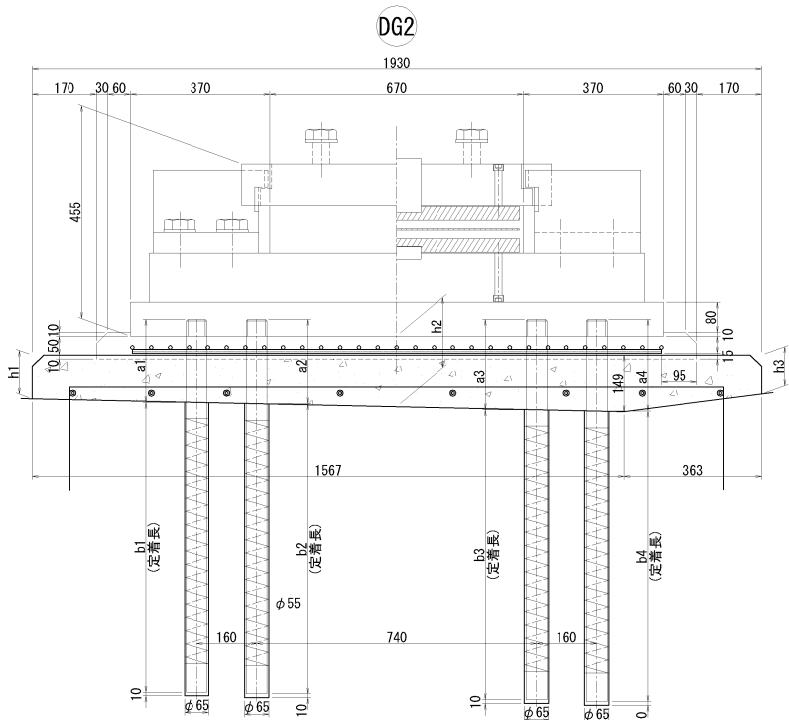
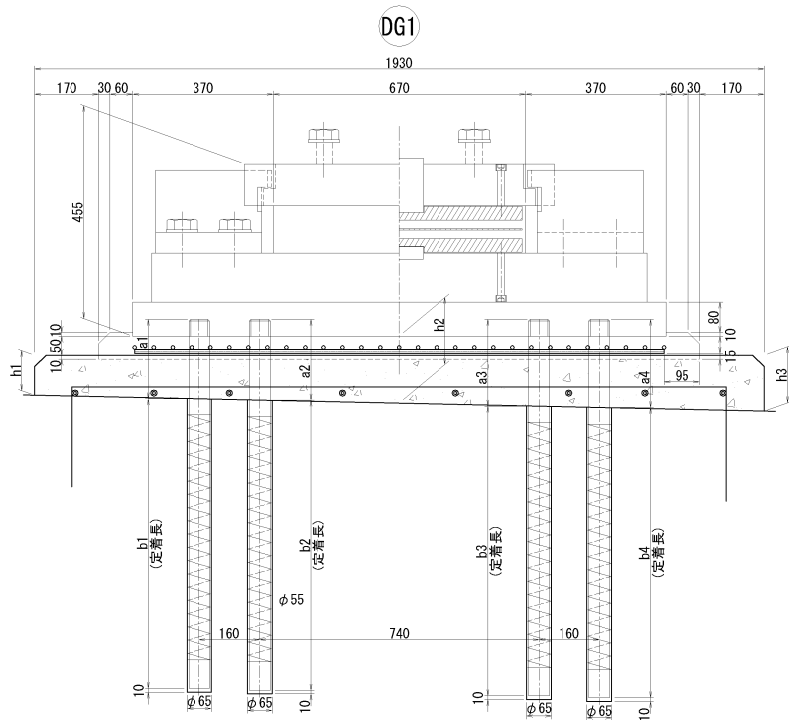
アンカーボルト本体を残置し、
防錆ボルトキャップにより突出部を保護すること。

注 記
1. アンカーボルトはネジ切り部のみ
溶融亜鉛めっきを施すものとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641のHDZ49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	47 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事 務 所 名	京 浜 管 理 事 務 所		

支承取替工 E-2900(4089)

新支承設置
新支承 標準断面図 縮尺 1:20

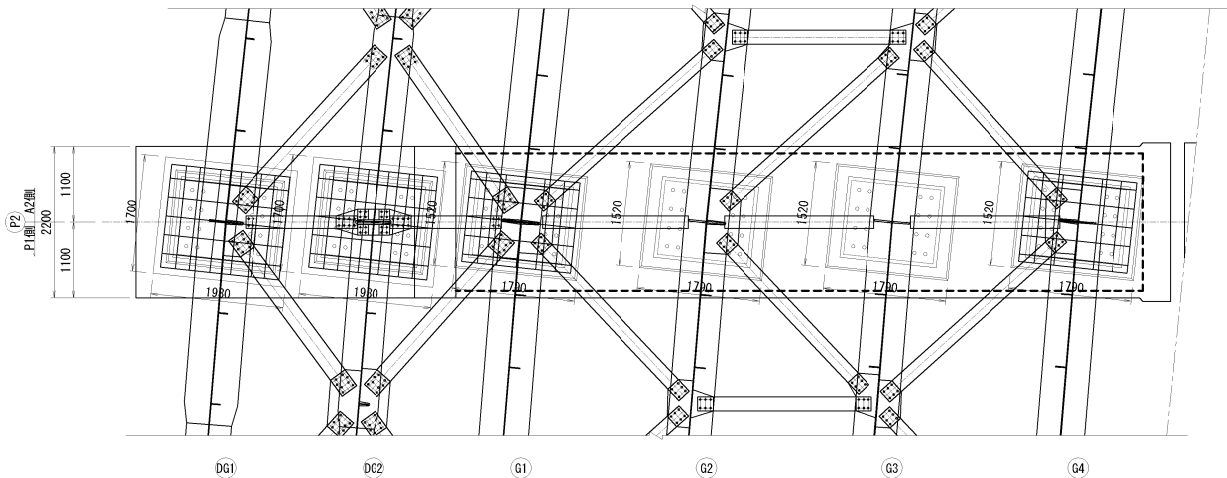


支承取替工 アンカーエφ65(下方向)

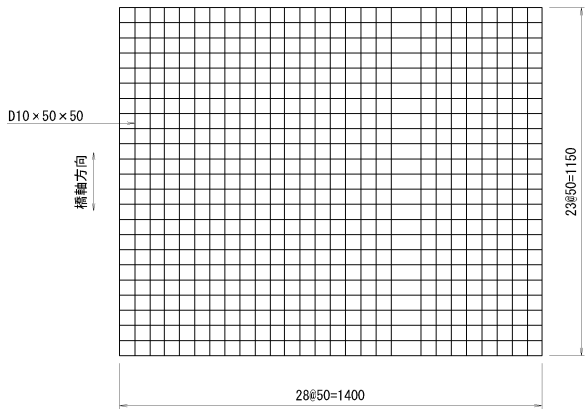
台座高			アンカー長(下り線側)							
	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a1 (mm)	b1 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a2 (mm)	b2 (mm)	アンカー長 (mm)
DG1	106	177	148	210	765	975	775	214	766	980
DG2	115	186	102	219	766	985	776	223	767	990
G1	74	113	112	138	767	905	777	141	769	910
G2	74	113	112	147	768	915	778	150	765	915
G3	77	116	115	150	765	915	775	153	767	920
G4	77	116	115	152	768	920	778	155	765	920

台座高			アンカー長(上り線側)							
	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a3 (mm)	b3 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a4 (mm)	b4 (mm)	アンカー長 (mm)
DG1	106	177	148	230	765	995	775	233	767	1000
DG2	115	186	102	239	766	1005	776	242	768	1010
G1	74	113	112	157	768	925	778	160	765	925
G2	74	113	112	166	769	935	779	169	766	935
G3	77	116	115	169	766	935	776	172	768	940
G4	77	116	115	171	769	940	779	174	766	940

台座配置図



沓座格子鉄筋



格子鉄筋 数量表

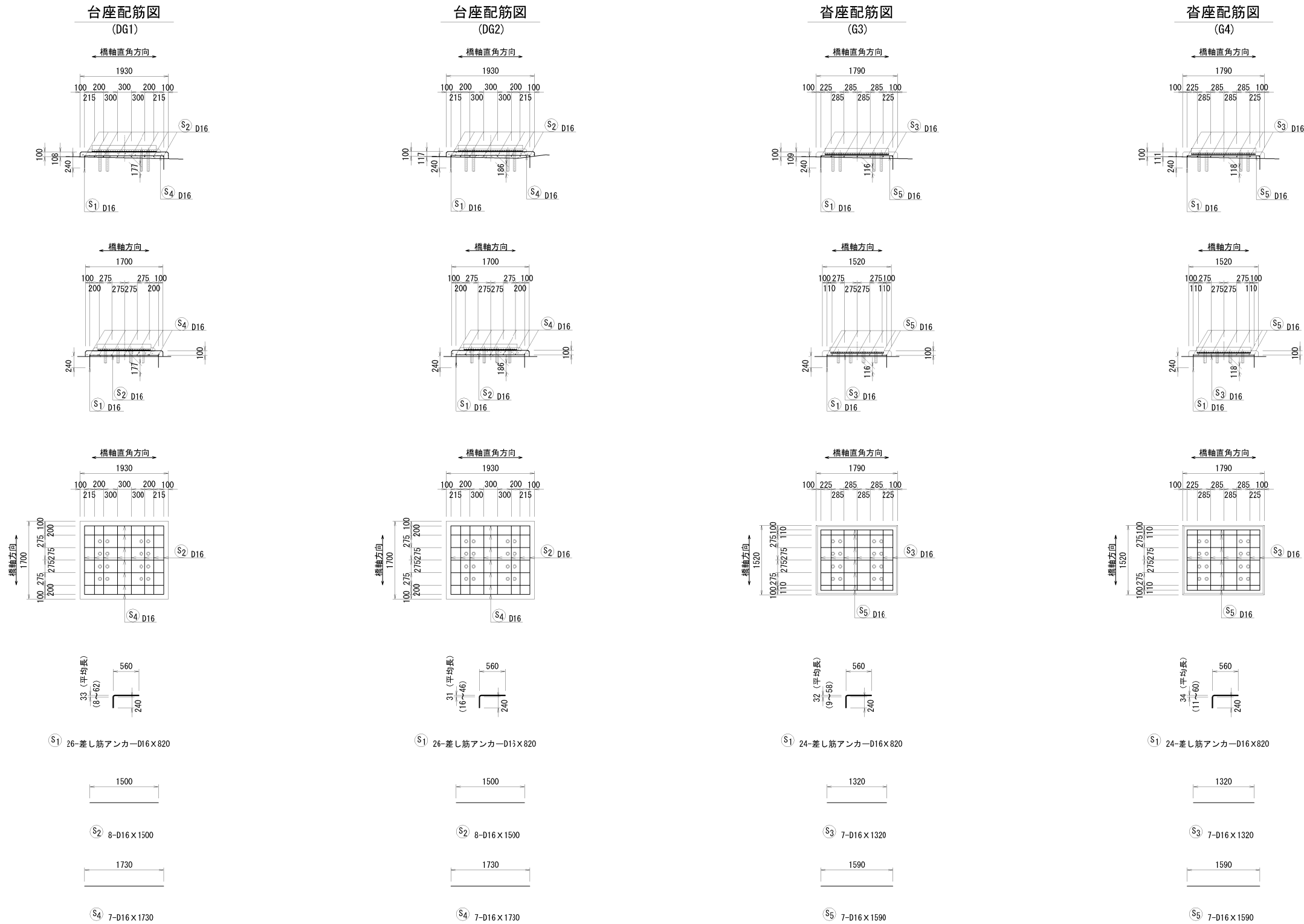
名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計(6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	SD345 (HDZ'49)	Kg	37.5	225	225	23.29Kg/㎡

- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	48 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その6)
新支承設置

支承取替工 E-2900 (4089)



鉄筋加工寸法表

主 筋

半円径フック

スターラップ

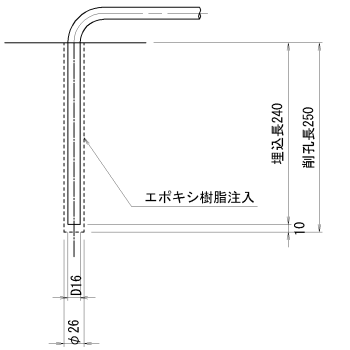
直角フック

$$\Delta L = 2L - a$$

径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=3.0\phi$	$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$	$\theta=45^\circ$		$\theta=60^\circ$		$\theta=90^\circ$		$\theta=135^\circ$	
			a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4

鉄筋質量表							
記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	一本当り質量	質 量	摘 要
S 1	D16	820	100	1.56	1.28	128	差筋AK
S 2	D16	1500	16	1.56	2.34	37	—
S 3	D16	1320	14	1.56	2.06	29	—
S 4	D16	1730	14	1.56	2.70	38	—
S 5	D16	1590	14	1.56	2.48	35	—
						267	kg
計			鉄筋 A (台座)		沓座		
差筋計	D16	128 kg	D16	54 kg	D16	61 kg	(差し筋アンカー)
鉄筋計	D16	139 kg	D16	75 kg	D16	64 kg	
総質量	267 kg		129 kg		125 kg		

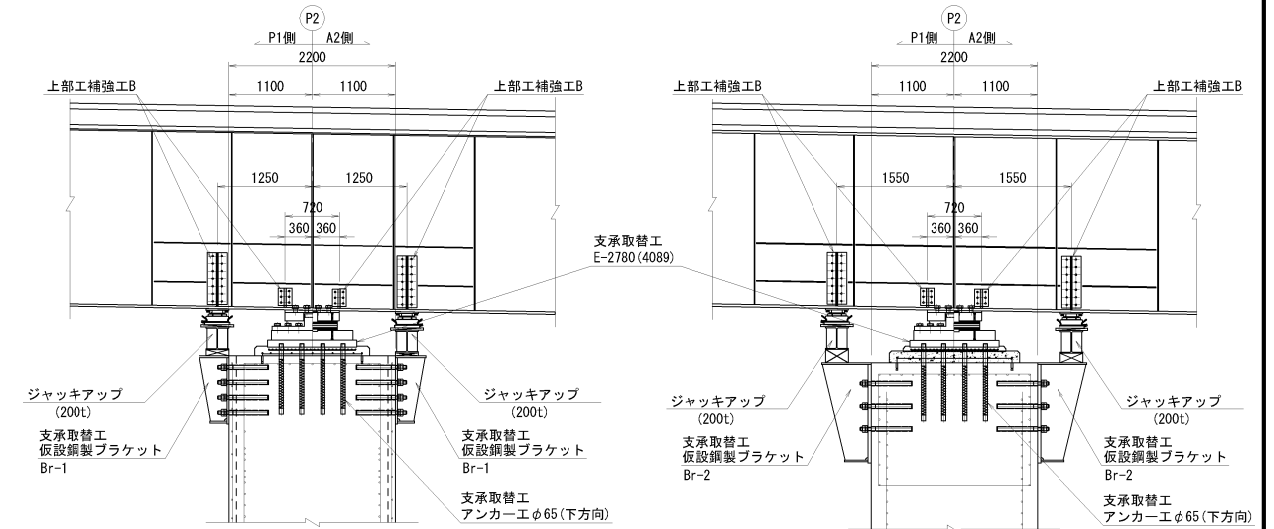
支承取替工
アンカーエφ26 (下方向)
台座補強筋アンカー 詳細図 1:20



注記)
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その6)			
縮 尺	図 示	図面番号	49 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			

側 面 図 (拡 幅 部 UG1)



```

graph TD
    A[上部工補強工B] --> B[① ジャッキ設置、反力受替え]
    C[仮設鋼製ブラケット設置] --> B
    B --> D[第一次支承取替  
(G6 G8 UG2 3基)  
②沓座コンクリートはつり(WJ工法)  
③アンカーボルト切断、旧支承撤去  
④アンカーボルト削孔  
⑤沓座配筋、台座構築  
⑥支承据付  
⑦沓座型枠、無収縮モルタル打設]
    B --> E[反力受け替え]
    E --> F[ジャッキロック]
    F --> G[ジャッキロック解除]
    G --> H[反力受け替え]
    H --> I[第二次支承取替  
(G5 G7 UG1 3基)  
②～⑦  
〃]
    I --> J[ジャッキ撤去]
    K[仮設鋼製ブラケット撤去] --> J
    J --> L[完 成]
  
```

支保工
仮設鋼製ブラケット

支保工
仮設鋼製ブラケット

ジャッキアップ
(200t)

ジャッキアップ
(200t)

G5 G6 G7 G8 UG1 UG2

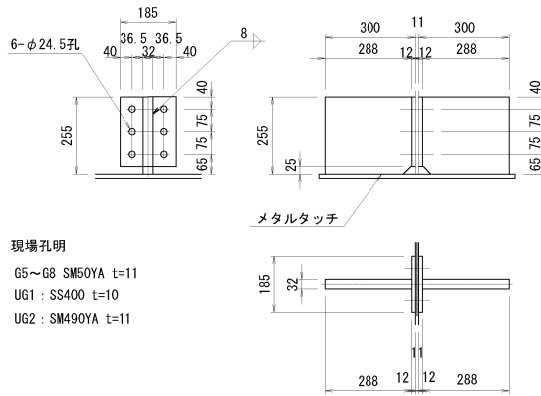
注 記

1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱いは、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金沢谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 支床取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	51 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 派 管 理 事 務 所		

主桁補強材

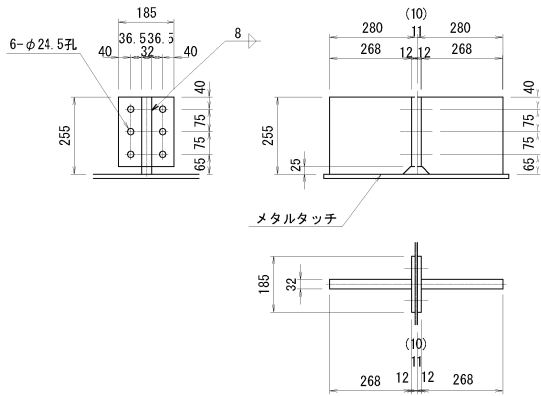
支点上部補強材詳細図
(G5~G8)



現場孔明
G5~G8 SM50YA t=11
UG1 : SS400 t=10
UG2 : SM490YA t=11

製作数 : 8
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 288×32×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

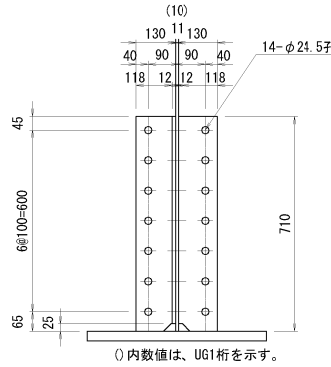
支点上部補強材詳細図
(UG1,UG2)



製作数 : 4
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 268×32×255 (SM400A)
6-TCB M21×70 (S10T)

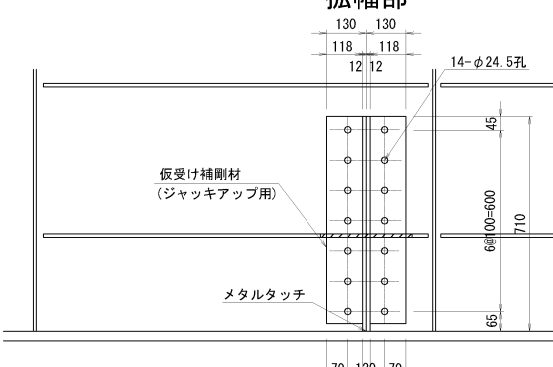
仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

建設当初



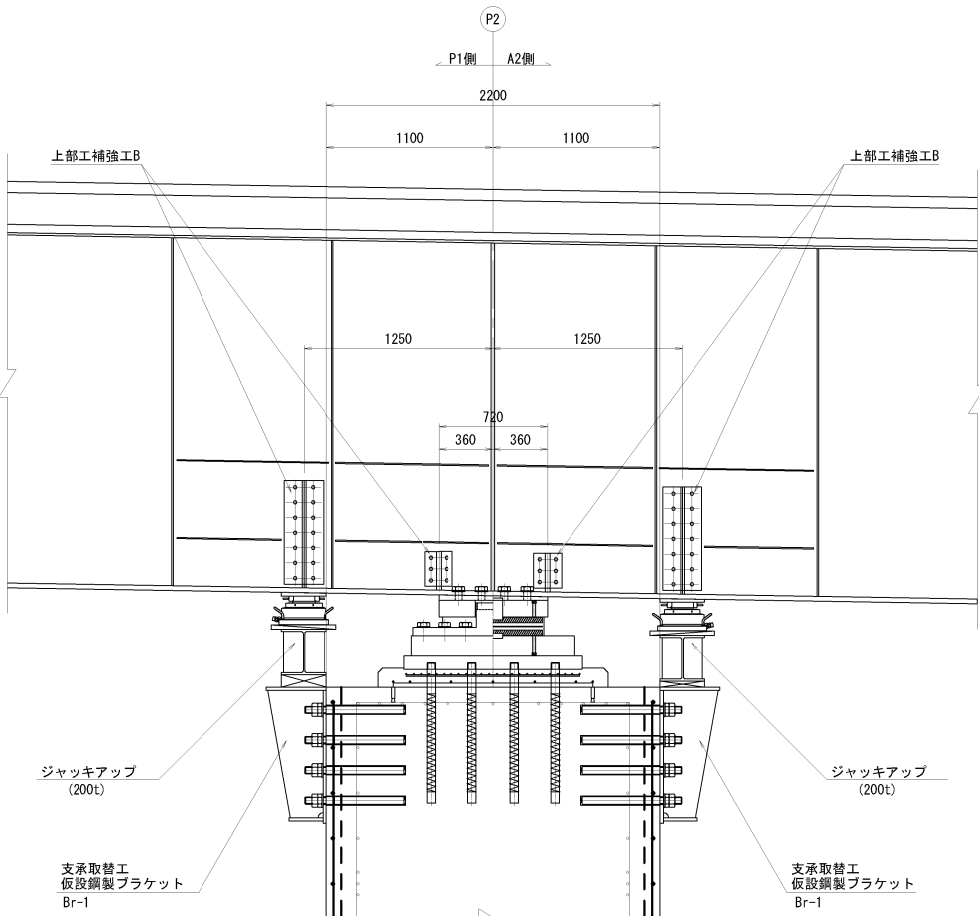
製作数 : 12
4-L 130×130×12×12×710 (SS400)
14-TCB M22×70 (S10T)
14-TCB M22×60 (S10T)

拡幅部

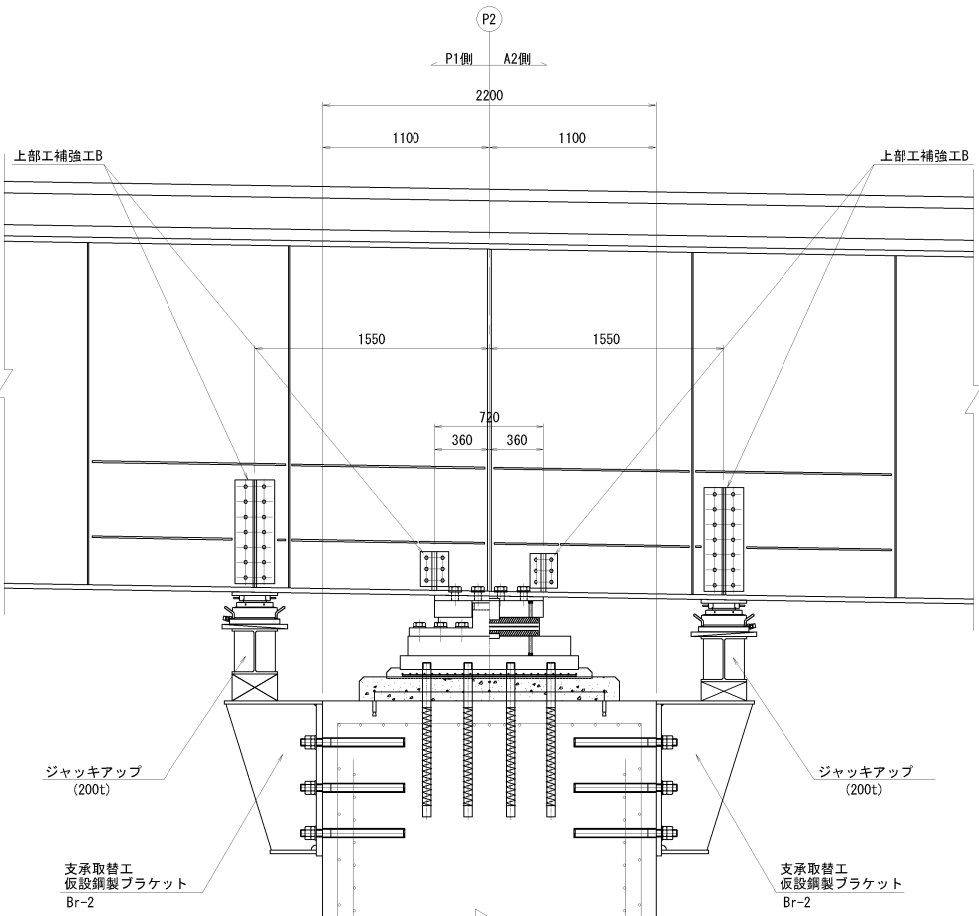


主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G8)

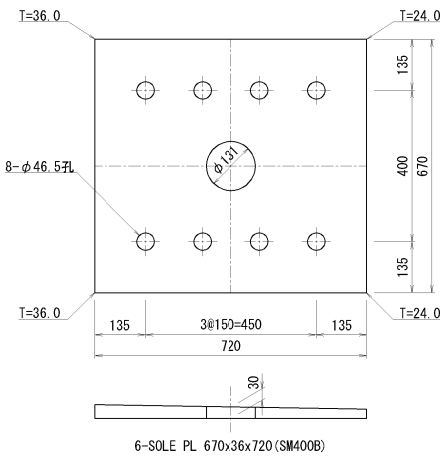


側面図(拡幅部 UG1<UG2>)



支承取替工
E-2780(4089)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20



※溶融亜鉛めっき処理(膜厚は、JIS H8641 HDZ77とする。)

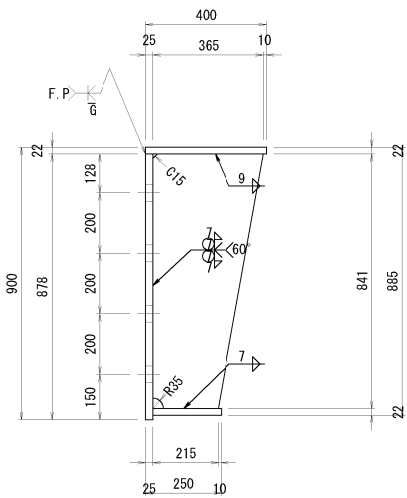
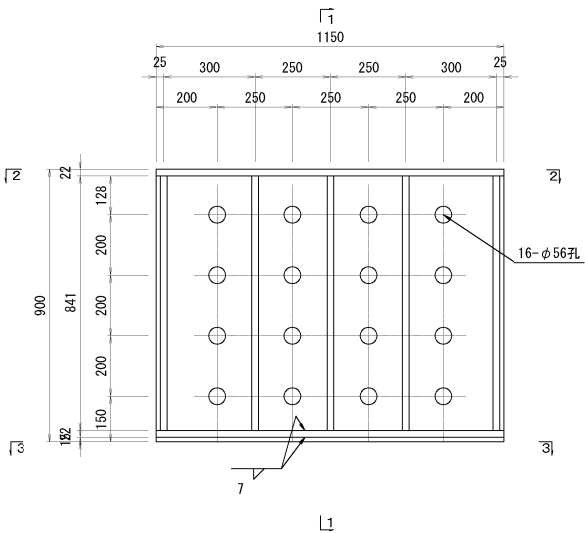
注 記
1. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	52 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

支承取替工 仮設鋼製ブラケット

ブラケット Br-1 詳細図

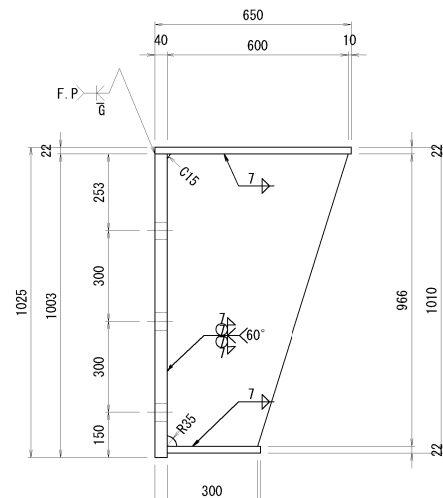
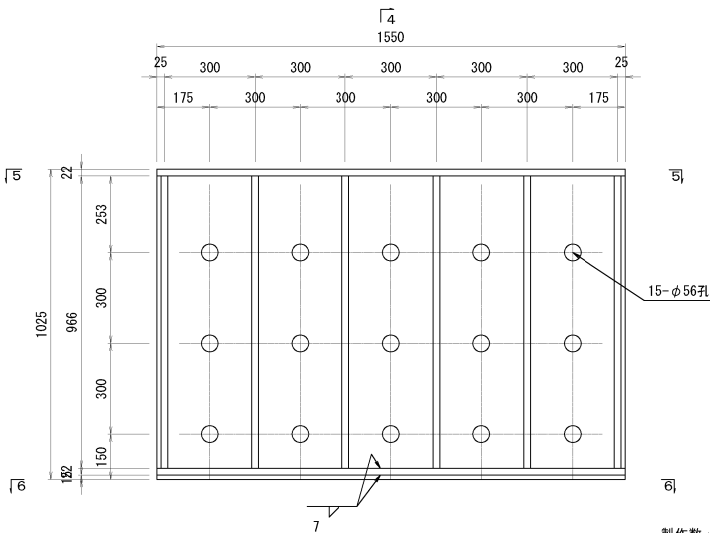
1 - 1



製作数 : 8
※1-Base PL 115(×25× 878 (SM400A)
※1-Flg PL 225×22×1150 (SM400A)
※1-Flg PL 400×22×1150 (SM400A)
※5-Rib PL 365×22× 841 (SM400A)

ブラケット Br-2 詳細図

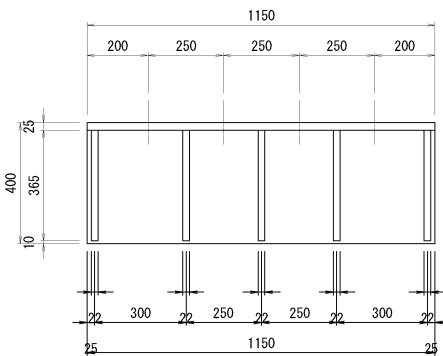
4 - 4



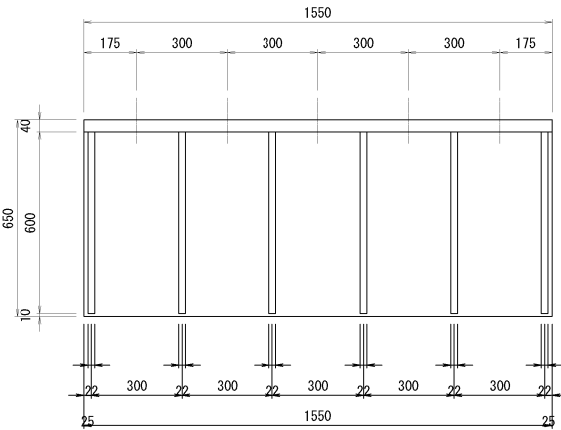
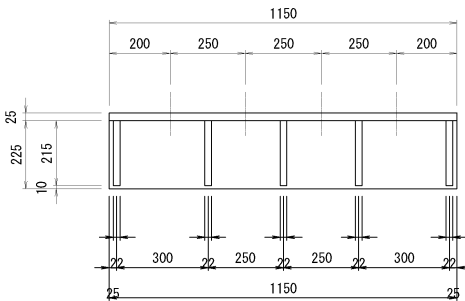
製作数 : 4
※1-Base PL 1550×40×1003 (SM400C)
※1-Flg PL 310×22×1550 (SM400A)
※1-Flg PL 650×22×1550 (SM400A)
※6-Rib PL 600×22×966 (SM400A)

5 - 5

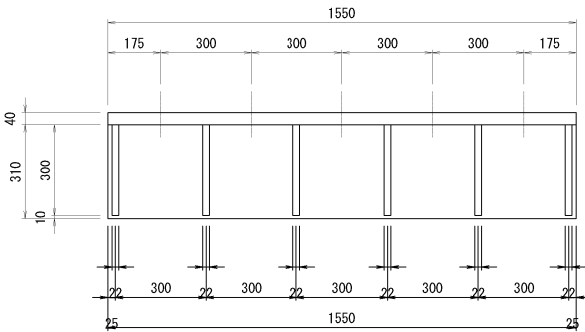
2 - 2



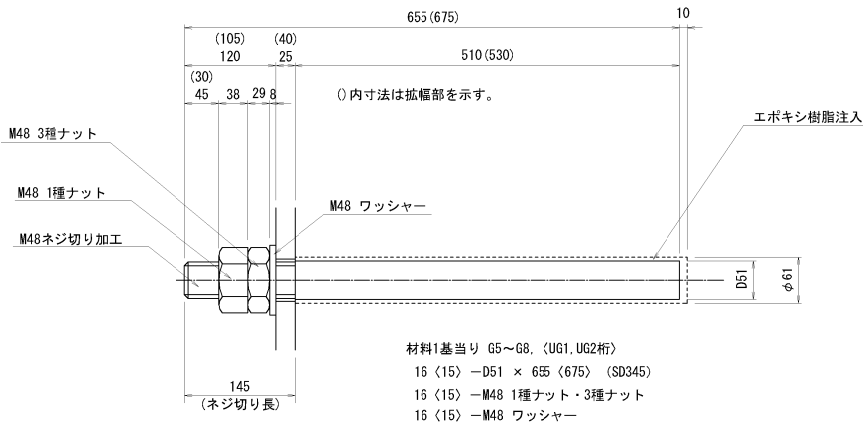
3 - 3



6 - 6

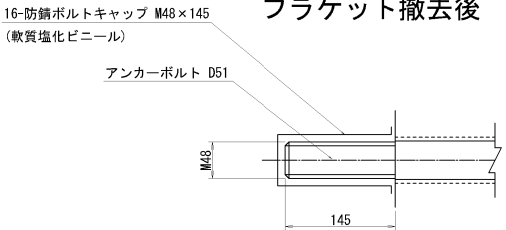


支承取替工
アンカー工φ61（水平方向） 縮尺1:10



材料1基当り G5~G8, 〈UG1,UG2桁〉
15 〈15〉 →D51 × 655 〈675〉 (SD345)
15 〈15〉 →M48 1種ナット・3種ナット
15 〈15〉 →M48 ワッシャー

ブラケット撤去後



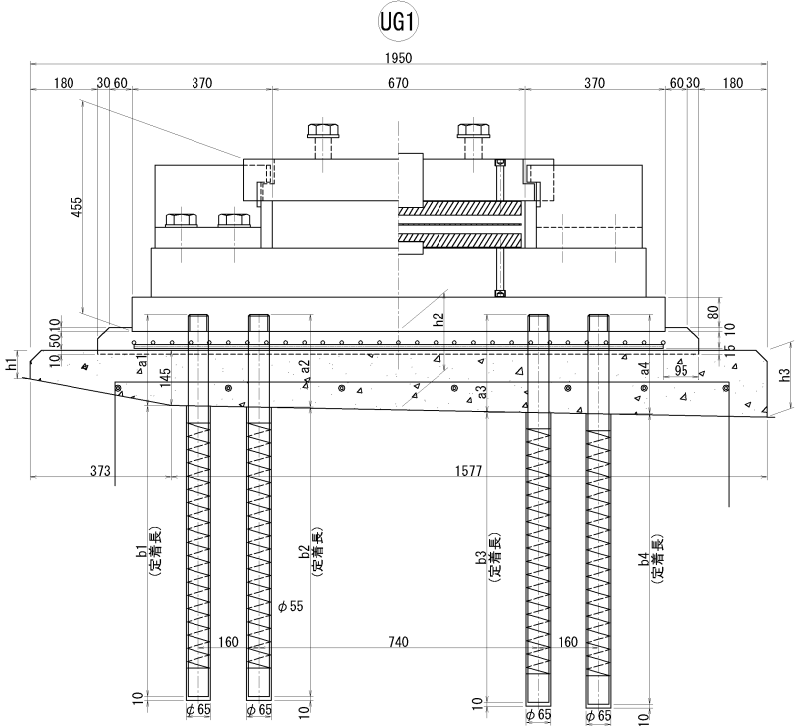
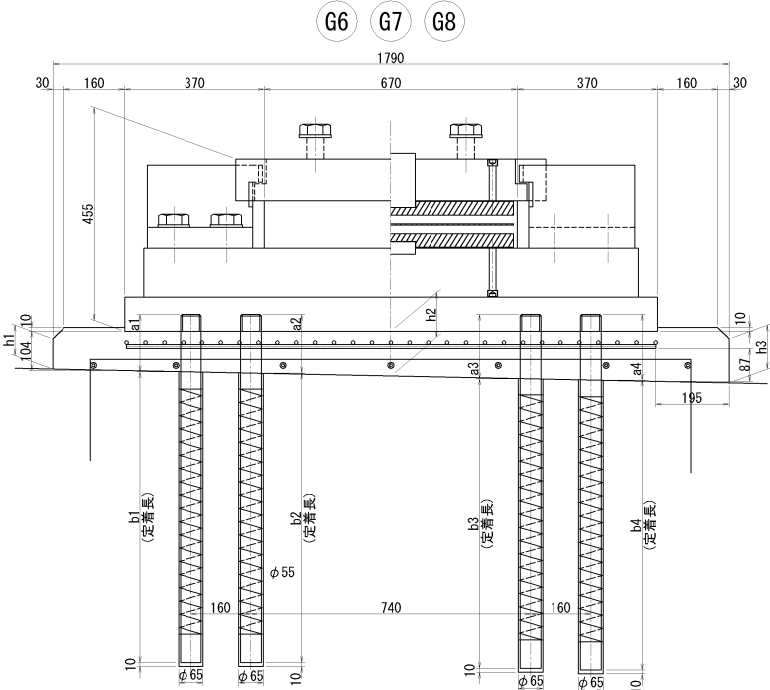
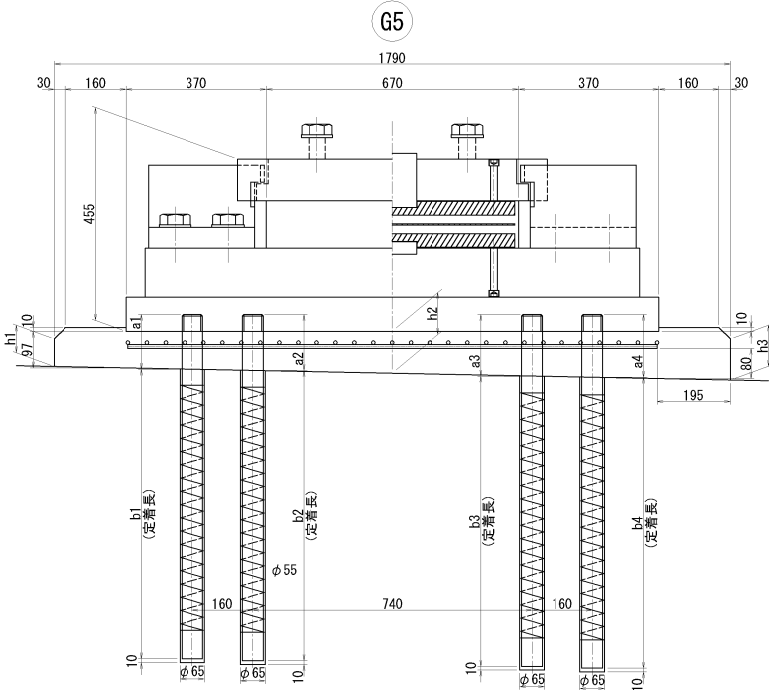
アンカーボルト本体を残置し、
防錆ボルトキャップにより突出部を保護すること。

注 記
1. アンカーボルトはネジ切り部のみ
溶融亜鉛めっきを施すものとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641のHDZT49とする。
2. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 支承取替工(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	53 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

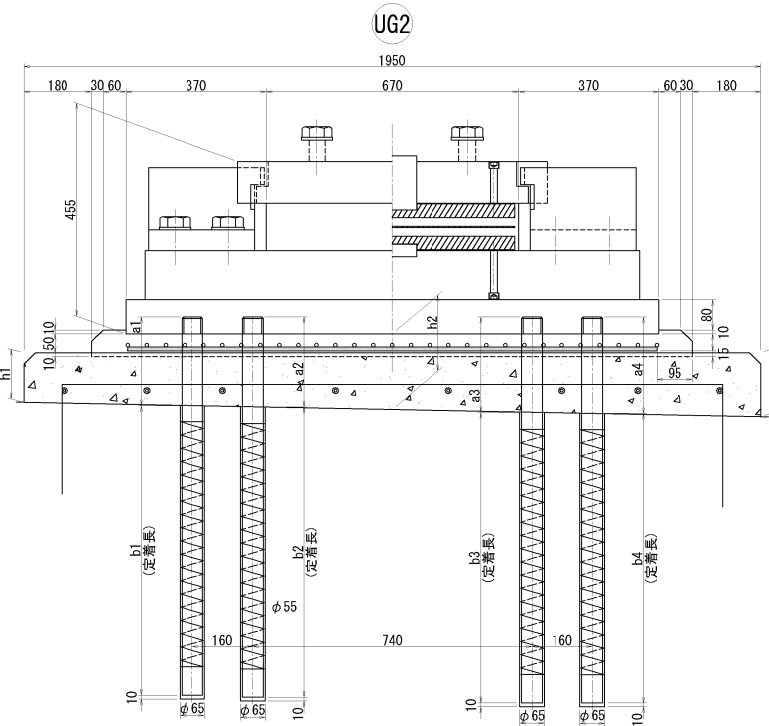
支承取替工 E-2780(4089)

新支承設置
標準断面図 縮尺 1:20



支承取替工 アンカーエφ65（下方向）

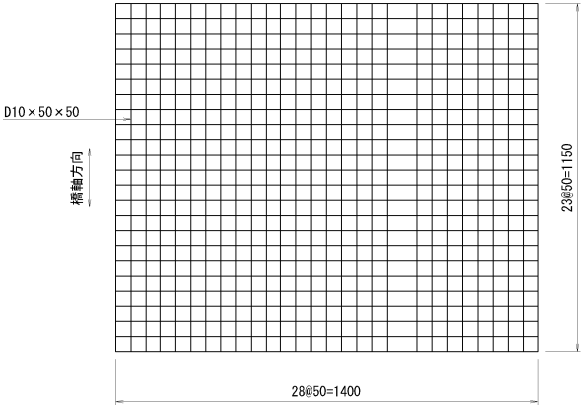
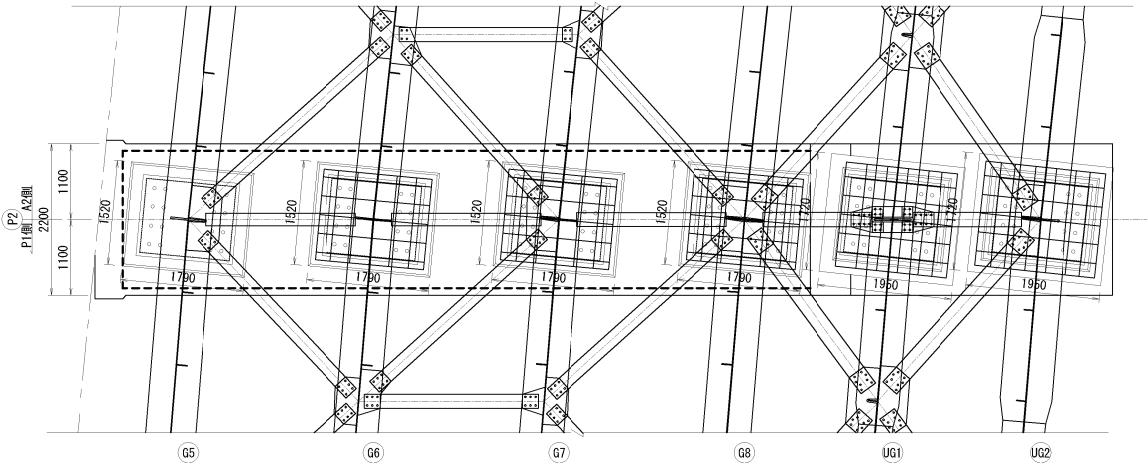
沓座格子鉄筋



台座高			アンカー長(下り線側)							
h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a1 (mm)	b1 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a2 (mm)	b2 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)
G5	73	111	109	145	765	910	775	148	767	777
G6	80	118	116	152	768	920	778	155	765	775
G7	80	118	116	152	768	920	778	155	765	775
G8	80	118	116	152	768	920	778	155	765	775
UG1	76	207	176	242	768	1010	778	245	765	775
UG2	131	290	169	235	765	1000	775	238	767	1005

台座高			アンカー長(上り線側)							
h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a3 (mm)	b3 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a4 (mm)	b4 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)
G5	73	111	109	163	767	930	777	167	768	778
G6	80	118	116	170	765	935	775	174	766	776
G7	80	118	116	170	765	935	775	174	766	776
G8	80	118	116	170	765	935	775	174	766	776
UG1	76	207	176	259	766	1025	776	263	767	1030
UG2	131	290	169	252	768	1020	778	255	765	1020

台座配置図



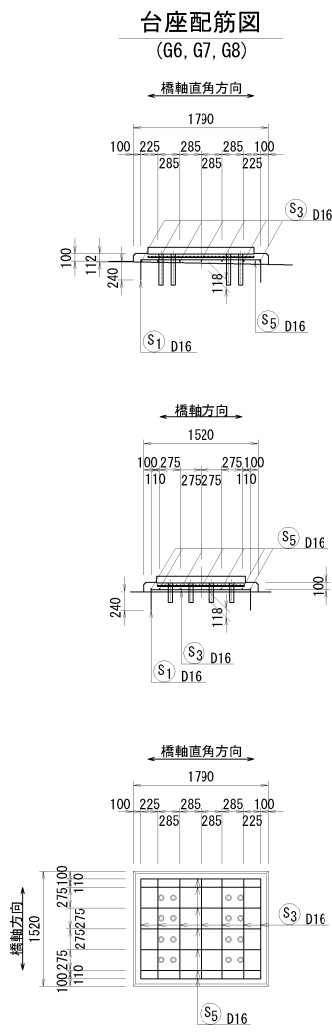
格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計(6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	SD345 (HDZ'49)	Kg	37.5	225	225	23.29Kg/㎡

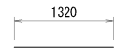
注記)
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 支承取替工(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	54 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

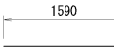
支承取替工 E-2780(4089)



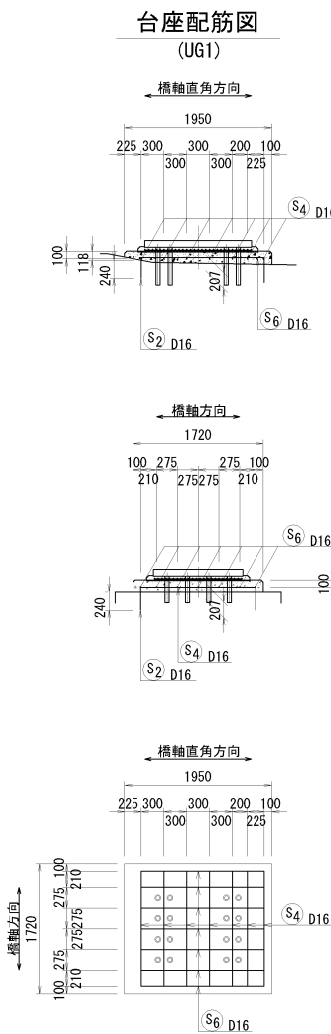
S1 24-差し筋アンカー-D16×820



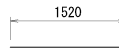
S3 7-D16×1320



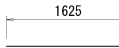
S5 7-D16×1590



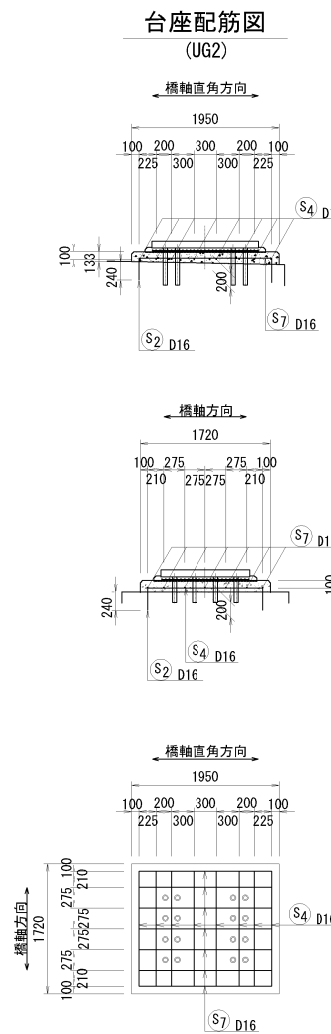
S2 24-差し筋アンカー-D16×840



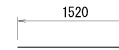
S4 7-D16×1520



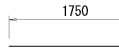
S6 7-D16×1630



S2 26-差し筋アンカー-D16×840



S4 8-D16×1520



S7 7-D16×1750

鉄筋加工寸法表

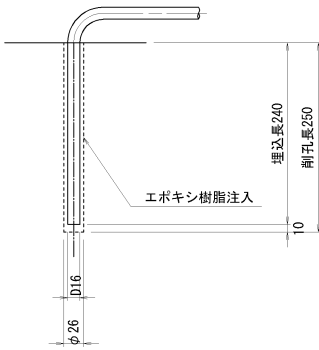
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0 ϕ		$\theta > 90^\circ$ R=5.5 ϕ		$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4		

鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
S1	D16	820	72	1.56	1.28	92	差筋AK
S2	D16	840	50	1.56	1.31	66	差筋AK
S3	D16	1320	21	1.56	2.06	43	—
S4	D16	1520	15	1.56	2.37	36	—
S5	D16	1590	21	1.56	2.48	52	—
S6	D16	1630	7	1.56	2.54	18	—
S7	D16	1750	7	1.56	2.73	19	—
計							326 kg
鉄筋A(台座)							326 kg
差筋計							(差し筋アンカー)
鉄筋計							326 kg
総質量							326 kg

支承取替工
アンカーエφ26(下方向)

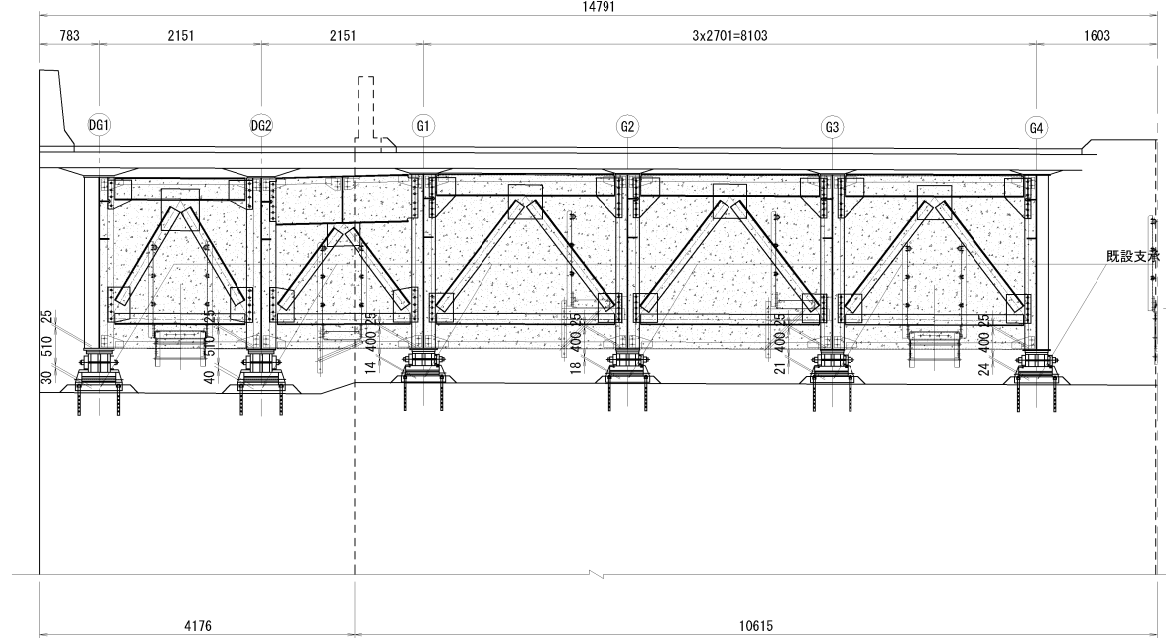
台座補強筋アンカー 詳細図 1:20



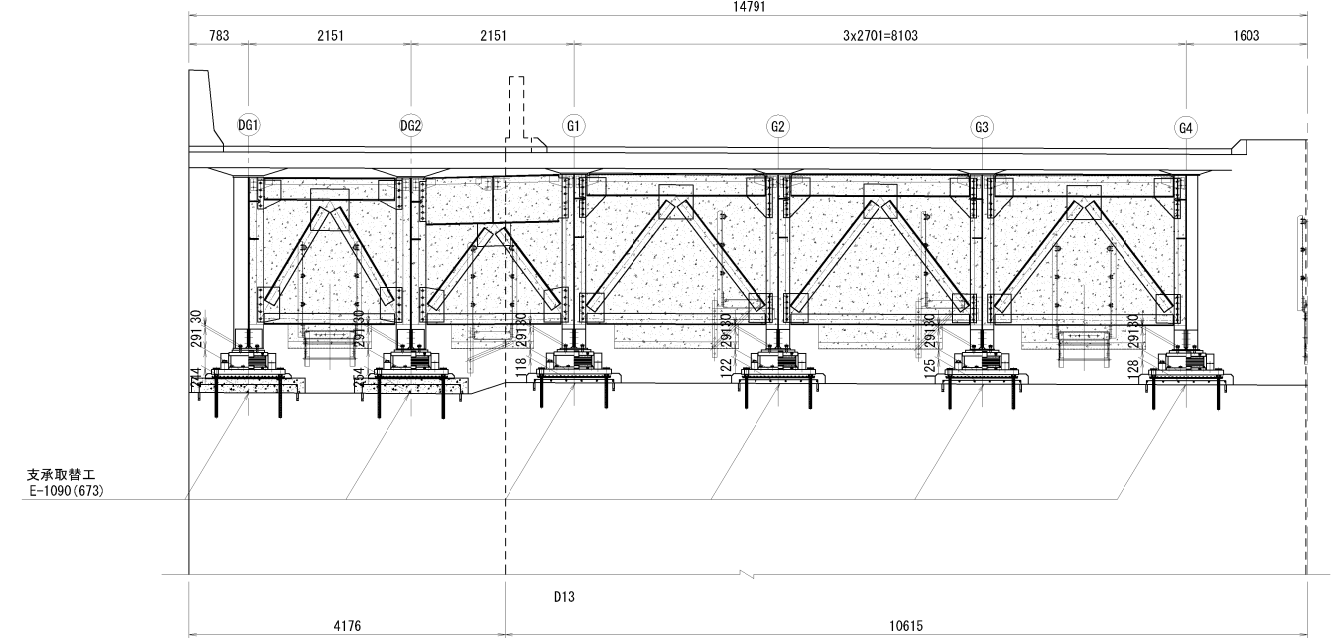
- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 支承取替工(その6)		
縮尺	図示	図面番号	55 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

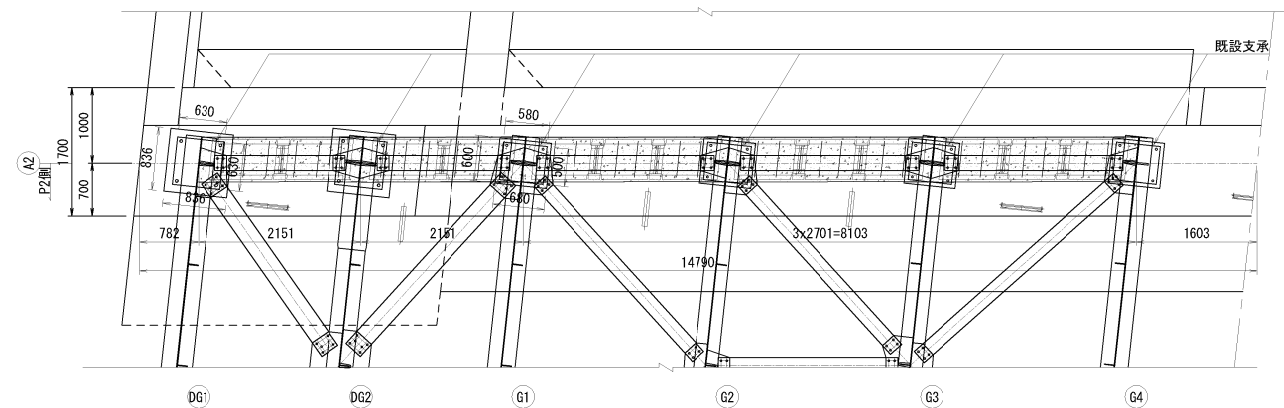
取替前
断面図



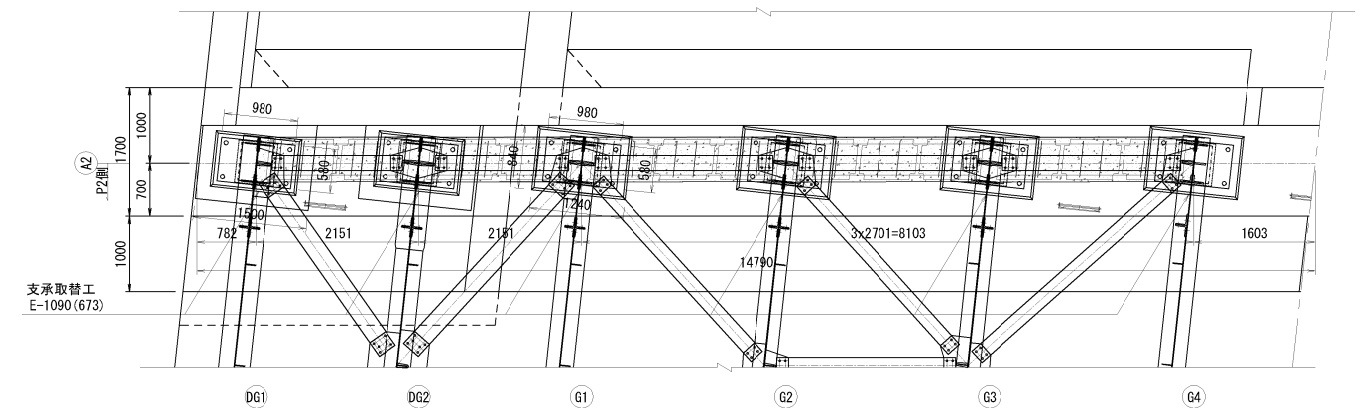
取替後
断面図



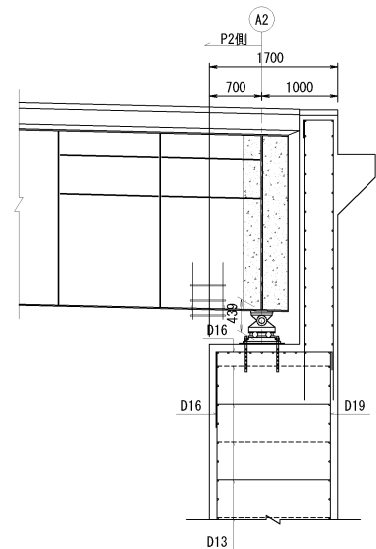
平面図



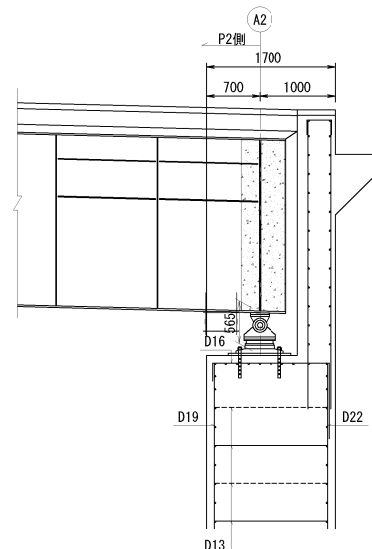
平面図



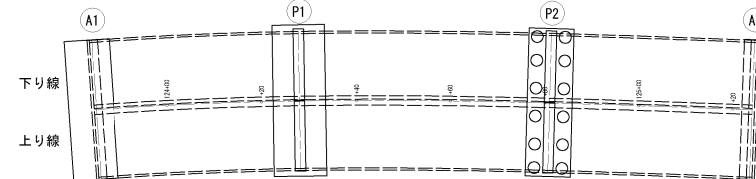
側面図(建設当初 G1)



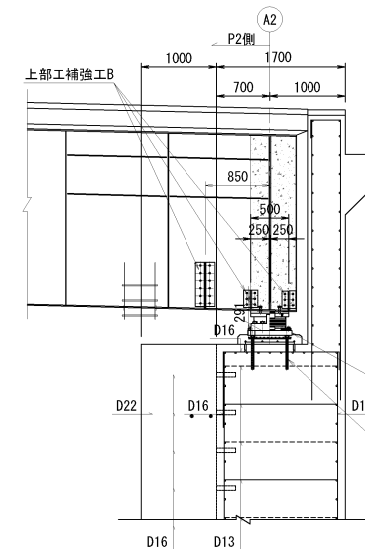
側面図(拡幅部 DG1)



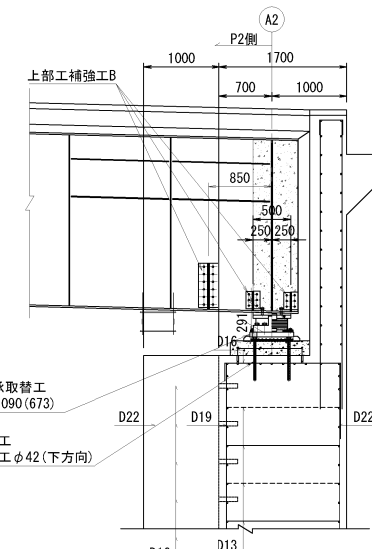
位置図



側面図(建設当初 G1)

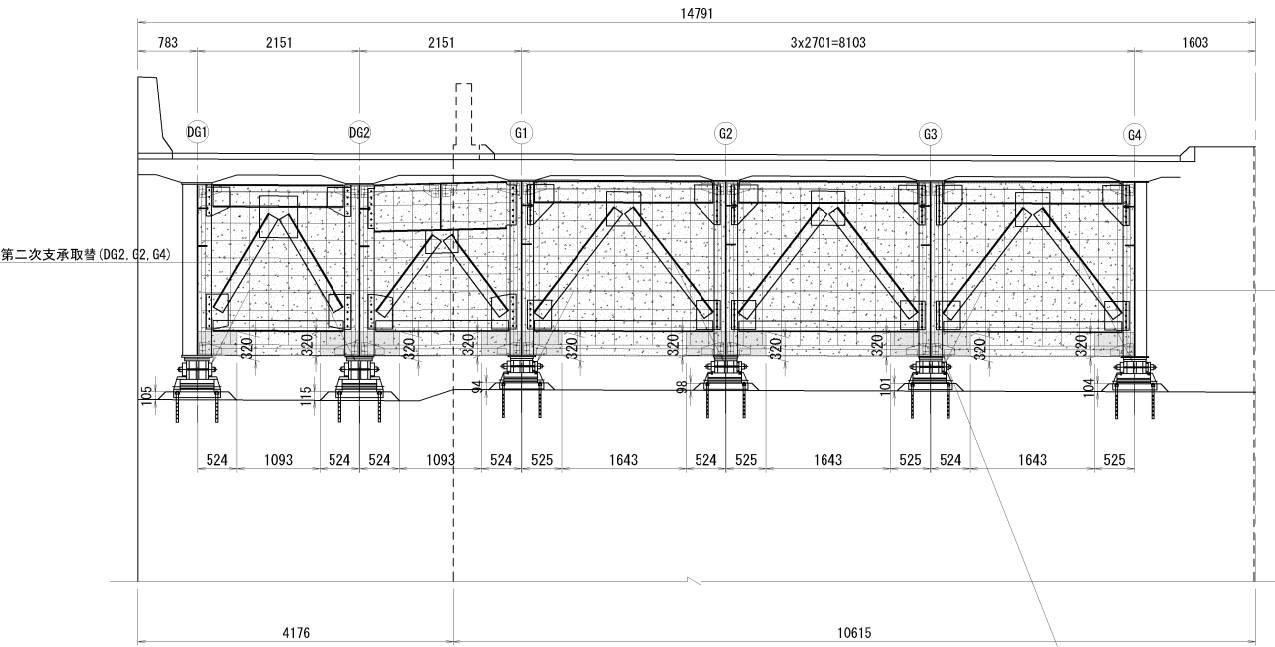


側面図(拡幅部 DG1)

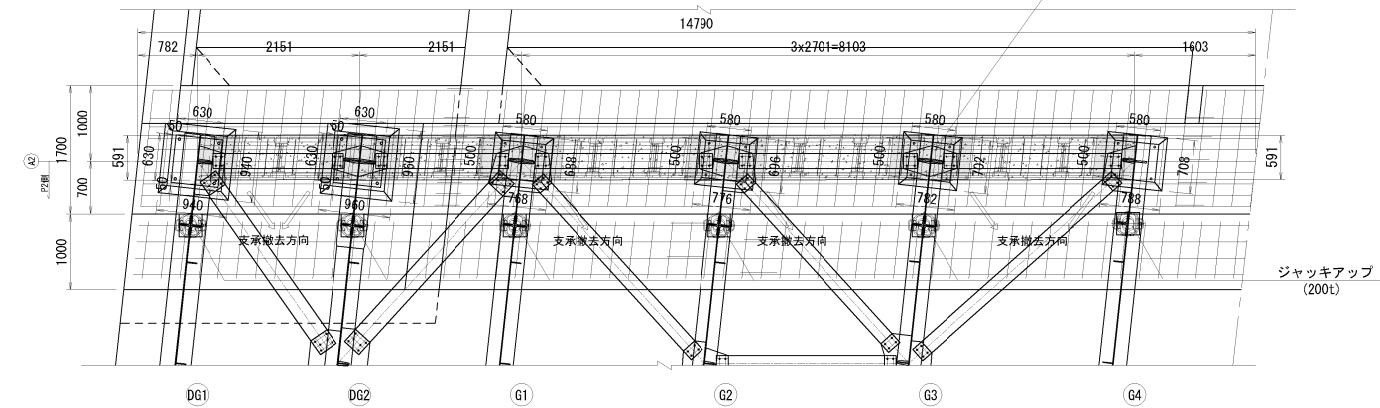


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 支承取替工(その1)		
縮尺	図示	図面番号	56 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

支承取替順序 断面図

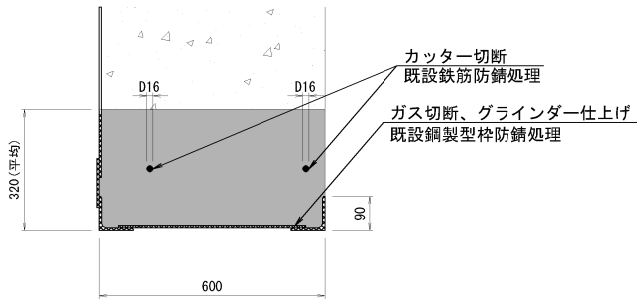


平面図

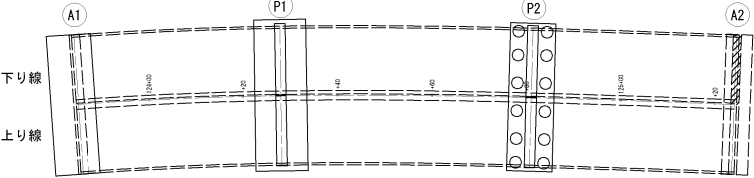


コンクリートはつりエA
防音コンクリート撤去詳細図

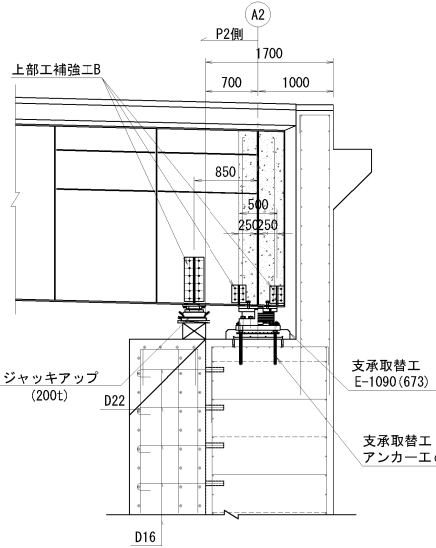
縮尺1:20



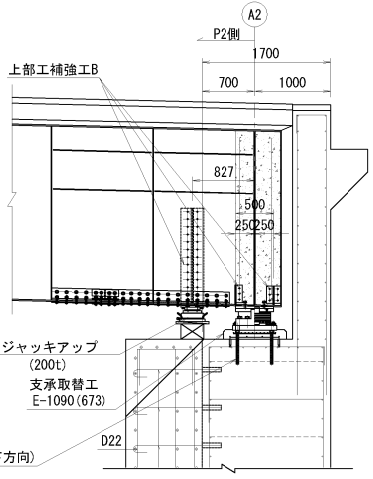
位置図



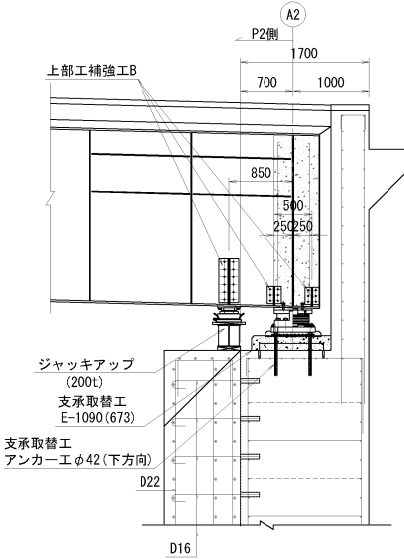
側面図(建設当初 ①)



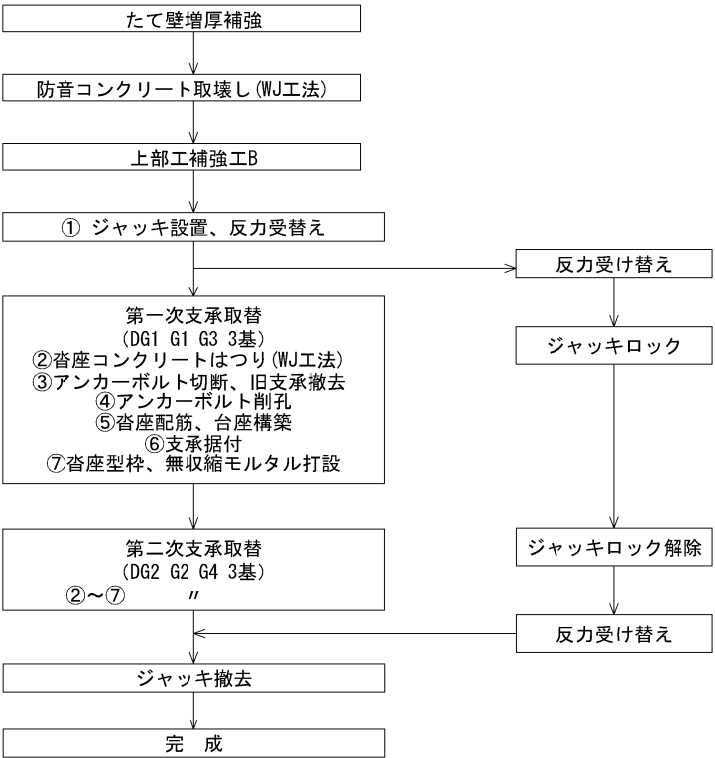
側面図(建設当初 ④)



側面図(拡幅部 ⑥)



施工順番図(参考)



- 注 記
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
 4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱いは、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 支承取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	57 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

[G4]

仮受け補剛材
(ジャッキアップ用)

24-φ24.5 5孔

45

11φ100=1100

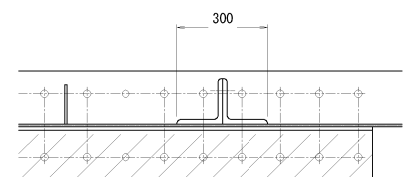
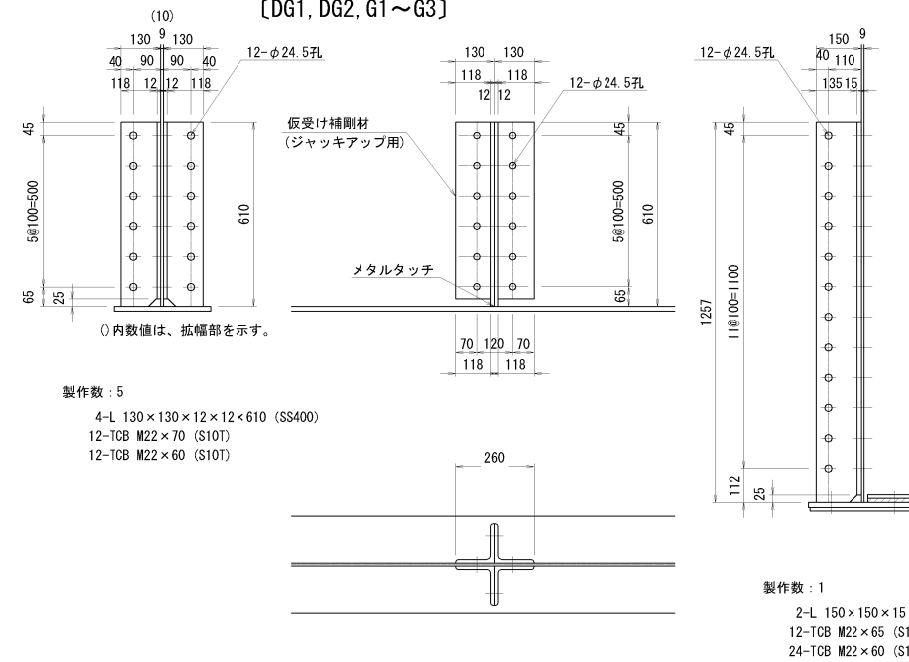
1257

メタルタツチ

112

86 128 86

135 135



支取取替工
E-1090 (673)

Technical drawing of a square plate with the following specifications:

- Overall dimensions: 500 mm by 440 mm.
- Four corner holes: $\phi 25.5 \pm 0.1$.
- Central hole: $\phi 121$.
- Dimensions and tolerances:
 - Top edge: $T=36.0$
 - Bottom edge: $T=36.0$
 - Left edge: $T=24.0$
 - Right edge: $T=24.0$
 - Vertical spacing from top edge to first hole center: 110
 - Vertical spacing between hole centers: 220
 - Vertical spacing from last hole center to bottom edge: 110
 - Horizontal spacing from left edge to first hole center: 125
 - Horizontal spacing between hole centers: 250
 - Horizontal spacing from last hole center to right edge: 125

注 記

1. 高力ボルトは転用しないこと

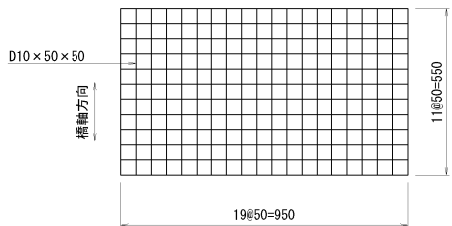
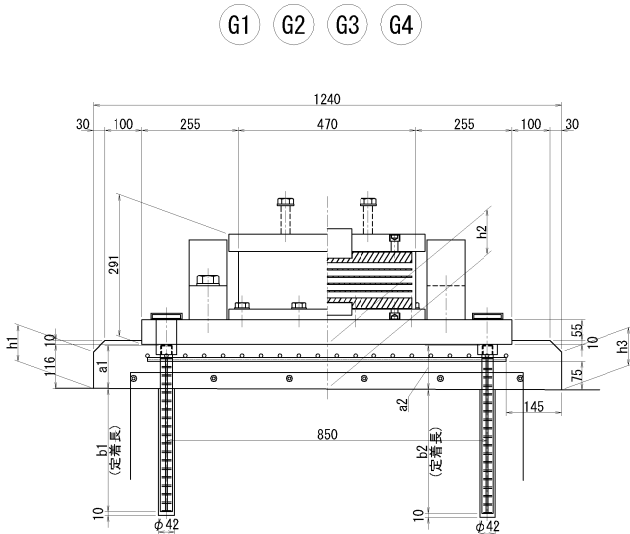
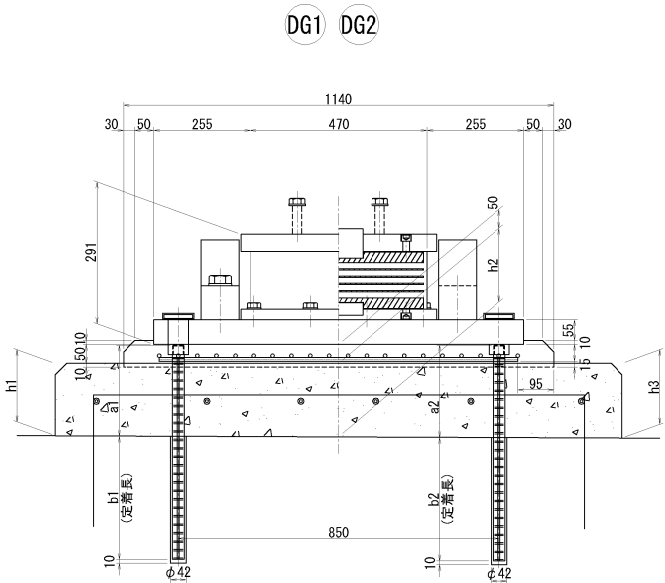
横浜須賀買道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋(下り線) 支那取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	58 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

支承取替工 E-1090(673)

新支承設置

新支承 標準断面図 縮尺 1:20

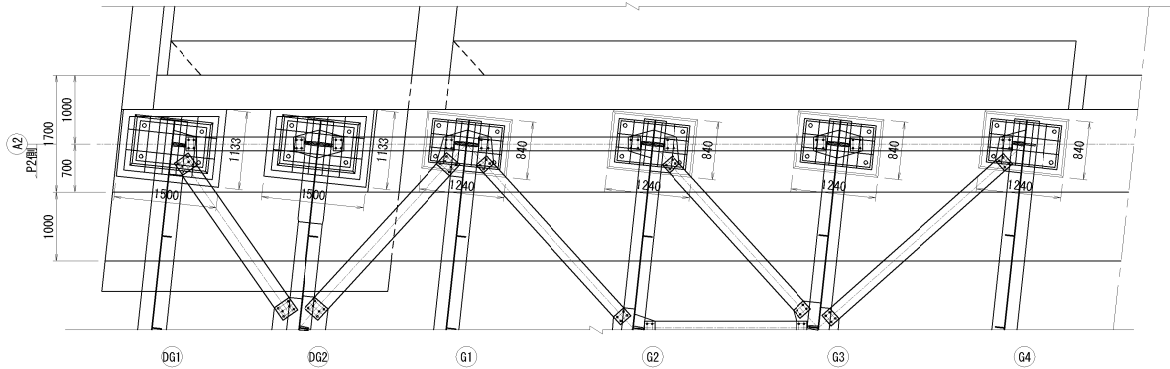
沓座格子鉄筋



格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計 (6箇所)		
格子鉄筋	D10 x 50 x 50	SD345 (HDZT49)	Kg	12.5	75	75	24.01Kg/m ²

台座配置図



支承取替工 アンカー工φ42 (下方向)

台座高				アンカー長(下り線側)				アンカー長(上り線側)			
	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a1 (mm)	b1 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a2 (mm)	b2 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)
DG1	191	194	197	240	325	565	335	244	326	570	336
DG2	201	204	207	250	325	575	335	254	326	580	336
G1	96	118	100	115	325	440	335	117	328	445	338
G2	100	122	104	119	326	445	336	121	329	450	339
G3	103	125	107	122	328	450	338	124	326	450	336
G4	106	128	110	125	325	450	335	127	328	455	338

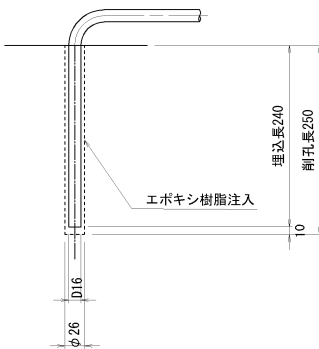
- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 支承取替工(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	59 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

新支承設置
支承取替工 E-1090(673)



支承取替工 アンカーエφ26（下方向）
台座補強筋アンカー 詳細図 1:20



鉄筋加工寸法表

主筋		半円径フック		スターラップ		直角フック	
$\theta \leq 90^\circ$ $R=3.0\phi$		$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$		$\theta=45^\circ$		$\theta=60^\circ$	
ϕ		ϕ		a		a	
ΔL		ΔL		ΔL		ΔL	
ΔL		ΔL		ΔL		ΔL	

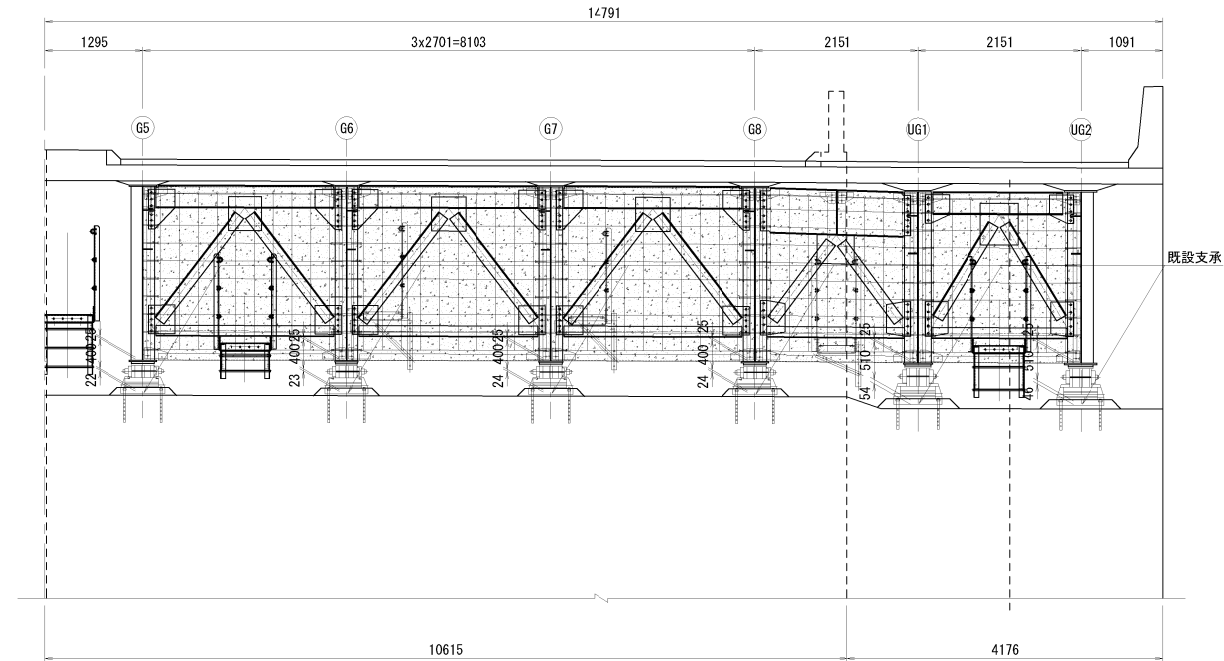
鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
S1	D16	880	16	1.56	1.37	22	差筋AK
S2	D16	890	16	1.56	1.39	22	差筋AK
S3	D16	820	16	1.56	1.23	20	差筋AK
S4	D16	820	16	1.56	1.23	20	差筋AK
S5	D16	820	16	1.56	1.23	20	差筋AK
S6	D16	830	16	1.56	1.29	21	差筋AK
S7	D16	850	12	1.56	1.33	16	—
S8	D16	640	24	1.56	1.00	24	—
S9	D16	1310	8	1.56	2.04	16	—
S10	D16	1040	16	1.56	1.62	26	—
計							207 kg
鉄筋 A (台座)							
差筋計	D16	125 kg	D16	44 kg	D16	81 kg	
鉄筋計	D16	82 kg	D16	32 kg	D16	50 kg	
総質量	207 kg	76 kg	131 kg				

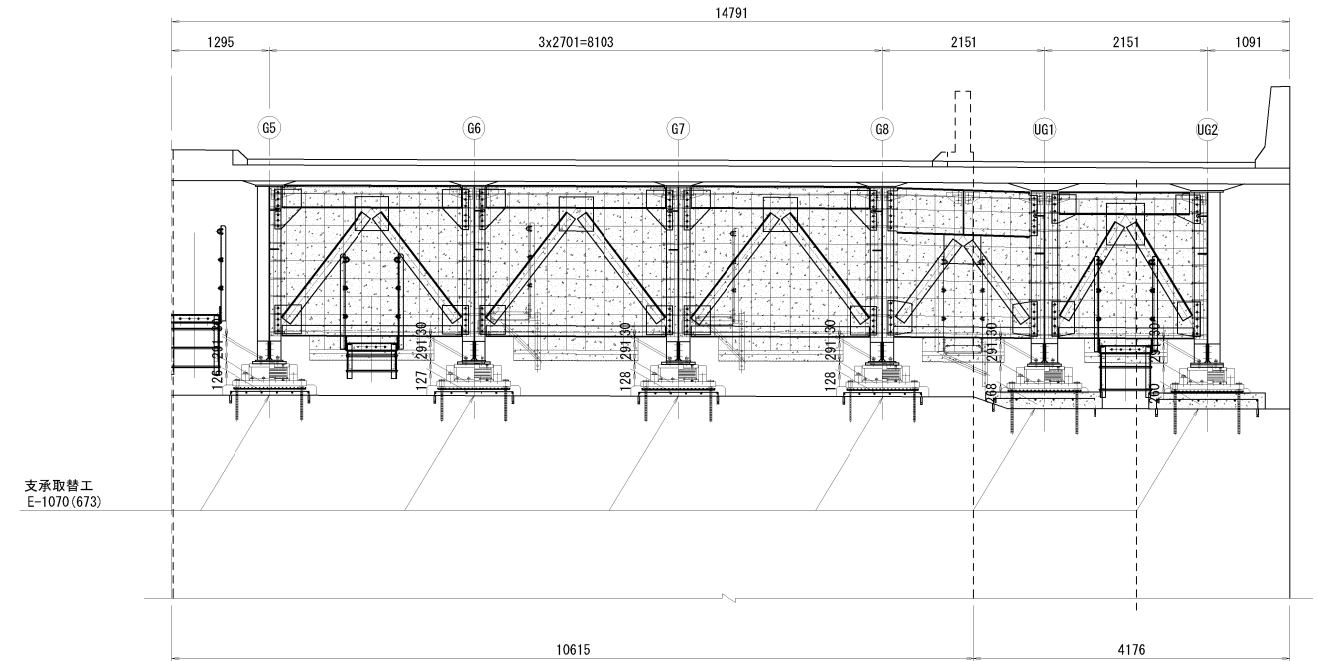
注記)
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。

横浜横須賀道路			
釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 支承取替工(その5)		
縮尺	図示	図面番号	60 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

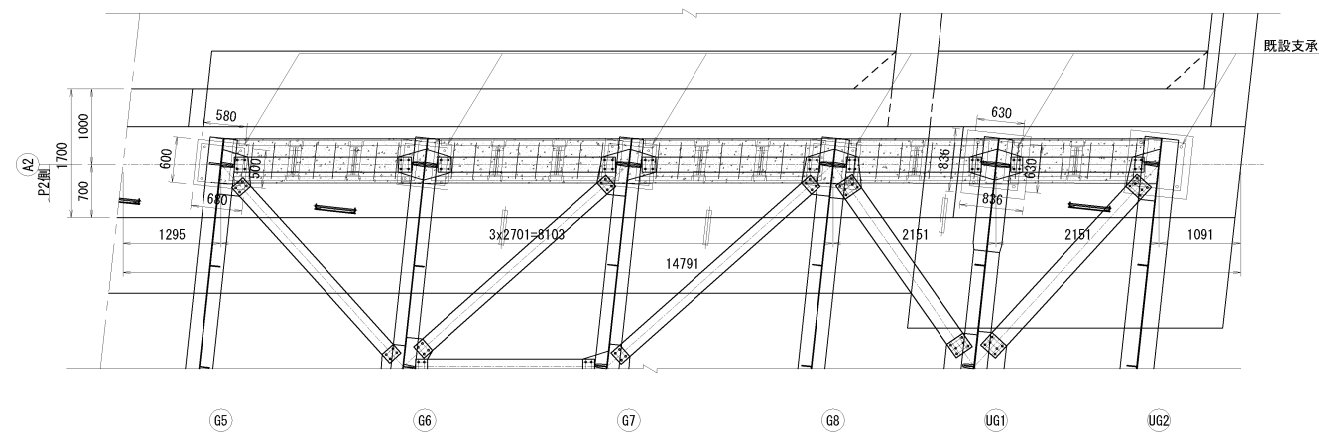
取替前
断面図



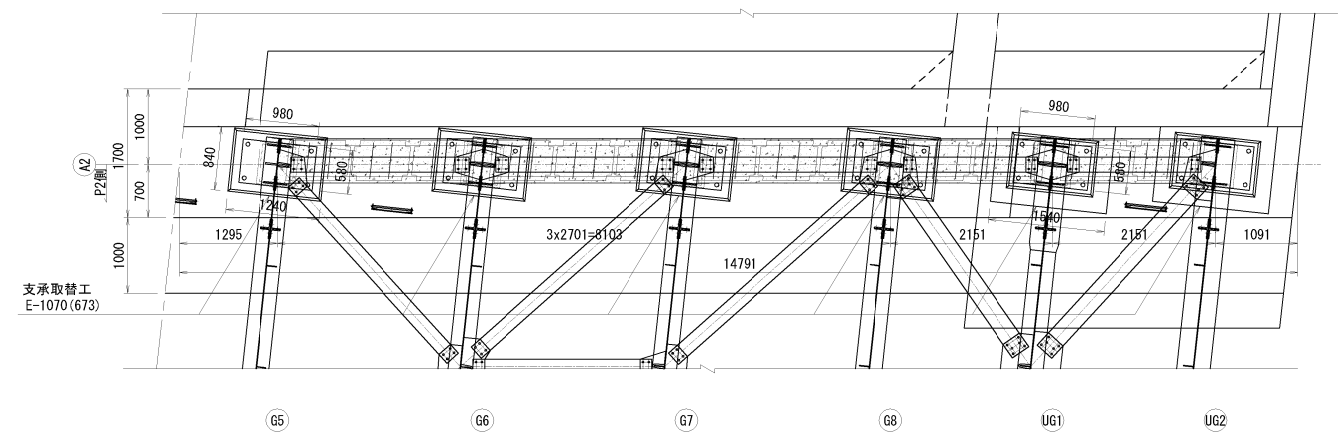
取替後
断面図



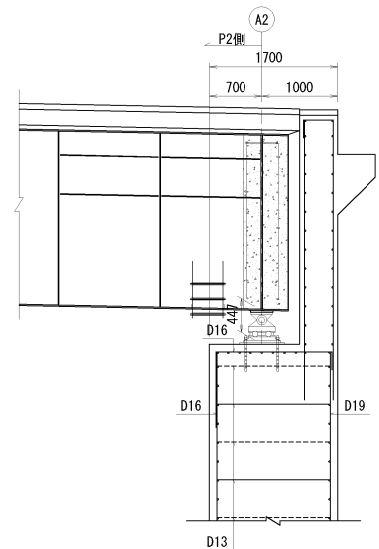
平面図



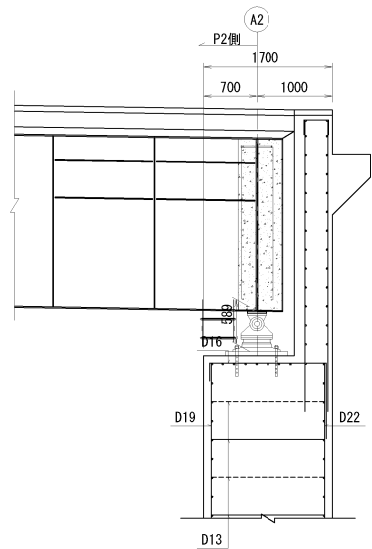
平面図



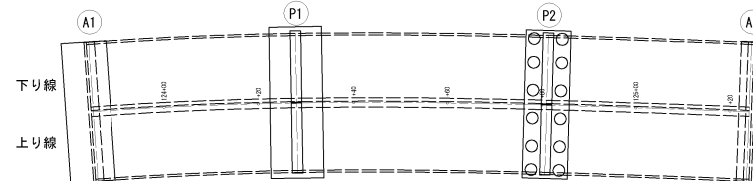
側面図(建設当初 G5)



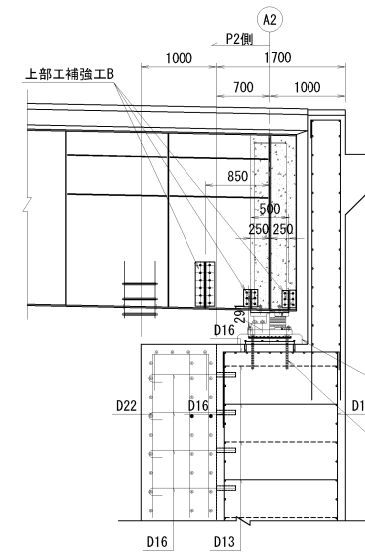
側面図(拡幅部 UG1)



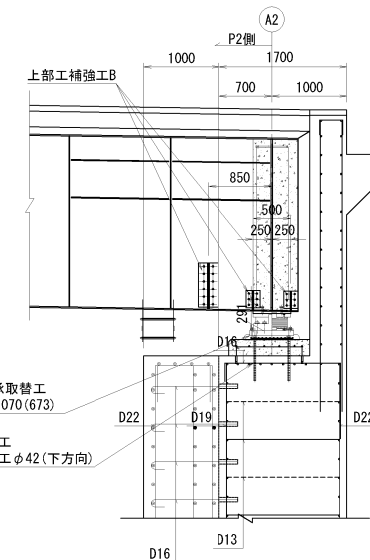
位置図



側面図(建設当初 G5)

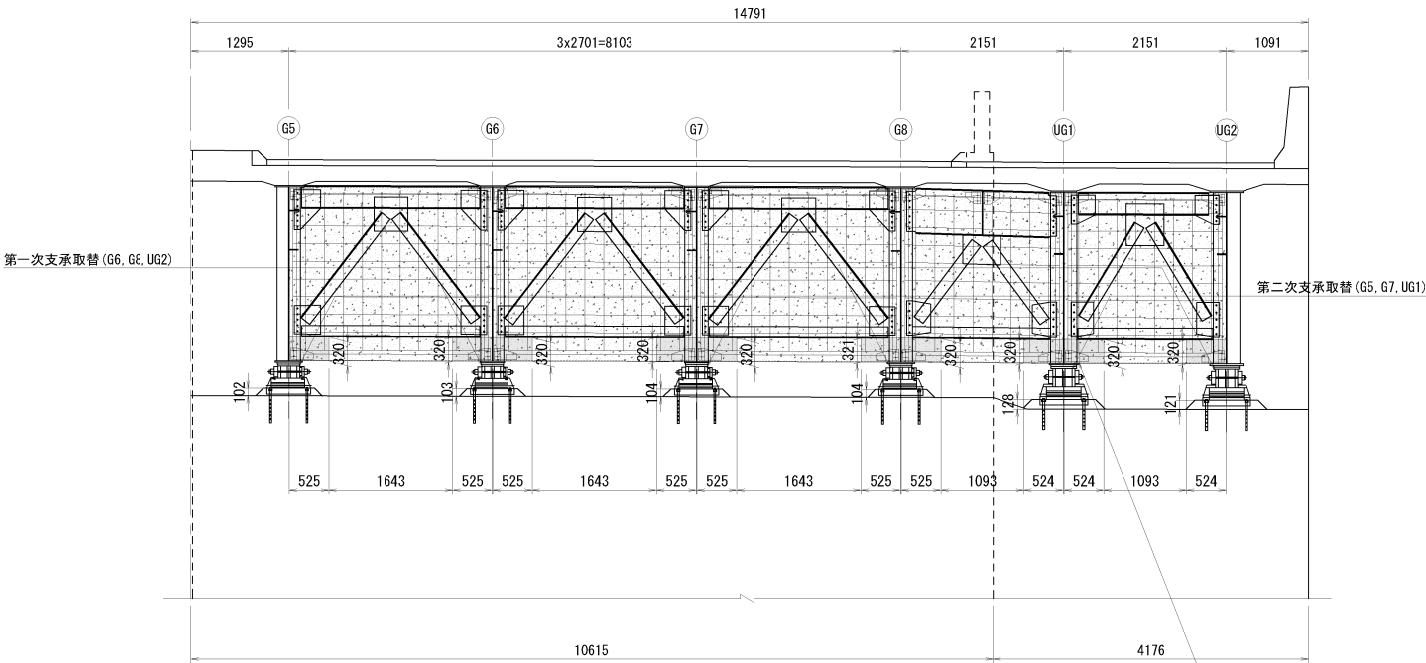


側面図(拡幅部 UG1)

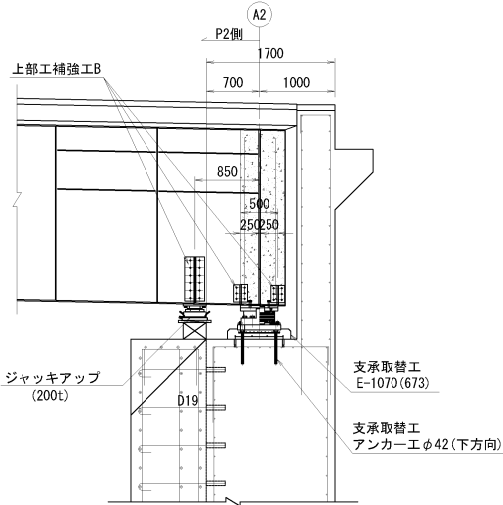


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 支承取替工(その1)			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 支承取替工(その1)	図面番号	61 / 112
縮尺	図示	図面番号	61 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

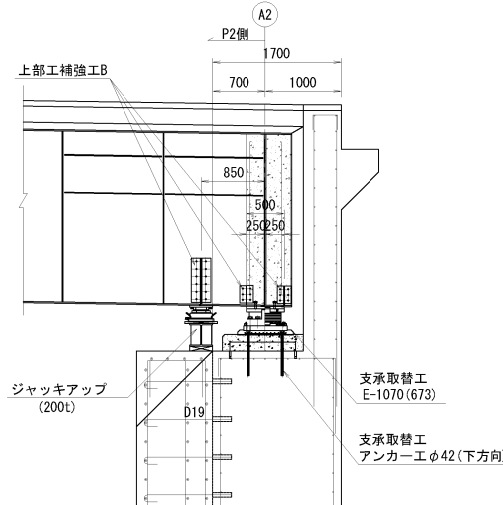
支承取替順序 断面図



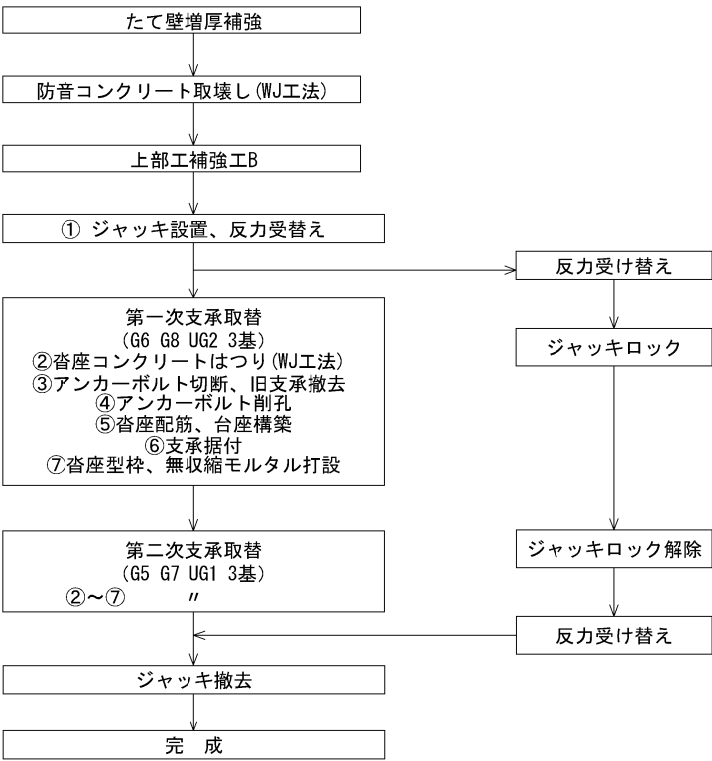
側面図(建設当初 ⑤)



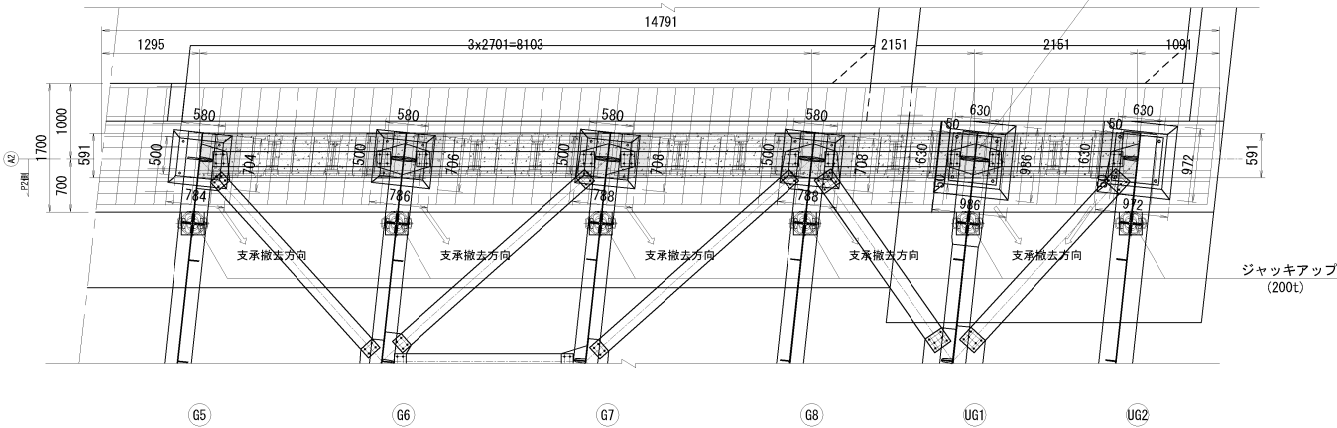
側面図(拡幅部 UG1)



施工順番図(参考)

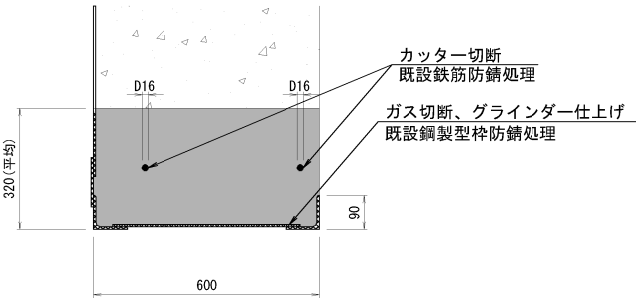


平面図

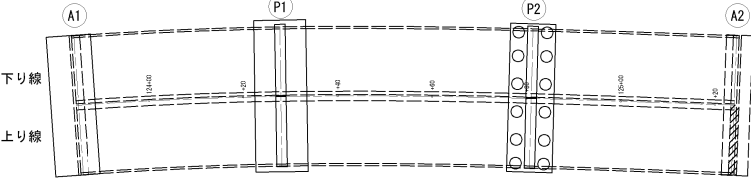


コンクリートはつりエA
防音コンクリート撤去詳細図

縮尺1:20



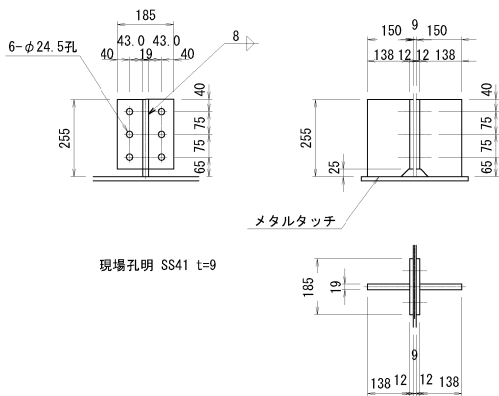
位置図



- 注 記
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
 4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱いは、監督員と協議の上決定すること。

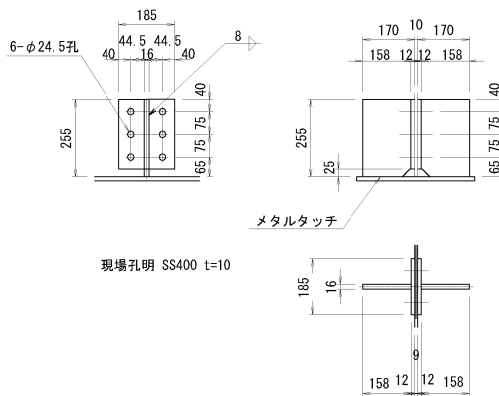
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 支承取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	62 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

支点上部補強材詳細図
(G5~G8)



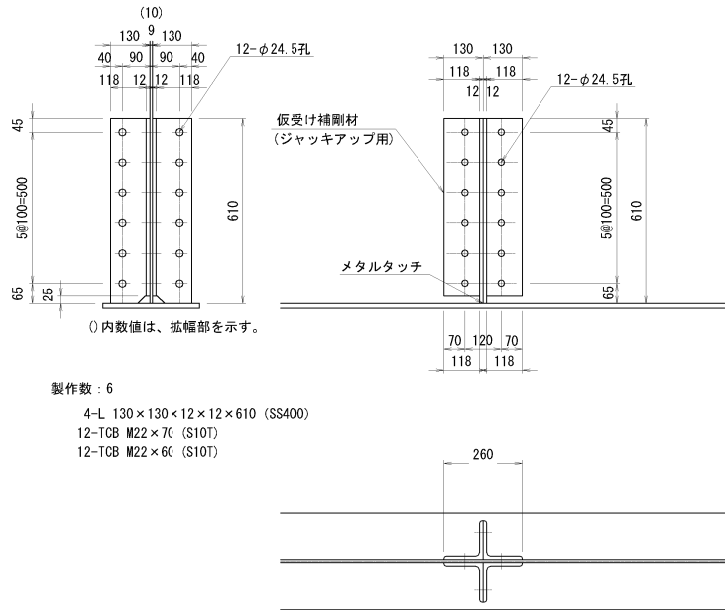
製作数 : 8
2-Base 185 × 12 × 130 (SM400A)
2-リブ 138 × 19 × 155 (SM400A)
6-TCB M22 × 70 (S10T)

支点上部補強材詳細図
(UG1, UG2)



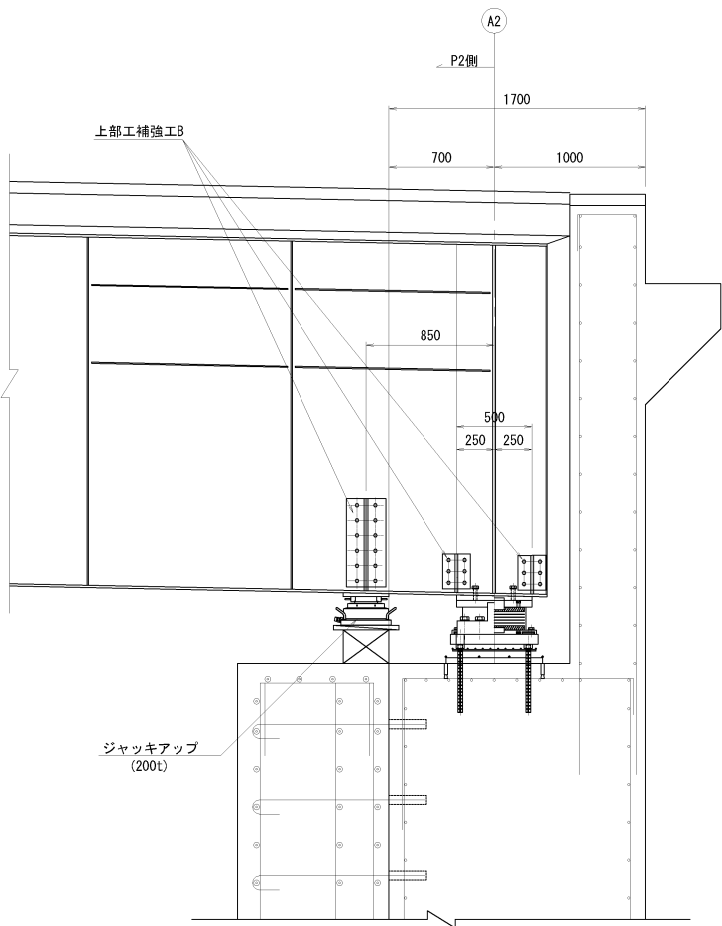
製作数 : 4
2-Base 185 × 12 × 230 (SM400A)
2-リブ 158 × 16 × 255 (SM400A)
6-TCB M22 × 70 (S10T)

仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

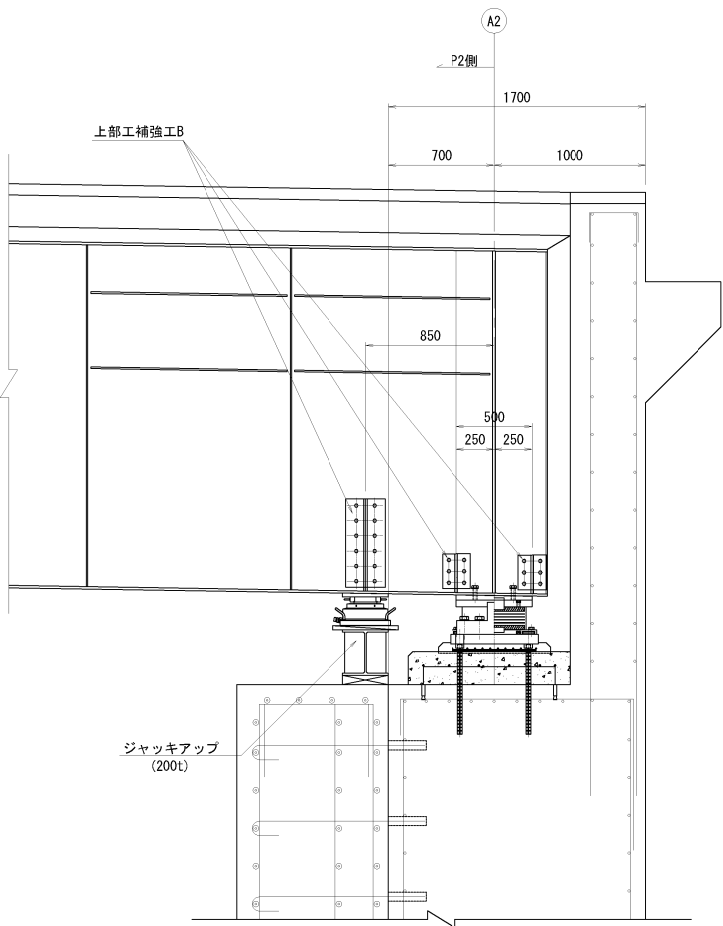


主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G5)

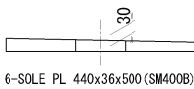
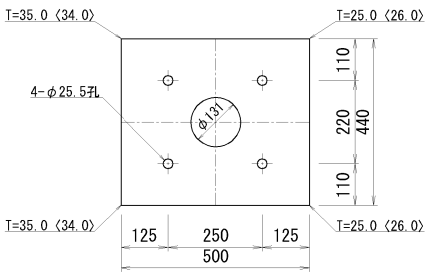


側面図(拡幅部 UG1)



支承取替工
E-1070(673)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20
(内数値は、拡幅部を示す。)



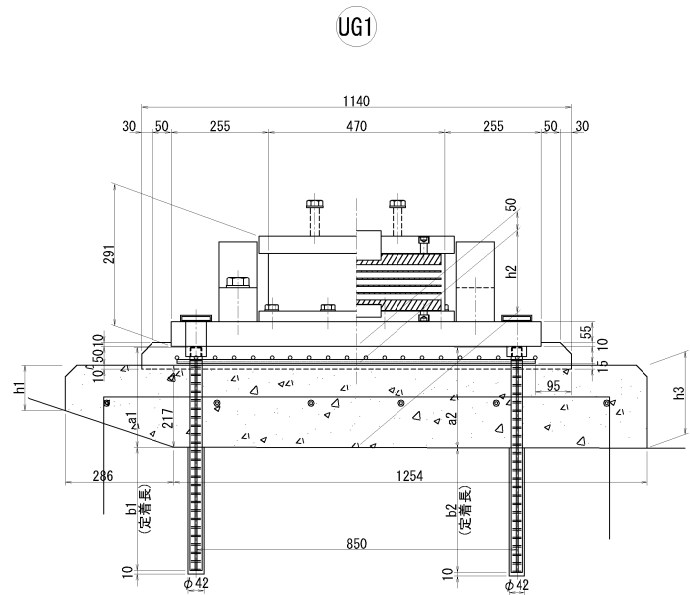
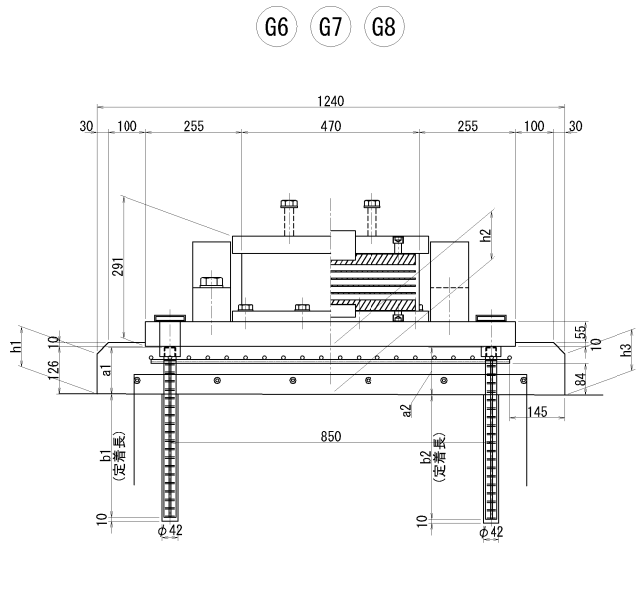
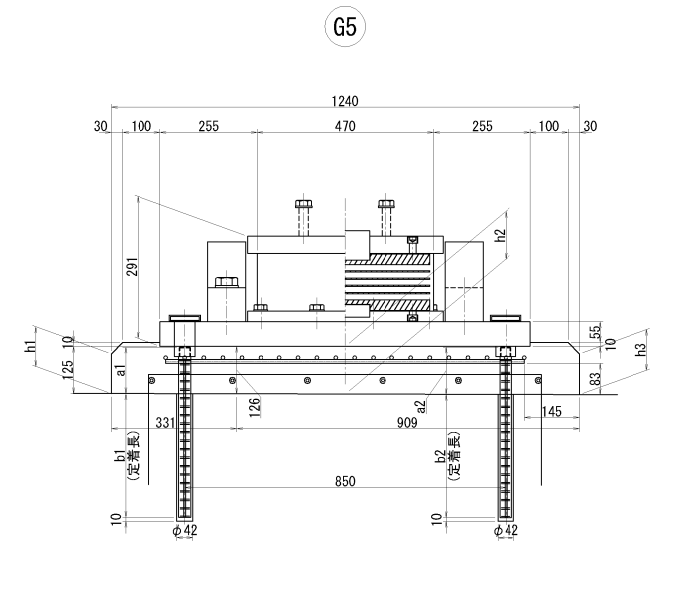
※溶融亜鉛めっき処理 (膜厚は、JIS H8641 HDZ177とする。)

注 記
1. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	63 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

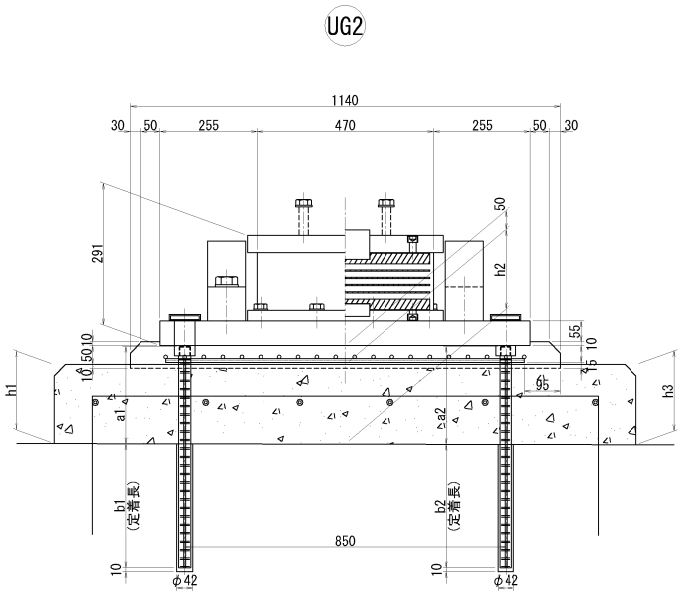
支承取替工 E-1070(673)

新支承設置
新支承 標準断面図 縮尺 1:20

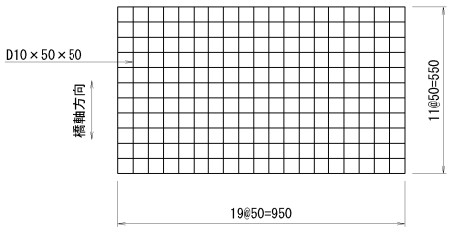


沓座格子鉄筋

支承取替工 アンカーエφ42(下方向)



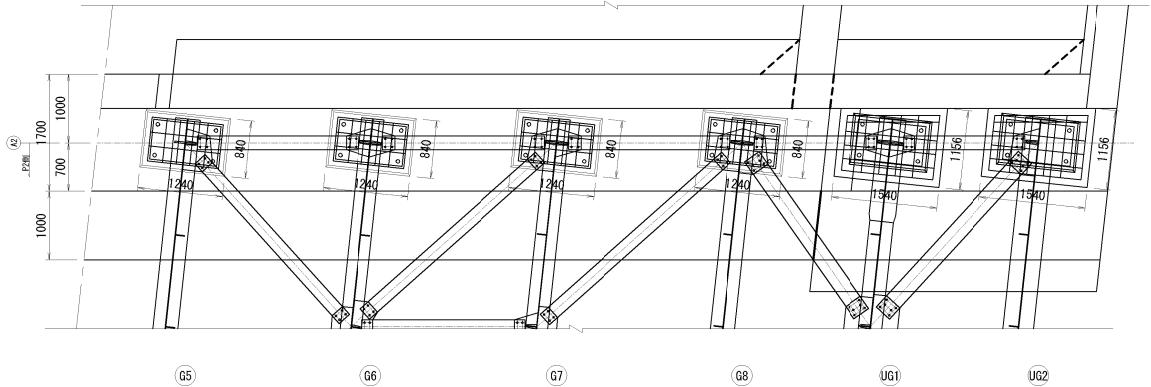
	台座高			アンカー長(下り線側)				アンカー長(上り線側)			
	h1(mm)	h2(mm)	h3(mm)	a1(mm)	b1(mm)	アンカー長(mm)	L(mm)	a2(mm)	b2(mm)	アンカー長(mm)	L(mm)
G5	105	125	108	123	327	450	337	125	325	450	335
G6	106	127	109	124	326	450	336	126	329	455	339
G7	106	127	109	124	326	450	336	126	329	455	339
G8	106	127	109	124	326	450	336	126	329	455	339
UG1	120	213	219	265	325	590	335	266	329	595	339
UG2	209	210	212	257	328	585	338	259	326	585	336



格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計(6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	SD345 (HDT49)	Kg	12.5	75	75	24.01Kg/㎡

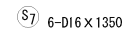
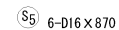
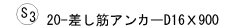
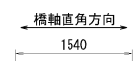
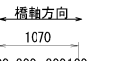
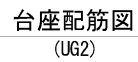
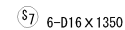
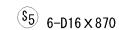
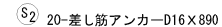
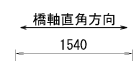
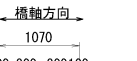
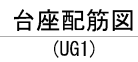
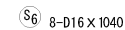
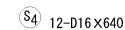
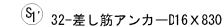
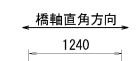
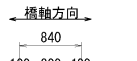
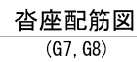
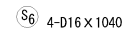
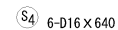
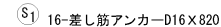
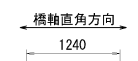
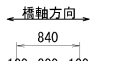
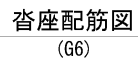
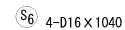
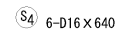
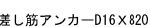
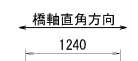
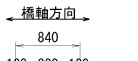
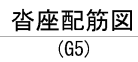
台座配置図



- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 支承取替工(その4)			
縮 尺	図 示	図面番号	64 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			

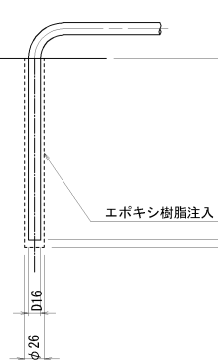
新支承設置



径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=3.0\phi$		$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$		$\theta=45^\circ$		$\theta=60^\circ$		$\theta=90^\circ$		$\theta=135^\circ$	
	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4		

記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	一本当り質量	質 量	摘 要
S 1	D16	820	32	1.56	1.28	41	差筋AK
S 1'	D16	830	32	1.56	1.29	41	差筋AK
S 2	D16	890	20	1.56	1.39	28	差筋AK
S 3	D16	900	20	1.56	1.40	28	差筋AK
S 4	D16	640	24	1.56	1.00	24	—
S 5	D16	870	12	1.56	1.36	16	—
S 6	D16	1040	16	1.56	1.62	26	—
S 7	D16	1350	12	1.56	2.11	25	—
						229	kg
計			鉄筋 A (台座)		畜座		
差筋計	D16	138 kg	D16	56 kg	D16	82 kg	
鉄筋計	D16	91 kg	D16	41 kg	D16	50 kg	
総質量	229 kg		97 kg		132 kg		

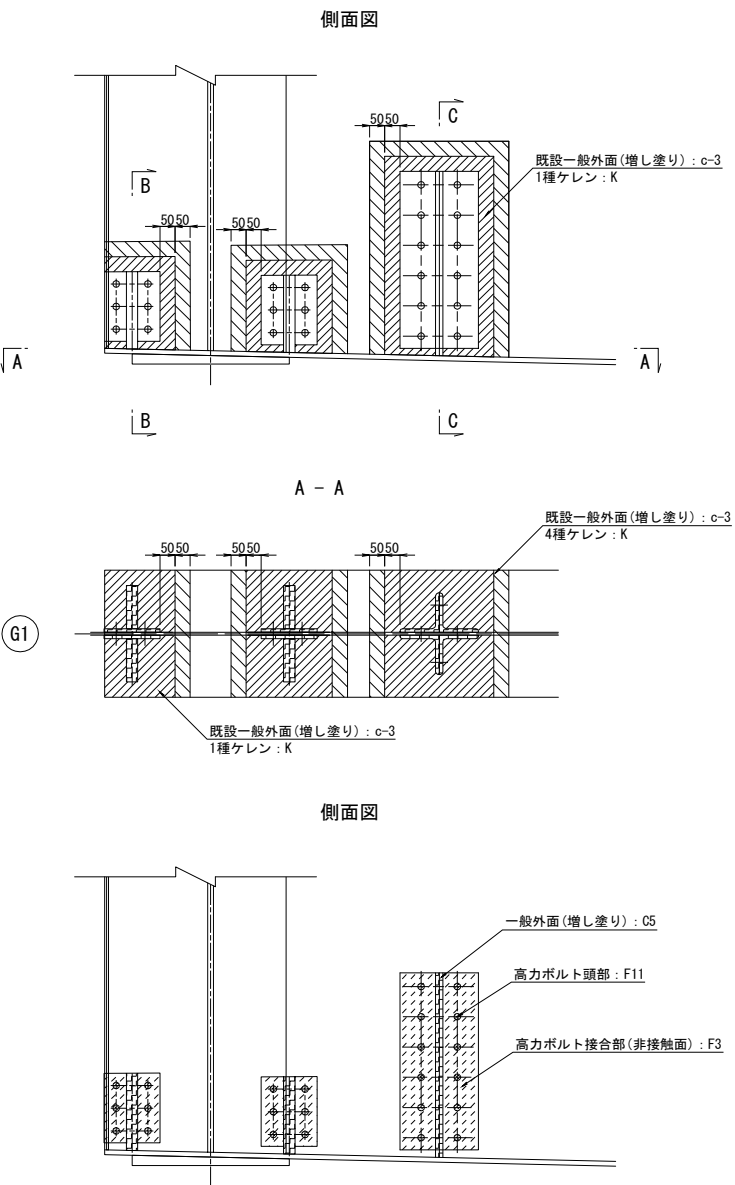
支取替工 アンカー工φ26 (下方向)
台座補強筋アンカー 詳細図 1:20



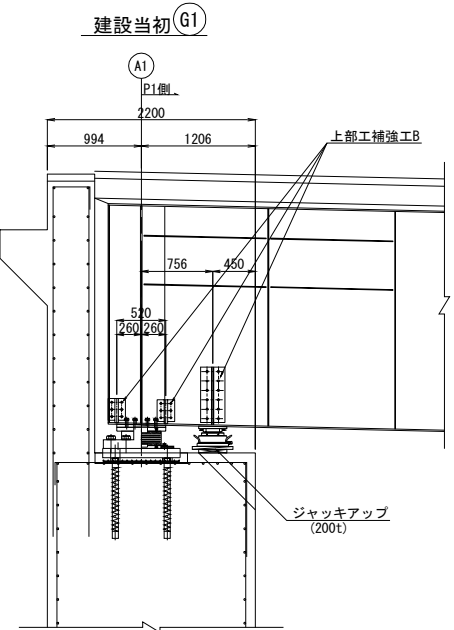
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。

橋杭横須賀道路 釜利谷第2高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第2高架橋 A2橋台(より線) 支承取替工(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	65 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

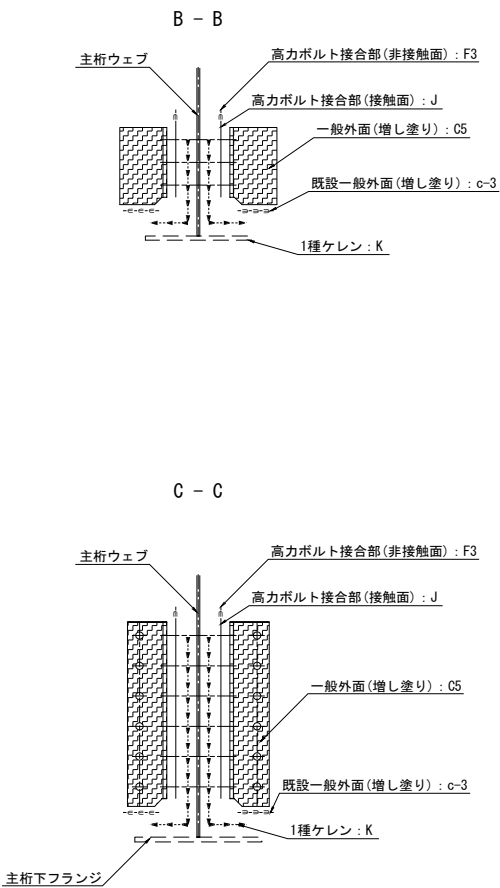
建設当初 G1



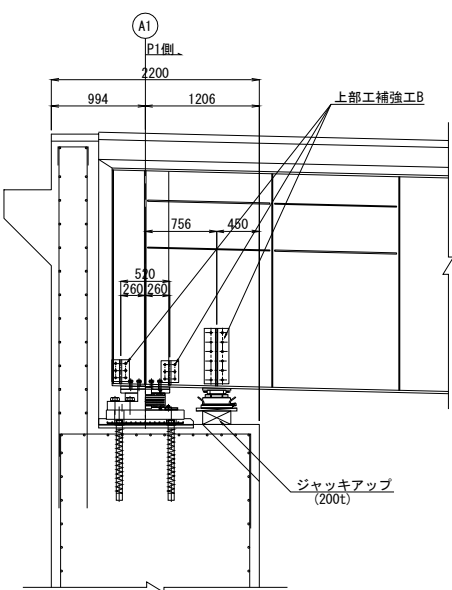
配置図 S=1:80



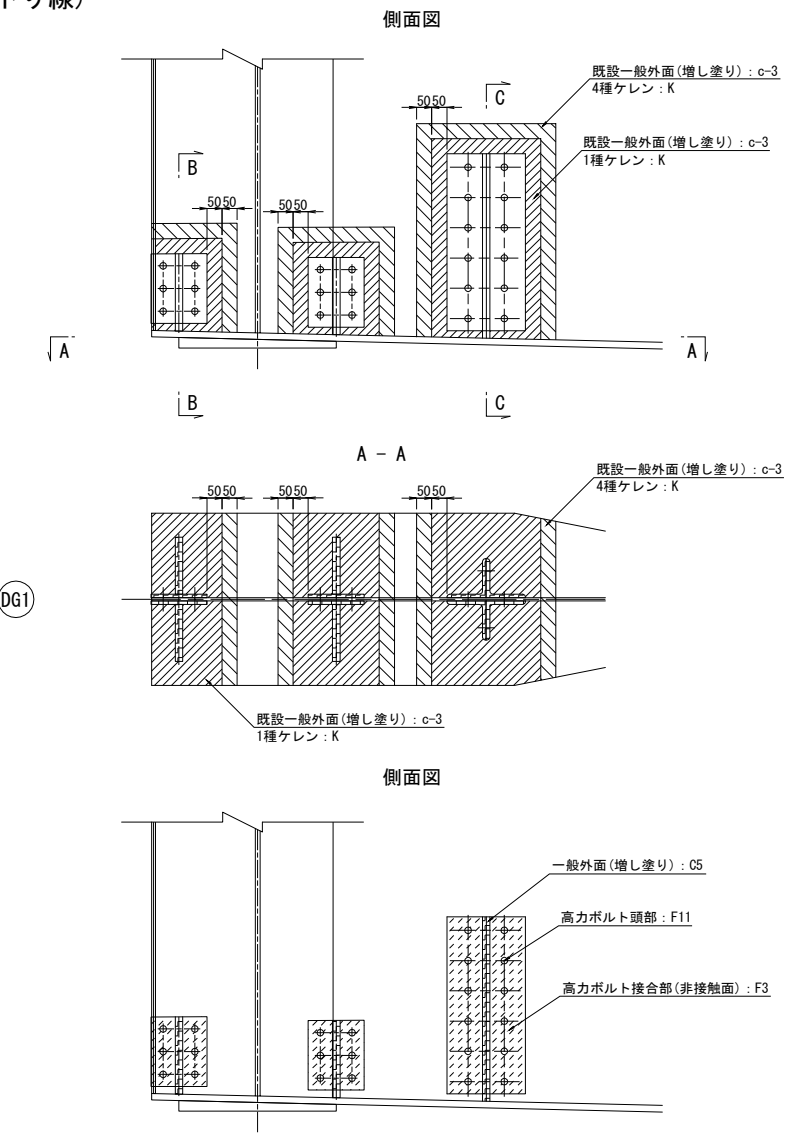
上部工補強工B
A1橋台(下り線)



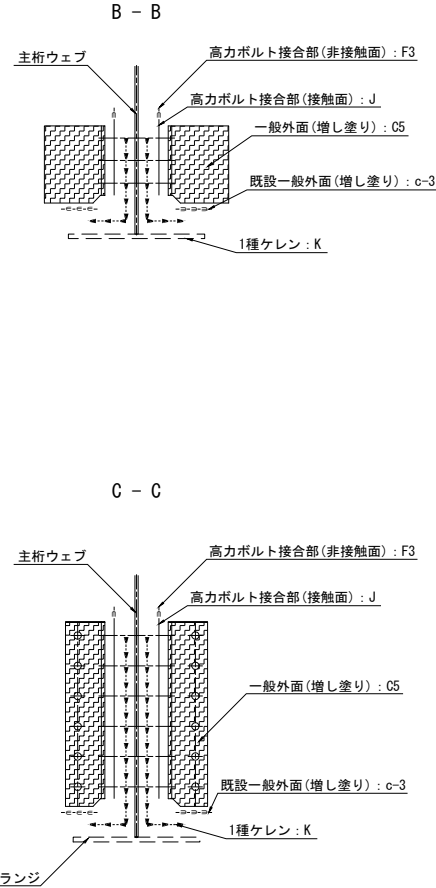
拡幅部 DG1



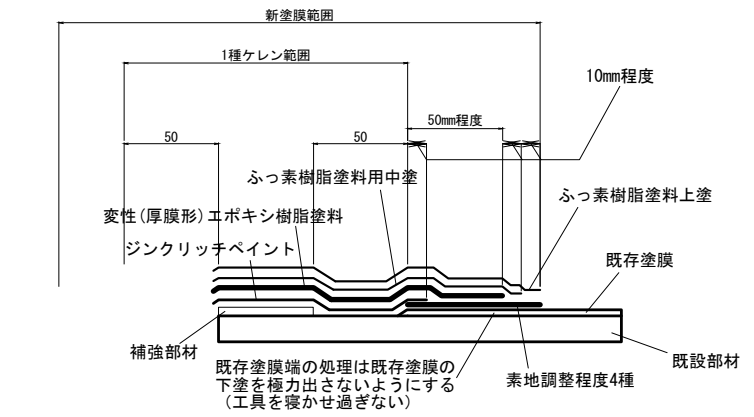
拡幅部 DG1



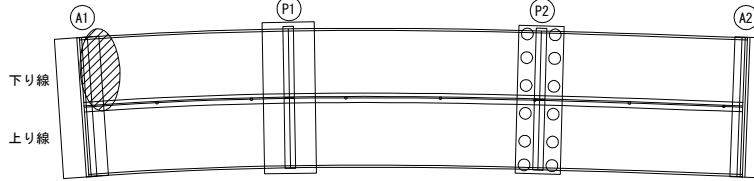
DG1



既設塗膜との境界部の処理 S=1:4



位置図



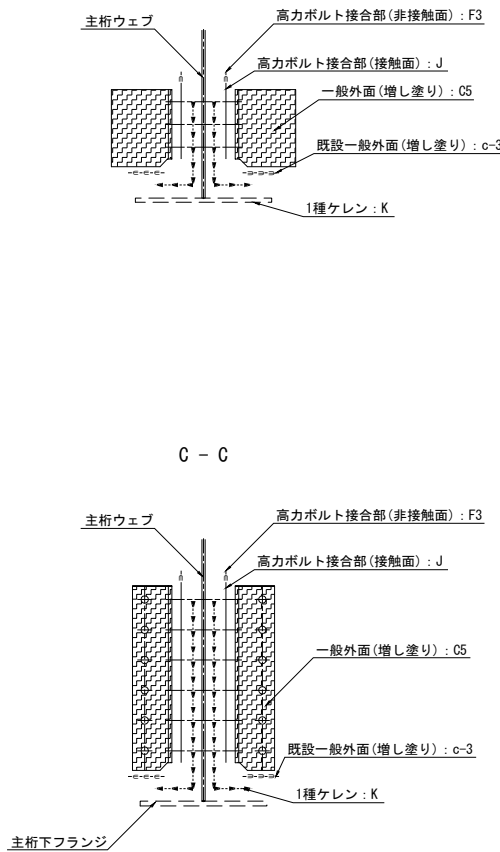
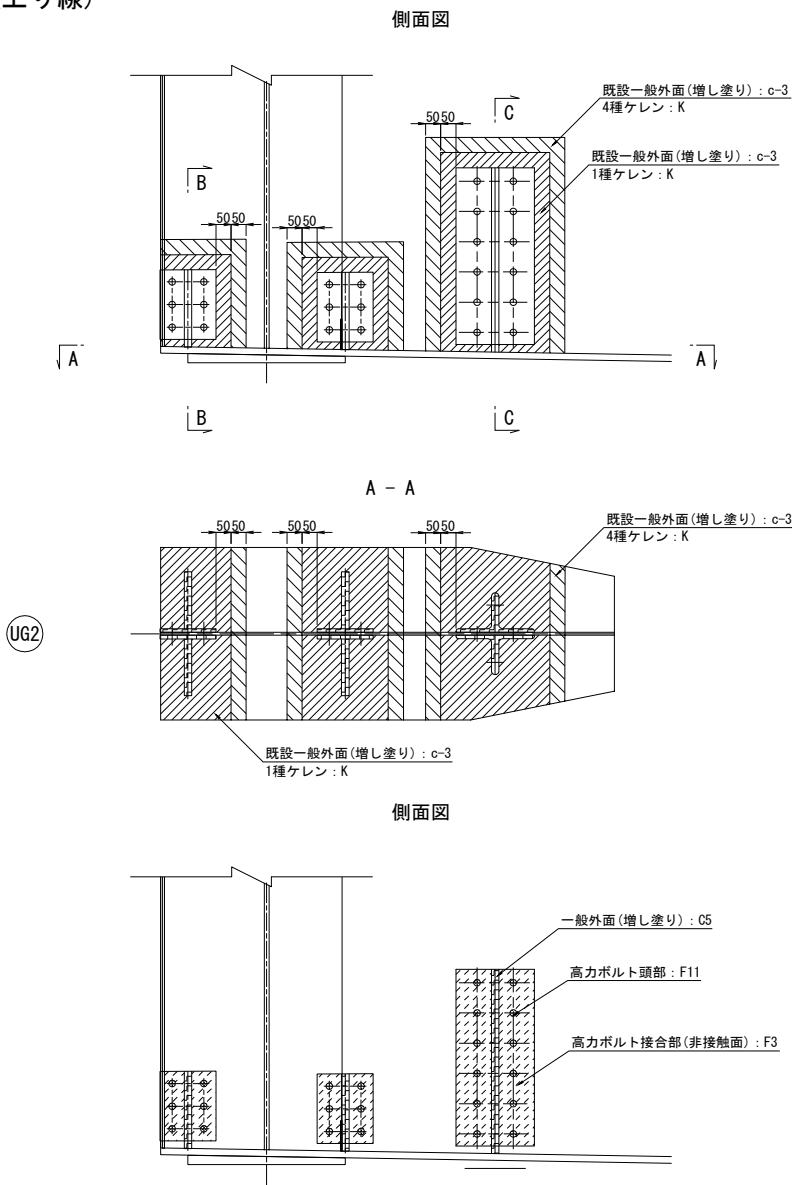
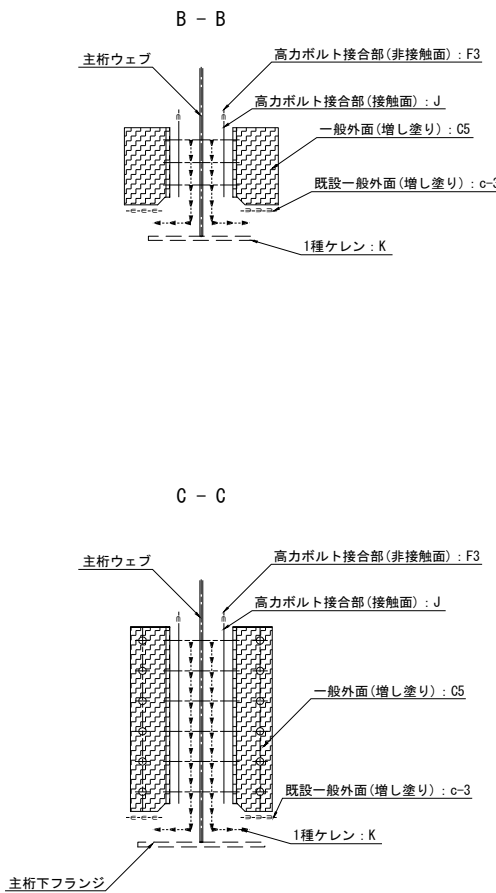
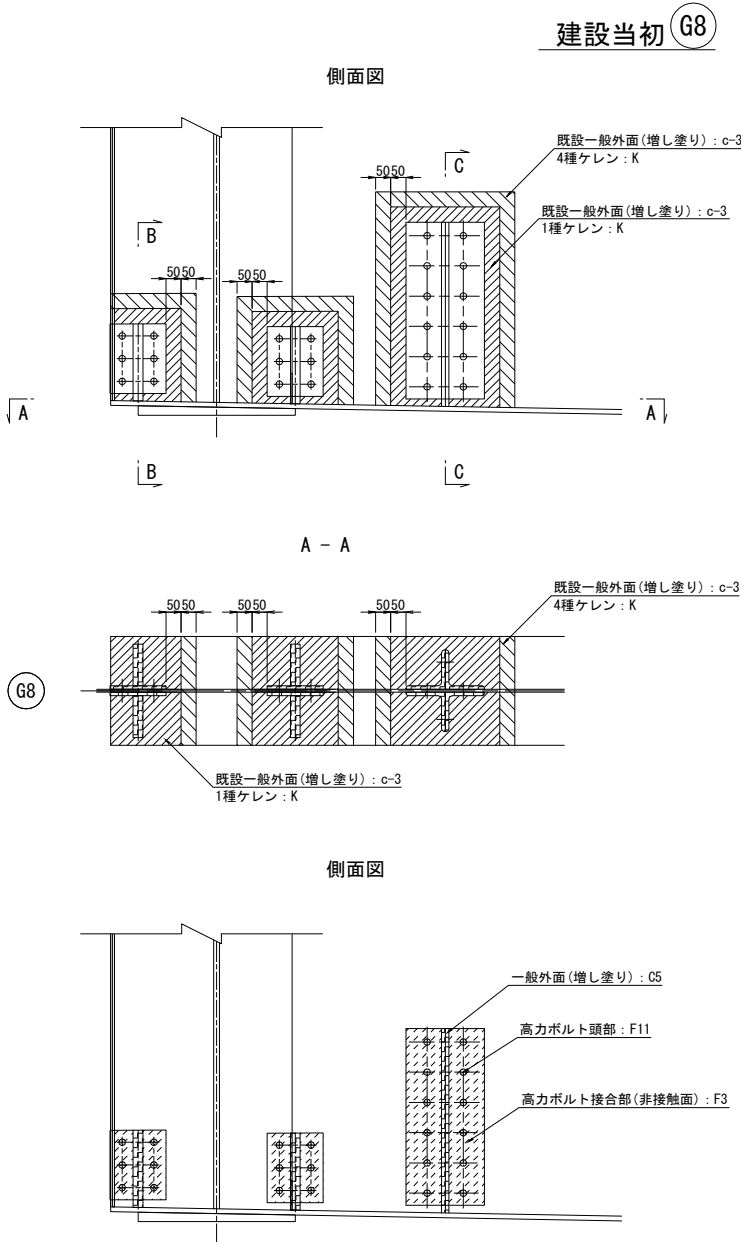
凡例

一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

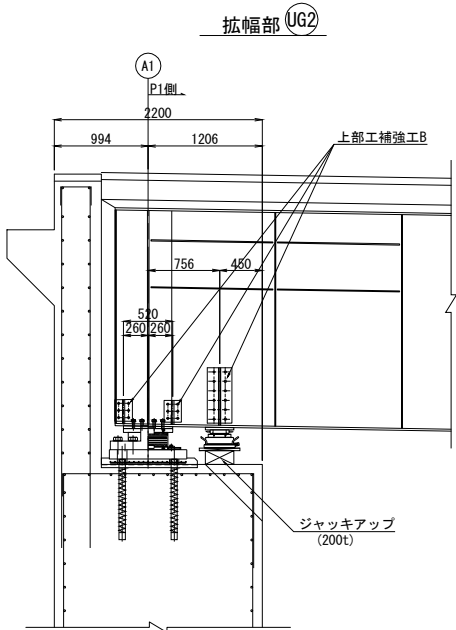
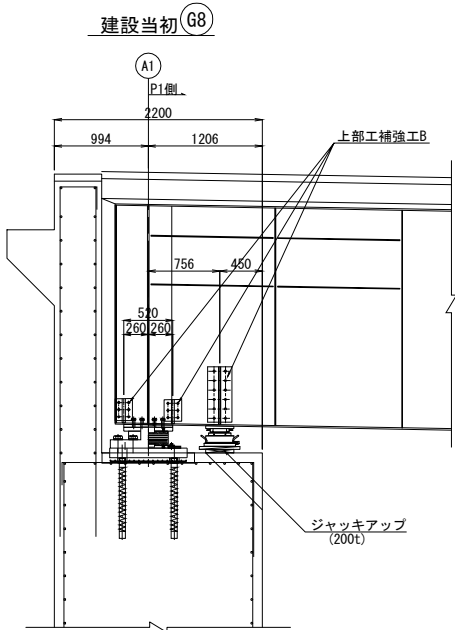
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	66 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

上部工補強工B
A1橋台(上り線)

拡幅部 UG2



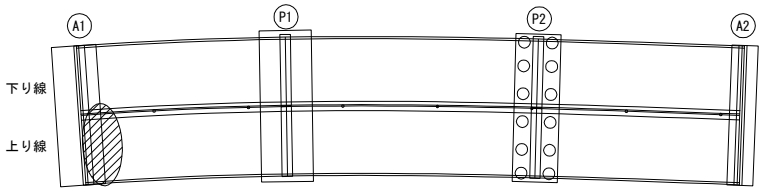
配置図 S=1:80



凡例

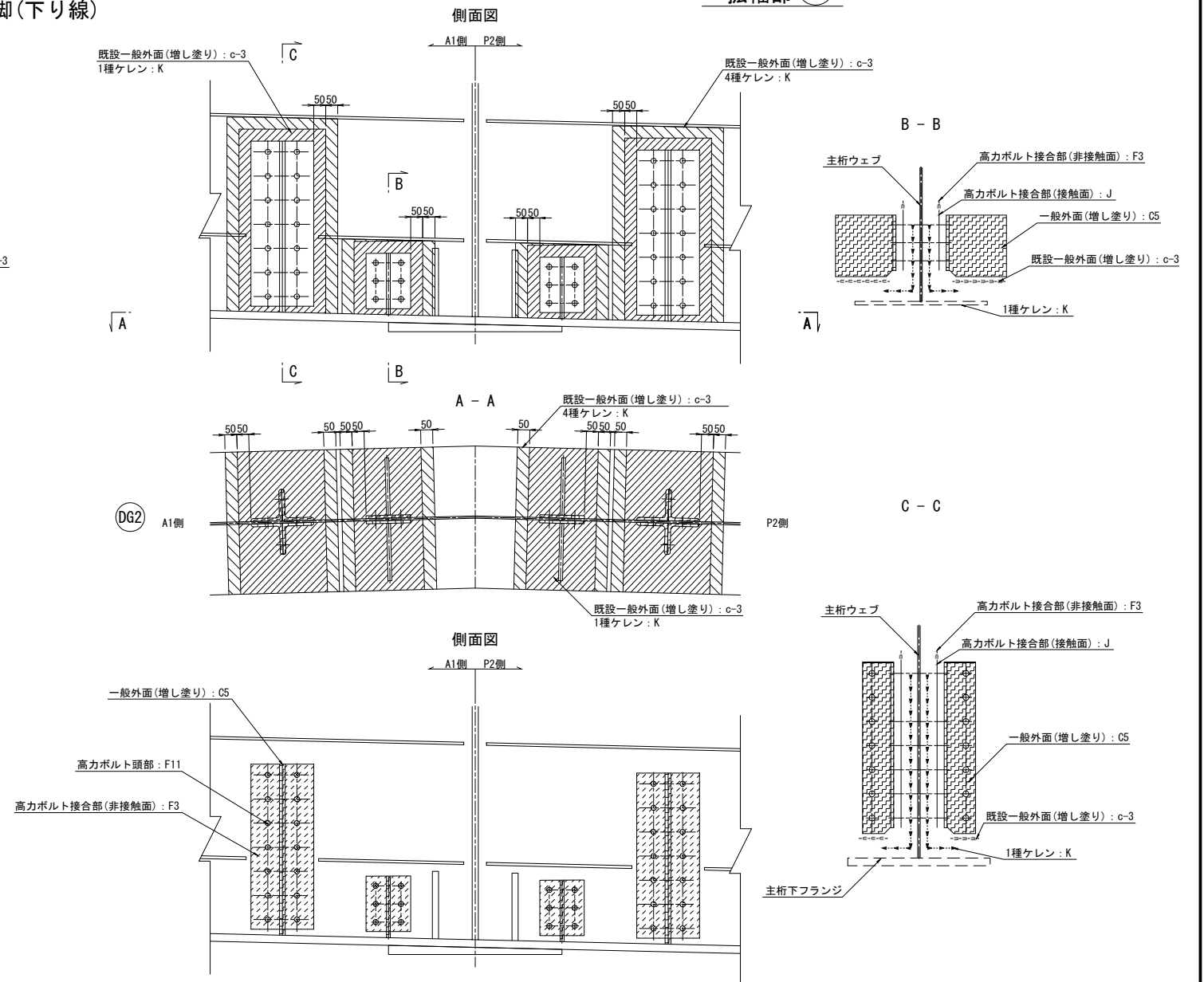
一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

















位置図

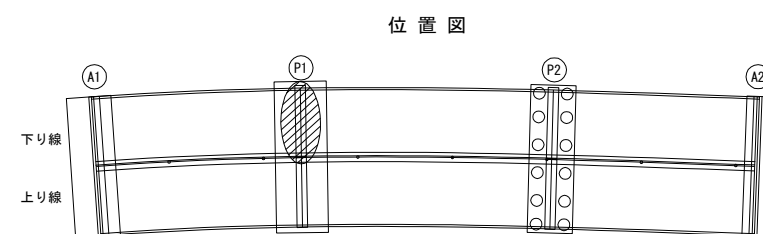


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	67 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

拡幅部 DG2



一般外面(増し塗り)	C5	: 	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	: 	
高力ボルト頭部	F11	: 	
高力ボルト接合部(接触面)	J	: 	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	: 	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	: 	
既設特殊部	g-3	: 	
1種ケレン	K	: 	

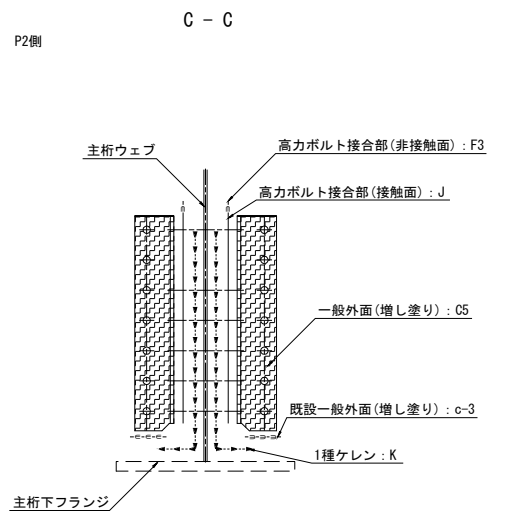
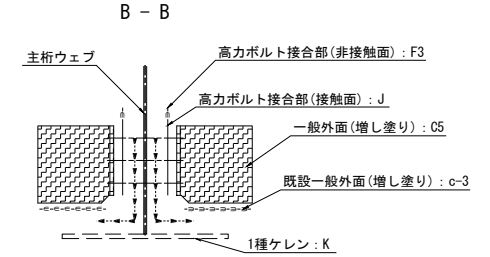
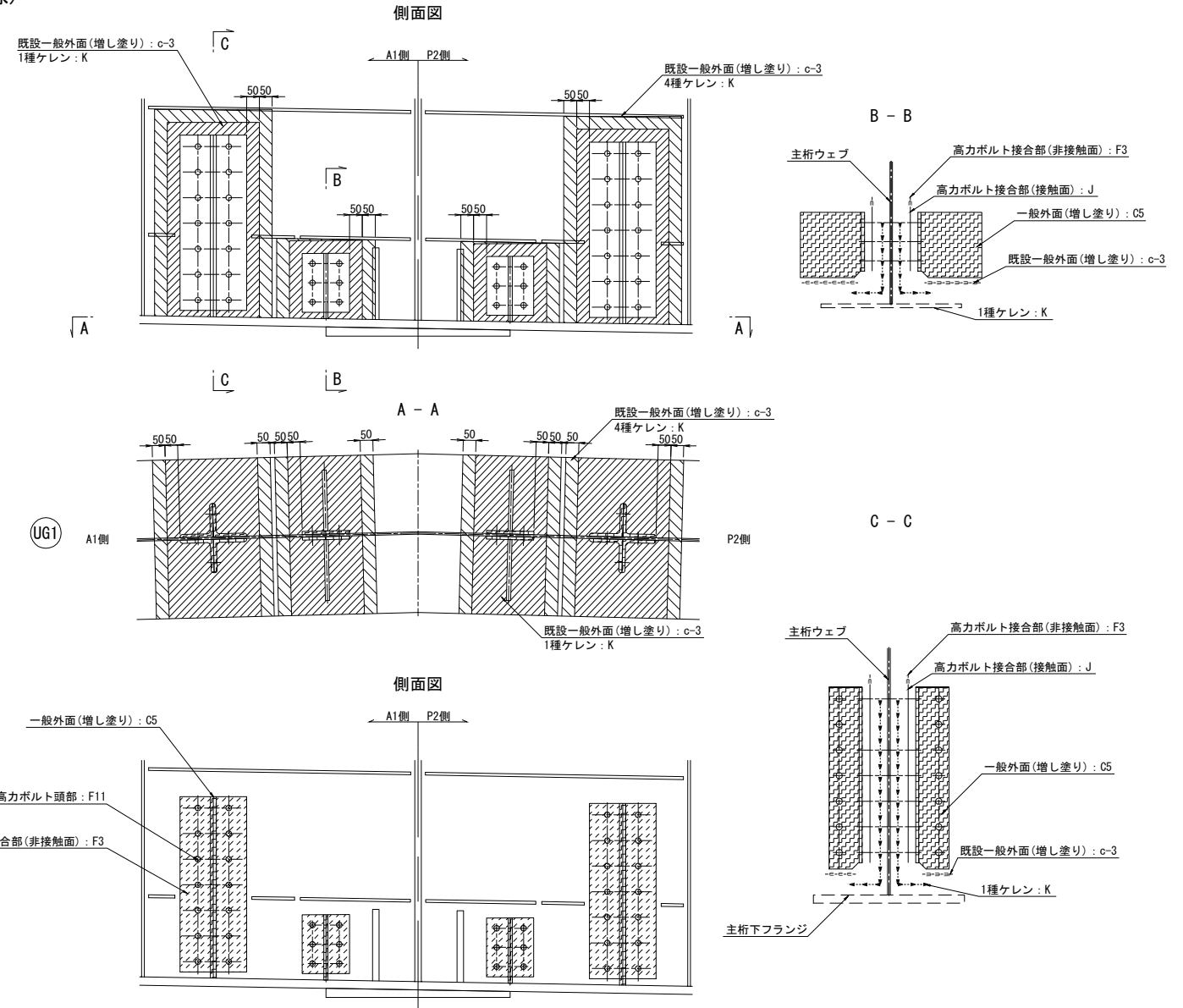
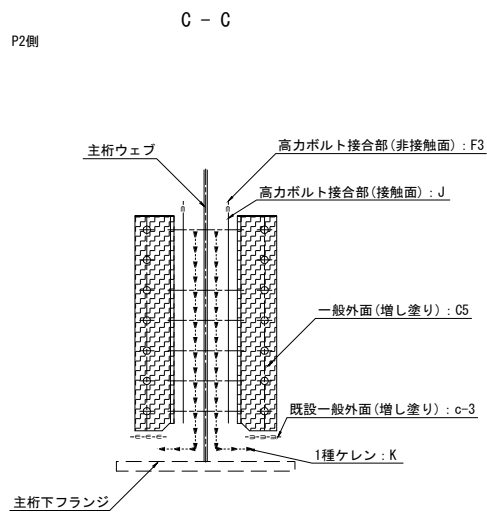
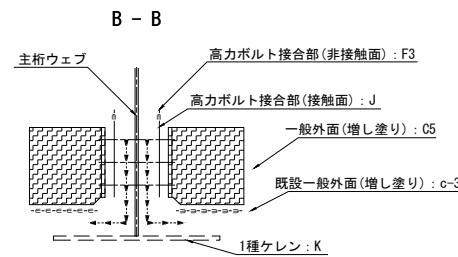
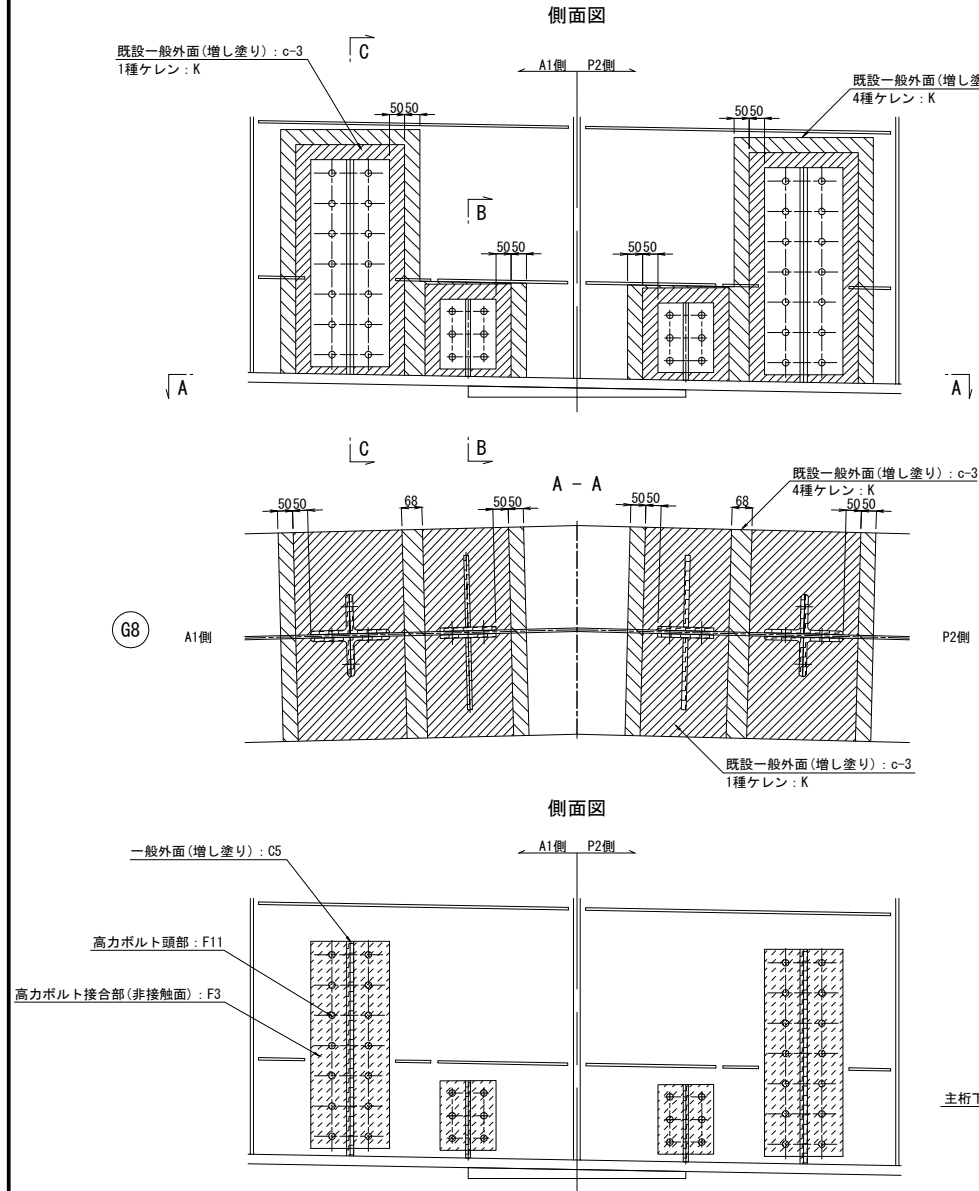


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承替工区分け区分図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	68 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

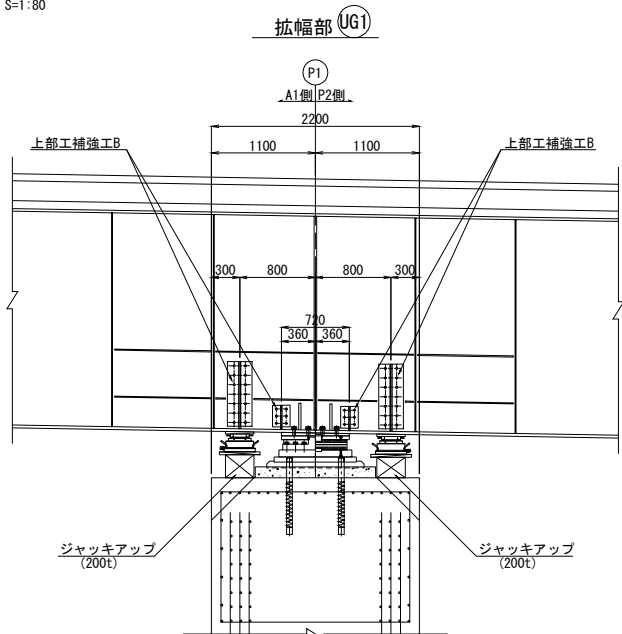
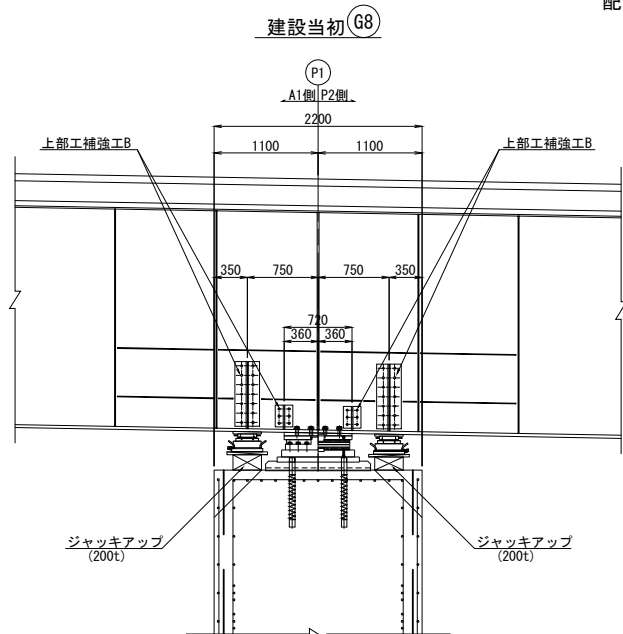
建設当初 (G8)

上部工補強工B
P1橋脚(上り線)

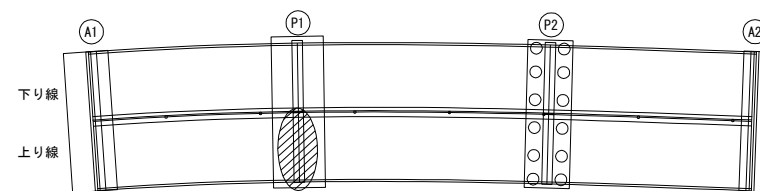
拡幅部 (UG1)



配置図 S=1:80



位置図



凡例

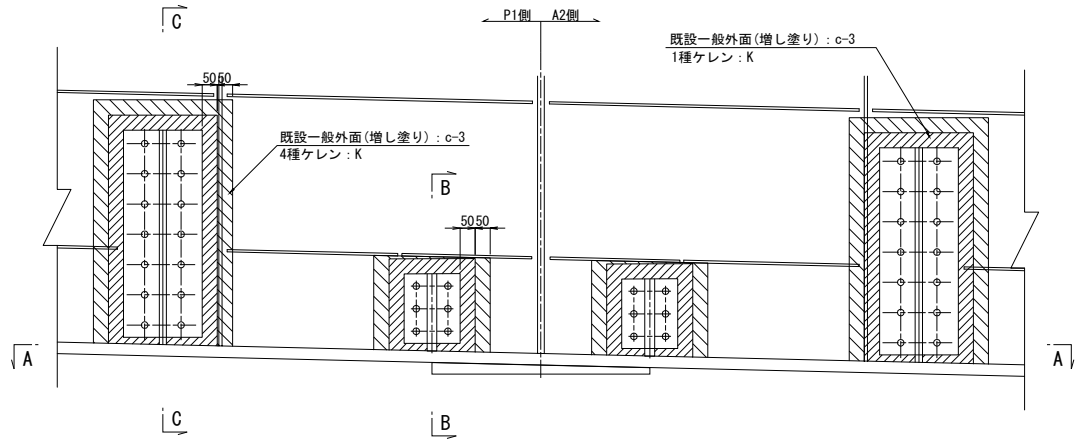
一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その4)		
縮尺	図示	図面番号	69 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

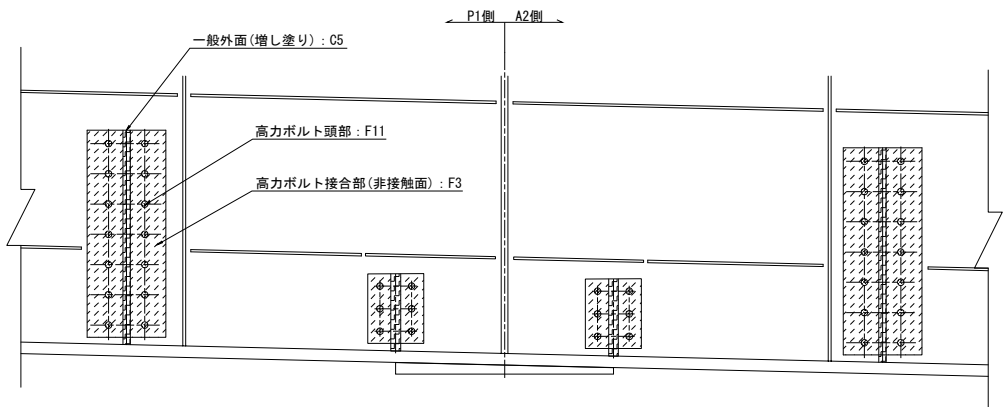
上部工補強工B
P2橋脚(下り線)

建設当初 G1

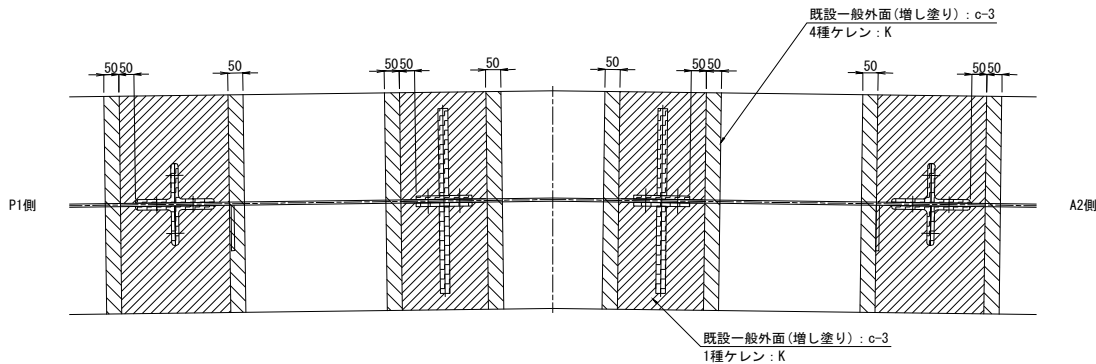
側面図



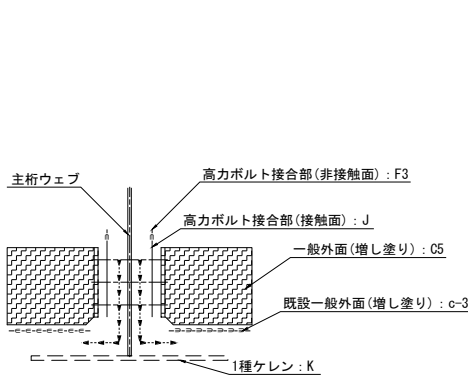
側面図



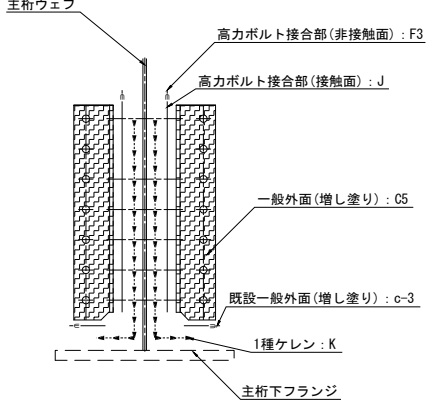
A - A



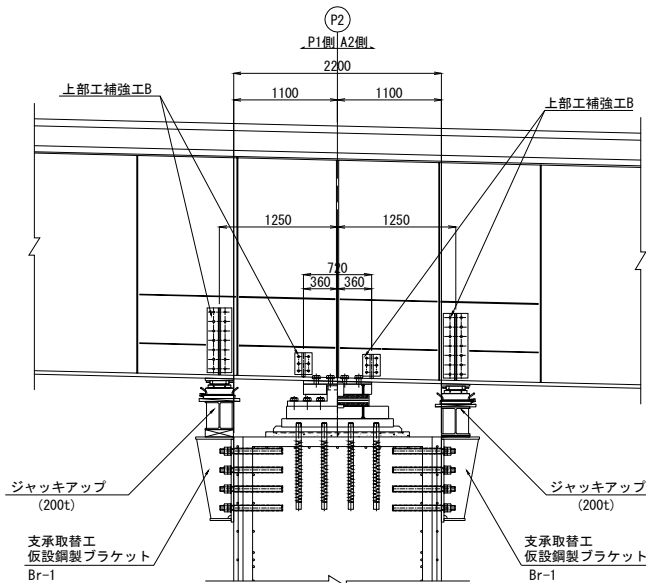
B - B



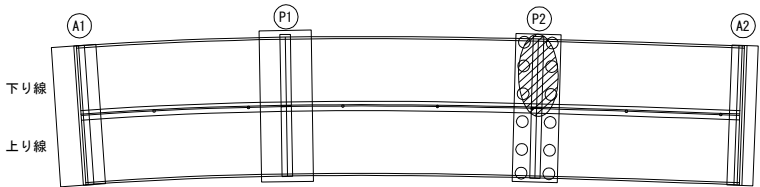
C - C



配置図 S=1:80



位置図



凡例

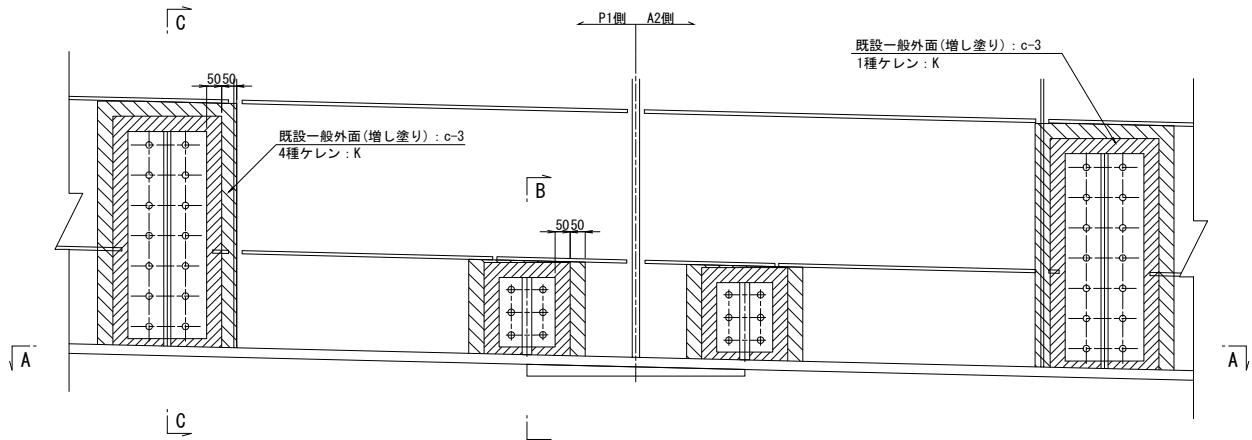
一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	70 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

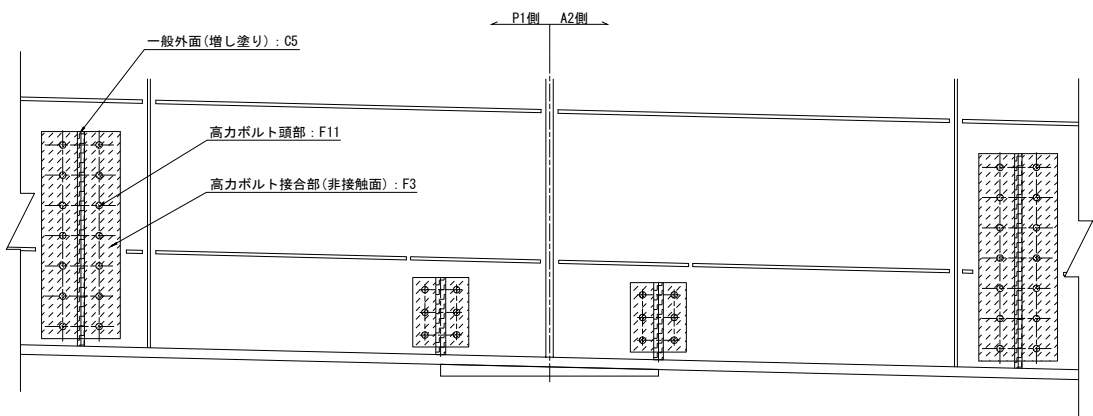
上部工補強工B
P2橋脚(下り線)

拡幅部 DG2

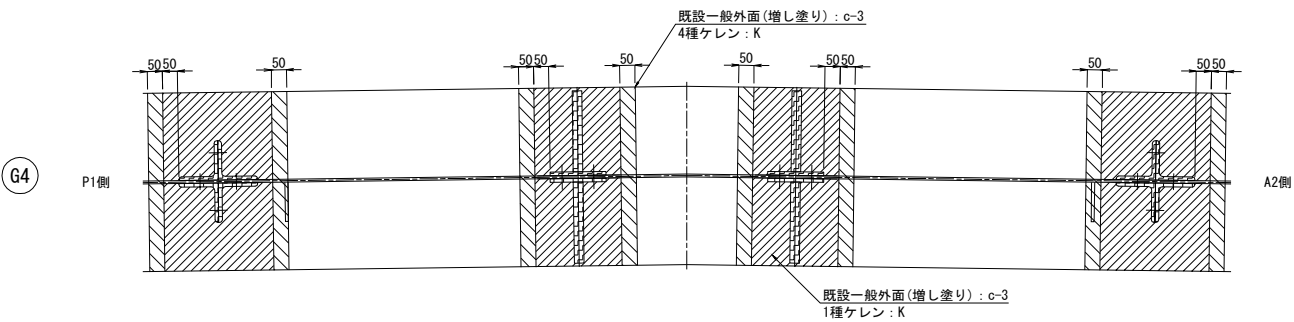
側面図



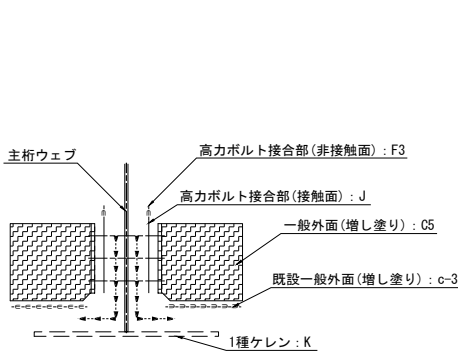
側面図



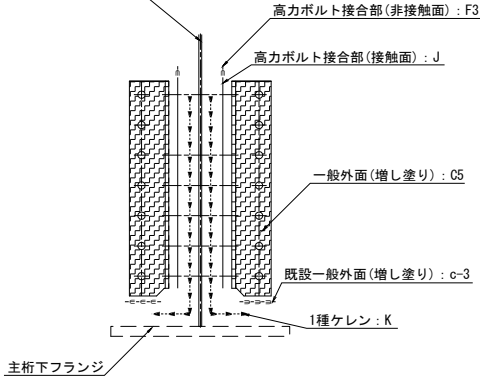
A - A



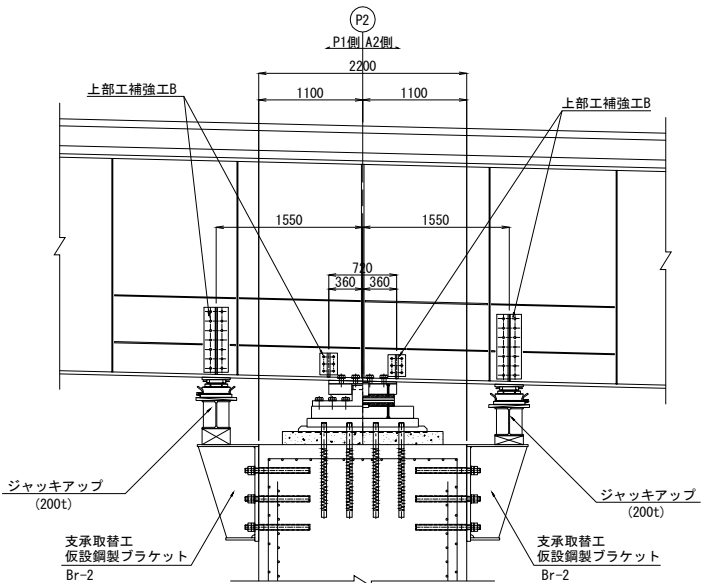
B - B



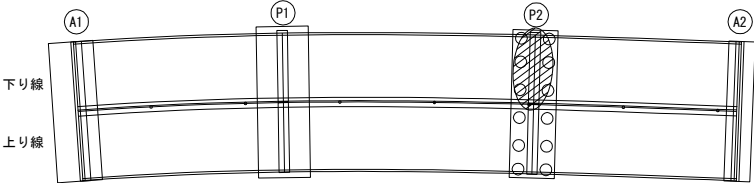
C - C



配置図 S=1:80



位置図



凡例

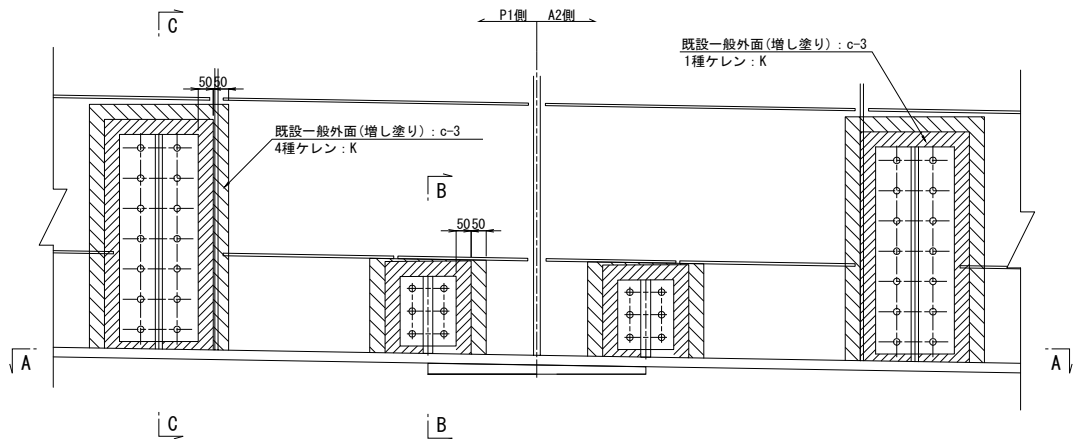
一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その6)		
縮 尺	図 示	図面番号	71 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

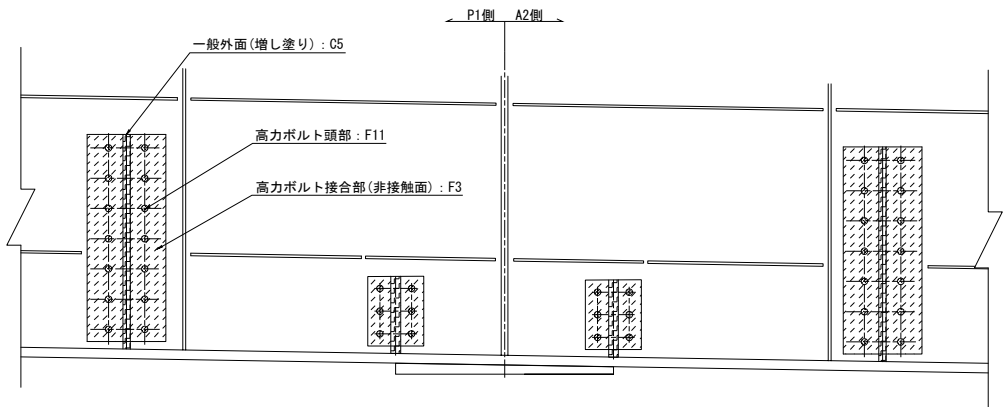
上部工補強工B
P2橋脚(下り線)

建設当初 **G8**

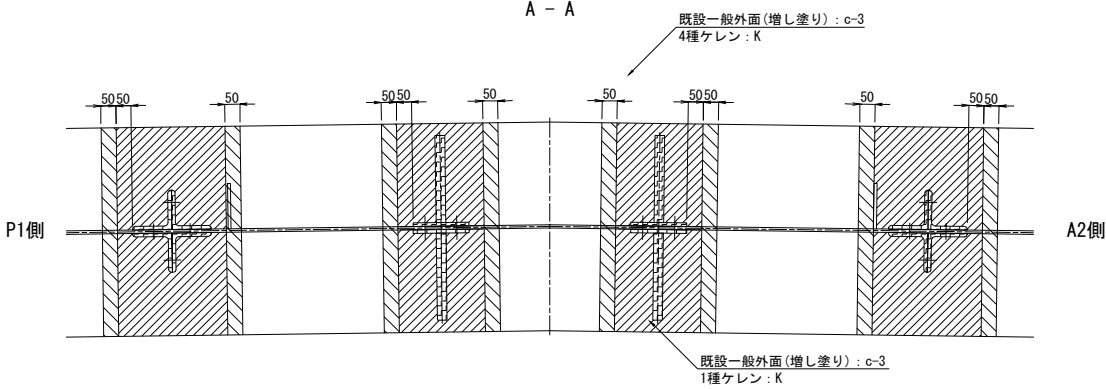
側面図



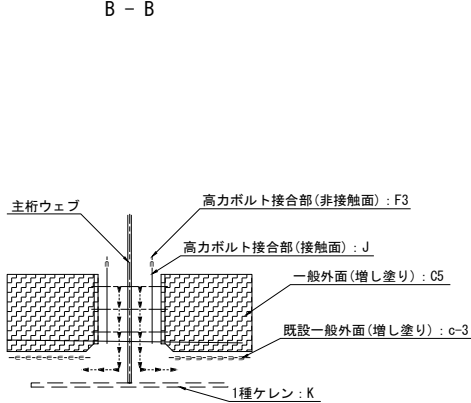
側面図



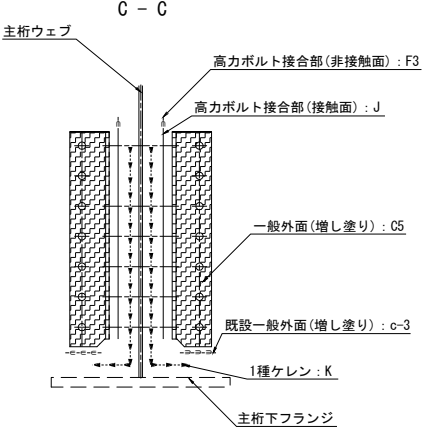
A - A



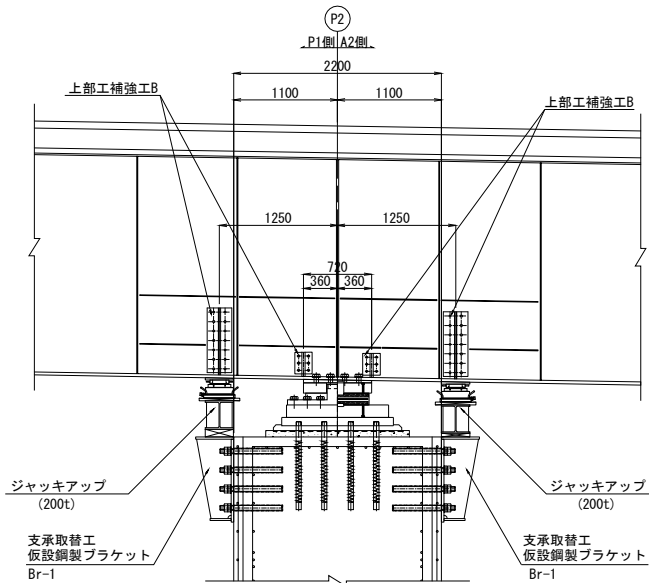
B - B



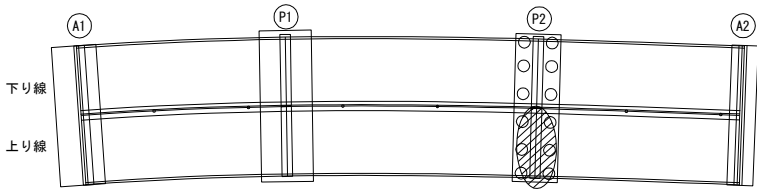
C - C



配置図 S=1:80



位置図



凡例

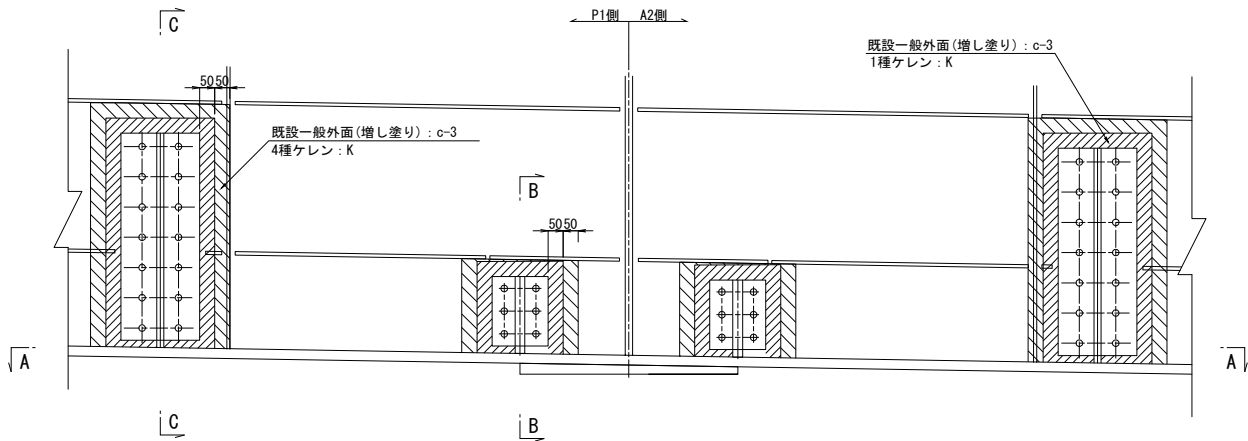
一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その7)		
縮 尺	図 示	図面番号	72 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

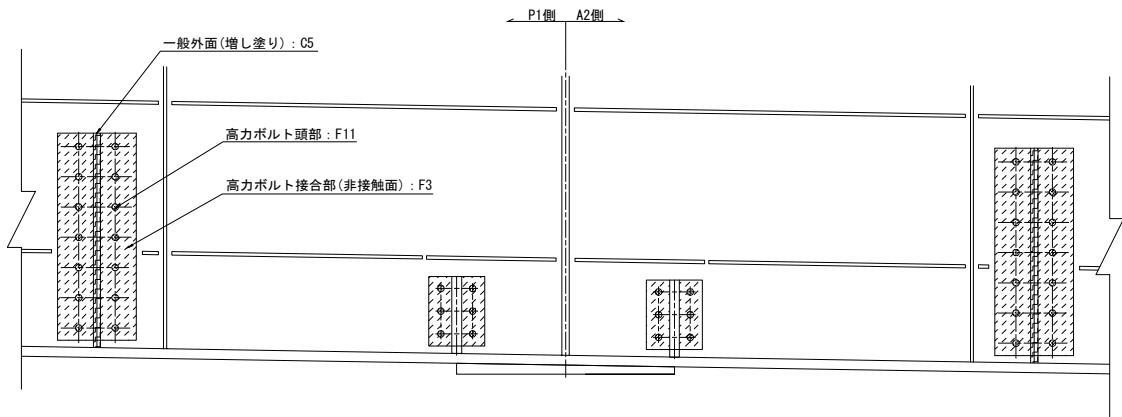
上部工補強工B
P2橋脚(下り線)

拡幅部 UG2

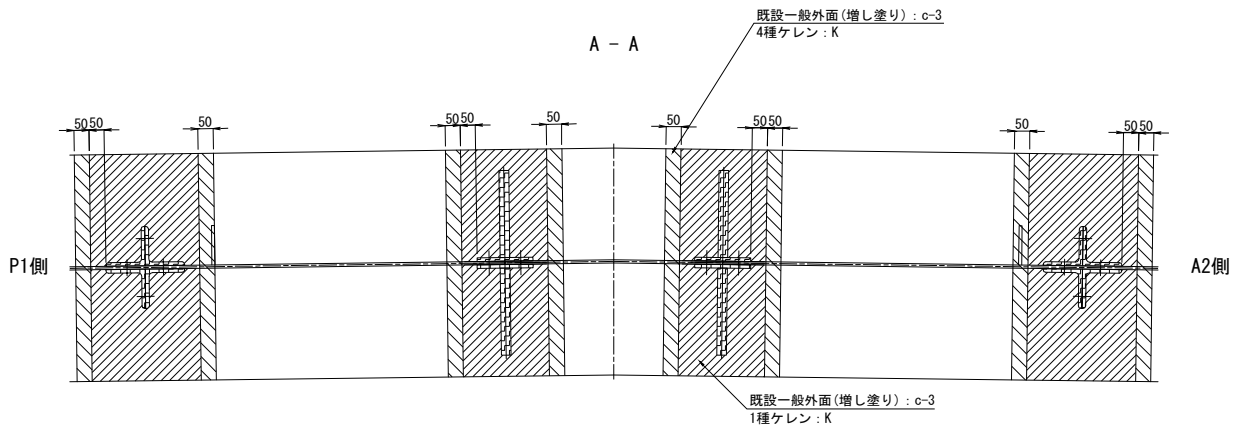
側面図



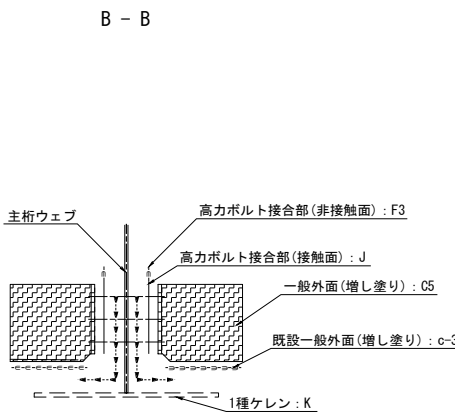
側面図



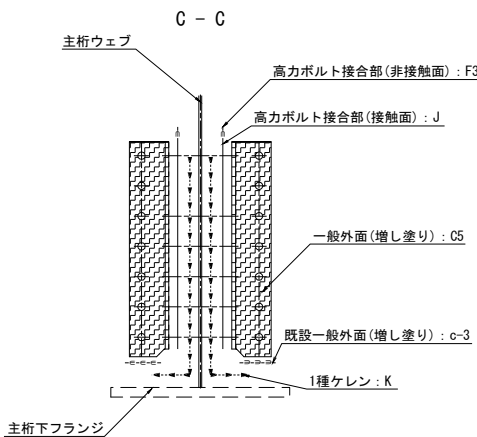
A - A



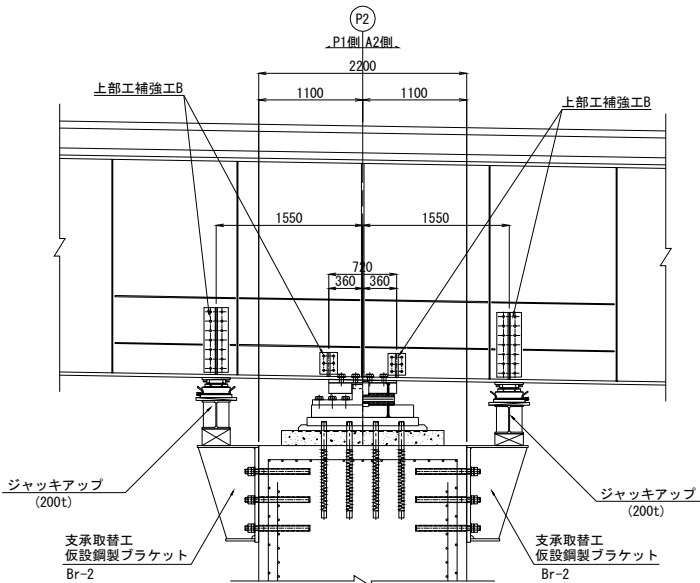
B - B



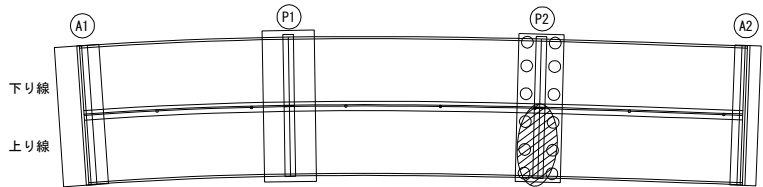
C - C



配置図 S=1:80



位置図



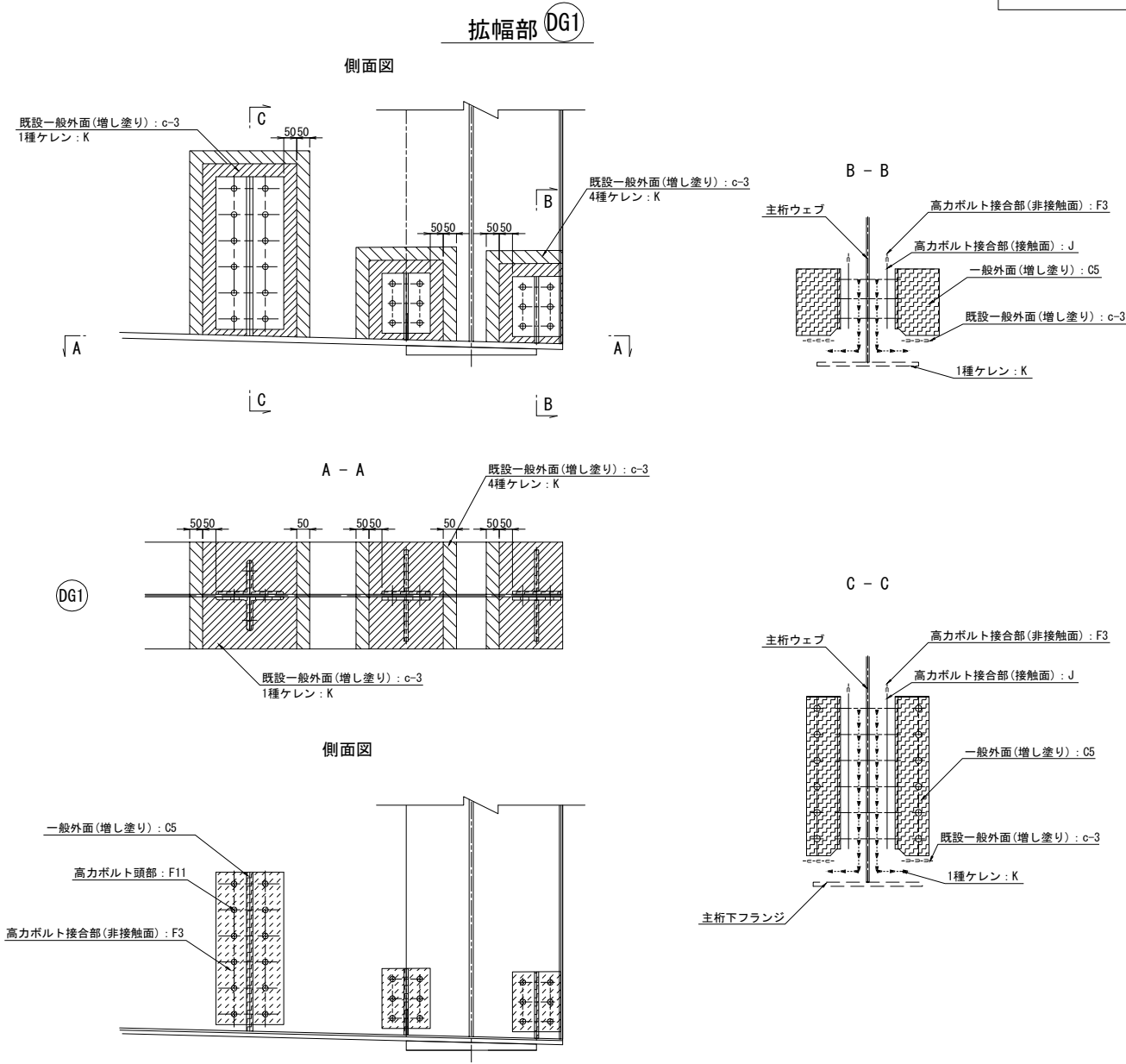
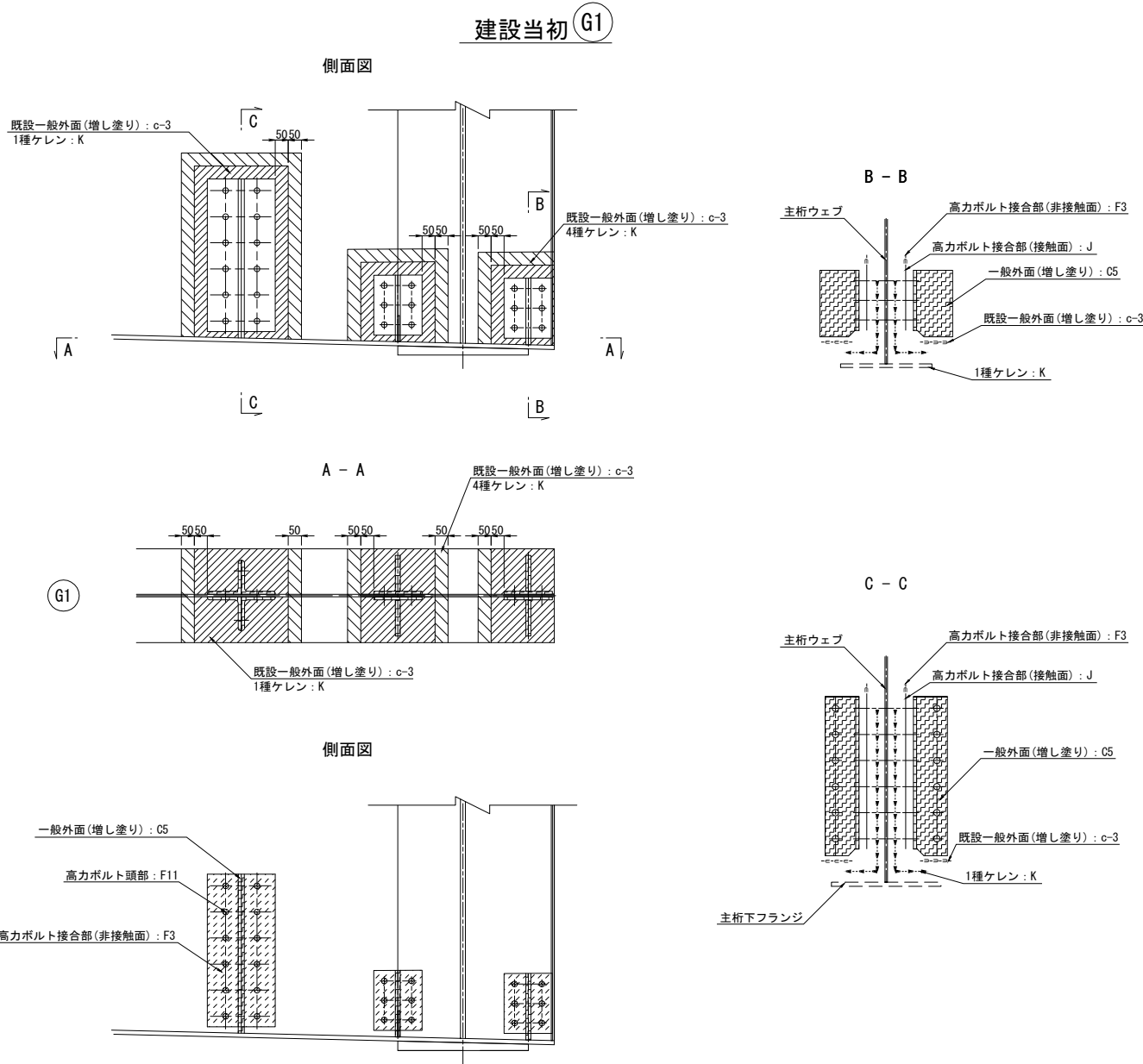
凡例

一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

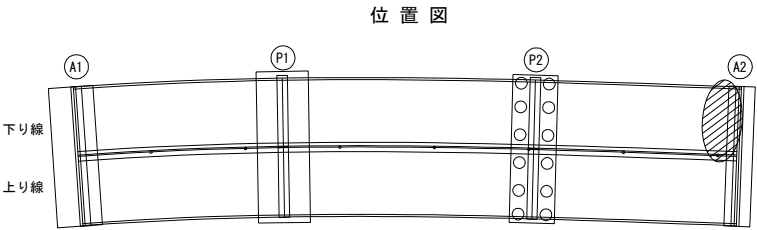
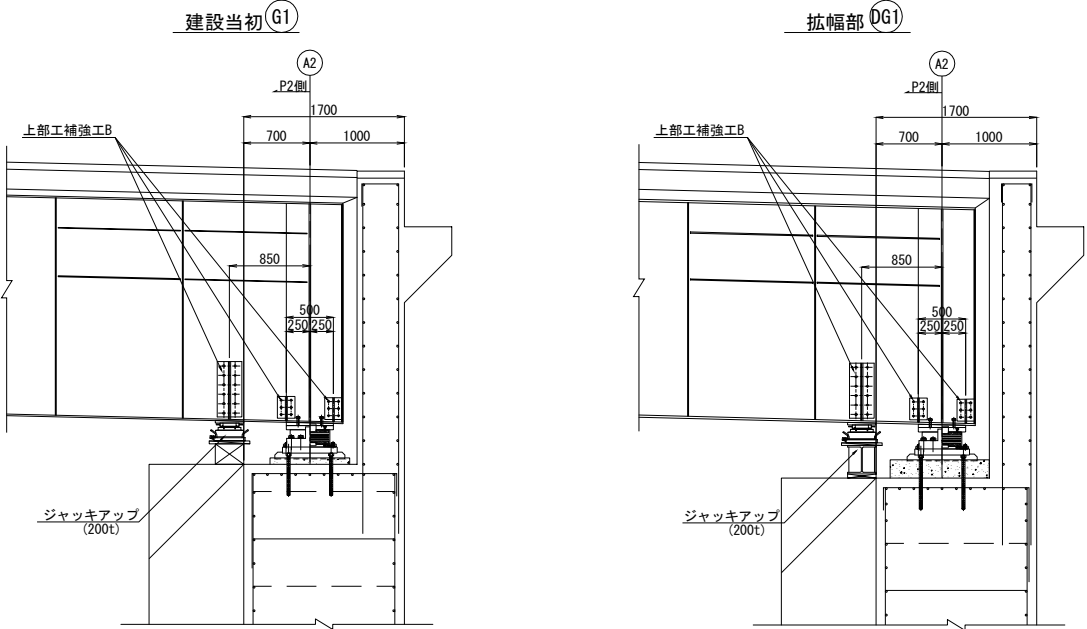
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その8)		
縮 尺	図 示	図面番号	73 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

上部工補強工B
A2橋台(下り線)

拡幅部 DG1



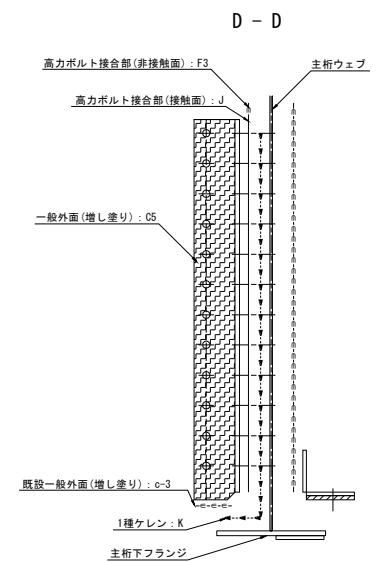
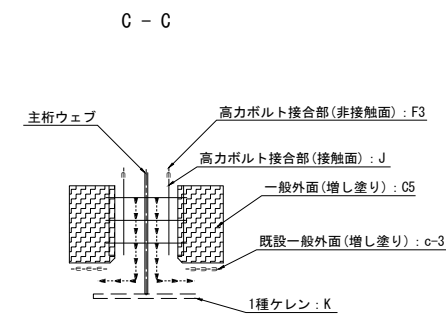
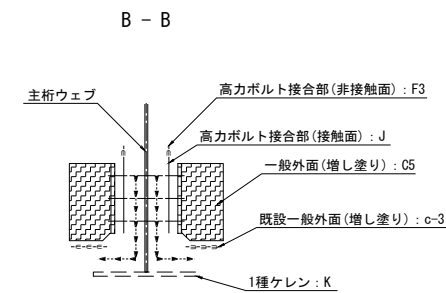
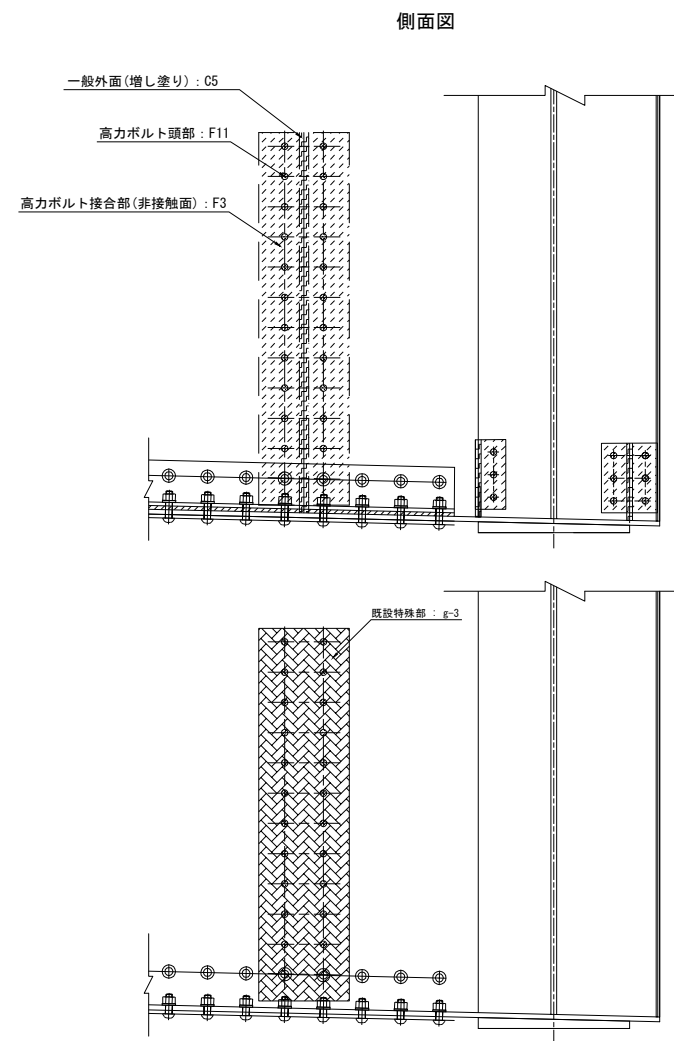
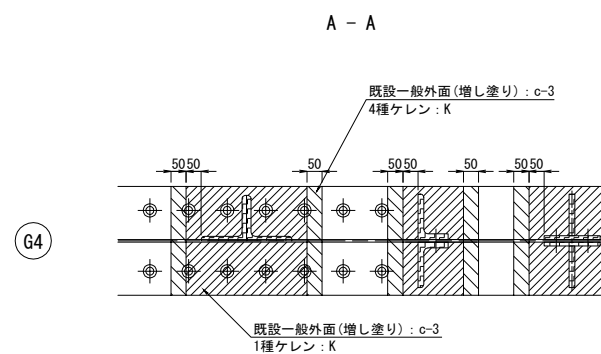
配置図 S=1:80



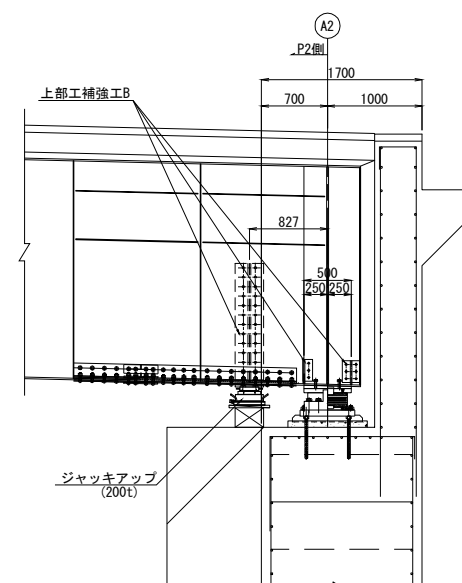
凡例

一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その9)		
縮 尺	図 示	図面番号	74 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



建設当初 (G4)

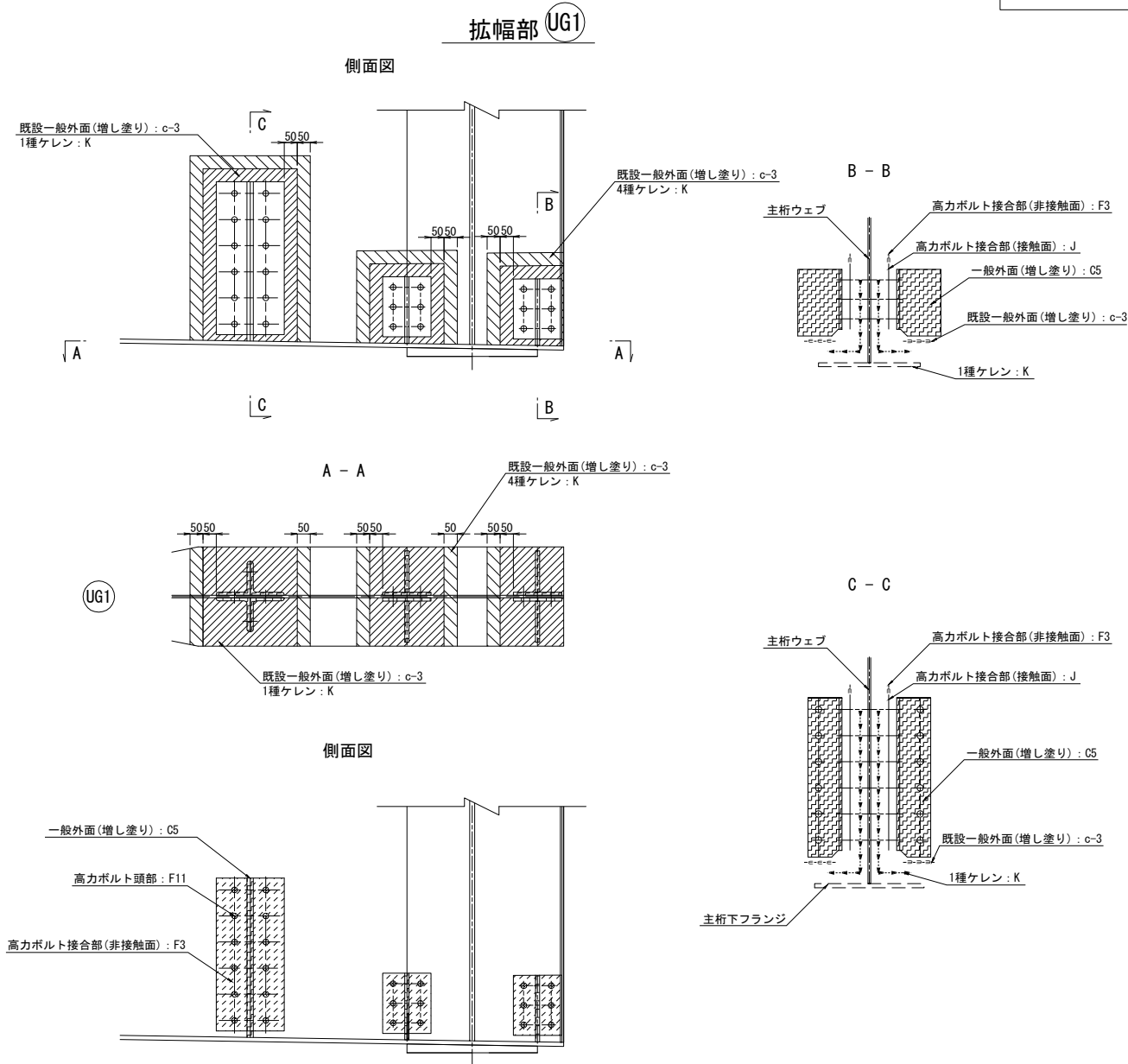
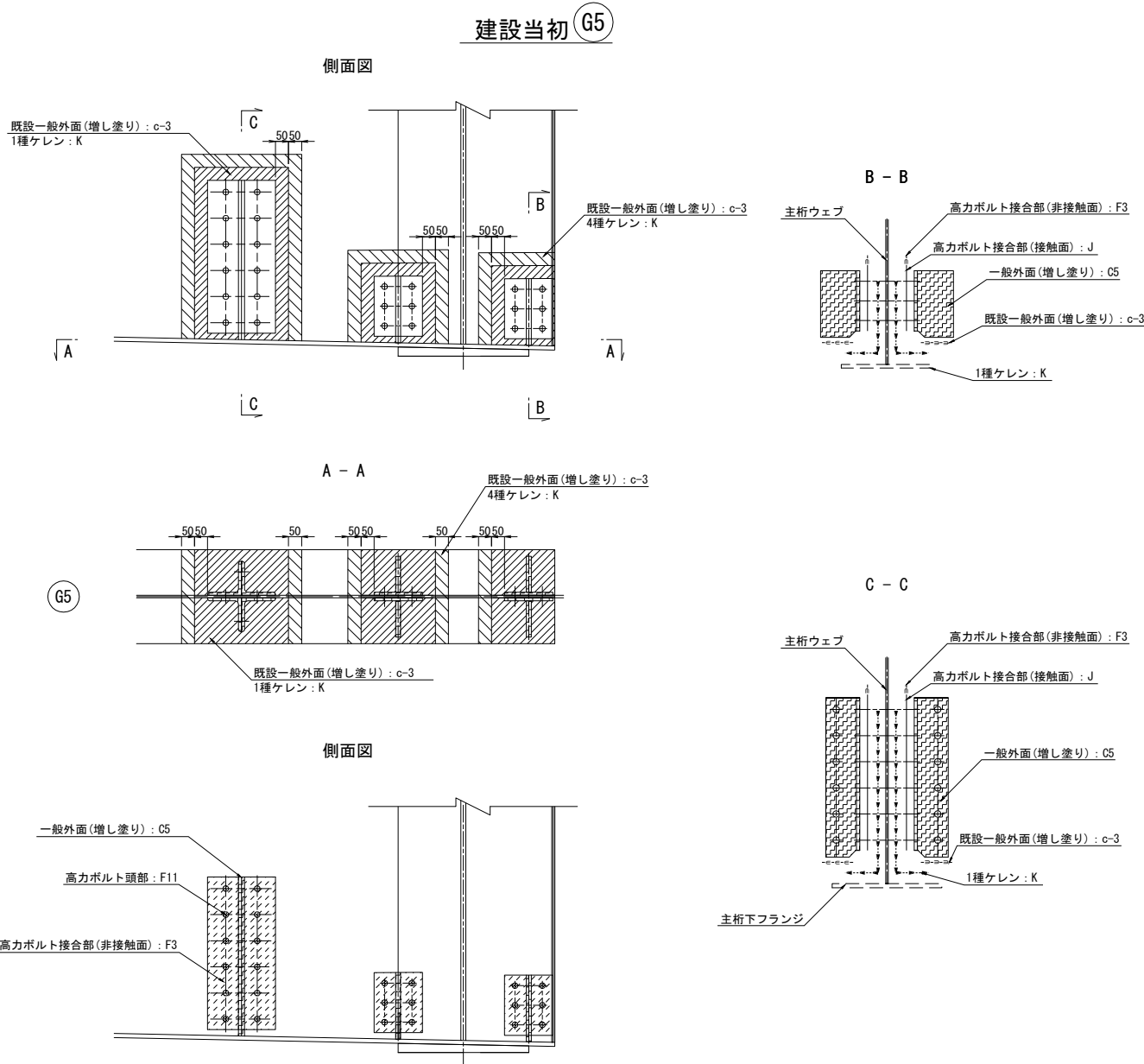


一般外面 (増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部 (非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部 (接触面)	J	:	
既設一般外面 (増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面 (増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

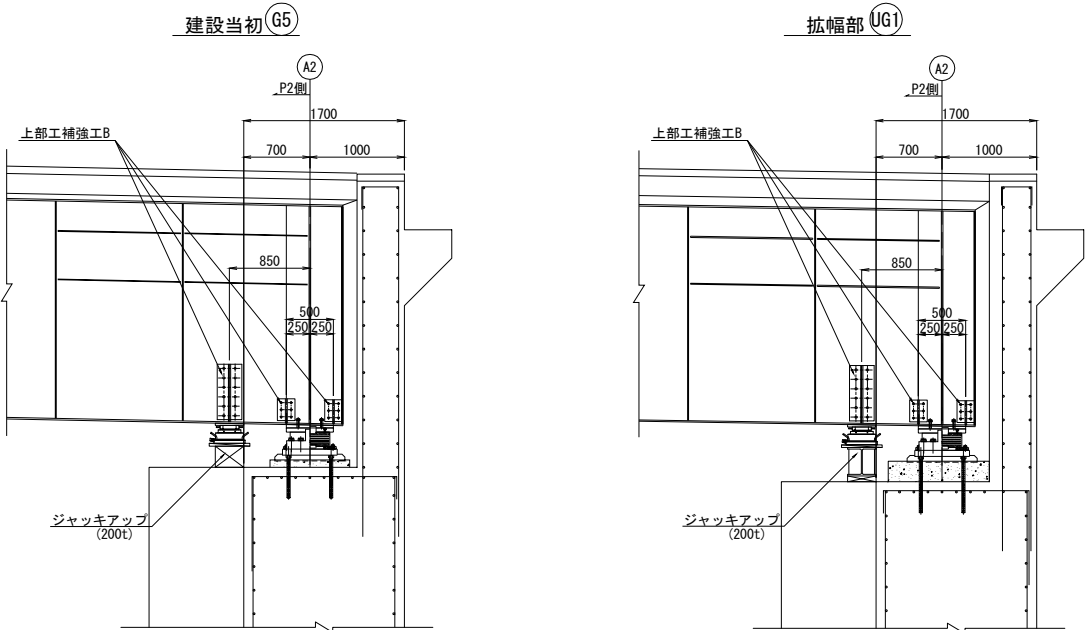
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取捨区分分け図(図その10)		
縮 尺	図 示	図面番号	75 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

上部工補強工B
A2橋台(上り線)

拡幅部 UG1



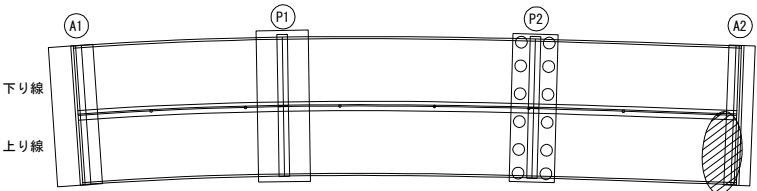
配置図 S=1:80



凡例

一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

位置図



横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その11)		
縮尺	図示	図面番号	76 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

釜利谷第二高架橋 支承詳細図（その1）

①A 地震時水平力分散型ゴム支承

支承取替工 E-1100 (1582)

支承取替工 E-1090 (1582)

設計条件

反 力 (kN)		下り線A1	上り線A1
最大反力	Rmax	1100	1090
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	850	880
死荷重反力	RD	570	540
照査荷重	R1L	265	275
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	275
	橋軸直角方向	RHeq2	1025
	サイドブロック	RHeq3	1025
上向きの地震力		Ru	-607
変 位 量 (mm)			
照査荷重時の変位量	δ_{cL}	0.423	0.439
回転変位量	δ_r	-	-
水平変位量	常時・橋軸方向	$\Delta L1$	52
	地震時・橋軸方向	$\Delta Le1$	99
	地震時・橋軸直角方向	$\Delta Le2$	-
性 能			
ゴムの種類及び呼び	材料-G	NR-G12	NR-G12
せん断ばね定数 (kN/mm)	KS	2.700	2.700
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γ_S	175
	変位量 (mm)	UB	140
1次形状係数	S1	6.62	6.62
2次形状係数	S2	5.00	5.00
圧縮ばね定数 (kN/mm) 参考値	Kv	626	626

材料表 (1組当り)

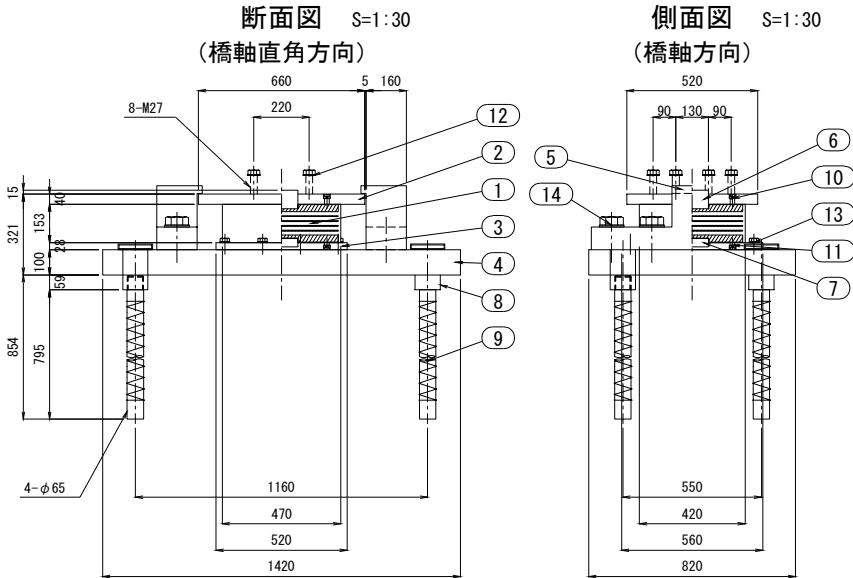
部番	部 品 名 称	材 質	個数	重量 (kg)	備 考
1	ゴム支承	NR, SS400, SM490A	1	120.0	
②	上沓	SM490A	1	101.8	
③	下沓	SM490A	1	60.6	
④	ベースプレート	SM490A	1	881.5	
⑤	サイドブロック	SM490A or SCW480N	2	234.9	
⑥	ボス(上)	SM490A	1	7.6	
⑦	ボス(下)	SM490A	1	3.4	
⑧	カップラー	S45CN	4	38.7	
9	アンカーボルト	S35CN, SR235	4	91.8	
10	支承取付ボルト	強度区分 12.9	8	0.7	六角穴付きボルト
11	支承取付ボルト	強度区分 12.9	8	0.6	六角穴付きボルト
⑫	桁取付ボルト	強度区分 8.8	8	5.2	平座金付き
⑬	下沓取付ボルト	強度区分 8.8	8	2.0	平座金付き
⑭	サイドブロックボルト	強度区分 8.8	8	32.2	平座金付き
15	ゴムキャップ(カップラー用)	EPDM	4	0.5	
合計				1581.5 (kg)	

- ※1 道路橋支承便覧準拠。
※2 使用材料は道路橋支承便覧2.9に適合。
※3 材料表の部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。
(JIS H 8641 HDZT77、ボルト類はHDZT49)
※4 材料表の部番を□で囲んだ部品は黒色酸化皮膜処理とする。
※5 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
※6 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること。
※7 必要なアイボルト本数は協議して決定すること。
※8 桁取付ボルト重量はL=100mmとして参考に計上する。
※9 アンカーボルト位置は現地計測後に詳細決定のこと。
※10 アンカーボルトは無塗装とし、鉄筋防錆剤を塗布のこと。

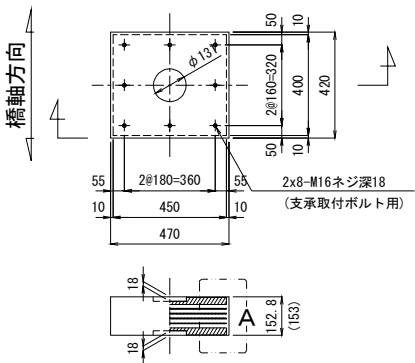
位置図

下り線	D61			
	D62			
	G1			
	G2			
	G3			
	G4			
上り線	G5			
	G6			
	G7			
	G8			
	U61			
	U62			
	①A E	①P F	①P F	①A E

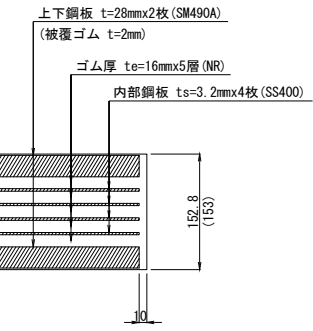
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承詳細図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	77 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



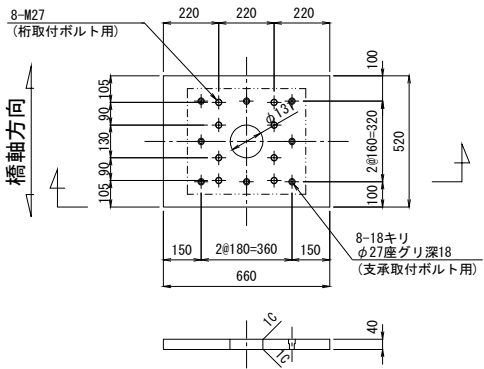
① ゴム支承 S=1:30



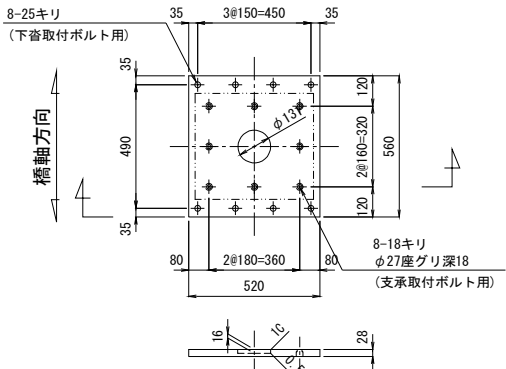
A 部詳細図 S=1:10



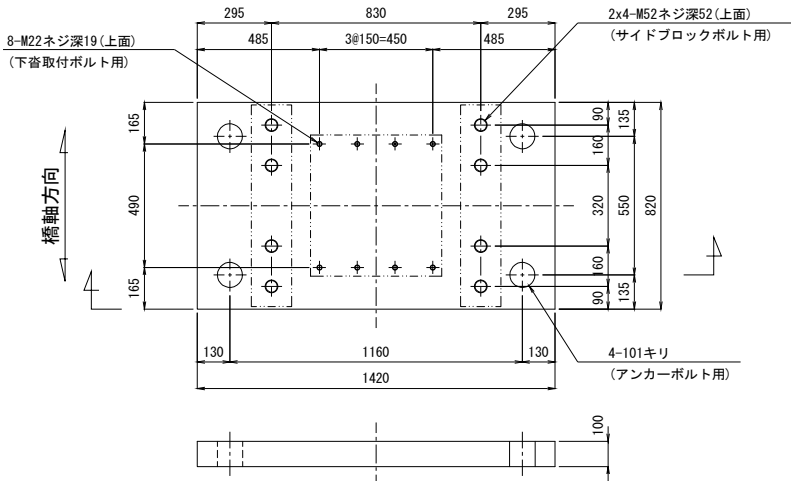
② 上沓 S=1:30



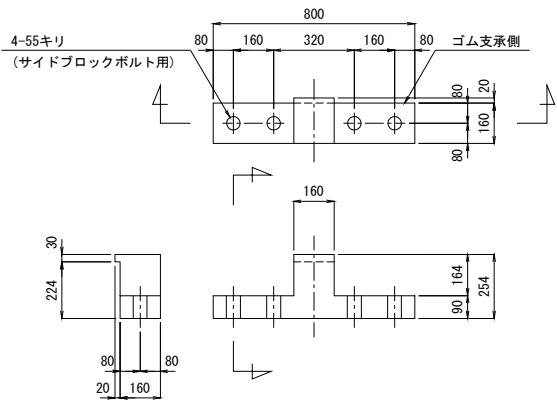
③ 下沓 S=1:30



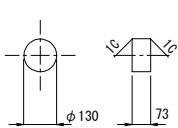
④ ベースプレート S=1:30



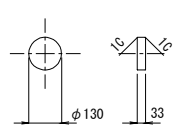
⑤ サイドブロック S=1:30



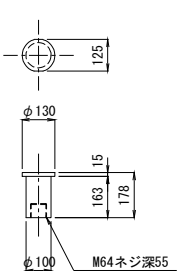
⑥ ボス(上) S=1:30



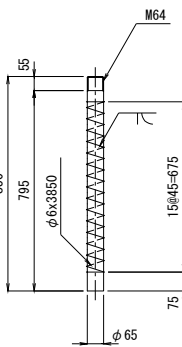
⑦ ボス(下) S=1:30



⑧ カップラー S=1:30



⑨ アンカーボルト S=1:30



- ⑩ 支承取付ボルト M16 x 40 強度区分 12.9
- ⑪ 支承取付ボルト M16 x 30 強度区分 12.9
- ⑫ 桁取付ボルト M27 x L 強度区分 8.8
- ⑬ 下沓取付ボルト M22 x 50 強度区分 8.8
- ⑭ サイドブロックボルト M52 x 150 強度区分 8.8

釜利谷第二高架橋 支承詳細図（その2）

78 / 112

(P1) 固定ゴム支承
支承取替工 E-3070 (1598)
支承取替工 E-2830 (1598)

設計条件

反 力 (kN)		下り線P1	上り線P1
最大反力	Rmax	3070	2830
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	1940	1830
死荷重反力	RD	1940	1990
照査荷重	R1L	-	-
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	1242
	橋軸直角方向	RHeq2	1183
	サイドブロック	RHeq3	1183
上向きの地震力	Ru	-582	-597
変 位 量 (mm)			
照査荷重時の変位量	δ_{cL}	-	-
回転変位量	δ_r	-	-
水平変位量	常時・橋軸方向	$\Delta L1$	-
	地震時・橋軸方向	$\Delta Le1$	-
	地震時・橋軸直角方向	$\Delta Le2$	-
性 能			
ゴムの種類及び呼び	材料-G	NR-G8	NR-G8
せん断ばね定数 (kN/mm)	KS	-	-
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γ_S	-
	変位量 (mm)	UB	-
1次形状係数	S1	7.07	7.07
2次形状係数	S2	14.13	14.13
圧縮ばね定数 (kN/mm) 参考値	Kv	1818	1818

材料表 (1組当たり)

部番	部 品 名 称	材 質	個数	重量(kg)	備 考
1	ゴム支承	NR, SS400, SM490A	1	228.3	NR(天然ゴム)
②	上沓	SM490A	1	185.5	
③	下沓	SM490A	1	496.3	
④	ベースプレート	SM490A	1	449.6	
⑤	サイドブロック	SM490A or SCW480N	2	140.8	
⑥	ボス(上)	SM490A	1	7.6	
⑦	ボス(下)	SM490A	1	3.4	
8	アンカーボルト	S35CN, SR235	4	60.3	
⑨	支承取付ボルト	強度区分 12.9	12	1.1	六角穴付きボルト
⑩	支承取付ボルト	強度区分 12.9	12	1.8	六角穴付きボルト
⑪	桁取付ボルト	強度区分 8.8	8	8.4	平座金付き
⑬	サイドブロックボルト	強度区分 8.8	24	14.6	平座金付き
合計				1597.7	(kg)

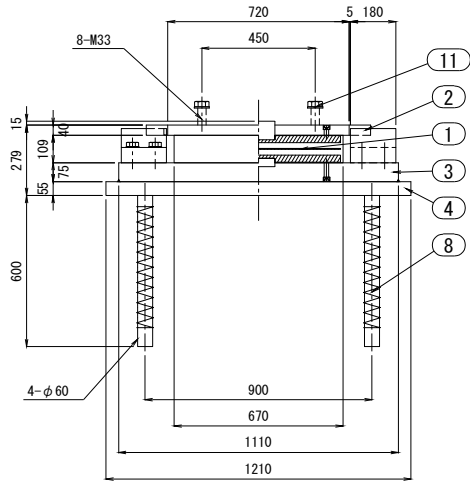
- ※1 道路橋支承便覧準拠。
※2 使用材料は道路橋支承便覧2.9に適合。
※3 材料表の部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。
(JIS H 8641 HDZT77、ボルト類はHDZT49)
※4 材料表の部番を□で囲んだ部品は黒色酸化皮膜処理とする。
※5 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
※6 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること。
※7 必要なアイボルト本数は協議して決定すること。
※8 桁取付ボルト重量はL=100mmとして参考に計上する。
※9 アンカーボルト位置は現地計測後に詳細決定のこと。
※10 現場溶接部は溶接後に常温亜鉛めっき77 μ m以上塗布のこと。
※11 アンカーボルトは無塗装とし、鉄防錆剤を塗布のこと。

位置図

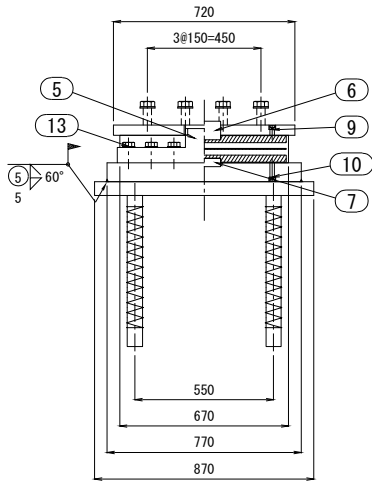
下り線	DG1		
	DG2		
	G1		
	G2		
	G3		
	G4		
上り線	G5		
	G6		
	G7		
	G8		
	UG1		
	UG2		
	A1 E	P1 F	P2 F
			A2 E

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承詳細図 (その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	78 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

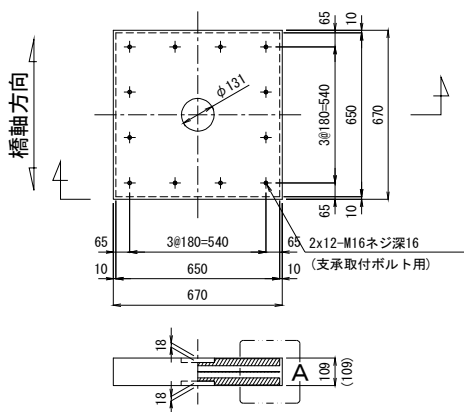
断面図 S=1:30
(橋軸直角方向)



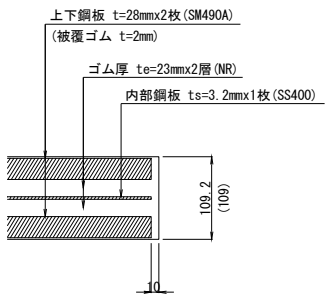
側面図 S=1:30
(橋軸方向)



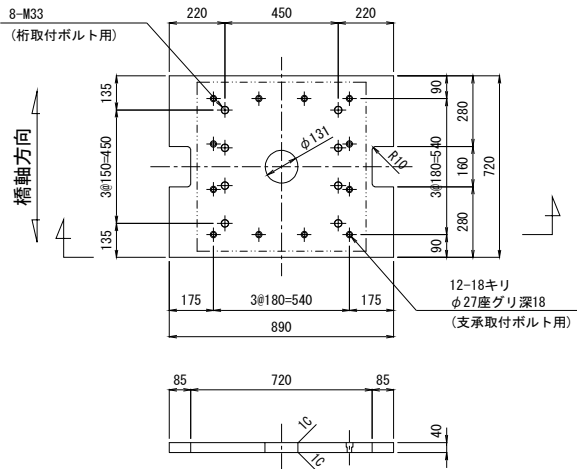
① ゴム支承 S=1:30



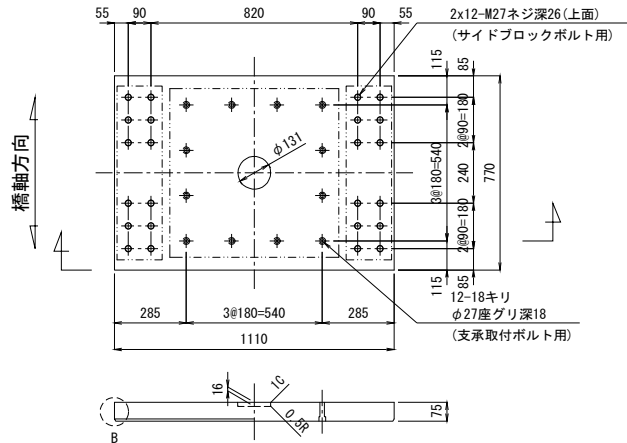
A部詳細図 S=1:10



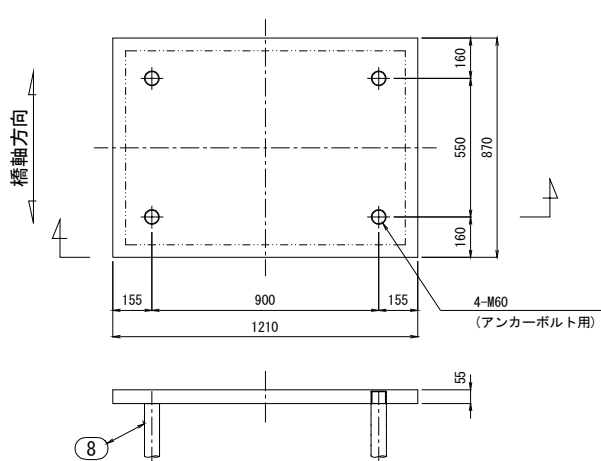
② 上沓 S=1:30



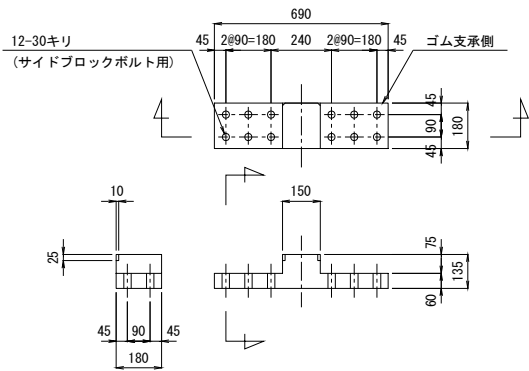
③ 下沓 S=1:30



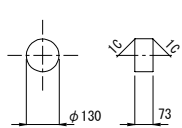
④ ベースプレート S=1:30



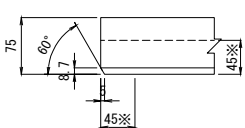
⑤ サイドブロック S=1:30



⑥ ボス(上) S=1:30

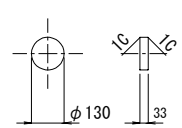


B部詳細図 S=1:5

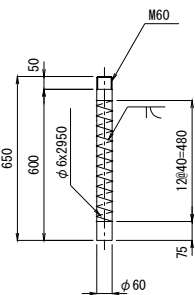


※ 下沓下面及び側面は図の範囲を定めつきとする。
定めつき部には、開先防錆剤塗布のこと。

⑦ ボス(下) S=1:30



⑧ アンカーボルト S=1:30



- ⑨ 支承取付ボルト M16 x 40 強度区分 12.9
⑩ 支承取付ボルト M16 x 75 強度区分 12.9
⑪ 桁取付ボルト M33 x L 強度区分 8.8
⑬ サイドブロックボルト M27 x 90 強度区分 8.8

釜利谷第二高架橋 支承詳細図（その3）

(P2) 固定ゴム支承
支承取替工 E-2900 (4089)
支承取替工 E-2780 (4089)

設計条件

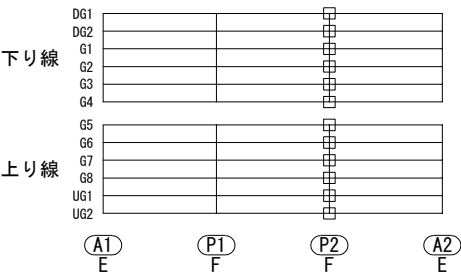
反 力 (kN)		下り線P2	上り線P2
最大反力	Rmax	2900	2780
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	1860	1840
死荷重反力	RD	1830	1950
照査荷重	R1L	-	-
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	650
	橋軸直角方向	RHeq2	1917
	サイドブロック	RHeq3	1883
上向きの地震力	Ru	-881	-871
変 位 量 (mm)			
照査荷重時の変位量	δ_{cL}	-	-
回転変位量	δ_r	-	-
水平変位量	常時・橋軸方向	$\Delta L1$	-
	地震時・橋軸方向	$\Delta Le1$	-
	地震時・橋軸直角方向	$\Delta Le2$	-
性 能			
ゴムの種類及び呼び	材料-G	NR-G8	NR-G8
せん断ばね定数 (kN/mm)	KS	-	-
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γS	-
	変位量 (mm)	UB	-
1次形状係数	S1	7.07	7.07
2次形状係数	S2	14.13	14.13
圧縮ばね定数 (kN/mm) 参考値	Kv	1818	1818

材料表 (1組当り)

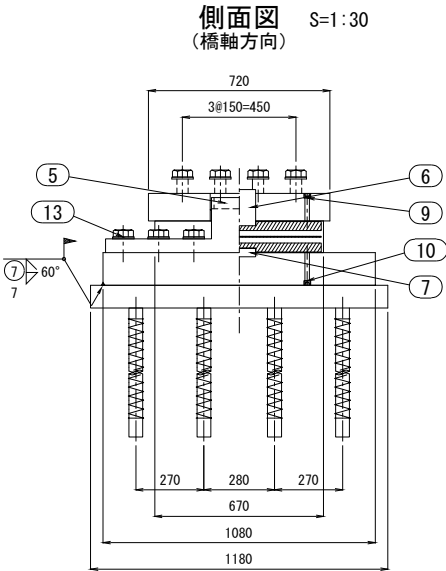
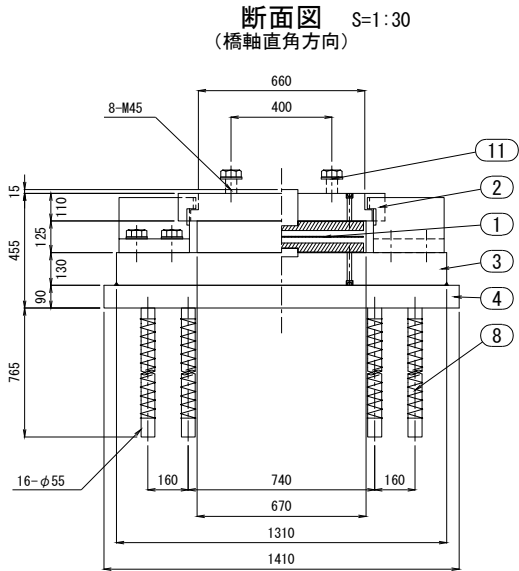
部番	部 品 名 称	材 質	個数	重量 (kg)	備 考
1	ゴム支承	NR, SS400, SM490A	1	281.6	NR (天然ゴム)
2	上沓	SM490A	1	464.5	
3	下沓	SM490A	1	1427.0	
4	ベースプレート	SM490A	1	1163.5	
5	サイドブロック	SM490A or SCW480N	2	400.0	
6	ボス (上)	SM490A	1	14.9	
7	ボス (下)	SM490A	1	3.4	
8	アンカーボルト	S35GN, SR235	16	256.6	
9	支承取付ボルト	強度区分 12.9	12	2.6	六角穴付きボルト
10	支承取付ボルト	強度区分 12.9	12	3.0	六角穴付きボルト
11	桁取付ボルト	強度区分 8.8	8	17.9	平座金付き
13	サイドブロックボルト	強度区分 8.8	24	53.8	平座金付き
合計				4088.8 (kg)	

- ※1 道路橋支承便覧準拠。
※2 使用材料は道路橋支承便覧2.9に適合。
※3 材料表の部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。
(JIS H 8641 HDZT77、ボルト類はHDZT49)
※4 材料表の部番を□で囲んだ部品は黒色酸化皮膜処理とする。
※5 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
※6 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること。
※7 必要なアイボルト本数は協議して決定すること。
※8 桁取付ボルト重量はL=100mmとして参考に計上する。
※9 アンカーボルト位置は現地計測後に詳細決定のこと。
※10 現場溶接部は溶接後に常温亜鉛めっき77 μ m以上塗布のこと。
※11 アンカーボルトは無塗装とし、鉄防錆剤を塗布のこと。

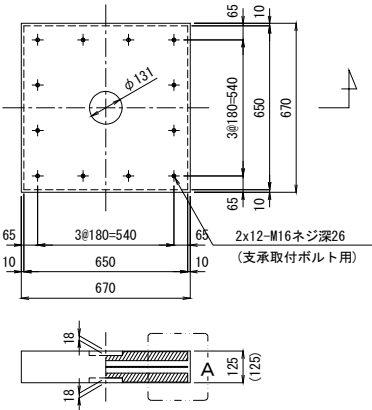
位置図



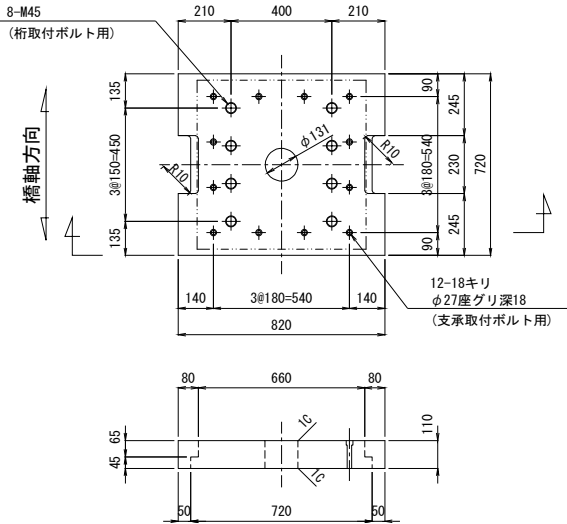
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承詳細図 (その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	79 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



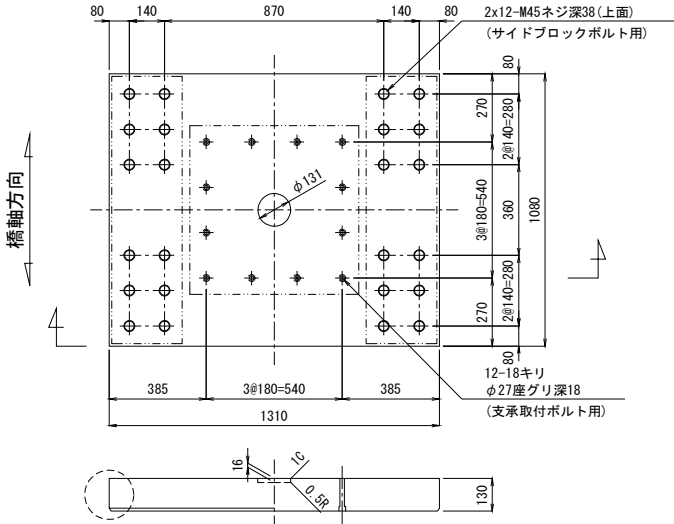
① ゴム支承 S=1:30



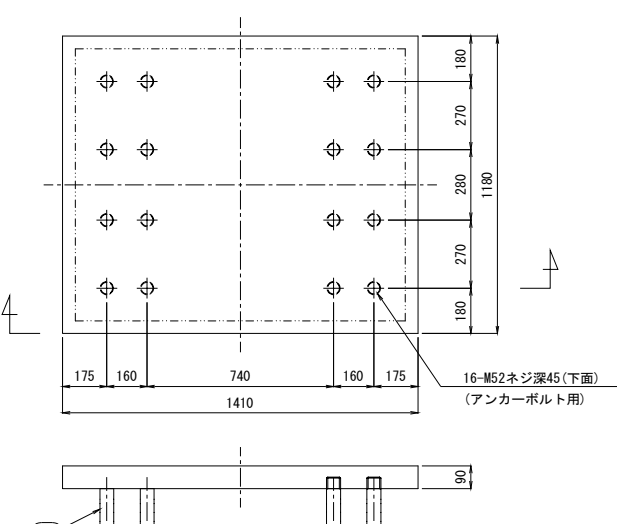
② 上沓 S=1:30



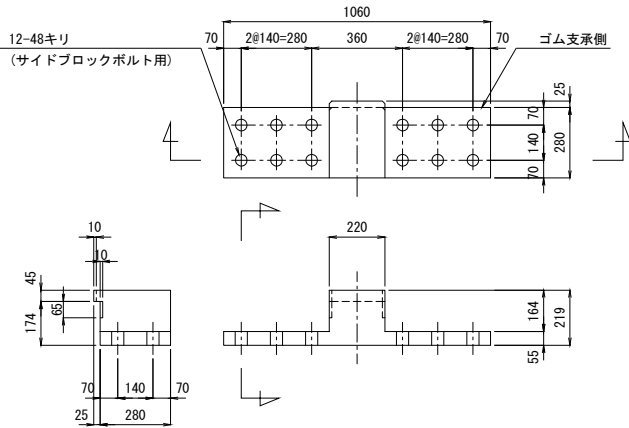
③ 下沓 S=1:30



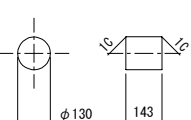
④ ベースプレート S=1:30



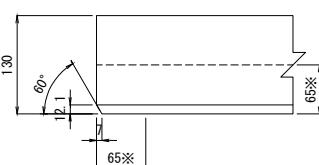
⑤ サイドブロック S=1:30



⑥ ボス (上) S=1:30

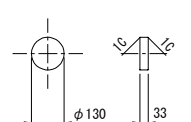


B部詳細図 S=1:5

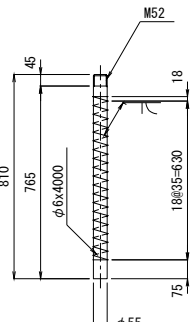


※ 下沓下面及び側面は図の範囲を不めっきとする。
不めっき部には、開先防錆剤塗布のこと。

⑦ ボス (下) S=1:30



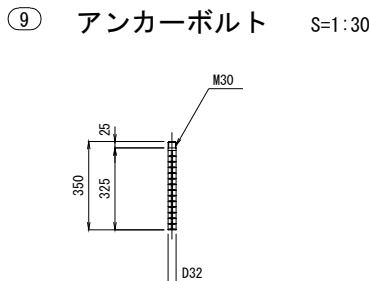
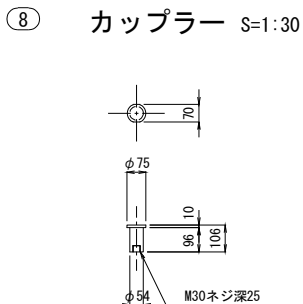
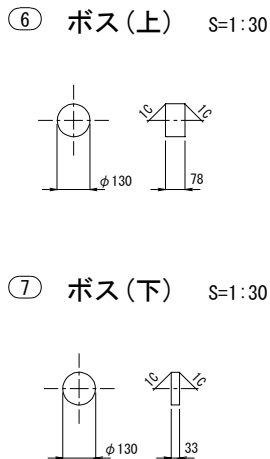
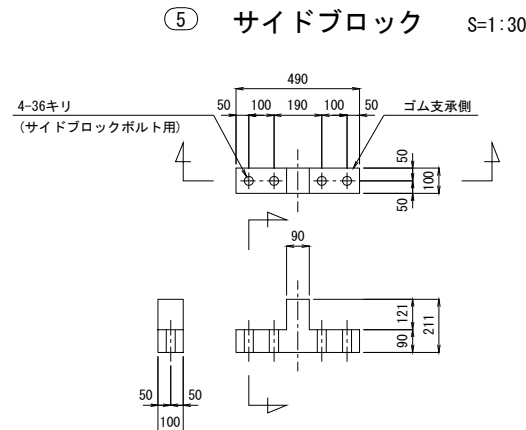
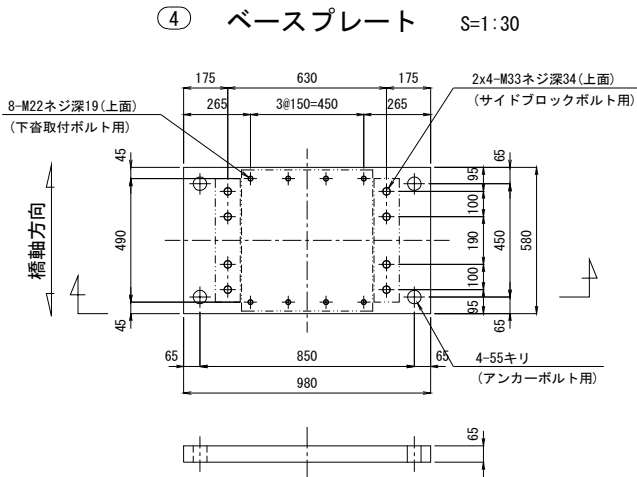
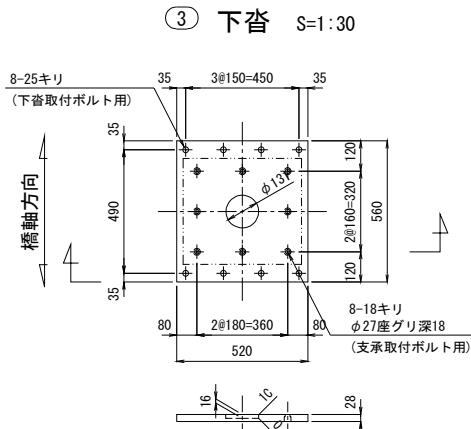
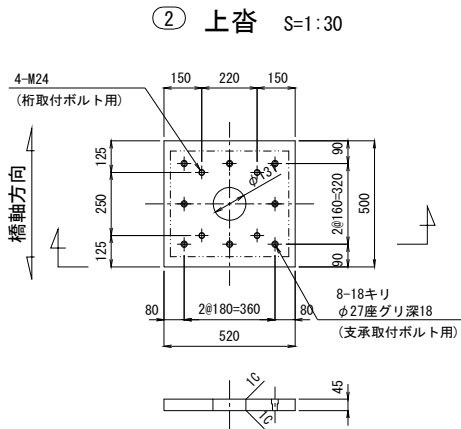
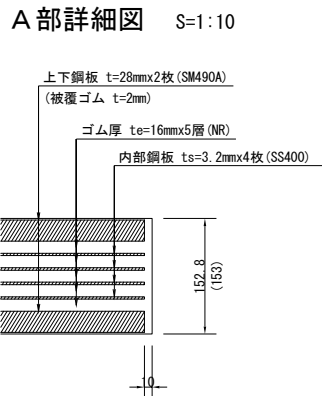
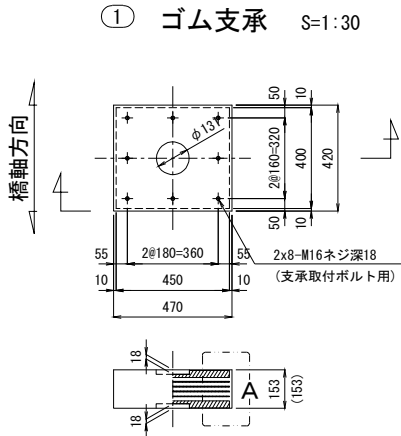
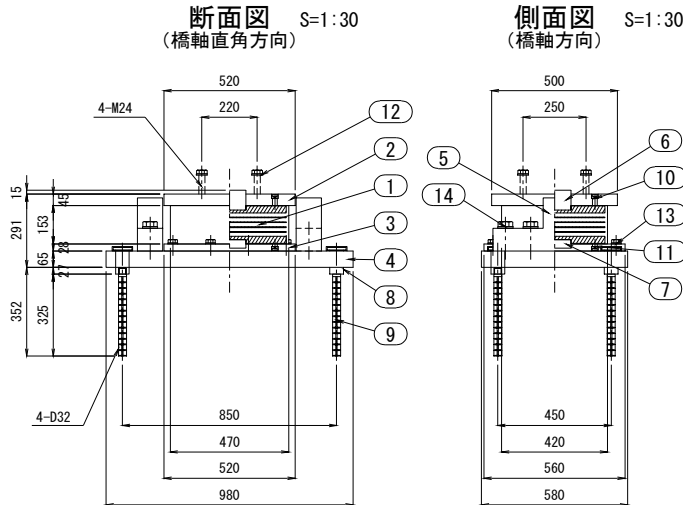
⑧ アンカーボルト S=1:30



- ⑨ 支承取付ボルト M16 x 120 強度区分 12.9
⑩ 支承取付ボルト M16 x 140 強度区分 12.9
⑪ 桁取付ボルト M45 x L 強度区分 8.8
⑬ サイドブロックボルト M45 x 100 強度区分 8.8

釜利谷第二高架橋 支承詳細図（その4）

Ⓐ2 地震時水平力分散型ゴム支承
支承取替工 E-1090 (673)
支承取替工 E-1070 (673)



- ⑩ 支承取付ボルト M16 x 45 強度区分 12.9
⑪ 支承取付ボルト M16 x 30 強度区分 12.9
⑫ 桁取付ボルト M24 x L 強度区分 8.8
⑬ 下沓取付ボルト M22 x 50 強度区分 8.8
⑭ サイドブロックボルト M33 x 130 強度区分 8.8

設計条件

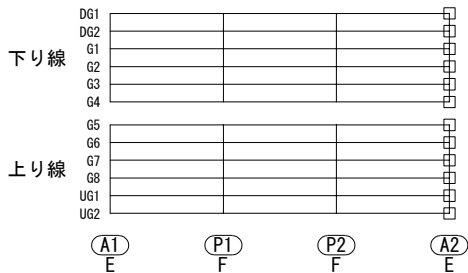
反力 (kN)		下り線A2	上り線A2
最大反力	Rmax	1090	1070
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	860	860
死荷重反力	RD	550	580
照査荷重	R1L	270	245
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	283
	橋軸直角方向	RHeq2	392
	サイドブロック	RHeq3	392
上向きの地震力		Ru	-165
変位量 (mm)			
照査荷重時の変位量	δcL	0.431	0.391
回転変位量	δr	-	-
水平変位量	常時・橋軸方向	ΔL1	52
	地震時・橋軸方向	ΔLe1	104
	地震時・橋軸直角方向	ΔLe2	-
性能			
ゴムの種類及び呼び	材料-G	NR-G12	NR-G12
せん断ばね定数 (kN/mm)	KS	2.700	2.700
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γS	175
	変位量 (mm)	UB	140
1次形状係数		S1	6.62
2次形状係数		S2	5.00
圧縮ばね定数 (kN/mm) 参考値		Kv	626

材料表 (1組当り)

部番	部品名称	材質	個数	重量(kg)	備考
1	ゴム支承	NR, SS400, SM490A	1	120.0	
②	上沓	SM490A	1	85.7	
③	下沓	SM490A	1	60.6	
④	ベースプレート	SM490A	1	282.9	
⑤	サイドブロック	SM490A or SCW480N	2	80.5	
⑥	ボス(上)	SM490A	1	8.1	
⑦	ボス(下)	SM490A	1	3.4	
⑧	カップラー	S45CN	4	7.3	
9	アンカーボルト	SD345	4	8.7	
⑩	支承取付ボルト	強度区分 12.9	8	0.8	六角穴付きボルト
⑪	支承取付ボルト	強度区分 12.9	8	0.6	六角穴付きボルト
⑫	桁取付ボルト	強度区分 8.8	4	1.9	平座金付き
⑬	下沓取付ボルト	強度区分 8.8	8	2.0	平座金付き
⑭	サイドブロックボルト	強度区分 8.8	8	10.0	平座金付き
15	ゴムキャップ(カップラー用)	EPDM	4	0.2	
合計				672.7	(kg)

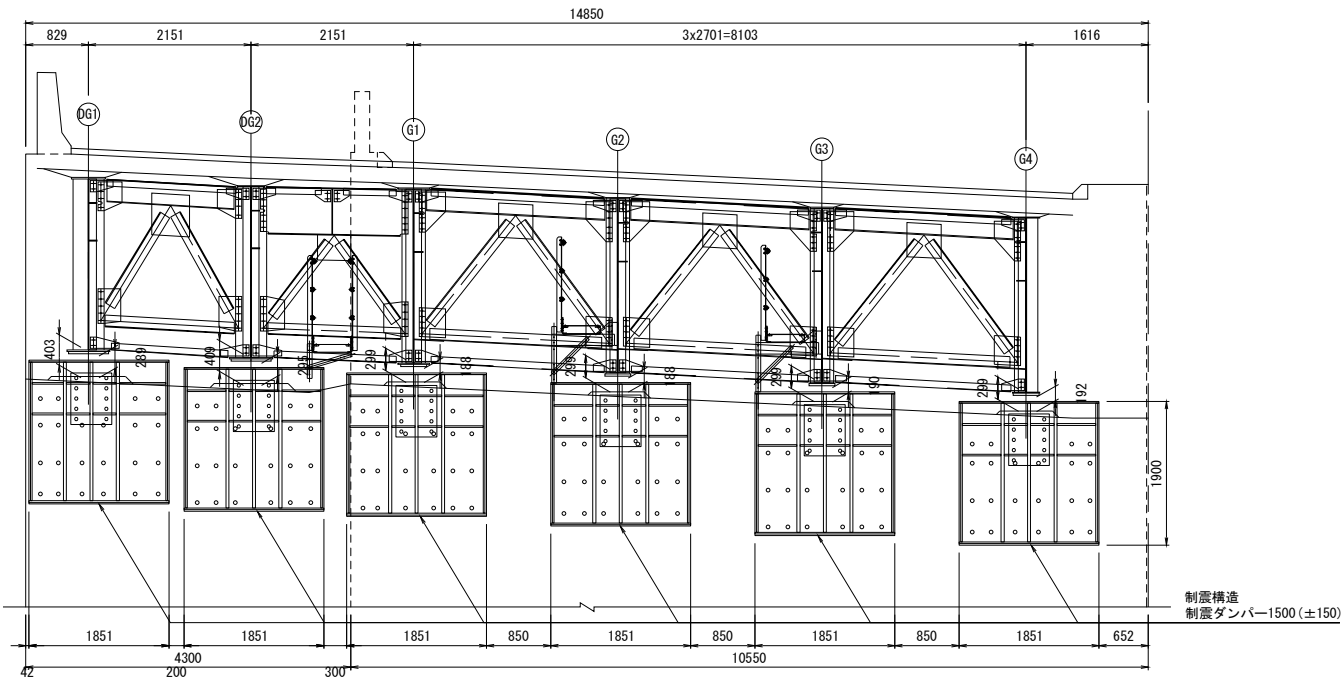
- ※1 道路橋支承便覧準拠。
※2 使用材料は道路橋支承便覧2.9に適合。
※3 材料表の部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。
(JIS H 8641 HDZT77、ボルト類はHDZT49)
※4 材料表の部番を□で囲んだ部品は黒色酸化皮膜処理とする。
※5 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
※6 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること。
※7 必要なアイボルト本数は協議して決定すること。
※8 桁取付ボルト重量はL=100mmとして参考に計上する。
※9 アンカーボルト位置は現地計測後に詳細決定のこと。
※10 アンカーボルトは無塗装とし、鉄筋防錆剤を塗布のこと。

位置図

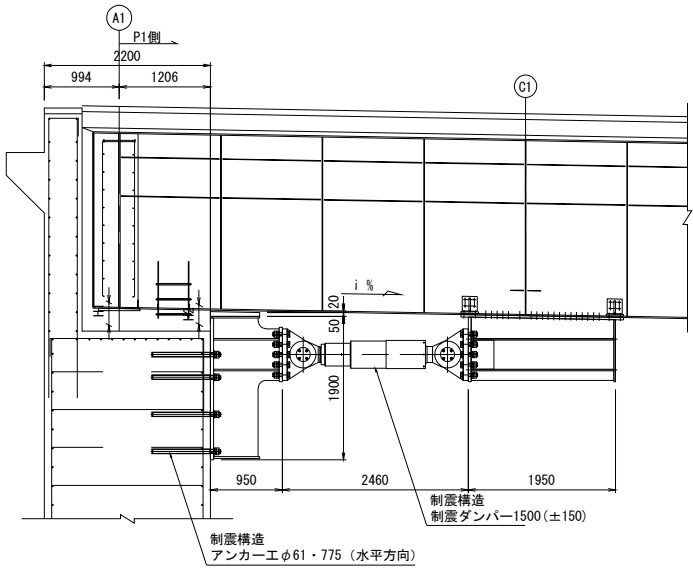


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承詳細図 (その4)		
縮尺	図示	図面番号	80 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

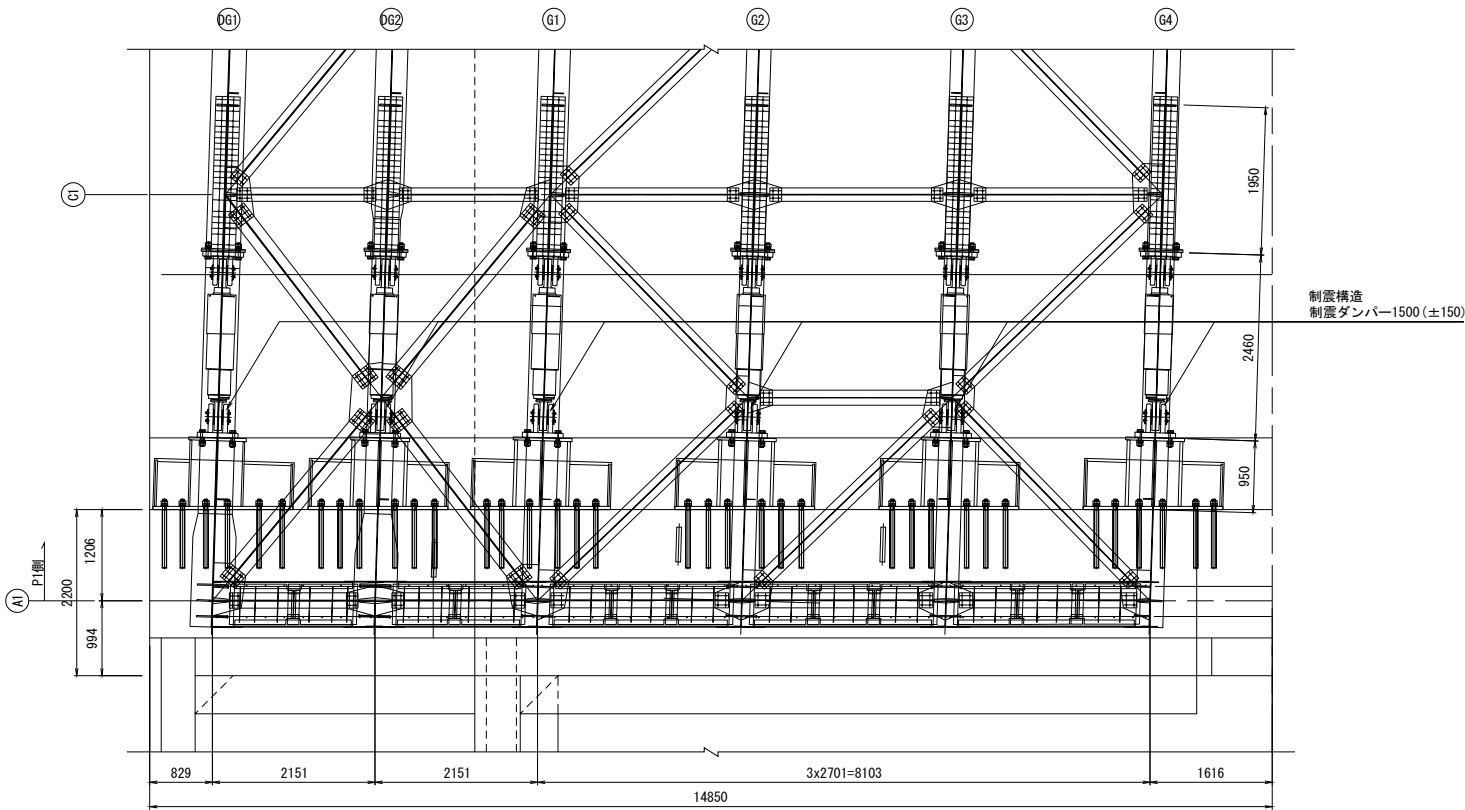
断面図



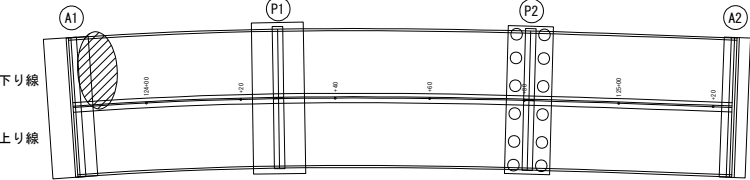
側面図



平面図



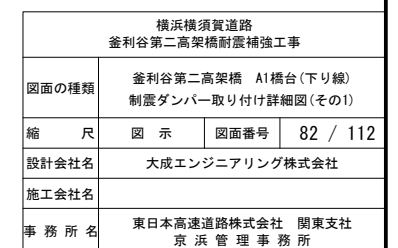
位置図



※制震ダンパーは段差防止構造を兼ねるものとする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 制震ダンパー配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	81 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

補強材詳細

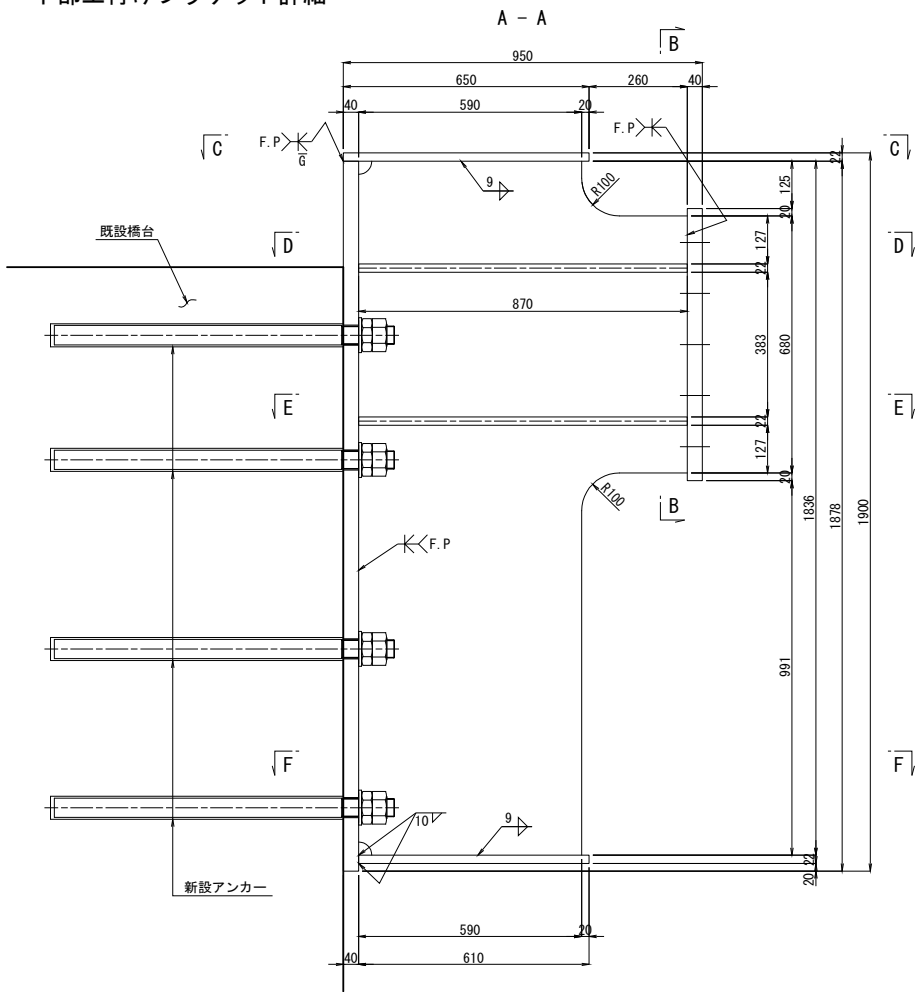
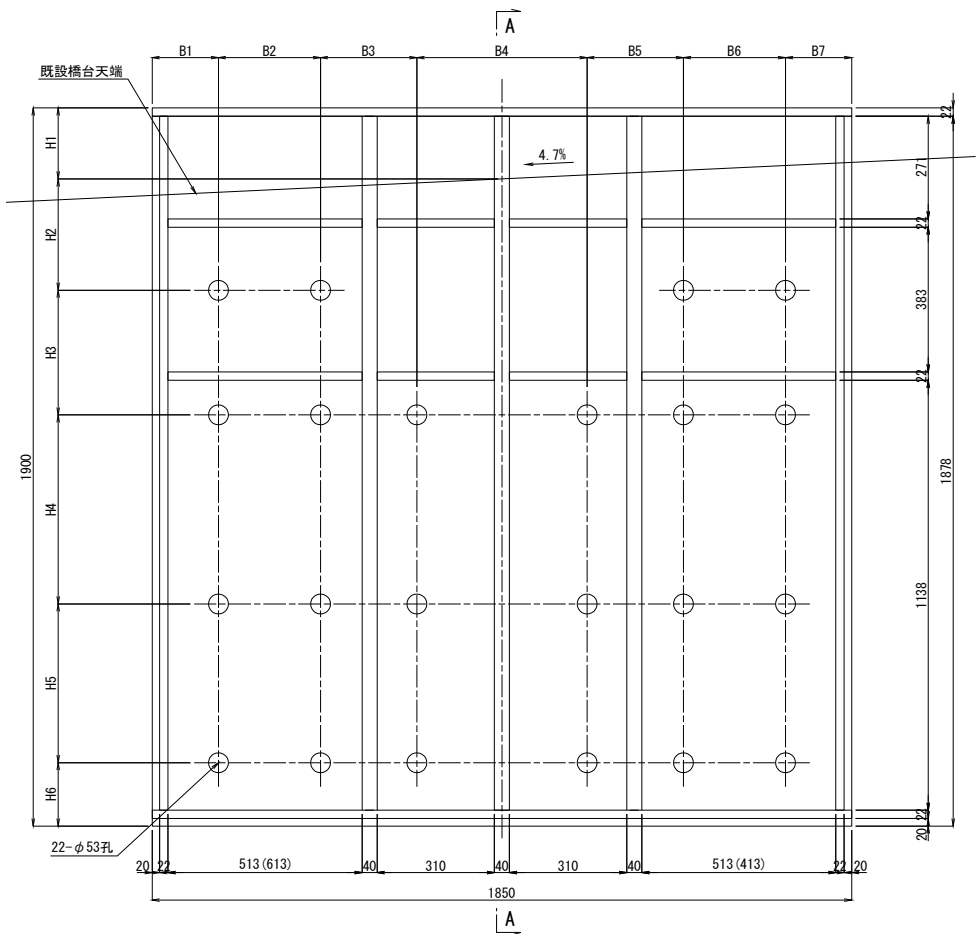


	D61	D62	G1	G2	G3	G4
V1	837	834	840	843	847	849
V2	817	814	820	823	827	829
V3	274	271	277	280	284	286
V4	791	788	797	800	806	811
V5	771	768	777	780	786	791
V6	228	225	234	237	243	248
V7	37	34	40	43	47	49
V8	263	260	266	269	273	275
V9	218	215	224	227	233	238
L1	120	120	115	110	110	110
L2	100	95	95	90	90	90

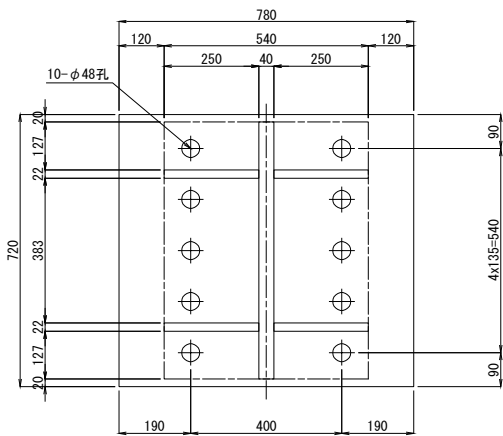
制震構造 制震ダンパー1500(±150)

下部工付けブラケット詳細

正面図



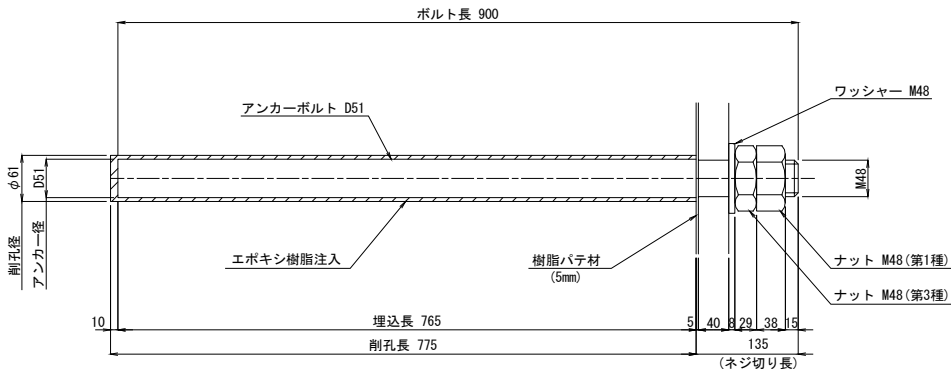
B - B



1組当たり材料 (製作数: 6組)

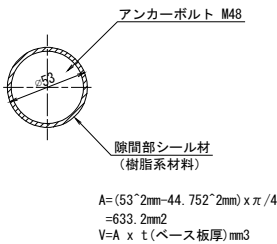
- 1 - BASE PL 1878 x 40 x 1850 (SM490YB)
- 1 - BASE PL 780 x 40 x 720 (SM490YB)
- 1 - FLG PL 679 (676) x 22 x 1850
- 1 - FLG PL 639 (636) x 22 x 1850
- 1 - RIB PL 562 (559) x 22 x 1836
- 1 - RIB PL 859 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 870 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 881 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 618 (615) x 22 x 1836
- 2 - RIB PL 559 x 22 x 513 (613)
- 1 - RIB PL 869 x 22 x 310
- 1 - RIB PL 869 x 22 x 310 (切欠き有)
- 1 - RIB PL 880 x 22 x 310
- 1 - RIB PL 880 x 22 x 310 (切欠き有)
- 2 - RIB PL 597 (594) x 22 x 513 (413)
- 22 - ANCHOR BOLT D51 x 900 (SD345)
- 22 - NUT M48 (第1種) (SS400)
- 22 - NUT M48 (第3種) (SS400)
- 22 - Washer M48 (SS400)

制震構造 アンカーエφ61・775 (水平方向) S=1:10

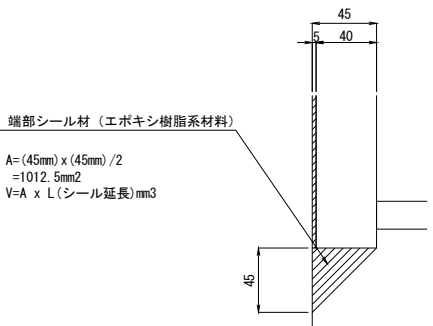


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めっきを施すものとする。

アンカーボルト孔周り詳細図 S=1:5



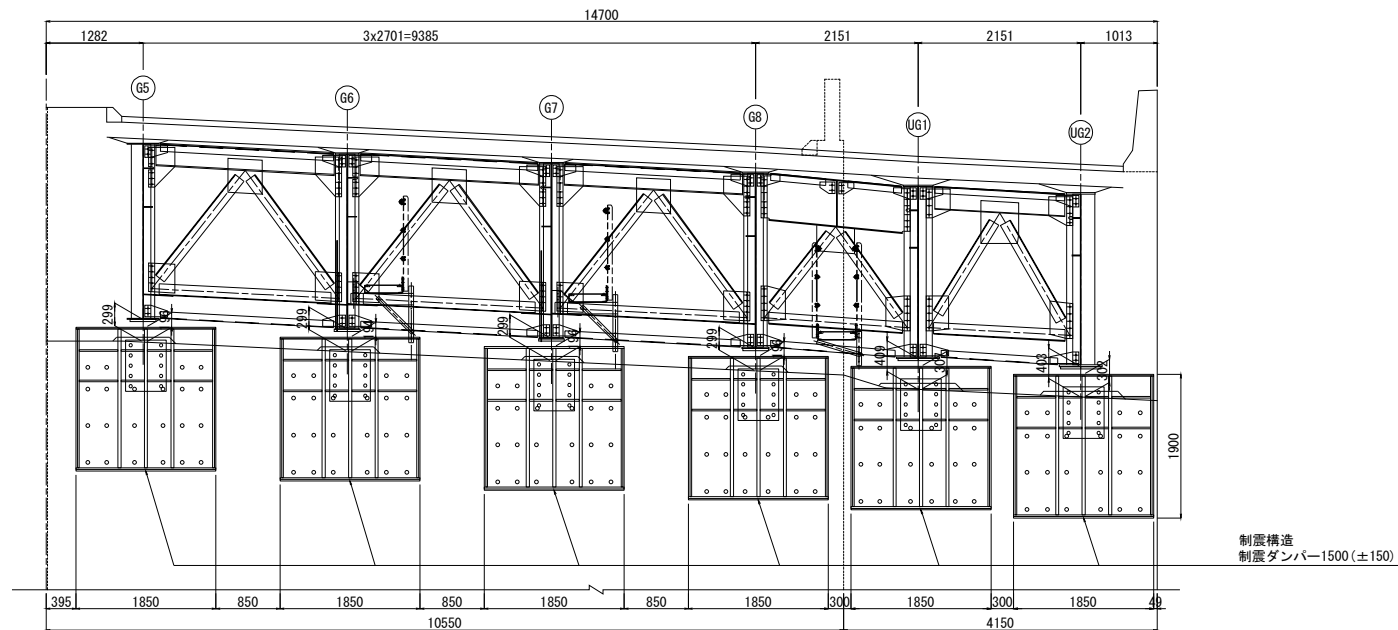
縁部シール材詳細図 S=1:5



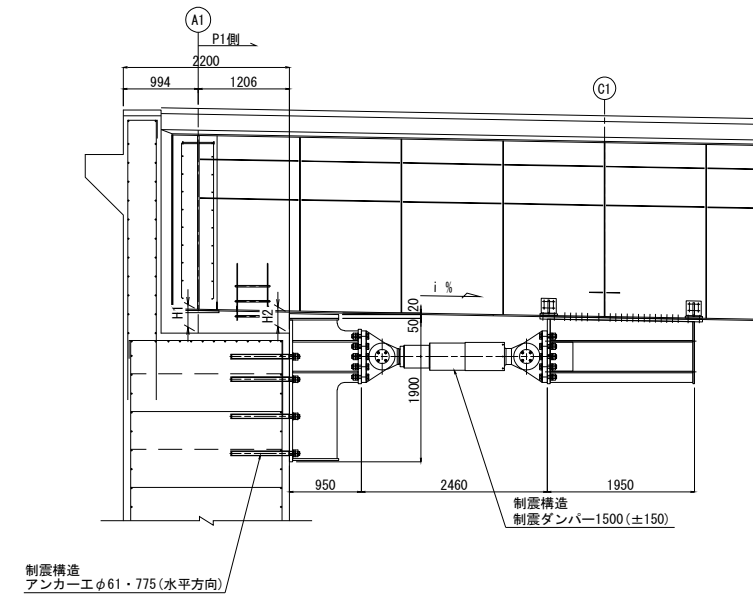
- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップはR35とする。
 - 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
 - 銅材は、全て溶融垂鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZ777とする。
但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZT49とする。)
 - アンカーボルトを配置する際には鉄筋検査を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
 - () 内は、DG1桁の値を示す。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	83 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

断面図

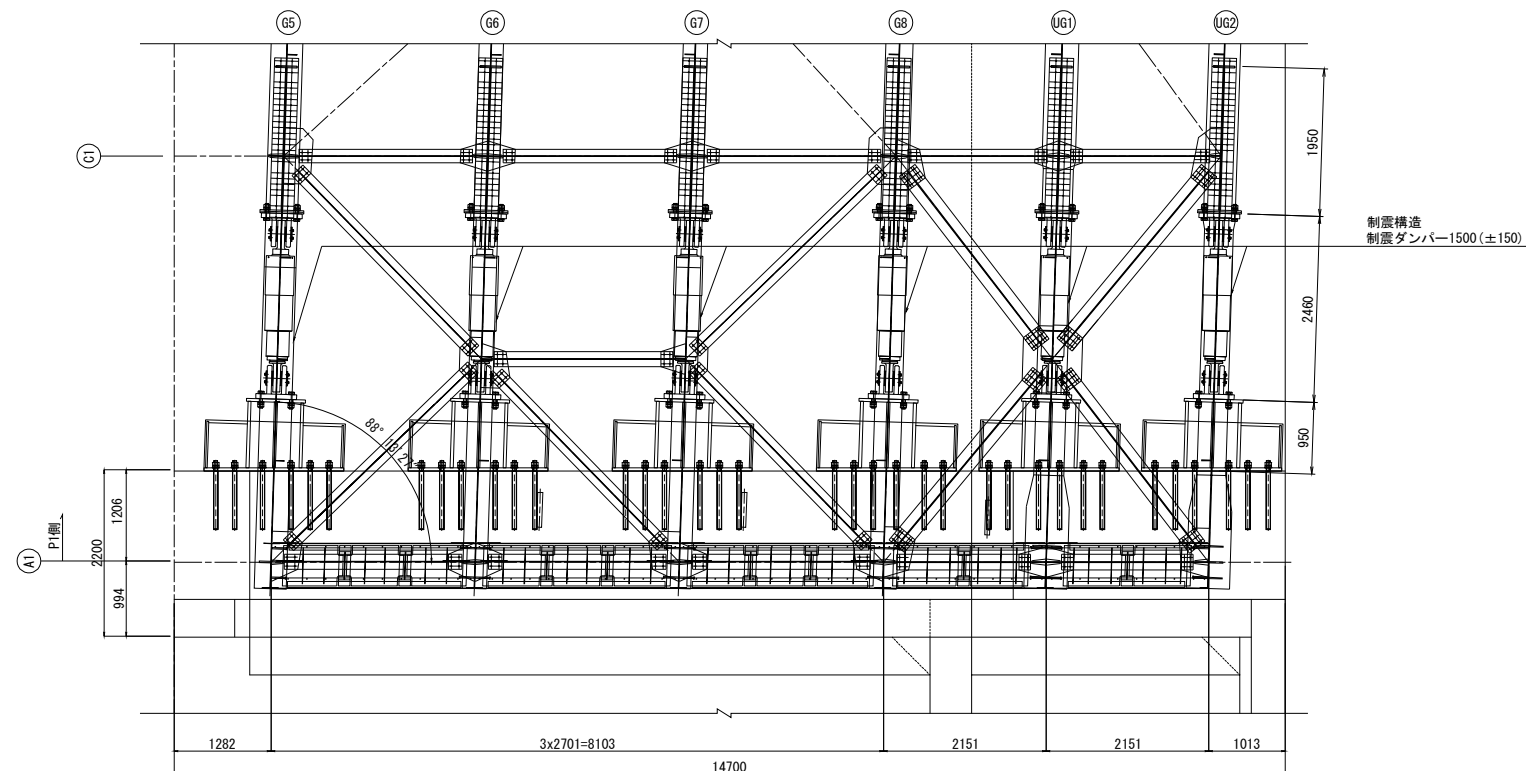


側面図

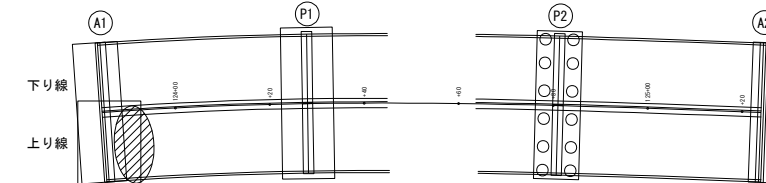


	G5	G6	G7	G8	UG1	UG2
H1	299	299	299	299	409	403
H2	196	194	196	196	307	302
i (%)	2.0	1.9	1.8	1.8	1.7	1.7

平面図



位置図



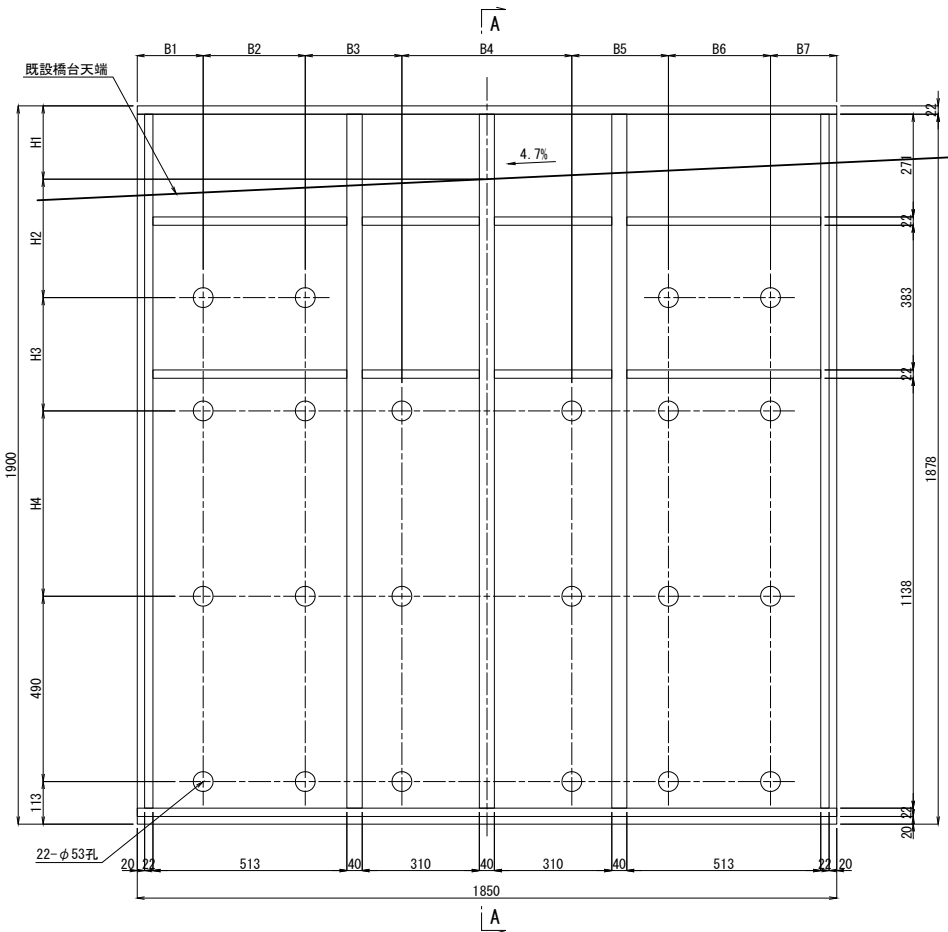
※制震ダンパーは段差防止構造を兼ねるものとする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台（上り線） 耐震ダンパー配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	85 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

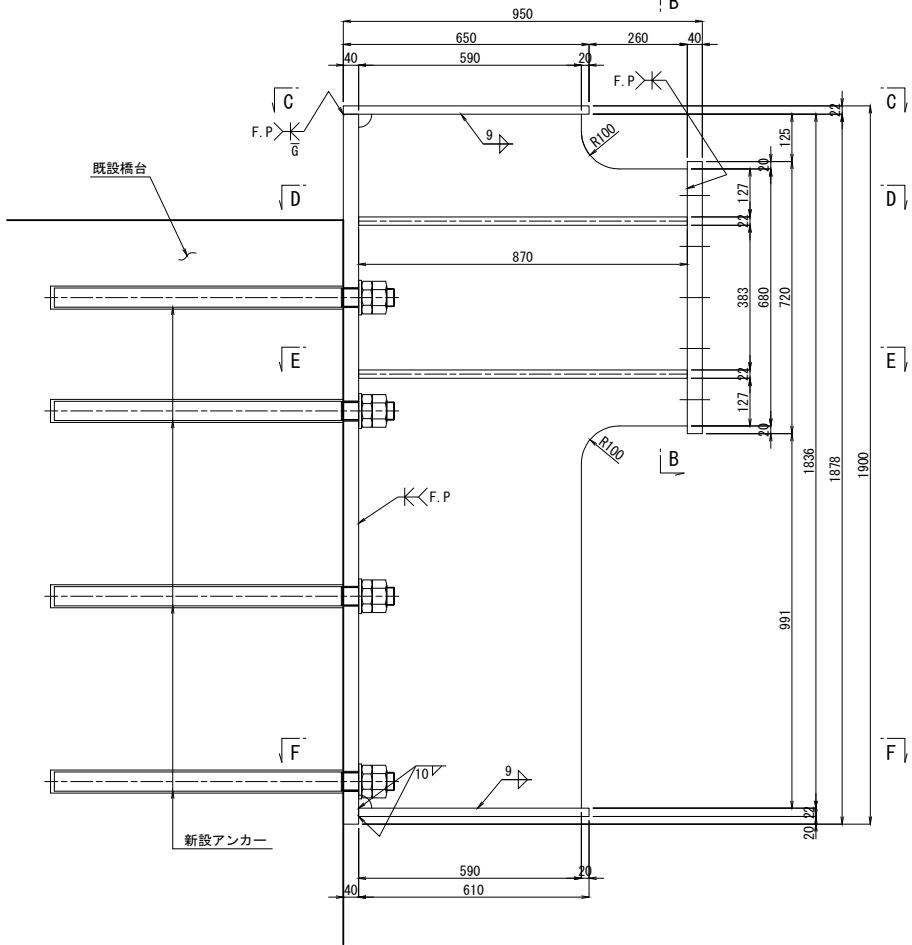
制震構造 制震ダンパー1500(±150)

下部工付けブラケット詳細

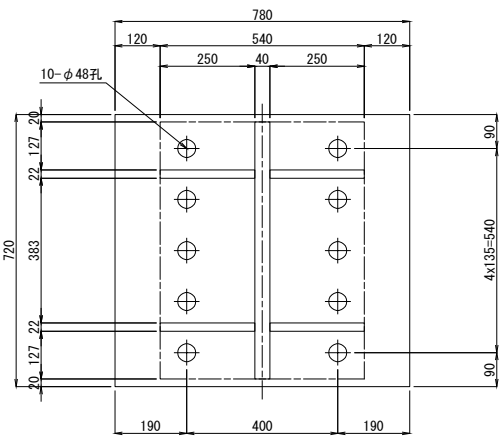
正面図



A - A



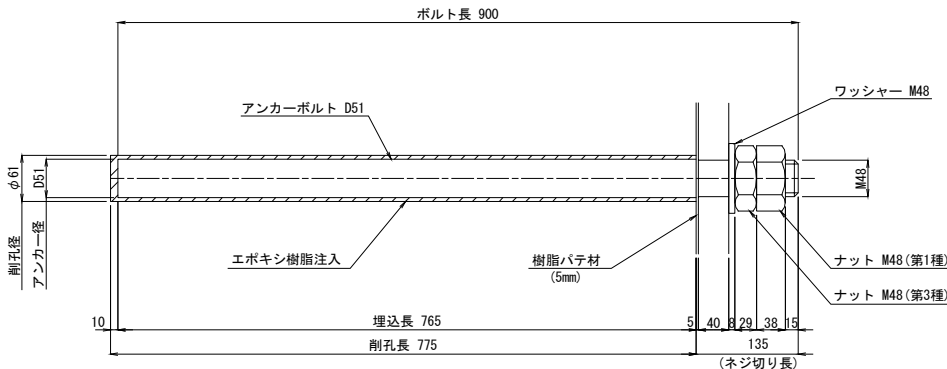
B - B



1組当たり材料 (製作数: 6組)

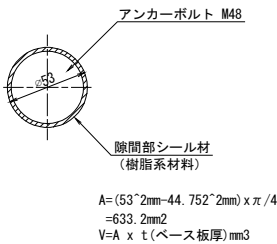
- 1 - BASE PL 1878 x 40 x 1850 (SM490YB)
- 1 - BASE PL 780 x 40 x 720 (SM490YB)
- 1 - FLG PL 679 x 22 x 1850
- 1 - FLG PL 639 x 22 x 1850
- 1 - RIB PL 562 x 22 x 1836
- 1 - RIB PL 859 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 870 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 881 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 618 x 22 x 1836
- 2 - RIB PL 559 x 22 x 513
- 1 - RIB PL 869 x 22 x 310
- 1 - RIB PL 869 x 22 x 310 (切欠き有)
- 1 - RIB PL 880 x 22 x 310
- 1 - RIB PL 880 x 22 x 310 (切欠き有)
- 2 - RIB PL 597 x 22 x 513
- 22 - ANCHOR BOLT D51 x 900 (SD345)
- 22 - NUT M48 (第1種) (SS400)
- 22 - NUT M48 (第3種) (SS400)
- 22 - Washer M48 (SS400)

制震構造 アンカー工φ61・775 (水平方向) S=1:10

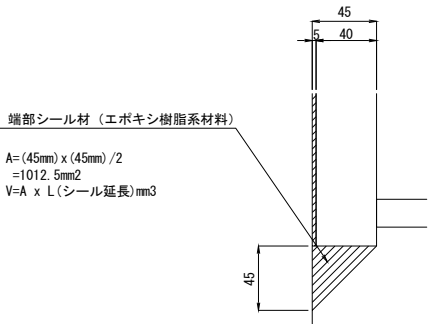


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めっきを施すものとする。

アンカーボルト孔周り詳細図 S=1:5



縁部シール材詳細図 S=1:5

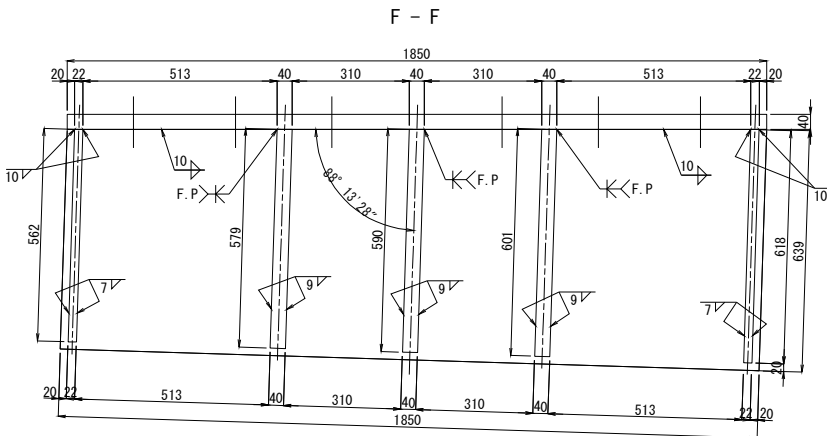
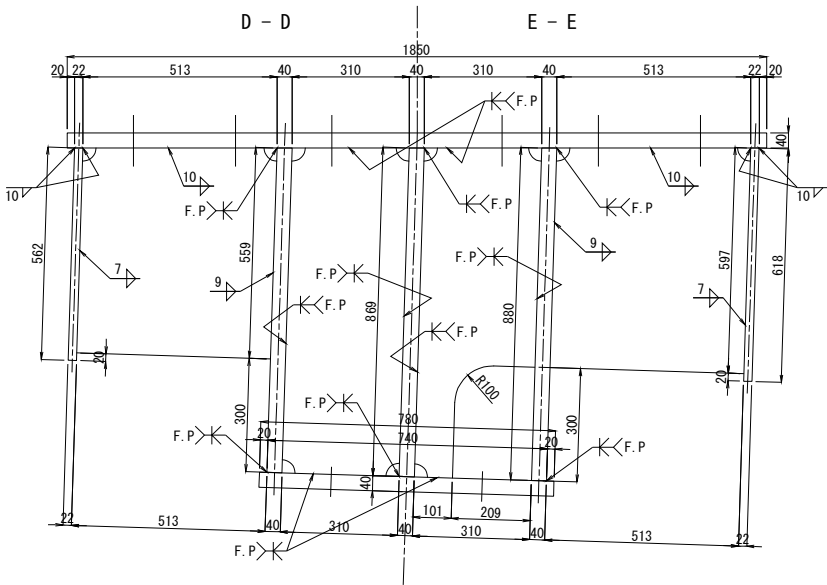
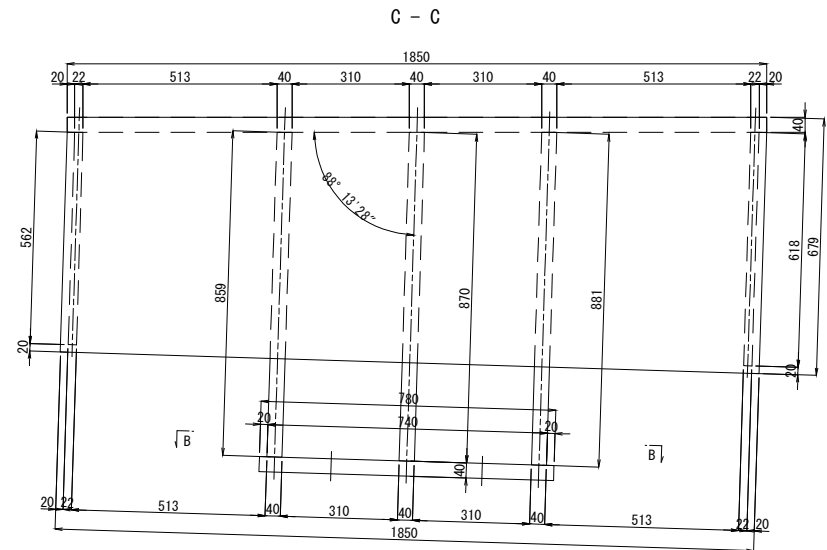


注記

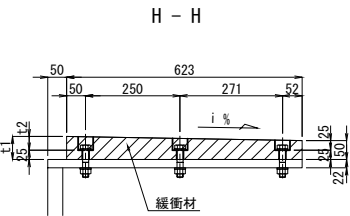
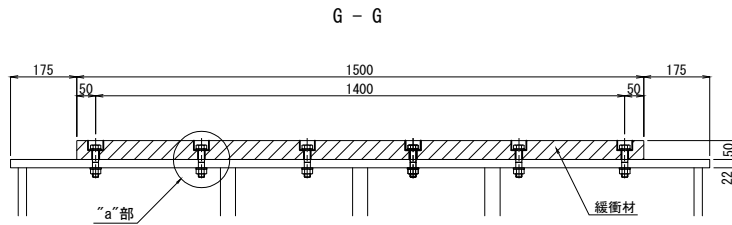
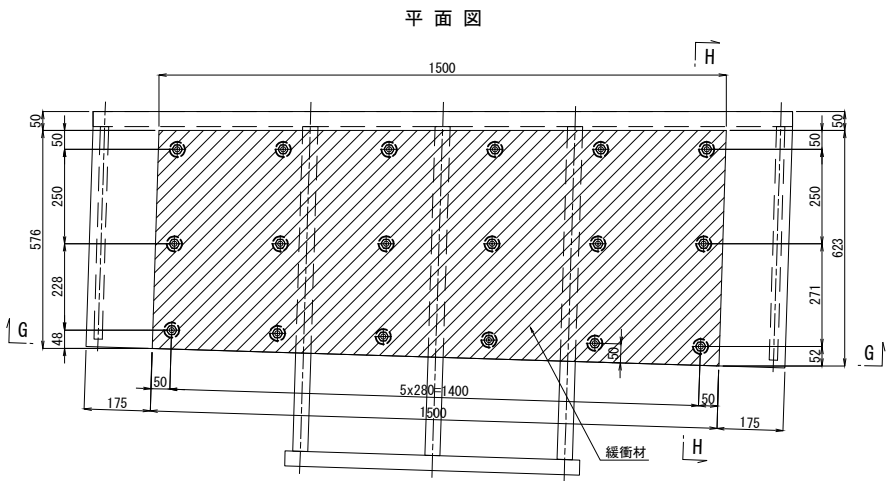
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
- 特記なきスカーラップはR35とする。
- 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
- 銅材は、全て溶融垂鉛メッキ処理とする。
- (膜厚は、JIS H8641 HDZ777とする。
- 但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZ749とする。)
- アンカーボルトを配置する際には鉄筋検査を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台 (上り線) 制震ダンパー取り付け詳細図 (その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	87 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500(±150)



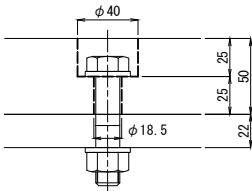
緩衝材取付部詳細



	G5	G6	G7	G8	UG1	UG2
t1	62	62	61	61	61	61
t2	37	37	36	36	36	36
i (%)	2.0	1.9	1.8	1.8	1.7	1.7

〈新設部材〉
1組当たり材料 (製作数 : 6組)
18-BN M16 x85 (2-W)
1-緩衝材 623 x t1 x1500(クロロブレンゴム 硬度55° ±5°)

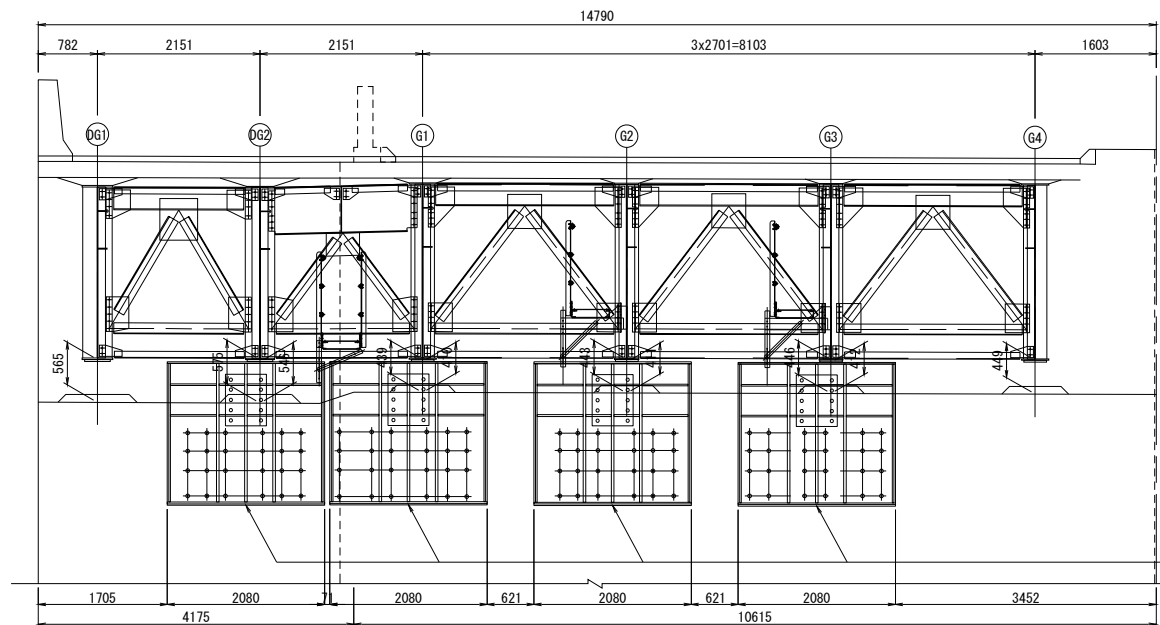
“a”部詳細 S=1:5



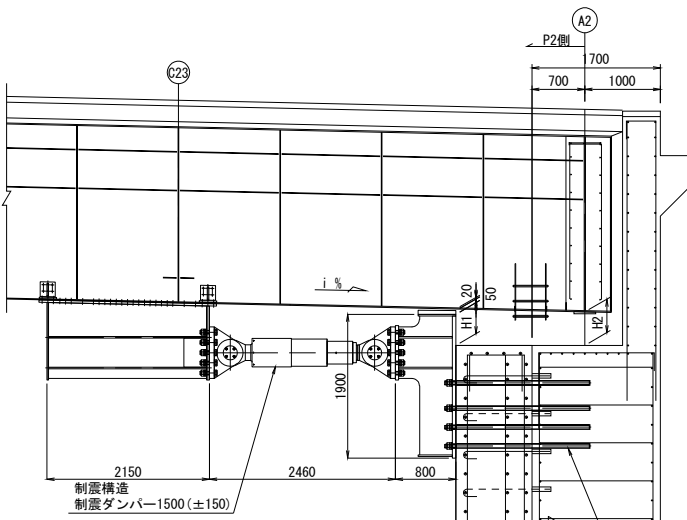
- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップはR35とする。
 3. 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
 4. 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。
但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZT49とする。)

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	88 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

断面図

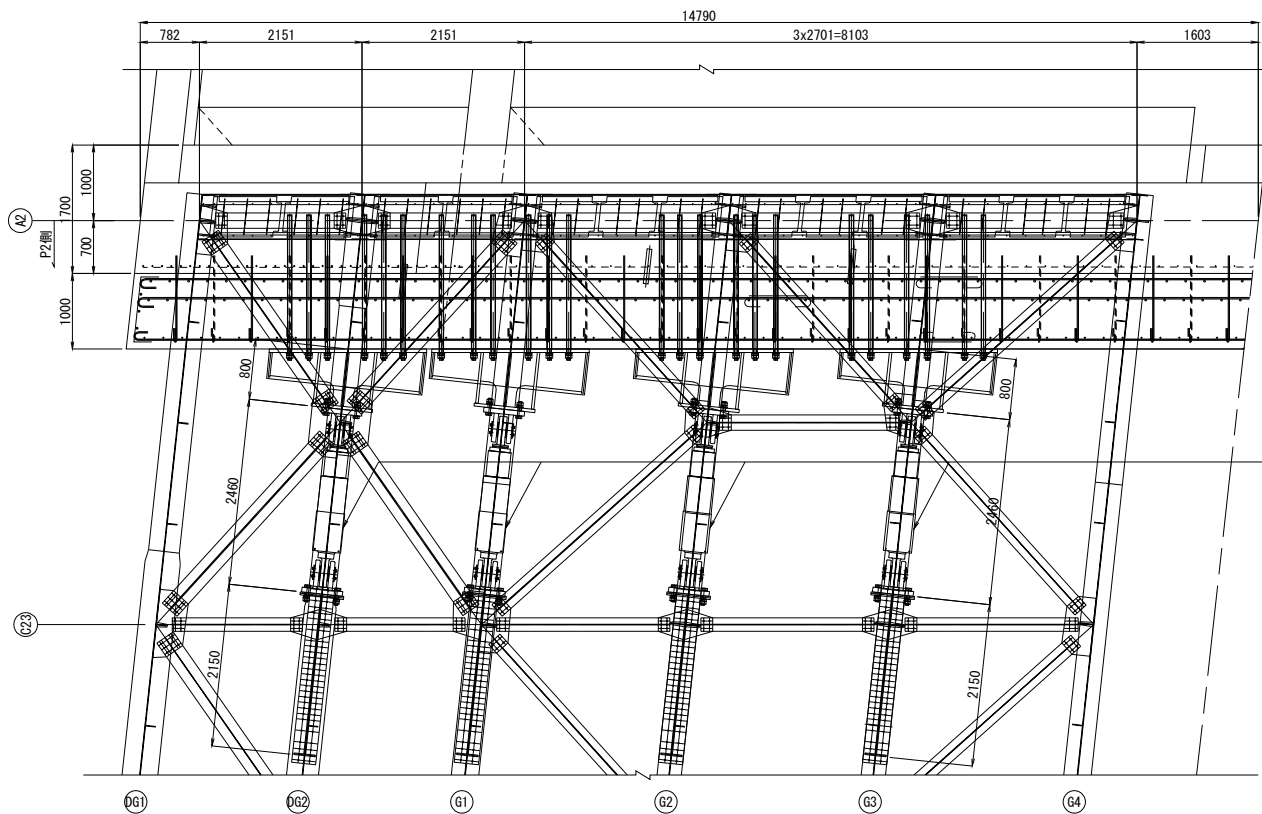


側面図

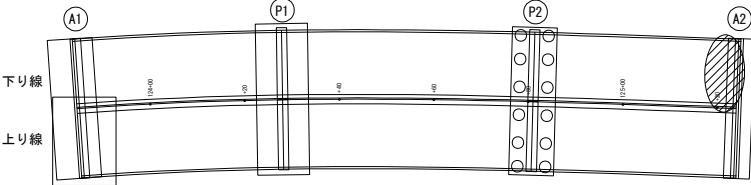


	D62	G1	G2	G3
H1	546	410	411	412
H2	575	439	443	446
i (%)	2.4	2.4	2.2	2.1

平面図



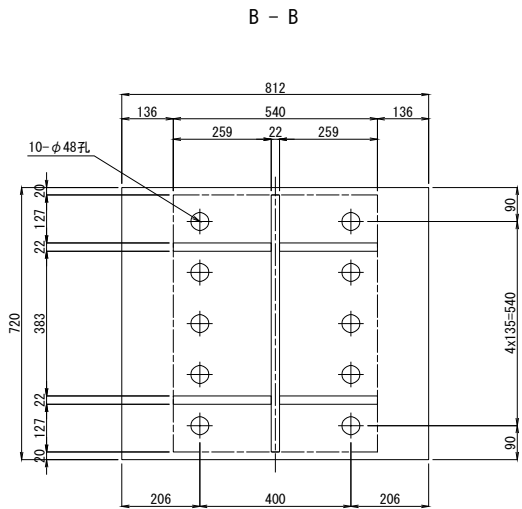
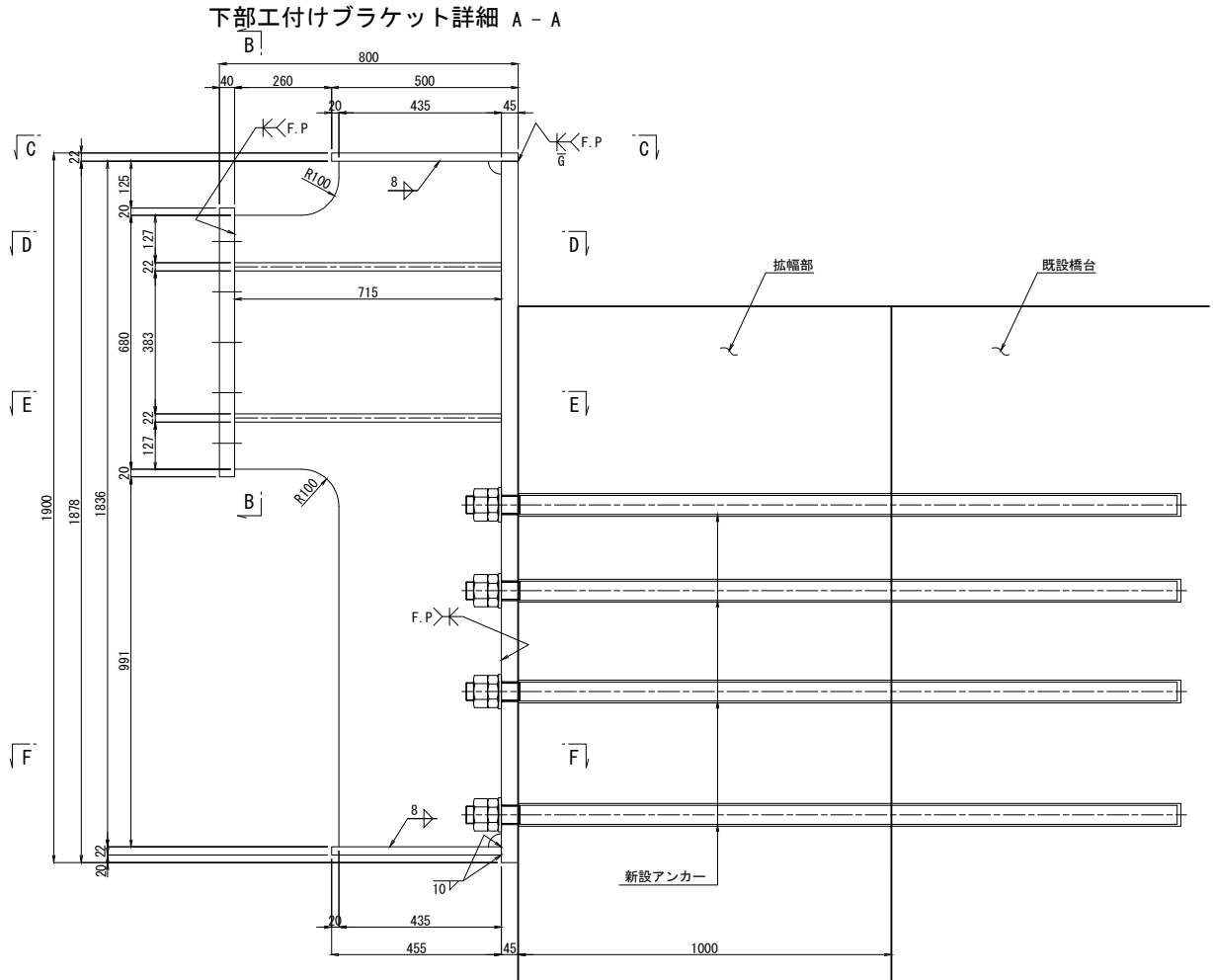
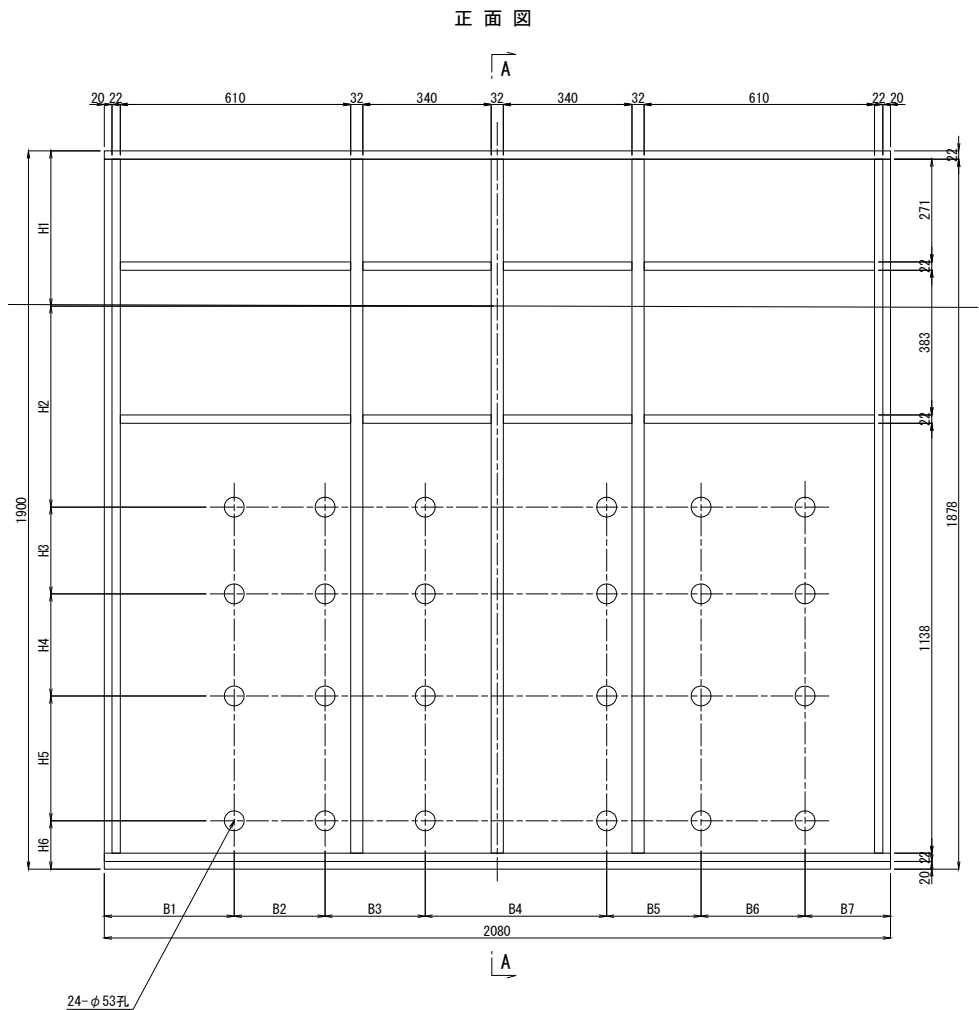
位置図



※制震ダンパーは段差防止構造を兼ねるものとする。

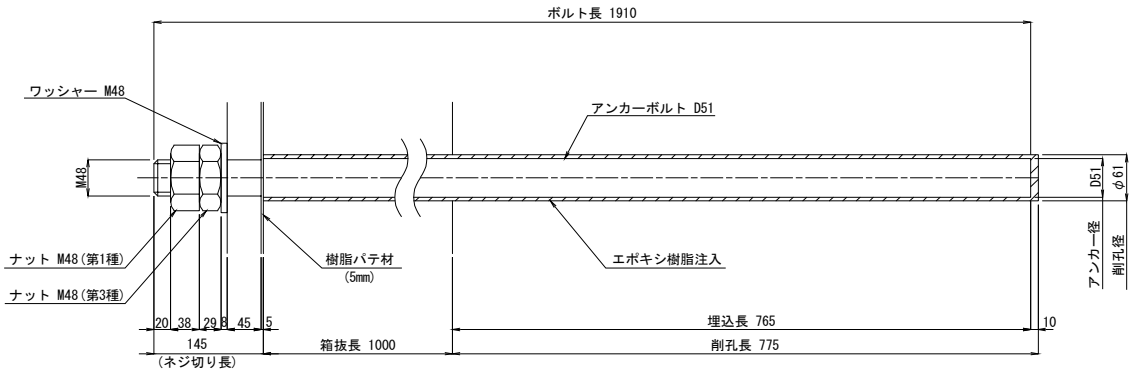
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 制震ダンパー配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	89 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500(±150)



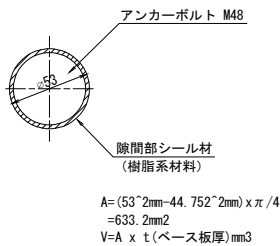
- 1組当たり材料 (製作数: 4組)
- 1 - BASE PL 1878 x 45 x 2080 (SM520C)
 - 1 - BASE PL 720 x 40 x 812 (SM490YB)
 - 1 - FLG PL 611 x 22 x 2068
 - 1 - FLG PL 566 x 22 x 2068
 - 1 - RIB PL 327 x 22 x 1836
 - 1 - RIB PL 675 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 715 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 755 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 543 x 22 x 1836
 - 2 - RIB PL 606 x 22 x 373
 - 1 - RIB PL 713 x 22 x 338
 - 1 - RIB PL 713 x 22 x 338 (切欠き有)
 - 1 - RIB PL 753 x 22 x 338
 - 1 - RIB PL 753 x 22 x 338 (切欠き有)
 - 2 - RIB PL 606 x 22 x 521
 - 24 - ANCHOR BOLT D51 x 1910 (SD345)
 - 24 - NUT M48 (第1種) (SS400)
 - 24 - NUT M48 (第3種) (SS400)
 - 24 - Washer M48 (SS400)

制震構造 アンカーエφ61・775 (水平方向) S=1:10

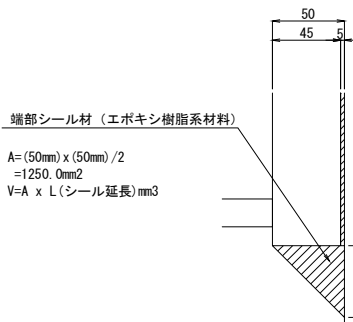


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

アンカーボルト孔周り詳細図 S=1:5



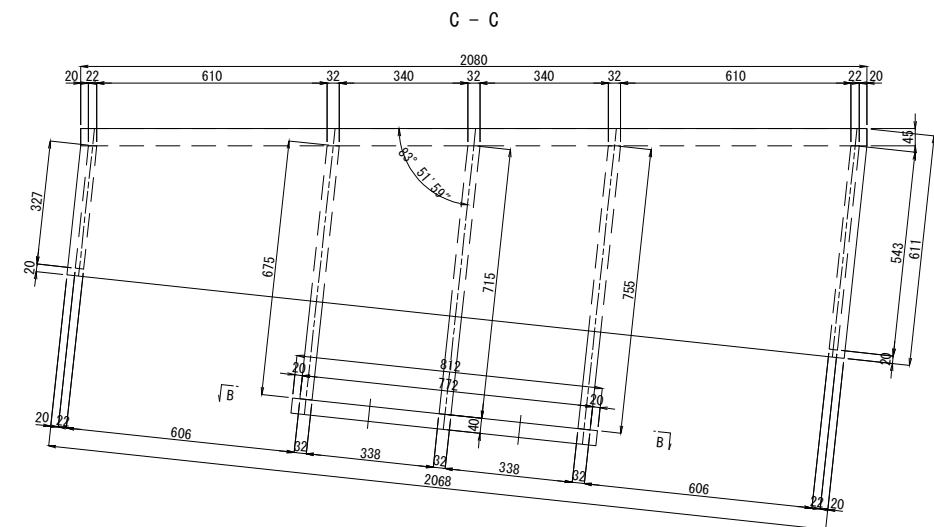
縁部シール材詳細図 S=1:5



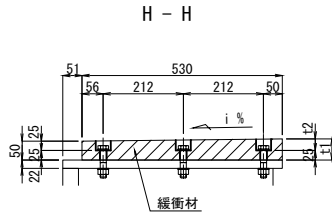
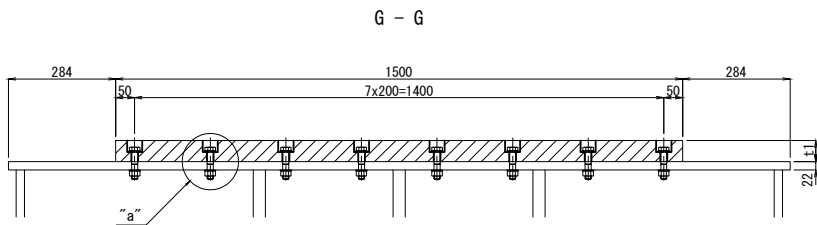
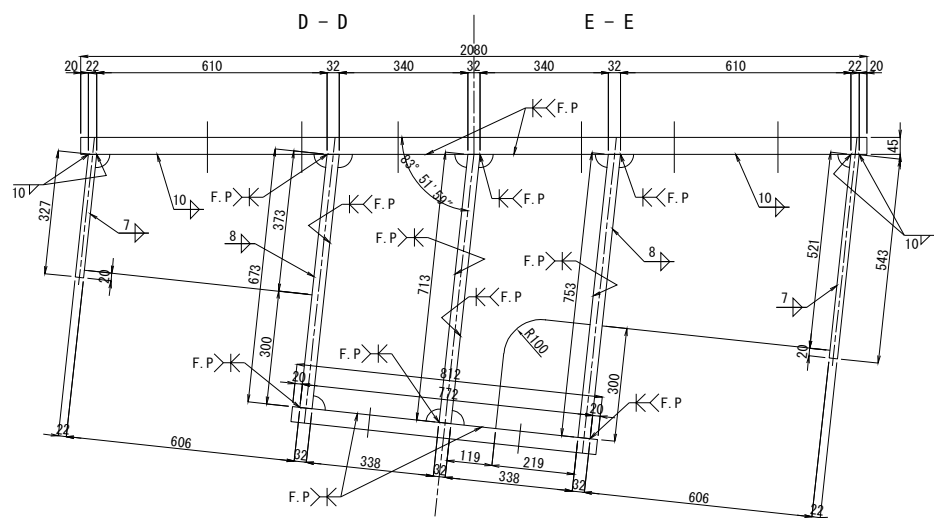
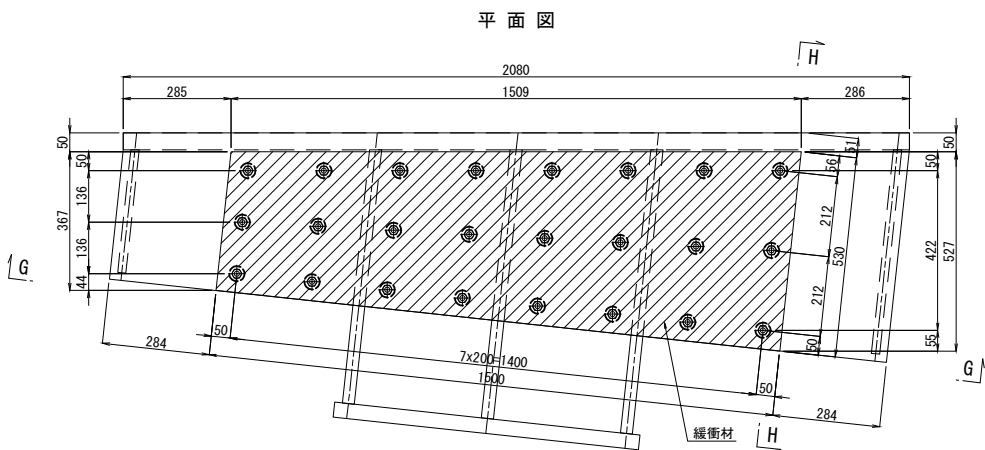
- 注記
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップはR35とする。
 - 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
 - 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。
但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZT49とする。)
 - アンカーボルトを配置する際には鉄筋検査を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	91 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500(±150)



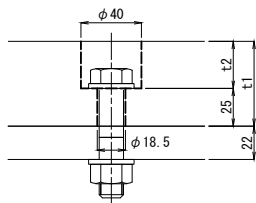
緩衝材取付部詳細



	DG2	G1	G2	G3
t1	63	63	62	61
t2	38	38	37	36
i (%)	2.4	2.4	2.2	2.1

〈新設部材〉
1組当たり材料 (製作数 : 4組)
24-BN M16 x85 (2-W) (22+25+35=82-L=85)
1-緩衝材 527 x t1 x1509(クロロブレンゴム 硬度55° ±5°)

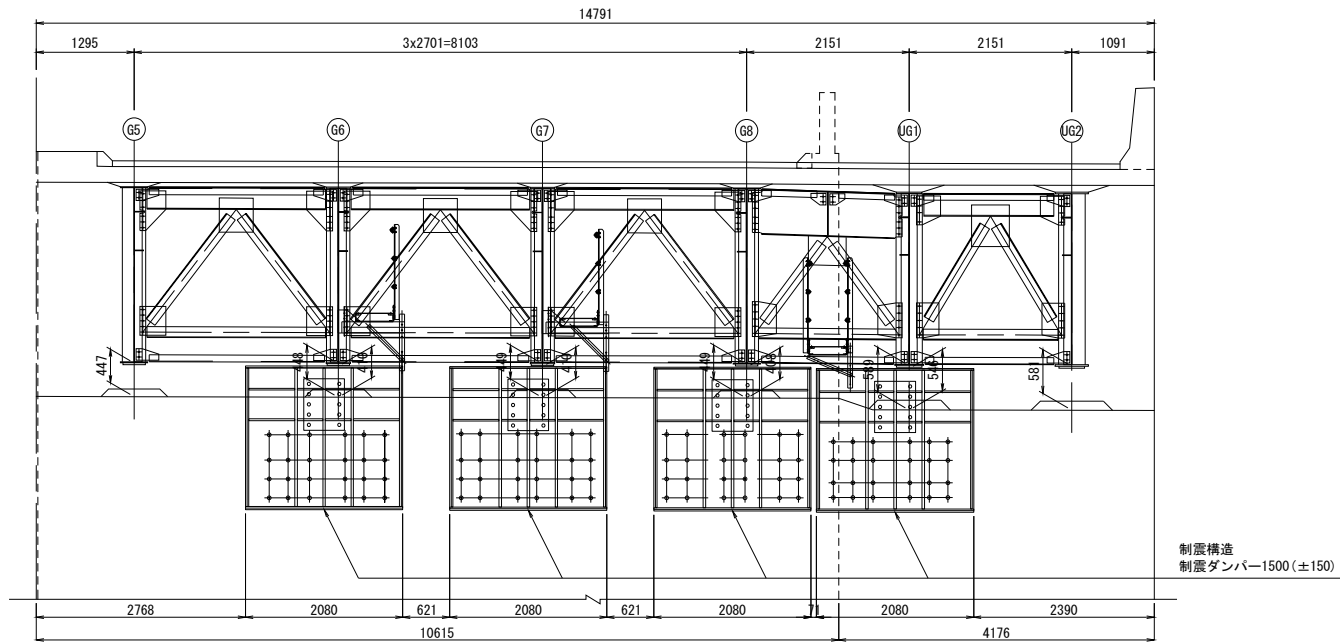
“a”部詳細 S=1:5



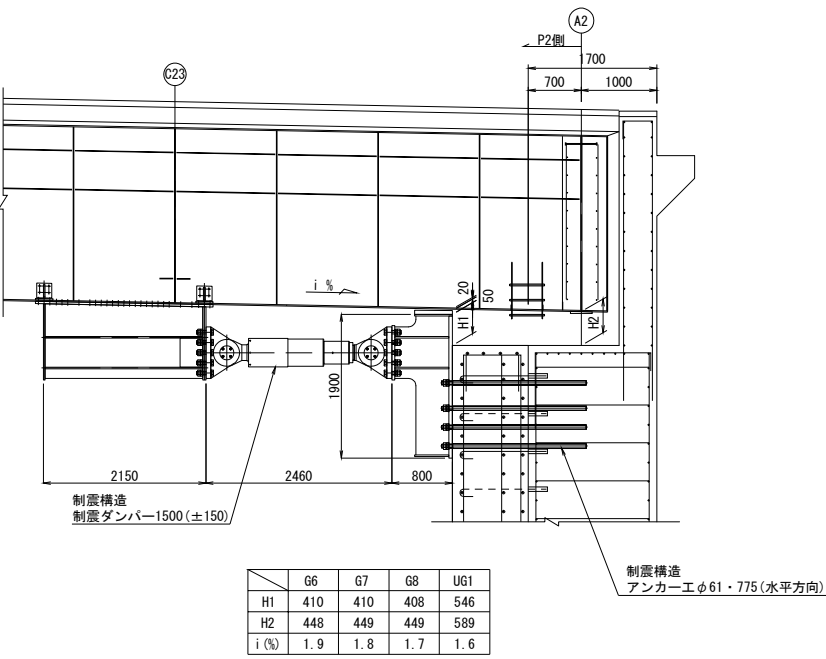
注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップはR35とする。
3. 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
4. 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。
但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZT49とする。)

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	92 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

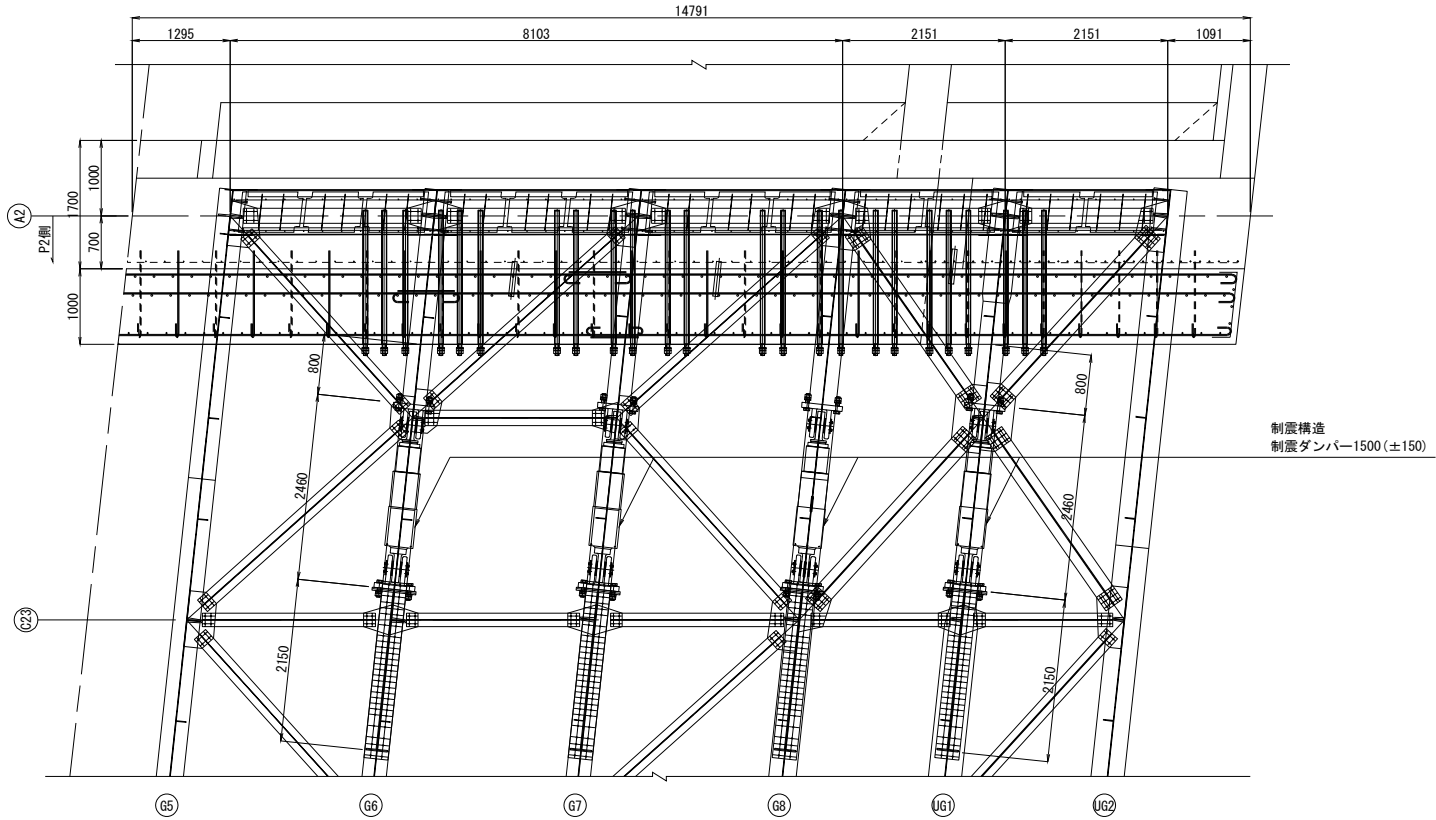
断面図



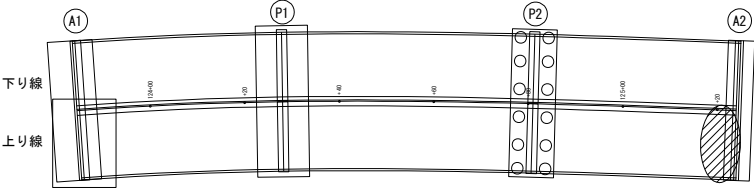
側面図



平面図



位置図

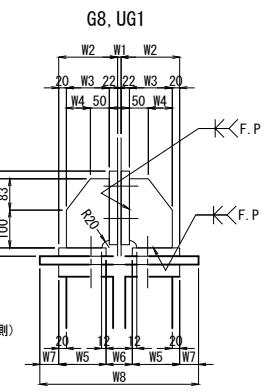
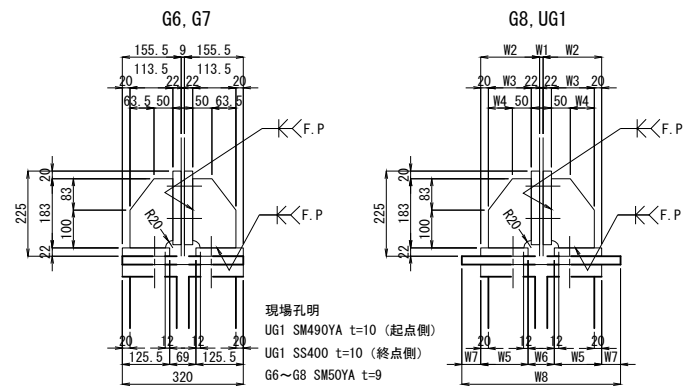
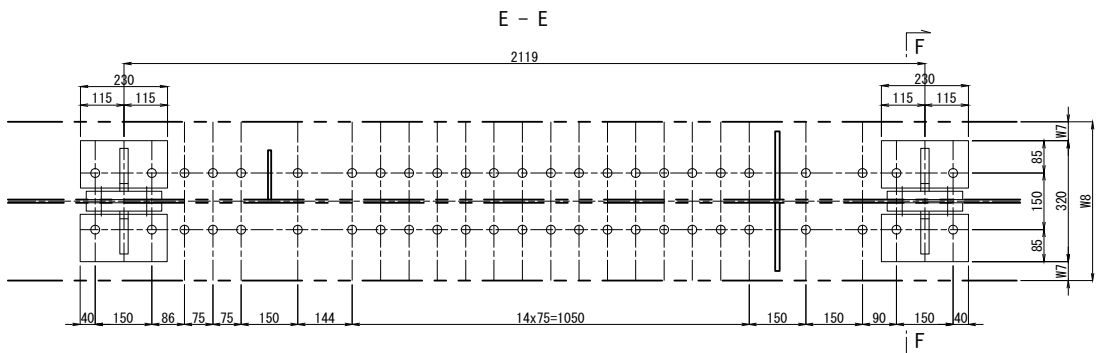
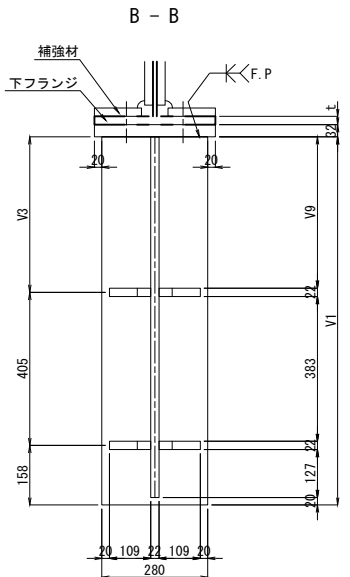
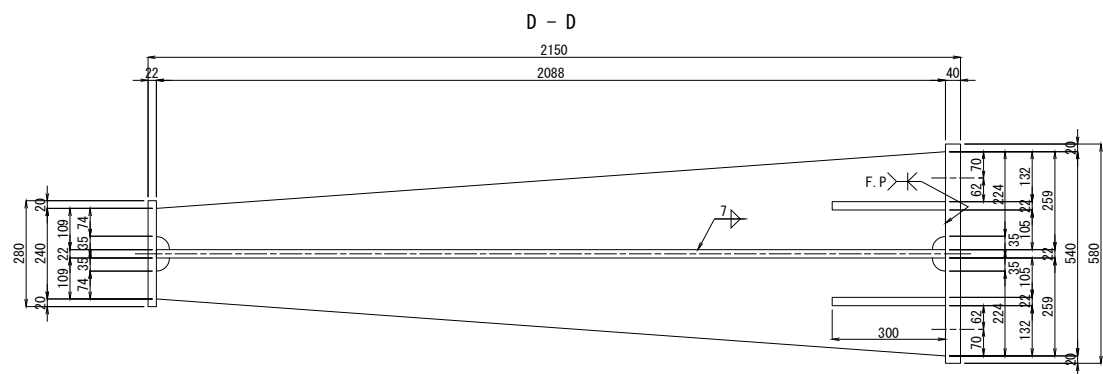
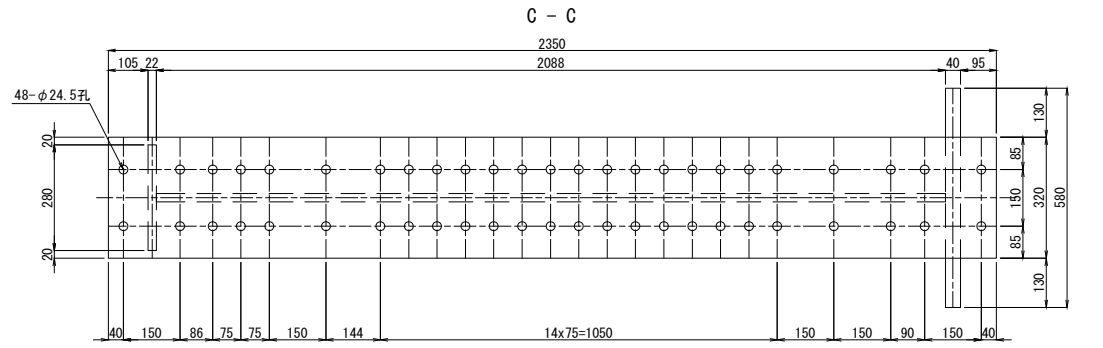
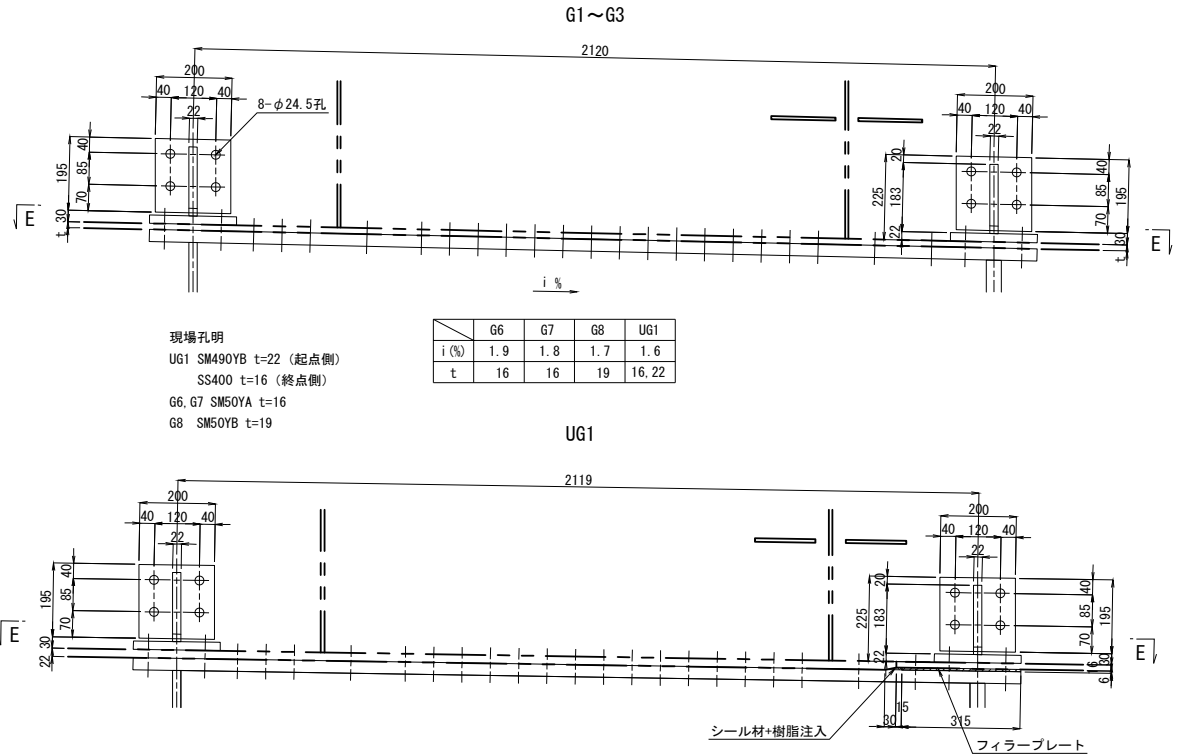
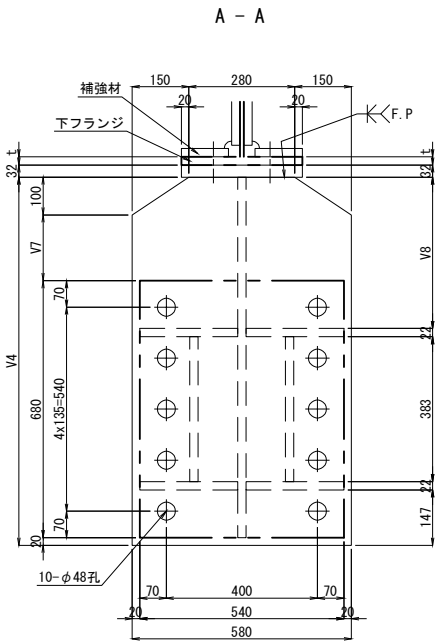
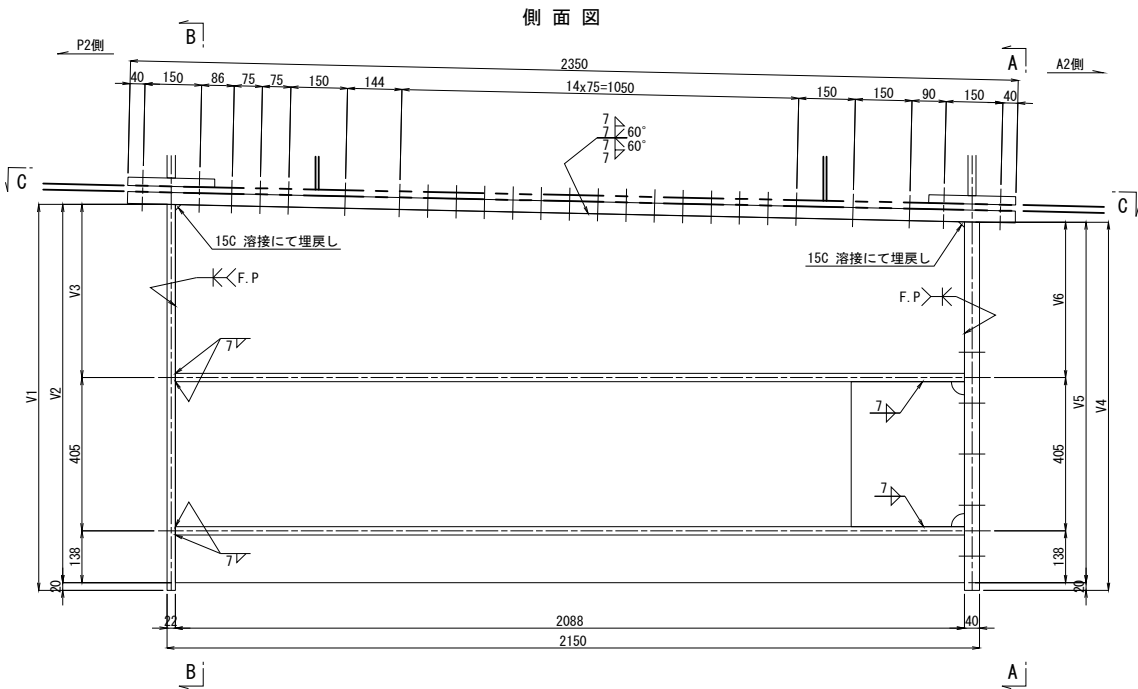


※制震ダンパーは段差防止構造を兼ねるものとする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 制震ダンパー配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	93 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500 (±150)
上部工付けブラケット詳細

上部工補強工 D
補強材詳細



	G6	G7	G8	UG1
V1	1008	1002	994	985
V2	988	982	974	965
V3	445	440	431	423
V4	967	964	958	951
V5	947	944	938	931
V6	405	402	395	389
V7	167	164	158	151
V8	393	390	384	377
V9	434	428	420	411
L1	110	110	115	120
L2	90	90	95	95

- 1組当たり材料 (製作数: 4組)
- 1 - BASE PL 320 x 32 x 2350 (SM490YB)
 - 1 - FLG PL V4 x 40 x 580 (SM490YB)
 - 1 - FLG PL 280 x 22 x V1
 - 1 - WEB PL V2 x 22 x 2088
 - 4 - RIB PL 259 x 22 x 2088
 - 2 - RIB PL 383 x 22 x 300
 - 8 - TCB M22 x L1 (S10T) (2-W付)
 - 42 - TCB M22 x L2 (S10T) (2-W付)

- 1組当たり材料 (製作数: 2組)
- 4 - BASE PL 200 x 22 x 195
 - 4 - BASE PL 126 x 22 x 230
 - 4 - RIB PL 114 x 22 x 183
 - 8 - TCB M22 x 90 (S10T)

- 1組当たり材料 (製作数: 2組)
- 4 - BASE PL 200 x 22 x 195
 - 4 - BASE PL W5 x 22 x 230
 - 4 - RIB PL W3 x 22 x 183
 - 8 - TCB M22 x 90 (S10T)

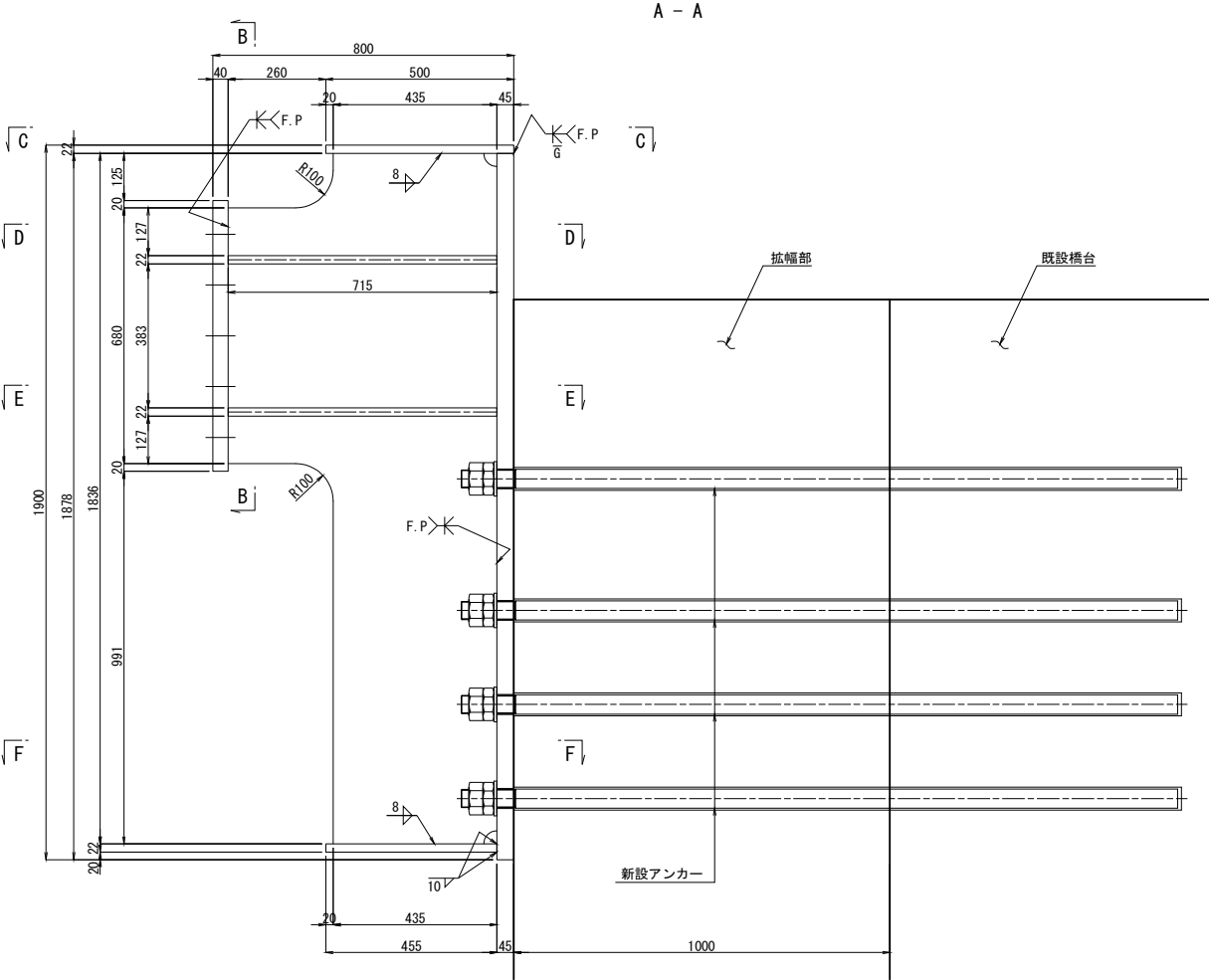
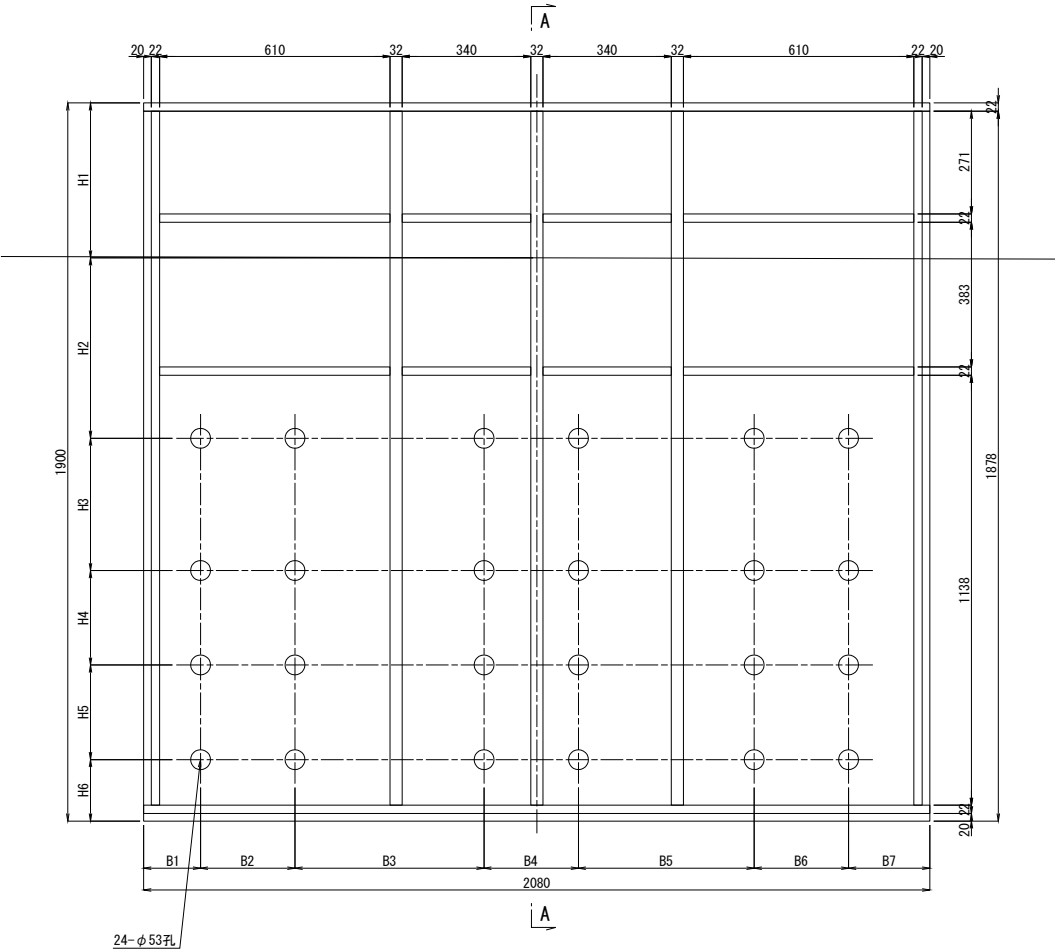
	G8	UG1
W1	9	10
W2	155.5	155
W3	113.5	113
W4	63.5	63
W5	125.5	125
W6	69	70
W7	20	60
W8	360	440

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップはR35とする。
 - 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
 - 上部工ブラケット、補強材はC5系塗装とする。

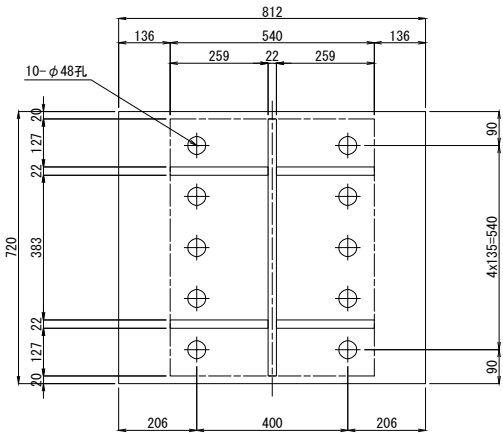
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	94 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500(±150)
下部工付けブラケット詳細

正面図

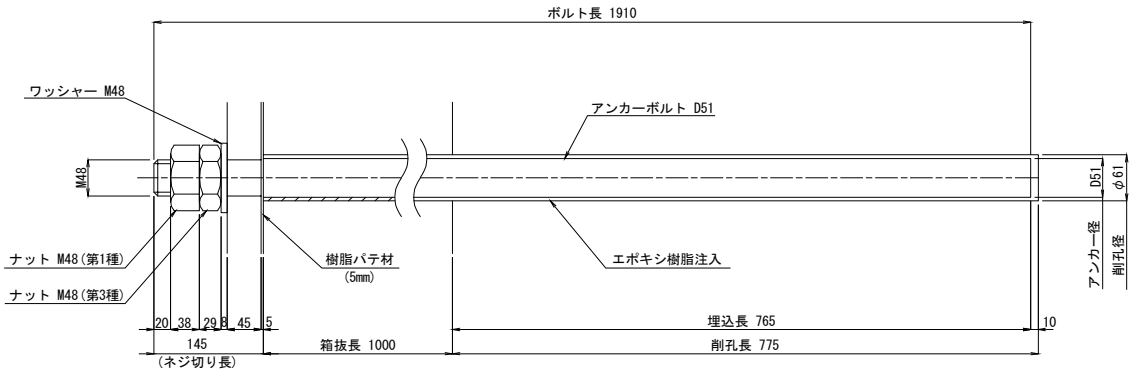


B - B



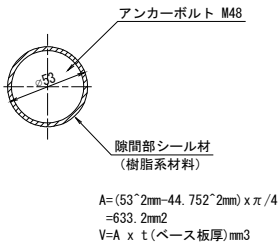
- 1組当たり材料 (製作数: 4組)
- 1 - BASE PL 1878 x 45 x 2080 (SM520C)
 - 1 - BASE PL 720 x 40 x 812 (SM490YB)
 - 1 - FLG PL 611 x 22 x 2068
 - 1 - FLG PL 566 x 22 x 2068
 - 1 - RIB PL 327 x 22 x 1836
 - 1 - RIB PL 675 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 715 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 755 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 543 x 22 x 1836
 - 2 - RIB PL 606 x 22 x 373
 - 1 - RIB PL 713 x 22 x 338
 - 1 - RIB PL 713 x 22 x 338 (切欠き有)
 - 1 - RIB PL 753 x 22 x 338
 - 1 - RIB PL 753 x 22 x 338 (切欠き有)
 - 2 - RIB PL 606 x 22 x 521
 - 24 - ANCHOR BOLT D51 x 1910 (SD345)
 - 24 - NUT M48 (第1種) (SS400)
 - 24 - NUT M48 (第3種) (SS400)
 - 24 - Washer M48 (SS400)

制震構造 アンカーエφ61・775 (水平方向) S=1:10

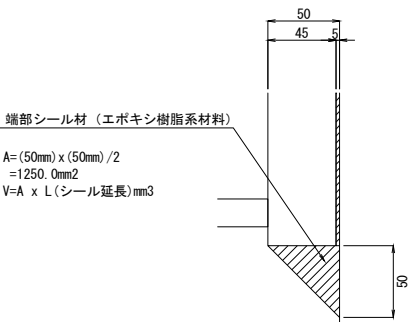


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

アンカーボルト孔周り詳細図 S=1:5



縁部シール材詳細図 S=1:5

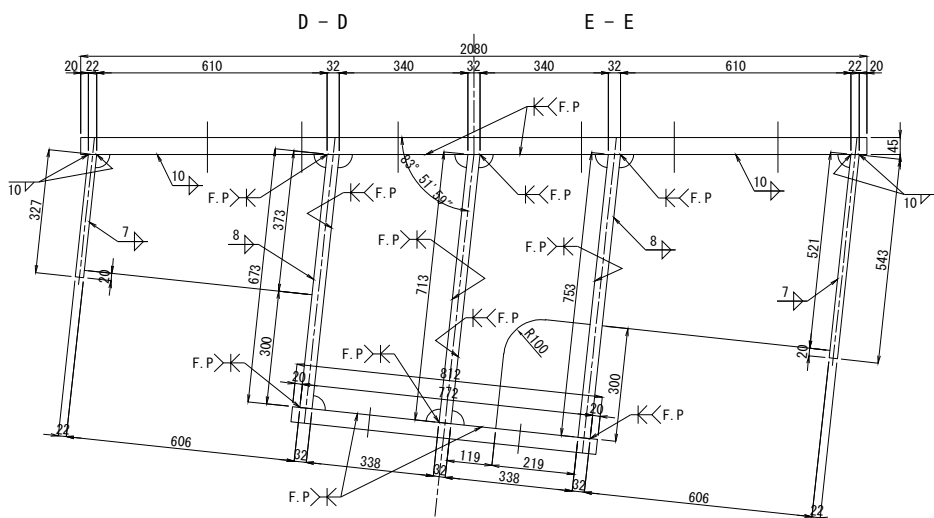
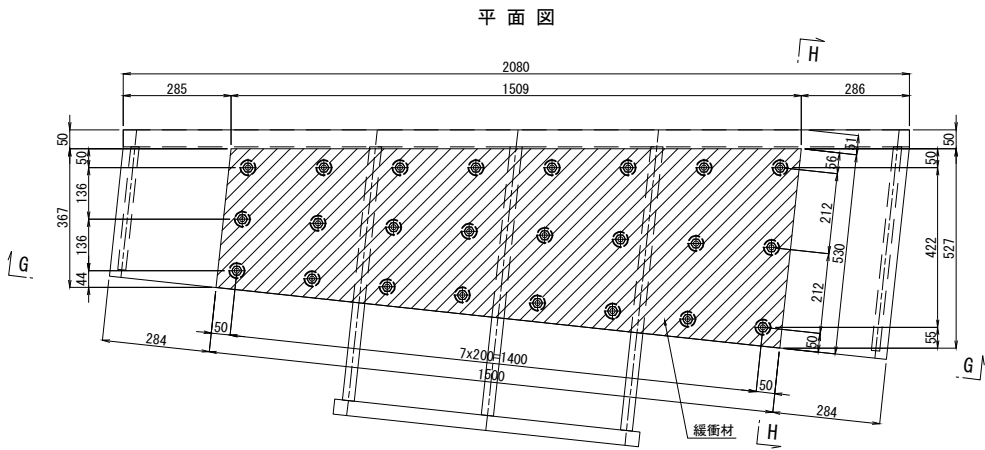
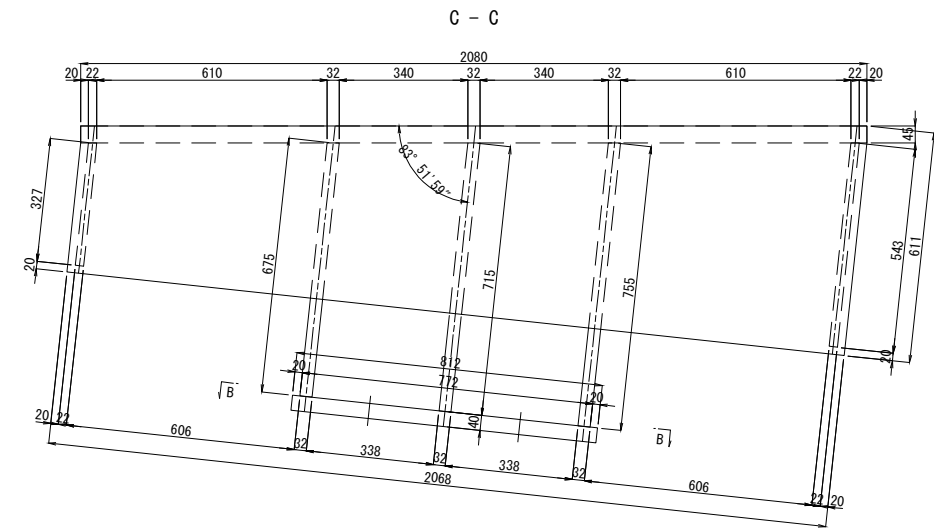


- 注記
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップはR35とする。
 - 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
 - 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(鋼厚は、JIS H8641 HDZ777とする。
但しボルト・ナット類の鋼厚は、HDZT49とする。)
 - アンカーボルトを配置する際には鉄筋検査を行い、
既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	95 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500(±150)

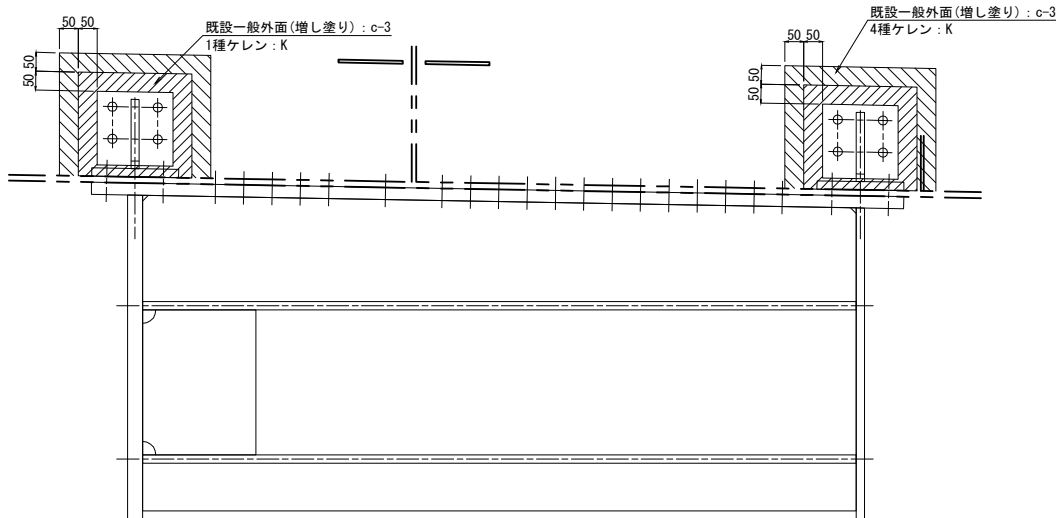
緩衝材取付部詳細



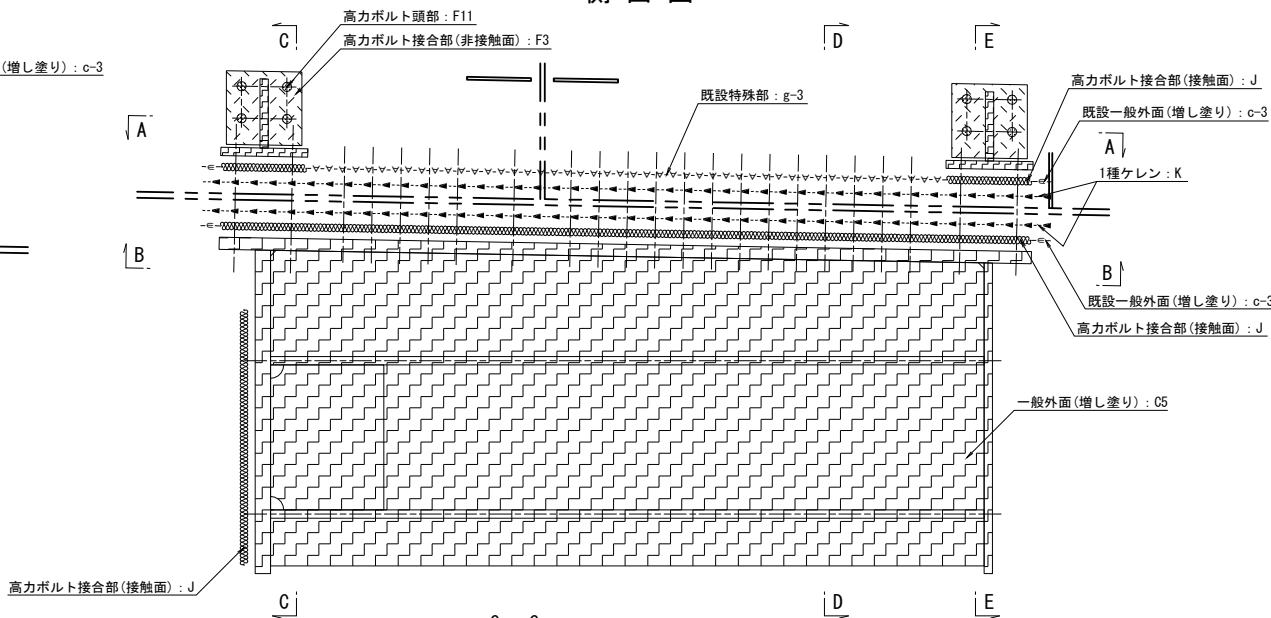
釜利谷第二高架橋 制震ダンパー取付け部塗分け区分図

制震構造 制震ダンパー1500(±150)
上部工付けブラケット

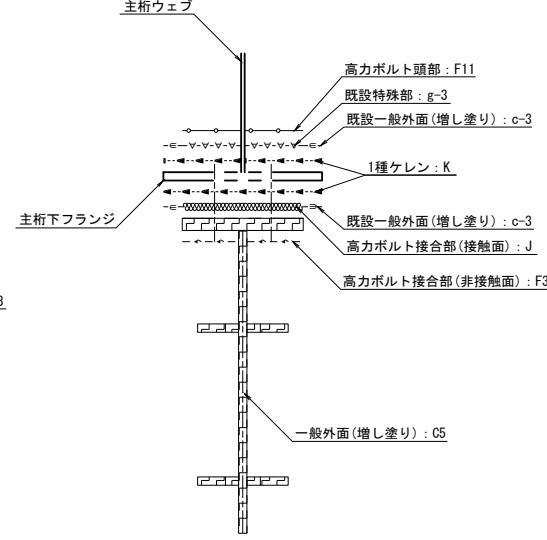
側面図



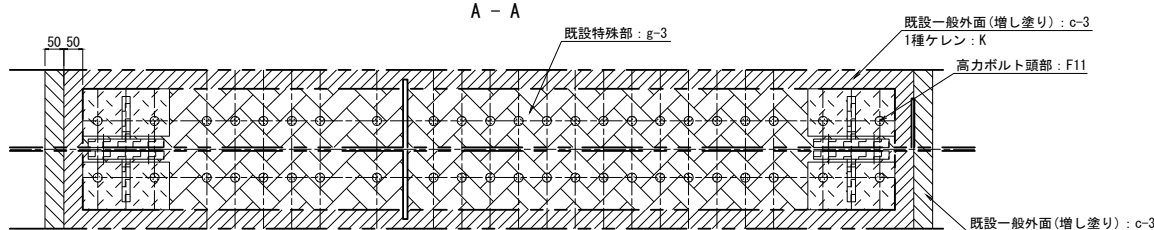
側面図



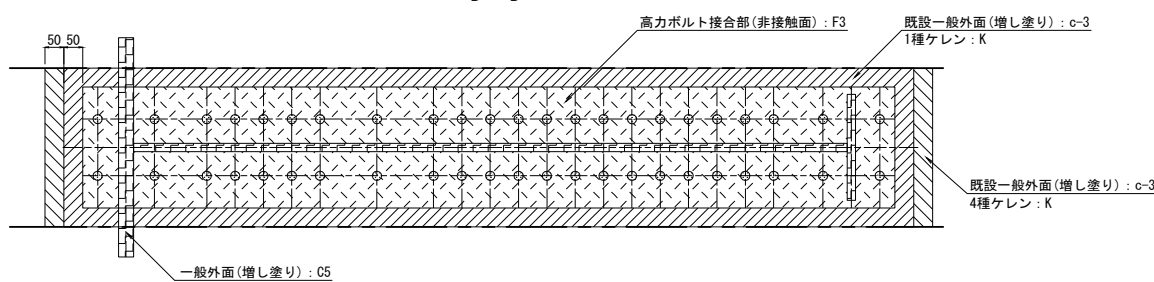
D-D



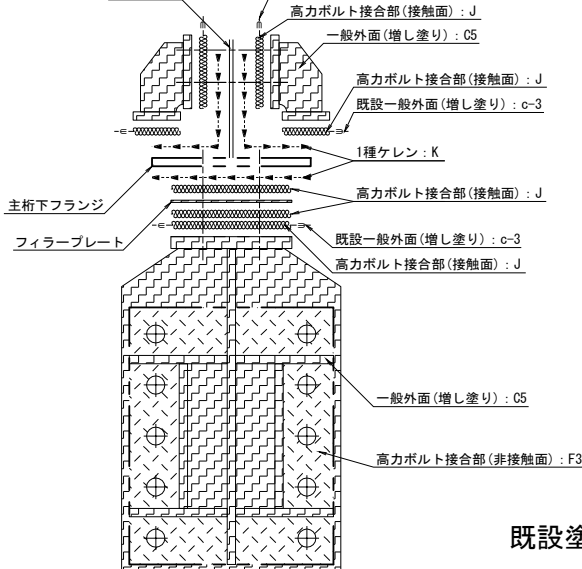
A-A



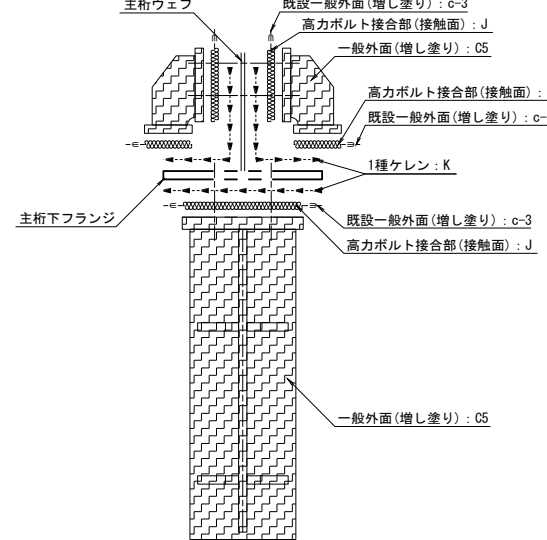
B-B



C-C

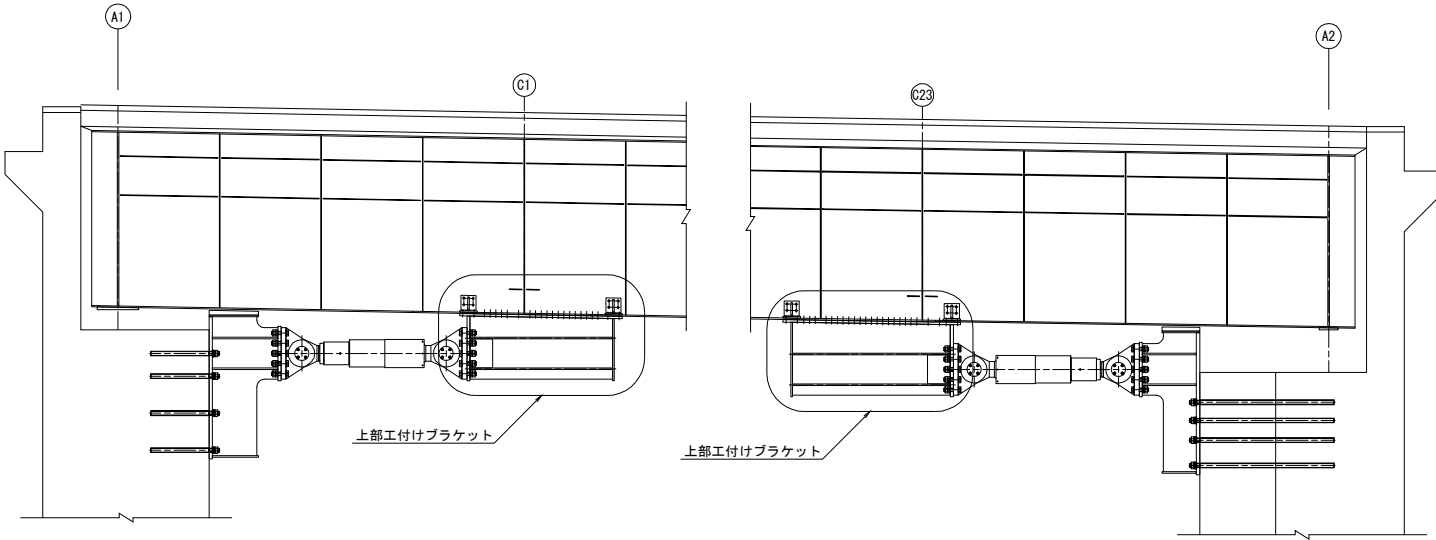


E-E

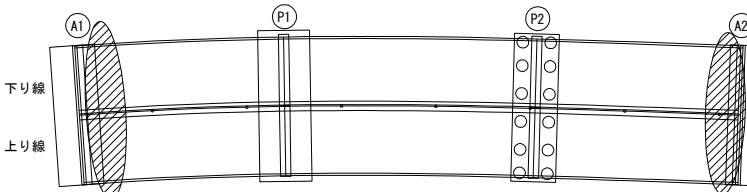


既設塗膜との境界部の処理 S=1:4

配置図



位置図



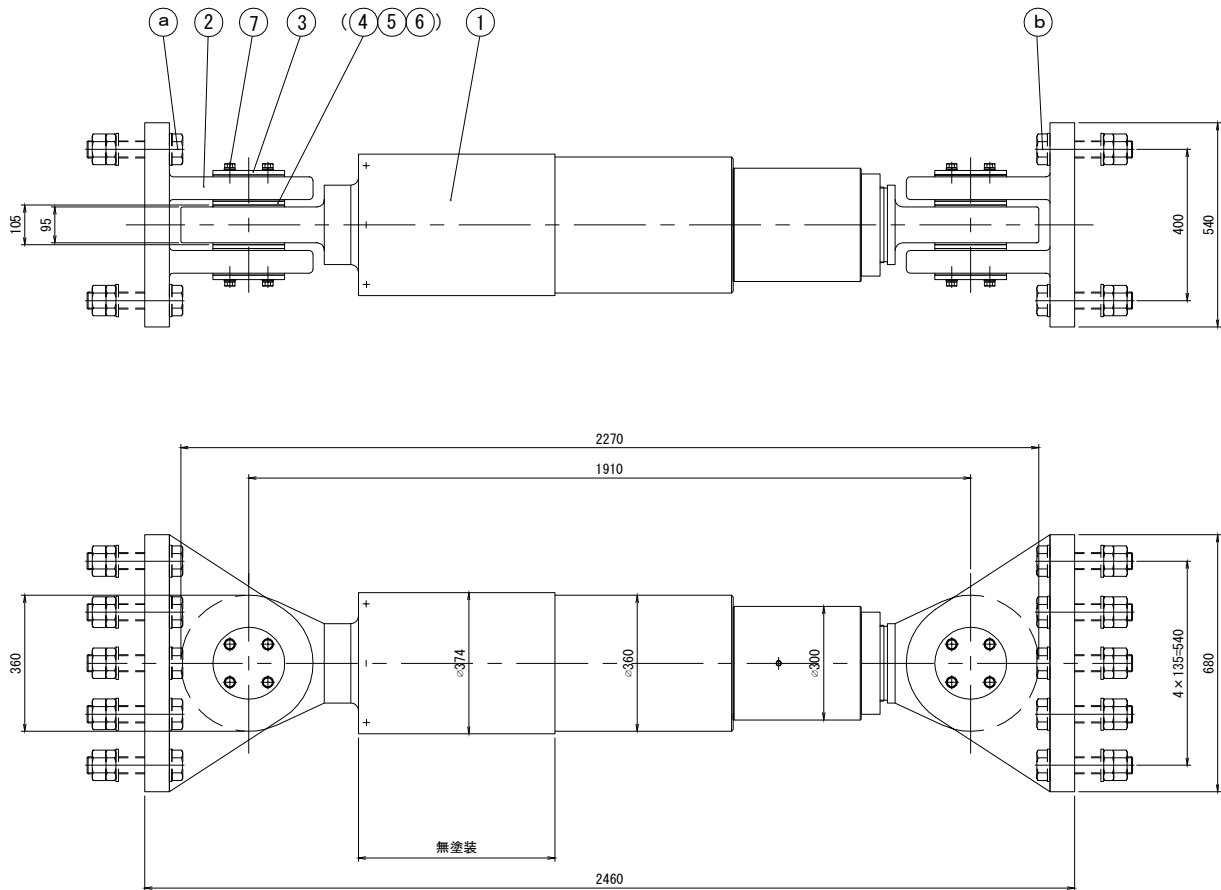
凡例

一般外面(増し塗り)	C5	: ~~~~~	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	: - - - - -	
高力ボルト頭部	F11	: ○ ○ ○	
高力ボルト接合部(接触面)	J	: ■ ■ ■	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	: ▨ ▨ ▨	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	: ▩ ▩ ▩	
既設特殊部	g-3	: ▧ ▧ ▧	
1種ケレン	K	: ▤ ▤ ▤	

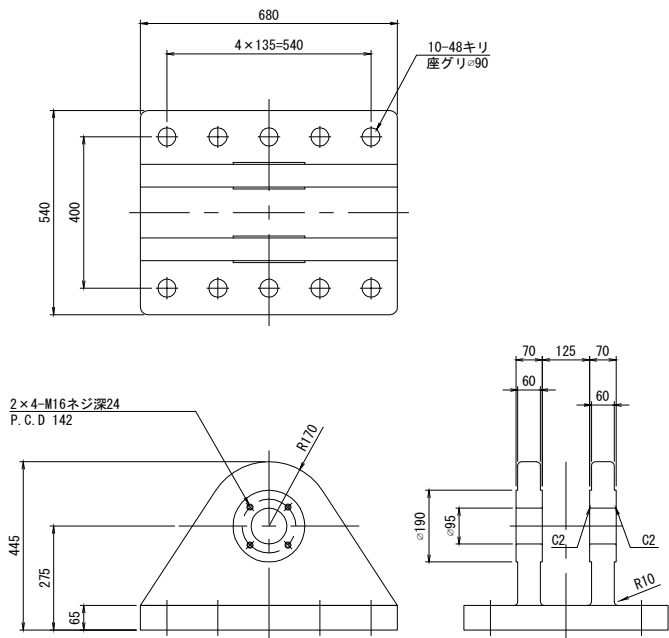
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 制震ダンパー取付け部塗分け区分図		
縮 尺	図 示	図面番号	97 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500 (±150)
(参考図)

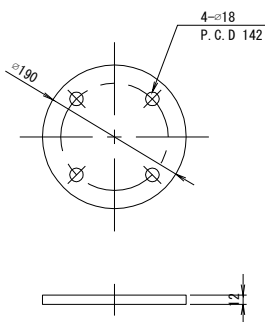
① 制震ダンパー



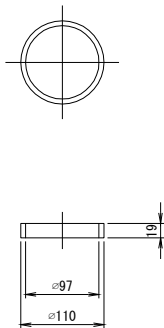
② ニ山クレビス



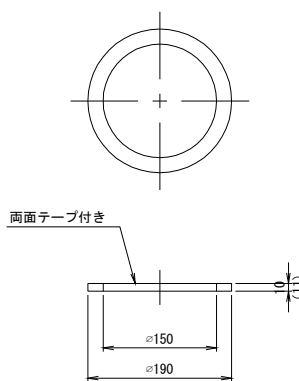
③ カバープレート S=1:10



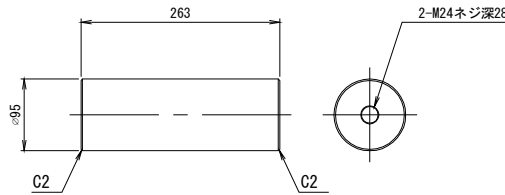
④ カ ラ ー S=1:10



⑤ 球面軸受パッキン S=1:10



⑥ ピ ン S=1:10



⑦ 六角ボルト 中 M16×40
(1-ばね座金, 平座金)

8.8

材料表

部番	部 品 名 称	材 質	個数	質量 (kg)	備 考
⑦	六角ボルト・ナット	-	10		JIS B 1180 JIS B 1181 (2-平座金)
⑧	六角ボルト・ナット	-	10		JIS B 1180 JIS B 1181 (2-平座金)

注5) 特に指定なき場合、○印は溶融亜鉛メッキ仕様とする。

- ⑦ 六角ボルト 中 M45× 8.8
六角ナット 中 M45 8 (1種, 3種)
(2-平座金)
⑧ 六角ボルト 中 M45× 8.8
六角ナット 中 M45 8 (1種, 3種)
(2-平座金)

注6) ⑦ ⑧の六角ボルトをねじ込み固定の際は、平座金、ばね座金各1枚使用を推奨。

規格表

ダンパー仕様				
抵抗 力	F	1500 kN		
ス ト ロ ーク	δ	± 150 mm		
鋼製部材設計力	P	1950 kN		
移 動 量				
L2地震時最大変位	δ_e	± 92 mm		
片温度変化移動量	Δt	± 13 mm		
施工誤差吸収量	δ_o	± 15 mm		

注) ストロークは
L2地震時最大移動量+片温度変化移動量+施工誤差吸収量以上を
確保することを基本とする。

材料表

部番	部 品 名 称	材 質	個数	質量 (kg)	備 考
①	制震ダンパー	-	1	1002.5	
②	ニ山クレビス	SCW480N またはSCW480A	2	655.4	
③	カバープレート	SS400	4	10.3	
④	カ ラ ー	SS400	4	1.3	
5	球面軸受パッキン	クロロブレンス ポリシヨム	4	0.1	
6	ピン	SUS630	2	28.8	
⑦	六角ボルト	-	16	1.9	JIS B 1180 (1-ばね座金, 平座金)
				1700.3	(kg)

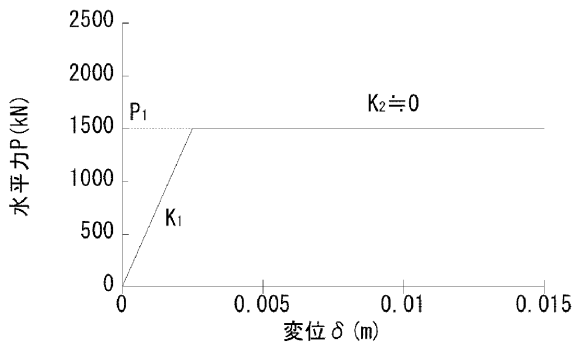
注1) △印は塗装仕様、○印は溶融亜鉛メッキ仕様とする。

注2) 上部工とダンパー本体を結ぶ上部工架台および下部工とダンパー本体を結ぶ下部工架台は、⑦⑧六角ボルト締付け完了後に上下部工架台と上下部工を本固定すること。

注3) ダンパー本体長さ寸法は、ストローク中立位置 (伸びる側にも縮む側にも、表記ストローク値だけ伸縮可能なセンター位置) での長さ寸法。

1) 制震ダンパー特性図

・1500kN<摩擦履歴型>

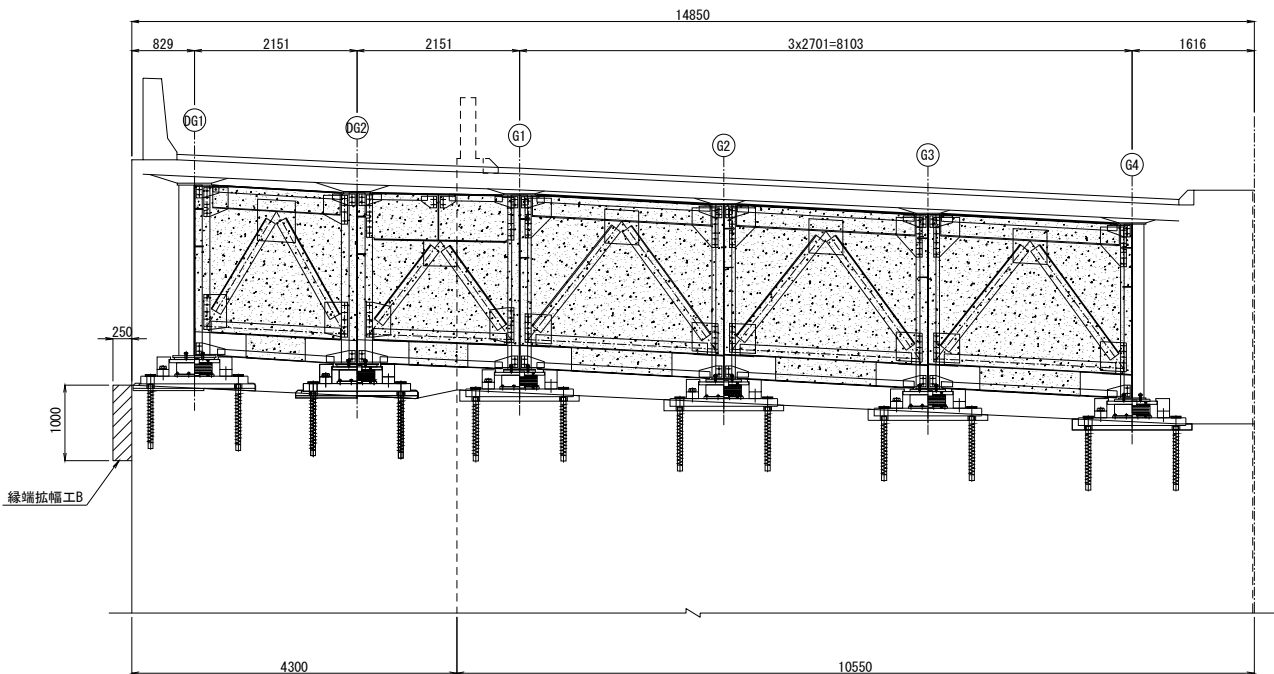


K1 (kN/m)	600000.00
P1 (kN)	1500.00

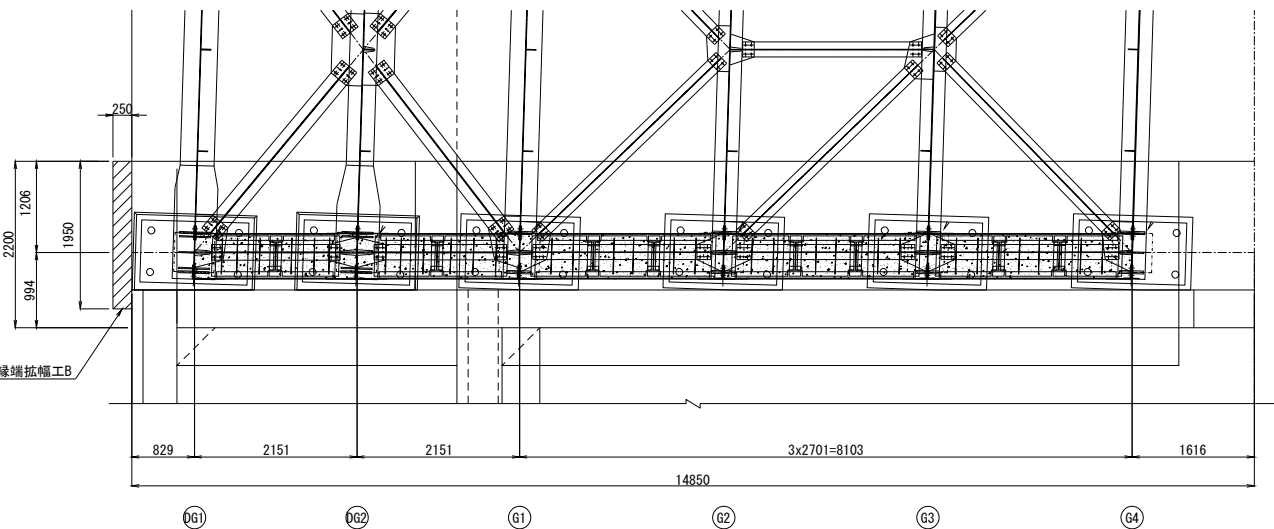
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷第二高架橋 制震ダンパー詳細図			
縮 尺	図 示	図面番号	98 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

橋軸直角方向

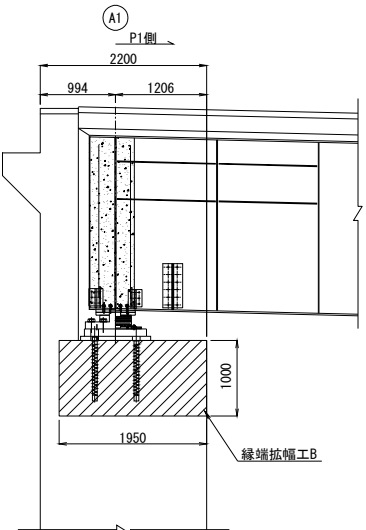
断面図



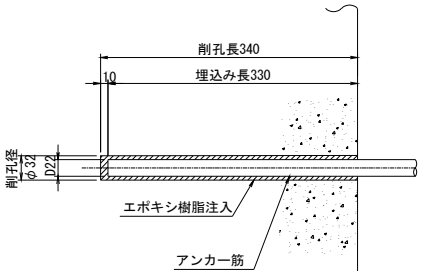
平面図



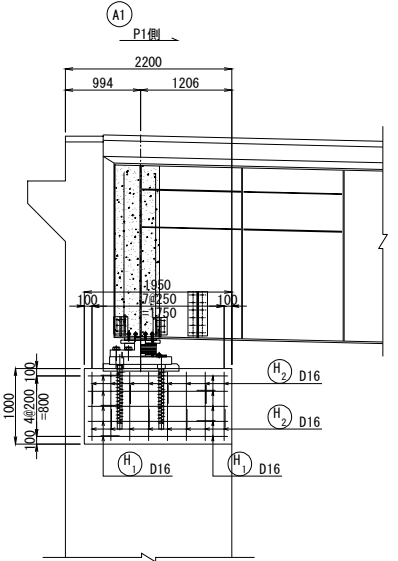
側面図(拡幅部①)



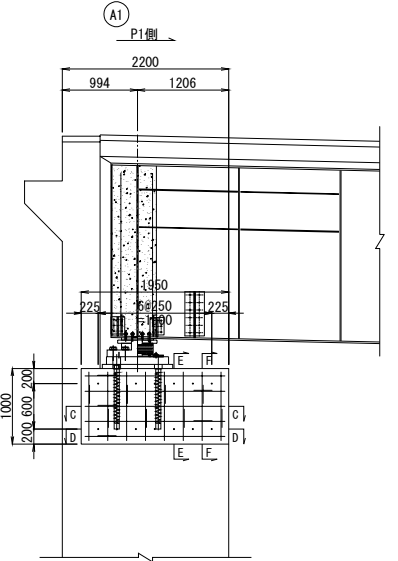
縁端拡幅工B
アンカーエφ32・340(水平方向) 縮尺 1:10



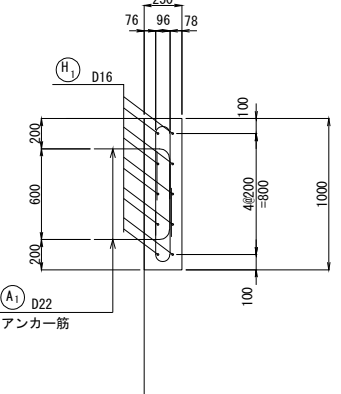
A - A



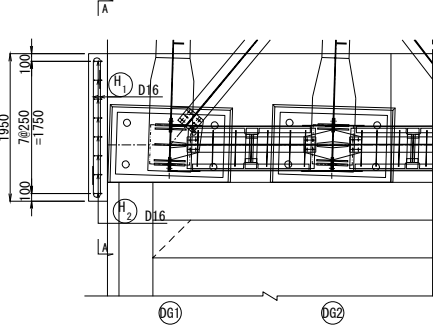
B - B



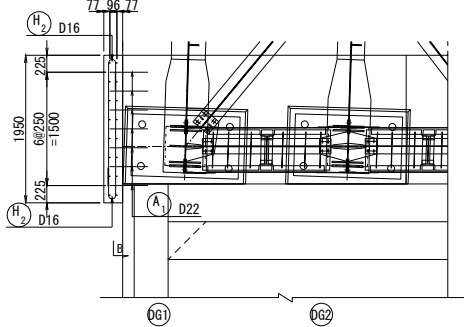
E - E 縮尺 1:50



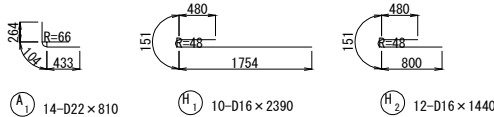
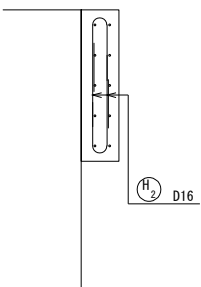
C - C



D - D



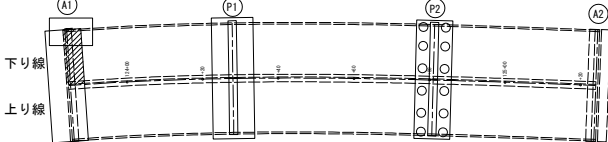
F - F 縮尺 1:50



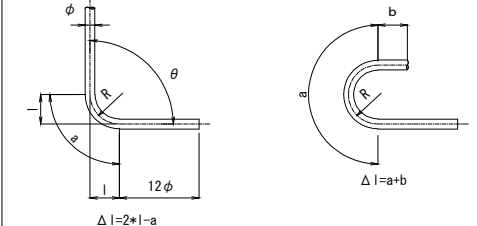
縁端拡幅工B
鉄筋

鉄筋質量表						
種別	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量
	(mm)	(mm)		(kg/m)	(kg)	(kg)
A 1	D22	810	14	3.04	2.46	34
H 1	D16	2390	10	1.56	3.73	37
H 2	D16	1440	12	1.56	2.25	27
小計						98 kg
鉄筋質量合計						
				D22	34 kg	
				D16	64 kg	
				合計	98 kg	

位置図



鉄筋加工寸法表



φ	θ=90°				θ=180°			
	R	a	Δ l		R	a	b	Δ l
D13	39	61	17		39	122	120	242
D16	48	75	21		48	151	128	279
D19	57	89	25		57	179	152	331
D22	66	104	28		66	207	176	383
D25	75	118	32		75	236	200	436
D29	87	137	37		87	273	232	505
D32	96	151	41		96	301	256	557
D35	105	165	45		105	330	280	610
D38	114	179	49		114	358	304	662
D51	153	240	66		153	480	408	888

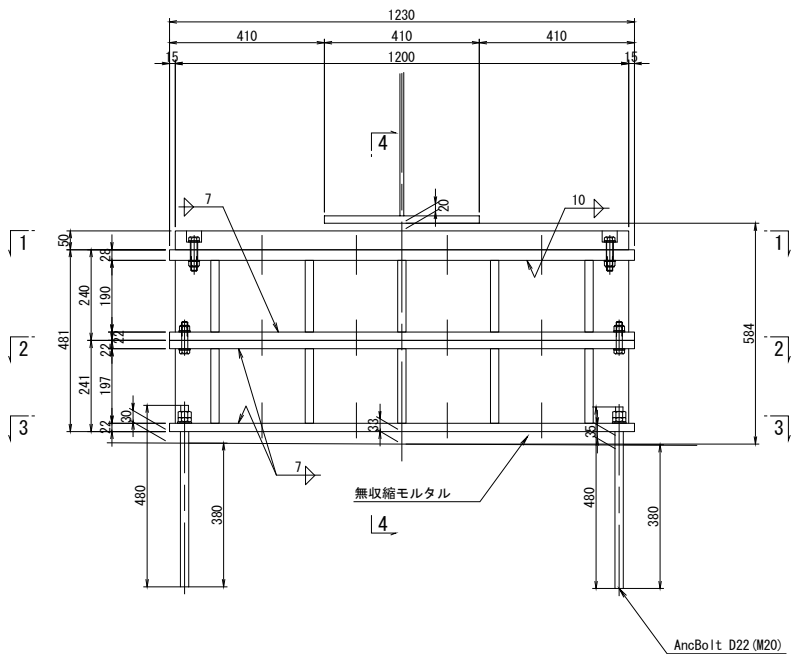
- 注記)
1. 施工の際には、現場計測を行うこと。
 2. 施工にあたっては事前に鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しないようにすること。
 3. 施工数量は、現場計測後に監督員と協議の上決定すること。
 4. 支保アンカーの位置が変更となった場合は、必要支保縁端距離を確保できるよう寸法の変更を行うこと。
 5. アンカーピッチは7.5d以上かつ300mm以下。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 縁端拡幅工B		
縮 尺	図 示	図面番号	99 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

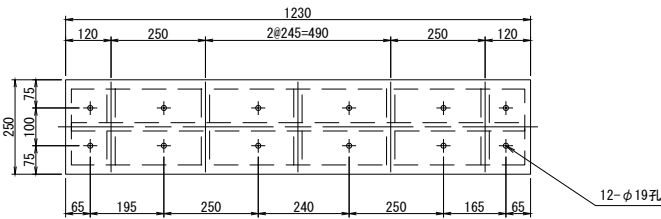
横濱横須賀道路 金利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金利谷第二高架橋 A2橋台（下り線） 緑端拡幅工B		
縮 尺	図 示	図面番号	100 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

正面図

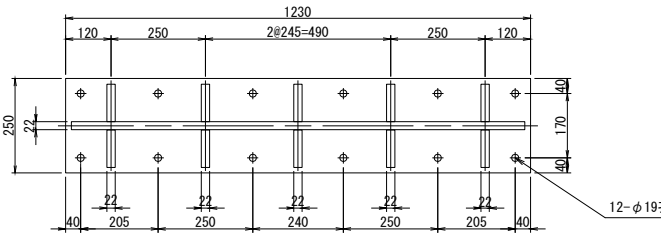
(W=1230mm)



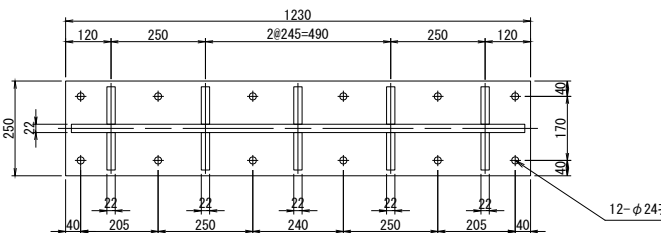
1-1



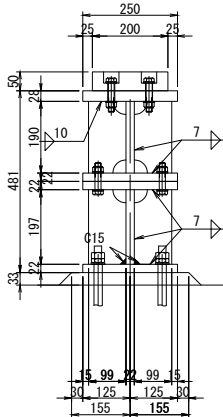
2-2



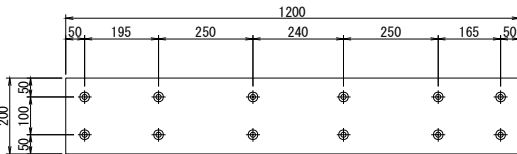
3-3



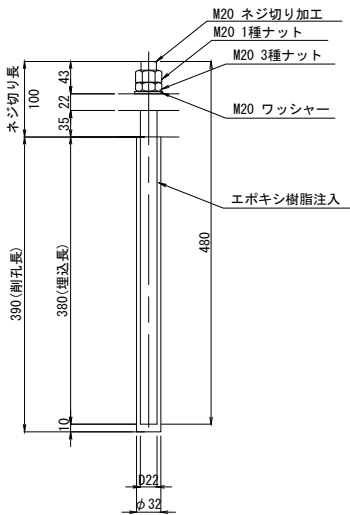
4-4



緩衝ゴム詳細



段差防止構造M
アンカーエ φ32・390（下方向） S=1:10

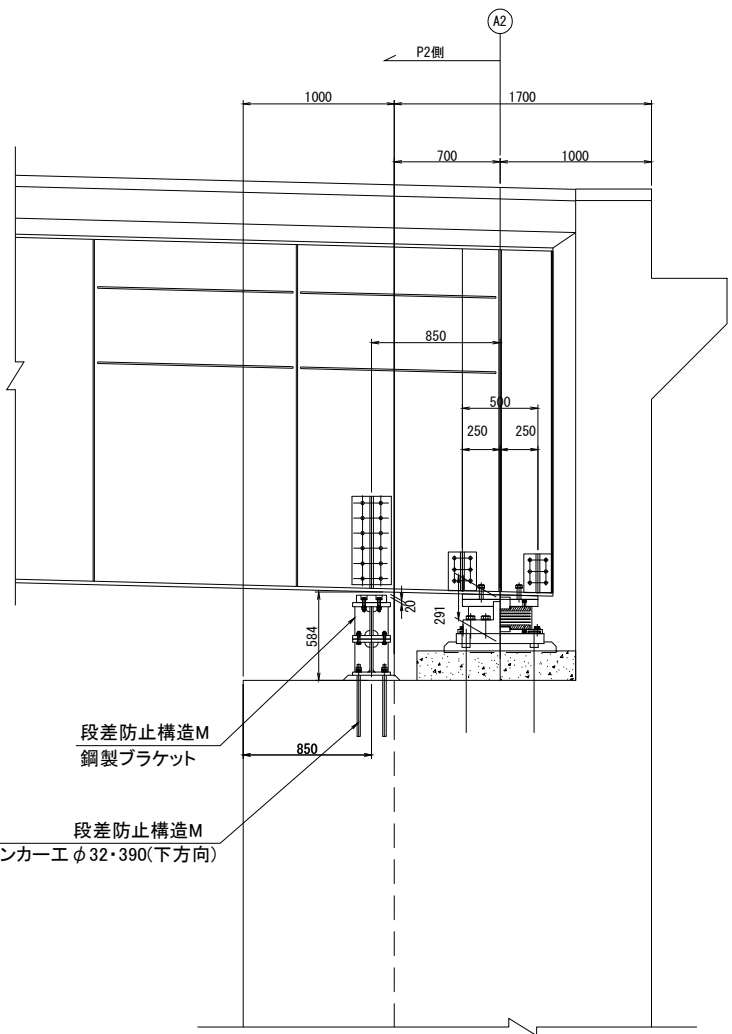


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

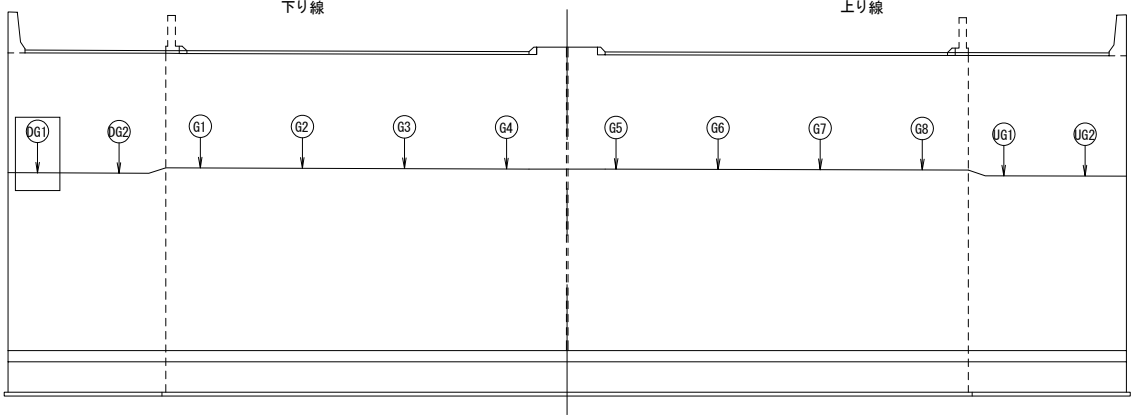
1基当り（製作数：1）

- 1-クロロブレンゴム 200x50x1200(硬度55 ±5°)
12-BN M16x90 (1-Uナット、2-W) (SS400)
1-Fig PL 250x28x1230 (SM490Y)
3-Fig PL 250x22x1230
1-Web PL 190x22x1200
1-Web PL 197x22x1200
10-PL 99x22x190
10-PL 99x22x197
12-BN M16x85 (1-Uナット、2-W) (SS400)
12-Anc Bolt D22x480 (SS400)
12-1種 Nut M20用 (SS400)
12-3種 Nut M20用 (SS400)
12-座金 M20用 (SS400)

配置図 側面図(DG1) S=1:50



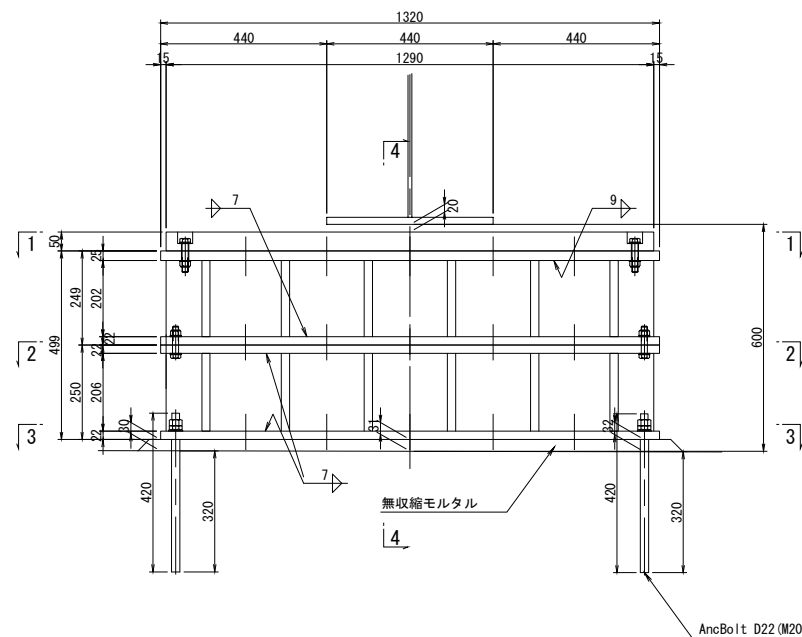
配置図 S=1:200



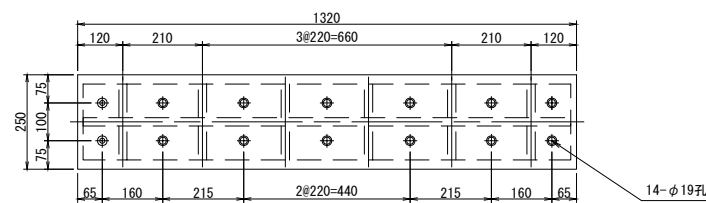
- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM400A とする。
2. 本図の既設構造物の寸法は、完成図を基に作図を行っている。
3. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 下部工付部材は全て溶融亜鉛メッキを施し、付着量は JIS H8641 による。
標準付着量は、鋼材：HDZ177 ナット、ワッシャーおよびアンカーボルト類：HDZ149とする。
5. 特記なきスカーラップは全て35Rとする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台（下り線） 段差防止構造詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	101 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

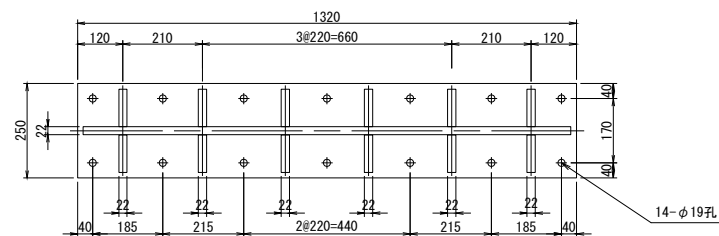
正面図



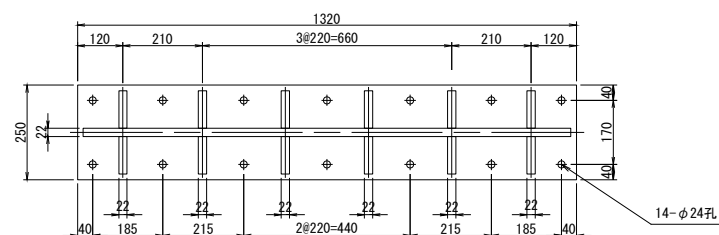
1-1



2-2

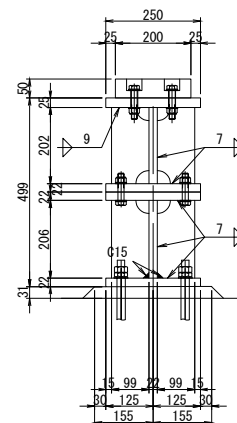


3-3

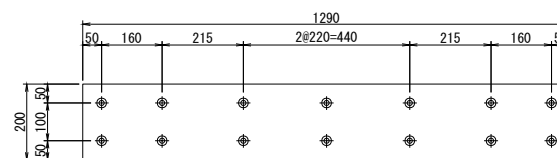


(W=1320mm)

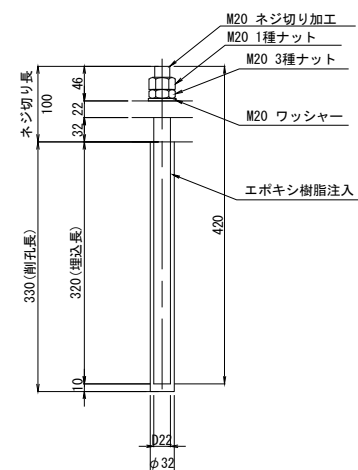
4-4



緩衝ゴム詳細



段差防止構造M
アンカー工 $\phi 32 \cdot 330$ (下方向) S=1:10

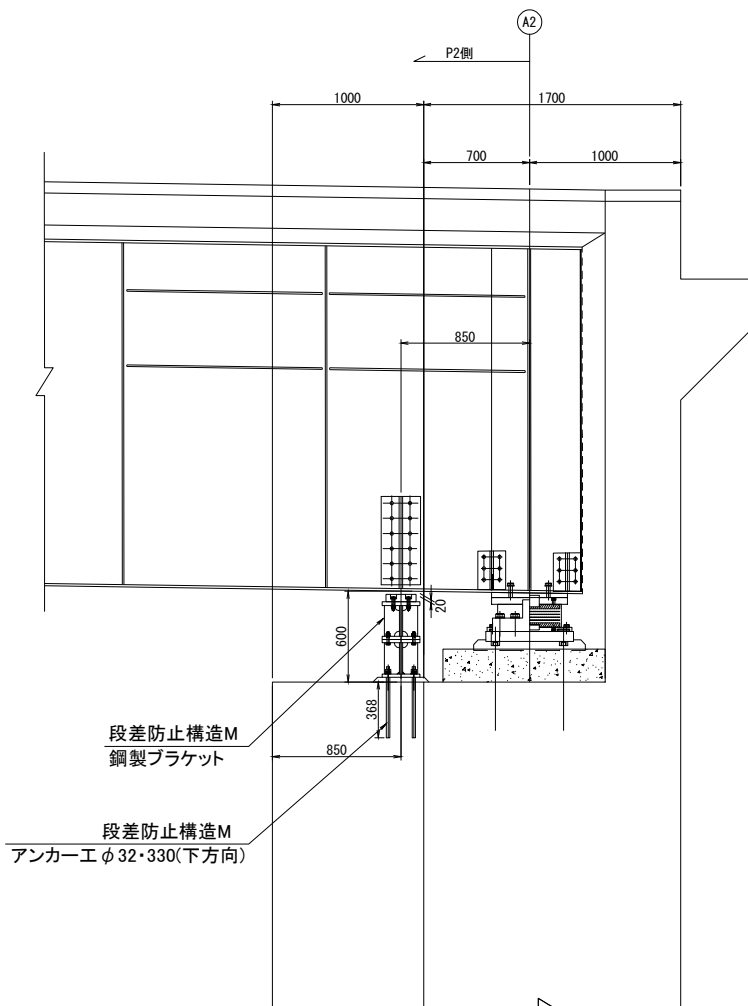


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

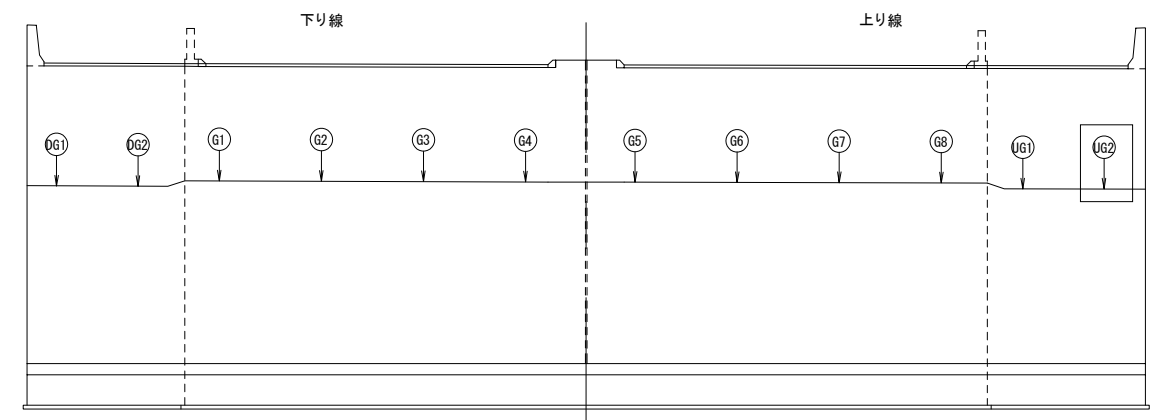
1基当り(製作数: 1)

1-クロロブレンゴム 200x50x1290 (硬度55 ±5°)
 14-BN M16x90 (1-Uナット、2-ワ) (SS400)
 1-Fig PL 250x22x1320 (SM490Y)
 3-Fig PL 202x22x1290
 1-Web PL 206x22x1290
 12-PL 99x22x202
 12-PL 99x22x206
 14-BN M16x85 (1-Uナット、2-ワ) (SS400)
 12-A Bolt 22x120 (SD345)
 14-1種 Nut M20用 (SS400)
 14-座金 M20用 (SS400)

配置図 側面図(UG2) S=1:50



配置図 S=1:200



注記)

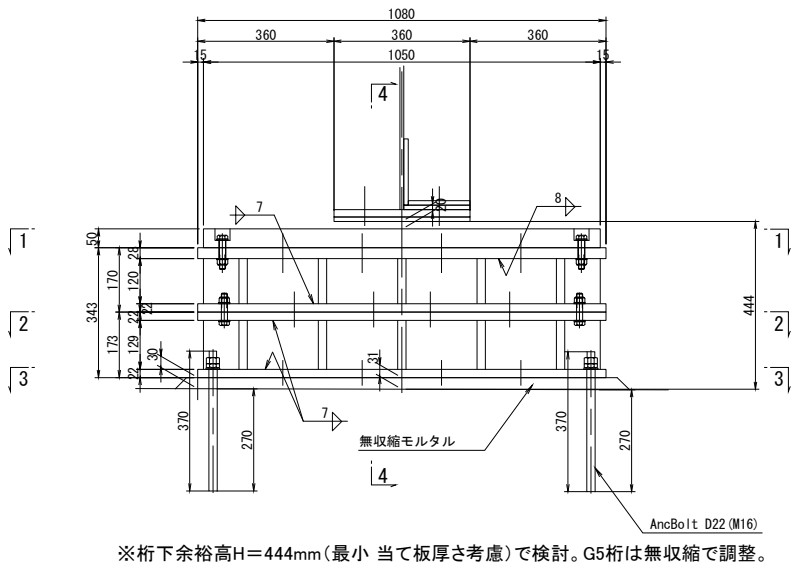
1. 特記なき材質は全てSM400A とする。
2. 本図の既設構造物の寸法は、完成図を基に作図を行っている。
3. 材部加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 下部工付部材は全て溶融亜鉛メッキを施し、付着量は JIS H8641 による。
- 標準付着量は、鋼材：HDZT77 ナット、ワッシャーおよびアンカーボルト類：HDZT49 とする。
5. 特記なきスカープ材は全て35Rとする。

<p>横浜横須賀道路 金谷谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
図面の種類	<p>金谷谷第二高架橋 A2橋(上り線) 段差防止構造詳細図</p>		
縮 尺	図 示	図面番号	102 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	<p>東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所</p>		

(W=1080mm)

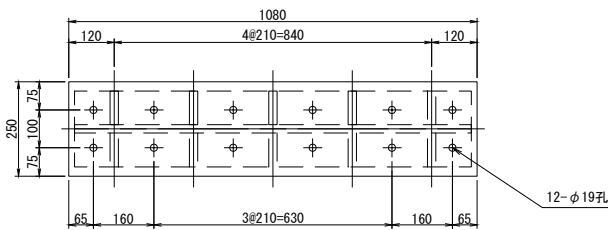
配置図 側面図(G4) S=1:50

正面図

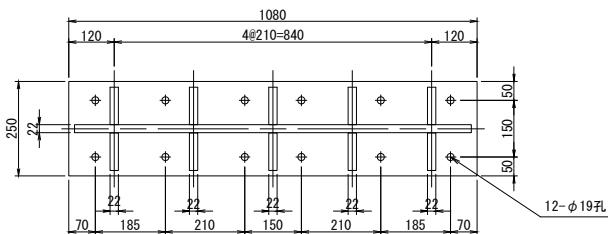


※桁下余裕高H=444mm(最小 当て板厚を考慮)で検討。G5桁は無収縮で調整。

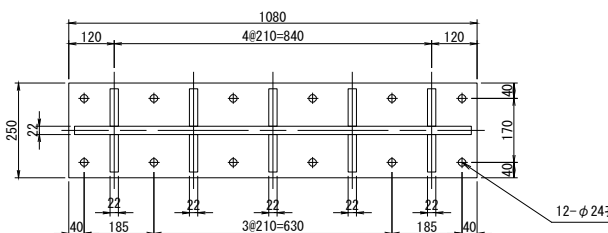
1-1



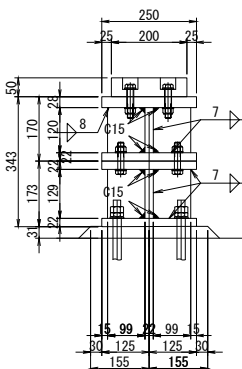
2-2



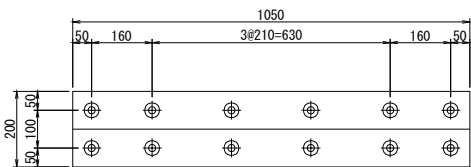
3-3



4-4



緩衝ゴム詳細

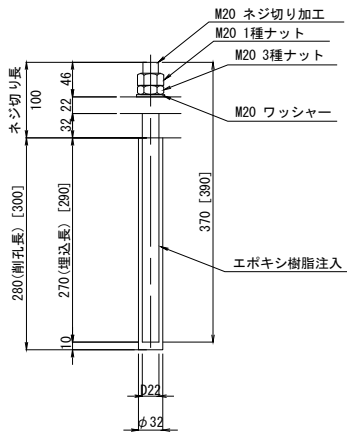


段差防止構造M
アンカーエ φ32・280(下方向)

段差防止構造M
アンカーエ φ32・300(下方向)

[]内はG5寸法

S=1:10



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

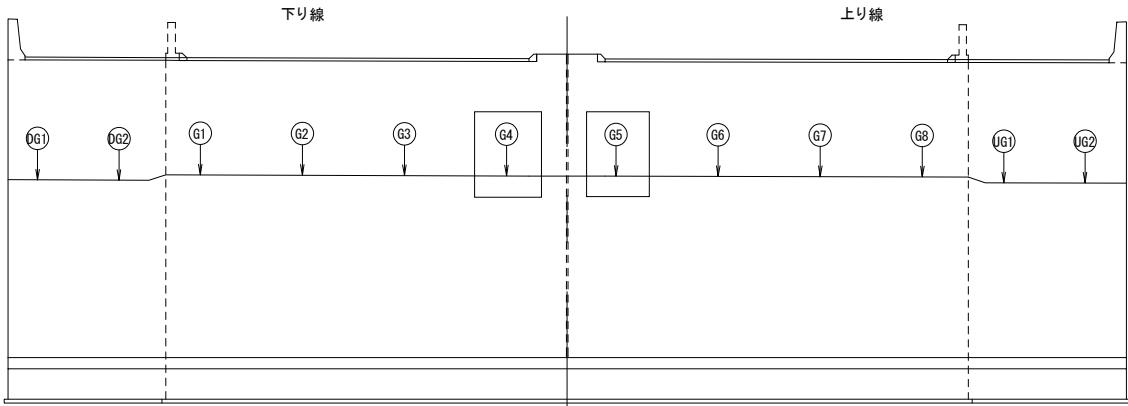
1基当たり(製作数: 2) []内はG5寸法

- 1-クロロブレンゴム 200x50x1050(硬度55 ±5°)
12-BN M16x90(1-Uナット、2-W) (SS400)
1-Fig PL 250x28x1080 (SM490Y)
3-Fig PL 250x22x1080
1-Web PL 120x22x1050
1-Web PL 129x22x1050
10-PL 99x22x120
10-PL 99x22x129
12-BN M16x85(1-Uナット、2-W) (SS400)
12-Anc Bolt D22x370[D22x390] (SD345)
12-1種 Nut M20用 (SS400)
12-3種 Nut M20用 (SS400)
12-座金 M20用 (SS400)

注記)

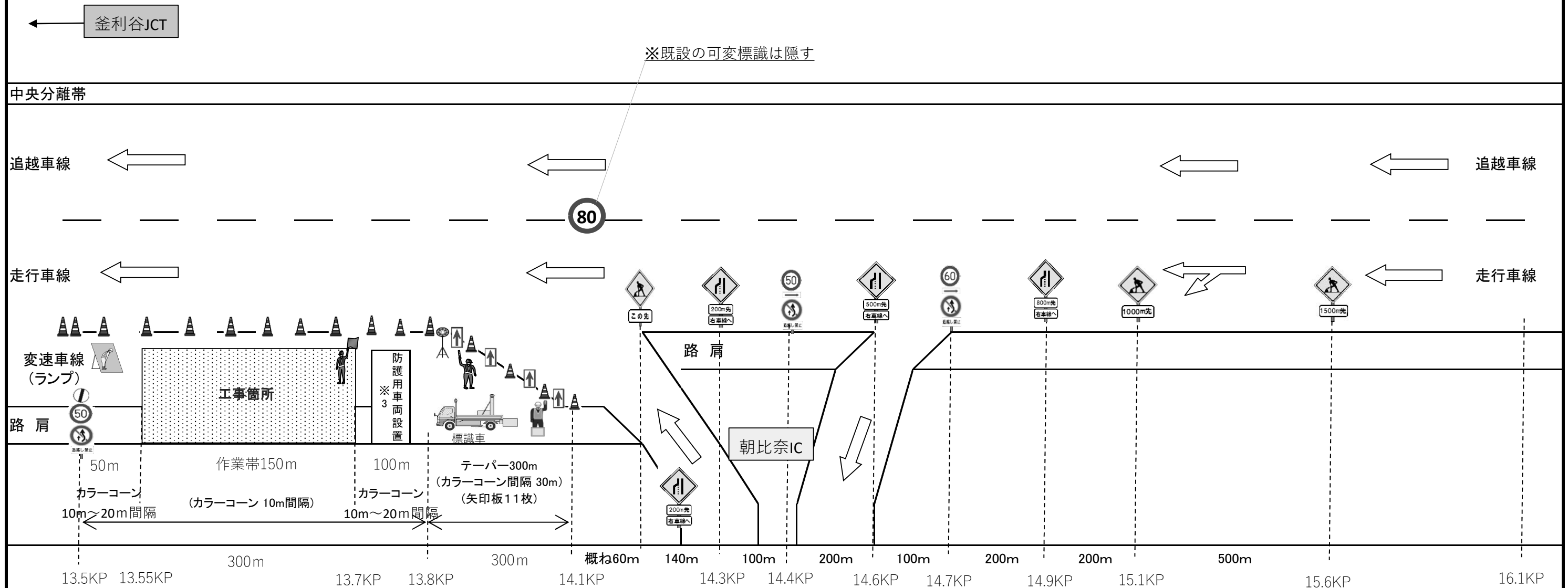
1. 特記なき材質は全てSM400A とする。
2. 本図の既設構造物の寸法は、完成図を基に作図を行っている。
3. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 下部工付部材は全て溶融亜鉛メッキを施し、付着量は JIS H8641 による。
標準付着量は、鋼材: HDZ177 ナット、ワッシャーおよびアンカーボルト類: HDZ149とする。
5. 特記なきスカーラップは全て35Rとする。

配置図 S=1:200

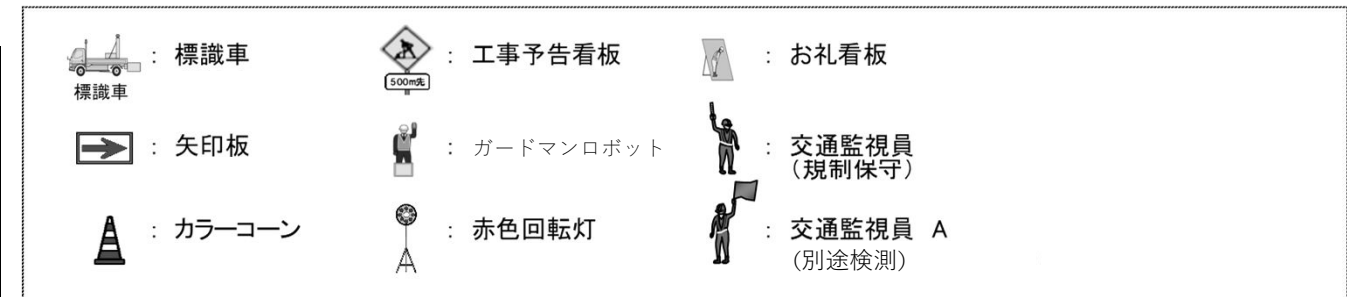


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上下線) 段差防止構造詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	103 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 交通規制工

ランプ車線規制 $I \times 1$ 

規制材数量	ランプ車線規制 1 × 1		1 回当たり
項目	単位	数量	備考
標識車	台	1	貸与品
矢印板	枚	11	貸与品
カラーコーン	本	42	貸与品
工事予告看板	枚	10	貸与品
ガードマンロボット	台	1	貸与品
赤色回転灯	台	1	貸与品
お礼看板	枚	1	貸与品
交通監視員	人	1	規制保守(規制費に含む)
交通監視員(交替)	人	1	規制保守交替要員(規制費に含む)
交通監視員 A	人	1	別途検測※ 1
発炎筒(15分)	本	6	受注者所有(テーパー設置撤去時)(規制費に含む)※ 2



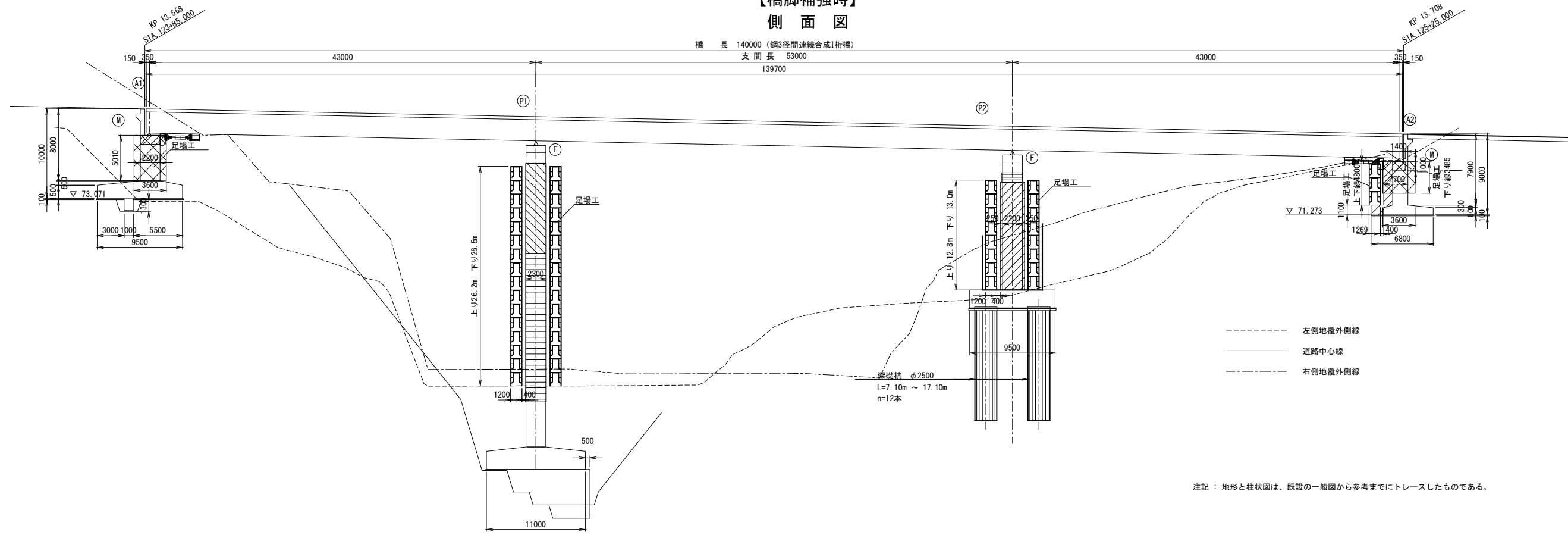
※1：交通監視員 A は、工事箇所配置する

※2：発炎筒は、設置・撤去各3本の使用を基本とする

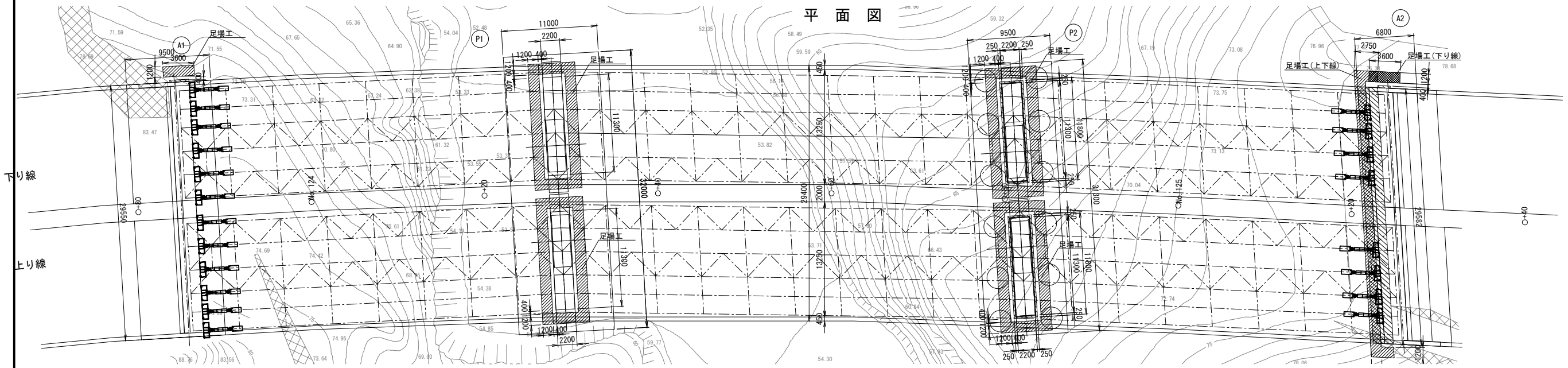
※3：追突防止対策として防護車両（資機材運搬車等）を配置する

橋浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 交通規制工		
縮 尺	図 示	図面番号	105 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

【橋脚補強時】
側面図



平面図



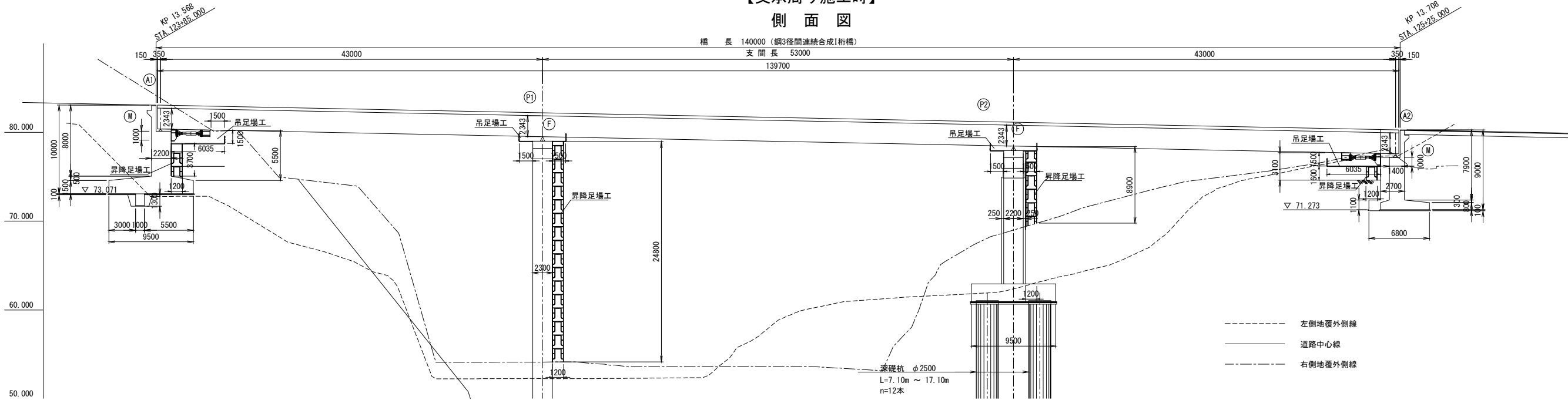
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 足場工図（その1）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	106 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 足場工図（その2）（参考図）

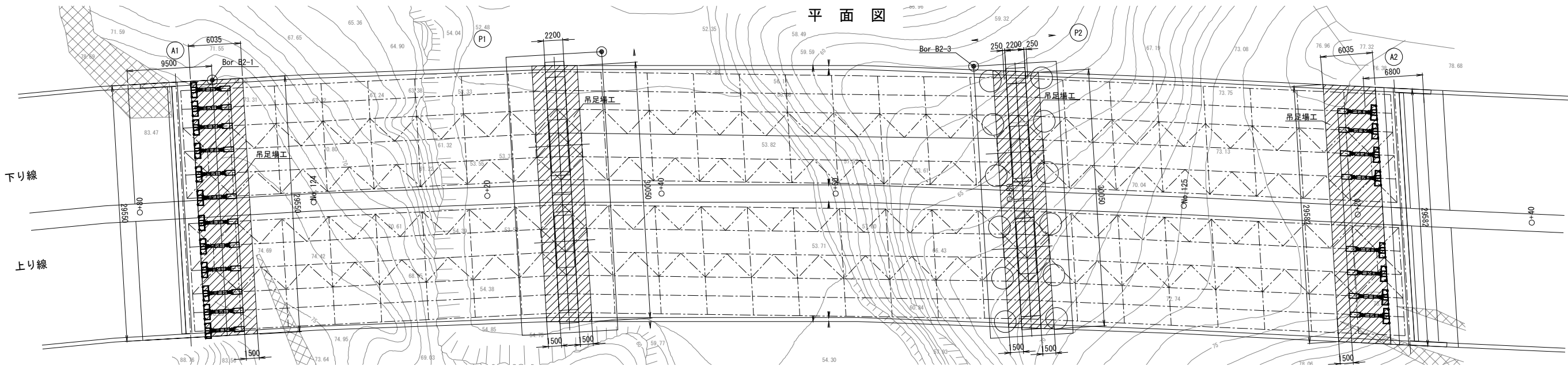
縮尺 1:500

【支承周り施工時】

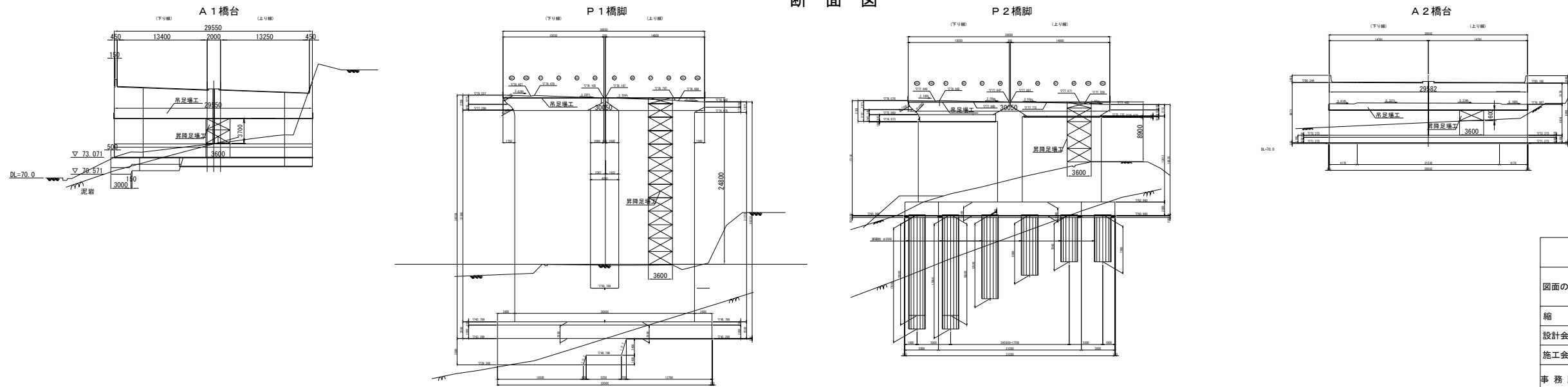
側面図



平面図



断面図

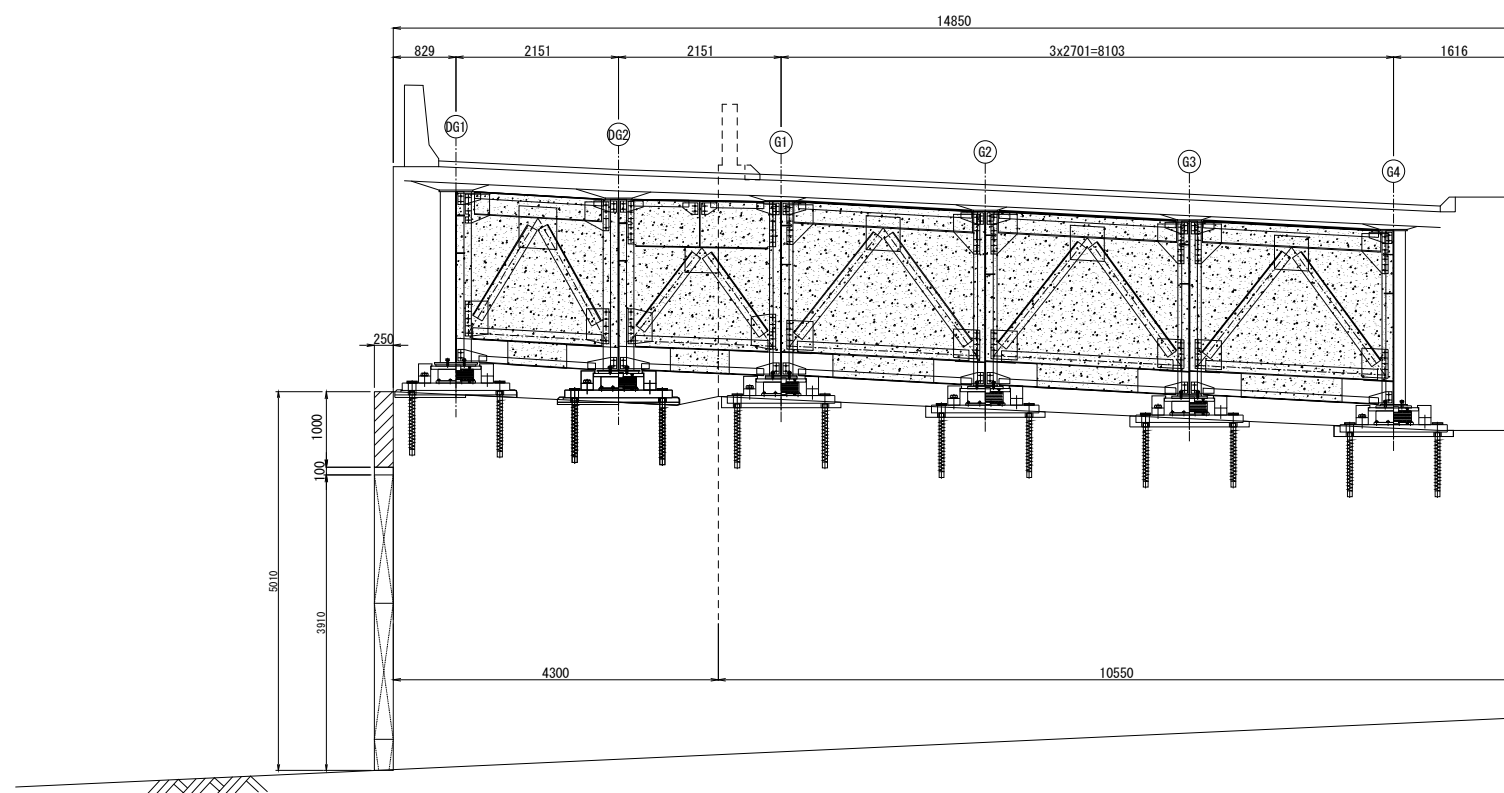


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 足場工図（その2）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	107 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

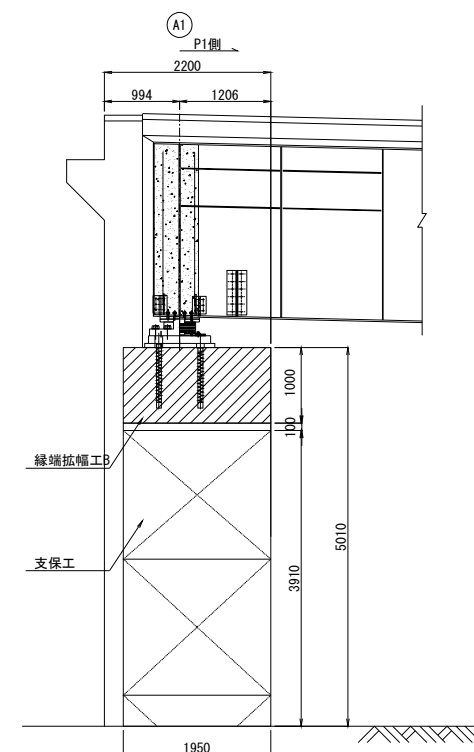
縁端拡幅工B

A1橋台（下り線）

断面図

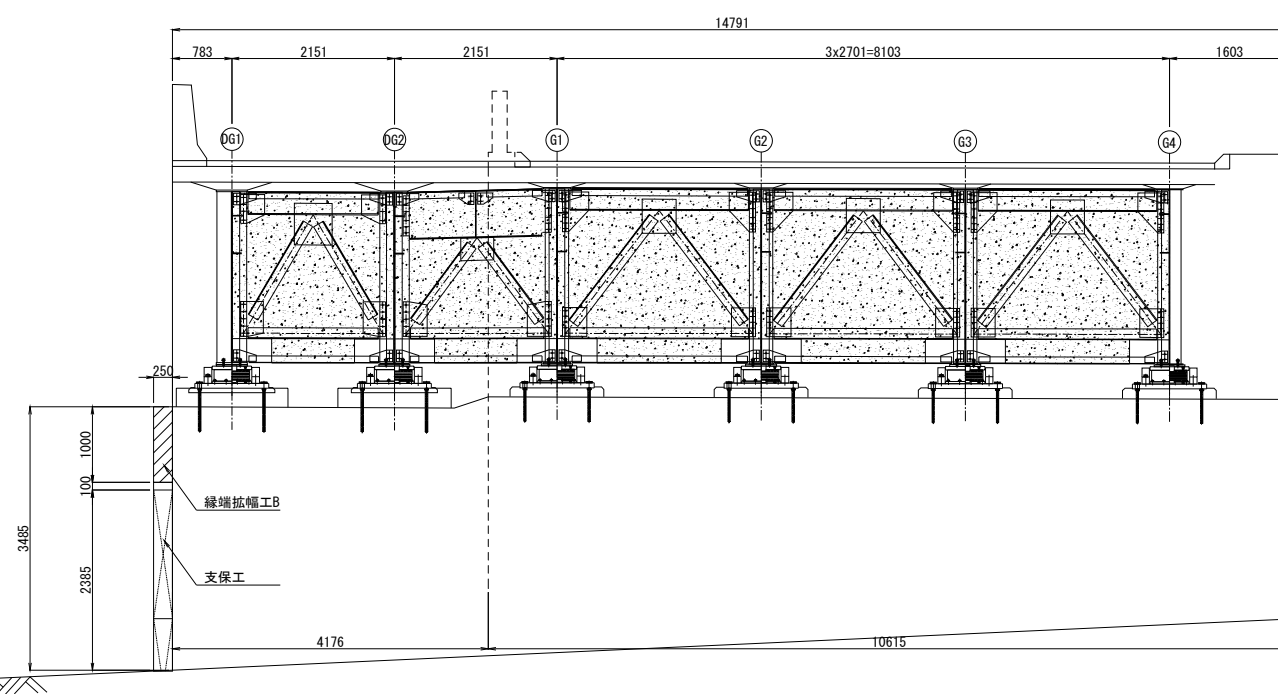


側面図

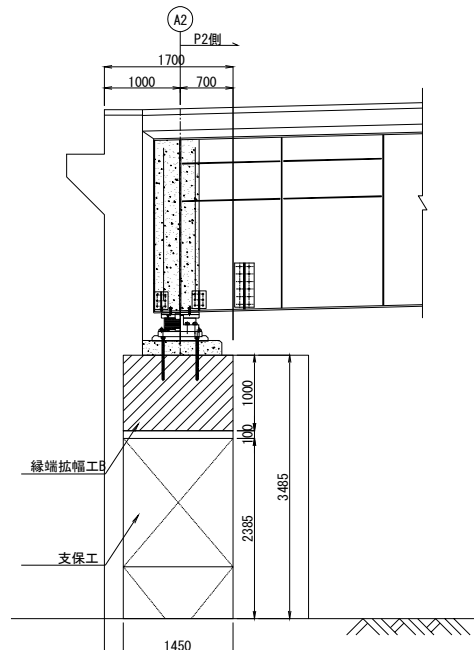


A2橋台（下り線）

断面図



側面図



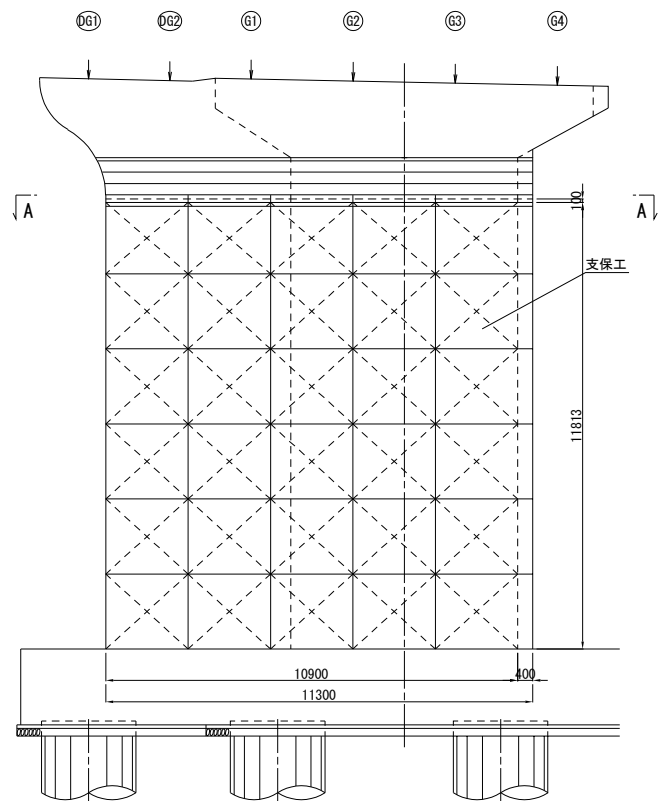
	横浜横須賀道路 金利谷第二高架橋耐震補強工事		
図面の種類	金利谷第二高架橋 支保工（その1）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	108 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

下り線

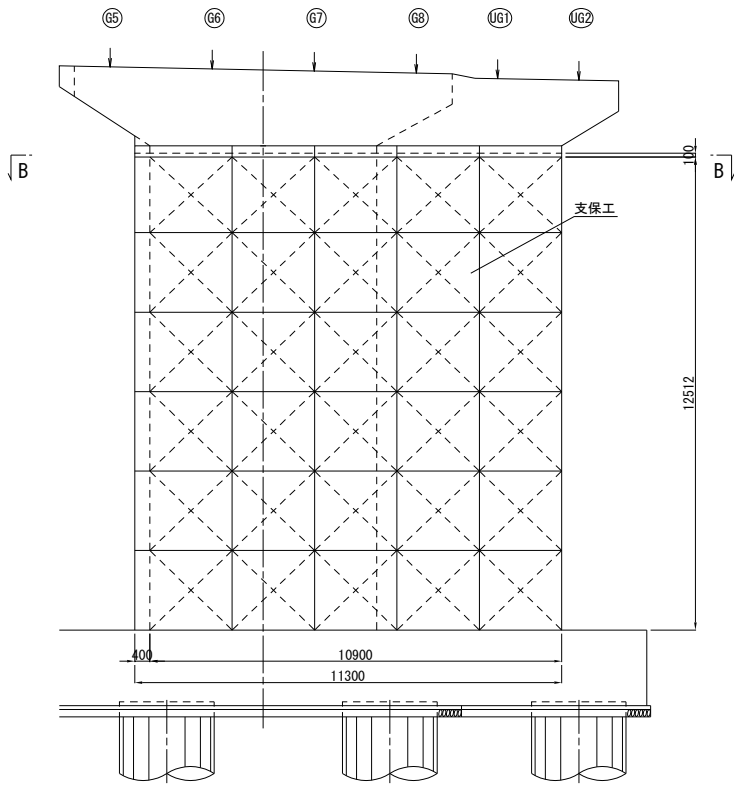
P2橋脚 アラミド繊維巻立工C

上り線

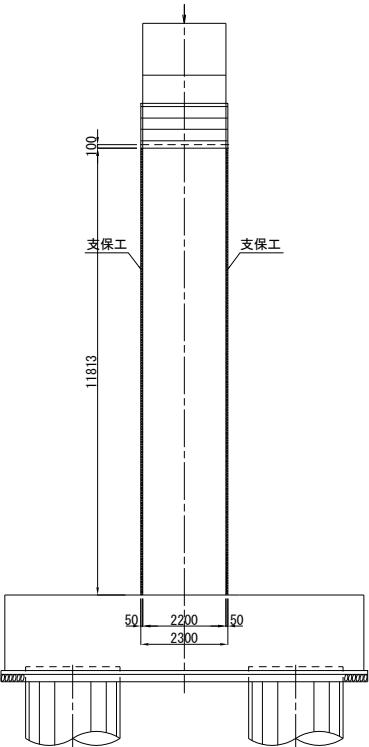
正面図



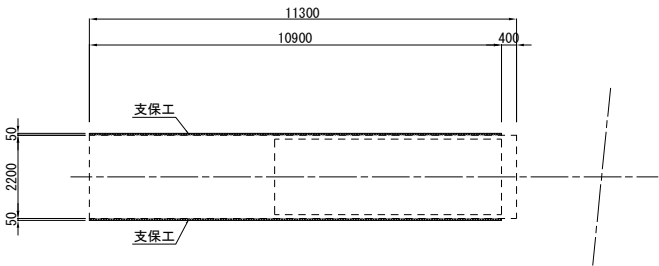
正面図



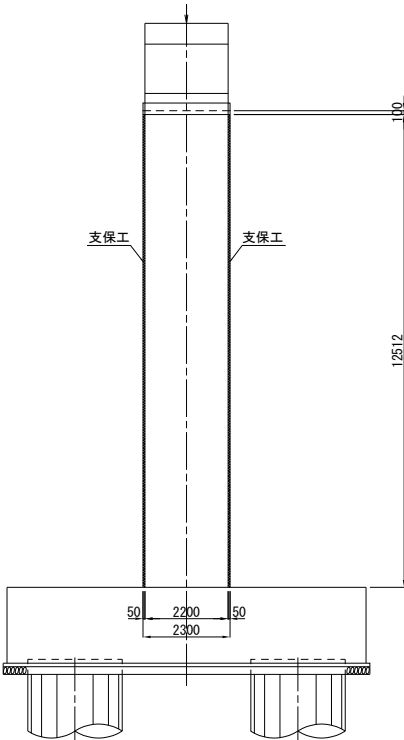
側面図



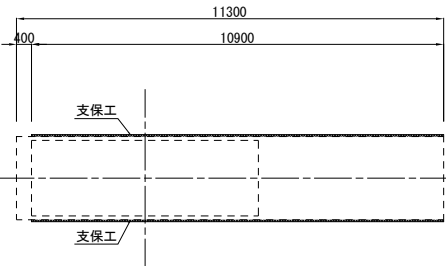
平面図 (A - A)



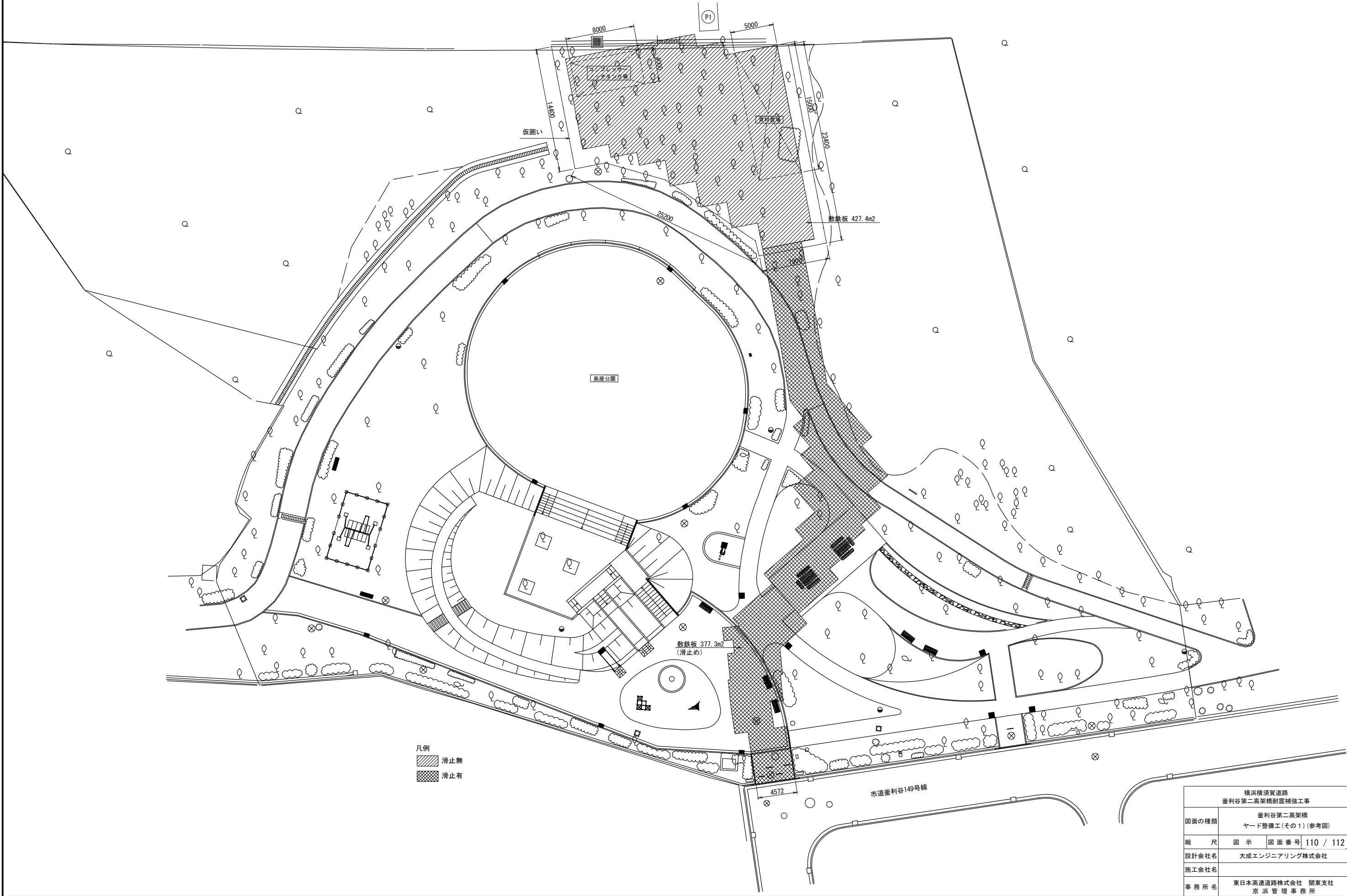
側面図



平面図 (B - B)



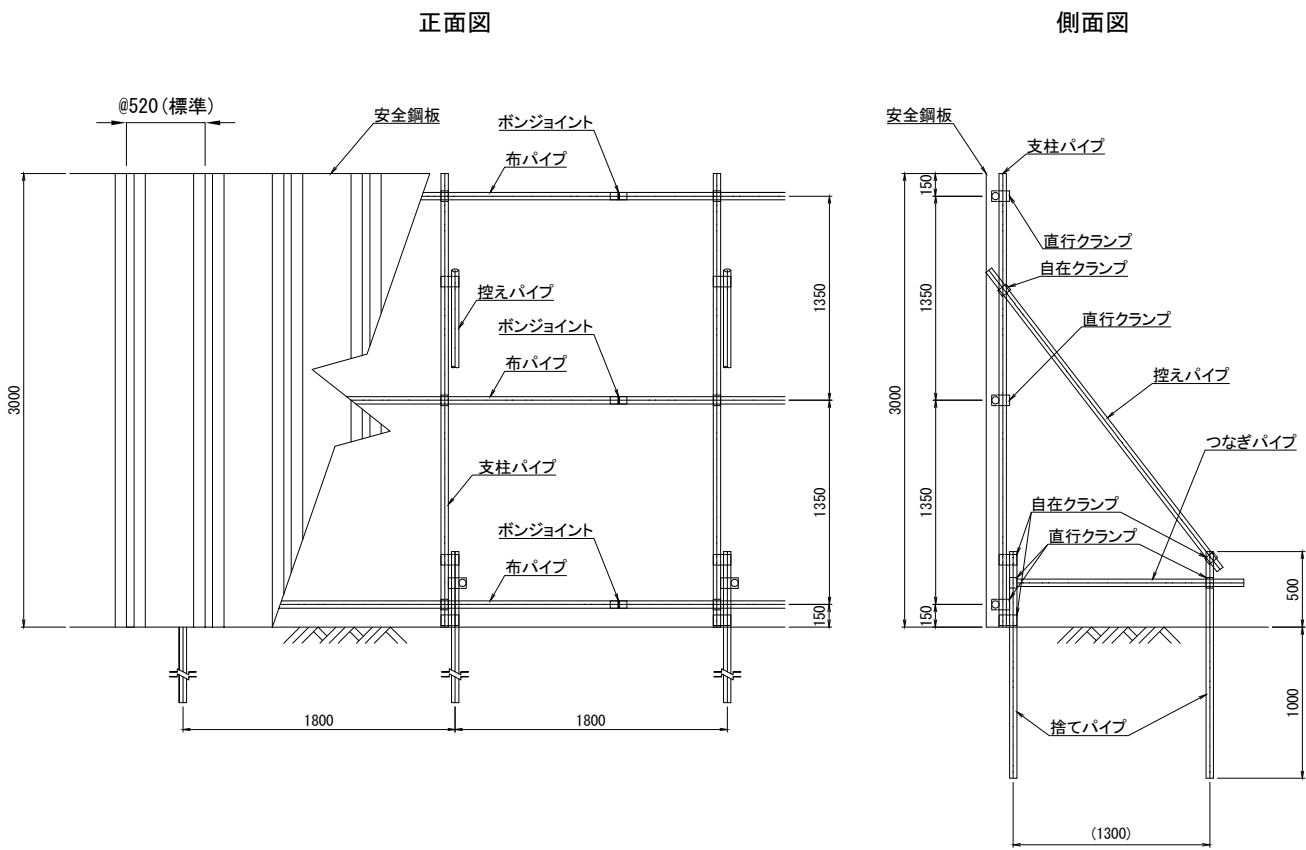
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支保工（その2）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	109 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



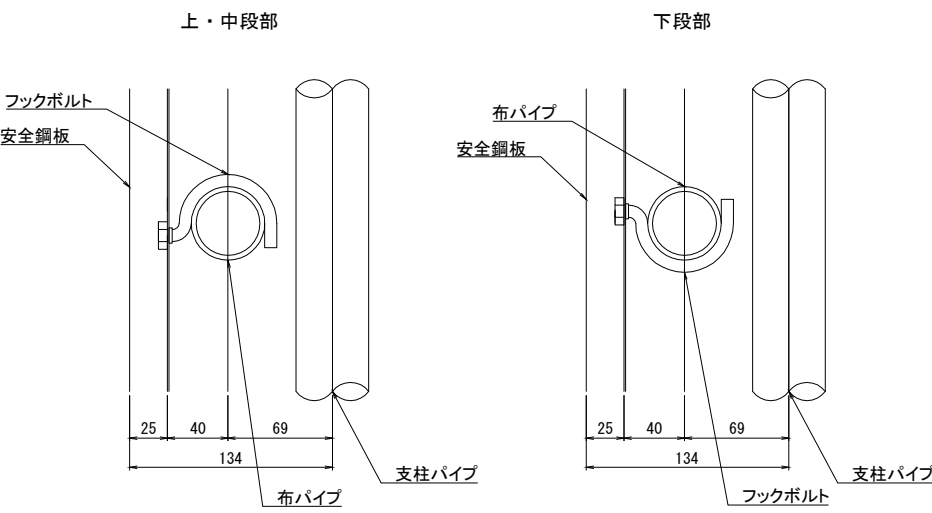
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 ヤード整備工(その1)(参考図)		
	縮尺	図示	図面番号 110 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

仮 設 工

仮 囲 い 縮尺 1 : 50

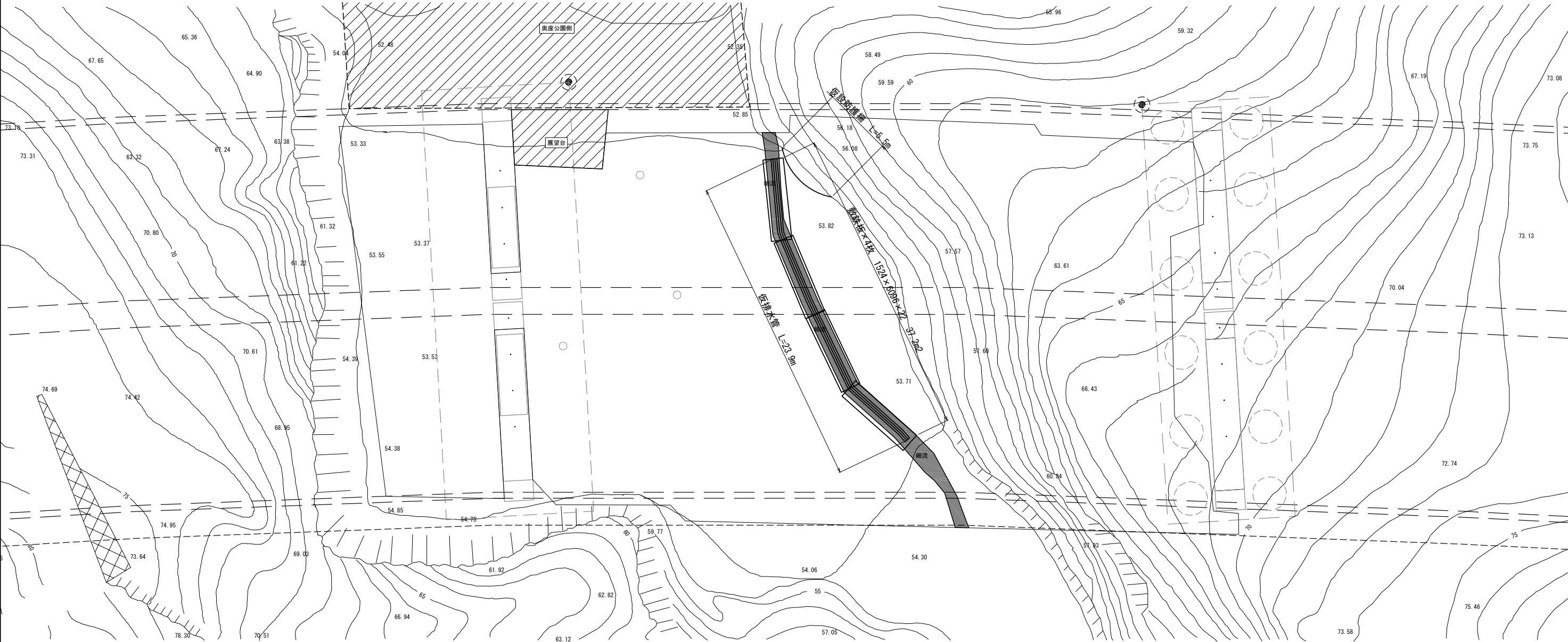


固定部詳細 縮尺 1 : 5

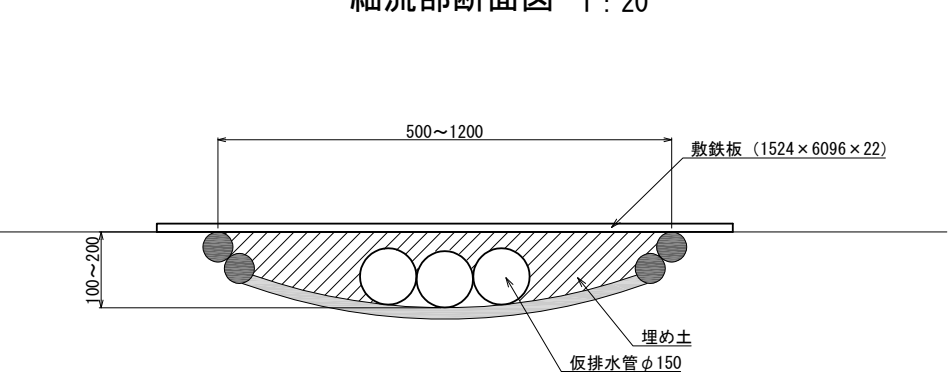


材料表 (10mあたり)			
	部材名称 (仕様)	単位	数量
①	安全鋼板 (1.2×540×3000)	枚	19.2
②	フックボルト、ナット付 (1型、2型)	個	115.2
③	布パイプ (φ48.6×2.4×5000)	本	6
④	支柱パイプ (φ48.6×2.4×3000)	本	5.6
⑤	控えパイプ (φ48.6×2.4×2500)	本	5.6
⑥	捨てパイプ (φ48.6×2.4×1500)	本	11.2
⑦	つなぎパイプ (φ48.6×2.4×1500)	本	5.6
⑧	ボンジョイント	本	6
⑨	直行クランプ	個	28
⑩	自在クランプ	個	23

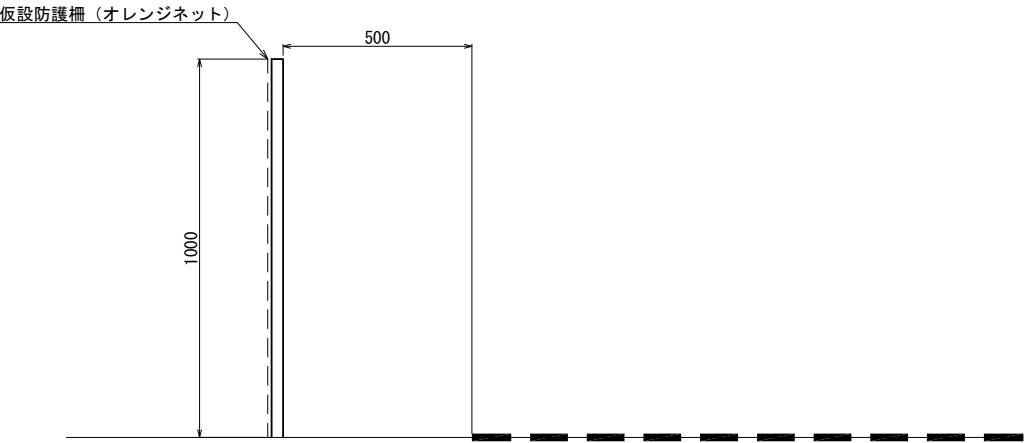
平面図 1 : 300



細流部断面図 1 : 20



養生工参考図 1 : 20



数量表

項 目	種 別	寸法等	単位	数 量
仮設工	敷鉄板	1524×6096×22	m2	37.2
	仮排水管	φ150*3条	m	23.9
	仮設防護欄	H=1000	m	5.5

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類		釜利谷第二高架橋 ヤード整備工(その3) (参考図)		
縮 尺	図 示	図 面 番 号	112 / 112	
設計会社名				
施工会社名				
事 務 所 名		東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		